授業名	ブッダの教え	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1101
英文名	Teaching of Buddha	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	伊藤　茂樹・平間　尚子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。
学修成果到達目標	1）建学の精神を理解出来る。 2）仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3）仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	佛教大学仏教学科編『ブッダと法然』（学術図書出版社、2019年）
参考書	授業内で紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	発表についてはコメントする。
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。
オフィスアワー	講義にて指示します。
実践的教育	

授業名	ブッダの教え

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	（学修内容）宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを読んでおく。 （事後）暮らしの中にみえる仏教に関連するものを探しまとめる。
第2回	「仏教から学ぶこと」	（学修内容）仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 （事前事後学修課題の内容） （事前）教科書（158～164頁）を読む。 （事後）建学の精神をまとめる。
第3回	「仏教とは何か」	（学修内容）私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は、私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 （事前事後学修課題の内容） （事前）尊について一通り、教科書を読んでみてください。 （事後）プリントの整理をしてください。
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	（学修内容）仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアーリア人のインド侵入の時期までを概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）古代インドについて該当する教科書の範囲（11～14頁）を読む （事後）授業の後、古代インドについてノートをまとめる。
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	（学修内容）アーリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想（業・輪廻）について概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）業思想について該当する教科書の範囲（13～14頁）を読む。 （事後）授業後、業思想についてノートを整理する。
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道」	（学修内容）仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）六師外道について該当する教科書の範囲（14頁）を読む。 （事後）授業の後、六師外道のノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	（学修内容）仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）誕生について該当する教科書の範囲（14～18頁）を読む （事後）授業後、ノート釈尊の誕生を整理する。
第8回	「ブッダの生涯-四門出遊」	（学修内容）ブッダの出家の経緯（四門出遊）について概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）四門出遊について該当する教科書の範囲（18～20頁）を読む （事後）授業後、ノートに四門出遊を整理する。
第9回	「ブッダの生涯-苦行」	（学修内容）ブッダの出家・修業時代から悟りへの道を概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）苦行について該当する教科書の範囲（22～24頁）を読む。 （事後）授業後、苦行についてノートを整理する。
第10回	「ブッダの生涯-成道について」	（学修内容）ブッダの「さとり」を中心に概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）さとりについて該当する教科書の範囲（24～27頁）を読む （事後）授業後、釈尊の成道についてノートを整理する。
第11回	「ブッダの教え-縁起」	（学修内容）縁起説について概説します。理解度テストを行います。 （事前事後学修課題の内容） （事前）縁起について、該当する教科書の範囲（50～61頁）を読む。 （事後）授業後、縁起についてノートを整理する。
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	（学修内容）四諦説と八正道について概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）四諦について、該当する教科書の範囲（63～73頁）を読む。 （事後）授業後、四諦についてノートを整理する。
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	（学修内容）釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 （事前事後学修課題の内容） （事前）十大弟子について、配布プリントを読む。 （事後）授業後、十大弟子についてノートを整理する。
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	（学修内容）ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説します。 （事前事後学修課題の内容） （事前）三宝について、該当する教科書の範囲（40～42頁）を読む。 （事後）授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	（学修内容）講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）これまでのノートを読み返す。 （事後）自分で釈尊の生涯をまとめること。

授業名	法然上人の思想と生涯	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1116
英文名	Saint Honen's Thought and His Life	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	伊藤　茂樹・平間　尚子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という４つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。
学修成果到達目標	１）建学の精神を理解出来る。 ２）法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解出来る。 ３）法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解出来る。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	佛教大学仏教学科編『ブッダと法然』（学術図書出版社、2019年） ※春学期の「ブッダの教え」で使用した教科書と同じ教科書を使用します。 （春学期に購入した学生は、秋学期に新たに購入する必要はありません）
参考書	授業内で適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	発表には口頭で意見を述べる。理解度テストを回収後、回答の解説を行います。
留意事項	板書や講義の内容をしっかりノートに取ること。
オフィスアワー	講義にて指示します。
実践的教育	

授業名	法然上人の思想と生涯

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について。仏教を学ぶ意義を知る。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み返すこと。釈尊の生涯を教科書から読み直す。
第2回	「釈尊の仏教の意義」	（学修内容）釈尊の生涯と思想を振り返ります。 （事前事後学修課題の内容） 釈尊の生涯と思想を読み返す。 授業後、これまでのノートやプリントを整理する。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	（学修内容）大乗仏教について概説します。 （事前事後学修課題の内容） 大乗仏教について、該当する教科書の範囲（p77-83）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第4回	「仏教の伝来と浄土教」	（学修内容）インド・中国・日本にわたる仏教の伝来と浄土教の隆盛について概説します。 （事前事後学修課題の内容） 浄土教の信奉者について、該当する教科書の範囲（p83-89）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第5回	「日本仏教の特色」	（学修内容）日本仏教の特色を概説します。 （事前事後学修課題の内容） 仏教伝来について、該当する教科書の範囲（p90-95）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第6回	「法然上人の生きた時代―末法思想」	（学修内容）法然上人の生きた時代の背景を学びます。末法思想を学びます。 （事前事後学修課題の内容） 末法思想について、事前に配布するプリントを読んでください。 授業後、ノートやプリントを整理する。
第7回	「法然上人の生涯―誕生」	（学修内容）法然上人の誕生から出家まで概説します。 （事前事後学修課題の内容） 誕生から出家について、該当する教科書の範囲（p95-100）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第8回	「法然上人の生涯―修学」	（学修内容）法然上人の修学時代を概説します。 （事前事後学修課題の内容） 比叡山修学、南都遊学について、該当する教科書の範囲（p101-104）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第9回	「法然上人の生涯―浄土宗開宗」	（学修内容）求道の遍歴から浄土宗開宗について概説します。 （事前事後学修課題の内容） 立教開宗の過程について、該当する教科書の範囲（p104-107）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	（学修内容）浄土宗の教えを概説します。理解度テストを行います。 （事前事後学修課題の内容） 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲（p129-141）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第11回	「法然上人の教え―『選択本願念仏集』」	（学修内容）法然上人の教え「選択本願念仏」について概説します。 （事前事後学修課題の内容） 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲（p108-115,136-141）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	（学修内容）法然上人の信者、弟子たちについて概説します。 （事前事後学修課題の内容） 門弟や信者について、事前に配付するプリントを読んでください。 授業後、ノートやプリントを整理する。
第13回	「法然上人の生涯―大原問答」	（学修内容）大原問答・東大寺講説などについて概説します。 （事前事後学修課題の内容） 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲（p108-115）を読んでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第14回	「法然上人の生涯―法難と臨終」	（学修内容）念仏の興隆と法難、法然上人の入滅。専修念仏教団の展開について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 法難・臨終について、該当する教科書の範囲（p116-124）をよんでください。授業後、ノートやプリントを整理する。
第15回	講義総括	（学修内容）講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の範囲（p158-164）をよんでください。ノートやプリントを参考に法然上人の生涯と思想についてまとめてください。

授業名	総合基礎演習Ｉｔａ・ｔｂ・ｔｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1102
英文名	Freshman Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	猿渡　綾子・斉藤　伸一・有田　真理	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	大学の初年次教育として、大学で何を学び身に付けたいか、どのような学生生活を送りたいかを各学生が考える機会にする。 また、クラスメイトとの相互理解を深めるとともに、新しい環境に馴染み、積極的に学んでいく基本姿勢を身に付ける。
学修成果到達目標	1．大学教育に必要な学修方法を身につける 2．他者と適切なコミュニケーションをとることができる 3．プレゼンテーションの基礎を身につける
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	「大学生活スタートブック」（冊子は授業で配布） レビューブック管理栄養士2026　第8版　メディックメディア
参考書	適宜紹介する 第1回目～第3回目は「Campus Life」と「履修要項」を持参する
課題に対するフィードバックの方法	各自の課題に対してコメントを返し指導を行う。グループワークの成果についてもクラスメイトと共有できるアドバイスを行う。
留意事項	ゼミを通して自ら大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境づくりを実現するために、積極的に取り組んでください。
オフィスアワー	初回時に伝えます
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ｉｔａ・ｔｂ・ｔｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・履修登録 建学の精神と3つのポリシーについて	（学修内容）この授業の目的を確認する 学科のディプロマポリシーを深く理解する （事前事後学修課題の内容） 各自、履修内容の確認ができるよう準備する スタートブックNo.1を読んでおく
第2回	高校と大学の学生生活の違いを知る 授業について 学生生活をデザインする 「学修ポートフォリオ」の活用	（学修内容）講義・演習・実習・実験の位置づけを理解する 必修・選択・資格取得・インターンシップなどの授業形態を理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.2、3、4、18を読んでおく 課題学習
第3回	キャリアデザインを考える 社会人基礎力	（学修内容）大学を卒業した後のキャリアについて考え、在学期間中に取り組むべきことについて考える （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.12、13を読んでおく 課題学習
第4回	文献を探す 図書館の利用 研究倫理教育 ChatGPT・生成AIとの付き合い方	（学修内容）図書館の利用方法、各種データベースの使用方法、研究倫理について理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.8、10、11を読んでおく 課題学習
第5回	レポートの書き方	（学修内容）レポートとは何か、書き方について理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.5～7を読んでおく 課題学習
第6回	健康管理 メンタルヘルス	（学修内容）健康管理とメンタルヘルスについて理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.14、15を読んでおく 課題学習
第7回	PowerPointを使って発表する① 情報の収集	（学修内容）プレゼンテーションの基礎を理解する 発表に必要な情報収集法、プレゼンに必要なスライド作成方法を学ぶ （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.9、25、35を読んでおく 課題学習
第8回	PowerPointを使って発表する② レジメの作り方	（学修内容）レジメの作り方を理解する （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をする 課題学習
第9回	PowerPointを使って発表する③ スライドの作成	（学修内容）スライドの作成方法を理解する （事前事後学修課題の内容） レジメ、スライドを完成させる 課題学習
第10回	PowerPointを使って発表する④ プレゼンテーションを実施する	（学修内容）グループでプレゼンを実施する プレゼンを通して管理栄養士の職業について理解する （事前事後学修課題の内容） 授業で学んだことに配慮し、プレゼンの準備をすること 課題学習
第11回	手紙・メールのマナー	（学修内容）手紙・メールのマナーを理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.28を読んでおく 課題学習
第12回	華頂祭への参加	（学修内容）華頂祭の参加準備をする （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.32を読んでおく 課題学習
第13回	授業評価アンケート、定期試験、成績評価	（学修内容）授業評価アンケート、定期試験、成績評価について理解する （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.21、22、23を読んでおく 課題学習
第14回	PROGテストの結果を活用する	（学修内容）ステップアップシートやPROGテストの結果を通して、自己の特性についての課題を見つける （事前事後学修課題の内容） スタートブックNo.19を読んでおく 課題学習
第15回	まとめ	（学修内容）春学期の内容を振り返る （事前事後学修課題の内容） 全体的な復習を行うこと 課題学習

授業名	総合基礎演習Ｉｎａ・ｎｂ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1102
英文名	Freshman Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	橋本　道範・工藤　美和子	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	高校から大学の円滑な移行を図り、大学での学びを高めることを目的とする。高校と大学の学生生活の違い、レポート作成や情報収集の方法、発表など大学で必要な知識や技術を習得する。
学修成果到達目標	(1) 自己管理能力の基礎を身につけ、課題を発見し必要な情報や資料を収集することができる。 (2) 課題に沿った資料を作成し、発表することができる。 (3) 相互理解の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　) □(　　)

テキスト	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書2498、講談社、2018年）
参考書	・初年次教育教育用の冊子を配布・使用する。 ・その他、参考書は授業内で適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	・発表に関する評価や改善点などは口頭で伝える。 ・提出された課題（レポート等）には、コメントを記して返却する。
留意事項	・主体的にゼミの運営や発表などに取り組むこと。課題内容は各ゼミにより変更することがある。 ・授業進行の妨げや、他の学生の参加意欲を損なうような行為はしないこと。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示する。研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合はGメールで連絡をとること。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ｉｎａ・ｎｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い（１）履修登録	（学修内容）講義・演習・実習などの位置づけ、必修・選択・資格科目・インターンシップなどの授業形態の違いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）「履修要項」の該当部分を確認する。（30分） （事後）授業内容を整理し、次回授業に備えた予習をする。（30分）
第2回	高校と大学の違い（２）学生生活をデザインする	（学修内容）大学教員の役割（教育と研究・研究日・研究室の利用方法）やポータルサイト、Gメールの使い方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）ポータルサイト・Gmail・Classroomを設定し情報を入手する。 （事後）授業内容を整理する。次回授業の学修内容を理解しておく。
第3回	目的と方法（１）学びの動機付け	（学修内容）大学生活における目標の立て方、学びの動機付けについて考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）大学生活の目標について各自考えておく。 （事後）授業内容を整理する。次回授業の学修内容を理解しておく。
第4回	目的と方法（３）目標作り	（学修内容）前回の授業を踏まえ目標の立て方を学び、具体的な目標を立てる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）目標達成に向けて、自己学習の習慣をつける。 （事後）目標作りを作成する。次回授業の学修内容を理解しておく。
第5回	大学での学び方	（学修内容）講義の受け方、ノートの書き方、単位の意味を理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）各自、ノート記述や単位について確認する。 （事後）学んだ内容を他の授業で実践する。
第6回	文献の探し方	（学修内容）テーマに基づいた図書館の利用方法や文献の探し仕方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）あらかじめ図書館に行き館内に何があるか見学しておく。 （事後）テーマ毎に書架やOPAC（検索システム）を使って文献を探す。
第7回	学外調査（フィールドワーク）	（学修内容）学外調査を実施する。行き先の情報を収集し整理してまとめる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）行き先についてこれまで学んだことを活用して調べておく。 （事後）調査したことを整理し、レポート課題作成に活かす。
第8回	レポートの書き方（１）書式	（学修内容）レポートと論文の違い、体裁・書式・表現・規則等について理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）教科書の該当箇所を読んでおく。 （事後）学外調査に関する課題レポートを作成する。
第9回	レポートの書き方（２）添削	（学修内容）各自作成したレポートを持参、添削を行う。 （事前事後学修課題の内容） （事前）レポートを完成させる。 （事後）添削を見てレポートの内容や記述方法について再確認する。
第10回	発表用資料の作成	（学修内容）口頭発表のレジュメ（要旨）作成の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表用レジュメ（要旨）の作成について予習する。 （事後）前回、作成したレポート内容をレジュメとして作成する。
第11回	発表と討論（１）	（学修内容）レジュメをもとに個人発表を行う。発表者以外は質問や意見を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表用のレジュメを作成する。 （事後）評価や指摘された改善点を整理し、レジュメを修正する。
第12回	発表と討論（２）	（学修内容）個人発表を行う。発表者以外は質問や意見を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表用レジュメを作成する。 （事後）評価や指摘された改善点を整理しレジュメを修正する。
第13回	PROGテストの活用	（学修内容）PROGテストの見方、活用方法、目標設定について。 （事前事後学修課題の内容） （事前）PROGテストのテキストを参照する。 （事後）PROGテストを受験する。
第14回	レポート・文章の書き方（基本）のまとめ	（学修内容）レポート・文章の書き方について再確認し、1200字程度のレポート作成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）レポートの作成について復習する。 （事後）レポートを作成し、提出準備をする。
第15回	まとめ	（学修内容）夏期休暇中の課題を発表する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）授業の振り返りをする。 （事後）夏期休暇中の課題に必要な情報や資料を収集する。

授業名	総合基礎演習Ｉｒａ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1102
英文名	Freshman Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	この科目は初年次教育と位置付け、他の学生と考えや意見を交えて相互理解を深めながら、多角的にモノゴトを理解することを学び、これからの学生生活や学びのイメージや意味を考える。グループワークとコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーション、情報収集と分析、レポート作成などの基本的スキルを習得する。
学修成果到達目標	1）コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2）プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3）マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見したり、必要な資料を収集しまとめることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	①京都華頂大学編「大学生活スタートブック」 ②小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート論文術』講談社 （②は授業後半から使用する）
参考書	適宜情報共有する。
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションやレポートについて、コメントを口頭でフィードバックする。
留意事項	ゼミを通して大学でのネットワークの礎を築くとともに、楽しみにながら学べる環境作りに対する個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ｉｒａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・履修登録 （スタートブック No.1,2,4）	（学修内容）大学での学生生活や、講義・演習・実習などの位置付け、必修・選択・資格科目・インターンシップなどの授業形態の違いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 履修要項の該当部分を確認し、授業に持参する。
第2回	大学生活のデザイン （スタートブック No.3）	（学修内容）大学生活をイメージし、目標や学びの動機付けを考える。ポータルサイト、Gmail、クラスルームの使い方、成績について。 （事前事後学修課題の内容） ポータルサイト、Gmail、Classroomを設定し必要な情報を入手する。 必要に応じて履修要項、スタートブックを持参する。
第3回	グループワーク_練習 （スタートブック No.9,11）	（学修内容）グループワークやディスカッションを通した学びを理解する。 （事前事後学修課題の内容） グループワークを振り返り、良かった点、改善点などを確認する。 指定の資料などを理解しておく。
第4回	グループワーク_試行錯誤	（学修内容）グループワークをうまくまとめるためのコツを考える。 （事前事後学修課題の内容） グループワークを振り返り、良かった点、改善点などを確認する。 指定の資料などを理解しておく。スタートブックを読んでおく。
第5回	PROGテスト （スタートブック No.13）	（学修内容）PROGテストを受講し、その意味を考える。 （事前事後学修課題の内容） PROGテストについて理解しておく。 スタートブックを読んでおく。
第6回	グループワーク_プレゼン	（学修内容）グループで課題に取り組み、円滑にグループワークを行う方法を考える。 （事前事後学修課題の内容） グループワークを振り返り、良かった点、改善点などを確認する。 指定の資料などを理解しておく。スタートブックを読んでおく。
第7回	グループワーク_実践	（学修内容）グループで課題に取り組み、結果を整理する。 （事前事後学修課題の内容） グループワークを振り返り、良かった点、改善点などを確認する。 指定の資料などを理解しておく。
第8回	グループワーク_応用	（学修内容）結果を整理し、分析方法を探る。 （事前事後学修課題の内容） テキストの第１章を読んで理解しておく。
第9回	グループワーク_まとめ	（学修内容）分析結果を考察する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの第２章を読んで理解しておく。
第10回	レポート作成_基本 （スタートブック No.5,7）	（学修内容）論文・レポートの書き方について。 （事前事後学修課題の内容） テキストの第１章および第２章を読んでしっかり理解しておく。 スタートブックを読んでおく。
第11回	レポート作成_まとめ （スタートブック No.10）	（学修内容）他学生のレポートを分析する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの第１章および第２章の内容を実際に使えるようにする。 スタートブックを読んでおく。
第12回	図書館講習 （スタートブック No.8）	（学修内容）図書館の利活用方法、図書館案内などの図書館講習を受講する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの第１章および第２章の内容を実際に使えるようにする。 スタートブックを読んでおく。
第13回	レポート作成_実践 （スタートブック No.6）	（学修内容）グループワークの結果を分析にレポートにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 資料をまとめる。 スタートブックを読んでおく。
第14回	PROGテストの活用 （スタートブック No.12,14,15）	（学修内容）PROGテストの結果を考察し、これからの学びの方向性を考える。 （事前事後学修課題の内容） PROGテストの見方、活用方法を理解し、目標設定を行う。 スタートブックを読んでおく。
第15回	まとめ	（学修内容）春学期の振り返り、夏季休暇中の課題発表、学修ポートフォリオの管理。 （事前事後学修課題の内容） 夏季休暇中の課題に必要な情報を収集する。 春学期の振り返りをしておく。

授業名	総合基礎演習Ｉｓａ・ｓｂ・ｓｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1102
英文名	Freshman Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	松尾　章子・盧　珠妍・山中　信子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	この科目は「初年次教育」と位置付け、大学での学びの特徴、何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか等を各学生が考える機会にする。他の学生と考えを交流し、相互理解を深めながら、各学生の学びの方向性を明確にする。発表資料の作成方法を学んで発表し、プレゼンテーション能力を身につける。また、レポート作成の方法を学んで実際に作成し、意見を主張する技術を習得する。
学修成果到達目標	1）コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2）プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3）マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見し、必要な資料を収集することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	小笠原喜康『最新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社 京都華頂大学編「大学生活スタートブック」
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを返却する。
留意事項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りを目的とするため、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。 幼稚園の見学日程に関しては幼稚園側との調整による。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ｉｓａ・ｓｂ・ｓｃ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い(1) 履修登録 (スタートブックNo.1・2)	（学修内容）講義、演習、実習などの位置づけ、必修・選択・資格科目、インターンシップ等の授業形態の違いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 履修要項の該当部分を確認し、授業に持参する。
第2回	高校と大学の違い(2) 学生生活をデザインする (スタートブックNo.3)	（学修内容）大学教員の役割（教育と研究、研究日、研究室の利用方法）や、ポータルサイト、Gmailの使い方（ICT自主学習含む）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ポータルサイトを確認し、必要な情報を入手する。履修要項を持参する。
第3回	学びの動機付け：目標づくり (スタートブックNo.1・3・18)	（学修内容）学修ポートフォリオを活用し、大学生活における目標と方法及び長期目標と短期目標の設定の仕方を学ぶ。（ディスカッション含む） （事前事後学修課題の内容） ディプロマポリシーについて振り返る。
第4回	大学での学び方 (スタートブックNo.4) PROGテスト （スタートブックNo.19）	（学修内容）講義の受け方・単位等の実質的意味を理解する。 PROGテストを受験し、社会的な汎用的能力・志向性等を分析する。 （事前事後学修課題の内容） 学んだ内容を他の授業で実践する。
第5回	レポートの書き方（1) 書式 (スタートブックNo.5・6・7・8)	（学修内容）レポートと論文の違い、体裁や書式について（グループワーク含む）学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） レポートを作成する。
第6回	レポートの書き方（2) 添削 (スタートブックNo.5・6・7・8)	（学修内容）前回の事後学習課題を持参し、添削を受け、レポートの基本的な書き方を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 添削された内容をもとに、レポートを修正・再提出する。
第7回	発表用資料の作成方法 (スタートブックNo.8・9・10・11)	（学修内容）口頭発表に必要なレジュメ作成の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） レポートの内容をレジュメとして作成する。
第8回	発表用資料の作成 (スタートブックNo.8・9・10・11・25・26)	（学修内容）レジュメ作成の実際について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） レポートの内容をレジュメとして作成する。
第9回	個人別プレゼンテーションと討論（1) 第1グループ (スタートブックNo.9)	（学修内容）個人発表を行う。（プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） 発表資料を作成する。
第10回	個人別プレゼンテーションと討論（2) 第2グループ (スタートブックNo.9)	（学修内容）個人発表を行う。（プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） 発表資料を作成する。
第11回	幼稚園見学に向けてのオリエンテーション (スタートブックNo.12・13・35)	（学修内容）幼稚園見学にあたり、必要となる準備及び事前に学んでおくべき諸事項を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 幼稚園に関する情報を調べ、収集しておく。
第12回	幼稚園見学 (スタートブックNo.12・13・35)	（学修内容）幼稚園を実際に見学し、実際の園での生活や子どもの姿に触れることで自分の将来とこれからの具体的な目標について考える。 （事前事後学修課題の内容） 資料を読んで施設の概要や教育内容等を確認する。
第13回	幼稚園見学の振り返り (スタートブックNo.35) PROGテストの活用 (スタートブックNo.18・19)	（学修内容）幼稚園見学を終えて学んだことをゼミで発表する。 PROGテストの見方、活用方法、目標設定について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 幼稚園見学で学んだ知見をまとめておく。 PROGテストのテキストを参照する。
第14回	1回生ゼミ連絡会 (スタートブックNo.14・15・16・17)	（学修内容）夏期休暇中のレポート課題発表・夏期ボランティア等をはじめとした夏期休暇中の学習計画の立て方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 夏期休暇中の課題に必要な情報を収集する。
第15回	レポート・文章の書き方(基本)まとめ (スタートブックNo. 5・6・7・8) 春学期ゼミの総括	（学修内容）発表を踏まえた上で文章の基本作法の再確認をし、1200字程度のレポート作成方法を学ぶとともに、春学期ゼミでの学び全体を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 春学期のゼミで学習した事項の振り返りをしておく。

授業名	総合基礎演習Ⅱｎａ・ｎｂ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1117
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	橋本　道範・工藤　美和子	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	大学生活で必要となる発表の方法、資料作成、レポート作成方法の基本的技能を学ぶ。適宜、文献調査などによる情報収集、グループワークを通しての発表やレポートにまとめることで、２年生次以降の学びへとつなげる。
学修成果到達目標	(1) 自己管理能力を身につけ、情報を収集し、レジュメ（要旨）やスライド等の資料を作成することができる。 (2) レジュメやスライドを用いて自らの意見を述べ、学生生活の基礎となる発表能力を身につけることができる。 (3) 発表した内容をレポートにまとめることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書2498、講談社、2018年）
参考書	・初年次教育用の冊子を使用するときもあるので、指示されたら持参すること。 ・参考書等は授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	・発表に関する評価や改善点などは口頭で伝える。 ・提出された課題（レポート等）には、コメントを記して返却する。
留意事項	・主体的にゼミ運営をしていくことを期待する。 ・ゼミの運営・学外調査・発表の形式は各ゼミによって変更することがある。 ・授業進行の妨げや、他の学生の参加意欲を損なうような行為はしないこと。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合はGメールで連絡を取ること。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ⅱｎａ・ｎｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）連絡事項、夏期休暇中のレポート課題について確認し提出する。課題に基づく発表準備をする。 （事前事後学修課題の内容） （事前）夏期休暇中のレポート課題を見直す。（20分） （事後）夏期課題の発表準備用のレジュメを作成する。（40分）
第2回	夏期課題の個人発表	（学修内容）各自、夏期課題に基づくレジュメを作成し発表を行う。発表者以外は意見や感想を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）課題発表ためのレジュメを作成する。 （事後）発表内容を振り返り、整理・修正する。
第3回	グループ活動（１）テーマを決める	（学修内容）学外調査の企画を伝えるので、グループごとにテーマと役割分担を決め、活動計画を立て調査準備を行う。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テーマを考える。役割分担に何があるかを考えておく。 （事後）役割分担を決め、グループ活動（調査等）を行う。
第4回	グループ活動（２）テーマ発表	（学修内容）企画に基づいたテーマに関する活動計画について発表をする。（グループワークを含む）発表方法はスライドで行う。（PowerPoint使用） （事前事後学修課題の内容） （事前）発表準備をグループで行う。 （事後）発表内容を再確認し、点検・修正を行う。
第5回	グループ活動（３）学外調査	（学修内容）グループごとに学外調査を行う。調査後は資料（スライド）を作成し発表準備をする。 （事前事後学修課題の内容） （事前）各自の役割に沿って必要な準備をする。 （事後）調査後、グループ発表の準備をする。
第6回	グループ活動（４）調査発表	（学修内容）学外調査の発表用のスライドを作成し発表を行う。（PowerPoint使用）。発表者以外は意見や質問等を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表準備をする。発表資料の点検や確認を行う。 （事後）意見や質問に沿った発表内容の確認、修正等があれば行う。
第7回	個人発表に向けた情報検索（１）資料（紙媒体）検索実習演習	（学修内容）個人で興味関心があるテーマを選び、学術書等の紙媒体から資料検索を行う。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テーマを決める。テキストの第２章を読んでおく。 （事後）図書館の検索システムを用いて図書や論文の情報を収集する。
第8回	個人発表に向けた情報検索（２）インターネット検索実践演習	（学修内容）インターネットを中心とした資料検索を行う。前回でも収集した情報をまとめ、方向性や内容について各自考察する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）インターネット上のデータベース等を用いて情報を収集する。 （事後）収集した情報を整理し、テーマに基づいた発表準備をする。
第9回	発表資料の作成（１）スライドを用いる場合	（学修内容）PowerPointを用いた発表用のスライドを作成する。必要な場合はゼミ担当教員に相談や指導を仰ぐ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）収集した資料や考察を元にスライドを作成する。 （事後）ゼミ教員の意見を元に、発表資料の点検や修正を行う。
第10回	発表資料の作成（２）Wordを用いる場合	（学修内容）Wordを用いた発表用のレジュメを作成する。必要な場合はゼミ担当教員に相談や指導を仰ぐ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）Wordでレジュメを作成するための資料を収集する。 （事後）Wordでレジュメを作成し、点検や修正を行う。
第11回	発表と討論（１）	（学修内容）各自、スライドとレジュメの両方を用いた口頭発表を行う（スライドはPowerPoint使用）。発表者以外は意見や質問等を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表資料（スライドとレジュメ）を作成する。 （事後）発表後は、改善点を整理し考察を深める。
第12回	発表と討論（２）	（学修内容）各自、スライドとレジュメの両方を用いた口頭発表を行う（スライドはPowerPoint使用）。発表者以外は意見や質問等を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表に必要な資料を作成する。 （事後）発表後は改善点を整理し考察を深める。
第13回	発表と討論（３）	（学修内容）各自、スライドとレジュメの両方を用いた口頭発表を行う（スライドはPowerPoint使用）。発表者以外は意見や質問等を述べる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表に必要な資料を作成する。 （事後）発表後は改善点を整理し考察を深める。
第14回	レポートの書き方（応用）	（学修内容）発表を踏まえレポートを作成する。レポート作成のための注意事項について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）発表の資料を振り返る。資料を各自持参する。 （事後）授業を踏まえ、レポート作成に必要な準備をする。
第15回	秋学期の到達度の確認と次年度の課題	（学修内容）秋学期の自己到達度を考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）授業全体を振り返る。不明な点は担当教員に質問する。 （事後）次年度の課題を各自考える。

授業名	総合基礎演習Ⅱｒａ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1117
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	この科目は初年次教育と位置付け、大学生活に必要なプレゼンテーション、資料やレポート作成などの基礎的スキルを学ぶ。文献調査やアンケート調査などによる情報収集、グループワークやフィールドワークを通して発表やレポートにまとめることで、2年次以降の学びへとつなげる。各ゼミメンバーの人数やディスカッションの内容などにより、課題内容、フィールドワークやグループワークの有無、スケジュール等が変更となる可能性がある。
学修成果到達目標	1）資料を収集し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作成することができる。 2）4年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力を身につけ、発表することができる。 3）マネジメント能力を身につけ、発表した内容をレポートにまとめることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	①京都華頂大学編「大学生活スタートブック」 ②小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート論文術』講談社 （②は授業後半から使用する）
参考書	適宜情報共有する。
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションや課題について、良かった点や改善点などを口頭でフィードバックする。
留意事項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。運営・発表の形式、課題内容は各ゼミにより変更することがある。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ⅱｒａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）導入：学修ポートフォリオ確認、履修登録、連絡事項 （事前事後学修課題の内容） 夏季休暇中の課題をまとめる。
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション	（学修内容）夏季レポートに基づく発表を行う。（プレゼンテーションやディスカッションを含む） （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をしておく。
第3回	テーマ検討	（学修内容）企画を考える。 （事前事後学修課題の内容） どのようなテーマにするか考えておく。
第4回	情報検索	（学修内容）集めた情報をもとに方向性を検討する。 必要に応じてフィールドワークなどを行う。 （事前事後学修課題の内容） テーマに沿った情報収集の方法を考えておく。 テキストの第２章を読んでおく。
第5回	情報収集	（学修内容）検索した情報からレポートにまとめるまでに必要な情報収集を行う。 必要に応じてフィールドワークなどを行う。 （事前事後学修課題の内容） レポートをまとめられるよう準備する。 テキストの第２章を読んでおく。
第6回	レポートのまとめ	（学修内容）レポートをまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備を行う。 テキストの第２章を読んでおく。
第7回	プレゼン	（学修内容）まとめた資料をもとに発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備を行う。
第8回	プレゼンのまとめ	（学修内容）自分の発表、他者の発表、双方向からの学びを考える。 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備を行う。
第9回	課題説明	（学修内容）課題説明、参考文献調査・アンケート調査を伴うレポートテーマ設定。 （事前事後学修課題の内容） 文献調査がスムーズにできるようにしておく。
第10回	アンケート作成	（学修内容）レポートの構成に沿ったアンケート作成。 テーマに沿った参考論文を検索し情報を収集。 （事前事後学修課題の内容） Word、Excelでのデータ作成に必要な情報を収集し持参する。
第11回	アンケート調査	（学修内容）アンケート調査を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 調査内容を確定し、調査の実施準備を行う。 調査結果を踏まえて分析のためにデータ整理を行う。
第12回	調査分析	（学修内容）調査結果をもとにデータを整理し、分析を行う。 （事前事後学修課題の内容） 発表に必要な資料を作成してくる。
第13回	レポート作成	（学修内容）調査結果を分析し、レポートにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 発表に必要な資料を作成してくる。
第14回	発表	（学修内容）課題の発表とディスカッション （事前事後学修課題の内容） 各自プレゼンの準備およびコメントをまとめる。
第15回	まとめ	（学修内容）課題の発表とまとめ （事前事後学修課題の内容） 発表に必要な準備をする。 秋学期の振り返りをしておく

授業名	総合基礎演習Ⅱｔａ・ｔｂ・ｔｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1117
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	田中　愛佳・斉藤　伸一・有田　真理	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	総合基礎演習Ⅰに続き、初年次教育として位置づけ、大学でのこれからの学びの基礎力を身につける。また、食物栄養学科の専門性を理解した上で、健康・食・栄養などに関する事柄についてグループワークやディスカッションを行いながら知見を広げ、総合的に考える力を身につける。
学修成果到達目標	1. 管理栄養士に必要な基礎の学びを統合し、食物とヒトとの関連を理解する。 2. 資料を収集し、レポート・課題作成を通して、利用可能な情報にアウトプットする力をつける。 3. 4年間の学生生活の基礎となる友人や教員との適切なコミュニケーションを実践できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	レビューブック管理栄養士2026第8版（メディックメディア）※春学期購入済み
参考書	適宜参考書を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートの内容などに対し、個別でのアドバイスを行う。
留意事項	学生生活の基礎を築き、社会人基礎力を養うために、遅刻・無断欠席・提出遅れなどを慎むこと。 テキスト以外の根拠ある情報の検索を積極的に行うこと。
オフィスアワー	初回授業時に伝えます。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ⅱｔａ・ｔｂ・ｔｃ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、夏季課題の確認、 春学期の振り返りと秋学期に向けての抱負	（学修内容）オリエンテーション、春学期の成績や授業・勉強に向かう姿勢を振り返り、秋学期の目標や抱負を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 夏季課題を忘れずに持参すること。 シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておくこと。
第2回	大学で必要な基礎スキルの育成①（レポートの書き方について）【スタートブック No.5.6.7.10.11】 大学で必要な基礎的スキルの育成②（メールにおける作法）	（学修内容）レポートの書き方と注意点について学ぶ。日常、送信しているメール文を改めて見なおし、社会人として活用できる作法を身につける。 （事前事後学修課題の内容） 普段のメール文を事前に振り返り、身に着けたメール作法を活用して課題に取り組む。
第3回	大学で必要な基礎的スキルの育成③（専門用語）	（学修内容）専門用語の読み・書き・意味について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いて予習・復習を行う。
第4回	大学で必要な基礎的スキルの育成④（計算）	（学修内容）食物栄養学科の授業で求められる計算について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 関連科目の教科書・授業資料を用いて予習・復習を行う。
第5回	大学で必要な基礎的スキルの育成⑤（まとめ）	（学修内容）大学で必要な基礎的スキルの育成の振り返り。 グループで専門的な内容を説明しあい、理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いた予習・復習を行う。
第6回	栄養士基礎力の育成①（基礎栄養学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（基礎栄養学）。不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） 夏休み課題の基礎栄養学分野についてレビューブック、関連科目の教科書を用いて復習を行う。
第7回	栄養士基礎力の育成②（基礎栄養学の確認テスト）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（基礎栄養学の振り返り） 不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いて十分に予習・復習しておく。
第8回	栄養士基礎力の育成③（生化学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（生化学）。不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） 夏休み課題の生化学分野についてレビューブック、関連科目の教科書を用いて復習を行う。
第9回	栄養士基礎力の育成④（生化学の確認テスト）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（生化学の振り返り） 不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いて十分に予習・復習しておく。
第10回	栄養士基礎力の育成⑤（食品学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（食品学）。 不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） 夏休み課題の食品学分野についてレビューブック、関連科目の教科書を用いて復習を行う。
第11回	栄養士基礎力の育成⑥（食品学の確認テスト）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成（食品学の振り返り）。 不明点を質問したり、グループで話し合い解決法をみつける。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いて十分に予習・復習しておく。
第12回	栄養士基礎力の育成⑦（献立作成の基礎）	（学修内容）献立作成に必要な知識として料理様式や調理法、食品の選択などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に料理本等により様々な献立にふれておき、事後は課題に取り組む。
第13回	栄養士基礎力の育成⑧（献立の組み立て方）	（学修内容）献立の組み合わせや配膳方法など組み立て方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に料理本等により様々な献立に触れておき、事後は課題に取り組む。
第14回	栄養士基礎力の育成⑨（献立作成の手順）	（学修内容）献立作成の流れと作成のポイントを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に料理本等により様々な献立に触れておき、事後は課題に取り組む。
第15回	総まとめ 2回生に向けて	（学修内容）全体の復習と確認テストを行う。 （事前事後学修課題の内容） レビューブック、関連科目の教科書を用いた予習・復習と自己の学び・気づきをまとめる。

授業名	総合基礎演習Ⅱｓａ・ｓｂ・ｓｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1117
英文名	Freshman SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	松尾　章子・盧　珠妍・山中　信子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	初年次教育の一環として、総合基礎演習Ⅰに引き続き、大学での学びに必要なプレゼンテーションの方法、資料作成の方法、レポート作成の方法について学ぶ。プレゼンテーションの方法は、個人あるいはグループとし、適宜アンケート調査を実施したり、文献調査を行ったり、インターネットの情報を収集したりすることにより、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。また、その発表を期末レポートにまとめ、2年次以降の学びにつなげる。
学修成果到達目標	1）資料を収集し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作成することができる。 2）４年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力を身につけ、発表することができる。 3）マネージメント能力を身につけ、発表した内容をレポートにまとめることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	小笠原喜康『最新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社 京都華頂大学編「大学生活スタートブック」
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションや課題は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。
留意事項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。運営・発表の形式は各ゼミによって変更することがある。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	総合基礎演習Ⅱｓａ・ｓｂ・ｓｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏季レポートのプレゼンテーション①　第1グループ (スタートブックNo.9)	（学修内容）夏季レポートに基づく発表を行う。（プレゼンテーション、ディスカッション含む） （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をしておく。
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション②　第2グループ (スタートブックNo.9)	（学修内容）夏季レポートに基づく発表を行う。（プレゼンテーション、ディスカッション含む） （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をしておく。
第3回	企画に基づいたグループ活動①　企画 (スタートブックNo.26・32)	（学修内容）企画に基づいた活動計画をたてる。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） 企画実施に必要なことを考えておく。
第4回	企画に基づいたグループ活動②　実践 (スタートブックNo.26・32)	（学修内容）計画に基づいて役割分担を決め、必要な準備をする。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） 各自の役割に沿って、必要なものを用意する。
第5回	プレゼンテーションに向けた情報検索①　資料（紙媒体）検索実践演習 (スタートブックNo.8)	（学修内容）学術書等の紙媒体からの資料検索の実践 （事前事後学修課題の内容） テキストの第２章を読んでおく。
第6回	プレゼンテーションに向けた情報検索②　インターネット検索実践演習 (スタートブックNo.8・9・10)	（学修内容）インターネットを中心とした資料検索の実践（ICT自主学習含む） （事前事後学修課題の内容） テキストの第２章を読んでおく。
第7回	プレゼンテーション資料の作成①　PowerPoint (スタートブックNo.8・9・10・11・15)	（学修内容）PowerPointによる発表資料作成について（ICT自主学習含む） （事前事後学修課題の内容） PowerPointでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第8回	プレゼンテーション資料の作成②　Word,Excel (スタートブックNo.8・9・10・11・15)	（学修内容）Word,Excel等による発表資料作成について （事前事後学修課題の内容） Word,Excelでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第9回	プレゼンテーションと討論①　第1グループ (スタートブックNo.9・10)	（学修内容）資料に基づく口頭発表を行う。（プレゼンテーション含む） （事前事後学修課題の内容） 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第10回	プレゼンテーションと討論②　第2グループ (スタートブックNo.9・10)	（学修内容）資料に基づく口頭発表を行う。（プレゼンテーション含む） （事前事後学修課題の内容） 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作成してくる。
第11回	プレゼンテーションと討論③　第3グループ (スタートブックNo.9・10)	（学修内容）資料に基づく口頭発表を行う。（プレゼンテーション含む） （事前事後学修課題の内容） 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作成してくる。
第12回	プレゼンテーションと討論④　第4グループ (スタートブックNo.9・10)	（学修内容）資料に基づく口頭発表を行う。（プレゼンテーション含む） （事前事後学修課題の内容） 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作成してくる。
第13回	幼稚園見学 (スタートブックNo.12・13・14)	（学修内容）幼稚園での子どもや教師の姿に触れることにより、1度目の園見学以降の新たな発見と学びを得る。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料をよく読んでおく。
第14回	幼稚園見学の振り返り (スタートブックNo.12・13) レポートの書き方（応用） (スタートブックNo.5・6・7・8)	（学修内容）幼稚園の見学を振り返り、ゼミ内で新たに学んだことをを共有する。 発表を踏まえたレポートの作成 （事前事後学修課題の内容） 発表の資料を振り返り、持参する。
第15回	秋学期の総括・一年間の到達度確認 （スタートブックNo. 18）	（学修内容）秋学期の学びを振り返るとともに、一年間を通しての自己到達点を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 次年度の課題と目標を検討する。

授業名	英語Ⅰua・ub	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	山本　典子	対象学生	こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	この授業では、リーディング,リスニング,スピーキング,ライティングの４技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成します。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行います。簡単な会話のディクテーションと音読、ペアーワークを含め、授業を行います。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を進めます。
学修成果 到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	Answers to Everyday Questions 1 High-beginning　南雲堂 このテキストは、秋学期も使用します。
参考書	なし
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。
留意事項	単語の意味を調べるなどの予習および、復習をしっかりおこなってください。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。参加者の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	授業時に相談。
実践的教育	

授業名	英語Ⅰua・ub

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction Unit 1 On What Day Does the Week Start? (1)	（学修内容）テキストp.7-9　現在形・過去形の演習 会話の音読、ペアーワーク （事前事後学修課題の内容） シラバスを読む。教科書を事前に購入し、必ず目を通しておく。
第2回	Unit 1 On What Day Does the Week Start? (2)	（学修内容）テキストp.10-12　英作チェック 現在形・過去形の復習　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第3回	Unit 2 Why Does a Week Have Seven Days? (1)	（学修内容）進行形・未来形の演習　会話の音読、ペアーワーク テキストp.13-15 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第4回	Unit 2 Why Does a Week Have Seven Days? (2)	（学修内容）進行形・未来形の復習　英作チェック テキストp.16-18　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第5回	Unit 3 Where Do the Names of the Days Come from? (1)	（学修内容）完了形の演習 会話の音読、ペアーワーク テキストp.19-21　不規則動詞変化表テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。不規則動詞変化表を覚える。
第6回	Unit 3 Where Do the Names of the Days Come from? (2)	（学修内容）完了形の復習。英作チェック テキストp.22-24　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第7回	Unit 4 A ”Rain Check” in Baseball (1)	（学修内容）受動態の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.25-27　大きな数字の演習。 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第8回	Unit 4 A ”Rain Check” in Baseball (2)	（学修内容）受動態の復習。英作チェック テキストp.28-30　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第9回	Unit 5 A ”Fumble” in Football (1)	（学修内容）不定詞・動名詞の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.31-33 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第10回	Unit 5 A ”Fumble” in Football (2)	（学修内容）不定詞・動名詞の復習。英作チェック。 テキストp.34-36 復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第11回	Unit 6 A ”Baller” in Basketball (1)	（学修内容）助動詞の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.37-39 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第12回	Unit 6 A ”Baller” in Basketball (2)	（学修内容）助動詞の復習。英作チェック。 テキストp.40-42　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第13回	Unit 7 Why Is English Spelling So Difficult? (1)	（学修内容）可算名詞・府可算名詞・冠詞の演習。会話の音読、ペアーワーク。 テキストp.43-45 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第14回	Unit 7 Why Is English Spelling So Diffucult? (2)	（学修内容）可算名詞・不可算名詞・冠詞の復習。英作チェック。 テキストp.46-48 復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第15回	Unit 8 How Do You Make a Hamburger?	（学修内容）前置詞の演習 テキストp.49-54 文法復習。定期試験の説明 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。

授業名	英語Ｉｕｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	竹中　宏文	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	この授業では、旅行や観光の際のさまざまな場面での専門的な用語や言い回しなどが含まれた英語で、観光・旅行に必要となる初歩的な英語および日常英会話を扱うことにより、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成します。予習をしていることが望ましいですが、それ以上に復習をしっかりとやることにより、確実に英語でのコミュニケーションの力を伸ばせます。 また、授業で案内するE-Learning教材に積極的に取り組むことにより、初級から上級レベルまで、各自にあわせた英語の総合力をつけることができます。
学修成果到達目標	１）英語の基本的な知識を身につけ、それらを活用することによって、英語学習初級用テキストの内容を90%以上把握し、与えられた質問に対して答えを英語で記述することができる。 ２）テキストの音声の内容を聞き取り、90%以上理解し、内容を口頭あるいは記述において伝えることができる。 ３）native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することによって、聞き取りと発音が正確にできるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　■（　学修意欲　）■（　自主学習進捗度　）
テキスト	『CD付 ベーシック観光英語』観光英検センター 編著　三修社
参考書	特になし
課題に対するフィードバックの方法	模範解答(例)を全体で共有するとともに、提出物については個々に返却。
留意事項	授業には、必ず、スマートフォンもしくはタブレットを持参すること。 全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。 各授業での30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 また、授業内で提示する自主学習にも積極的に取り組んでください。
オフィスアワー	授業の前後に、いつでも可能。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：中学校・高等学校で英語科教員として勤務した経験をふまえて、総合的な英語力の基礎を養えるよう授業を進めます。

授業名	英語Ｉｕｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Unit1 Travel	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第2回	Unit2 Jobs and People	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行業務に関する語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第3回	Unit3 Getting on the Plane	（学修内容）テキストの内容に沿って、空港での搭乗の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第4回	Unit4 At the Immigration and Customs	（学修内容）テキストの内容に沿って、空港での手続きで役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第5回	Unit5 At the Airport	（学修内容）テキストの内容に沿って、空港での場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第6回	Unit6 Hotel (Accommodations)	（学修内容）テキストの内容に沿って、ホテルでの宿泊で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第7回	Unit7 Restaurant (Breakfast and Fast Food)	（学修内容）テキストの内容に沿って、食事の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第8回	Unit8 Sightseeing	（学修内容）テキストの内容に沿って、観光の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第9回	Unit9 Shopping	（学修内容）テキストの内容に沿って、買い物の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第10回	Unit10 Transportation	（学修内容）テキストの内容に沿って、さまざまな交通機関に関する語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第11回	Unit11 Problems and Complains	（学修内容）テキストの内容に沿って、苦情や問題解決場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第12回	Traveling in Japan (その１)	（学修内容）テキストの内容に沿って、日本での旅行案内の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第13回	Traveling in Japan (その２)	（学修内容）テキストの内容に沿って、日本での旅行案内の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第14回	Traveling in Japan (その３)	（学修内容）テキストの内容に沿って、日本での旅行案内の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第15回	Traveling in Japan (その４)	（学修内容）テキストの内容に沿って、日本での旅行案内の場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、復習③E-Learning教材での学習

授業名	英語Ⅱｕａ・ｕｂ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	山本　典子	対象学生	こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	リーディング,リスニング,スピーキング,ライティングの４技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成します。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行います。ペアーワークなどを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行います。
学修成果到達目標	１）英語基本５文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。初心者用テキストの90%以上を把握し与えられた質問に英語で答えられる。 ２）テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 ３）英語四技能を段階的に修得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	春学期に使用したテキストを引き続き使用するので新しく購入する必要はありません。 Answers to Everyday Questions 1 High-beginning 南雲堂
参考書	なし
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。
留意事項	授業前には単語の意味を調べ、予習、及び復習をしっかり行ってください。必要に応じて、辞書を持参してください。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席となります。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進度と異なる場合があります。
オフィスアワー	授業時に相談。
実践的教育	

授業名	英語Ⅱｕａ・ｕｂ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Unit 9 How Are New Words Born? (1)	（学修内容）オリエンテーション。会話の音読、ペアーワーク 形容詞・副詞の演習。テキストp.55-57 時制復習 （事前事後学修課題の内容） 本授業のシラバスを読む。テキストの予習。
第2回	Unit 9 How Are New Words Born? (2)	（学修内容）形容詞・副詞の復習。英作チェック。 テキストp.58-60 復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第3回	Unit 10 How Do Colors Make You Feel? (1)	（学修内容）接続詞の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.61-63 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習
第4回	Unit 10 How Do Colors Make You Feel? (2)	（学修内容）接続詞の復習。英作チェック。 テキストp.64-66　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第5回	Unit 11 What Happens When You See Red? (1)	（学修内容）代名詞・付加疑問の演習。 会話の音読、ペアーワーク　テキストp.67-69 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習
第6回	Unit 11 What Happens When You See Red? (2)	（学修内容）代名詞・付加疑問の復習。英作チェック。 テキストp.70-72 復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第7回	Unit 12 Do You Have a Green Thumb? (1)	（学修内容）比較の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.73-75 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第8回	Unit 12 Do You Have a Green Thumb? (2)	（学修内容）比較の復習。英作チェック。 テキストp.76-78　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第9回	Unit 13 The Word ”Puke” in As You Like It (1)	（学修内容）関係詞の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.79-81 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第10回	Unit 13 The Word ”Puke” in As You Like It (2)	（学修内容）関係詞の復習。英作チェック。 テキストp.82-84　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第11回	Unit 14 Hip-Hop and A Midsummer Night's Dream (1)	（学修内容）分詞・分詞構文の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.85-87 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第12回	Unit 14 Hip-Hop and A Midsummer Night's Dream (2)	（学修内容）分詞・分詞構文の復習。英作チェック。 テキストp.88-90　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第13回	Unit 15 Shakespeare's Unusual Talent (1)	（学修内容）話法・仮定法の演習。会話の音読、ペアーワーク テキストp.91-93 （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。
第14回	Unit 15 Shakespears's Unusual Talent (2)	（学修内容）話法・仮定法の復習。英作チェック。 テキストp.93-95　復習テスト （事前事後学修課題の内容） テキストの予習。英作部分にも目を通しておく。
第15回	文法総復習	（学修内容）文法の復習 定期試験の説明 （事前事後学修課題の内容） 復習

授業名	英語Ⅱｕｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	竹中　宏文	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	この授業では、春学期に引き続き、旅行や観光の際のさまざまな場面での専門的な用語や言い回しなどが含まれた英語で、観光・旅行に必要となる初歩的な英語および日常英会話を扱うことにより、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４領域にわたるより発展的で総合的な英語コミュニケーション力を養成します。予習をしていることが望ましいですが、それ以上に復習をしっかりとやることにより、確実に英語でのコミュニケーションの力を伸ばせます。また、授業で案内するE-Learning教材に積極的に取り組むことにより、現状のレベルからさらに上級のレベルまで、各自にあわせた英語の総合力をつけることができます。
学修成果到達目標	１）英語の中級レベルの知識を身につけ、それらを活用することによって、英語学習用中級テキストの内容を90%以上把握し、与えられた質問に対して答えを英語で記述することができる。 ２）テキストの音声の内容を聞き取り、90%以上理解し、内容を口頭あるいは記述において伝えることができる。 ３）native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することによって、聞き取りと発音が正確にできるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　学修意欲　)　■(　自主学習進捗度　)

テキスト	『CD付 ステップアップ観光英語』観光英検センター 編著　三修社
参考書	特になし
課題に対するフィードバックの方法	範解答(例)を全体で共有するとともに、提出物については個々に返却。
留意事項	授業には、必ず、スマートフォンもしくはタブレットを持参すること。 全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。 各授業での30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 また、授業内で提示する自主学習にも積極的に取り組んでください。
オフィスアワー	授業の前後に、いつでも可能。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：中学校・高等学校で英語科教員として勤務した経験をふまえて、総合的な英語力の基礎を養えるよう授業を進めます。

授業名	英語Ⅱｕｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Unit1 Travel Information	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第2回	Unit2 At the Airport	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第3回	Unit3 Hotel	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第4回	Unit4 Dining	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第5回	Unit5 Asking and Giving Directions.	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第6回	Unit6 Buses and Trains	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第7回	Unit7 Mailing and Money Exchange	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第8回	Unit8 Sightseeing (1)	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第9回	Unit9 Sightseeing (2)	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第10回	Unit10 Problems and Complaints	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第11回	Unit11 Tour Conductor Duties	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第12回	Unit12 Sightseeing in Japan	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第13回	Appendix1 American Usage and British Usage	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第14回	Appendix2 Commonly Used Abbreviations	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習②語彙や表現に関して、小テストに備える③E-Learning教材での学習
第15回	Appendix3 French Terms Needed to Understand Restaurant Menus	（学修内容）テキストの内容に沿って、旅行の際のさまざまな場面で役立つ語彙や表現を学び、聞き取りや書き取りの演習を通して活用し、身につける。 （事前事後学修課題の内容） ①テキストの指示された部分について、CDを聞きながら10回以上音読練習　②語彙や表現に関して、復習　③E-Learning教材での学習

授業名	英語コミュニケーションⅠ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1104
英文名	English　Communication I	開講時期	春学期			必修選択	必修
担当者	松尾　章子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、会話文と文法を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。
学修成果到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について5往復程度の会話文で表現できる。 2）Graded Readerの読みやすさレベル（YL）0.7程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3）新出単語・表現の50%以上を覚えている。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	『Speaking of People Intro』Peter Vincent他著 南雲堂　2023年 2,640円（税込）
参考書	検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 『幼保英検3級テキスト』株式会社ブックフォレ　1,900円+税 『教職英語検定小学校教諭担当用テキスト第1巻』株式会社ブックフォレ　2,500円+税
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、後期第1回目の授業において希望者に返却する。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行う。
留意事項	受講者数は30名を定員とし、多い場合は抽選とします。積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業前日までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。オンライン以外の提出物についても、同じく次回授業前日まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。
オフィスアワー	研究室（5号館3階）前に日時を掲示しますので、確認してください。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールでの勤務経験をもとに、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう実践的教育を行う。

授業名	英語コミュニケーションⅠ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Classroom English Unit 1 Introductions	（学修内容）到達目標の確認、進め方の説明、多読紹介 Unit 1 （事前事後学修課題の内容） 事前：本授業のシラバスを読み、テキストに目を通す。 事後：授業内容の復習。英語本を5冊以上読む。
第2回	多読紹介@図書館 Unit 1 Speaking and Writing Practice	（学修内容）Unit1の内容確認・練習 図書館地下において多読図書の紹介と多読方法の説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第3回	Unit 2 What Do You Do?	（学修内容）多読、Unit 2 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込む。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第4回	Unit 2 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit2の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第5回	Unit 3 I'm Busy!	（学修内容）多読、Unit 3 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第6回	Unit 3 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit3の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第7回	Review Units 1-3	（学修内容）多読、Review Units 1-3 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込む。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第8回	Unit 4 What Does She Look Like?	（学修内容）多読、Unit 4 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。会話テストの練習。
第9回	Unit 4 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit4の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。会話テストの練習。
第10回	Unit 5 People and Places	（学修内容）多読、Unit 5 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。会話テストの練習。
第11回	Unit 5 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit5の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。会話テストの練習。
第12回	Unit 6 Likes and Dislikes	（学修内容）多読、Unit 6 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第13回	Unit 6 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit6の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第14回	Review Units 4-6	（学修内容）多読、Review Units 4-6 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込む。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第15回	総復習	（学修内容）総復習 （事前事後学修課題の内容） 事前：授業内容を振り返り、質問を考える。 事後：定期試験に向けて復習する。

授業名	英語コミュニケーションⅡ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1119
英文名	English　Communication Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	松尾　章子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、会話文と文法を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。
学修成果 到達目標	1）既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文で表現できる。 2）Graded Readerの読みやすさレベル0.8～1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3）新出単語・表現の50%以上を覚えている。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト	『Speaking of People Intro』Peter Vincent他著　南雲堂　2023年 2,640円（税込） ※春学期に使用したテキストを継続して使用します。
参考書	検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク　2,600円＋税 『幼保英検3級テキスト』株式会社ブックフォレ　1,900円+税 『教職英語検定小学校教諭担当用テキスト第2巻』株式会社ブックフォレ　2,500円+税
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、定期試験返却期間において希望者に返却します。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行います。
留意事項	受講者数は30名を定員とし、多い場合は抽選とします。積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業前日までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業前日まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。
オフィスアワー	研究室（5号館3階）前に日時を掲示しますので、確認してください。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールでの勤務経験をもとに、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう実践的教育を行う。

授業名	英語コミュニケーションⅡ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Unit 7 Personality	（学修内容）多読、Unit 7 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。会話テストの練習。
第2回	Unit 7 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 7の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。会話テストの練習。
第3回	Unit 8 Tell Me About Your Family	（学修内容）多読、Unit 8 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第4回	Unit 8 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 8の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第5回	Unit 9 Feelings	（学修内容）多読、Unit 9 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第6回	Unit 9 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 9の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第7回	Review Units 7-9	（学修内容）多読、Review Units 7-9 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第8回	Unit 10 Communication	（学修内容）多読、Unit 10、Secret Santa 1枚目提出 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第9回	Unit 10 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 10の内容確認・練習、Secret Santa 2枚目提出 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第10回	Unit 11 Memories	（学修内容）多読、Unit 11、Secret Santa 3枚目提出 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第11回	Unit 11 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 11の内容確認・練習、Secret Santa 4枚目提出 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。会話テストの練習。
第12回	Secret Santa（12月最終週の授業日に実施） 異文化理解	（学修内容）Secret Santa 5枚目提出、異文化理解とは （事前事後学修課題の内容） 事前：Secret Santaカードの作成。 事後：授業内容の振り返り。本読み2,000語以上。会話テストの練習。
第13回	Unit 12 Into the Future	（学修内容）多読、Unit 12 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。会話テストの練習。
第14回	Unit 12 Speaking and Writing Practice	（学修内容）多読、Unit 12の内容確認・練習 （事前事後学修課題の内容） 事前：必要に応じて解答の直し。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。会話テストの練習。
第15回	Review Units 10-12	（学修内容）多読、Review Units 10-12 （事前事後学修課題の内容） 事前：次回授業内容のテキストを読み、解答を書き込み提出。 事後：定期試験に向けて復習する。

授業名	健康スポーツ科学Ｉｕｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1105
英文名	Health and Sports Science I	開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	吉永　有佳	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツのルールを学び、グループワークを通じた基本的な技術を習得することで生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。
学修成果到達目標	1）体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2）運動の実践によりスポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツに繋げることができる。 3）運動習慣を身に付ける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	使用しない。
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村慎一監修　（杏林書院）
課題に対するフィードバックの方法	授業後に質問を受け付け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別に対応をする。
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。 実技においては、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。また、実技では受講者の技術力に応じて内容変更があり得るので予め了承願いたい。
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で行う。
実践的教育	

授業名	健康スポーツ科学Ｉｕｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	（学修内容）本講に関するオリエンテーション （事前事後学修課題の内容） 筆記用具、顔写真（3cm×3cm）
第2回	アイスブレーキング	（学修内容）コミュニケーションを目的としたレクリエーション （事前事後学修課題の内容） アイスブレーキングについて具体的に調べる。
第3回	ソフトバレーボール１：基本スキルの習得	（学修内容）基本技術の習得 （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボールの基本技術について調べる
第4回	ソフトバレーボール２：ルールの理解	（学修内容）基礎技術の習得・試合 （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボールのルールを調べる
第5回	ソフトバレーボール３：練習・試合	（学修内容）ソフトバレーボールの基本スキルの実践 チームで課題を見つけ、解決に向けて練習を行うグループワーク （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボールの特徴を調べる。
第6回	ソフトバレーボール４：試合	（学修内容）ソフトバレーボールの試合 課題を見つけ、戦術について話し合い練習を行うグループワーク （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボール戦術を調べる
第7回	体力測定1：体力測定説明・準備運動・測定 (準備運動、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び etc)	（学修内容）文部科学省新体力テスト （事前事後学修課題の内容） 体力テストについて調べる
第8回	体力測定2：準備運動・測定 (ハンドボール投げ、３分間走　etc)	（学修内容）文部科学省新体力テスト （事前事後学修課題の内容） 体力テストについて具体的に調べ、まとめて提出する。
第9回	講義　体力評価	（学修内容）体力評価を行う （事前事後学修課題の内容） 体力測定の評価の仕方を調べる
第10回	講義　健康と体力	（学修内容）健康と体力について （事前事後学修課題の内容） 健康について調べ、レポートにまとめて提出する。
第11回	バドミントンＩ：基礎練習	（学修内容）基本技術の習得 （事前事後学修課題の内容） バドミントンの基礎技術について調べる
第12回	バドミントン２：基礎スキルの応用	（学修内容）バドミントンのルールを理解する （事前事後学修課題の内容） バドミントンのルールを調べ、レポートにまとめて提出する。
第13回	バドミントン３：基礎スキルの応用	（学修内容）バドミントンの試合 （事前事後学修課題の内容） バドミントンの戦術を調べる
第14回	卓球	（学修内容）卓球の基礎技術の習得・ルールの理解 （事前事後学修課題の内容） 卓球の基礎技術・ルールについて調べる
第15回	まとめ	（学修内容）レポートの作成、提出 （事前事後学修課題の内容） 実技・講義を振り返りレポートにまとめて提出する。

授業名	健康スポーツ科学Ⅰua・ub	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1105
英文名	Health and Sports Science I	開講時期	春学期			必修選択	必修
担当者	佐東　恒子	対象学生	こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	本講義では、グループワークを通して、以下の3点に重点を置く。生涯を通して、日常的にスポーツを楽しむ態度と能力を養う。 ・健康・体力・トレーニングについて理解を深める。 ・各種スポーツのルールを理解する。 ・基本的な技術を習得する。
学修成果到達目標	(1)運動が身体に及ぼす影響についての学習を踏まえた上で、スポーツの実践を通して自身の健康についての理解を深めることができる。 (2)スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。 (3)運動習慣を身につけ生涯スポーツにつなげることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院) 「入門スポーツ科学～スポーツライフをエンジョイするために」 杉浦 雄策(有限会社ナップ)
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。
留意事項	実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ひかり幼稚園・復活幼稚園・篠村幼稚園（運動遊び・リズム遊びの指導） 社会活動として高齢者の健康体操やヨガの指導

授業名	健康スポーツ科学Ｉｕａ・ｕｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本授業に関するオリエンテーション。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。授業目標と進め方について説明する。
第2回	アイスブレーキング	（学修内容）コミュニケーションを目的としたレクリエーション。 （事前事後学修課題の内容） アイスブレーキングについて調べて提出。
第3回	バドミントン1 基本技術の習得	（学修内容）基本技術(フォア・バックハンド・サーブ・スマッシュ)の習得。 （事前事後学修課題の内容） バドミントンの特性と基本技術を調べて提出。
第4回	バドミントン2 ゲーム	（学修内容）ゲームを通して技術を習得する。 （事前事後学修課題の内容） バドミントンのルールを調べて提出。
第5回	バドミントン3 シングルゲームの実践	（学修内容）シングルゲームの実践を通してルールを理解する。 （事前事後学修課題の内容） ダブルスのルールを調べて提出。
第6回	バドミントン4 ダブルスゲームの実践	（学修内容）ダブルスの戦術を活かして、ゲームを実践する。 （事前事後学修課題の内容） バドミントンの戦術を調べて提出。
第7回	ソフトバレーボール1 基本技術の習得	（学修内容）基本技術(パス・サーブ・レシーブ・スパイク)の習得。 （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボールの特性を調べて提出。
第8回	ソフトバレーボール2 簡易ゲーム	（学修内容）簡易ゲームで技術の習得。 （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーのルールを考えて提出。
第9回	ソフトバレーボール3 ルールの理解	（学修内容）実践を通してルールを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 公式ルールを理解し提出。
第10回	ソフトバレーボール4 ゲームの実践	（学修内容）基本技術の向上と応用。戦術を活かしゲームを実践する。 （事前事後学修課題の内容） ソフトバレーボールの戦術を調べて提出。
第11回	卓球1 基本技術の習得	（学修内容）基本技術(フォア・バックハンド・サーブ・スマッシュ)の習得。 （事前事後学修課題の内容） 卓球の特性と基本技術を調べて提出。
第12回	卓球2 試合(シングルス)	（学修内容）シングルの試合を通してルールを理解する。 （事前事後学修課題の内容） シングルのルールを調べて提出。
第13回	卓球3 ダブルスのルール理解	（学修内容）ダブルスの試合を通してルールを理解する。 （事前事後学修課題の内容） ダブルスのルールを調べて提出。
第14回	卓球4 試合(ダブルス)	（学修内容）ダブルスの基本技術の向上。戦術を活かしゲームを実践する。 （事前事後学修課題の内容） ダブルスの戦術を調べて提出。
第15回	講義「健康と体力について」	（学修内容）年齢に応じて、健康に気を付ける内容や、体力を維持する方法が変化することを学習する。 （事前事後学修課題の内容） 健康と体力について自分の考えをまとめて提出。

授業名	健康スポーツ科学Ⅱｕｃ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1120
英文名	Health and Sports ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	吉永　有佳	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	本講議では、学生個人の健康についての理解を深める。また、実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解しながらルールを学び、グループワークを通じた基本的な技術を習得することで生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度を養う。
学修成果到達目標	1）体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2）講義受講により、個人の健康について考え、自己管理することが出来る。 3）健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯にわたり実践する意義について理解する。 4）運動習慣を身に付ける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村慎一監修（杏林書院）
課題に対するフィードバックの方法	授業後に室温を受け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別対応を行う。
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。 実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。また、実技では受講者の技術力に応じて内容変更があり得るので予め了承願いたい。
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で行う。
実践的教育	

授業名	健康スポーツ科学Ⅱｕｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	（学修内容）本講に関するオリエンテーション （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認しておく
第2回	バレーボール１： 基礎練習「ボール慣れ、ボールコントロール」	（学修内容）基礎技術の習得 （事前事後学修課題の内容） バレーボールの基礎技術について調べる。
第3回	バレーボール2： 基礎練習「サーブ・パス」	（学修内容）基礎技術の習得 （事前事後学修課題の内容） 基礎技術について調べ、レポートにまとめて提出する。
第4回	バレーボール３： 基礎練習「ネットを挟んでパス・サーブ」 試合	（学修内容）バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク （事前事後学修課題の内容） バレーボールのルールを調べ、レポートにまとめて提出する
第5回	バレーボール４：試合	（学修内容）バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク （事前事後学修課題の内容） バレーボールの戦術について調べ、レポートにまとめて提出する。
第6回	バッドミントン1：基礎練習「サーブ・試合」	（学修内容）基本技術の習得・試合 （事前事後学修課題の内容） 基本技術について調べる。 バドミントンのルールを調べ、レポートにまとめて提出する
第7回	バドミントン２：基礎練習「クリアー・試合」	（学修内容）基礎練習　クリアー （事前事後学修課題の内容） バドミントンの基礎技術について調べる
第8回	バドミントン３：試合	（学修内容）バドミントンの試合を行う （事前事後学修課題の内容） バドミントンの戦術について調べる
第9回	講議：性について(妊娠)	（学修内容）性(妊娠)について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 性について学び、考えをレポートにまとめて提出する。
第10回	講議：性について(出産・不妊治療)	（学修内容）性(出産・不妊治療)について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 性について学び、考えをレポートにまとめて提出する
第11回	バスケットボール１：基礎練習「ボール慣れ」	（学修内容）バスケットボール操作 （事前事後学修課題の内容） バスケットボールのルールについて調べ、レポートにまとめて提出する
第12回	バスケットボール２：基礎練習「ドリブル・パス」	（学修内容）ボール操作　ドリブルとパス （事前事後学修課題の内容） バスケットボールの基本技術にいて調べる
第13回	バスケットボール３：基礎練習「シュート・試合」	（学修内容）ドリブルシュート。ランニングシュート （事前事後学修課題の内容） バスケットボールの戦術を調べる
第14回	バスケットボール４：試合	（学修内容）バスケットボールの試合 （事前事後学修課題の内容） バスケットボールの戦術について調べ、レポートにまとめて提出する
第15回	まとめ	（学修内容）レポート作成、提出 （事前事後学修課題の内容） 授業を振り返り、レポートにまとめて提出する

授業名	健康スポーツ科学Ⅱｕａ・ｕｂ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1120
英文名	Health and Sports ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	佐東　恒子	対象学生	こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	本講義では、グループワークを通して、以下の3点に重点を置く。生涯を通して、日常的にスポーツを楽しむ態度と能力を養う。 ・スポーツ文化や、傷害予防について理解を深める。 ・各種スポーツのルールを理解する。 ・自己の体力に応じた運動強度を認識する。
学修成果到達目標	(1)運動実践の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について理解することができる。 (2)スポーツを通してコミュニケーション能力・協調性・リーダーシップを身につけることができる。 (3)健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な運動強度による運動を生涯にわたり実践する意義について理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院) 「入門スポーツ科学～スポーツライフをエンジョイするために」 杉浦 雄策(有限会社ナップ)
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。
留意事項	実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。
オフィスアワー	授業終了後、体育準備室で実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ひかり幼稚園・復活幼稚園・篠村幼稚園（運動遊び・リズム遊びの指導） 社会活動として高齢者の健康体操やヨガの指導

授業名	健康スポーツ科学Ⅱｕａ・ｕｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本授業に関するオリエンテーション。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。授業目標と進め方について説明する。
第2回	講義「スポーツと安全の関係性について」	（学修内容）スポーツを安全に効果的に行うための方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 自身の健康状態をチェックして提出。
第3回	有酸素運動と心拍数の測定	（学修内容）エアロビクス(エアロビックダンス)の実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 有酸素・無酸素運動について調べて提出。
第4回	ヨガストレッチ	（学修内容）ヨガストレッチの実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ヨガについて調べて提出。
第5回	パラバルーンで体力トレーニング	（学修内容）パラバルーンを使っていろんな体力トレーニングを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 体力トレーニングの内容をまとめて提出。
第6回	各種スポーツの実践1：からだのコントロール	（学修内容）縄跳び(短縄・長縄) （事前事後学修課題の内容） いろんな跳び方を調べて提出。
第7回	各種スポーツの実践2：フープを使ったからだのコントロール	（学修内容）フープを使っていろんなゲームを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 大・中・小のフープを使ったゲームを考えて提出。
第8回	各種スポーツの実践3：ボールを使ったからだのコントロール	（学修内容）ボールを使っていろんなゲームを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 楽しいボールゲームを考えて提出。
第9回	バスケットボール1 基本技術の習得	（学修内容）基本技術の習得・試合。 （事前事後学修課題の内容） バスケットボールの特性と基本技術を調べて提出。
第10回	バスケットボール2 ゲーム	（学修内容）バスケットボールのゲームを通して技術を習得する。 （事前事後学修課題の内容） バスケットボールのゲーム内容を考えて提出。
第11回	バスケットボール3 ルールの理解	（学修内容）バスケットボールの実践を通してルールを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 公式ルールを調べて提出。
第12回	バレーボール1 基本技術の習得・ルールの理解	（学修内容）基本技術の習得・ルールの理解。 （事前事後学修課題の内容） バレーボールのルールを調べて提出。
第13回	バレーボール2 ゲーム	（学修内容）バレーボールの試合。 （事前事後学修課題の内容） バレーボールの戦術について調べて提出。
第14回	バレーボール3 チームの課題を見つける	（学修内容）バレーボールの試合・チームの課題について話し合う。 （事前事後学修課題の内容） チームの課題をまとめて提出。
第15回	まとめ	（学修内容）レポート作成・提出。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を振り返りまとめて提出。

授業名	人権と社会	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1106
英文名	Human Rights and Society	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	田中　真美	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	人権について考えることは、1人ひとりのいのちについて考えることです。 私達のいのちは誰もが等しく尊いものです。高齢になっても、障害をもっても、病気に罹患しても、存在することの価値は、すべてに等しく大切なものです。ひとりひとりの人権が尊重されることにより、自己肯定感が生まれ、共感的な人間関係が築けることができる「共に生きる社会」を目指すために、本講義では、ジェンダー問題、高齢者問題、障害者問題、児童問題や、ハンセン病、がんなどの病気について、様々な社会的事象から人権について具体的に考え、多面的な視点をもって、人権を尊重する社会について考察する思考力を持つことを目指し、授業を進めます。
学修成果 到達目標	1)人権について、日常生活の中で現在の社会事象の中で考えることが出来るようになる。 2)人権に関わる社会的な事象を多面的なさまざまな角度から考え、議論に理解することができるようになる。 3)障害、高齢、病（ハンセン病、難病、新型コロナウイルスなどの感染症）などから、人権、人のいのちの尊厳について考え、「共に生きる」共生社会の大切さについて理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配布する
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。
留意事項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。
オフィスアワー	個別の質問など、授業後に受付け、あるいはメールにても対応します。
実践的教育	

授業名	人権と社会

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	私達と人権	（学修内容）講義の内容を説明し、自分の生活の中で人権について考えた経験を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に今までの生活を振り返り、人権について考えたことを整理する。事後は、自分の関心のある人権についての事柄をまとめる。
第2回	人権に関わるいのちの尊厳について	（学修内容）人権について考える上で、1番大切ないのちについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分がいのちについて考えたことを振り返り、整理する。事後は、いのちをテーマにした本などを読んだものをまとめる。
第3回	人権の歴史	（学修内容）人権についての背景、歴史的に理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に人権についての歴史について整理する。事後は、人権の歴史の中から学んだことを復習する。
第4回	医療といのちと人権	（学修内容）医療において、いのち、人権を考える場面が多く、さまざまな場面において、人権がどのように捉えられているかを考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分が今まで医療を受けたときに感じた人権について整理する。事後は、医療といのちについて考えたことぉレポートにまとめる。
第5回	医療事例に学ぶ人権といのち （ゲストスピーカー）	（学修内容）医療現場で実際の事例を提示し、人権について考える。（特別招聘講師、予防医学医師） （事前事後学修課題の内容） 事前にゲストスピーカーへの質問を考えてくる。事後は、授業を受けての感想を書いて提出する。
第6回	障害者問題に学ぶ人権	（学修内容）人生において、病、事故、災害などをきっかけにして障害をもつことがある。障害者の人権がどのように考えられてきたことを理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自分の生活の中で障害について考えたことを整理する。事後は、障害者の人権についてまとめる。
第7回	高齢者問題に学ぶ人権	（学修内容）高齢者を総合的に理解し、人生の最終期を迎えた高齢者、特に認知症などの病の高齢者と人権について、考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の身近な高齢者の人権について具体的に考え整理する。事後に高齢者問題の課題についてまとめる。
第8回	児童問題に学ぶ人権 （ゲストスピーカー）	（学修内容）児童問題と人権について、医療的ケア児童問題を含めて、実際の事例から理解する。（特別招聘講師、医療的ケア児保育園園長） （事前事後学修課題の内容） 事前に医療的ケア児について、調べて、質問を考えてくる。事後は、授業を受けての感想を書いて提出する。
第9回	ジェンダー問題を歴史から学ぶ	（学修内容）男女雇用機会機会均等法が施行されてから、35年以上経過しており、社会での女性の歴史を辿りながら、ジェンダー問題について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にジェンダー問題の身近に感じる事象を整理する。事後は、ジェンダー問題のこれからの課題についてまとめる。
第10回	ハンセン病に学ぶ人権（ハンセン病療養所の歴史から） （ゲストスピーカー）	（学修内容）全国13カ所にある国立ハンセン病療養所の歴史から学び、療養所の成立と人権について理解する。（特別招聘講師、長島愛生園学芸員） （事前事後学修課題の内容） 事前にハンセン病について知っていることをまとめる。事後は、ハンセン病の病気や療養所の歴史について復習する。
第11回	ハンセン病に学ぶ人権（ハンセン病の文学作品から）	（学修内容）ハンセン病療養所ではたくさんの文芸作品が生まれた。その作品の中から人権、いのちについて理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前にハンセン病文学を読み、感想を整理する。事後に気づいたことをまとめる。
第12回	ハンセン病に学ぶ人権（まとめ）	（学修内容）ハンセン病に罹患し、療養所で暮らした人びとのことから、人権、いのちについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前にハンセン病について学んだことをまとめる。事後は、
第13回	グループワーク：ハンセン病の事例をもとに考えたことを話しあう。	（学修内容）ハンセン病について、学んだ事をKJ法を用いてグループワークにて深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分がハンセン病を学ぶ前後の内的な変化を整理する。事後は、グループワークで意見交換して、その気づきをレポートにまとめる。
第14回	ひとり1人の存在を大切にして、共に生きる社会を目指すことを考える	（学修内容）未来に向けて、障害者、高齢者、児童、様々な事情を抱えた人が共に生きる「共生社会」にとり、大切なことを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分が共生社会を作るためには具体的にどうするのかを整理する。事後は、課題をレポートにまとめる。
第15回	「人権と社会」まとめ	（学修内容）「人権と社会」の講義をまとめ、振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に講義を受講して、人権についての考えたことを整理する。復習として、それぞれの社会的事象から考えたことを整理する。

授業名	情報処理ｕｂ～ｕｅ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	現在、コンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報利活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。
学修成果到達目標	1）Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2）Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3）Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4）インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5）課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時に資料を配布します。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	個別対応で良いところなど、アドバイスしていきます。
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけてください。理解の状況により、授業の進展度合いを変更することがあります。
オフィスアワー	授業終了後。
実践的教育	

授業名	情報処理ｕｂ～ｕｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	（学修内容）　授業概要の説明、情報処理室の使用方法、Gメールの送受信、アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて （事前事後学修課題の内容） 授業を受ける前に、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第2回	Word 1（基本操作）	（学修内容）　Wordの開始、保存、終了　コピー＆貼り付け，ページ設定，書式設定、　文字カウントの実践・実習 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第3回	Word 2（文書作成と整形）	（学修内容）　検索と置換，ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入などの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第4回	Word 3（図入りの文書の作成）	（学修内容）図形、画像の作成、挿入，テキストの配置などの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第5回	Word 4（表作成） 文献検索	（学修内容）単純な表、複雑な表の作成、文献検索の実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第6回	Word 5（総復習）	（学修内容）課題の作成（イベント案内のチラシ作成の実践・実習）。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第7回	Excel 1（基本操作、関数）	（学修内容）　セル、シート等、各画面の説明，データ入力、簡単な計算式などの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第8回	Excel 2（関数）	（学修内容）　各種関数（合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など）の実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第9回	Excel 3（表、グラフの作成）	（学修内容）　罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合、棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定の実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第10回	Excel 4（既存データベースの利用）	（学修内容）　e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第11回	Excel 5（総復習）	（学修内容）前回の情報分析結果をレポートにまとめる実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第12回	PowerPoint 1（基本操作）	（学修内容）　画像の加工、アニメーションの設定などの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第13回	PowerPoint 2（Word、Excelとの連携）	（学修内容）グラフ、表の作成，印刷設定などの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第14回	PowerPoint 3（総復習）	（学修内容）プレゼンテーション用のスライド作成の実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。
第15回	PowerPoint 4（プレゼンテーション）	（学修内容）PowerPointを使ったプレゼンテーションの実践・実習。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容で、苦手なところを整理しておく。事後は、授業内容の復習をしておく。

授業名	情報処理ｕａ・ｕｆ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的に行われ必要不可欠となっている。 コンピューターを用いた基本的な情報利活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習を行う。
学修成果到達目標	1）Microsoft Wordによる文章入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2）Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3）Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4）課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、資料配布・情報共有する
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	授業時に個別対応でコメントや助言を行う。
留意事項	パソコンで各自作業を行うので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してすること。 USBメモリを各自で準備すること（容量やメーカーは問わない）。 各授業内容は前回授業の内容を踏まえたものになるため、欠席しないよう心がけること。 課題の内容や順序は状況により変更となる可能性がある。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	情報処理ｕａ・ｕｆ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業概要の説明、情報処理室の使用方法、Gmailの送受信、アカウントの追加、情報に関するリスク・対策について。 （事前事後学修課題の内容） 入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参すること。
第2回	【Powerpoint（１）】：基本操作	（学修内容）テキストや画像の貼付、アニメーションの設定など。 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第3回	【Powerpoint（２）】：実践	（学修内容）プレゼンテーションの技法・スライドの作成 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第4回	【Excel（１）】：基本設定	（学修内容）セル設定、シート設定、各画面の説明、データ入力 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第5回	【Excel（２）】：基本操作	（学修内容）四則演算、合計、平均 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第6回	【Excel（３）】：各種演算・関数	（学修内容）各種関数（合計、平均、最大最小、絶対範囲、IF） （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第7回	【Excel（４）】：文字・セル	（学修内容）罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第8回	【Excel（５）】：データ整理	（学修内容）フィルター、順位、並替 （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第9回	【Word（１）】：基本操作	（学修内容）Wordの開始、保存、終了、コピー＆貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第10回	【Word（２）】：基本設定	（学修内容）検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入など （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第11回	【Word（３）】：図形・画像	（学修内容）図形、画像の作成、挿入、テキストの配置など （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第12回	【Word（４）】：表	（学修内容）単純な表、複雑な表の作成、文献検索について （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第13回	【Word・Excel・Powerpoint（１）】：実践	（学修内容）総務省統計局やe-Statなどのデータを利用し、情報を分析・評価・整理する （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第14回	【Word・Excel・Powerpoint（２）】：応用	（学修内容）情報分析結果をレポートにまとめる （事前事後学修課題の内容） 前回と今回の復習
第15回	まとめ	（学修内容）振り返り、まとめ、レポート完成。 （事前事後学修課題の内容） 課題をレポートにまとめられるように整理しておく。

授業名	京都の歴史	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1124
英文名	History of Kyoto	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	工藤　美和子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	平安時代から明治時代に入るまで、宗教・政治・文化の中心都市であった京都の歴史と文化の特色を、様々な資料を用いながら理解を深めていく。また、現代は日本を代表する観光都市として有名な京都の将来像についても考える。
学修成果到達目標	(1) 京都の歴史と文化に関する知識を身につけることができる。 (2) 京都の歴史と文化について自主的に調べ、説明することができる。 (3) 京都の今日的課題や将来像を、様々な視点から考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	使用しない。授業内で使用する資料を配付する。
参考書	・脇田修・脇田晴子『物語京都の歴史―花の都の二千年』（中公新書1928、2008年） ・京都府歴史遺産研究会編『京都府の歴史散歩（上）（中）（下）』（山川出版社、2011年） ・高橋昌明『京都〈千年の都の歴史〉』（岩波新書1503、2014年） ・森谷克久・京都商工会会議所・監修『新版京都・観光文化検定試験公式テキストブック』（淡交社、2016年）
課題に対するフィードバックの方法	・質疑応答を通じて理解を深める。 ・提出された課題にはコメントを記して返却する。
留意事項	(1) 授業内で配布したプリントは、必ず授業時に持参すること。また紛失しないように各自で管理すること。 (2) 分からない用語や内容があれば、授業担当者へ質問または辞書等を使って調べること。 (3) 授業に関する行事や祭礼、博物館や美術館の展覧会等を随時紹介するので、興味をもって足を運んでもらいたい。 (4) 授業の進行を妨げや、他の学生の参加意欲を損なうような行為はしないこと。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にＧメールで連絡をとること。
実践的教育	

授業名	京都の歴史

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業全体の概要や進行について説明する。京都にもつイメージについて意見交換し、京都のイメージに関する課題を作成する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを確認する。京都のイメージを各自考える（60分）。 （事後）レポート課題を作成し提出準備をする。（180分）。
第2回	京都はなぜ人気なのか	（学修内容）京都がなぜ人気観光都市なのかについて各自考えてみる。また意見交換をしながらその理由について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）前回の課題を作成し提出する。 （事後）授業内容を整理する、次回授業資料を読み調べる。
第3回	平安京の成立	（学修内容）都とは何か、また平安京が現在の京都市に造られたのか、その理由について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）前回の復習および配付資料を確認する。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第4回	平安京と貴族―生活	（学修内容）平安貴族の日記・物語・絵巻等の史料から、平安時代の貴族の生活様式について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）配付資料を読み、平安貴族に対するイメージを考える。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第5回	平安京と貴族―信仰	（学修内容）平安貴族の日記・物語・絵巻等の史料から、平安貴族の信仰生活について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）配付資料を読み、平安貴族と宗教生活について考えておく。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第6回	宗教都市の京都	（学修内容）仏教・神祇・キリスト教などが伝わった宗教都市としての京都の歴史について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） （事前）前回の復習および配付資料を確認する。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第7回	戦国時代と京都大改造計画	（学修内容）応仁の乱後の京都と、織田信長や豊臣秀吉が行った京都改造計画やその理由、現在も残っている史跡について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）安土桃山時代と現在の京都の姿について比較してみる。 （事後）授業内容を整理する。次回授業資料に目を通しておく。
第8回	描かれた京都―『洛中洛外図屏風』を見る（右京編）	（学修内容）京都の様子を描いた『洛中洛外図屏風』（舟木本）の「右京」を見ながら人々の暮らしを想像する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）洛中洛外図屏風を調べ、京都の今昔について考えておく。 （事後）授業内容を整理する。次回資料に目を通しておく。
第9回	描かれた京都―『洛中洛外図屏風』を見る（左京編）	（学修内容）京都の様子を描いた『洛中洛外図屏風』（舟木本）の「左京」を見ながら人々の暮らしを想像する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）前回の復習および配付資料に目を通しておく。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第10回	京都の伝統行事と歴史（1）―春・夏	（学修内容）春から夏にかけて行われる京都の伝統行事から、やすらい祭と祇園祭とを取り上げ、祭礼や行事が行われる意味について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）やすらい祭と祇園祭について調べておく。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第11回	京都の伝統行事と歴史（2）―秋・冬	（学修内容）秋から冬にかけて行われる京都の伝統行事から、京都の火祭りについて考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）京都の火祭りに関する行事や祭礼に何があるか考える。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第12回	京菓子と年中行事	（学修内容）京都の食文化の中から、とくに京都の菓子文化と年中行事との関係について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）代表的な年中行事と行事に関する菓子に何があるか考える。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第13回	京都の近代化（1）首都東京誕生の影響	（学修内容）明治時代、首都が東京に遷ったことで、それまで都だった京都の都市機能や人々の暮らしの変化について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）首都移転が及ぼした影響に何があるかを考えておく。 （事後）授業内容を整理する。次回資料を読んで語句等を調べる。
第14回	京都の近代化（2）産業都市から観光都市へ	（学修内容）明治以降、産業都市となった京都が現在のような日本を代表する観光都市に変わっていった理由について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）産業から観光都市になった理由について考えておく。 （事後）授業内容を整理する。
第15回	京都の今日的課題	（学修内容）前回の授業を踏まえ、京都が抱える課題について意見交換を行う。また授業を振り返り、定期試験の準備にそなえる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）現在や将来的京都の課題とは何かを考えておく。 （事後）授業内容を整理する。定期試験の課題に対する準備をする。

授業名	こころの科学	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1109
英文名	Mental Science	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	小川　徳子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説していきます。視聴覚資料や紙媒体の資料も用い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた基礎心理学の領域での知見を取り上げて紹介します。資料の内容を参考に、心の働きについて、自分なりに考えた内容や、ディスカッションを通して考えた内容をまとめるレポート課題を実施します。
学修成果到達目標	1）心理学の基礎領域について、全体像を把握できる。 2）心にはどのような働きがあるのか、理解できる。 3）人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	梅本 堯夫、岡本 浩一、高橋 雅延 、大山 正　著「心理学―心のはたらきを知る―　第2版（コンパクト新心理学ライブラリ）」サイエンス社
参考書	北尾　倫彦、中島　実、他（1997）グラフィック心理学　サイエンス社
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中にレポート課題となる発問をし、考えた内容を記述する時間をとった後、発問内容について解説します。
留意事項	毎回、授業時間内に提出を求めるショートレポートの課題を用意します。提示したテーマについて、自分の考えを記述する課題です。考えをまとめるにあたって、ディスカッションを導入する場合もあります。
オフィスアワー	授業前後の休み時間、教室にて実施。
実践的教育	

授業名	こころの科学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学とは	（学修内容）心理学の基礎領域 （事前事後学修課題の内容） 心の働きだと思うことをリストアップしてみよう。例えば「心」や「～心」という表現を使うと時、心の存在を感じる時を考えてみよう。
第2回	感覚・知覚・認知	（学修内容）体に備わる器官を通じて情報を取り入れることが、心の働きである理由を理解する。その理由について、他の受講生と意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 五感と心の関係とは？説明してみよう
第3回	記憶(1):記憶の種類	（学修内容）「覚える」働きと「忘れる」働きである記憶について理解する。人が「覚える」内容にはどんな種類があるのか、他の受講生と意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 記憶にはどんな種類がある？考えておこう
第4回	記憶(2):発達的な変化	（学修内容）記憶の発達 （事前事後学修課題の内容） 記憶の何が変わると発達？考えておこう
第5回	言語(1):5種類の機能	（学修内容）言葉の働きについて理解する。日常生活で、何のために言葉を使っているか、他の受講生と共に検討する。 （事前事後学修課題の内容） 言葉の働きとは何？考えておこう
第6回	言語(2):発達的な変化	（学修内容）言葉の発達過程 （事前事後学修課題の内容） 言葉の習得に必要な力は？考えておこう
第7回	思考(1):思考の種類	（学修内容）「考える」働き （事前事後学修課題の内容） 「考える」とは何すること？説明してみよう
第8回	思考(2):発達的な変化	（学修内容）思考の発達 （事前事後学修課題の内容） 言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	（学修内容）学習と動機づけ （事前事後学修課題の内容） 人の行動を変える要因とは？考えておこう
第10回	感情	（学修内容）感情と他の心の働きの関係について学ぶ。喜怒哀楽以外に、どんな感情があるか、全部で何種類ありそうか、他の受講生と共に考える。 （事前事後学修課題の内容） 「感情」はどんな働き？説明してみよう
第11回	知能	（学修内容）知的な能力とはどのような能力なのか、知能検査について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 「知能」について説明してみよう
第12回	パーソナリティ	（学修内容）個性の捉え方、性格検査について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 自分や友人の性格を説明してみよう
第13回	自己の認知	（学修内容）自己概念の発達と対人関係とのつながりを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 自分を知る手がかりとは？考えておこう
第14回	社会的認知	（学修内容）他者の捉え方とそれに影響する要因を理解する。どんな人にとんな印象をもつか、他の受講生と意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） どんなことが他者の印象を左右しているのか、考えてみよう
第15回	社会的行動	（学修内容）他者の存在が個人に及ぼす影響、集団の認知 （事前事後学修課題の内容） 集団で行動する時の傾向とは？考えておこう

授業名	社会学概論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1111
英文名	Introduction to Sociology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか？」という日常生活の身近な問題を出発点として、次のように授業を進めていきます。まず、人の間で生じる相互作用についての考察から始めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えて行きます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。 各回の課題の提出はICTを活用して実施する。 ※　受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。
学修成果到達目標	1）物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができる。 2）人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができる。 3）自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	授業時に資料を配布します。
参考書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年.
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して解説します。
留意事項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニッツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります）。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。
実践的教育	

授業名	社会学概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の内容と進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスで内容を確認してみてください。事後、人間関係において、興味のあることを整理してみてください。
第2回	現代の社会問題について	（学修内容） 人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第3回	日常生活を振り返って― コミュニケーション	（学修内容） 他者との関係において自己を表現する問題、他者の存在を理解しようとする動き、そのなかで生じる相互作用について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、コミュニケーコションにおいて難しいと思うことを整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第4回	コミュニケーションと演技	（学修内容） 仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーの各々の役割のありかたを考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、人間関係により、自分が異なっていることについて整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第5回	友人関係とは	（学修内容） なぜ、友人関係において、悩みが生じるのか、について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自分で、「友人関係」を定義してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第6回	人間の相互作用について	（学修内容） 日常生活における人間の相互作用のありかたについて考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください。授業内容を振り返って整理してみてください。
第7回	相互作用の類型について	（学修内容）「人間の相互作用」を踏まえた上で、それに基づく、人間の行動について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、影響力の強い人間関係を整理してみてください（場面ごとに分ける）。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第8回	グループワーク：人間関係の変化について	（学修内容）「人間の相互作用」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、「仲良くなる」過程について整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第9回	同世代間における「当たり前」の違いについて	（学修内容） 同世代における「当たり前」に違いが生じる要因について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、同世代の考えの違いについて、具体的に整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第10回	世代間における「当たり前」の違いについて	（学修内容） 世代間における「当たり前」に違いにより生じる問題について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、同世代の「当たり前」の違いにより、こまったことを整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第11回	集団の力Ⅰ：集団行動について	（学修内容） 人間の行動は、いかに集団の影響を受けているのか、について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、集団の強さを感じる場面について整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第12回	集団の力Ⅱ：同調行動について	（学修内容）同調行動など、人間の行動の「クセ」について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、日常の集団行動を観察し、不思議に感じることを整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第13回	グループワーク：集団と個人	（学修内容） 授業であげてきた集団における人間行動の「クセ」について、注意しなければならないことを考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、行列に並んだ経験など、自分の集団行動の経験を整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第14回	脱常識Ⅰ：「らしさの問題」	（学修内容） 単なる思い込みが、「当たり前」なっていることを考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、ルールなどで不思議に思ったことについて整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。
第15回	脱常識Ⅱ：「社会の変化と常識」	（学修内容） 社会的な思い込みが、生き方の選択肢を狭めている問題について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に「当たり前」と思われいることに苦しんだ経験について整理してみてください。事後、授業内容を振り返って整理してみてください。

授業名	くらしと法律（日本国憲法）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1122
英文名	Law and Our living（The Constitution of Japan）	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	水野　彰子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	日常の生活の中で、憲法や法律について考える機会は少ないかもしれません。 しかし、憲法は、私たちの基本的な権利や国の根幹について定める、とても大事なものです。 この授業では、実は身近な「人権」の例や、社会生活の中で目にしうる法律問題を取り上げながら、憲法の基本的な考え方を学んで行きたいと思います。随時、Googleクラスルームを使用した小テストを行います。
学修成果 到達目標	1）日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解できる。 2）人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 3）主権者として必要な知識を習得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	プリントを毎回配布します。
参考書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、その他、適宜授業中に紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認のための小テスト等を行い、授業時に解説・コメントを行います。
留意事項	関連するニュースを取り上げ、発言・コメントを求めます。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：弁護士として執務しています。身近な「人権」の例や、社会生活の中で目にしうる法律問題を取り上げながら、憲法の基本的な考え方を学んでいけるように授業を進めていきます。

授業名	くらしと法律（日本国憲法）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）	（学修内容）講義概要を紹介し、憲法・法律と日常生活の関係についての概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、日本国憲法を一読しておくこと。
第2回	幸福追求権と公共の福祉	（学修内容）日本国憲法で規定する「幸福追求権」と「公共の福祉」の関係、「自己情報コントロール権」など新たな権利を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第3回	法の下の平等	（学修内容）平等の概念が、法律にどのように反映されているか、判例や男女雇用機会均等法などと共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第4回	表現の自由	（学修内容）SNSの普及によりネットでの中傷が社会問題化している。憲法に定めのある表現の自由と公共の福祉の関係などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第5回	経済的自由と労働権	（学修内容）いわゆるフリマアプリにより若年層にも身近になった経済活動について、「職業選択の自由」などの憲法規定、労働法規とともに考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第6回	婚姻	（学修内容）婚姻は両性の合意のみによって成立する。恋愛関係と婚姻の違い、事実婚について学習する。また離婚の問題について扱う。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第7回	家族	（学修内容）家族には、相続や介護といった複雑な問題が付随してくる。家族関係で生じる権利や義務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第8回	子ども	（学修内容）子ども（未成年）の権利と制約について、また親と社会の義務について、少年法や児童の権利条約について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第9回	生存権と社会保障	（学修内容）憲法が定める「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関連する社会福祉、社会保障、公衆衛生の制度と共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第10回	教育と学問	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、義務教育と大学の教育の相違、学問の自由について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第11回	犯罪と刑罰	（学修内容）憲法は、犯罪と処罰について多くの条文を割いている。被疑者の権利や私人逮捕など、犯罪に巻き込まれた場合に必要となる知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第12回	財政と税金	（学修内容）納税の義務、納税の仕組み（確定申告と源泉徴収など）、納税に準じる年金などの制度、国家予算の仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第13回	行政と地方自治	（学修内容）現代の国家において、行政権は国民生活の広範に及んでいる。行政国家現象と称される実情、ならびに地方自治体が担う行政について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第14回	参政権、国会、憲法改正	（学修内容）選挙権年齢の18歳への引き下げ、多様な政治参加の進展、憲法改正問題など、現代の参政権とその課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。

授業名	ジェンダー論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2127
英文名	Gender Studies	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。 本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という視点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、ジェンダーは現実の生活の中でどのような課題を含んでいるのかを探っていく。
学修成果 到達目標	1）ジェンダーとは何かについて理解することができる。 2）現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。 3）ジェンダーの課題について、自分事として捉え、考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適時、紹介します。
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『未来をひらく男女共同参画－ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角（光文社新書）、『「男女格差後進国」の衝撃―無意識のジェンダー・バイアスを克服する―』治部れんげ(小学館新書)ほか、随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。
留意事項	ジェンダーについて、遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。グループディスカッションを行う予定です。受講者は授業への積極的な参加が求められます。
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。 また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授業名	ジェンダー論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション セックスとジェンダーの違い	（学修内容）今後の授業スケジュール等について説明する。 セックスとジェンダーの概念について理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	（学修内容）社会的・文化的に作られる「女らしさ/男らしさ」について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。
第3回	作られる＜女らしさ＞＜男らしさ＞	（学修内容）メディアや学校教育などがジェンダーに与える影響について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。
第4回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムとは	（学修内容）自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。
第5回	教育とジェンダー：ジェンダー平等の視点に立った教育のために	（学修内容）教育現場におけるジェンダー格差の歴史を学び、ジェンダー平等の視点に立った教育のために何が必要かを考える。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。
第6回	「お姫様」とジェンダー(初期作品の映像分析)	（学修内容）「お姫様」を扱った物語の映像を分析し、レポートにまとめる(1回目)。 （事前事後学修課題の内容） 事前にグリム童話について調べておくこと。「お姫様」を扱った物語の映像を分析し、自分なりに感じたこと思ったことをまとめる。
第7回	「お姫様」とジェンダー(現代作品の映像分析)	（学修内容）「お姫様」を扱った物語の映像を分析し、レポートにまとめる(2回目)。 （事前事後学修課題の内容） 事前に「お姫様」の物語映像を見て感じたことをレポートにまとめておくこと。
第8回	「お姫様」とジェンダー(映像分析結果と議論)	（学修内容）第6回目と第7回目でまとめたレポート内容について、グループで意見を共有し議論する。 （事前事後学修課題の内容） グループでの話し合いの中から生じた気付きや新たな課題等について、まとめる。
第9回	デートDV・性犯罪とジェンダー	（学修内容）ジェンダーと性犯罪の関連について考える。デートDVのメカニズムについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 性暴力・性犯罪について、自分事として知識を身に付ける。
第10回	家庭生活におけるジェンダー格差	（学修内容）家庭生活における男女格差の実態について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 男女格差の解消のためには何が必要かを自分なりに考える。
第11回	就労とジェンダー	（学修内容）男女で大きく異なる働き方の実態や労働環境の実態について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 男女双方によるワーク・ライフ・バランスの実現のために何が必要かを自分なりに考えてみる。
第12回	ジェンダーの視点からみた子育ての課題	（学修内容）ジェンダーの視点から、日本社会の子育ての課題について理解する。 （事前事後学修課題の内容） ジェンダーの視点からみて、子育てにはどのような問題があるか調べておく。
第13回	長時間労働と男性の生きづらさ	（学修内容）女性だけではない男性の生きづらさについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 男女平等政策について、多角的に考える。
第14回	真の男女平等とは	（学修内容）男女双方の生きづらさを学び、真の平等政策とは何かを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 真の平等政策を考える上で、自分ができることについて考える。
第15回	多様な性をめぐる課題	（学修内容）男性・女性を越境する多様な性を生きる人たちが直面している課題について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 誰もが生きやすい社会を作っていくにはどうすれば良いかを自分なりに考える。

授業名	国際理解	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1112
英文名	International　Understanding	開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	秋山　裕之	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要

グローバリゼーションの進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今なお国家、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。とくに西欧列強による植民地主義の影響について詳述する。

学期の終盤でグループワークまたは個人によるプレゼンテーションを行います。

学修成果到達目標

1) 世界の諸国・諸地域の現状について、歴史的な経緯を含めた教養を身につける。
2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができる。
3) 調べ学習を通して、世界の多様性についての理解を深めることができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（50%）	平常試験（50%）
■筆記試験　□レポート　□制作物	□筆記試験　■レポート　□制作物
□口述　□実習　□実技	■口述　□実習　□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

なし。毎回資料を配付する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

質問については個別に返答するとともに内容に応じて全体で共有する。

留意事項

世界のことに関する教養を身につけたい人は是非受講してください。グループワーク等への積極的な関わりを求めます。
毎回事前学習としてキーワードの予習をしてもらいます。

オフィスアワー

週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は３号館４階学生演習室にて掲示。

実践的教育

授業名	国際理解

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：知識の確認	（学修内容）世界の国々に関するクイズ （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスをしっかり読んでくる 事後：クイズの復習
第2回	国とは	（学修内容）国の定義、国境、民族、言語などの関係 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜国家＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第3回	東アジア	（学修内容）東アジアの近現代、台湾情勢 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜漢字文化圏＞＜台湾＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	東南アジア	（学修内容）東南アジアの近現代 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜ASEAN＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	オセアニア	（学修内容）オセアニアの歴史と現在 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜ポリネシア＞ミクロネシア＞＜メラネシア＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	インド・イスラム	（学修内容）インドとイスラムを取り巻く国際情勢 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜イスラム教＞＜インド・パキスタン関係＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	サハラ以南アフリカ	（学修内容）アフリカの歴史と現在 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜アフリカ分割＞＜奴隷貿易＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	中南米	（学修内容）中南米の近現代 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜ラテンアメリカ＞＜インカ帝国＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第9回	北米	（学修内容）アメリカの成り立ち （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜アメリカ独立戦争＞＜南北戦争＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第10回	ヨーロッパ（1）	（学修内容）ヨーロッパの国々の概要 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜北欧＞＜旧東欧＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第11回	ヨーロッパ（2）	（学修内容）冷戦後のヨーロッパ情勢 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜NATO＞＜EU＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第12回	戦争・紛争	（学修内容）人類と戦争、その歴史と現在 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜戦争＞＜紛争＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第13回	世界のことについて調べ学習	（学修内容）グループに分かれて国際的な多様性を知るための調べ学習を行う。グループのテーマ決定、役割分担、下調べなど。 （事前事後学修課題の内容） 事前：調べ学習のテーマをいくつか考えてくる 事後：スライド作成を進める
第14回	復習テスト	（学修内容）これまでの授業で取り上げた事柄をクイズ形式で出題、その解答と解説 （事前事後学修課題の内容） 事前：これまでの総復習 事後：間違えたところをしっかり復習する
第15回	発表「多様な世界」	（学修内容）グループワークの成果をパワーポイントを用いて発表 （事前事後学修課題の内容） 事前：発表用の資料を完成させ、発表の準備をする 事後：他の発表も合わせて復習する

授業名	中国語Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	GE2125
英文名	Chinese Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	中尾　弥継	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。
学修成果到達目標	1）正確な中国語の発音ができる。 2）基本的な単語や文法が理解できる。 3）自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『初級テキスト　カンフー中国語』（坂井有・中尾弥継・楊韜　著、ブックウェイ、2018年） https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_info&products_id=899&cPath=
参考書	『プログレッシブ中国語辞典　第２版』（小学館）
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりやること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	中国語Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス　「発音」（声調、単母音）	（学修内容）講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」（子音、複母音）	（学修内容）中国語の基本的な発音を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 「第１回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「発音」（声調変化、よく使う表現　など）	（学修内容）中国語の基本的な発音を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 「第２回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	「第一課」（人称代名詞、疑問文　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第３回」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第二課」（いろいろな動詞、語気助詞など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第４回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	復習①「第一課」「第二課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第一課」「第二課」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	「第三課」（形容詞述語文、疑問詞など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第６回」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第四課」（数詞、量詞　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第７回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	復習②「第三課」「第四課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第三課」「第四課」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	「第五課」（方位詞、存在を表す“在”　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第９回」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第六課」（時間の言い方、連動文　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第１０回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	復習③「第五課」「第六課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第五課」「第六課」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	「第七課」（完了、変化“了”　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第１２回」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「発音」から「第７課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	（学修内容）今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 「第１回」から「第１４回」の総復習。

授業名	中国語Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	GE2128
英文名	ChineseⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	中尾　弥継	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	本授業では「中国語Ｉｕ」の学習成果をふまえ、引き続き中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。
学修成果到達目標	１）より正確な中国語の発音ができる。 ２）より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 ３）自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	『初級テキスト　カンフー中国語』（坂井有・中尾弥継・楊韜　著、ブックウェイ、2018年） https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_info&products_id=899&cPath= ※「中国語Ｉｕ」で購入したテキストを継続して使用します。
参考書	『プログレッシブ中国語辞典　第２版』（小学館）
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりやること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	中国語Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス　「中国語Ｉｕ」の復習	（学修内容）講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 「中国語Ｉｕ」で学習した部分の復習。次回内容に関する予習。
第2回	「第八課」（助動詞、“会”“能”“可以”　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第１回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「第九課」（進行“正在～呢”、持続“～着”　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第２回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	復習①「第八課」「第九課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第八課」「第九課」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第十課」（補語① 結果補語、比較 A“比”B～　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第４回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	「第十一課」（“是～的”構文、二重目的語　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第５回」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	復習②「第十課」「第十一課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第十課」「第十一課」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第十二課」（補語③ 方向補語“来”“去”、“把”処置式の文　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第７回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	「第十三課」（主述述語文、存現文　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第８回」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	復習③「第十二課」「第十三課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第十二課」「第十三課」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第十四課」（受身、使役　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第１０回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	「第十五課」（複文、動詞A＋也＋動詞A＋可能補語の否定形　など）	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第１１回」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	復習④「第十四課」「第十五課」	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第十四課」「第十五課」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	（学修内容）基本的な単語や文法を習得していく。 （事前事後学修課題の内容） 「第８課」から「第１５課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	（学修内容）今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 「第１回」から「第１４回」の総復習。

授業名	日本語表現法	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1108
英文名	Japanese Writing	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	平間　尚子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	大学での学びに必要となる基礎的な日本語表現の方法を学び、調査した内容や自分の考察などを文章にし、口頭で発表できるようトレーニングを行う。意見文を作成する際などには、図書や新聞記事を参考にするほか、他の受講者との意見交換やグループワークなども実施する。
学修成果到達目標	（1）日本語の基礎的な表現方法を理解し、紹介文や意見文を書くことができる。 （2）レポートを作成するために必要な論文や雑誌、新聞記事、図書について、データベース等を利用し、自ら調べることができる。 （3）レポート作成時に使用した参考文献や引用した文献の出典情報を書くことができる。 （4）調査結果や考察をレポートにまとめ、口頭で発表することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂第２版』国書刊行会、2021
参考書	参考になる資料は、適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートの課題は受講者が相互にチェックを行います。その後、修正版を提出してもらいます。プレゼンテーションや提出物は、クラス全体に対してのコメント・解説を行う等のフィードバックを行います。
留意事項	本講義では、正しい表現が身につくドリルを解き、紹介文、意見文、口頭発表の原稿作成などを行います。教科書をベースに授業を進めていきますので必ず持参してください。受講者の理解度等により、シラバスの一部を変更する場合もあります。
オフィスアワー	授業初回に提示します。やむを得ず、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に担当教員にメールで連絡をするようにお願いします。
実践的教育	

授業名	日本語表現法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 敬体と常体について	（学修内容）授業の進め方、教科書の活用の仕方を理解する。ことばのドリル（教科書１２・１３頁）を解いて、敬体と常体が理解できる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを読んでおく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第2回	紹介文（自分の好きなもの・こと）―文章表現①	（学修内容）敬体を用いて四段構成で紹介文を書く。ことばのドリル（教科書１４・１５頁）を解いて「ととのった表現」が理解できる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テーマをいくつか考えておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第3回	紹介文（自分の故郷）―文章表現②	（学修内容）客観表現・主観表現を使い分け、四段構成で紹介文を書く。ことばのドリル（教科書１６頁）を解き「ととのった表現」を書くことができる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）故郷についての下調べをしておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第4回	自己紹介―口頭発表①	（学修内容）紹介文をもとに発表原稿を作成し、数分の自己紹介スピーチ（プレゼンテーション）をする。他者のスピーチの良いところをまとめる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）紹介文を読み直し、資料を整理しておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第5回	故郷の紹介―口頭発表②	（学修内容）発表時間を有効に使い、聞き手の興味を喚起するようスピーチ（プレゼンテーション）をする。他者のスピーチの良いところをまとめる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）紹介したい本を準備しておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第6回	賛成・反対の意見文１―文章表現③論理展開	（学修内容）対立項を意識した論理展開を学ぶ。教科書３８、３９頁を参考にして、自身の中学・高校生活をテーマに意見文を作成する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テーマを概観し、自分の意見をまとめておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第7回	図書館の活用と新聞記事・論文等の探し方	（学修内容）図書館での資料の探し方やデータベースの使い方、新聞記事などの探し方を学ぶ。新聞・雑誌記事の紹介をする。 （事前事後学修課題の内容） （事前）自分の利用しやすい図書館の場所などを調べておく （事後）データベース等を活用し、課題に取り組む
第8回	賛成・反対の意見文２―文章表現④根拠の提示	（学修内容）「社会的な問題」をテーマにした意見文を作成するために、新聞記事などを調べて、要約する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）取り上げる新聞記事を読み、要点をまとめておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第9回	賛成・反対の意見文２―文章表現⑤根拠の提示	（学修内容）「社会的な問題」をテーマについて、根拠を示しながら主張する意見文を作成する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）図書館などを活用し、関連する資料を集めておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第10回	意見交換（ディスカッション）を行う	（学修内容）ディスカッションのルールを学び、議論を行い結果を発表する （事前事後学修課題の内容） （事前）テーマについて自分の意見をまとめておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第11回	変化を説明する文１―文章表現⑥自己の変化	（学修内容）時間軸を意識しながら五段構成で文章を書く（自身の高校生活と大学生活の変化について） （事前事後学修課題の内容） （事前）文章の内容について考えておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第12回	変化を説明する文１―文章表現⑦自己の変化	（学修内容）時間軸を意識しながら五段構成で文章を書く（自身の高校生活と大学生活の変化について） （事前事後学修課題の内容） （事前）文章の内容ついて考えを深めておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第13回	変化を説明する文２―文章表現⑧社会の変化	（学修内容）調査年度の異なる資料を読み、比較しながら文章をまとめる。レポート作成に必要な注や参考文献の書き方が分かる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）対立項・時間軸を意識した文章について復習しておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第14回	変化を説明する文２―文章表現⑨社会の変化	（学修内容）調査年度の異なる資料を読み、比較しながら文章をまとめる。レポート作成に必要な注や参考文献の書き方が分かる。 （事前事後学修課題の内容） （事前）調査したい内容について検討しておく （事後）教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第15回	総括	（学修内容）これまでのレポート作成やスピーチを振り返り、大学生活に必要な文章表現と口頭発表のスキルや注意点について理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）レポート作成の準備をしておく （事後）チェック表を確認し、今後の課題を整理する

授業名	自然科学Ⅰ（生物）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1121
英文名	Natural Science I（Biology）	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	この講義では、生命活動の構造の単位である細胞、その活動である代謝および体内環境の維持など生物に関する基礎的知識について学ぶことにより、生体について深く理解していく。授業はレクチャーを行った後、理解を深めるためICTを活用した振り返りテストを実施する。
学修成果到達目標	1）生物に関する基礎的事項について理解できる 2）日常生活における生命科学における情報を理解できる 3）生きていることについて考えることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	大学で学ぶ　身近な生物学、吉村成弘　著、羊土社
参考書	授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	確認テスト返却時解説を行う。
留意事項	高校生物を履修していない者を対象とし、今後の学びの土台となるように講義を進めていく。 講義終了後にClassroomからオンラインで振り返りテストを実施し 次の回の講義冒頭で内容を理解しているかの小テストを実施する。
オフィスアワー	研究室に掲示します。
実践的教育	

授業名	自然科学Ⅰ（生物）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食べることと生きること	（学修内容）生物学を学ぶ意義について （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んでおくこと 普段の食事について、糖質、脂質、タンパク質を意識しておくこと
第2回	糖質 ～種類と性質～	（学修内容）糖質とは何かについて （事前事後学修課題の内容） 教科書P28-39を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第3回	糖質 ～代謝：エネルギーを得る仕組み～	（学修内容）エネルギーの消費と生成 （事前事後学修課題の内容） 教科書P41-55を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第4回	脂質 ～種類と構造～	（学修内容）脂質と脂肪酸の違い （事前事後学修課題の内容） 教科書p56-69を読んでおく 前回までの復習をして小テストに備える
第5回	脂質 ～輸送と代謝～	（学修内容）脂質の体内動態、エネルギー生成 （事前事後学修課題の内容） 教科書P70-82を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第6回	ビタミンとミネラル	（学修内容）ビタミンとミネラルの体内での働き （事前事後学修課題の内容） 教科書p84-95を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第7回	細胞の構造と機能	（学修内容）生命体をつくる細胞の構造と機能 （事前事後学修課題の内容） 教科書p98-111を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第8回	DNAの構造とはたらき	（学修内容）遺伝物質とは （事前事後学修課題の内容） 教科書p112-124を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第9回	タンパク質	（学修内容）DNAの遺伝情報からタンパク質へ （事前事後学修課題の内容） 教科書p125-137を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第10回	タンパク質の働き	（学修内容）酵素反応、細胞膜、細胞骨格 （事前事後学修課題の内容） 教科書p138-149を読んでおく 前回までの復習をして小テストに備える
第11回	細胞内外の情報伝達	（学修内容）ホルモン、受容体、シグナル伝達 （事前事後学修課題の内容） 教科書p150-162を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第12回	細胞分裂のしくみと制御 受精	（学修内容）体細胞分裂、減数分裂、受精卵 （事前事後学修課題の内容） 教科書p163-182を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第13回	細胞の分化、修復	（学修内容）細胞の分化、器官形成、活性酸素による損傷、アポトーシス （事前事後学修課題の内容） 教科書p182-201、238-249を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第14回	免疫システム	（学修内容）免疫機構、自己免疫疾患 （事前事後学修課題の内容） 教科書p202-211を読んでおく 章末問題をまとめておくこと
第15回	発展が期待される分野	（学修内容）ES細胞、iPS細胞、再生医療 （事前事後学修課題の内容） 教科書p213-237を読んでおく 全体のまとめをしておくこと

授業名	自然科学Ⅱ（化学）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1110
英文名	Natural Science Ⅱ（Chemistry）	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	今後学ぶことになる食品学や栄養学、生理学、病理学には、化学の基本的な知識が必要となる。なぜなら、人間も食品も、食品に含まれる栄養素も病原体も、すべてのものは化学物質からできているからである。それらが化学反応を起こすことで健康が維持されたり、害されたりしているのだが、それらのメカニズムを理解するに当たって、化学の基本的な知識が必要になってくる。 本講義では、高校の化学の復習を主な内容とし、基本的な概念について学んでいく。
学修成果 到達目標	1）化学の基礎的事項について理解できる。 2）溶液の性質を理解できる。 3）溶液やモル濃度など実験に必要な具体的な計算ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	配布プリントを教科書とする。
参考書	授業中に適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	・各講義、冒頭で前回の復習、末尾で振返りをおこなう。 ・小テスト内で理解度についてのアンケートを実施する。理解度の低い箇所について補足説明をおこなう。
留意事項	・講義の要点をまとめた単語帳を毎回配布するので、次の講義までに内容を覚えておくこと。 ・各回の最初に、小テストを行う（単語帳の内容が８割程度、計算問題が２割程度）。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	自然科学Ⅱ（化学）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	これからの学びに必要な化学とは 実験器具、試薬調整方法 元素記号、周期表	（学修内容）これからの学びに必要な化学とは 実験器具名、試薬調整方法、元素、単体、同素体、化合物、周期表 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第1回、第5回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第2回	原子	（学修内容）原子の構造、電子軌道 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第6回、第7回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第3回	分子とイオン	（学修内容）分子、イオン、イオン式、組成式 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第10回、第36回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第4回	化学結合１　イオン結合　金属結合	（学修内容）化学結合の種類 イオン結合、金属結合 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第11回、第14回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第5回	化学結合２　共有結合　配位結合	（学修内容）化学結合の種類 共有結合、配位結合 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第12回、第17回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第6回	化学結合３　分子の極性と分子間力、水素結合	（学修内容）結合の極性、水素結合 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第13回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第7回	化学量と物質量	（学修内容）質量数、原子量、分子量、アボガドロ数とモル数 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第18回、第19回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第8回	物質の状態変化	（学修内容）固体、液体、気体 溶液ができる仕組み、濃度計算 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第3回、第21回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第9回	物質の化学変化	（学修内容）化学変化を表す化学反応式 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第22回、第23回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第10回	酸と塩基	（学修内容）酸性　アルカリ性 アレニウスの定義、ブレンステッド・ローリーの定義 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第25回、第26回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第11回	水素イオン濃度とpH	（学修内容）水の電離、水素イオン指数pH、水溶液の水素イオン濃度 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第27回、第28回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第12回	中和反応	（学修内容）中和反応、中和滴定 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第29～32回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第13回	酸化と還元	（学修内容）酸化と還元の意味、酸化数、酸化剤と還元剤 （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第33回、第34回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第14回	酸化還元反応	（学修内容）酸化還元反応　電子の動き （事前事後学修課題の内容） ・事前：NHK高校講座 化学基礎 第35回、第38回を視聴しておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第15回	まとめ	（学修内容）自然科学Ⅱ（化学）の講義内容のまとめ （事前事後学修課題の内容） ・事前：なし ・事後：振り返りを行い、分からないところを残さないこと

授業名	消費者教育	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1123
英文名	Consumer Education	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	消費者教育は、2012年の「消費者教育の推進に関する法律」が制定されて以来、その在り方も変化しつつあります。 賢い消費者としての適切な行動に繋がる知識を習得し、具体的な事例を通して理解を深め、実践的能力を養います。 授業の中で、受講生同士のディスカッション、ディベート、グループワークを随時行います。
学修成果 到達目標	1）消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要を理解することができる。 2）自らが賢い消費者として、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考え、行動できる。 3）現代の消費生活の特徴や消費者問題を理解し、その事象や原因について説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業中に適宜紹介します。
参考書	神山久美・中村年春・細川幸一編著『新しい消費者教育　第2版』（慶應義塾大学出版会,2019年） 細川幸一『大学生が知っておきたい消費生活と法律』（慶應義塾大学出版会,2018年） 公益財団法人消費者教育支援センター監修『18歳成人になる前に学ぶ 契約とお金の基本ルール』（旬報社,2022年） この他、授業中に適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	発表は授業内で適宜講評、レポートはコメントをつけて返却します。
留意事項	講義形式が基本ですが、知識を得るだけではなく、皆で考える授業です。予習復習はもちろん、普段からテレビ、新聞、 インターネットなどで企業のニュースに関心を持ち、授業で発言、質問することで理解を深めましょう。
オフィスアワー	毎回の授業前後に実施する。
実践的教育	

授業名	消費者教育

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス・消費者教育とは―理念と目的	（学修内容）消費者教育の全体像について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 最近、購入したもの、契約したことについて調べておく。
第2回	消費者教育の歴史と体系	（学修内容）消費者教育の歴史と体系について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 消費者教育とは何かを調べておく。
第3回	経済社会の発展と消費者問題の発生	（学修内容）経済社会の発展と消費者問題の発生について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 先進国と途上国の消費の違いについて調べておく。
第4回	消費者政策の展開	（学修内容）消費者政策の展開について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 企業のお客様相談室について調べておく。
第5回	国・地方の消費者行政	（学修内容）国・地方の消費者行政について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 消費者庁と国民生活センターについて調べておく。
第6回	商品の安全性	（学修内容）商品の安全性について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 食品の安全表示について調べておく。
第7回	契約と消費者トラブル	（学修内容）契約と消費者トラブルについて解説します。 （事前事後学修課題の内容） クーリング・オフ制度について調べておく。
第8回	生活設計	（学修内容）生活設計について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 金融商品について調べておく。
第9回	キャッシュレスと消費者信用	（学修内容）キャッシュレスと消費者信用について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 現金以外の決済方法について調べておく。
第10回	情報社会と消費者	（学修内容）情報社会と消費者について解説します。 （事前事後学修課題の内容） デジタル化が消費に与える影響について調べておく。
第11回	環境と消費者	（学修内容）環境と消費者について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 持続可能な開発目標（SDGｓ）について調べておく。
第12回	幼児期・小学生期の消費者教育	（学修内容）幼児期・小学生期の消費者教育について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 幼児期・小学生期の買い物について調べておく。
第13回	中学生期・高校生期の消費者教育	（学修内容）中学生期・高校生期の消費者教育について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 中学生期・高校生期の買い物について調べておく。
第14回	成人期（若者・成人一般・高齢者）の消費者教育	（学修内容）成人期（若者・成人一般・高齢者）の消費者教育について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 成人期（若者・成人一般・高齢者）の買い物について調べておく。
第15回	まとめ・消費者市民社会の構築に向けて	（学修内容）これまでの講義内容を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業の総復習をしておく。

授業名	産官学連携実践	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1113
英文名	Practice of society cooperation	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	新矢　昌昭	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生、日本文化1回生				

授業の概要	主に春期休暇中の一般企業へのインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。また、インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、インターンシップに向けて個人ごとにインターンシップ先企業の研究を行い発表する。
学修成果到達目標	1）自身の職業適性を把握することができる 2）自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3）社会人力を養うことができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） □筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	使用しない。プリントを配布する
参考書	講義中に適宜指示する
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える
留意事項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加してもらう場合がある。なお、会社見学や外部講師の講義日については、先方の都合により変更の場合がある。
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する
実践的教育	

授業名	産官学連携実践

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）この講義の進め方と諸注意 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み要点をまとめる
第2回	インターンシップとは	（学修内容）インターンシップの概念、概要説明 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み要点をまとめる。疑問点をまとめておく
第3回	グループワークの実践と復習	（学修内容）課題に対するグループワーク （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み要点をまとめる。反省点をまとめておく
第4回	希望就職先の事前研究	（学修内容）事業所研究について （事前事後学修課題の内容） 該当事業所の情報、資料を収集しまとめておく
第5回	希望就職先の研究発表	（学修内容）事業所研究発表 （事前事後学修課題の内容） 該当事業所の研究成果レジュメの作成
第6回	事業所見学事前学習	（学修内容）事業所見学先について （事前事後学修課題の内容） 事業所見学先を理解するため、資料、情報収集を行いまとめておく
第7回	事業所見学の実施	（学修内容）事業所見学 （事前事後学修課題の内容） 事業所見学先での意見や質問を考えてまとめておく
第8回	事業所見学事後学習	（学修内容）事業所見学の振り返り発表 （事前事後学修課題の内容） 事業所見学先で、自身が学んだことについてのレジュメの作成
第9回	インターンシップ先の説明会1（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先事業所による説明 （事前事後学修課題の内容） インターンシップ先事業所の研究。意見や質問を考えまとめておく
第10回	インターンシップ先の説明会2（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先事業所による説明 （事前事後学修課題の内容） インターンシップ先事業所の研究。意見や質問を考えてまとめておく
第11回	インターンシップ先の説明会3（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先事業所による説明 （事前事後学修課題の内容） インターンシップ先事業所の研究。意見や質問を考えてまとめておく
第12回	インターンシップの準備	（学修内容）インターンシップ希望職種先の確認 （事前事後学修課題の内容） 指示する必要書類を作成しておく
第13回	事業所訪問1回目（インターンシップ先への訪問）	（学修内容）インターンシップ先事業所への挨拶と事前打ち合わせ （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べ、質問事項をまとめておく
第14回	事業所訪問2回目（インターンシップ先への訪問）	（学修内容）インターンシップ先事業所への挨拶と事前打ち合わせ （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べ、質問事項をまとめておく
第15回	インターンシップ事前学習	（学修内容）インターンシップ先事業所についての研究発表、ディスカッション （事前事後学修課題の内容） インターンシップ先事業所についてのレジュメの作成

授業名	インターンシップ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE3050
英文名	Internship/Practice of society cooperation II	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	新矢　昌昭	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	夏季休暇中に行う、主に一般企業へのインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される。特に、外部講師による講義や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。
学修成果到達目標	1）プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2）企業研究、自己分析をすることができる 3）インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	使用しない。プリントを配布する
参考書	講義中に適宜指示する
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える
留意事項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加してもらう場合がある。なお、会社見学や外部講師の講義日については、先方の都合により変更の場合がある
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する
実践的教育	

授業名	インターンシップ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）この講義の進め方 （事前事後学修課題の内容） 予め配布したプリントを読んで要点をまとめる。インターンシップとは何かをまとめる
第2回	グループワークの実践	（学修内容）課題に対するグループワーク （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく
第3回	インターンシップとは	（学修内容）インターンシップの概念と方向性 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第4回	事業所見学の準備	（学修内容）事業所見学先の企業研究発表 （事前事後学修課題の内容） 講義のまとめと疑問点を整理する。事業所の資料を読み、要点をまとめ質問を用意する
第5回	会社見学の実施	（学修内容）事業所見学 （事前事後学修課題の内容） 事業所見学先での意見や質問を考えてまとめておく
第6回	会社見学のまとめ	（学修内容）会社見学の振り返り発表 （事前事後学修課題の内容） 事業所見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	インターンシップ説明会1（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先による説明 （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べてまとめておく。インターンシップ先希望所を提出
第8回	インターンシップ説明会2（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先による説明 （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べてまとめておく。インターンシップ先希望所を提出
第9回	インターンシップ説明会3（インターンシップ先事業所数社による説明会）	（学修内容）インターンシップ先による説明 （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べてまとめておく。インターンシップ先希望所を提出
第10回	インターンシップの準備	（学修内容）インターンシップ先の希望職種の確認 （事前事後学修課題の内容） 発表会に向けてのレジュメを用意
第11回	事業所訪問1回目（インターンシップ先への訪問）	（学修内容）インターンシップ先への挨拶、打ち合わせ （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第12回	事業所訪問2回目（インターンシップ先への訪問）	（学修内容）インターンシップ先への挨拶、打ち合わせ （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第13回	事業所訪問3回目（インターンシップ先への訪問）	（学修内容）インターンシップ先への挨拶、打ち合わせ （事前事後学修課題の内容） 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第14回	インターンシップ事前発表会	（学修内容）インターンシップ先についての研究発表、ディスカッション （事前事後学修課題の内容） インターンシップ先についてレジュメ作成
第15回	インターンシップに向けて	（学修内容）インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 （事前事後学修課題の内容） インターンシップに向けての自身の抱負を考えてまとめる。必要書類の作成

授業名	幼児理解	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3444
英文名	Understanding Infants	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	子ども理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。そこで、子どもを理解するための視点や、子どもをとらえるための観察や記録の方法を解説する。その後、子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達を解説しつつ、そこでの子どもの学びや保育者の基礎的な態度を解説する。また、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法も解説する。また保護者支援を念頭に置いてカウンセリングについても解説する。カウンセリングの解説では、簡単なロールプレイを行い、ディスカッションを通して、相談に乗る際に大切なことを理解できるようにする。
学修成果到達目標	子どもを理解についての知識を身につけ、考え方及び基礎的態度を実践に学んで理解する。 幼児のあそびおよび生活の実態に即した子ども理解の意義を理解している。 子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。 保育所や幼稚園における保育相談の意義と理論を理解している。 保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	①保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版③西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にいくつかピックアップして紹介しコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授　業　名	幼児理解

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	（学修内容）子ども理解に必要なことを考える （事前事後学修課題の内容） テキスト②1章を読んでくる
第2回	子どもの観察と記録のポイント	（学修内容）子どもの観察の視点やその記録の留意点を解説し、実践してみる。 （事前事後学修課題の内容） 実習の体験を振り返っておく
第3回	０歳児の発達と保育	（学修内容）０歳児の発達の特徴と保育を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト③2章と3章と、テキスト①の0歳児の実践を読んでくる
第4回	１歳児の発達と保育	（学修内容）１歳児の発達の特徴と保育を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト③4章と、テキスト①の1歳児の実践を読んでくる
第5回	２歳児の発達と保育	（学修内容）２歳児の発達の特徴と保育を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②２章とテキスト①の2歳児の実践を読んでくる
第6回	３歳児の発達	（学修内容）３歳児の発達の特徴を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②3章を読んでくる
第7回	３歳児の保育の留意点	（学修内容）３歳児の保育の留意点を場面記録から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②3章とテキスト①3歳児の実践を読んでくる
第8回	４歳児の発達	（学修内容）４歳児の発達の特徴を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②4章を読んでくる
第9回	４歳児の保育の留意点	（学修内容）４歳児の保育の留意点を場面記録から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②4章とテキスト①の4歳児の実践を読んでくる
第10回	５歳児の発達	（学修内容）５歳児の発達の特徴を保育場面から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②5章を読んでくる
第11回	５歳児の保育の留意点	（学修内容）５歳児の保育の留意点を場面記録から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト②5章とテキスト①の5歳児の実践を読んでくる
第12回	子どもの問題行動のとらえ方	（学修内容）子どもの問題行動をとらえる視点を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②p108からｐ119を読んでくる
第13回	保育相談の留意点	（学修内容）ロジャースの3原則を解説する。 （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第14回	カウンセリングの実際（ロールプレイ）	（学修内容）ロールプレイを行い、ディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 前週のプリントを復習する
第15回	保護者と話す際の留意点	（学修内容）ロールプレイの振り返りを行い、その技法を保護者とのやりとりにいかす方法を解説する （事前事後学修課題の内容） ロールプレイの振り返りをしておく

授業名	食の科学Ⅰ（調理学）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1401
英文名	Food Science I	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	豊原　容子（Ｒ６～）	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	調理は、安全で栄養効率の良いおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。実際の調理場面を想定し理論がどう活かされているかなどについてディスカッションし理解を深めていく。
学修成果到達目標	1）調理の目的・調理理論を理解できる 2）おいしさに関する因子について理解できる 3）日常の調理において理論に基づく操作を選択できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	河内公恵　調理学: 食品の調理特性を正しく理解するために (ステップアップ栄養・健康科学シリーズ)　化学同人　2017
参考書	講義内で随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	前回の復習を冒頭に行い、課題に関する解説も同時に行う。
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしていくこと
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	食の科学Ⅰ（調理学）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（学修内容）調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 教科書p140-143を読んでおく 食べ物の基本味と味の相互作用例についてまとめておく
第2回	おいしさに関する要因１（食べ物の因子）	（学修内容）おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて （事前事後学修課題の内容） 教科書p140-143を読んでおく 食べ物の基本味と味の相互作用例についてまとめておく。
第3回	おいしさに関する要因２（食べる人の因子）	（学修内容）おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて （事前事後学修課題の内容） 教科書p143-154を読んでおく おいしさに大きく寄与する因子について考え、まとめておく
第4回	食事計画と調理	（学修内容）食事計画における調理環境などの因子についての考え方について （事前事後学修課題の内容） 教科書p122‐137を読んでおく 献立を立てるメリットについて考えておく
第5回	調理操作１（非加熱操作）	（学修内容）浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について 生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 教科書p99‐107を読んでおく
第6回	調理操作２（加熱操作1）	（学修内容）湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について （事前事後学修課題の内容） 教科書p108‐120を読んでおく 家の加熱器具について調べておく
第7回	調理操作３（加熱操作2）	（学修内容）熱源の種類と加熱調理器具の特徴について 各家庭の熱源の種類と長所や短所について考える （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、自分の家の加熱調理器具について特徴をまとめておく
第8回	調理操作４（調味）	（学修内容）調味料、香辛料の特徴と調味操作及び、調味料の浸透のしかたについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） p119を参考に、家庭にある調味料、香辛料の種類と利用状況について調べておく
第9回	植物性食品の調理特性１（穀類）	（学修内容）米、小麦の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容） 米や小麦を使った調理例について調べておく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えておく
第10回	植物性食品の調理特性２（いも類、豆類、きのこ、藻類ほか）	（学修内容）いも、豆、雑穀、きのこ、藻類などの成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容） 各食品の特徴を生かすために注意しなければならない点について考えておく
第11回	植物性食品の調理特性３（野菜類、果実類など）	（学修内容）野菜、果実の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容） 教科書60－81を読んでおく 野菜の特徴を生かす料理法について考えておく
第12回	動物性食品の調理特性１（食肉・魚介類）	（学修内容）食肉・魚介類の体組織の構造と調理特性について 魚の鮮度とテクスチャーとの関連性について （事前事後学修課題の内容） 教科書32‐45を読んでおく 食肉や魚肉の特徴をまとめ、調理例について考えておく
第13回	動物性食品の調理特性２（卵類、乳・乳製品）	（学修内容）卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について （事前事後学修課題の内容） 教科書p45‐57を読んでおく 卵の調理特性についてまとめ、調理例について考えておく
第14回	成分抽出素材の利用、食品添加物	（学修内容）成分抽出素材の種類と調理特性について 成分抽出素材を利用した料理について意見交換 （事前事後学修課題の内容） 教科書p86‐90を読み、成分抽出素材や食品添加物を利用した食品例を調べておく
第15回	調理と食の安全性	（学修内容）食の安全性を確保するための工夫や配慮について学ぶ 未来の食について意見交換 （事前事後学修課題の内容） 新しい食品の出現と安全性について考えておく

授業名	食の科学Ⅱ（食品学）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1408
英文名	Food ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	有田　真理	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、多くの食品の中から適切な食品を選択することが重要である。そのためには、食品成分の特性、食品の物性さらに食品中の化学変化などをよく理解しておくことが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について理解していく。
学修成果到達目標	1）食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2）食品のもつ機能について理解できる。 3）食品の加工・調理による変化について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『新スタンダード栄養・食物シリーズ5 食品学』（第２版）（ISBN-13: 978-4807916832）
参考書	講義の中で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	【課題】　講義後の小テスト（理解度のチェック）とアンケート（理解しづらかった箇所の自己申告） 【フィードバック】　小テストとアンケートの結果を分析し、特に理解の難しい箇所などについて解説を行います。
留意事項	毎日何気なく食事するのではなく、食品に関心を持って生活してください。
オフィスアワー	初回時にお伝えします
実践的教育	

授業名	食の科学Ⅱ（食品学）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品とは	（学修内容）食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について （事前事後学修課題の内容） 食品の定義についてまとめておく
第2回	食品の分類	（学修内容）食品成分表の目的と概要、食品の分類法について （事前事後学修課題の内容） 食品成分表の最初の解説についてを読み、理解を深めておく
第3回	食品中の一般成分①　三大栄養素	（学修内容）炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中での働きについて （事前事後学修課題の内容） 三大栄養素の特徴についてまとめ理解を深める
第4回	食品中の一般成分②　ビタミン、ミネラル	（学修内容）ビタミン、ミネラルの特性と食品中での働きについて （事前事後学修課題の内容） ビタミン、ミネラルの働きについてまとめて理解を深める
第5回	食品中の一般成分③　水	（学修内容）水の働きについて　水分活性について （事前事後学修課題の内容） 食品中の水の働きについて考えておく
第6回	食品中の嗜好成分	（学修内容）色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働きについて （事前事後学修課題の内容） おいしいと感じるにはどのようなことが必要か考えておく
第7回	食品中のその他の成分	（学修内容）機能性成分および有害成分の種類とその働きについて （事前事後学修課題の内容） 機能性成分を含む市販食品について調べておく
第8回	食品の加工による変化①　褐変	（学修内容）酵素的褐変と非酵素的褐変について （事前事後学修課題の内容） 褐変を利用した食品についてまとめる
第9回	食品の加工による変化②　油脂の変化	（学修内容）油脂の酸化や構造変化について （事前事後学修課題の内容） 脂質の特徴についてめとめる
第10回	食品中の三次機能成分	（学修内容）微生物や酵素による食品への影響について （事前事後学修課題の内容） 発酵食品にはどのようなものがあるか調べ、その特徴についてまとめる
第11回	植物性食品の特徴①　穀類、芋類、豆類、種実類	（学修内容）穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について （事前事後学修課題の内容） それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第12回	植物性食品の特徴②　野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	（学修内容）野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について （事前事後学修課題の内容） それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第13回	動物性食品の特徴①　肉類、魚類	（学修内容）肉類と魚類の特性および加工について （事前事後学修課題の内容） 肉と魚の食品学的違いについてまとめる
第14回	動物性食品の特徴②　卵類、乳類	（学修内容）卵類、乳類の特性および加工について （事前事後学修課題の内容） それぞれの食品群の食品について、食品成分表をみて理解を深めておく
第15回	その他の食品の特徴	（学修内容）新規に開発された食品などの特徴について （事前事後学修課題の内容） 遺伝子組み換え食品などについて調べておく 食品の表示についてまとめる

授業名	家族社会学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2307
英文名	Family Sociology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	家族の歴史と現状、これらの課題について考える手がかりを示していきたい。多くの人が自分自身の「家族にかかわる体験」をもっている。そのため、個々が経験したり見聞きしたりすることを「当たり前」としてとらえている傾向にある。本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の多様なありかたをとらえていく。
学修成果到達目標	1）家族の多様なありかたについて理解することができる。 2）家族が抱えている問題を客観的に把握することができる。 3）自分自身の家族体験を相対化することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業の中で適宜紹介します。
参考書	授業の中で適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	授業計画について、進行状況に応じて内容の順番等が多少変更することがあります。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにして下さい。
実践的教育	

授業名	家族社会学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 家族とは何か	（学修内容）今後の授業の流れについて説明する。 家族の定義について考えてみる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。
第2回	日本の家族の変化	（学修内容）家族の歴史的変化を概観し、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第3回	家事と主婦の誕生 家族とジェンダー	（学修内容）家族をジェンダーの視点から考察する。戦後の家族とジェンダーの役割、母性と近代家族、フェミニズムと家族について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第4回	結婚とは何か	（学修内容）結婚に対する人々の意識と実態の変化を考察し、法・制度が結婚をどのように規定しているかについて考察する(ディスカッションを含む)。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第5回	高齢者と家族	（学修内容）高齢者の生活の変化や介護、社会的孤立など、日本における高齢者とその家族を取り巻く諸課題の現状について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第6回	人々の社会的孤立の実態に関するドキュメンタリー映像の視聴	（学修内容）ドキュメンタリー映像を視聴するなかで、現在の日本における人々の社会的孤立の実態について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 映像を視聴したうえで、課題に対して自分なりに考えたことをレポートに記述する。
第7回	様々な立場で進む社会的孤立	（学修内容）家族や社会の変化に伴い、様々な立場で進む人々の社会的孤立の問題について考察する(ディスカッションを含む)。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第8回	家族と貧困	（学修内容）日本における家族と貧困をめぐる現状と諸課題について考察する(映像教材含む)。 （事前事後学修課題の内容） 日本における子どもの貧困の現状に関する映像を視聴したうえで、課題に対して自分なりに考えたことをレポートに記述する。
第9回	ファミリーバイオレンス	（学修内容）日本におけるファミリーバイオレンスの実態について学ぶとともに、その背景や課題について考察する(ディスカッションを含む)。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第10回	就業と家族	（学修内容）労働環境における男女格差の現状とその背景、課題の現状について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第11回	少子化と戦後の日本の家族	（学修内容）日本はなぜ少子化しているのか、他の先進諸国と何が異なるのかについて考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第12回	なぜ子どもをもつのか	（学修内容）なぜ子どもをもつのか、日本で子育てする際、どのような課題があるのかについて考察する(ディスカッションを含む)。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第13回	新たな家族の像について(諸外国の実態)	（学修内容）多様化する家族の実態について、国際比較の視点から考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第14回	新たな家族の像について(国際比較と日本の課題)	（学修内容）家族や親密な関係が多様化しているなかで、日本の課題について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容を復習する。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業の要点を総復習する。 （事前事後学修課題の内容） 半期間のまとめをし、家族に関する自分なりの見方をまとめる。

授業名	子育て支援論	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	HE3325
英文名	Theory of Child-care Support	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	現在子育てに関する多くの問題が出現しており、「家庭・家族や地域社会のあり方」や「私たちの家庭・家族に対する期待」が問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家庭・家族は新しく作られたものであるという認識をもち、子育てをするにあたって現在何が問題なのかということを広く社会環境の中で考え、それとともにどのようなことが家庭や家族の支援につながるのかを他の社会との比較も用いながら考えていく。 随時、授業テーマに沿ったディスカッションの機会を設ける。
学修成果 到達目標	1）現代の家庭・家族・地域の「見方」を習得することができる。 2）現代の家庭・家族・地域がかかえる子育て問題を理解することができる。 3）保護者に対する支援の方法を習得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	配布プリント使用
参考書	松本園子・永田陽子・福川須美・森和子著『実践　子ども家庭支援論』、太田光洋編著『子育て支援』同文書院。 このほか授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対してコメントする。
留意事項	受講人数や進捗状況等によって、授業内容に変更が生じる場合があります。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授業名	子育て支援論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 子育て支援とは何か	（学修内容）オリエンテーション（授業の進め方について） 子育て支援の対象と目的、ニーズの背景と特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んでおく
第2回	保育者の行う子育て支援の特性	（学修内容）保護者との信頼関係を築くための働きかけや適切な対応について考える （事前事後学修課題の内容） 子育てにおいて不安だったこと、保育者との関わりにおいて良かったことなど、身近な子育て経験者に聞いておく
第3回	子育て支援の展開	（学修内容）支援の具体的なプロセスや、支援計画の策定ポイントなどについて学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 学んだことを理解し、復習しておく
第4回	支援のための連携と協働	（学修内容）子育て支援における諸機関との連携の意義や方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 保育者が連携する機関としてどのようなものがあるかを考えておく
第5回	保育者に求められる子育て支援の基本	（学修内容）保育者に求められる保育ニーズと支援方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 保護者の現状や支援の基本について理解する
第6回	保育所等における支援	（学修内容）保育所等が行う子育て家庭に対する支援例・保護者対応について学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 様々な事例や演習を通して、保育者としての適切な関わりと援助について理解する
第7回	地域の子育て家庭に対する支援	（学修内容）地域における子育て支援ニーズとその背景、支援方法について学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 身近な地域においてどのような子育て支援があるのか調べておく。地域の子育て支援に関する学びを深める
第8回	乳児をもつ保護者の支援	（学修内容）乳児を育てる現代の家庭の特徴や、保護者が直面する課題や悩み、必要な支援について学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 事例や演習を通じて、保護者に対する保育者の適切な支援を理解する
第9回	保護者の自己肯定感を下げない具体的支援	（学修内容）子育て支援に生かされる「コーチング」の意義と活用について学ぶ （事前事後学修課題の内容） コーチングについて保育者が意識すべき点を理解する
第10回	気になる子どもや発達障がいのある子どもと家庭に対する支援	（学修内容）発達障がい児と「気になる」子どもの特徴や、子どもと家庭に対する適切な連携について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 発達障がいの特性や、子どもと家庭に対する支援のあり方について理解する
第11回	特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援	（学修内容）特別な配慮を要する支援について理解する(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 特別な配慮が必要な家庭にはどのようなものがあるか調べておく
第12回	児童虐待の予防と対応	（学修内容）児童虐待の現状を知り、予防のための子育てについて学ぶ。虐待が判明した場合の対応、連携について学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 児童虐待の予防と対応について理解する
第13回	多様な保育ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援	（学修内容）要保護児童、要支援児童等の定義と支援の方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 要保護児童、要支援児童の対象について調べておく
第14回	子育て支援をめぐる今後の課題	（学修内容）多様化する家族に対する今後の支援のあり方について学ぶ(ディスカッションを含む) （事前事後学修課題の内容） 共働き、ひとり親、ステップファミリーなど、多様化する家族の形を知る
第15回	まとめ	（学修内容）秋学期の振り返りをする （事前事後学修課題の内容） 秋学期に学んだことを整理しておく

授業名	障害者福祉論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE3454
英文名	Theory of Welfare for Persons with Disability	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武田　康晴	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	障害者福祉とは、障害によって生じた生活課題を抱えながら自分の人生を生きている当事者を側面から支えていくことである。また「障害」と一口に言っても、実に多種多様のニーズが考えられる。この講義では、障害者福祉を「生活」の視点から捉えることを通して、障害をもつ人達が生活していく上で必要な援助について考えていく。 つまり、障害または障害者を単に医学レベルで理解するのではなく、社会モデル（障害者の抱える生活課題には社会の側が作り出しているものもあるという考え方）としての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」と、それを支援するソーシャルワーク（社会福祉援助）の視点を前提に障害者福祉について理解を深めていく。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別とソーシャルワーク等について扱っていく。単なる知識の習得だけではなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生によるディスカッションを取り入れながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）障害者福祉の歴史的展開について、社会の動向と関連づけて理解している。 2）ノーマライゼーションや自立支援、ＩＣＦといった障害者福祉の基本理念を理解している。 3）障害をもつ人を援助する制度、施策、専門職その他を体系的に理解している。 4）ソーシャルワークの視点から障害者の生活、障害者福祉について説明できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	山下幸子ほか著『障害者福祉［第４版］』ミネルヴァ書房
参考書	必要に応じて紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	前回の授業を踏まえて整理してきた質問に対しては次回の授業で解説する。レポートについては必要に応じて口頭解説しながらまたはコメントを付けて返却する。
留意事項	随時ディスカッションを交えて授業を進めるため、積極的な発言を期待する。
オフィスアワー	授業中に知らせる。
実践的教育	

授業名	障害者福祉論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	障害者福祉とは何か？（導入）	（学修内容）隣接領域と比較しながら独自性を解説する。障害者あるいは障害者福祉に対するイメージを発言しクラスで共有する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。授業後は、学ぶことの全体像を理解した上で教科書（目次と興味ある項目等）に目を通しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念①ノーマライゼーションと自立支援	（学修内容）障害者福祉の基本理念について学ぶ。講義を聞き、自分の考えを発言する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料を読み、事後ではノーマライゼーション、自立支援について自分なりに説明できるよう復習する。
第3回	障害者福祉の基本理念②リハビリテーション	（学修内容）障害、障害者の歴史的変遷とリハビリテーションの考え方について。学び、ノーマライゼーション、自立支援と並べて説明できるようになる。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、事後ではリハビリテーションの具体例をいくつか挙げて説明できるよう復習する。
第4回	障害者福祉の基本理念③ＩＣＦ	（学修内容）ICIDHからICFへの変遷とICFの考え方について学び、ICFの各要素について具体的な内容を解説する。学生同士で具体例を挙げて確認する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料を読み、疑問点をまとめて授業に出席し、具体例を挙げながらICFについて説明できるよう復習する。
第5回	身体障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）身体障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料を読み疑問点をノートにまとめ、身体障害の種別と生活のしづらさを説明できるよう復習する。
第6回	知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービスについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料から疑問点をノートにまとめ、事後では知的障害者の特徴と生活のしづらさを説明できるよう復習する。
第7回	精神障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）精神障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料から疑問点をノートにまとめ、事後では精神障害者の特徴と生活のしづらさを説明できるよう復習する。
第8回	制度とサービスの変遷に関する理解	（学修内容）歴史的経過を追い、障害者福祉の動向を学び、措置、契約、支援費制度の各時期について意見交換をしながら考える。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料から年号と時代背景、時代の特徴について書き出し、事後では制度の特徴を説明できるよう復習する。
第9回	障害者総合支援法の内容①法成立までの経過と経緯	（学修内容）障害者者総合支援法（障害者自立支援法）の成立背景と考え方を学ぶ。グループで疑問点を挙げ質問する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、流れとキーワードを書き出し、事後では法制定の経緯を説明できるよう復習する。
第10回	障害者総合支援法の内容②支給決定のプロセスほか	（学修内容）障害者総合支援法の申請から支給決定（サービス等利用計画と個別支援計画など）までの流れを学ぶ。グループで疑問点を挙げ質問する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料から疑問点をノートにまとめ、事後では支給決定のプロセスを説明できるようになる。
第11回	障害者総合支援法の内容③自立支援給付の構成	（学修内容）障害者総合支援法の事業、サービス内容について学ぶ。グループで疑問点を挙げ質問する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料から各事業の特徴をノートにまとめておき、事後では具体例をあげて説明できるよう復習する。
第12回	専門職の役割と実際に関する理解	（学修内容）障害者に関わる専門職の価値・倫理について学ぶ。授業を踏まえ意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料からソーシャルワークの視点で意見をまとめ、事後では具体例を挙げて説明できるよう復習する。
第13回	障害者福祉の実際①多職種の専門性	（学修内容）障害者総合支援法に基づく支援について、主な専門職について学ぶ。専門職名を挙げ、知っていることを学生同士で出し合う。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、他職種についてまとめておき、事後では具体例を挙げて説明できるよう復習する。
第14回	障害者福祉の実際②多職種連携	（学修内容）自立支援協議会の事例を活用し、多職種連携とネットワーキングについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前配布する自立支援協議会に関する資料に目を通し、疑問点をまとめておき、事後では具体例を挙げて説明できるよう復習する。
第15回	障害者福祉の展望	（学修内容）講義内容を総括し、今後の在り方について考える。授業を振り返り意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容） これまでの内容を確認し疑問点を整理して質問の準備をする。事後では、期末試験に合格するよう全体を復習する。

授業名	公的扶助論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3327
英文名	Public Assistance	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	みなさんは「幸せですか？」と言われたら、どのように返答をしますか？順風満帆で、何ひとつ不自由を感じない生活ができていれば「幸せです」と言えるのですが、現代社会においてはすべての人がこのような境遇にあるとはいえない現実があります。むしろ、貧困状態にある人への対策として生活保護制度など低所得者対策が必要不可欠な制度となっています。本講では、そのような状況下にある人への救済制度としての公的扶助について、その歴史的背景や法制度の仕組みなどを事例を追いながら理解することを目的とします。
学修成果到達目標	①公的扶助の役割や意義について理解できる。 ②現代社会における貧困について理解し、低所得者制度等と結びつけることができる。 ③相談援助活動に必要とされる、自立と自律のあり方について説明ができる。 ④多職種との連携の必要性と諸機関の意義について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『貧困に対する支援』中央法規出版
参考書	『社会福祉小六法』（出版社は問わない。）を持参することが望ましい。 随時、参考となる図書や資料については紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーについては、コメントを付して返却をする。
留意事項	本講はテキスト履修となるので必ずテキストを購入してください。
オフィスアワー	初回講義時に説明をする。 基本的に１Ｒ－４０４研究室に在室していれば、いつでも対応をします。 また、学内G-mailでの対応も可能です。
実践的教育	

授業名	公的扶助論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～本講の進め方・成績評価の方法について～	（学修内容）受講に関する教員との申し合わせを行う。 G/Wを通じて「貧困」などの理解を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト購入など準備を行う。 事後　ふりかえりをする。
第2回	公的扶助とセーフティネット	（学修内容）公的扶助とセーフティネットについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.1-16を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語の整理をする。
第3回	歴史に見る貧困① ～イギリスの場合～	（学修内容）イギリスにおける貧困の歴史的背景について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.42-64を読み、専門用語を抽出する。 事後　歴史的な事象の意義についてノートにまとめる。
第4回	歴史に見る貧困② ～日本の場合～	（学修内容）日本における貧困の歴史的背景について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.42-64を読み、専門用語を抽出する。 事後　歴史的な事象の意義についてノートにまとめる。
第5回	貧困の概念と生活実態	（学修内容）貧困に関する定義と生活実態についてグループワークを通じて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.18-33を読み、貧困について考える。 事後　GWの内容についてノートにまとめる。
第6回	所得格差と貧困の拡大	（学修内容）貧困状態にある人を取り巻く社会環境について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.34-40を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語の整理をする。
第7回	生活保護制度の概要と目的	（学修内容）生活保護制度の概要や目的について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.66-109を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語の整理をする。
第8回	生活保護の動向	（学修内容）生活保護の動向についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.110-122を読み、関心のある事象を挙げておく。 事後　ディスカッションの内容をノートにまとめる。
第9回	低所得者に対する法制度① ～生活困窮者自立支援制度について～	（学修内容）生活困窮者自立支援制度の理念と概要について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.124-143を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語の整理をする。
第10回	低所得者に対する法制度② ～生活福祉資金貸付制度などについて～	（学修内容）生活福祉資金貸付制度やホームレス対策などについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　pp.145-165を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語の整理をする。
第11回	貧困に対する支援における関係機関	（学修内容）国の責任と自治体や関連する機関について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　pp.168-189を読み、自治体のHPを閲覧する。 事後　閲覧したHPについてノートにまとめる。
第12回	貧困に対する支援における専門職の役割	（学修内容）貧困対策における専門職の役割について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.190-195を読み、専門職の役割について調べる。 事後　専門職の果たす役割についてノートにまとめる。
第13回	貧困に対する支援と社会福祉士	（学修内容）社会福祉士の役割を見直しながら貧困対策における役割について、GWを通じて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.198-206を読み、専門的視点について考える。 事後　GWを通じて理解した内容をノートにまとめる。
第14回	貧困に対する支援の実際	（学修内容）事例検討：GWを通じて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストpp.207-245を読み、支援内容について考える。 事後　GWを通じて理解した内容をノートにまとめる。
第15回	おわりにかえて ～豊かな国とは？～	（学修内容）GW：「豊かな国とは？」についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　全体をふりかえり、自身の意見を整理する。 事後　筆記試験に向けて準備する。

授業名	男女共同参画社会論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3323
英文名	Theory of Gender Equality	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、多様な人々のウェルビーイングの達成に必要不可欠なことである。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。
学修成果 到達目標	1）日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2）受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3）具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜紹介します。
参考書	『未来をひらく男女共同参画－ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『女性学・男性学　ジェンダー論入門』伊藤公男ほか（有斐閣アルマ）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか（有斐閣）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『男女共同参画白書』（内閣府）、『女性活躍に翻弄される人々』奥田祥子（光文社新書）、『最後の講義　完成版』上野千鶴子ほか（主婦の友社）、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角（光文社新書）、『生き延びるための思想』上野千鶴子（岩波現代新書）、そのほか適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対して、コメントします。
留意事項	グループワークやディスカッションを取り入れる。また、受講人数や進捗状況により授業内容の順序を入れ替えることがある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください
実践的教育	

授業名	男女共同参画社会論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション―男女共同参画とは―	（学修内容）男女共同参画社会・男女平等とは何かについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく
第2回	「らしさ」とは何か	（学修内容）社会的・文化的に作られる「男らしさ/女らしさ」について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ジェンダーとは何か、「らしさ」はどのように作られていくのかを理解する
第3回	メディアのなかの男女共同参画	（学修内容）メディアが男女共同参画に与える影響について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。
第4回	広告分析（グループワーク）	（学修内容）グループごとに現在の広告について男女共同参画の視点から分析する（グループワーク）。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業について復習する。グループ発表に向けて準備をしておく。
第5回	広告分析のグループ発表	（学修内容）各グループごとに広告分析の結果を発表する（プレゼンテーション、ディスカッション）。 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をしておく。
第6回	教育における男女共同参画	（学修内容）教育現場における男女格差の実態や男女共同参画について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ジェンダー平等教育のために必要なことについて考える。
第7回	教科書分析	（学修内容）男女共同参画の視点から、日本とヨーロッパ諸国の教科書の違いを比較分析する。 （事前事後学修課題の内容） 分析を通して、「家族」の描かれ方や社会の価値観について理解する。
第8回	ジェンダーと歴史	（学修内容）「産む/産まない」をめぐる戦前・戦後の歴史的状況の整理と、今後の生殖とジェンダーのあり方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 子どもを産むかどうかという選択は、歴史的・社会的文脈により強く規定されている事実を理解する。
第9回	法律と男女共同参画	（学修内容）法律における男女共同参画の現状について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 法が平等を実現しつつも、様々なジェンダー・バイアスに影響されている実態を理解する。
第10回	家族における男女共同参画	（学修内容）家族内での労働の現状と課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 家庭内における男女共同参画を目指すために何が必要かを考える。
第11回	雇用における男女共同参画	（学修内容）雇用に関する法律の成立過程について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 雇用に関する法律の成立過程を理解する。
第12回	雇用に関連する法制度の現状	（学修内容）雇用関連の法制度の現状について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 雇用関連の法制度の現状について理解する。
第13回	政治分野における男女共同参画	（学修内容）政治分野における男女共同参画について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 政党のマニフェストを調べておく。
第14回	男女共同参画社会に向けて(国際比較の視点から)	（学修内容）国際比較の視点から、日本における男女共同参画社会をめぐる課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 日本の現状について、多角的な視点から捉える。
第15回	男女共同参画社会に向けて(続き)	（学修内容）これまでのまとめと振り返りをする。 （事前事後学修課題の内容） 授業全体を振り返っておく。

授業名	消費者調査法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3324
英文名	Consumer Survey	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	石川　智子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	消費者を取り巻く状況が大きく変化しているなかで、行政、企業、大学など様々なところで消費および消費者に関する調査が行われています。本授業では、消費および消費者に関する調査事例を通して、社会調査に重要な調査設計や調査方法、サンプリングの諸方法、実施方法などを理解することを目的とします。理解を深めるため、講義だけではなく、グループディスカッション、グループワークなども取り入れながら、調査票の作成も行います。
学修成果到達目標	1）調査設計の流れと調査設計の重要性を説明できる。 2）調査方法、サンプリングの方法、実施方法を説明できる。 3）実査後のデータ整理について説明できる。 4）既存の調査を調査設計の観点から考察することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　情報収集力　)□(　)

テキスト	授業内に適宜資料を配布します。
参考書	篠原清夫他『社会調査の基礎　社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂 北川由紀彦他『社会調査の基礎』ＮＨＫ出版 轟亮他『入門・社会調査法〔第4版〕』法律文化社
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては確認して返却します。
留意事項	日頃から新聞やインターネットなどで掲載されている調査や調査結果に関心を持つようにしてください。 グループディスカッション、グループワークが変更になることがあります。
オフィスアワー	質問など、何かあれば授業後に聞いてください。
実践的教育	

授業名	消費者調査法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） シラバスで内容を確認しておく。
第2回	消費および消費者に関する社会調査と調査目的	（学修内容）調べてきた消費および消費者に関する調査を発表し、調査の目的について考察します。 （事前事後学修課題の内容） 消費および消費者に関する調査をネットや新聞等で調べてくる。
第3回	調査企画・調査設計	（学修内容）調査企画および調査設計の流れについて説明します。 （事前事後学修課題の内容） 決められたテーマから調査に必要な基礎資料や先行研究を収集してくる。
第4回	調査設計と仮説(グループディスカッション)	（学修内容）調査設計における仮説について説明し、グループディスカッションをします。 （事前事後学修課題の内容） 仮説を考える。
第5回	社会調査の調査方法	（学修内容）質的調査および量的調査とそれらの具体的手法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 質的調査および量的調査についてまとめる。
第6回	調査対象者の選定	（学修内容）全数調査と標本調査、標本数と標本誤差、サンプリングの方法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 調査票調査で公表されている調査票を収集する。
第7回	調査票調査の調査票作成	（学修内容）調査票の表紙部、質問本体部、フェイスシートの作り方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 課題に対する質問文を考える。
第8回	社会調査の実施方法	（学修内容）調査票調査およびインタビュー調査の実施方法を説明します。 （事前事後学修課題の内容） 公表されている社会調査について、調査方法、抽出方法、実施方法などの項目ごとに整理する。
第9回	調査票調査のデータ整理	（学修内容）調査票調査の実施後のデータ整理と基本的な分析について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 既存の消費および消費者に関する調査を設定した項目ごとに整理する。
第10回	報告書の作成と社会調査の課題	（学修内容）報告書の作成を説明するとともに社会調査の課題を考えます。 （事前事後学修課題の内容） 公表されている消費者に関する調査報告書について考察する。
第11回	消費者の実態と消費者を取り巻く社会状況について	（学修内容）消費者に関する調査を考えるにあたり、消費者の現状を説明します。 （事前事後学修課題の内容） 消費者調査の内容を考え、それに関連する資料を収集しておく。
第12回	調査票調査の調査企画・設計（グループワーク）	（学修内容）グループごとに消費者に関する調査票調査の調査設計をします。 （事前事後学修課題の内容） 調査票の調査項目を考えてくる。
第13回	調査票の作成（グループワーク）	（学修内容）グループごとに調査項目、質問・回答形式を検討し、調査票を作成します。 （事前事後学修課題の内容） グループの調査票を完成させる。
第14回	調査票調査の実施(プリテスト)	（学修内容）作成した調査票のプリテストをします。 （事前事後学修課題の内容） 各々のグループの調査票の感想および改善点をまとめる。
第15回	総括	（学修内容）社会調査の重要事項を振り返ります。（確認テスト） （事前事後学修課題の内容） これまでの学修内容を振り返っておく。

授業名	現代企業論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3457
英文名	Theory of Modern Company	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	現代社会において、私たちの生活はさまざまな企業によって支えられています。「企業で働く」という視点と近年の企業経営において重視されている「Sustainable Development Goals：SDGs（持続可能な開発目標）」とそれを超えた「リジェネラティブ・ビジネスモデル」という視点を含めながら、これからの社会における企業のあり方と私たちの生活の関係について考えてゆきます。授業ではペアやグループ、教室全体でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて学びます。
学修成果到達目標	①現代企業の特徴と課題について理解できる。 ②現代企業の経済活動による社会や個人への影響について考え、述べることができる。 ③現代企業と私たちの生活の関係について「企業で働く」という視点や「SDGs」や「リジェネラティブ・ビジネスモデル」と関連づけて考え、述べることができる。 ④他者と協働して、現代企業の問題や労働環境について議論することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	必要に応じて関連する書籍や資料を紹介します。
参考書	必要に応じて随時紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	授業では、グループワークを積極的に取り入れます。グループワークを円滑に進めるためにも、お互いのことを知ることから始めます。第１回から第５回の授業では、授業の最初にチェック・イン（近況や今の状況について簡単に紹介）を行い、グループワークなどのアクティブ・ラーニングに慣れるように進めていきます。 各回の状況は、受講生の状況に応じて変更が生じることがあります。
オフィスアワー	毎回の授業後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	現代企業論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	（学修内容）授業のねらいと進め方について紹介、講師及び受講生の自己紹介 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容について確認すること
第2回	企業とは何か	（学修内容）企業の目的と役割から企業とは何かを考える （事前事後学修課題の内容） 企業の目的を考え、明確にすること
第3回	現代企業の諸形態、株式会社とは	（学修内容）企業形態と株式会社の仕組みと株式投資について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 株式会社の特徴を考え、明確にする
第4回	企業と社会	（学修内容）企業と社会の関係について、SDGsやリジェネレーションを踏まえ考える （事前事後学修課題の内容） 企業の社会的責任についての考えを整理する
第5回	企業とCSR	（学修内容）企業のCSRについて歴史的変遷と新動向について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 企業のESRについて調べ、授業後にESR意義を説明できるようにする
第6回	企業と労働、女性の労働環境	（学修内容）企業における雇用形態や従業員の労働環境について近年の情勢を踏まえ学ぶ （事前事後学修課題の内容） 男女雇用機会均等法や女性活躍推進について調べ、説明することができるようにする
第7回	地域と企業	（学修内容）企業が地域に果たす役割について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 地域企業の地域社会への貢献活動について具体例を比較し、貢献活動の内容を分類できるようにする
第8回	グローバル化と企業	（学修内容）国境を超える企業活動、多国籍企業について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 企業のグローバル化について情報を調査し、それを明確に説明できるようにする
第9回	企業分析１：具体的な企業のケースを分析する：ケースの選定については受講生と相談しながら決定する	（学修内容）企業経営を分析する枠組みについて学び、具体的に企業を取り上げ分析する （事前事後学修課題の内容） 授業で取り上げる予定の企業についての情報を収集し、分析する
第10回	企業分析２：具体的な企業のケースを分析する：ケースの選定については受講生と相談しながら決定する	（学修内容）企業経営を分析する枠組みについて学び、具体的に企業を取り上げ発表する （事前事後学修課題の内容） 授業で取り上げる予定の企業についての情報を収集し、分析する
第11回	企業で働くこと１：そのために必要な知識と能力	（学修内容）企業で働くために必要な力として、産業界が学生に求める資質や知識、社会人基礎力について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 企業で働くために必要な知識や能力について考え、それらをどのようにして取得するのかを考える
第12回	企業で働くこと２：ジェンダーギャップとジェンダード・イノベーション	（学修内容）女性の働き方と働き方改革について歴史的変遷を踏まえながら、具体的な事例を通じて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 職場でのジェンダー・ギャップについて情報を収集し、分析する
第13回	グループによる発表（準備）	（学修内容）現代企業論の授業で学んだことを踏まえ、関心のある企業についてグループを作りパワーポイントを使って発表する準備を行う （事前事後学修課題の内容） 事例発表の準備
第14回	グループによる発表	（学修内容）現代企業論の授業で学んだことを踏まえ、関心ある企業についてパワーポイントを使ってグループで発表する （事前事後学修課題の内容） グループ発表を通じて学んだことをまとめること
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	（学修内容）これまでの授業内容を振り返り、授業で学んだことについて述べる （事前事後学修課題の内容） 事前にこの授業で学んだことをまとめること

授業名	生活構造論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2206
英文名	Theory of Living Structure	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	流石　智子・秋山　裕之・吉島　紀江・野田　隆生・盧　珠妍・積　高之・堀出　雅人・上田　有里奈・山川　宏和	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	①私達は、家庭、家族を形成し社会の中で生活している。生活の基盤となっているものは何かを考えてみよう。社会生活する中で、どのような人間関係や社会関係をもち、生活の営みはどのように行っているのかを、具体的に自分のこととして捉えることで、生活問題を明らかにする。 ②今の生活は、将来の生活に繋がっていることを理解して、社会問題を様々な分野から取り上げて、理解を深めその課題についても考察する。
学修成果到達目標	①私達の生活を取り巻く日本社会の仕組み、身近な法制度、社会問題を理解することができる。 ②人々の生活を豊かにするために良い社会環境、法制度、社会福祉制度は、多くの人々の努力を結集してつくられており、科学技術の進歩が大きく寄与していることを理解することができる。 ③SDGs（持続可能な開発目標）、ジェンダーフリー等国際的な動きと私達の生活の関係を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（80%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（20%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト	プリントを配布し、講義資料として授業をすすめる。
参考書	必要に応じて、紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートの返却時に、コメント等を伝える。
留意事項	
オフィスアワー	演習室に掲示する。研究室に在室しいれば対応する。事前にGメールで連絡をすると、日時の調整をする。
実践的教育	

授　業　名	生活構造論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 私達の生活と社会環境、自然環境	（学修内容）私達の生活の基盤となるもの：インフラ、法制度、社会の仕組み、家族、自然環境 （事前事後学修課題の内容） （事前）生活とはどのようなものか事前に調べる
第2回	家族（家庭）で営まれる生活	（学修内容）家族とは何か、日本の家族の特性、家族の変化 （事前事後学修課題の内容） （事前）「家族の生活の変化、どのようなことが以前とは変化したか」について調べる
第3回	婚姻と離婚後の女性の権利	（学修内容）夫婦別姓問題についての最高裁判所判断 民法改正に向けて、嫡出子問題、親の懲戒権削除：グループワーク等 （事前事後学修課題の内容） （事後）「夫婦別姓問題について」レポート①。クラスルームにて提出。800字程度。締め切りは厳守してください。
第4回	職場のDX化と多様な働き方	（学修内容）DXによる働き方の変化を説明できる （事前事後学修課題の内容） （事前）DX化を進め職場環境を改善した事例を調べて整理してくる。
第5回	家事、育児の外部化と生活	（学修内容）家事、育児の外部化のプラス面と課題：グループワーク等 （事前事後学修課題の内容） （事前）外部化された家事について、どのように考えるかをまとめる。
第6回	家計収支と貧困問題	（学修内容）エンゲルの法則、日本の世帯の標準収入、自治体の取り組み （事前事後学修課題の内容） （事前）自分の食費を整理してみる。どのようなことがわかったか。
第7回	教育、学びの環境と教育格差	（学修内容）日本の教育の到達点、ＰＩＳＡ学力国際比較、教育格差の現状、社会的損失 （事前事後学修課題の内容） （事前）日本の教育について、考えたことをまとめる。
第8回	フェイクを見抜くメディアリテラシー	（学修内容）ファクトチェックの方法を説明できる （事前事後学修課題の内容） （事前）フェイクニュースや偽情報で社会が混乱した事例を調べ整理してくる。
第9回	日本の年金制度と生活	（学修内容）年金制度の現状と課題、老後の生活、高齢化社会の課題 （事前事後学修課題の内容） （事前）年金について、自分の考えをまとめる。
第10回	医療と国民生活/　国民皆保険/介護保険/制度と生活	（学修内容）世界に秀でた国民皆保険制度、医療技術高度化、介護保険制度の現状と課題 （事前事後学修課題の内容） （事前）日本の医療について、どのように思うか考え、まとめる。
第11回	生活と貧困、もし貧困に陥ったら。	（学修内容）生活保護制度の現状、課題：グループワーク等 （事前事後学修課題の内容） （事前）現代社会における貧困問題についてまとめる。
第12回	SDGs達成に貢献するプロジェクト	（学修内容）SDGs達成に貢献するプロジェクトの立案 （事前事後学修課題の内容） （事後）プロジェクトの計画概要を作成してクラスルームにて提出。
第13回	プロジェクト発表	（学修内容）SDGs達成に貢献するプロジェクトの発表 （事前事後学修課題の内容） （事前）プロジェクトの計画概要を作成してクラスルームにて提出。
第14回	ソサエティ5.0とこれからの社会と生活	（学修内容）Society5.0で目指すべき人間中心の社会とは・デジタル技術と人間の多様な想像力、創造力の調和・社会課題の解決と価値の創造 （事前事後学修課題の内容） （事前）これから自分はどのような生活をしたいか。どんな社会にしたいかをまとめる
第15回	生活構造論の授業からの学びをまとめる	（学修内容）生活構造とはどのようなものか。授業での学びをまとめる （事前事後学修課題の内容） （事前）この授業でどのようなことが理解できたかをまとめる。

授業名	ライフデザイン論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2210
英文名	Theory of Life Design	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	現在、少子高齢化や経済のグローバル化といった社会変動が生じている。また、世界に蔓延したコロナ感染やウクライナをはじめとする戦争も社会変動の大きな要因となっている。これらの変化に伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人のなかでの家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、女性が社会で自立して生きていくために、また自分自身の人生をデザインする力を養うために必要な知識を獲得していく。
学修成果到達目標	1）現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2）自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。 3）社会的な課題を理解できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	『大学生のためのトータルライフデザイン：人生を設計するワークブック』藤岡阿由未、藤原直子(ミネルヴァ書房)
参考書	『ライフストーリー分析ー質的調査入門』大久保孝治（学文社）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編（光文社新書）、『働く女子のキャリア格差』国保祥子（ちくま新書）、『未来をひらく男女共同参画』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『仕事と家族』筒井淳也（中公新書）、『「家族の幸せ」の経済学』山口慎太郎（光文社新書）、その他適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスを行う。
留意事項	授業計画については、実際に授業を進めるなかで、多少進度や内容に変更が生じる可能性があります。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授業名	ライフデザイン論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）今後の授業スケジュールについて説明する。 ライフデザインとは何かに関する導入説明。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業全体の内容を把握しておく。
第2回	ライフデザインとは何か	（学修内容）誰のためのライフをデザインするのかを考える。 ライフデザインという考え方の基礎や要素を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ライフデザインとは何かについて理解する。
第3回	ウェルビーイングの視点から考える「私」	（学修内容）ウェルビーイングを捉える要素について学ぶ。 自分自身のウェルビーイングの特徴について整理する。 （事前事後学修課題の内容） 「私」の特徴を発見して、自分自身を理解する。
第4回	「私」を支える「強み」	（学修内容）自分のなかにたくさんある「強み」を見つける。 （事前事後学修課題の内容） 「私」らしさを支える「私」の強みについて整理する。
第5回	ジェンダーと「私」	（学修内容）ジェンダーの視点から自分のこれまでの経験を振り返る。私たちのライフデザインと文化的・社会的環境との相互関係について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ジェンダーの視点から自分の歩みを捉え、性別に関わりなく「私」らしく生きるための可能性を考える。
第6回	ライフイベントとライフコースの変遷	（学修内容）人々のライフイベントやライフコースの変化について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 人々のライフイベントやライフコースがどのように変化しているかを理解する。
第7回	「私」らしいライフキャリアとは	（学修内容）ライフキャリアの概念を学び、「私」らしいライフキャリアを模索する。 （事前事後学修課題の内容） 自分らしいライフキャリアを実現するための手がかりをつかむ。
第8回	日本女性の就労の実態	（学修内容）日本女性の就労の実態について、統計資料等から理解し、課題を考える。 （事前事後学修課題の内容） 日本女性の就労の実態について理解する。
第9回	「私」らしいワークキャリアとは	（学修内容）女性も男性もあらゆる分野で活躍できる社会の実現のために何が必要かを学ぶ。いまの自分が実現させたいと思うワークキャリアを考える。 （事前事後学修課題の内容） 男女共同参画社会の実現に向けて必要なことについて理解する。 自分らしいワークキャリアのあり方を考える。
第10回	ワークキャリア構築のためのスキル	（学修内容）ワークキャリアを構築していくうえで大切なスキルについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークキャリアを構築していくうえで大切なスキルについて理解する(グループワークを含む)
第11回	子育てとワーク・ライフ・バランス	（学修内容）子育てと就労や他の生活とのバランスの実態と課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて必要なことについて理解する。
第12回	新しい働き方や仕事観	（学修内容）産業社会の変化について学ぶ。仕事における利益追求と社会課題解決の新たな関係について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 変わり続ける産業社会と仕事のビジョンについて理解する。
第13回	社会の一員としての「私」 持続可能な社会をデザインする	（学修内容）「私」と社会をデザインすることの接点を探る。 （事前事後学修課題の内容） 社会の未来を描くということを、「私」の未来を描くことに重ねて考える。
第14回	「私」の物語	（学修内容）これまでの学びを振り返り、「私」の物語について考える。 （事前事後学修課題の内容） 「私」自身について、「私と社会」との関係について、自分自身を見つめる。
第15回	まとめ	（学修内容）授業の振り返りをする。 （事前事後学修課題の内容） 半期間のまとめをしておく。

授業名	現代生活学演習Ｉｔａ・ｔｂ・ｔｃ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	猿渡　綾子・林　育代・有田　真理	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	現代生活学演習Ｉでは、1回生で学んできた管理栄養士科目と関連させながら、現代日本における健康問題などについて確認し管理栄養士の役割について考えていく。プレゼンテーションやディスカッション、グループワークなどを行いながら総合的に考える力を醸成する。 さらに、生活者としての視点を築きながら、管理栄養士として社会の食に寄与していく力を培っていく。
学修成果到達目標	1)適切な伝え方やプレゼンテーション方法を工夫し、分かりやすく説明することができる。 2)話の中から要点を聞き取る力をつけ、課題を思考し、発展させることができる。 3)コミュニケーションの力を高め、人とのかかわりの場面で活かすことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	レビューブック管理栄養士2025　第7版　メディックメディア
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	・返却時に解説などを行い、問題点について討議する。
留意事項	・積極的に発言・発表するよう心がけてほしい。 ・機材の関係で順番が前後することがあります。
オフィスアワー	・研究室に日時を添付するので確認すること。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ｉｔａ・ｔｂ・ｔｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 勉強の進め方、春休み課題の振り返り	（学修内容）授業の進め方・教科書の使い方の説明、評価についての説明 春休み課題の振り返り、学びの進め方について自己修正を図る （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで内容を確認し授業に臨むこと
第2回	栄養士基礎力の育成1（公衆衛生学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問1～10の復習
第3回	栄養士基礎力の育成2（人体の構造と機能および疾病の成り立ち）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問11～23の復習
第4回	栄養士基礎力の育成3（人体の構造と機能および疾病の成り立ち）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問24～30の復習
第5回	栄養士基礎力の育成4（公衆衛生学・人体の構造と機能および疾病の成り立ち・食品学）	（学修内容）振り返りテスト・レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問31～42の復習
第6回	栄養士基礎力の育成5（食品学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問43～55の復習
第7回	栄養士基礎力の育成6（食品学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問56～70の復習
第8回	栄養士基礎力の育成7（食品学）	（学修内容）振り返りテスト・レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問71～85の復習
第9回	栄養士基礎力の育成8（食品学）	（学修内容）レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問86～100の復習
第10回	栄養士基礎力の育成9（まとめ）	（学修内容）振り返りテスト・レビューブックを用いた栄養士基礎力の育成 専門的な言葉をくだき、わかりやすく説明できるようになる （事前事後学修課題の内容） 春休み課題の問71～100の復習
第11回	栄養価計算ソフト	（学修内容）栄養価計算ソフトの使用方法を習得する （事前事後学修課題の内容） 食品成分表について復習する
第12回	現代社会の食に関する話題の抽出と献立作成-1 献立作成の手順とポイント	（学修内容）献立作成の手順を理解し、1日分の献立を作成 （事前事後学修課題の内容） 献立に使用するレシピ集などに目を通しておく
第13回	現代社会の食に関する話題の抽出と献立作成-2 作成した献立の修正と栄養価計算	（学修内容）献立作成の注意点を理解する （事前事後学修課題の内容） 献立を仕上げて、栄養価計算の結果を出す
第14回	立案献立のプレゼンテーション	（学修内容）作成した献立について口頭発表 （事前事後学修課題の内容） 発表用のスライドを作成する
第15回	全体のまとめ	（学修内容）小テスト （事前事後学修課題の内容） 春学期に学習したことを復習しておく

授業名	現代生活学演習Ｉｓｂ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	子どもを中心とした社会課題に対する具体的な取り組みについて学ぶ。 前半は共通テキストを輪読し（担当者がレジュメを作成して発表）、後半は子どもや福祉に関連する取り組みを紹介した動画をPowerpoint形式で発表する。 読んだ内容をまとめる作業と、動画を見て・聞いて得た情報をまとめる作業を通じて、人に伝わるように要点をまとめる力を付けるとともに、現場での取り組みにおける実施主体・内容・課題についての知識を身につける。
学修成果到達目標	1. 子どもを取り巻く社会課題への具体的な取り組みについて知識を得る。 2. テキストや動画資料の要点を人に伝わるようにまとめることができる。 3. さまざまな事例を抽象化して考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	幸重忠孝・村井琢哉（著）『まちの子どもソーシャルワーク』かもがわ出版　2018年
参考書	授業内で適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出時または発表時にコメントする。
留意事項	発表担当時はしっかりと責任をもって資料を作成してください。 討論時は積極的に発言してください。
オフィスアワー	学生演習室に掲出。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ｉｓｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションと学修ポートフォリオ	（学修内容）本授業の進め方、学修ポートフォリオの更新、自己紹介 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスと昨年度の学修ポートフォリオを読む 事後：学修ポートフォリオを完成させる
第2回	テキスト輪読 pp.8-34	（学修内容）子どもの貧困問題（第２回～第７回共通テーマ） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.8-34を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第3回	テキスト輪読 pp.35-48	（学修内容）発表担当者が作成したレジュメに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.35-48を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	テキスト輪読 pp.49-63	（学修内容）発表担当者が作成したレジュメに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.49-63を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	テキスト輪読 pp.64-84	（学修内容）発表担当者が作成したレジュメに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.64-84を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	テキスト輪読 pp.85-102	（学修内容）発表担当者が作成したレジュメに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.85-102を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	テキスト輪読 pp.103-117	（学修内容）発表担当者が作成したレジュメに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのpp.103-117を読む（担当者は資料作成） 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	動画資料をPowerpoint化する	（学修内容）子どもに学びの場を提供するNPOの取り組み （事前事後学修課題の内容） 事前：指定動画を視聴してまとめ方を考える 事後：自分が担当したい動画を選んでFormで提出する
第9回	学修ポートフォリオ	（学修内容）学修ポートフォリオの振り返り （事前事後学修課題の内容） 事前：相談内容について考え、整理する 事後：面談内容を記録しておく
第10回	動画資料による取り組み事例①	（学修内容）発表担当者が作成したスライドに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の準備をする 事後：発表とディスカッションの内容を整理する
第11回	動画資料による取り組み事例②	（学修内容）発表担当者が作成したスライドに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の準備をする 事後：発表とディスカッションの内容を整理する
第12回	動画資料による取り組み事例③	（学修内容）発表担当者が作成したスライドに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の準備をする 事後：発表とディスカッションの内容を整理する
第13回	動画資料による取り組み事例④	（学修内容）発表担当者が作成したスライドに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の準備をする 事後：発表とディスカッションの内容を整理する
第14回	動画資料による取り組み事例⑤	（学修内容）発表担当者が作成したスライドに基づいてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の準備をする 事後：発表とディスカッションの内容を整理する
第15回	個人研究のテーマ、調査対象	（学修内容）秋学期に向けて調査研究対象を探す （事前事後学修課題の内容） 事前：どのような取り組みを扱いたいか考えておく 事後：対象とした取り組みのプロフィールを調べる

授業名	現代生活学演習Ｉｓａ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	**盧　珠妍**	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	このゼミでは、「教育学」に関連したテーマを中心として、文献講読を通して、教育学のみならず他の芸術、文化、思想、社会へと関心領域を拡げ、卒業論文執筆に必要な基礎的スキルの修得を目指します。春学期は、文献の探し方、読み方、まとめ方（アカデミック・ペーパーの書き方）を学ぶとともに、発表を通して、ゼミ生相互で多角的な観点から討議を行います。
学修成果到達目標	1　学術的文献を精読し、それをレジュメにまとめることができる。 2　発表・討論などを通して、自分の学びを他者と共有する。 3　現代家政学で取り組む課題を認識することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内でコメントする。
留意事項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。
オフィスアワー	授業後および研究室に在室時に対応する。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ｉｓａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容、評価等について説明する。発表担当者をきめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく。 事後：授業内容を確認しておく。
第2回	現代社会における教育の課題①社会的観点	（学修内容）現代社会における教育の課題について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 課題について自分の考えをまとめる。
第3回	現代社会における教育の課題②人間学的観点	（学修内容）教育の課題を人間の本質から考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題について自分の考えをまとめる。
第4回	文献のまとめ方	（学修内容）発表用レジュメの作り方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教育の課題①のレジュメを作成する。
第5回	教育の課題①のまとめと発表１	（学修内容）レジュメにまとめた課題①を発表する。 （事前事後学修課題の内容） 教育の課題①のレジュメを作成し発表準備をする。
第6回	教育の課題②のまとめ	（学修内容）発表用レジュメを作成する。 （事前事後学修課題の内容） 資料やデータを用意しておく。
第7回	教育の課題②のまとめと発表２	（学修内容）レジュメにまとめた課題②を発表する。 （事前事後学修課題の内容） 教育の課題②のレジュメを作成し発表準備をする。
第8回	文献発表準備	（学修内容）各自読んだ論文の内容をまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 発表準備（Word資料提出）
第9回	発表およびディスカッション：Aグループ	（学修内容）発表とディスカッションを行い課題の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 発表者：発表の準備。 他の人：文献を読んでおく。
第10回	発表およびディスカッション：Bグループ	（学修内容）発表とディスカッションを行い課題の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 発表者：発表の準備。 他の人：文献を読んでおく。
第11回	発表およびディスカッション：Cグループ	（学修内容）発表とディスカッションを行い課題の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 発表者：発表の準備。 他の人：文献を読んでおく。
第12回	発表およびディスカッション：Dグループ	（学修内容）発表とディスカッションを行い課題の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 発表者：発表の準備。 他の人：文献を読んでおく。
第13回	発表の総括	（学修内容）発表の内容を総括しつつ次の課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 発表資料を見直す。
第14回	Wordによる成果物制作の実践	（学修内容）発表の内容を再考しレポート文章に仕上げる。 （事前事後学修課題の内容） 資料やデータを用意して持ってくる。
第15回	まとめ	（学修内容）まとめとレポート課題の説明。 （事前事後学修課題の内容） これまでの資料を整理する。秋学期の研究テーマについて考える。

授業名	現代生活学演習Ｉｒａ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	このゼミでは、日本における様々な社会的課題に関する実態や要因について、文献や論文、その他の資料を自ら検索しながら、多角的に考察することを通して、論文執筆に必要な基礎的スキルの修得を目指します。 考察対象となる社会的課題については、授業の開始後に具体的に提示し説明します。 様々な文献や資料を調べる・読む・まとめる・伝える・聴く力の修得を目指し、個人研究やクラスでの議論を行います。
学修成果到達目標	・(調べる力)分析対象に関する適切な文献や論文、資料にアクセスし、収集できる。 ・(読む力・まとめる力)資料を読み込み、要点を理解し、それをわかりやすくまとめることができる。 ・(伝える力)自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる。 ・(聴く力)他者の発表や意見を聞き、多様な視点や考えがあることを理解し、自分なりの考えを導き出すことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	こちらで随時、関連するテキストや資料を提示します。購入の必要はありません。
参考書	こちらで随時、関連するテキストや資料を提示します。
課題に対するフィードバックの方法	授業のなかで適時コメントやアドバイスをします。
留意事項	実際に授業を進めるなかで、多少進度や内容に変更が生じる可能性があります。
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ｉｒａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）今後の授業の具体的なスケジュールについて説明します。 （事前事後学修課題の内容） 今後のスケジュールについて、しっかりと確認すること。
第2回	日本における社会的課題に関する調査・分析(課題①、詳細は授業時に解説)	（学修内容）社会的課題①に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第3回	日本における社会的課題に関する調査・分析(各自調査・分析)	（学修内容）社会的課題①に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第4回	日本における社会的課題に関する発表・議論(前半)	（学修内容）社会的課題①に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第5回	日本における社会的課題に関する発表・議論(後半)	（学修内容）社会的課題①に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第6回	日本における社会的課題に関する調査・分析(課題②、詳細は授業時に解説)	（学修内容）社会的課題②に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第7回	日本における社会的課題に関する調査・分析(各自調査・分析)	（学修内容）社会的課題②に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第8回	日本における社会的課題に関する発表・議論(前半)	（学修内容）社会的課題②に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第9回	日本における社会的課題に関する発表・議論(後半)	（学修内容）社会的課題②に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第10回	日本における社会的課題に関する調査・分析(課題③、詳細は授業時に解説)	（学修内容）社会的課題③に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第11回	日本における社会的課題に関する調査・分析(各自調査・分析)	（学修内容）社会的課題③に関する実態や要因について、自ら調査しながら多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第12回	日本における社会的課題に関する発表・議論(前半)	（学修内容）社会的課題③に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第13回	日本における社会的課題③に関する発表・議論(後半)	（学修内容）社会的課題③に関する実態や要因について、自ら調査し考察したことを資料にまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第14回	今学期の学修のまとめ(前半)	（学修内容）今学期の取り組みに関する自分なりの成果や今後の課題等について考える。 （事前事後学修課題の内容） 今学期の自身の取り組みのなかで分かったことを整理する。
第15回	今学期の学修のまとめ(後半)	（学修内容）今学期の取り組みに関する自分なりの成果や今後の課題等について考える。 （事前事後学修課題の内容） 今学期の自身の取り組みのなかで分かったことを整理する。

授業名	現代生活学演習Ｉｓｃ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	「社会の変化と教育の課題」を考え、着目した研究課題テーマを決める。また先行研究や仮説を文献や現地調査などで調べるなどしながら研究方法も学びつつ研究をすすめ、結果や考察をまとめてプレゼンテーションを行う。 発表や討論を通して、多様な視点があることを学び視野を広げ、教育現場に必要な考える力をつける。
学修成果到達目標	1)「社会の変化と教育の課題」を認識することができる。 2)自分の研究テーマに沿った研究方法をデザインし、協力し合いながらすすめることができる。 3)発表や討論を通して、自分の考えをまとめ，発表することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適時　関連するものを用意して、配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適時アドバイスする。
留意事項	課題に対して、自ら進んで積極的に取り組む。
オフィスアワー	毎週1回設定
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校、京都教育大学付属小学校、京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	現代生活学演習Ｉｓｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	（学修内容）春学期の授業の進め方 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、教育課題を考えまとめる
第2回	教育の課題について考える。	（学修内容）教育の今日的課題を考え、レポートにまとめて提出する （事前事後学修課題の内容） 資料を読んで要約したものをまとめる
第3回	研究課題や研究仮説について交流する。	（学修内容）テーマごとのグループで先行研究等の資料を探し、見つけたものを交流する （事前事後学修課題の内容） 配付した資料を読み、まとめておく
第4回	蒐集した資料について発表する。	（学修内容）課題に対する資料を収集し読む 資料の集め方や仮説のまとめ方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 研究仮説についてまとめたことをスライドを使ってまとめる
第5回	研究仮説についてまとめたことを発表する。	（学修内容）自分で気付いた成果と課題をまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 自分で気付いた成果と課題をまとめる。
第6回	研究をすすめるにあたりここまでの成果と課題について、グループで議論する。	（学修内容）調査研究でまとめた内容を、グループで議論し意見を集約する （事前事後学修課題の内容） ここまでの学びを各自スライドにまとめる
第7回	グループ発表の準備	（学修内容）各自でまとめたスライドを持ち寄り、グループでまとめる （事前事後学修課題の内容） グループ全員分のスライドを取りまとめ、わかりやすくまとめる
第8回	グループ発表とディスカッション（AグループとBグループ）	（学修内容）グループワークの成果をプレゼンテーションする （事前事後学修課題の内容） 発表を振り返り、自分の意見をまとめる
第9回	グループ発表とディスカッション（CグループとDグループ）	（学修内容）グループワークの成果をプレゼンテーションする （事前事後学修課題の内容） 発表を振り返り、自分の意見をまとめる
第10回	個人研究のテーマの選定と研究方法	（学修内容）個人研究のテーマを設定し研究方法を考える （事前事後学修課題の内容） 興味をもったことをもとに自分の研究テーマを考える
第11回	個人研究のテーマに対する文献資料を収集する。	（学修内容）個人テーマに対する文献を検索し資料を収集する （事前事後学修課題の内容） 文献や資料を読んで概要についてまとめ、研究計画を立てる
第12回	研究計画を立て、意見交流をする。	（学修内容）研究の内容や自分の意見をスライドにまとめたものをもとに意見交流をする （事前事後学修課題の内容） 研究の内容や自分の意見をスライドにまとめる
第13回	研究内容、方法、計画を見直し、修正をする	（学修内容）自身の研究を振り返り修正する （事前事後学修課題の内容） 修正した内容をスライド反映させ修正をする
第14回	秋学期に行う研究について交流する	（学修内容）個人研究の成果をスライドを使って発表する （事前事後学修課題の内容） 発表用スライドを作り直す。他者の資料を読み、気付いた点についてまとめる。
第15回	春学期の振り返りと総括 秋学期の研究テーマと調査方法	（学修内容）春学期の総括 秋学期の研究テーマと調査方法について確認する （事前事後学修課題の内容） より綿密な研究計画を立て提出する。

授業名	現代生活学演習Ⅱｓｂ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	現代生活学演習Ⅰでの学びを踏まえ、各自が研究課題を設定し、現地取材や論文等資料収集によって得たデータに基づいて研究レポートを作成する。並行して資料からの引用の仕方や、図や表の作成方法とレポート内での用い方について演習を通して身につける。卒業研究を視野に入れた内容となる。 原則として、研究課題は子どもを取り巻く社会課題に関する取り組みを一つ取り上げて現場取材するとともに、他の似た取り組み事例と比べ合わせるものとする。ただし、学生の個人的関心と意欲に基づいたテーマを設定することも可能。
学修成果到達目標	1. 課題に関する文献を正しく読み、適切に引用することができる。 2. 自分で集めたデータに基づいて他者に伝わるように表現することができる。 3. 研究レポートの構成や図表の扱い方などに関する知識とスキルを身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配付する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	発表に対する講評を中心に、授業内で全体での共有を図りながら実施する。
留意事項	主体的に取り組む必要があります。 他者の発表にも関心を持ち、積極的に質問してください。
オフィスアワー	学生演習室に掲出。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ⅱｓｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	先行研究の入手	（学修内容）Cinii、Google Scholarによる論文収集 （事前事後学修課題の内容） 事前：研究テーマを確定する 事後：収集した論文を読む
第2回	論文の構成と引用の方法	（学修内容）章立てと先行研究の引用方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回収集した論文を読んでおく 事後：自分の研究の章立てについて検討する
第3回	先行研究の発表１	（学修内容）研究テーマに関連する先行研究をまとめて発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表資料の作成 事後：他者の発表資料も含めて振り返る
第4回	先行研究の発表２	（学修内容）研究テーマに関連する先行研究をまとめて発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表資料の作成 事後：他者の発表資料も含めて振り返る
第5回	調査方法	（学修内容）事例研究で用いられる観察・インタビューなどの調査方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：自分の研究でどのように調査するか検討する
第6回	地図と表	（学修内容）地図や表の作成方法とレポート内での用い方 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：地図を完成させる
第7回	グラフ	（学修内容）公的資料に掲載されているグラフを自作する方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習してグラフの作り方を身につける
第8回	中間発表１	（学修内容）個人研究の進捗状況をWord資料で発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表資料の作成 事後：他者の発表と質疑も含めて振り返る
第9回	中間発表２	（学修内容）個人研究の進捗状況をWord資料で発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表資料の作成 事後：他者の発表と質疑も含めて振り返る
第10回	Web検索等	（学修内容）公的資料の収集方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の研究にどのような統計資料があればよいか考える 事後：授業内容をふまえて資料の収集を進める
第11回	進捗状況の発表	（学修内容）個人研究の進捗状況を発表し、不十分な点を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：進捗状況をまとめておく 事後：不十分な点を補うためのデータを収集する
第12回	研究レポートの作成	（学修内容）収集したデータをまとめてストーリー化する （事前事後学修課題の内容） 事前：データを集め終える 事後：スライドの構成を考える
第13回	Powerpointの作成	（学修内容）本発表に向けてスライドを作成する （事前事後学修課題の内容） 事前：地図・写真・グラフなどの画像データを完成させる 事後：発表に向けて完成させる
第14回	個人研究の発表１	（学修内容）完成した個人研究をPowerpointで発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表のリハーサルをしておく 事後：発表内容をWord化する
第15回	個人研究の発表２	（学修内容）完成した個人研究をPowerpointで発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：発表のリハーサルをしておく 事後：発表内容をWord化する

授業名	現代生活学演習Ⅱｔａ・ｔｂ・ｔｃ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	田中　愛佳・林　育代・有田　真理	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	春学期での学びを踏まえて、より深く食・栄養・健康に関する知識を身につけ、健康と食に関する課題を生活者と管理栄養士の視点から考察し、多様な食の課題に対応する力を身につける。 また、発表やグループディスカッションの機会を通してプレゼンテーション力やコミュニケーション力を養うとともに、様々な視点や考え方に触れることで、管理栄養士に求められる他者理解の力を培う。
学修成果到達目標	1）食の課題を理解し、改善に向けた考察ができる。 2）生活者の視点をもった管理栄養士としての態度と能力を身につける。 3）他者への共感と理解が得られるコミュニケーション力・プレゼンテーション力をつける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	レビューブック管理栄養士2025（メディックメディア）　＊1回生に購入済み
参考書	適宜、演習の中で紹介する
課題に対するフィードバックの方法	提出物はコメントを付けて返却する。
留意事項	1. 提出期限を守る、遅刻をしない、無断欠席をしない。連絡、相談、報告を心がけること。 2. 生活全般を整え、自己成長につながるよう計画的かつ継続的に勉強や課題に取り組むこと。 3. 食の情報に関心を持ち実践力をつけるためにも、地域活動や食育活動に積極的に取り組むよう心がけること。
オフィスアワー	授業内で紹介する。各教員の研究室前に掲示する。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ⅱｔａ・ｔｂ・ｔｃ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏季課題の確認（全体） 秋学期に向けた抱負	（学修内容）現代生活学演習Ⅱの進め方を確認する。秋学期の目標や抱負を作成する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで授業内容を確認し、質問事項をまとめておく。 夏季課題を忘れずに持参すること。
第2回	○献立作成に必要な計算：塩分 ○メールの書き方・送り方（基本） ○夏季課題の確認①（生化学(1)）	（学修内容）適切な献立作成のための基礎力を養う。適切な日本語表現を身につける。管理栄養士に必要な知識を定着させるため春学期の学びを振り返る。 （事前事後学修課題の内容） レビューブックおよび関連科目の教科書を用いて予習する。
第3回	○献立作成に必要な計算：PFC% ○メールの書き方・送り方（遅刻・遅延） ○夏季課題の確認②（生化学(2)）	（学修内容）適切な献立作成のための基礎力を養う。適切な日本語表現を身につける。管理栄養士に必要な知識を定着させるため春学期の学びを振り返る。 （事前事後学修課題の内容） レビューブックおよび関連科目の教科書を用いて予習する。
第4回	○献立作成に必要な計算：吸油率 ○メールの書き方・送り方（質問・確認） ○管理栄養士に必要な知識（振り返り(1)）	（学修内容）適切な献立作成のための基礎力を養う。適切な日本語表現を身につける。管理栄養士に必要な知識を定着させるため春学期の学びを振り返る。 （事前事後学修課題の内容） レビューブックおよび関連科目の教科書を用いて予習する。
第5回	○献立作成に必要な計算：廃棄率 ○メールの書き方・送り方（学外の方に向けて） ○夏季課題の確認③（人体のしくみ(1)）	（学修内容）適切な献立作成のための基礎力を養う。適切な日本語表現を身につける。管理栄養士に必要な知識を定着させるため春学期の学びを振り返る。 （事前事後学修課題の内容） レビューブックおよび関連科目の教科書を用いて予習する。
第6回	○現代社会における食の問題と改善 ―生活習慣病予防の食事計画（減塩） ○夏季課題の確認④（人体のしくみ(2)）	（学修内容）生活習慣病予防に寄与する管理栄養士の献立作成能力の向上を図る。 （事前事後学修課題の内容） 食品・料理の塩分量について情報を集め、まとめておく。
第7回	○現代社会における食の問題と改善 ―生活習慣病予防の食事計画の改善（減塩） ○管理栄養士に必要な知識（振り返り(2)）	（学修内容）生活習慣病予防に寄与する管理栄養士の献立作成能力の向上を図る。 （事前事後学修課題の内容） 添削された部分を改善できるよう必要な資料を集め、まとめておく。
第8回	○現代社会における食の問題と改善 ―生活習慣病予防の食事計画（エネルギー調整） ○夏季課題の確認⑤（食品学(1)）	（学修内容）生活習慣病予防に寄与する管理栄養士の献立作成能力の向上を図る。 （事前事後学修課題の内容） 食品・料理のエネルギー量・脂質量について情報を集め、まとめておく。
第9回	○現代社会における食の問題と改善 －生活習慣病予防の食事計画の改善（エネルギー調整） ○夏季課題の確認⑥（食品学(2)）	（学修内容）生活習慣病予防に寄与する管理栄養士の献立作成能力の向上を図る。 （事前事後学修課題の内容） 添削された部分を改善できるよう必要な資料を集め、まとめておく。
第10回	社会における管理栄養士の役割と仕事 （外部講師による講義）	（学修内容）外部講師によるセミナーを行い、社会で求められる管理栄養士について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 関心がある就職分野のホームページ等を確認して調べておく。 質問を考えておく。
第11回	学外における管理栄養士に必要な学びについて考える ○管理栄養士に必要な知識（振り返り(3)）	（学修内容）大学の講義以外に学びを深める機会について考え、大学における学びとの結びつきについて考察し、必要な知識、人間力、心構えを再考する。 （事前事後学修課題の内容） 自らが経験した課外活動や地域貢献を挙げておく。また、履修要綱で臨地実習に必要な科目を確認しておく。
第12回	○生活者の視点に立った食事計画の立案 ○夏季課題の確認⑦（基礎栄養学・代謝(1)）	（学修内容）各自で食の問題解決に向けたテーマを選定し、管理栄養士として生活者の健康に寄与する食事と、食事を通した関わり方を考える。 （事前事後学修課題の内容） フィードバックされたコメントを読み、改善方法を考えておく。
第13回	○生活者の視点に立った食事計画の改善 ○夏季課題の確認⑧（基礎栄養学・代謝(2)）	（学修内容）フィードバックされたコメントを反映させ、食事計画を改善する。 発表資料を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 改善した理由を明確にする。 テーマに応じた料理を作成し、発表資料を準備する。
第14回	○食事計画のプレゼンテーションと意見交換 ○管理栄養士に必要な知識（振り返り(4)）	（学修内容）発表を行い、講師・聴講者の質問に対応する。 （事前事後学修課題の内容） 発表の要点をまとめ、質問に対応ができるよう準備をしておく。
第15回	秋学期到達度の確認 ―献立作成を通した汎用的スキル ―管理栄養士に必要な知識（まとめ）	（学修内容）管理栄養士に必要な知識、スキル、人間性について考える。振り返りテストを行い、現時点での本演習による知識の到達度を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 確認テストに向けて全体を通した勉強しておく。 １年間を振り返り、次年度に向けた課題を考え、まとめておく。

授業名	現代生活学演習Ⅱｒａ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	秋学期のゼミでは、春学期の取り組みの応用として、自分の興味・関心あることを軸に、学修課題について自ら文献や論文、その他の資料を検索しながら、多角的に考察することを通して、論文執筆に必要な基礎的スキルの修得を目指します。 様々な文献や資料を調べる・読む・まとめる・伝える・聴く力の修得を目指し、個人研究やクラスでの議論を行います。
学修成果到達目標	・(調べる力)分析対象に関する適切な文献や論文、資料にアクセスし、収集できる。 ・(読む力・まとめる力)資料を読み込み、要点を理解し、それをわかりやすくまとめることができる。 ・(伝える力)自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる。 ・(聴く力)他者の発表や意見を聞き、多様な視点や考えがあることを理解し、自分なりの考えを導き出すことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業のなかで随時紹介します。 購入の必要はありません。
参考書	授業のなかで随時紹介、配布します。
課題に対するフィードバックの方法	授業のなかで適時コメントやアドバイスをします。
留意事項	実際に授業を進めていくなかで、進度に多少変更が生じる可能性があります。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、在室できない場合があります。 あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにして下さい。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ⅱｒａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）今後の授業のスケジュールについて説明する。 （事前事後学修課題の内容） 今後のスケジュールについて、しっかりと確認すること。
第2回	夏休み中の課題の発表	（学修内容）夏休み中に出された課題について、成果を報告する。 （事前事後学修課題の内容） 報告のための準備を行う。
第3回	夏休み中の課題の発表	（学修内容）夏休み中に出された課題について、成果を報告する。 （事前事後学修課題の内容） 報告のための準備を行う。
第4回	個人研究(テーマ決定)	（学修内容）自分の興味・関心あることを絞り込むための作業に取り組む。 （事前事後学修課題の内容） 自分の興味・関心あることを見つけ、学修課題との関連について考える。
第5回	個人研究(資料分析)	（学修内容）自分の興味・関心あることを軸に、学修課題について自ら文献や論文、その他の資料を検索しながら、多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第6回	個人研究(中間発表に向けた整理)	（学修内容）自分の興味・関心あることを軸に、学修課題について自ら文献や論文、その他の資料を検索しながら、多角的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第7回	個人研究の中間発表	（学修内容）個人研究のこれまでの成果をまとめて中間発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表のための準備を行う。
第8回	個人研究(中間発表の振り返りと最終発表に向けた整理)	（学修内容）中間発表時の指導や助言をもとに、個人研究をさらに進める。 （事前事後学修課題の内容） 学修課題について、様々な方法で自ら調査し、まとめる。
第9回	個人研究の最終発表①	（学修内容）個人研究の最終的な成果をまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表のための準備を行う。
第10回	個人研究の最終発表②	（学修内容）個人研究の最終的な成果をまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表のための準備を行う。
第11回	個人研究の最終発表③	（学修内容）個人研究の最終的な成果をまとめて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表のための準備を行う。
第12回	個人研究の振り返り	（学修内容）クラスの個人研究の発表を振り返り、議論を深めるとともに、論文執筆に向けた全体の構造(アウトライン)を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 論文の書き方の復習とアウトラインの作成を行う。
第13回	論文執筆(前半)	（学修内容）個人研究の成果を論文にまとめる作業を進める。 （事前事後学修課題の内容） 論文執筆を進める。
第14回	論文執筆(後半)	（学修内容）個人研究の成果を論文にまとめる作業を進める。 （事前事後学修課題の内容） 論文執筆を進める。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業のまとめと、定期試験の説明。 （事前事後学修課題の内容） 今学期取り組んだことの総括を行う。

授業名	文献講読ａ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3214
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本科目では、現代家政学と関連の深い分野である社会学の入門書を用いて「深く」読むトレーニングを行う。 短めの文章をただ読むだけでなく、関連する情報にあたりながら詳しく読み込み、小グループでの意見交換を行うことにより、社会学分野の広範な知識を得るとともに社会学的な考え方や視点を獲得することを目指す。 学生は担当回の詳細な資料作成と発表を行うほか、担当しない回についてもテキストを事前に読み込み、グループ討議に備える。
学修成果到達目標	1）社会学分野のテキストを深く読むことができるようになる。 2）社会学分野の広範な知識を得て活用することができるようになる。 3）社会学的なものの見方や考え方を身につけて、卒業論文に活かすことができるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	ケイン樹里安・上原健太郎（編著）『ふれる社会学』北樹出版　2019年
参考書	授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回のグループ討議の発表への講評として口頭で行う。
留意事項	各回の授業内容は受講生数に応じて変更される。 変更後の具体的な授業スケジュールはClassroomに掲出する。
オフィスアワー	４月に学生演習室に掲出。
実践的教育	

授業名	文献講読ａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方について （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを熟読し「社会学」について調べておく
第2回	100年前の社会学にふれる	（学修内容）社会学の古典であるデュルケームやウェーバーの議論 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト15章と前回の配布プリントを熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第3回	スマホにふれる	（学修内容）メディアとコミュニケーション （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト1章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第4回	飯テロにふれる	（学修内容）孤食と可能性としての共同性 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト2章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第5回	就活にふれる	（学修内容）就活世界を形作る文化と社会集団 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト3章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第6回	労働にふれる	（学修内容）感情労働とやり甲斐搾取 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト4章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第7回	観光にふれる	（学修内容）観光のまなざしと地域イメージ （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト5章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第8回	スニーカーにふれる	（学修内容）ストリートと黒人文化 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト6章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第9回	よさこいにふれる	（学修内容）身体技法のルーツと文化の再領土化 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト7章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第10回	身体にふれる	（学修内容）本質主義と構築主義 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト8章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第11回	レインボーにふれる	（学修内容）LGBTとフェミニズム （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト9章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第12回	「外国につながる子ども」にふれる	（学修内容）見えない子どもたちとコンタクト・ゾーンとしての学校 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト10章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第13回	ハーフにふれる	（学修内容）帰属の政治とアイデンティティ （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト11章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第14回	差別感情にふれる	（学修内容）隠れた差別感情と社会学的想像力 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト12章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する
第15回	「障害」にふれる	（学修内容）障害の社会モデルと障害のまわり （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト13章を熟読する 事後：復習し、分からないところを質問する

授業名	文献講読ｄ・ｅ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3214
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	根岸　裕子・有田　真理	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	文献を精読し、内容についてディスカッションすることにより、汎用な読解力を養う。また、自らがもつ疑問がどこまで明らかにされており、残されている課題がどこにあるのかについて考えていく力をつけていくことを目指す。
学修成果到達目標	1）図表を正しく読み取ることができる 2）文献内容を理解し説明することができる 3）問題点を明確にしていくことができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	プリントを使用。各自で文献をプリントアウトして用意してもらうこともあります。
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	文献を適切に読みこなすことができているか、コメントを付けて返却するとともに解説を行う。
留意事項	文献はしっかりと自分で読んでいくことが大切ですので、主体的に取り組み、研究テーマへの理解を深めていくこと。
オフィスアワー	掲示にてお知らせします。
実践的教育	

授業名	文献講読ｄ・ｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方と資料についての説明 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで、興味のある分野を考えリスト化しておく
第2回	文献を読むための基礎(1) 資料の検索方法	（学修内容）自分の求める資料の検索方法について （事前事後学修課題の内容） 自分の興味ある事柄について、キーワードを書き出しておく
第3回	文献を読むための基礎(2) 図表の読み方	（学修内容）図表から読み取れることについてまとめ文章化する （事前事後学修課題の内容） 宿題に出された資料の図表の意味を説明できるようにしておく
第4回	文献を読むための基礎(3) 統計について	（学修内容）文献によく用いられる検定法等について理解する （事前事後学修課題の内容） 与えられた統計に関する基本事項に関する資料より、自分の研究方法で用いる群間比較の統計手法を選択できるようにしておく
第5回	論文を読む　和文論文(1) 要旨、諸言について	（学修内容）論文の輪読を通して、要旨、緒言から内容の概略について理解する （事前事後学修課題の内容） 論文中のわからない語句について調べておく でてくる参考文献についても調べておく
第6回	論文を読む　和文論文(2) 方法について	（学修内容）論文の輪読を通して、研究方法について理解する （事前事後学修課題の内容） 行われている方法や測定事項について、何を明らかにするのかについて調べておく
第7回	論文を読む　和文論文(3) 結果、図表について	（学修内容）論文の輪読を通して、図表を読み取り明らかになったことについて理解する （事前事後学修課題の内容） 図表に目を通し、ポイントを書き出し、発表できるようにしておく
第8回	論文を読む　和文論文(4) 考察	（学修内容）論文の輪読を通して、この研究で明らかになったこと、問題点などをまとめていく （事前事後学修課題の内容） これまでの内容を復習し、論文のアウトラインをまとめておくこと
第9回	和文論文の検索	（学修内容）興味のあるキーワードより、研究テーマの参考となる文献を検索し、論文を複数入手する （事前事後学修課題の内容） 第2回の講義内容を復習し、キーワードを複数リスト化しておくこと
第10回	和文論文の内容をまとめる	（学修内容）各自入手した論文に書かれた課題、問題点を理解し、解決策を模索していく （事前事後学修課題の内容） プレゼンテーションの準備をする
第11回	和文論文の内容を発表(1)	（学修内容）各自選んだ論文の内容を発表し、質疑応答について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 各発表について、考察をし、問題点や良い点を書き出しておく
第12回	和文論文の内容を発表(2)	（学修内容）各自選んだ論文の内容を発表し、ディスカッションを通して内容について理解していく （事前事後学修課題の内容） 全員の発表より、参考となる内容について考察をし、選んだ研究テーマについて理解を深める
第13回	英文論文の検索	（学修内容）英文の文献検索の方法について （事前事後学修課題の内容） 関心のある事柄についてのキーワードを英語で書き出しておく
第14回	英文論文を読む	（学修内容）自分の興味のある英文文献を読んで理解し、発表する （事前事後学修課題の内容） 選んだ論文の要旨を読んでまとめておく
第15回	まとめ	（学修内容）文献の読み方について復習する （事前事後学修課題の内容） 自分の興味のある内容について、アウトラインを作成する。また、先行研究をまとめ、自分の研究の背景をまとめておく

授業名	文献講読ｃ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3214
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	上田　有里奈	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要

本講義で扱うテキストについて：世界で「反面教師化」する日本の少子化対策。家族社会学者である著者が、日本の少子化対策が失敗した原因を分析・総括するとともに、日本特有の状況に沿った対策は可能なのかをさぐる内容。
具体的には、以下に挙げた失敗の原因を分析・総括しながら、今後の日本にとって有効な少子化対策について考察しています。
◆欧米の慣習や価値意識をモデルの前提としてしまった
◆日本の若者の本音に目を向けず、切実な現実をスルーした
◆お金がかかることには動きが鈍く、触れたがらない政府
テキストの講読を通して、「クリティカル・リーディング」(批判的読解：テキストの性格を見極め、それを正確に読み取り、内容を理解し、そこから自分なりの論考を加える作業)の練習をしていくとともに、データの見方についても勉強していきます。授業では、話をまとめる練習として、要約の実践を進めていき、そこから自分なりに考えたことを論理的に文章化する練習を行います。

学修成果到達目標

1）テキストの構造を理解することができる。
2）テキストの内容を的確に読み取り、解釈することができる。
3）その解釈から自分なりの論考を加え、それを論理的に文章化することができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連

○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

山田昌弘(2020)『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか? 結婚・出産が回避される本当の原因』光文社新書。
授業で毎回使用します。

参考書

授業時に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して必要なコメントとアドバイスを行う。

留意事項

初回に授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること。
また、受講者の状況によって、進度・内容を調整することがある。

オフィスアワー

毎週1回オフィスアワーを設けます。
【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。
また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。

実践的教育

授業名	文献講読ｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方やスケジュールについて説明します。 （事前事後学修課題の内容） シラバスで内容を確認する。
第2回	テキストの構造とクリティカル・リーディング	（学修内容）テキストの構造や、クリティカル・リーディングについて学び、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 学習したことを今後の授業で活かせるよう、しっかりと復習する。 次週の授業に向けて、課題に取り組む。
第3回	論理的な文章の書き方	（学修内容）論理的に文章を書くスキルを身に付ける。 （事前事後学修課題の内容） 事前に課題に取り組み授業に参加するとともに、授業で学習したことを今後の授業で活かせるよう、しっかりと復習する。
第4回	日本の少子化対策の失敗	（学修内容）日本の少子化対策の失敗の流れについて要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP20-36を読む。
第5回	日本の少子化対策の失敗理由	（学修内容）日本の少子化対策の失敗理由について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP38-54を読む。
第6回	日本の少子化対策における「欧米中心主義的発想」の落とし穴	（学修内容）日本がはまった落とし穴について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP56-68を読む。
第7回	欧米にあって日本にないもの(①「成人した子は自立する」という習慣)	（学修内容）欧米と日本の若者に関する自立志向の違いについて要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP68-82を読む。
第8回	欧米にあって日本にないもの(②恋愛感情-ロマンティック・ラブ-)の重視	（学修内容）欧米と日本における恋愛・結婚をめぐる考え方の違いについて要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP83-98を読む。
第9回	欧米にあって日本にないもの(③「子育ては成人まで」という意識)	（学修内容）欧米と日本における子育てをめぐる考え方の違いについて要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP99-115を読む。
第10回	日本の少子化を語る上で外せない日本人特有の価値意識(①生涯にわたる生活設計とリスク回避意識)	（学修内容）日本人特有の価値意識(①生涯にわたる生活設計とリスク回避意識)について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP118-132を読む。
第11回	日本の少子化を語る上で外せない日本人特有の価値意識(②世間体意識)	（学修内容）日本人特有の価値意識(②世間体意識)について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP133-148を読む。
第12回	日本の少子化を語る上で外せない日本人特有の価値意識(③強い子育てプレッシャー)	（学修内容）日本人特有の価値意識(③強い子育てプレッシャー)について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP149-156を読む。
第13回	日本での有効な少子化対策とは(日本の少子化の根底にあるもの)	（学修内容）日本での有効な少子化対策の前提としての、日本の少子化の根底にあるものについて要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP158-169を読む。
第14回	日本での有効な少子化対策とは	（学修内容）日本での有効な少子化対策について要約する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストP169-187を読む。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業の総まとめ （事前事後学修課題の内容） これまでの内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる。

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ	開講学年	3回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	根岸　裕子・富安　広幸・林　育代・森　久美子・塩田　二三子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	3回生春学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、卒業論文のテーマを決めるために、関心が高い分野の先行研究や関連資料を収集して、課題を整理し、研究方法、調査法、分析法、結果の出し方と考察法を学んでいく。ゼミの中で、関連文献を紹介し、意見交換し、卒論研究のテーマを絞っていく。課題探究力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めていく。
学修成果到達目標	1)　先行研究から学び、明らかにしたい課題を絞っていき、卒業研究テーマを自ら決定することができる。 2)　研究目的を明らかにし、そのための研究方法を検討し、決めていくことができる。 3)　様々な情報をもとに、論理的な文章を書くことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	■口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	コメントをつけて返却する。
留意事項	2回生秋学期までの学習を通して、関心の幅を広げ、卒論研究のテーマを自ら決定できるよう、先行研究や資料を集め、学んでおくこと。 なお、卒業演習はゼミの時間だけで行うものではないので、計画的に研究を行うように心がけること。また、学科単位で実施する演習、セミナー等には参加し、研究活動に役立てること。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	ゼミ担当者より指示する。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒論研究の概要について	（学修内容）卒業演習のスケジュールと進め方について （事前事後学修課題の内容） 卒業研究テーマについて考えておく
第2回	研究発表1-1（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメ、討論テーマの準備
第3回	研究発表1-2（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメ、討論テーマの準備
第4回	研究発表1-3（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメ、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容） 面談資料の作成と提出
第6回	個別指導（面談）1-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容） 面談資料の作成と提出
第7回	研究発表2-1（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第8回	研究発表2-2（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第9回	研究発表2-3（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの配布、討論テーマの準備
第10回	個別指導（面談）2-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容） 面談資料としてレポートを作成する
第11回	個別指導（面談）2-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容） 面談資料としてレポートを作成する
第12回	研究発表3-1（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 問題点を整理し、方向性を検討する
第13回	研究発表3-2（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 問題点を整理し、方向性を検討する
第14回	研究発表3-3（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 問題点を整理し、方向性を検討する
第15回	3回生春学期の卒論演習の振り返り	（学修内容）3回生春学期の卒論演習を振り返る 研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 卒論研究進捗状況の報告と研究方法、研究計画を作成し提出する

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ	開講学年	4回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之・宮川　紀宏・西川　由紀子・馬場　まみ・湯浅　俊郎	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目ざす。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。
学修成果到達目標	1）卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進めることができる。 2）各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表することができる。 3）各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において、出された質問に対して適切に応答できると同時に今後の研究課題を認識できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	発表時においては、その都度アドバイスする。
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の目的、研究進捗状況の確認をする （事前事後学修課題の内容） 先行研究を読み込んでおく
第2回	研究発表１－①（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第3回	研究発表１－②（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第4回	研究発表１－③（研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第8回	個別指導（面談）１－④（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第9回	個別指導（面談）１－⑤（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第10回	研究発表２－①（研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	研究発表２－②（研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第12回	研究発表２－③（研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第13回	個別指導（面談）２－①（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第14回	個別指導（面談）２－②（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第15回	個別指導（面談）２－③（現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）

授業名	健康マネジメント	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2432
英文名	Health Management	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	平　正人	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要

生涯を通じて健康な身体とこころを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因の知識を深めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを日常生活で実践し自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。健康や食に関するビデオを見たり、身の回りの食品を調査し、これをプレゼンテーションして意見交換を行う授業とする。

学修成果到達目標

1）健康の大切さを理解することができる。
2）生活習慣病の背景要因と疾病予防を理解することができる。
3）女性のライフステージ別や高齢期における健康問題を理解し、予防に取り組むことができる。
4）健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション
■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

日本健康マスター検定公式テキスト　日本健康生活推進協会（編）（日本健康生活推進協会）最新刊

参考書

適時参考文献などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題やレポート等に対する質問などへの回答や解説を行う。

留意事項

積極的に発言するように、授業に臨んでください。

オフィスアワー

授業の中で紹介、連絡します。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務

授業名	健康マネジメント

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・オリエンテーション ・健康マスターについて	（学修内容）・健康とは何か！・・健康に生きることとは（食事、運動、休養がバランスよく保持され、継続していること） （事前事後学修課題の内容） テキストの関連個所を読んで予習し、まとめておくこと。
第2回	食生活と健康－１ （塩分について）	（学修内容）健康と塩分の関係について学ぶ。 自己の塩分摂取について把握し、健康づくりに役立てる （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる塩分を調べる。
第3回	食生活と健康－２ （エネルギー、糖質について）	（学修内容）健康と糖質の関係について学ぶ 自己の糖質摂取量について把握し、健康づくりに役立てる （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる糖質を調べる。
第4回	食生活と健康－３ （エネルギー、脂質について）	（学修内容）健康と脂質の関係について学ぶ。 自己の脂質摂取について把握し、健康づくりに役立てる （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる脂質を調べる
第5回	嗜好を見直す	（学修内容）嗜好飲料、アルコール、タバコなどの嗜好品について学ぶ 自己の利用している嗜好品について把握し、健康づくりに役立てる （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる嗜好品を調べる。
第6回	身体活動・運動と健康－１	（学修内容）身体活動量をふやす工夫について学ぶ 有酸素運動とレジスタンス運動を理解し、健康づくりに役立てる （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 現在の身体活動量を調べておく
第7回	身体活動・運動と健康－２	（学修内容）運動を継続するコツを学ぶ （100歳まで歩ける体づくり） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 運動量を増やし継続するために必要な事柄をまとめておく
第8回	睡眠と心の健康	（学修内容）ストレスの影響と対策を学ぶ （睡眠の影響と対策） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 ストレスについて、睡眠の時間と質についてまとめておく
第9回	がんの対策	（学修内容）生活習慣でがんの予防方法を学ぶ （がん検診の役割） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自身の健康診断結果などを確認しておく
第10回	救急の知識	（学修内容）万一の備え（事故、災害、非常時）を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが万一の場合に備えている対策をまとめておく
第11回	高齢の家族の健康	（学修内容）100歳まで元気で過ごすための注意と工夫を学ぶ （認知症の予防） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 寿命について自らの考えを整理しておく
第12回	女性の健康	（学修内容）少子化問題、妊娠と出産、サルコペニアについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 少子化の問題、妊娠と出産、骨粗鬆症についてまとめておく
第13回	口の健康	（学修内容）歯周病は万病の元であることを理解し、予防方法を学ぶ （8020運動について） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自分の歯の状態を確認しておく
第14回	感染症を予防	（学修内容）感染症と人の健康について学ぶ （ワクチンと健康） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 感染症の予防として自らが実行している内容をまとめておく
第15回	健康を支える仕組み 健康の啓発	（学修内容）医療保険制度と介護保険制度につて学ぶ 健康改善法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回の復習と、今回の関連個所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが継続できる健康法についてまとめておく

授業名	生涯学習論	開講学年	1･2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2441
英文名	Theory of Lifelong Learning	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	橋本　道範	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、日本文化1回生				

授業の概要

人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。

学修成果到達目標

1）生涯学習の意義について説明することができる。
2）生涯学習施設の支援のあり方について説明することができる。
3）生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを行うことができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

授業中にプリントを配布します。

参考書

佐藤晴雄『生涯学習概論（第3次改訂版）』（学陽書房）など。適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

添削後返却します。

留意事項

地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。

オフィスアワー

初回の授業で連絡します。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として勤務、滋賀の食事文化研究会に属し、江戸時代のフナズシの再現実験に挑戦した経験から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野においたフィールドワーク教育を行う。

授業名	生涯学習論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：生き生き生きるために	（学修内容）家族や知人など、身近な人々の学習について考えてみる。 （事前事後学修課題の内容） 身近な人々がどんな学習をしているか考えておく。
第2回	年齢に応じた学習	（学修内容）年齢に応じてどのような学習が必要なのか解説する。 （事前事後学修課題の内容） 身近なところで学習がどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	「生涯学習」の誕生	（学修内容）生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 生涯学習を意義について考えてくる。
第4回	社会教育	（学修内容）生涯学習の核である社会教育について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 学校以外にどのような学習機関があるか考えてくる。
第5回	生涯学習政策	（学修内容）生涯学習を支える法と政策を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 生涯学習の実現方法について考えてくる。
第6回	公民館と生涯学習	（学修内容）生涯学習を支える公民館活動について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の公民館利用について考えておく。
第7回	図書館と生涯学習	（学修内容）生涯学習を支える図書館活動について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の図書館利用について考えておく。
第8回	博物館と生涯学習	（学修内容）生涯学習を支える博物館活動について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の博物館体験について考えておく。
第9回	その他の生涯学習施設	（学修内容）生涯学習センターやスポーツ施設について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の生涯学習活動についてまとめておく。
第10回	生涯学習の方法―参加型学習	（学修内容）参加型学習についてその重要性を指摘する。 （事前事後学修課題の内容） 博物館でどんな活動をしてみたいか考えておく。
第11回	ボランティアについて	（学修内容）日本におけるボランティアの展開について解説する。 （事前事後学修課題の内容） どんなボランティアがしてみたいか考えておく。
第12回	生涯学習と地域づくり	（学修内容）生涯学習を活かしたまちづくりについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の効果	（学修内容）生涯学習の効果に関する研究成果を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	新しい生涯学習―ウエルビーイング・キャリアデザイン	（学修内容）新しい生涯学習の流れを解説する。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の生涯学習をどのようにデザインするか考えてみる。
第15回	生き生き生きるために	（学修内容）授業のまとめを行う。 （事前事後学修課題の内容） 家族や知人の生涯学習をどのようにデザインするか考えてみる。

授業名	衣生活論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1302
英文名	Clothing and Human Life	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	馬場　まみ	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	私たちは、販売されている多くの既製服のなかから選択し、購入して衣服を着用している。快適な衣生活を営むためには、衣服の材料やサイズ、管理の方法などの知識が必要である。本講義では、衣服の役割や機能、衣服に関する基礎的な知識について学ぶ。さらに、衣生活に関わる現代的課題について考える。
学修成果到達目標	1. 衣服の機能を理解し、説明することができる。 2. 快適な衣生活に関する基礎的知識を身につけ、説明することができる。 3. 衣生活にかかわる課題を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	消費者の視点からの衣生活概論［井上書院］
参考書	随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。
実践的教育	

授業名	衣生活論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）講義の目的と授業の進め方について （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで学びの目標を理解する
第2回	衣服の役割	（学修内容）衣服の役割と機能を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、衣服の役割と機能について予習する。授業後衣服の役割をまとめる。
第3回	衣服材料１：繊維の種類	（学修内容）繊維の種類と特色を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に繊維の種類を調べる。授業後自分の衣服の繊維を調べて提出する。
第4回	衣服材料２：天然繊維	（学修内容）天然繊維の種類と特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） 天然繊維について予習する。授業後天然繊維の特徴をまとめる。
第5回	衣服材料３：化学繊維	（学修内容）化学繊維の種類と特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に化学繊維について調べる。授業後化学繊維の種類と特徴をまとめる。
第6回	衣服材料４：糸と布の種類	（学修内容）糸の種類と織物の構造を理解する （事前事後学修課題の内容） 糸の種類と織物の種類を予習する。授業後織物の種類と特徴をまとめる。
第7回	衣服のデザイン	（学修内容）衣服と色彩、デザインを理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、衣服デザインについて予習する。授業後自分の衣服のデザインを調べる。
第8回	体型と衣服	（学修内容）体型と衣服サイズの関係性を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を読んで体型について予習する。授業後体型と各部の名称をまとめておく。
第9回	身体計測	（学修内容）身体計測の方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に身体の計測方法について調べる。授業後計測方法の種類と特徴をまとめる。
第10回	衣服と型紙	（学修内容）原型、型紙の基本的な構造を理解する （事前事後学修課題の内容） 配付資料を読んで、衣服の型紙について予習する。授業後縮小したサイズの原型を書く。
第11回	衣服のサイズ規格と表示	（学修内容）衣服のサイズ規格と表示方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に衣服のサイズ表示について調べる。授業後自分の衣服のサイズ表示を調べる。
第12回	快適な衣服：気候と衣服	（学修内容）衣服と体温調節について理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読んで、体温調節の方法を予習する。授業後それぞれの季節に適した衣服についてまとめる。
第13回	衣服の手入れと洗濯	（学修内容）洗濯と洗剤について理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読んで、洗剤の種類と役割を予習する。授業後市販されている洗剤の表示を調べる。
第14回	衣服と環境	（学修内容）サステナブルファッションについて理解する （事前事後学修課題の内容） サステナブルファッションについて予習する。授業後サステナブルファッションについて考えたことを提出する。
第15回	現代社会と衣服	（学修内容）衣生活に関わる現代的課題について考える （事前事後学修課題の内容） 衣生活に関わる課題について考える。

授業名	住生活論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2209
英文名	Living Life Theory	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 モノの見方・考え方は多様であることを再認識するとともに、住まいの意味と必要性、生活と家計、ライフスタイルと住まい方などの視点から幅広く学び、"豊かな暮らし"について考える。授業はプレゼンやディスカション、フィールドワークなどを中心に受講生と共に考え試行錯誤するため、授業に積極的に参加する意識と姿勢が必要となる。受講者数、施設の公開状況、受講者の参加姿勢、プレゼンおよびディスカッションの内容などにより、グループワークの有無、フィールドワークの回数が変更となる可能性があり、授業日程が変則的になる場合もある。また授業と先方のスケジュール都合によって、フィールドワークを他学年と合同実施する場合がある。
学修成果 到達目標	1）授業内容を自分の暮らしにフィードバックし、自らの考えを持ち意見を述べる事ができる。 2）日常生活の背景に様々な要素が影響していることを理解し、住まい方の多様性について説明できる。 3）自分の物差しを用いてモノゴトを観察分析し、より良い状況に向けた論理的な思考ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜、資料配布または情報共有する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、ディスカッション、レポートなど提出物などに対し、必要に応じた採点またはコメントをする。
留意事項	フィールドワークでは、迷惑行為、禁止行為は厳禁、各自責任を持った行動を厳守すること。フィールドワーク対象は、授業内の ディスカッションなどによって変更になる可能性がある。スマートフォンが必要。授業の状況や、フィールドワークの訪問先の都合等によって、土曜や日曜などに授業日を振り替える可能性がある。履修者数により授業内容が変わる可能性がある。フィールドワークでは入館料等が必要となるが、京都市キャンパス文化パートナーズ制度によるアプリ「KYO- DENT」の登録と学生証の提示により、費用を低く抑えられる場合がある。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	住生活論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の意図と方向性の共有。 フィールドワークのスケジュール調整 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークの日程調整のため、学期中のスケジュールを把握しておく。シラバスの内容を確認する。
第2回	住まいの必要性	（学修内容）住まいの要素、空間の機能の必要について考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題説明をよく聞き、まとめてくる。
第3回	暮らしのアウトソーシング	（学修内容）日常生活のアウトソーシングの可能性を考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第4回	住まいの間取り：検討	（学修内容）仮想世帯を設定し最適な住まいについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第5回	住まいの間取り：作成	（学修内容）ライフスタイルに合わせた住まい方を想像しレイアウトしてみよう。 （事前事後学修課題の内容） 課題説明をよく聞き、まとめてくる。
第6回	住まい方を提案しよう	（学修内容）プレゼンテーションとディスカッション （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第7回	家計と経済	（学修内容）ライフスタイルの違いによる簡易な家計シミュレーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第8回	モノの見方（基本）	（学修内容）アート史を通して自分のモノの見方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第9回	暮らしとアート思考	（学修内容）アート思考と暮らしの中の思考プロセスをリンクして考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第10回	暮らし方から広がる連想	（学修内容）暮らしに関わる様々な事例について考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題説明をよく聞き、まとめてくる。
第11回	モノの見方（応用）	（学修内容）モノの見方・捉え方を意識しながら、美術館でのフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料などの学習および授業の振り返る。 課題指示があれば提出する。
第12回	モノの見方（実践）	（学修内容）モノの見方・捉え方を意識しながら、美術館でのフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークに伴う課題、レポートなどに向けた準備をする。 発表の準備をする。
第13回	暮らしの連想：発表	（学修内容）人の暮らしに関わる様々な事例を発表する。 プレゼンを通して多様性について考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題説明をよく聞き、まとめてくる。 指定の課題について発表の準備をする。
第14回	暮らしの連想：コメント	（学修内容）人の暮らしに関わる様々な事例を発表する。 プレゼンを通して多様性について考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題説明をよく聞き、まとめてくる。 指定の課題について発表の準備をする。
第15回	まとめ	（学修内容）授業の振り返りとまとめ。 （事前事後学修課題の内容） 授業内容をまとめておく。 課題をよく読み、対応できるよう準備しておく。

授業名	家庭経済学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2213
英文名	Home Economics	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	今や「人生100年時代」。人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴い変化する、働き方・暮らし方に役立つお金の知識や活用方法について学びます。 授業を通して、自らが家計管理や生活設計について考えるとともに、自らの生活および社会のなかで共に暮らす様々な人の生活を視野に入れながら、豊かさを実現できる社会保障制度や経済の仕組みについて考える機会にしたいと考えます。
学修成果到達目標	1）「家計」をめぐる基本的概念や用語など、基礎的知識を習得できる。 2）家庭経済が果たしている機能を理解できる。 3）家庭経済学を通して見える日本の社会制度やシステムの課題を理解できる。 4）学校生活や将来の生活のために必要なお金の知識や活用方法を身に付けることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	授業のなかで適宜紹介します。 テキストの購入の必要はありません。
参考書	『新訂　生活経済学』重川純子（一般財団法人 放送大学教育振興会) 『ジェンダーで学ぶ生活経済論【第2版】』伊藤純・斎藤悦子(ミネルヴァ書房) そのほか、授業時に適宜紹介します。 テキストの購入の必要はありません。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	授業計画については、受講人数や実際に授業を進めるなかで、多少進度や内容に変更が生じる可能性があります。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、在室できない場合があります。 あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにして下さい。
実践的教育	

授業名	家庭経済学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学生生活で必要なお金	（学修内容）今後の授業の流れについて説明します。学生生活で必要なお金について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業のスケジュールについて、しっかりと確認する。
第2回	進学にかかるお金と奨学金	（学修内容）進学や学生生活にかかるお金と奨学金について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 進学や学生生活にかかるお金について、自分のケースで考える。
第3回	お金との付き合い方	（学修内容）お金との付き合い方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 賢いお金の使い方、様々なお金の使い方について理解する。
第4回	いろいろな働き方、税金、保険、	（学修内容）いろいろな働き方と、暮らしを支える税金や保険について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 働き方の選択肢や、それに伴う税金・保険の仕組みを理解し、自分に合った働き方やライフプランを考える。
第5回	社会保険、民間保険	（学修内容）社会保険、民間保険についてより発展的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 社会保険と民間保険の仕組みを理解するとともに、自分や家族の生活を守るために適切な制度・商品について考える。
第6回	労働環境の現状と最低賃金制度	（学修内容）労働環境の現状と最低賃金制度について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 労働環境と最低賃金制度の現状を理解し、労働者の権利や社会的課題について考察する。
第7回	将来設計を考える(前半)	（学修内容）自分自身の将来設計を考える。 （事前事後学修課題の内容） 将来の生活やキャリアについて主体的かつ具体的に考え、自分に合った人生設計を考える。
第8回	将来設計を考える(後半)	（学修内容）自分自身の将来設計を考える。 （事前事後学修課題の内容） 将来の生活やキャリアについて主体的かつ具体的に考え、自分に合った人生設計を考える。
第9回	お金を貯める、増やす	（学修内容）お金の運用方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 貯蓄と投資の基本を学び、将来に向けた適切な資産形成の方法を理解する。
第10回	お金を借りる時の注意点	（学修内容）お金を借りる時の注意点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） お金を借りる際の仕組みやリスクを理解し、適切な判断と計画的な返済を行う力を身につける。
第11回	契約・トラブル	（学修内容）契約について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 契約の基本的な仕組みとトラブルの回避方法を学び、安心して契約を結ぶための知識を身につける。
第12回	消費者信用と多重債務	（学修内容）消費者信用と多重債務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 消費者信用の仕組みとリスクを理解し、無理のない借入れと適切な返済計画を立てる力を身につける。
第13回	ライフプランとお金	（学修内容）自分のキャッシュフロー表を作成する。 （事前事後学修課題の内容） ライフプランとお金の関係を理解し、将来の収支を見据えた計画的な資産形成を行う力を身につける。
第14回	持続可能なライフスタイルを創造するための生活主体者としての取り組みについて(前半)	（学修内容）私達一人一人が、社会の一員として、持続可能な生活や社会を実現するために必要なことは何かを考える。 （事前事後学修課題の内容） 持続可能な社会の実現に向けて、生活の中でできる具体的な行動を考え、生活主体者としての責任ある選択を実践する力を身につける。
第15回	持続可能なライフスタイルを創造するための生活主体者としての取り組みについて(後半)	（学修内容）私達一人一人が、社会の一員として、持続可能な生活や社会を実現するために必要なことは何かを考える。 （事前事後学修課題の内容） 持続可能な社会の実現に向けて、生活の中でできる具体的な行動を考え、生活主体者としての責任ある選択を実践する力を身につける。

授業名	比較家族論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2318
英文名	Comparative Study of Family	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	秋山　裕之	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。ほぼ毎回小グループによる話し合いを行う。
学修成果到達目標	1）文化・地域・歴史などによる家族の多様性についての知識を身につける。 2）家族の形と社会のあり方の関係を理解することができる。 3）子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内でコメントする。
留意事項	ほぼ毎回、小グループでの話し合いとその発表があります。積極的に発言して下さい。
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	比較家族論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家族とは何か～はじめに	（学修内容）家族の定義について考える （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読み、「家族とは何か」について考えておく 事後：復習して分からないところを質問する
第2回	家族の起源	（学修内容）霊長類の社会集団 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第3回	アフリカ狩猟採集民１	（学修内容）ブッシュマンにとっての家 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	アフリカ狩猟採集民２	（学修内容）ブッシュマンの親族名称とChild Care System （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	東アフリカ牧畜民	（学修内容）東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	アフリカ農耕民	（学修内容）アフリカ農耕民の家族と親族集団 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	極北インディアン	（学修内容）ヘヤー・インディアンにおける家族 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	イスラム圏	（学修内容）イスラム圏における家族 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第9回	西洋	（学修内容）西洋キリスト教社会における家族 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第10回	タイ	（学修内容）タイの家族（末娘相続） （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第11回	韓国	（学修内容）家父長制と儒教理念 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第12回	一妻多夫	（学修内容）一妻多夫制の家族 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読んでおく 事後：復習して分からないところを質問する
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	（学修内容）家族と社会の関係・日本の家族 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読み、討論に備えて自分の考えをまとめておく 事後：復習して分からないところを質問する
第14回	子を育てる社会的装置	（学修内容）子育ての比較文化論 （事前事後学修課題の内容） 事前：資料を読み、討論に備えて自分の考えをまとめておく 事後：復習して分からないところを質問する
第15回	家族とは何か～おわりに	（学修内容）授業をふまえて家族について考える グループワークとその発表 （事前事後学修課題の内容） 事前：討論に備えて自分の考えをまとめておく 事後：他の発表について良かった点を考える

授業名	地域福祉論Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2433
英文名	Theory of Community Welfare I	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	田中　真美	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要

社会福祉法では、「地域福祉の推進について福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活ができるように、社会、経済、文化、その他、あらゆる分野の活動に参加する機会が提供される」ように目的を明言しています。
この様に地域福祉の目的は、個人の尊厳を大切にして、福祉サービスの利用者がその有する能力を発揮し、自立した日常生活を営むことが出来るように支援するものです。
誕生から死を迎えるまで、地域社会で生活する私たち、近年、地域包括支援システム、社会福祉法人改革、地域共生社会、地域においての高齢者問題、子どもの居場所作りなどの活動が生まれています。
本講義では地域福祉について学び、これからの地域福祉のあり方について考え、グループワークも取り入れて、ゲスト講師も招いて、自分たちの住む地域福祉について考察する思考力を高めることを目指して授業を進めます。

学修成果到達目標

1)地域に根付く福祉的な援助システム、住民自治の役割を理解できる。
2)地域の暮らしと住民の創意と工夫で新しい地域福祉の取り組みを考えることができ、具体的にレポートなどを作成できる。
3)地域福祉と私たちの暮らしの関わりを理解し、考察し、ほかの人にも伝えることができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連

○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

授業時、適宜、資料配布する

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。

留意事項

授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。

オフィスアワー

個別の質問など、授業後に受付け、あるいはメールにても対応します。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：急性期病院の医療社会事業部職員（医療ソーシャルワーカー）

授業名	地域福祉論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	地域福祉とは？	（学修内容）地域福祉の理念と理論について理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に日常生活を送っている地域について整理する。 事後は、授業内容の復習を行う。
第2回	地域福祉の歴史	（学修内容）地域福祉が生まれた背景を知り、戦前、戦後の地域福祉の進歩が理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の住む地域の地域福祉の歴史を整理する。 事後は、授業内容の復習を行う。
第3回	地域福祉と包括的支援体制	（学修内容）2018年の改正社会福祉法で新設された体制がどの様に構築されたかを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に新しい支援体制により変化する社会環境を考える。 事後は、新設された体制の具体的な変化をまとめる。
第4回	地域福祉と権利	（学修内容）地域福祉の重要な課題である権利擁護は、一人ひとりの権利を脅かす問題について、どのように解決するかを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に地域福祉と人の関わりで大切なものを考える。 事後は、権利擁護について、復習する。
第5回	地域福祉の推進方法	（学修内容）地域福祉の機能を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にどのように個別に対応するのが地域で対応するのかを考える。 事後は、具体的な地域福祉の推進方法を調べる。
第6回	地域福祉を担う専門職の役割 (ゲストスピーカー)	（学修内容）ケアマネジメントの「ケア」に携わる人の役割を理解する。（特別招聘講師、介護支援専門員） （事前事後学修課題の内容） 事前に、専門職と協同するための課題を考える。事後は、授業を受けての感想を提出する。
第7回	地域福祉と社会福祉協議会	（学修内容）社会福祉協議会の役割について理解し、住民の福祉課題の活動について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の住む、地域の福祉課題について整理する。事後は、自分の住む社会福祉協議会について調べる。
第8回	地域福祉と地域生活移行	（学修内容）地域移行が必要とされた背景を理解し、また、地域生活移行についての課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に地域生活移行の実際について整理する。事後は、課題を解決する方策を考える。
第9回	地域福祉と子育て支援	（学修内容）子どもの権利に基づいた子育て支援が地域社会で行われることが理解出来る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、地域社会における子どもの権利が守られる為に大事なことを考える。事後は、子育て支援についてレポートにまとめる。
第10回	地域福祉の施設での高齢者支援 （ゲストスピーカー）	（学修内容）地域の中での音楽療法を通じて実践する音楽療法士に具体的に活動内容、その役割などを学ぶ（特別招聘講師、音楽療法士） （事前事後学修課題の内容） 事前に地域の中にある施設での取り組みについて考える。事後は、ゲストスピーカの講義を受講して感想を提出する。
第11回	地域福祉計画の内容	（学修内容）2000年、社会事業法が改正され、社会福祉法が施行され、地域福祉の推進が規定され、地域福祉計画が立てられた内容を理解出来る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自分の住む地域の地域福祉計画を学ぶ。事後は、具体的に地域福祉計画を考える。
第12回	地域福祉計画の実際	（学修内容）地域福祉計画の実際の事例から具体的な地域福祉計画を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に地域での身近な事例を調べる。事後は、実際の事例から学んだことを整理する。
第13回	参加型地域社会の創造	（学修内容）地域福祉における住民の主体的な参加が大切であることが理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、住民の主体的な参加活動を調べる。事後は、住民として参加することの意義を整理する。
第14回	地域福祉計画の立案と立案のポイント	（学修内容）地域福祉計画を自分自身でたててみて、具体的に理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の住む地域で自分自身がコミュニティワーカーとなり立案、整理する。事後に多様な意見を聞き、まとめる。
第15回	まとめ　地域福祉の課題	（学修内容）講義を通じて、地域福祉の課題について、まとめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に地域福祉についての課題を解決する方法を考え、レポートにまとめて提出する。復習として、地域福祉についての授業内容を整理する。

授業名	保健医療サービス	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	HE4328
英文名	Health Care Services	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	髙岡　理恵	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	この授業のねらいは、①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向、②保健医療にかかわる政策、制度、サービス、③保健医療領域における社会福祉士の役割と連携を理解することです。時代によって求められる保健医療サービスは変化しているため、高齢化による社会構造の変化や歴史を理解することから始めます。 保健医療サービスは社会福祉士国家試験の必修科目となっていることからも、社会福祉士がなぜ保健医療サービスを学ぶのかを理解するために、医療ソーシャルワークの技術や価値を聞く機会を持つとともに、多職種の役割や多職種と社会福祉士の連携について学びます。 授業は、講義を中心としますが、グループワークやディスカッションで学びの深化を行います。
学修成果到達目標	1. 社会保障制度、特に医療保険制度について説明できる。 2. 医療ソーシャルワーカーの業務内容・方法等の概要を説明できる。 3. 保健医療サービスの関連従事者を理解し、連携する際の留意点について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	最新社会福祉養成講座５『保健医療と福祉』中央法規出版
参考書	随時、授業で資料を配付します。参考書の関しては必要に応じて紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	授業後、振り返りシートへ記載されたものについてコメントをいれて返却を行う。
留意事項	ひとつひとつ確実に知識をつけるために、わからないところは質問をしてください。テキストは必ず持ってきてください。
オフィスアワー	授業時に発表します。
実践的教育	

授業名	保健医療サービス

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の進め方 社会福祉士が保健医療サービスを学ぶ意味	（学修内容）シラバスをもとに授業の進め方を理解する。 ライフサイクルにおける保健医療サービスについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　社会福祉士が「保健医療」を学ぶ意味について考え、まとめる。 事後　テキストｐ13～22でわからないところに下線を引いておく。
第2回	保健医療サービスの歴史的変遷についての理解1 家族の変容と病者や家族の理解	（学修内容）少子高齢化による人口構造の変化と家族形態の変容について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ13～22でわからないところに下線を引いておく。 事後　テキストｐ62～73でわからないところに下線を引いておく。
第3回	保健医療サービスの歴史的変遷についての理解2 歴史からみる保健医療の動向	（学修内容）入院医療から在宅医療への変遷について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ62～73でわからないところに下線を引いておく。 事後　テキストｐ74～85でわからないところに下線を引いておく。
第4回	保健医療サービスの歴史的変遷についての理解３ 保健医療における福祉的課題	（学修内容）医療費無料の時代から現代の保健医療の動向について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ74～85でわからないところに下線を引いておく。 事後　日本における疫学転換について調べ、レポートにする。
第5回	疾病構造の変化 疫学転換	（学修内容）疾病構造とその経年的な動向について学びそれに伴う保健と社会の役割について理解する。調べてきたものを基にディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　日本における疫学転換について調べ、レポートにする。 事後　優生保護法と母体保護法について調べてくる。
第6回	保健医療サービスの医療倫理と倫理的課題１ 優生学と保健医療政策	（学修内容）日本の優生保護法から母体保護法の歴史について学び医療倫理の変遷について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　優生保護法と母体保護法について調べてくる。 事後　アドバンスケアプランニングを調べてくる。
第7回	保健医療サービスのの医療倫理と倫理的課題２ 患者の意思決定をめぐる課題	（学修内容）アドバンスケアプランニングやアドバンスディレクティブという、患者の権利や権利を守るしくみについてディスカッションを行い考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　アドバンスケアプランニングを調べてくる。 事後　医療提供施設について調べる。
第8回	保健医療の政策・制度、サービスの提供体制 医療法の概要、医療提供施設	（学修内容）様々な医療提供施設について理解する。（図書館利用） （事前事後学修課題の内容） 事前　医療提供施設について調べる。 事後　テストに備えて勉強する。
第9回	保健医療サービスの提供体制、サービスの提供体制 医療提供施設	（学修内容）病院の定義や役割、病院の類型について学ぶ。（小テスト） （事前事後学修課題の内容） 事前　テストに備えて勉強する。 事後　第1次改正から第8次改正の要点をまとめる。
第10回	医療法の改正	（学修内容）医療法の改正ポイントをおさえ、医療政策を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　第1次改正から第8次改正の要点をまとめる。 事後　テキスト162～170でわからないところに下線を引いておく。
第11回	保健医療領域における専門職の役割と連携１ 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	（学修内容）医療ソーシャルワーカーの業務指針を概観し、グループワークを取り入れながら業務を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト162～170でわからないところに下線を引いておく。 事後　ゲストスピーカーに質問を考えてくる。
第12回	保健医療領域における専門職の役割と連携２ 医療ソーシャルワーカーが行う医療関係者との連携の実際	（学修内容）ゲストスピーカーから退院援助・社会復帰支援及び医療関係者との連携について話を聞く。 （事前事後学修課題の内容） 事前　ゲストスピーカーに質問を考えてくる。 事後　授業を受けて感想を書く。1200字～1800字。
第13回	医療費の保障１ 社会保障制度の概要と医療保険制度	（学修内容）社会保障制度のひとつである医療保険制度のしくみについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　５つの社会保障を言えるようにしておく。 事後　自身の加入している医療保険について調べてくる。
第14回	医療費の保障２ 医療保険制度の概要	（学修内容）医療保険制度の特徴と種類、医療保険の給付について学ぶ。 調べてきたものを基にディスカッション行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　自身の加入している医療保険について調べてくる。 事後　テキストｐ105～117でわからないところに下線を引いておく。
第15回	保健医療サービスの提供と経済的保障	（学修内容）公費負担医療と無料定額診療に関する基礎的知識を得る。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ105～117でわからないところに下線を引いておく。 事後　国家試験問題を解く。

授業名	ライフスタイルと法	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2422
英文名	Lifestyle and Law	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	水野　彰子	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	日常生活において、法律を意識する機会は少ないかもしれません。しかし法律は日常生活を支える屋台骨であり、就職・結婚・出産・養育・老後といった私たちの人生の様々な段階で法律がかかわってきます。この講義では、人生の各段階で生じる問題を法的観点から考えていきます。随時、Googleクラスルームを使用した小テストを行います。
学修成果到達目標	1）身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。 2）人生の各段階で直面する様々な問題を、法的問題として対処ができる。 3）市民生活の諸側面を、法的観点から理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	指定の教科書はありません。プリントを毎回配布します。
参考書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、その他、適宜授業中に紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	小レポート等について、講評・コメントを行ったうえで返却します。
留意事項	講義に関連するニュースについて、適宜、受講者に発表してもらいます。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：弁護士として執務

授業名	ライフスタイルと法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業概要の説明、現代における日常生活で直面する問題と法律の関係の概要を説明します。 （事前事後学修課題の内容） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、関心がある法的問題を選定しておく。
第2回	労働と法（身近な労働問題）	（学修内容）アルバイトや就職で直面するブラック企業や賃金未払いなどの問題を、労働基準法など法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第3回	労働と法（ワーク・ライフ・バランス）	（学修内容）生活と仕事の両立の問題について、育児介護休業法など法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第4回	消費者と法	（学修内容）消費者契約法や特定商取引法などの消費者保護を法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第5回	不動産・事故と法	（学修内容）アパートの賃貸借契約や自動車事故などの問題を法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第6回	恋愛と法	（学修内容）恋愛に関連する犯罪、DV（ドメスティック・バイオレンス）やストーカーなどの問題について、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第7回	結婚と法	（学修内容）婚姻時の財産の扱いなどの問題について、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第8回	離婚と法	（学修内容）離婚の種類や親権などについて、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第9回	出産と法	（学修内容）出産にかかわる問題を、母体保護法やリプロダクティブ・ヘルス／ライツなどを含め、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第10回	子どもと法	（学修内容）親権の内容や改正の動き、児童福祉法や児童虐待防止法など、子どもの権利と親の義務について、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第11回	介護と法	（学修内容）老人福祉法や介護保険法などとともに、家族内で生じる介護の問題を、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第12回	相続と法	（学修内容）遺産相続、遺言の効力、相続税など相続に関連する問題を、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第13回	犯罪と法	（学修内容）犯罪に巻き込まれた場合に直面する問題について、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第14回	外国と法	（学修内容）海外渡航に伴う問題や訪日する外国人が巻き込まれる問題について、法的側面から学びます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返ります。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。

授業名	社会調査の基礎	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2311
英文名	Basics of Social Survey	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史的変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても説明する。また、授業において、データセットの方法などデータ整理の実習も進めていきます。 各回の課題の提出はICTを活用して実施する。
学修成果到達目標	1）社会調査の種類や方法・手順が理解できる。 2）調査設計の流れが理解できる。 3）新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業にて、適宜資料を配布する。
参考書	適宜、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	ICTなどを活用して、課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく）。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。
実践的教育	

授業名	社会調査の基礎

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスの内容について確認しておいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	（学修内容）社会調査の内容について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、アンケート調査を集めてみてください。事後、集めたアンケート調査と照ら合わせて、授業内容を整理してみてください。
第3回	社会調査の倫理について	（学修内容）社会調査における倫理について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、集めたアンケート調査の注意事項をみておいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	（学修内容）社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、生活行動を調べるには、どのようなものが資料となるか整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第5回	社会調査の種類Ⅰ 目的による分類について	（学修内容）社会調査の3つの方法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、質的調査の例を集めてみてください。事後、集めたアンケート調査と照ら合わせて、授業内容を整理してみてください。
第6回	社会調査の種類Ⅱ 方法による分類について--量的調査	（学修内容）アンケート調査について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、アンケート調査で工夫されていることについて整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第7回	社会調査の種類Ⅲ 方法による分類について--質的調査	（学修内容）インタビューなど質的調査について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、「今の気分」について、家族や友人にインタビューしてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第8回	社会調査の種類Ⅳ 統計的研究について	（学修内容）統計的な検定の考え方などについて説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、アンケート調査の結果を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第9回	社会調査の種類Ⅴ 事例研究について	（学修内容）事例研究について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、興味のあることについて事例を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第10回	社会調査の種類Ⅵ 調査対象による分類について	（学修内容）社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、興味のあることについて調査計画をたててみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第11回	実習：統計データを加工する。	（学修内容）統計データへのアクセスの仕方と加工について実習します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、総務統計局のホームページに入り、興味のあるデータを集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第12回	実習：アンケート調査の方法と手順	（学修内容）アンケート調査の方法と手順について実習します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、興味のあるアンケート調査を集めてみてください。事後、集めたアンケート調査と照ら合わせて、授業内容を整理してみてください。
第13回	実習：アンケートの作成	（学修内容）アンケートを作成していくなかで、アンケート調査について大事なポイントを整理していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、ワーディングの問題に注意して、質問文を考えてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第14回	実習：聞き取り調査の方法と手順	（学修内容）インタビューの実習をします。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてみてください。事後、インタビューの内容を整理する。
第15回	実習：ライフヒストーリーの作成	（学修内容）ライフヒストリーの作成の実践をおこないます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、インタビュー内容をみて、補充の質問を考えてみる。事後、再度、内容を整理し、ストーリーを作成する。

授業名	循環型社会論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1303
英文名	Theory of Resource-circulating Society	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、日本文化1回生				

授業の概要

今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。
各回の課題の提出はICTを活用して実施します。

※　受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。

学修成果到達目標

1）物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析してくことを試みられる力を身につけることができる。

2）現代のライフスタイルを客観的に見ることができる。

3）環境に関するデータを読むことができる。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
□授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

授業時に資料を配布します。

参考書

『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ，『サスティナビリティ学③　資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住　明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会

課題に対するフィードバックの方法

ICTなどを活用して、課題に対して必要なアドバイスを行います。

留意事項

日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応
用し、授業中課題（ミニッツペーペー）にも、その成果を出せるようにする。（受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります）。

オフィスアワー

毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。

実践的教育

授業名	循環型社会論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の内容と進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスで内容を確認しておいてください。事後、授業内容（蛍はどのような水に住んでいるのか）を整理してみてください。
第2回	自然保護についてⅠ　――獣害の問題	（学修内容）各地で起こっている獣害の状況について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、獣害に関する新聞記事を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第3回	自然保護についてⅡ　――人間と人間との関係	（学修内容）人間と動物との関係の歴史を考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、人間と動物との関係についての例を考えてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第4回	自然保護についてⅢ　――コウノトリの野生復帰	（学修内容）　自然保護の例として、半栽培の方法について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自然保護に関する新聞記事などを集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第5回	生活環境主義について	（学修内容）　自然保護ばかりではなく、人間の生活も考えなければならないという生活環境主義という考え方について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、電気などがなければ無理なことを整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第6回	環境問題の社会史Ⅰ　-産業公害から高速交通公害	（学修内容）　環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、　身の回りにおける環境問題を整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第7回	環境問題の社会史Ⅱ　-生活公害から地球環境問題	（学修内容）現代における環境問題を考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第8回	開発と環境問題の歴史Ⅰ：公害問題について	（学修内容）　今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、現代のライフスタイルにおける環境問題の原因について整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第9回	開発と環境問題の歴史Ⅱ：生活環境問題について	（学修内容）高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について整理してみください。事後、授業内容を整理してみてください。
第10回	グループワーク：開発と環境問題の現状に関して考察する。	（学修内容）　授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、現代の環境問題の特徴について整理してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第11回	地球環境問題とSDGs	（学修内容）地球環境問題の概要について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、SDGsに関する記事を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第12回	循環型社会への取組Ⅰ――無農薬の困難性について	（学修内容）　人工的なものが、いかに危害を加えているのか、について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、農薬に関する記事を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第13回	循環型社会への取組Ⅱ　――無農薬農法の条件について	（学修内容）　無農薬農法と循環型社会の形成がつながっていることについて考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、無農薬農法に関する記事を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第14回	循環型社会への取組Ⅲ　――自然再生の困難性について	（学修内容）自然再生の困難さについて考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自然再生に関する記事を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第15回	生活協同組合について	（学修内容）生活協同組合の取組について考察して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、近所の生協の活動を調べてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。

授業名	保育内容（環境）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3446
英文名	Child Care：Environment	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	荘厳　茶茶	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	領域「環境」の意義・目的をふまえ、保育環境整備を実践する上で必要となる視点、環境構成の技術、指導・援助・配慮の方法等を事例を通して学ぶ。また、演習ワークによって模擬的に環境構成実践をおこなう。
学修成果到達目標	1)子どもの生活や心身の発達と、環境との相互作用の関連性を理解し、様々な保育活動における環境的「ねらい」を捉えることができる。 2)子どもを取り巻く環境の各要素について、「ねらい」をもつ保育内容を考えることができる。 3)環境構成に関するPDCAを意識することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	佐藤純子(編)　『＜領域＞環境ワークブック―基礎理解と指導法―』　萌文書林　2020年
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。
留意事項	多様な仲間や考えに対する積極的態度と、他者に伝わりやすい文章構成を心がけ、授業に臨むことが望ましい。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。
実践的教育	

授業名	保育内容（環境）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	領域「環境」における保育および教育の目標	（学修内容）領域「環境」の定義、意義、目標 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する。
第2回	領域「環境」の意義　―ねらいと内容―	（学修内容）3法令における領域「環境」のねらいと内容 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	人的環境との関わり　―保育者の役割―	（学修内容）子どもと「人的環境」の相互作用、留意点、実践事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	身近な生き物や自然との関わり	（学修内容）子どもと「自然環境」の相互作用、留意点、実践事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	身近な素材と道具との関わり	（学修内容）子どもと「物的環境」の相互作用、留意点、実践事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	地域社会・施設との関わり	（学修内容）子どもと「社会環境」の相互作用、留意点、実践事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	情報機器との関わり	（学修内容）子どもと「IT環境」の相互作用、留意点、実践事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	数量や図形との関わり	（学修内容）「環境」から数量・図形を学ぶ機序と事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	標識や文字などに関心をもつ	（学修内容）「環境」から標識・文字を学ぶ機序と事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	文化や伝統、行事などに親しむ	（学修内容）保育・生活の中の文化行事、伝統行事の役割と事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	子どもの安全環境	（学修内容）専門家講話「保育における安全上のリスクと管理」 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。講話からの学習内容を整理し、ワークをおこなう。
第12回	小学校との連携　―アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム―	（学修内容）保幼小の連携・接続の意義、重要性、カリキュラム （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	領域「環境」と保育の展開　―指導計画の意義・作成・実践例―	（学修内容）環境的「ねらい」をもつ保育活動の流れと、その指導計画の立案・実践例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	領域「環境」をめぐる現代的な課題	（学修内容）現代社会の環境変化に伴う保育上の課題 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	（学修内容）14回の学修内容の総括、振り返り （事前事後学修課題の内容） 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授業名	情報処理論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1407
英文名	Information Processing	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	情報通信技術の発展によって家庭生活における情報通信機器の用途の多様化が進んでいる。情報通信機器やインターネットによる利便性を享受するだけではなく、その仕組みを理解することによって自分の使い方に適した情報通信機器の選択、ネットワークのセキュリティ対策ができるようになる。本授業では家庭生活や職場で求められる情報処理に関する基礎知識の習得をめざす。
学修成果 到達目標	デジタル化が進む社会において求められる以下の基礎的な情報処理に関する4項目の知識を習得できる 1）ハードウェア 2）コンピュータシステム 3）ネットワーク 4）プログラミング
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	無し（適宜資料を配布する）
参考書	適宜示す
課題に対するフィードバックの方法	授業内で講評したり、場合によっては一人ひとりへ提出物をコメントを加え返却する
留意事項	シラバスをよく読み事前事後の学修を進めること
オフィスアワー	授業期間中の毎週水曜日のお昼休み
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：2009年から5年間程度、特定非営利活動法人学習開発研究所の所員として、アナログ回路・デジタル回路の技術者のスキルアップをめざした学習システムの開発と実践に携わる。

授業名	情報処理論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・ガイダンス ・計算機（コンピュータ）の歴史	（学修内容）・シラバスを読み本科目のねらいと内容を説明できる ・計算機が発展の過程を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを事前に読み、授業の見通しをたてる 事後；計算機の歴史をレポートにまとめる
第2回	・コンピュータの構成	（学修内容）・五大装置の役割と主な装置について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：所持するコンピュータのCPUの性能を調べてくる 事後：五大装置の役割を事例を挙げレポートにまとめる
第3回	・主記憶と補助記憶 ・半導体メモリ	（学修内容）・主記憶と補助記憶の機能を説明できる ・半導体メモリの機能を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：所持するコンピュータの記憶装置について調べてくる 事後：各メモリの特徴をレポートにまとめる
第4回	・半導体産業	（学修内容）・半導体をめぐる政治や経済の情勢を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：半導体に関係する会社を1社取り上げ調べてくる 事後：半導体をめぐる政治経済情勢をレポートにまとめる
第5回	・入出力	（学修内容）・入出力装置の種類を説明できる ・入出力インターフェースについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：身の周りにあるコンピュータ入出力に関する装置を調べてくる 事後：入出力装置とインターフェースの要点をレポートにまとめる
第6回	・コンピュータの形態	（学修内容）・コンピュータの処理形態と利用形態について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：スーパーコンピュータについて調べてくる 事後：コンピュータの処理と利用の形態をレポートにまとめる
第7回	・IOT	（学修内容）・IOTシステムを具体的な事例を挙げて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：ドローンが使用される実例を調べてくる 事後：IOTの要点を具体例を挙げてレポートにまとめる
第8回	・インターネットの発展過程	（学修内容）・インターネットの黎明期から現在に至る過程を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：動画投稿サイトやSNSができたきっかけやねらいを調べてくる 事後：インターネットの発展の過程をレポートにまとめる
第9回	・ネットワークの構成	（学修内容）・無線LANを含むネットワークの構成を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：Wi-Fiに関する記事を調べまとめてくる 事後：ネットワークの構成をレポートにまとめる
第10回	・通信プロトコル	（学修内容）・通信プロトコルについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：プロトコルの語源を調べてくる 事後：OSI基本参照モデルについてレポートにまとめる
第11回	・インターネットの仕組み	（学修内容）・IPアドレスについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：IPアドレスに関する記事を調べまとめてくる 事後：インターネットの基本的な仕組みをレポートにまとめる
第12回	・Webページ	（学修内容）・WWWについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：Cookieに関する記事を調べまとめてくる 事後：WWWにて展開されるサービスをレポートにまとめる
第13回	・アルゴリズム	（学修内容）・アルゴリズムの基礎を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：Scratchの操作環境を整える 事後：Scratch上で課題を作成する
第14回	・プログラミングの基礎	（学修内容）・Scratchの基本的な操作を実行できる （事前事後学修課題の内容） 事前：作成したScratchの課題を発表できる準備をすすめる 事後：Scratchの応用課題を作成する
第15回	・プログラミングの実践	（学修内容）・Scratchを用いて簡単なゲームなど制作できる （事前事後学修課題の内容） 事前：取り組む課題を完成させる 事後：授業内で受けた助言をもとにプログラムを修正する

授業名	現代生活学論Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1201
英文名		開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	家庭生活と地球環境は密接に関連している。本科目ではその具体的な諸相をとりあげ、将来を展望する。 具体的には、伝統的な社会における人々の生活と自然環境との関係と、現代日本の都市部におけるそれとの対比を通して、日本の各家庭が持続可能な社会の形成に寄与するための方向性を探る。
学修成果 到達目標	1）環境学の基礎を学び、資源利用への生態学的な視点を身につける。 2）人類の伝統的な暮らしと自然環境との関係を知り、現代社会と対比して考えることができる。 3）現代日本において持続可能な社会を目指すための指針をもち、自分で考えられるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料もほぼ毎回用いる。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出するコメントからピックアップして翌週に全体で共有する。
留意事項	毎回のコメントをしっかり考えて書いてください。質問はそこに併記して構いませんし、メールや直接研究室でも受け付けます。座席は指定します。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	現代生活学論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション　環境とは何か	（学修内容）本科目の進め方、環境について （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスの内容を確認しておく 事後：人間と関係の関係について考える
第2回	持続的発展の理論形成史	（学修内容）持続的発展、MSY理論、宇宙船地球号、SDGs （事前事後学修課題の内容） 事前：Sustainableという概念について予習しておく 事後：復習して分からないところを質問する
第3回	地球温暖化のメカニズムと社会的影響	（学修内容）地球温暖化、生態学的な視点 （事前事後学修課題の内容） 事前：地球温暖化について調べておく 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	地球温暖化への取り組み	（学修内容）二酸化炭素排出量、家庭生活 （事前事後学修課題の内容） 事前：家庭生活でできることを考える 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	コモンズの悲劇の成立条件と回避条件	（学修内容）コモンズの悲劇 （事前事後学修課題の内容） 事前：「共有資源」とは何か調べてくる 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	食の問題　日本を中心に	（学修内容）食料自給率、有機栽培 （事前事後学修課題の内容） 事前：日本の食の問題について考える 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	持続的な環境利用　アフリカ狩猟採集社会	（学修内容）ブッシュマン、ピグミーの暮らし （事前事後学修課題の内容） 事前：狩猟採集生活について想像する 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	人口抑制の制度　東アフリカ牧畜民社会	（学修内容）牧畜、年齢階梯制 （事前事後学修課題の内容） 事前：牧畜民の暮らしについて想像する 事後：復習して分からないところを質問する
第9回	焼畑農耕の持続可能性	（学修内容）焼畑農耕、自然のサイクルと人の営み （事前事後学修課題の内容） 事前：生態学的に持続可能なモデルを考える 事後：復習して分からないところを質問する
第10回	持続性を支える経済	（学修内容）分配、交換、使用価値、生業経済、貨幣 （事前事後学修課題の内容） 事前：現金で買うことと物々交換との違いを考える 事後：復習して分からないところを質問する
第11回	循環型社会への取り組み	（学修内容）物質循環、ゴミ問題、リサイクル （事前事後学修課題の内容） 事前：リユース経験のリストを作る 事後：復習して分からないところを質問する
第12回	プラスチックごみと３Ｒ	（学修内容）プラスチックごみ問題 （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の生活から出るプラスチックごみを確認する 事後：復習して分からないところを質問する
第13回	環境の社会化	（学修内容）人類の環境への適応 （事前事後学修課題の内容） 事前：自然のサイクルと人の営みの関係を考える 事後：復習して分からないところを質問する
第14回	SDGsについて①　概要と17目標	（学修内容）SDGsの概要、意義、17の目標 （事前事後学修課題の内容） 事前：SDGsの入門動画を視聴しておく 事後：復習して分からないところを質問する
第15回	SDGsについて②　内容と実践事例	（学修内容）学生の関心度に応じていくつかの目標を選択し、解説と実践事例の紹介 （事前事後学修課題の内容） 事前：SDGsの入門動画を視聴しておく 事後：復習して分からないところを質問する

授業名	現代生活学論Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1204
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	馬場　まみ	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生、食物栄養1回生				

授業の概要	戦後の日本社会は、高度経済成長やバブル経済、バブル崩壊を経て大きく変化してきた。そして、経済状況や社会のあり方が変化するなかで、女性のライフコースも多様化してきた。 本講義では、戦後女性の仕事や結婚を取りまく社会状況がどのように変化し、現在どのような状況にあるのかを概観する。さらに、国際比較もふまえ、女性が多様なライフコースを選択できる社会のあり方について考える。
学修成果到達目標	(1) 戦後の女性のライフコースの変化を説明できる。 (2) 現代における女性をとりまく社会状況を理解できる。 (3) 現代女性が選択するライフコースの現状を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。
参考書	随時参考書を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	現代生活学論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）講義内容と授業の進め方について （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで学びの目標を理解する。
第2回	ライフコースとは	（学修内容）ライフコースとは何かを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にライフコースについて調べ、授業後にライフコースの社会調査の結果をまとめる。
第3回	戦後の出来事と社会の変化	（学修内容）戦後社会を概観し、高度経済成長、バブル経済、バブル崩壊により経済状況と社会が変化したことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に戦後の出来事の年代を調べ、授業後に年表を完成させる。
第4回	1960年代から1970年代半ば①経済成長と産業化の進展	（学修内容）高度経済成長期に産業構造が変化し、それに伴って働き方が変化したことを理解する （事前事後学修課題の内容） 産業構造の変化について予習する。授業後に産業構造が変化した要因をまとめる。
第5回	1960年代から1970年代半ば②高度経済成長期の生活の変化	（学修内容）産業構造の変化により生活スタイルが変化したことを理解する （事前事後学修課題の内容） 高度経済成長期における家庭生活の変化について予習する。事後に生活の変化をまとめる。
第6回	1960年代から1970年代半ば③高度経済成長期の女性の労働	（学修内容）経済成長期の産業構造の変化により女性の働き方が変化したことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料を読み女性労働に求められた役割を考える。事後に女性の労働の課題を考える。
第7回	1970年代半ばから1980年代①男女雇用機会均等法の成立	（学修内容）女性差別撤廃条約の締結を契機として男女雇用機会均等法が成立したことを理解する （事前事後学修課題の内容） 女性差別撤廃条約と男女雇用機会均等法について予習する。授業後に法律の要点をまとめる。
第8回	1970年代半ばから1980年代②女性の仕事に対する意識	（学修内容）1980年代に女性の仕事に対する意識に変化が生じたことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料から女性の仕事に対する意識を考える。授業後に仕事に対する意識が変化した社会背景を整理する。
第9回	1970年代半ばから1980年代③女性の結婚に対する意識	（学修内容）1980年代に女性の結婚に対する意識に変化が生じたことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料から女性の結婚に対する意識を考える。授業後結婚に対する意識の変化をまとめる。
第10回	1990年代以降①バブル崩壊後の経済と社会状況	（学修内容）1990年代以降のグローバル化と社会の変化を理解する （事前事後学修課題の内容） グローバル化について予習する。授業後グローバル化によって生じた社会の変化をまとめる。
第11回	1990年代以降②男女共同参画社会基本法	（学修内容）男女共同参画社会基本法成立の背景と法律の内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 男女共同参画社会基本法について予習する。授業後法律の要点をまとめる。
第12回	1990年代以降③女性の仕事と家庭生活	（学修内容）女性の仕事と家庭生活の状況をデータからよみとり理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に現代女性の生活における課題を考える。授業後女性の生活に関わる課題をまとめる。
第13回	国際比較①生活時間と労働	（学修内容）国際比較のデータから、日本における男女の労働のあり方の実態を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料のデータから日本の働き方の特徴を考える。事後に日本の労働の課題をまとめる。
第14回	国際比較②労働と社会に対する意識	（学修内容）国際比較のデータから、日本人の労働や社会のあり方に対する意識を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料のデータから日本人の労働に対する意識を考える。授業後にデータからわかることを整理する。
第15回	これからの社会と女性のライフコース	（学修内容）多様なライフコースが選択できる社会のあり方を考える （事前事後学修課題の内容） これまで資料を読み返し、現状と課題を整理する。

授業名	現代生活学演習Ⅱｓａ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	**盧　珠妍**	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	このゼミでは、「教育学」に関連したテーマを中心として、文献講読を通して、教育学のみならず他の芸術、文化、思想、社会へと関心領域を拡げ、卒業論文執筆に必要な基礎的スキルの修得を目指します。秋学期は、各自、課題を設定し、実際に個人研究を行います。これまで習得してきた“学びのスキル”である文献の探し方、アカデミック・ペーパーの書き方、プレゼンテーションの仕方などを確認します。その後、個別発表を行います。
学修成果到達目標	1　文献検索に関わる研究リソースの機能と使い方を把握し、基本的な調査のための作法を身につける。 2　課題に関する文献を正確にかつ批判的に読む力をつける。 3　文章構成および文章作成のルールを中心に文章を書く力を身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内でコメントする。
留意事項	学生の発表そのものが全員の学びのための教材になります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。
オフィスアワー	授業後および研究室在室時に対応する。
実践的教育	

授業名	現代生活学演習Ⅱｓａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容、評価等について説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく。 事後：授業内容を確認しておく。
第2回	夏休み研究課題成果報告	（学修内容）夏休み中に行った研究活動について報告する。 （事前事後学修課題の内容） 報告の準備。
第3回	アカデミック・スキル確認①	（学修内容）課題に関する先行研究等の文献の探し方について。研究テーマについて再検討する。 （事前事後学修課題の内容） 個人研究のデータを整理しておく。
第4回	アカデミック・スキル確認②	（学修内容）レジュメ・レポートの書き方および発表の仕方について。 （事前事後学修課題の内容） 学修した内容を整理、理解しておく。
第5回	リサーチ・クエスチョンの設定と計画	（学修内容）リサーチ・クエスチョンの設定と計画の立案をする。 （事前事後学修課題の内容） 文献を読む。 発表の準備。
第6回	研究計画の構想発表	（学修内容）研究計画の構想発表と意見を取り入れ、実施可能な計画に修正をする。 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備。 資料の整理。
第7回	課題研究①	（学修内容）計画にそって取り組む。 （事前事後学修課題の内容） 文献、論文を読む。
第8回	課題研究②	（学修内容）計画にそって取り組む。 （事前事後学修課題の内容） 文献、論文の内容をまとめる。 発表資料の作成。
第9回	課題研究③中間報告	（学修内容）課題の取り組み状況を報告し、個人研究の内容を深める。 （事前事後学修課題の内容） 発表資料の作成。 学修内容の整理。論文を読む。
第10回	課題研究④	（学修内容）学修内容の整理。中間報告での課題をまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 学修内容の整理。中間報告での課題に関する論文を収集する。
第11回	課題研究⑤	（学修内容）学修内容の整理。中間報告後に収集した論文を読む。 （事前事後学修課題の内容） 学修内容の整理。論文を読む。
第12回	課題研究⑥	（学修内容）課題研究のまとめと報告・発表会資料を作成する。レジュメとプレゼンテーションの方法を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 報告・発表会の準備。資料作成。
第13回	報告・発表会①	（学修内容）課題研究を報告・発表し、自分の意見を述べ他者からの新たな意見を取り入れ学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 報告・発表会の準備。資料作成。
第14回	報告・発表会②	（学修内容）課題研究を報告・発表し、自分の意見を述べ他者からの新たな意見を取り入れ学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 報告・発表会の準備。資料作成。
第15回	まとめ	（学修内容）意見交換を行い本授業の学びの確認とまとめをする。 （事前事後学修課題の内容） これまでの資料を整理しまとめる。

授業名	現代生活学演習Ⅱｓｃ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	現代家政学演習Ⅰをふまえて，自分の研究を修正・発展させながら研究を深めていく。必要の応じて研究の方向性を再考しながらプレゼンテーションとディスカッションを行い，レポートにまとめる。
学修成果到達目標	1）調査研究の方法やレポートのまとめ方について，基本的なことを身につけることができる。 2）発表の場を通して，自分の考えをわかりやすくプレゼンテーションすることができる。 3）参考文献や現場取材などを通して，視野を広げることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適時　関連するものを用意して配付
参考書	特になし
課題に対するフィードバックの方法	授業内で，適時アドバイスする。
留意事項	各自の発表は，全員の大切な学びの教材です。ゆとりを持って準備を行い，活発な意見交換を期待します。
オフィスアワー	毎週１回設定
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校，京都教育大学附属小学校，京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	現代生活学演習Ⅱｓｃ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏休み中の研究成果について交流	（学修内容）秋学期の授業の進め方 夏休み中の研究成果について報告 （事前事後学修課題の内容） 報告準備
第2回	研究経過報告資料の作成	（学修内容）研究経過報告資料の作成について（よりよいスライドづくりの方法を学ぶ） （事前事後学修課題の内容） 研究経過報告資料の発表準備を行いスライドを完成させる
第3回	研究経過報告A	（学修内容）研究経過報告１回目 （事前事後学修課題の内容） 発表者はスライドを作り直し提出をする 発表者以外は気付いたことなどをまとめ提出する
第4回	研究経過報告B	（学修内容）研究経過報告2回目 （事前事後学修課題の内容） 発表者はスライドを作り直し提出をする 発表者以外は気付いたことなどをまとめ提出する
第5回	研究経過報告振り返り	（学修内容）全員分の研究経過報告を振り返り意見交流をする （事前事後学修課題の内容） 自分の研究をすすめ、スライドに反映させる
第6回	自分の研究をすすめる	（学修内容）新たな資料検索、計画の修正等を行う （事前事後学修課題の内容） およその考察をまとめスライドに反映させる
第7回	資料作成	（学修内容）発表用資料を作成する （事前事後学修課題の内容） 研究のデータを整理し、スライドを作成する
第8回	報告資料（スライド）をもとにテキストにまとめる	（学修内容）これまでの研究をテキストにまとめる （事前事後学修課題の内容） 発表準備(資料文書提出)
第9回	研究経過報告（テキスト）	（学修内容）テキストでの研究経過報告を交流する （事前事後学修課題の内容） 発表準備(資料文書提出)
第10回	研究経過報告（テキスト）の修正	（学修内容）研究経過報告（テキスト）の修正をする （事前事後学修課題の内容） 発表準備(資料文書提出)
第11回	研究経過報告（テキスト）の修正と交流	（学修内容）研究経過報告（テキスト）の修正と交流を行う （事前事後学修課題の内容） 発表に向けて自分の資料を推敲する
第12回	研究発表会用資料の修正と作成（テキストとスライド）	（学修内容）研究発表に向けて校レまでのテキストやスライドを修正しながら作成する （事前事後学修課題の内容） 発表準備(スライド提出)
第13回	研究発表会A	（学修内容）研究発表会を行う（半数）と意見交流を行う （事前事後学修課題の内容） 発表者はスライドとテキストを修正し提出をする 発表者以外は気付いたことなどをまとめ提出する
第14回	研究発表会B	（学修内容）研究発表会を行う（残りの半数）と意見交流を行う （事前事後学修課題の内容） 発表者はスライドとテキストを修正し提出をする 発表者以外は気付いたことなどをまとめ提出する
第15回	研究発表会まとめ	（学修内容）研究発表会まとめ、総括 （事前事後学修課題の内容） 秋学期の学びについてレポートにまとめる

授業名	文献講読b	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3214
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	盧　珠妍	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	「子ども」という存在について私たちはどのように理解しているのか。取り上げるテキストは、様々なメディア世界が開く子どもの生命世界について人間学、現象学の観点から論じている。「遊び」「身体」「体験」「表現」「生命」といったキーワードはそれぞれ子どもをめぐる諸問題とどのように結び合うのか。本書は、子どもに関心を持つ読者に、様々な面から有益な示唆を与えるものである。プレゼンテーションやディスカッションを通して「子ども」という存在について吟味、再考する。
学修成果到達目標	1）文献を正確にかつ批判的に読む力をつける。 2）本テキストの講読を通して、教育学のみならず他の芸術、文化、思想、社会へと関心領域を拡げる。 3）理論的・実証的に検討することを通して、「子ども」という存在についての考察が深まる。 4）レジュメにまとめたものを発表し、質疑応答を通して、自分の学びを他者と共有する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	矢野智司『幼児理解の現象学―メディアが開く子どもの生命世界―』萌文書林、2014年。
参考書	授業時に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	発表の都度、アドバイスする。
留意事項	テキストを精読し、著者が書いていることを正確に理解した上で、自分なりに考察すること。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	文献講読b

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の内容と進め方について説明し、テキストの発表まとめの担当を決める。 （事前事後学修課題の内容） テキストの目次に目を通し、全体の流れを把握しておく。
第2回	テキストの概要	（学修内容）テキストの内容を概略つかむ。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのキーワードについて調べておく。
第3回	子ども理解の臨界点と生命論的転回	（学修内容）テキスト序章について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト序章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第4回	生命論とメディア身体の教育学（1） メディアを生みだす生命の哲学とメディアとしての身体	（学修内容）テキスト第１章、第１～３節について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第１章、第１～３章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第5回	生命論とメディア身体の教育学（2） 体験し生成する身体	（学修内容）テキスト第１章、第４～６節について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第１章、第４～６節を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第6回	健康領域論：運動体験がもたらす世界の転回	（学修内容）テキスト第２章について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第２章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第7回	言語領域論：子どもに世界を開く言葉の力	（学修内容）テキスト第３章について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第３章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第8回	表現領域論：メディアが開く子どもの表現世界	（学修内容）テキスト第４章について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第４章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第9回	人間関係領域論：子どもが集団遊びのなかで作るメディア	（学修内容）テキスト第５章について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第５章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第10回	環境領域論：子どもが動物と出会うことの畏れと喜び	（学修内容）テキスト第６章について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第６章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第11回	生命の子どもとメディア変容	（学修内容）テキスト第７章について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第７章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第12回	子どもの悪の体験と自己の変容	（学修内容）テキスト第８章について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第８章を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第13回	メディアが開く生命の幼児教育（1） 遊ぶ子どもの力とメディアの思想	（学修内容）テキスト第９章、第１～２節について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第９章、第１～２節を読みまとめる。授業終了後はその内容についてさらに吟味する。
第14回	メディアが開く生命の幼児教育（2） 生命論的転回と幼児教育学の革新	（学修内容）テキスト第９章、第３～４節について発表、考察する。 （事前事後学修課題の内容） 授業前にテキスト第９章、第３～４節を読みまとめる。授業後はその内容についてさらに吟味する。
第15回	まとめと考察	（学修内容）テキスト全体についてまとめ、考察する。 （事前事後学修課題の内容） テキストを通して何を学んだかをまとめておく。

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ	開講学年	3回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之・山中　信子・西川　由紀子・馬場　まみ・湯浅　俊郎	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して，卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目ざす。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む 。
学修成果到達目標	1）卒業研究テーマとして取り上げる自身の関心領域についてどのような面から分析し、考察を進めていくのかを明確に記述、説明することができる。 2）卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定することができる。 3）学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につけることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	発表時においては、内容に対してコメントをつけます。レポート、論文に関して、個別指導を行います。
留意事項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに，積極的に先行研究や関連資料にあたる。3回生春学期に卒業演習プレゼミを実施することもある。 研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心をもち，意見交換・考察・討議する習慣をもつ。 主体的積極的に研究を進める。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を演習室前に掲示）。 オフィスアワー以外は、事前予約が望ましい。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	３回生秋学期ガイダンス　自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	（学修内容）３回秋から４回秋のスケジュール、卒業論文作成要項、３回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 （事前事後学修課題の内容） プレゼミ課題・夏期課題の提出
第2回	研究発表１－①（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第3回	研究発表１－②（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第4回	研究発表１－③（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第8回	研究発表２－①（先行研究・資料の研究）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第9回	研究発表２－②（先行研究・資料の研究）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第10回	研究発表２－③（先行研究・資料の研究）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	個別指導（面談）２－①（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第12回	個別指導（面談）２－②（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第13回	個別指導（面談）２－③（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 （事前事後学修課題の内容） 面談資料持参（ゼミ担当分１部；自分用１部）
第14回	研究発表３－①（研究テーマの確定）（３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握）	（学修内容）研究テーマの確定・３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第15回	研究発表３－②（研究テーマの確定）（３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握）	（学修内容）研究テーマの確定・３回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｄ	開講学年	4回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	根岸　裕子・富安　広幸・林　育代・森　久美子	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	研究の進捗状況の報告やそれに関する討論や面談を行いながら、卒業論文内容を検討する。これまでに考えた章立てに沿って論文を仕上げていく。4月末には論文題目、9月初旬には論文を提出し、9月中に口頭試問に臨む。
学修成果到達目標	1）自らが課題とした研究テーマについて、主体的に考察し研究を深めていくことができる。 2）得られた結果を正確に分析することができる。 3）卒業論文としてふさわしい構成内容の論理的な文章を書くことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	■口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	各自に担当教員より指示する。
参考書	各自に担当教員より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	個人指導において、各自の発表、研究成果における問題点など、さらに今後の進め方などを話し合う。
留意事項	積極的に自らのテーマに関して研究を進めていくこと。 なお、卒業演習はゼミの時間だけで行うものではないので、計画的に研究を行うように心がけること。また、学科単位で実施する演習、セミナー等には参加し、研究活動に役立てること。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーについては、曜日、時間を一覧にして掲示します。研究室に在室している場合は、対応します。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｄ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	論文の書き方について確認および決定	（学修内容）（学修内容）卒論の手引きについて、特に参考文献の書き方などの確認を行う。 （事前事後学修課題の内容） 卒論の手引きをみて、自分の参考文献などを整理しておく。考察に関する問題点を把握しておく。
第2回	発表(1) 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容） 報告のためのレジメの準備をする。得られた問題点について検討していく。
第3回	発表(2) 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容） 研究発表のためのレジュメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。
第4回	発表(3) 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容） 研究発表のためのレジュメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。
第5回	発表(4) 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容） 報告のためのレジメの準備をする。得られた問題点について検討していく。
第6回	個別指導(1) 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げていく。
第7回	個別指導(2) 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げていく。
第8回	個別指導(3) 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げていく。
第9回	個別指導(4) 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げていく。
第10回	個別指導(5) 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げていく。
第11回	卒業論文内容の発表準備(1)	（学修内容）研究内容全体のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う （事前事後学修課題の内容） プレゼン用の資料の作成のため、研究内容を要約する。
第12回	卒業論文内容の発表準備(2)	（学修内容）研究内容全体のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う （事前事後学修課題の内容） プレゼン用の資料の作成のため、研究内容を要約する。
第13回	卒業論文内容の発表	（学修内容）論文内容の発表を行い、質疑応答を行う。 （事前事後学修課題の内容） 質問事項の整理と解決策について考えておく。
第14回	口頭試問準備(1)	（学修内容）発表で受けた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容） 口頭試問に向けてレジメを準備する。
第15回	口頭試問準備(2)	（学修内容）発表で受けた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容） 口頭試問に向けてレジメを準備する。

授業名	栄養学	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1401
英文名	Dietetics	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割および栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。
学修成果到達目標	1）五大栄養素の種類と働きについて理解できる。 2）栄養素の代謝について理解できる。 3）健康と栄養素の関連性が理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	中屋豊　「よくわかる栄養学の基本としくみ第2版」　秀和システム
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については採点し返却する。返却時解説を行う。
留意事項	Classroomを使って振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	栄養学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	健康と栄養	（学修内容）栄養とは何か （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter1を読んでおく
第2回	消化と吸収	（学修内容）消化器系のしくみについて （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter2を読んでおく
第3回	糖質	（学修内容）糖質の種類と構造およびその働きについて （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter3-1を読んでおく
第4回	脂質	（学修内容）脂質の種類と構造およびその働き （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter3-3を読んでおく
第5回	タンパク質	（学修内容）タンパク質の種類と構造およびその働き （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter3-2を読んでおく
第6回	ビタミン	（学修内容）ビタミンの種類と機能 （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter4を読んでおく
第7回	ミネラル	（学修内容）ミネラルの種類と機能 （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter5を読んでおく
第8回	その他の栄養素	（学修内容）食物繊維、水、など五大栄養素以外の機能と働き （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter6を読んでおく
第9回	栄養状態の判定と評価	（学修内容）栄養状態の判定と評価のための情報と判断基準について （事前事後学修課題の内容） 五大栄養素について復習しておく
第10回	日本人の食事摂取基準（2020版）、食事バランスガイドについて	（学修内容）食事摂取基準の概要、食事バランスガイドについて （事前事後学修課題の内容） 一日分の食事を記録しておく
第11回	ライフステージと栄養　①妊娠期、授乳期	（学修内容）妊娠期、授乳期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて （事前事後学修課題の内容） 食事バランスガイドを用いて3日分の食事記録を行い、自分の食生活を振り返る
第12回	ライフステージと栄養　②乳幼児期、学童・思春期	（学修内容）乳幼児期、学童・思春期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておく
第13回	ライフステージと栄養　③成人期、高齢期	（学修内容）成人期、高齢期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて 生活習慣病とその予防および食事療法について （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter8を読んでおく
第14回	運動と栄養 食品表示法	（学修内容）運動と栄養の関係について 食品表示と栄養機能食品について （事前事後学修課題の内容） 教科書chapter9,10を読んでおく
第15回	まとめ	（学修内容）健康の保持増進のためにバランスの良い食事と運動、休憩・睡眠が大切であることについて （事前事後学修課題の内容） 秋学期に学習したことを総復習しておく

授業名	家族関係論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2212
英文名	Family Relations	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	本講義では、家族理解の手がかりとして、一部、心理学的な概念や分析手法を用いる。 また、虐待や配偶者暴力など家族内で起こる問題、いじめや不登校など子どもをめぐる問題、多様化する家族の実態などについて考察する。
学修成果 到達目標	1）現代日本の家族が抱えている問題を客観的に把握することができる。 2）家族が持つ可能性と抱えている困難を理解した上で、望ましい家族について考えることができる。 3）家族療法の基礎的な知識を得、その方法を説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	授業の中で随時紹介します。
参考書	『家族の心理 第2版 家族への理解を深めるために』(平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義)、サイエンス社。 『家族の心理 変わる家族の新しいかたち』(小田切紀子・野口康彦・青木聡)、金剛出版。 購入の必要はありません。
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で、何度か課題提出をしてもらいます。 随時フィードバックの方法を説明します。
留意事項	授業計画については、実際に授業を進めていくなかで、多少変更が生じる可能性があります。 グループディスカッションを行う予定です。受講者は授業への積極的な参加が求められます。
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。 また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授　業　名	家族関係論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）今後の授業スケジュール等について説明する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	家族とは何か	（学修内容）家族の定義について考えてみる。 （事前事後学修課題の内容） 「自分にとっての「家族」とは」について考える。
第3回	家族の健康性	（学修内容）家族の健康性とは何か、家族の健康性をめぐる議論と実証研究について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 「家族が健康な状態とは」について考える。
第4回	家族づくりの準備	（学修内容）発達のプロセスで人はいつ頃から、どのように家族づくりを決め、その準備を始めるのかについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 家族づくりの発展プロセスを理解する。
第5回	恋愛の心理・結婚の心理	（学修内容）恋愛と結婚の心理について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 恋愛・結婚をめぐる変化や現状、課題について理解する。
第6回	夫婦の発達	（学修内容）夫婦関係の形成とその発達、夫婦関係が抱える問題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 夫婦関係の形成とその発達、課題について理解する。
第7回	子どもが育つ場としての家族	（学修内容）家族心理学的視点から、親になるということ、子どもを育てるということについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 養育のためのシステム作りと課題について理解する。
第8回	子どもの発達と家族	（学修内容）家族心理学的視点から、子どもの発達と家族の関係について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 子どもの発達と親子関係、子どもの発達に伴う家族の抱える問題について理解する。
第9回	家族理解、家族の変化に役立つ臨床的援助技法	（学修内容）家族心理の理解に役立つ家族療法の諸概念や、家族の変化や問題に役立つ援助技法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 家族療法で活用される技法について理解する。
第10回	中年期・老年期の家族	（学修内容）現在の中年期・老年期の家族関係の変化や特徴、問題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 中年期・老年期の家族関係の変化や特徴、問題について理解する。
第11回	変化する社会の中の家族	（学修内容）変化する社会において、様々な立場で進む社会的孤立の問題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 様々な立場で進む社会的孤立の現状と問題について理解する。
第12回	いじめ、不登校をめぐる現状と課題	（学修内容）いじめ、不登校をめぐる現状と課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） いじめの構造や実態、対策等について理解する。
第13回	いじめ予防において重要なこと	（学修内容）学校現場でのいじめ予防において重要なことについて学ぶ(映像教材含む)。 （事前事後学修課題の内容） 映像教材を通して学んだことについてレポートを作成する。
第14回	多様化する家族の実態	（学修内容）多様化する家族の実態について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 変わる家族の新しいかたちについて理解する。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業の総復習 （事前事後学修課題の内容） 今後の家族のあり方について自分なりに考える。

授業名	衣生活実習	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1305
英文名	Dress Making Practice	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	杉本　次代	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	衣生活を取り巻く環境は、デザインや素材の多様化、SDGSの取り組みなど日々変化している。 そのような変化に対応するために、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など基礎知識を習得することは、よりよい衣生活を送るために大変重要である。 この授業では、自身の衣服の構造を考えこれからの衣生活に役立てることを目的として基礎縫いとボトムやトップスの布の選定から製図、縫製、試着までの実習を行う。
学修成果 到達目標	1）衣服材料の種類と性質、衣服製作に必要な道具の取り扱い方を説明できる。 2）着用者に合わせたズボンとトップスを完成できる。 3）人体と制作物のデザインや着心地との関係について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	■実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	プリントを配布する。
参考書	中学校技術・家庭および高等学校家庭科の教科書
課題に対するフィードバックの方法	制作物・レポートについては、点検し、コメントをつけて返却する。
留意事項	教職を志望する学生は履修すること。 受講者の進捗状況などを鑑み、内容を変更することもある。 欠席・遅刻をすると製作に遅れが生じ、作品が完成できなくなるため、遅刻・欠席をしないように心掛けること。 制作物に使用する材料費(生地代)は学生の実費となる。購入時期は適宜指示を行う。
オフィスアワー	初回に提示する
実践的教育	

授業名	衣生活実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションとミシンの説明	（学修内容）裁縫道具・次週概要の説明。ミシンの使い方と構造を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 裁縫道具の点検をしておく。
第2回	ミシンの練習①	（学修内容）小物製作を行いミシンの下糸の巻き方を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 動画などを参考に下糸の巻き方を復習する。
第3回	ミシンの練習②	（学修内容）小物製作を行いミシンの上糸のかけ方を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 動画などを参考に上糸のかけ方を復習する。
第4回	パンツの製作①ミニパンツ製作	（学修内容）シーチングでミニパンツを製作して実習概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 平面から立体へのイメージを理解しておく。生地を用意する。
第5回	パンツの製作②製図	（学修内容）自分のサイズを計測し製図をする。 （事前事後学修課題の内容） 縫製の順番を復習しまとめておく。
第6回	パンツの製作③裁断と印付け、ロックミシンの練習	（学修内容）製図したパターンを用いて生地の裁断と印つけを行い、端処理のためのロックミシンの仕組みと練習を行う。 （事前事後学修課題の内容） 縫いしろ始末の方法をまとめておく。
第7回	パンツの製作④脇・内股・股ぐりの縫製	（学修内容）脇と内股、股ぐりを縫製する。 （事前事後学修課題の内容） 前と後ろで構造が異なるのかを復習しまとめておく。
第8回	パンツの製作⑤ウェストベルトつけ、裾の始末	（学修内容）ウェストベストを作成することでベルトとゴムベルトの幅の関係について知る。 （事前事後学修課題の内容） 自分が製作したパンツと既製服との違いを考察する。
第9回	ブラウスの製作①製図、生地の説明	（学修内容）ブラウスの種類や構造を理解する。自分のサイズを計測し製図をする。 （事前事後学修課題の内容） パターン構造の復習をし、生地を購入しておく。
第10回	ブラウスの製作②裁断と印つけ	（学修内容）製図したパターンを用いて生地の裁断と印つけを行い、端をロックミシンで処理する。 （事前事後学修課題の内容） 製作手順をまとめておく。
第11回	ブラウスの製作③肩の縫製、バイアステープ製作	（学修内容）肩を縫製し試着してシルエットをチェックする。 バイアステープ製作する。 （事前事後学修課題の内容） バイアステープの製作方法と用途を復習する。
第12回	ブラウスの製作④襟ぐりの縫製	（学修内容）襟ぐりにバイアステープをつけて始末する。 （事前事後学修課題の内容） 襟の種類について調べてまとめる。
第13回	ブラウスの製作⑤脇、裾の縫製、着装評価	（学修内容）脇と裾を始末してブラウスを完成させる。実際に着用して意見交換会を行う。 （事前事後学修課題の内容） 着装評価についてまとめる。
第14回	小物製作①	（学修内容）製作で残った生地を活用して小物製作の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） SDGSの観点からリメイクについて調べてまとめる。
第15回	小物製作②	（学修内容）計画に沿って小物製作をする。 （事前事後学修課題の内容） 自分が教育現場に立つことを想定して、どのようなポイントを伝えるのかをレポートにまとめておく。

授業名	生活経営学	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3315
英文名	Theory of Life Management	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	上田　有里奈	対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				

授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかかわっている。それらといかにうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。 そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。 学生間での様々な意見・価値観の共有を目的に、必要に応じてディスカッションの機会を設定する(いつ、どのようなテーマで行うかについては、授業時に説明する)。
学修成果 到達目標	1）自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかわっているということを理解できる。 2）どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。 3）生活経営学で得た知識から、私たちが生活者としてよりよい生活を営むためにどのような意思決定が必要か、自分事として考察できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を紹介、配布する。
参考書	『暮らしをつくりかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編(朝倉書店)、『生活経営学』赤星礼子(九州大学出版会)、『ジェンダーで学ぶ生活経済論(第2版)』伊藤純ほか(ミネルヴァ書房)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子（ちくま新書）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』佐光紀子（光文社新書）、『「女性活躍」に翻弄される人びと』奥田祥子（光文社新書）、その他適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対して、コメントします。
留意事項	授業計画については、実際に授業を進めていくなかで、多少変更が生じる可能性があります。
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。 また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。
実践的教育	

授業名	生活経営学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方について説明する。 生活経営とは何かについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。
第2回	変わる生活実態：人口・世帯	（学修内容）人口や世帯の変化について理解し、それがどのように生活と関連するのか学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 日本の人口・世帯の変化について調べておく。
第3回	生活時間と人の一生	（学修内容）「生活時間」をライフコースやワークライフバランスの観点から学ぶ(ディスカッションを予定)。 （事前事後学修課題の内容） ワークライフバランスのとれた生活を営むために何が必要かを考える。
第4回	労働環境の現状と企業の社会的責任	（学修内容）日本の労働環境の現状と課題、企業が果たすべき社会的責任について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 労働環境における男女格差がなぜ生じるのかを考える。
第5回	長時間労働について	（学修内容）なぜ長時間労働がなくならないのか、その背景にあるものについて学ぶ(ディスカッションを予定)。 （事前事後学修課題の内容） 長時間労働を是正するために必要なことは何かを考える。
第6回	ペイドワークとアンペイドワーク	（学修内容）労働のペイドワークとアンペイドワークの側面について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 自分や周りの人がペイドワークとアンペイドワークにどれほど時間を費やしているのか調べておく。
第7回	子どもを持つ家族の現状	（学修内容）子育て世帯や子どもが置かれた現状について学ぶ(ディスカッションを予定)。 （事前事後学修課題の内容） 子育てがしやすい環境や子どもが育つ場としてどのような環境が望ましいかを考える。
第8回	格差と貧困	（学修内容）私たちの身近で進行する格差や貧困の現実について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 相対的貧困率が低い国々の雇用制度や社会保障制度を学び、日本とどのように違うのかを比較して理解する。
第9回	生活経営とNPOなどの市民組織	（学修内容）共助としてどのようなものがあるのかについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 市民組織にはどのようなものがあるか調べておく。
第10回	ファイナンシャルプランニング	（学修内容）生活設計の目標を達成するための財政面の設計について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ファイナンシャルプランニングにおいて欠かせない知識を身に付ける。
第11回	消費者信用と多重債務	（学修内容）クレジットの仕組みや多重債務のリスクについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） クレジットをめぐり身近に起こりそうなリスクと対処法を考える。
第12回	「衣」、「食」から生活を考える	（学修内容）「衣生活」と「食生活」に関する基本的知識から現代的課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 消費者として持続可能な暮らしを送るために大切なことを考える。
第13回	長寿社会を生きる	（学修内容）長寿社会での高齢期の生活について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 高齢期の暮らしをどのようにマネジメントしたいかを考える。
第14回	世界のなかの日本の生活―ジェンダーを通して―	（学修内容）国際比較の視点から日本の生活について学ぶ(ディスカッションを予定)。 （事前事後学修課題の内容） 真のジェンダー平等政策とは何かを考える。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業のふりかえりをする。 （事前事後学修課題の内容） 半期間の授業のまとめをしておく。

授業名	食文化	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2418
英文名	Food Culture	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	橋本　道範	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	食べ物と食べること、食物学や栄養学ではそれらの科学性を追求し、生理的な機能や発達の手段として捉えられがちである。一方、食べるという行為には、共に食べることで幸せを感じる、といった食べることをめぐる様々な現象の間の複雑な相互作用によって構築される社会文化性がある。地域社会の歴史と環境から生み出され、過去、変貌しながら伝承されてきた食文化について、総合的な観点から学んでいく。理解を深めるために適宜グループワークやディスカッションを行う。
学修成果到達目標	1）食を取り巻く様々な課題について考える。 2）国際的な視野から日本の食文化を捉えることができる。 3）日本の食の特徴を理解し、紹介することができる。 4）世界の多様な食に対する意識や価値観について学び、異文化と付き合うための基礎知識を身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考書	江原絢子・石川尚子編著『新版　日本の食文化　「和食」の継承と食育』（アイ・ケイコーポレーション）。授業は本書を参考に行う。
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却します。
留意事項	今日の食を取り巻く課題や食文化に関する情報を、異文化の食を含め、新聞記事やSNSなどから積極的に得るように心がけてもらいたい。
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として勤務、滋賀の食事文化研究会に属し、江戸時代のフナズシの再現実験に挑戦した経験から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野においたフィールドワーク教育を行う。

授業名	食文化

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：食文化って何だろう？	（学修内容）授業概要を説明する。 （事前事後学修課題の内容） 自分が住んでいる地域をはじめ、日本や世界の人々の食に対する課題について、SNSなどの情報を入手し、興味、関心、疑問をもつ。
第2回	世界の食文化	（学修内容）世界にはどんな食文化があるか把握する。 （事前事後学修課題の内容） 世界の気候風土の特徴や宗教の違いを考えておく。
第3回	日本の食文化１：料理の変遷	（学修内容）日本の食文化がどのように変遷したのかを考える。 （事前事後学修課題の内容） 和食の特徴的な食材にはどんなものがあるか考えておく。
第4回	日本の食文化２：道具の変遷	（学修内容）日本の特徴的な調理器具、器、箸について考える。 （事前事後学修課題の内容） 食卓での箸使いなどのタブーについて調べておく。
第5回	日本の食材１：コメをめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の食料自給について考える。 （事前事後学修課題の内容） 和食とは何かについて考えておく。
第6回	日本の食材２：小麦をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の小麦料理から和食について考える。 （事前事後学修課題の内容） 小麦を利用した料理について考えておく。
第7回	日本の食材３：雑穀・豆をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の雑穀や豆を利用した料理から食文化の多様性を考える。 （事前事後学修課題の内容） 雑穀や豆を利用した料理について考えておく。
第8回	日本の食材４：肉・乳・卵をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島では肉食が禁忌された理由を考える。 （事前事後学修課題の内容） 肉や卵を利用した料理がなかった時代の料理について考えておく。
第9回	日本の食材５：魚介をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の魚介を利用した料理から自然との関係を考える。 （事前事後学修課題の内容） 魚介類を利用した料理について考えておく。
第10回	日本の食材６：野菜・茸をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の野菜などを利用した料理から栽培について考える。 （事前事後学修課題の内容） どんな地域にどんな伝統野菜があるか調べておく。
第11回	日本の食材７：海藻・木の実をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の海藻や木の実を利用した料理から採集について考える。 （事前事後学修課題の内容） どんな海藻や木の実があるか調べておく。
第12回	日本の食材８：果物・菓子等をめぐる諸問題	（学修内容）日本列島の果物や菓子等から特産品について考える。 （事前事後学修課題の内容） どんな地域にどんな果物や菓子があるか調べておく。
第13回	フィールド学習	（学修内容）京都文化博物館の和食展を見学し、食文化と食材の今を学ぶ。 尚、調整により行き先や実施日に変更あり。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業内容について整理し、和食とは何か、事前に考えておく。
第14回	自然と郷土料理	（学修内容）郷土料理について、何をどのようにつたえていく必要があるか、ディスカッションをすることで、考えを深めていく。 （事前事後学修課題の内容） 学校給食で出てきた地域の食材、郷土料理を思い出してまとめておく。
第15回	授業のまとめ	（学修内容）授業全体を通した学びより、自らの食に対する意識や価値観、今後の取り組み方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 授業全体の学びを整理する。

授業名	消費科学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2319
英文名	Consumption Science	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	三室　久枝	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	現代の消費生活を取り巻く問題は、情報化、グローバル化に伴って刻々と変化し、複雑になっています。本授業では、その現状と消費者の権利・役割を理解し、トラブルの未然防止や早期解決のための基礎知識を身につけるとともに、「食」に注目して、人々の暮らし方の変化に伴う、食生活や食品流通の変化、食料消費の課題や動向を考えていきます。理解を深め、考えを発表するために、グループワークやプレゼンテーションも取り入れます。
学修成果到達目標	①消費生活問題の現状や消費者の権利を理解し、消費者トラブルへの対処法を説明することができる。 ②食料消費・流通等の課題について、5分間程度のプレゼンテーションができる。 ③食生活の変化や食品流通・消費の課題を理解し、消費や環境の観点から考えを述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、授業内でプリントを配布します。
参考書	(公社)日本フードスペシャリスト協会編『四訂　食品の消費と流通』建帛社　2021年(四訂版) 適宜、消費者庁、国民生活センター、農林水産省、厚生労働省等のweb教材を紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題はコメントをつけて返却し、次回授業で復習とともに解説を行います。グループワークに取り組む姿勢やプレゼンテーションについては、その時にコメント、評価します。
留意事項	消費や食をめぐる問題は社会の変化と密接に関連しているので、ニュースなど社会の動きに関心を持ってください。消費や食に関する身近なテーマをとりあげますので、フードスペシャリスト受験希望の有無にかかわらず、今後の生活に役立つ内容です。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：高校の家庭科非常勤講師（食生活分野・消費生活分野を中心に指導）、消費生活センターの消費生活相談員（主に消費者教育を担当）としての実務経験を活かして実践的な授業を行います。

授業名	消費科学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、消費生活問題の現状、ライフサイクル、消費や食に関連する仕事	（学修内容）消費生活問題とライフサイクル（グループワーク）、フードスペシャリストなど食関連の仕事について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスを読み、確認したいことを準備しておく。事後、食生活や消費生活で関心のあることをまとめて提出。
第2回	消費者の権利と責任、契約の基本とキャッシュレス社会	（学修内容）消費者の権利と責任、契約の基礎知識、クレジットカード、電子マネーについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、消費者庁のweb教材を読み、考えをまとめておく。事後、クレジットカード利用について要点をまとめて提出。
第3回	若い世代の消費者トラブルと社会背景	（学修内容）若い世代の消費者トラブル事例と社会背景、心理、対処法（グループワーク）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、国民生活センターのweb教材を読み、考えをまとめておく。事後、関連事例について問題点と対処法をまとめて提出。
第4回	消費者を守る法律と消費者行政、消費者市民社会	（学修内容）消費者関連法（消費者契約法・特定商取引法等）と消費生活センターの役割、消費者市民社会について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、消費者庁のweb教材を読み、考えをまとめておく。事後、知識確認課題に取り組み、提出。
第5回	広告のルール(景品表示法等)とネットを利用した新しい形の消費	（学修内容）問題のある広告の事例、ネットを利用した新しい形の消費の事例と広がりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、ネットを利用した新しい消費の形の例を調べておく。事後、新しい形の消費について、考えをまとめて提出。
第6回	金融商品の特徴と最近の傾向	（学修内容）社会保障のしくみ、保険、貯蓄、投資の特徴、生命保険と健康・食生活について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、厚生労働省のweb教材を読み、考えをまとめておく。事後、自分の将来における金融商品の活用について考えをまとめて提出。
第7回	エシカル消費とSDGs、消費者志向経営	（学修内容）エシカル消費の意義、SDGｓの身近な取り組みや企業の動きについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、エシカル関連のマークのついた商品を調べておく。事後、エシカル消費の考え方の消費行動への活かし方をまとめて提出。
第8回	食市場、食品消費の変化と食生活の多様化	（学修内容）食生活の変化と多様化、その社会的要因と技術の発展について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、身近にある便利な加工食品とその特徴について調べておく。事後、食生活の変化について考えをまとめて提出。
第9回	食品流通の役割、流通経路の多様化、プレゼンテーション実施の意義	（学修内容）卸売市場の役割と変化、食品流通における経路の多様化について学ぶ。プレゼンテーション実施の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、農林水産省のweb教材を読み、考えをまとめておく。事後、流通経路の多様化についてまとめて提出。発表の担当希望を提出。
第10回	食品の小売流通、食品表示、保健機能食品	（学修内容）食品小売流通、加工食品の栄養成分表示の活用、保健機能食品の種類（グループワーク）について学ぶ。プレゼンテーションの担当調整。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、加工食品の表示を見て、学習のための食品パッケージを選び持参。事後、知識確認課題に取り組み提出。
第11回	外食産業・中食産業のマーチャンダイジング	（学修内容）外食産業、中食産業の仕組みや食材供給システムについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、外食・中食産業の企業のwebサイトを見て、特徴を調べておく。事後、知識確認課題に取り組み、提出。
第12回	主要食品の流通と課題（プレゼンテーションを含む）	（学修内容）主食・副食の食品別流通と課題について、プレゼンテーションを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 発表者は事前にプレゼンテーションの資料を提出。発表者以外は農林水産省のweb教材を読んでおく。事後、発表内容の要点をまとめて提出。
第13回	飲料・調味料等の流通と課題、食と環境の課題（プレゼンテーションを含む）	（学修内容）飲料・調味料等の食品別流通と課題、環境と関連する食の課題について、プレゼンテーションを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 発表者は事前にプレゼンテーションの資料を提出。発表者以外は農林水産省のweb教材を読んでおく。事後、発表内容の要点をまとめて提出。
第14回	フードマーケティングの変化、災害時の食・消費	（学修内容）フードビジネスの動向、フードマーケティング、デジタルマーケティング、災害時の食・消費(グループワーク)について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、災害時の食の問題について調べ、発言できるようにしておく。事後、デジタルマーケティングについての考えをまとめて提出。
第15回	食料消費の課題、今後の消費生活・食生活	（学修内容）食に関わる課題、今後の消費生活・食生活への授業内容の活かし方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、授業資料を見直して、質問があれば準備しておく。事後、消費生活・食生活における今後の自分の行動について考えをまとめて提出。

授業名	社会保障論Ⅰ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3321
英文名	Theory of Social Security I	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	社会保障は、個人の責任や自助努力では対応しがたい疾病・障害・高齢・失業などの社会的リスクに対し助け合う公的仕組みとして１９世紀に生まれました。私たちの生活に身近な社会保障制度は、「安心」や生活の「安定」を支えるセーフティネットとなっています。社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生からなり、全ての人の生活を生涯にわたって支えるものとなっています。本講義で、社会保障とは何かを概説し、これまで活用してきた社会保障制度とこれから活用していくであろう社会保障制度について、理解し活用できるよう実際のパンフレットや保険証、視聴覚教材等を活用し授業展開していきます。
学修成果 到達目標	1)社会保障とは何か、役割・対象・範囲が理解できる 2)社会保障制度の体系が理解できる（医療保険制度・介護保険制度・年金制度・労災保険・雇用保険制度・生活保護制度・社会手当制度・社会福祉制度） 3)社会保障と私たちの関わりを理解できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業時、適宜、資料配布する。
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　社会保障』中央法規 高橋幸生（2022）『図解で理解する社会保障の仕組み』中央法規
課題に対するフィードバックの方法	授業内でフィードバックします。提出物に関して、コメントをつけて返却します。
留意事項	社会保障は、すべての人に関係しています。制度がどのような枠組みで行われているのか、制度がどうあるべきか考えながら受講していただけたらと思います。また、ニュースなど社会で起こっていることに興味関心をもって受講してください。 専門職を目指されている人は、学んだことを一般の人にも説明できる力が必要です。自分の言葉で理解したことが表現できるよう理解を深めていってください。
オフィスアワー	講義終了時及び研究室に在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：所持資格：社会福祉士、介護福祉士、保育士 実務:高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	社会保障論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・社会保障制度とは	（学修内容）本授業の到達目標の理解および科目名である社会保障制度を学ぶ意義が理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく、社会保障に関する新聞記事を読む 事後：クラスルームに配信された動画を視聴しておく
第2回	医療保険制度①概要と種類	（学修内容）医療保険の仕組みと特徴や制度の概要が理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：クラスルームに配信された動画を視聴しておく 事後：自分の保険証の種類と給付について調べて、整理する
第3回	医療保険制度②給付と後期高齢者医療制度の概要	（学修内容）医療保険の給付（法定給付と付加（任意）給付についてと後期高齢者医療制度の仕組みが理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の保険証の種類と給付について調べて、整理する 事後：教育訓練給付について調べる
第4回	雇用保険制度	（学修内容）雇用保険制度の目的と仕組み、給付の種類の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：教育訓練給付について調べ、整理する 事後：過労死の現状を調べ整理する
第5回	労働者災害補償保険制度	（学修内容）労働者災害補償制度の目的と認定、給付について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：過労死の現状を調べ、整理する 事後：高齢者雇用の現状と課題の整理をする
第6回	年金保険制度①制度の役割と国民年金	（学修内容）高齢者、障害者、遺族への所得保障の仕組みを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：高齢者雇用の現状と課題を整理する 事後：高齢者の就業状況を調べ、高年齢の労働者の特徴を整理する
第7回	年金保険制度②厚生年金と企業年金	（学修内容）厚生年金と企業年金の目的と仕組みを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：高齢者の就業状況を調べ、高年齢の労働者の特徴を整理する 事後：地域の介護保険制度のパンフレットを入手し、整理する
第8回	介護保険制度	（学修内容）介護が必要な人や高齢者を支える制度の仕組みを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：地域の介護保険制度のパンフレットを入手し、整理する 事後：地域の福祉事務所の所在地を調べ、福祉事務所の役割を整理する
第9回	生活保護制度①原理原則	（学修内容）生活保護制度の原理原則を理解し生活を支える仕組みを知る （事前事後学修課題の内容） 事前：地域の福祉事務所の所在地を調べ、福祉事務所の役割を整理する 事後:1か月の家計表をクラスルームより取得し、記入する
第10回	生活保護制度②生活保護基準と種類と動向	（学修内容）生活保護制度の種類について、実際にシュミレーションを行い理解する 生活保護の基準と種類を理解する。動向も知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：1か月の家計表をクラスルームより取得し、記入する 事後：シミレーションと実際の家計と比較した感想を書く
第11回	扶養と控除・社会手当	（学修内容）社会保険における扶養や所得要件、扶養の範囲を理解し社会手当との関係を理解する（ひとり親家庭・子育て支援含む） （事前事後学修課題の内容） 事前：シミレーションと実際の家計と比較した感想を書く 事後：障害の定義を整理する
第12回	障害福祉の実情と支援制度	（学修内容）障害者総合支援法における福祉サービスや利用方法、対象の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：障害の定義を整理する 事後：生命保険と損害保険の特徴を整理する
第13回	民間の保険と社会保障の財源	（学修内容）社会保険との違いを理解し、社会保障に係るお金の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：生命保険と損害保険の特徴を整理する 事後：母子健康手帳の中身を確認し、記載内容を整理する
第14回	保健制度の仕組み	（学修内容）胎児期・妊娠期・子育て期などライフステージに応じた保健サービスを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：母子健康手帳の中身を確認し、記載内容を整理する 事後：担当になった国の社会保障制度を調べる
第15回	諸外国の社会保障制度（スウェーデン・ドイツ・フランス・イギリス・アメリカ・中国・韓国）	（学修内容）諸外国の社会保障の特徴を理解し、日本との相違点・共通点を理解し、今後の社会保障の在り方を考える （事前事後学修課題の内容） 事前：担当になった国の社会保障制度を調べる 事後：これまでの授業で分からなかった用語がないよう整理する

授業名	多文化共生論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2320
英文名	Theory of Multiculturalism	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	秋山　裕之	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	世界中の多くの国々と同様に、現代日本社会は多文化社会である。人種・民族・言語・宗教・文化などの異なる多様な人々が一つの国・地域で共に生きるための「相互の承認と受容」はいかにして可能となるか。多様なマイノリティを包摂して「すべての人の文化的生きづらさをできるだけ小さくする」ために、個人・社会はどうあるべきだろうか。本授業では、多文化共生のためのたしかな視座を得るための基礎概念について解説する。また、ワークを通して課題を見つけ解決策を考える力を養う。
学修成果到達目標	1) 多文化共生をめぐる諸問題について、基本的な概念を説明することができる。 2) 多文化共生のための方法について自ら考え、現代日本における多文化状況の将来を展望できるようになる。 3) 今日の日本社会における多文化共生のための課題と解決法について正しく考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	なし。資料配付。映像資料も用いる。
参考書	多文化共生キーワード事典編集委員会（編）2011『多文化共生キーワード事典』明石書店 有田佳代子（他）（編著）2018『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社
課題に対するフィードバックの方法	コミュニケーションペーパーやメールで質問を受け付け、次回の授業でそれらに対する返答をします。
留意事項	グループで話し合う機会が多くあります。グループはその都度抽選で分けます。 受講生が少ない場合、終盤のグループ発表は個人発表になります。
オフィスアワー	週に１時間×１回設定。曜日・時間帯は３号館４階学生演習室にて掲示。
実践的教育	

授業名	多文化共生論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：個人・文化・人類	（学修内容）個性と文化について、ゲームを通して考える （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを熟読する 事後：自分の言葉で「多文化共生」が意味する内容を考える
第2回	異文化を探そう	（学修内容）通学路と大学周辺で異文化だと思うものを記録・発表 （事前事後学修課題の内容） 事前：通学中に異文化を探して記録（撮影）する 事後：身の回りに異文化由来のものがたくさんあることを確認する
第3回	文化的背景	（学修内容）習得されたものとして文化 （事前事後学修課題の内容） 事前：普段の思考・行動で「日本文化」に由来するものを挙げる 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	日本人・外国人（ワーク）	（学修内容）国籍・血統・生まれ育ち（文化的アイデンティティ） （事前事後学修課題の内容） 事前：アメリカ人とはどのような人のことを言うのか考える 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	多文化状況	（学修内容）多文化社会の成り立ちと現状・課題 （事前事後学修課題の内容） 事前：移民について調べる 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	マイノリティとマジョリティ①概要	（学修内容）公民権運動とジェンダー論に通じる支配／被支配の構造 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜公民権運動＞＜フェミニズム＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	マイノリティとマジョリティ②ワーク	（学修内容）マジョリティ側が持つ自文化中心主義的な視点 （事前事後学修課題の内容） 事前：日本社会にどのようなマイノリティが暮らしているか考える 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	文化的偏見とステレオタイプ①概要	（学修内容）○○人に対する固定化したイメージ （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜ステレオタイプ＞＜文化相対主義＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第9回	文化的偏見とステレオタイプ②ワーク	（学修内容）マイクロ・アグレッション （事前事後学修課題の内容） 事前：他の人と一括りにされて嫌だったことを挙げる 事後：復習して分からないところを質問する
第10回	外国につながりのある子ども①概要	（学修内容）学校教育と移民・外国人学校をめぐる状況・継承語 （事前事後学修課題の内容） 事前：キーワード予習＜外国人学校＞＜セミリンガル＞ 事後：復習して分からないところを質問する
第11回	外国につながりのある子ども②ワーク	（学修内容）学齢期に国境を越える移動をした子どもの言語状況 （事前事後学修課題の内容） 事前：帰国子女に対するイメージを挙げる 事後：復習して分からないところを質問する
第12回	移民の困りごと	（学修内容）移民の人たちが暮らしやすくなるために解決するべき課題 （事前事後学修課題の内容） 事前：日本に暮らす外国人が困っていそうなことを考える 事後：復習して分からないところを質問する
第13回	多文化共生推進プラン	（学修内容）国・自治体における施策 （事前事後学修課題の内容） 事前：多文化共生を題材とした中学受験問題に解答する 事後：復習して分からないところを質問する
第14回	グループワーク①スライド制作	（学修内容）テーマを一つ決め、多文化共生社会を目指すうえでの課題を挙げ、有効と思える解決策を提示する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループワークで取り組むテーマを考える 事後：スライドを完成させる
第15回	グループワーク②発表	（学修内容）グループワークの発表 （事前事後学修課題の内容） 事前：発表のリハーサルをしておく 事後：他の発表の良かったところを考える

授業名	人間福祉論Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1302
英文名	Theory of Human Welfare Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生				

授業の概要	現代社会におけるわたしたちのくらしを、少子化、高齢化、子育て、障害、社会保障などの視点から切り込んでいきながら、社会福祉の役割について考えます。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象となる対象・主体・方法、社会福祉制度の概要について、社会福祉に関する法律に基づきながら理解をします。そのため、一方的な講義ではなくグループディスカッションなどを交えながら進めることになります。
学修成果到達目標	1）時事問題に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2）わたしたちのくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3）社会福祉の主体・対象・方法について理解し、説明ができるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	テキストは、ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2025』を使用します。 ただし、社会福祉士受験資格取得を目指す学生については、秋学期『現代社会と福祉Ⅱ』において使用するテキストを併せて購入することを推奨します。 （最新）社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第4巻『社会福祉の原理と政策』中央法規
参考書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却します。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行います。
留意事項	履修人数によっては、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら進めていく。 平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室（1R-404）に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。
実践的教育	

授業名	人間福祉論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～社会福祉を学ぶ意味～	（学修内容）講義の進め方、概要、評価方法について説明をする。なぜ「社会福祉」を学ぶのかについて、みなさんに聞いていきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前　「社会福祉」に対するイメージについて考える。 事後　各自が考える「社会福祉」についてまとめる。
第2回	現代社会の様相と諸課題	（学修内容）データから見た現代社会について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　人口動態について調べ、気になる現象を挙げる。 事後　現代社会の諸課題についてまとめる。
第3回	社会福祉と人間	（学修内容）人間とは、社会とは、福祉とは、についてグループワークを通して、考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　各自で「人間」「社会」「福祉」について考えておく。 事後　学んだ内容をまとめる。
第4回	日本における社会福祉の歴史①～古代・中世～	（学修内容）古代・中世の事象を取り上げながら、現代に生かすことのできる福祉実践について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　聖徳太子、行基、叡尊、忍性について調べておく。 事後　資料を読み返し、わからない用語を抽出する。
第5回	日本における社会福祉の歴史②～近世～	（学修内容）近世の事象を取り上げながら、現代に生かすことのできる福祉実践について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　幕藩体制、往生伝、臨終行儀について調べておくこと。 事後　資料を読み返し、わからない用語を抽出する。
第6回	日本における社会福祉の歴史③～明治・大正・昭和～	（学修内容）明治期から戦前までの歴史について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　紹介した動画を閲覧しておく。 事後　資料を読み返し、わからない用語を抽出する。
第7回	子ども家庭福祉の現状と課題①～子どもの権利～	（学修内容）子どもの権利について社会課題とともに考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　子どもの権利条約など権利擁護に関する法制度について調べる。 事後　子どもの権利の特徴についてまとめる。
第8回	子ども家庭福祉の現状と課題②～保育現場が抱える課題～	（学修内容）障がいのある子どもが保育・教育を受けることができるのかについてビデオを鑑賞しながら考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　障がいのある子どもの保育や教育について考える。 事後　内容をレポートにまとめる。
第9回	高齢者福祉の現状と課題①～介護保険制度～	（学修内容）介護保険制度の成立過程と諸課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　介護保険制度について調べ、専門用語を抽出する。 事後　専門用語を整理し、まとめる。
第10回	高齢者福祉の現状と課題②～施設が抱える課題～	（学修内容）高齢者の施設が抱える課題についてビデオを鑑賞しながら考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　高齢者施設の種類とそのサービス内容について調べる。 事後　内容をレポートにまとめる。
第11回	障害者福祉の現状と課題①～制度の概要と課題～	（学修内容）障害者福祉に関する制度の概要とその課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　障害者福祉に関する制度や障害の種類について調べる。 事後　専門用語を整理し、まとめる。
第12回	障害者福祉の現状と課題②～障害者の子育て～	（学修内容）障害者に子育ては可能なのか、ビデオを鑑賞しながら考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　障害の種類によってどのような生活困難が起きるのか考える。 事後　内容をレポートにまとめる。
第13回	社会福祉専門職と倫理	（学修内容）社会福祉の専門機関とその資格について学び、専門性と倫理について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　社会福祉に関する専門機関と専門職について調べる。 事後　内容をまとめる。
第14回	ソーシャルワークの意味とその方法	（学修内容）ソーシャルワークの意味について整理し、その展開過程について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　ソーシャルワークについて調べ、ノートにまとめる。 事後　ワークシートを作成する。
第15回	社会福祉のこれから～豊かな生の充実に向けて～	（学修内容）ビデオを鑑賞しながら、社会福祉の果たす役割について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　今までの資料を読み返して、「社会福祉」について考える。 事後　全体をまとめながら、筆記試験に向けて準備をする。

授業名	室内デザイン実習	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3322
英文名	Interior Design Training	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 『住空間とインテリア実習』の授業内容を踏まえた上で、受講生が主体的にプロダクトやグラフィックのデザインや住空間設計の課題を通して、住宅デザインのプロセスを体験する。考えた提案や作品は模型制作、図面作図などによりプレゼンテーションするとともに、他の作品についてコメントやアドバイスを行う。絶対的な正解がない中で、試行錯誤しながら最適解を模索する作業を繰り返すことで作品として完成へと近づけるために、受講生にはクリエイティブかつ積極的に参加する意識と姿勢を求めます。課題内容および試験内容は履修者数、授業内のディスカッションの結果、受講生のプレゼンテーション内容などにより、フィールドワークやグループワークを行うなど変更となる可能性がある。
学修成果到達目標	1）授業内容を自分の暮らしにフィードバックし、自らの考えを持ち意見を述べる事ができる。 2）建築図面の表現を理解し、読み取り、作図をすることができる。 3）模型などを用いて、空間を立体的に把握することができる。 4）空間リノベーションを構想し、図面、模型などで表現することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	適宜、資料や情報を配布または共有。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、ディスカッション、レポート、提出物などに対し、必要に応じた採点またはコメントをする。
留意事項	2回生科目の『住空間とインテリア実習』の内容を踏まえた課題を行います。 カッター・カッターマット・カッター定規・ボンド、模型制作道具、作品制作に必要な模型材料など、各自で準備すること。
オフィスアワー	授業期間は週に1回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得

授業名	室内デザイン実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）授業の意図と方向性の共有 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ シラバスの内容を確認
第2回	デザイン課題A	（学修内容）デザイン課題に取り組む （事前事後学修課題の内容） 作品制作 推奨された資料等の学習
第3回	デザイン課題B	（学修内容）デザイン課題に取り組む （事前事後学修課題の内容） 作品制作 推奨された資料等の学習
第4回	デザイン課題（A＋B） プレゼンテーション&ディスカッション	（学修内容）グラフィックデザイン課題のプレゼンテーションと講評 （事前事後学修課題の内容） 作品制作やプレゼンテーションの準備
第5回	空間デザイン課題	（学修内容）対象となる空間や建物、周辺環境についての説明。 （事前事後学修課題の内容） 空間デザインの素案を考えておく。
第6回	条件整理&コンセプト	（学修内容）空間や利用者の特徴、周辺環境や人間関係などの条件を整理する。 （事前事後学修課題の内容） 素案を考えておく。 筆記具や模型道具など必要なものを準備する。
第7回	平面計画（検討）	（学修内容）空間の平面提案を考える。 （事前事後学修課題の内容） 素案について構造検討しておく。 筆記具や模型道具など必要なものを準備する。
第8回	構造検討	（学修内容）各デザイン素案について、構造的整合性のチェックを行う。 （事前事後学修課題の内容） 素案について構造検討しておく。 筆記具や模型道具など必要なものを準備する。
第9回	平面計画（まとめ）	（学修内容）平面提案をまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 空間デザインの構想を完成させる。 筆記具や模型道具など必要なものを準備する。
第10回	作図	（学修内容）提案する空間デザインの図面を完成させる。 （事前事後学修課題の内容） 筆記具や模型道具など必要なものを準備する。 推奨された資料等の学習。
第11回	模型制作（床・壁）	（学修内容）空間の大枠を模型化する。 （事前事後学修課題の内容） 模型材料、模型道具など必要なものを準備する。 推奨された資料等の学習。
第12回	模型制作（内部空間）	（学修内容）内部空間を模型化する。 （事前事後学修課題の内容） 模型材料、模型道具など必要なものを準備する。 推奨された資料等の学習。
第13回	模型制作（家具・設え）	（学修内容）家具などのしつらえを制作する。 模型チェック。 （事前事後学修課題の内容） 模型材料、模型道具など必要なものを準備する。 推奨された資料等の学習。
第14回	空間デザイン課題の完成	（学修内容）平面図・模型・イメージ画像・プレゼンをまとめる （事前事後学修課題の内容） 提案を完成させ、プレゼンテーションの準備をする。
第15回	空間デザイン課題 プレゼンテーション&ディスカッション	（学修内容）プレゼンテーションと講評 （事前事後学修課題の内容） 作品プレゼンテーションの準備 授業のまとめ

授業名	家庭工学演習	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3455
英文名	Home Engineering Practice	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 電気、水道などのインフラ、土地や街並み、家具・照明や色などインテリアデザイン、安全性や災害対策など家庭生活を構成する要素を工学的な視点で学ぶ。普段の生活体験とリンクさせながら実践的に理解することを目指す。履修者数や授業内のディベート等により、授業の内容および順序、グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーションの有無を変更するため、各授業にしっかり参加し状況に柔軟に対応する必要がある。
学修成果到達目標	1）様々な媒体を用いて自ら情報収集し、積極的な自己学習をすることができる。 2) 住まいに関する課題や疑問を発見し、自分の意見を述べたり解決策を提案するなどの主体性を発揮できる。 3）家庭生活でかかるコストを理解し、設備の必要性や適合性を説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	適宜、資料や情報を配布または共有する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、レポート、提出物などに対し、必要に応じた採点またはコメントをする。
留意事項	初回授業に必ず出席すること。 概要で記載の通り、履修者数や授業内のディベート等により、授業の内容および順序、グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーションの有無など変更となる可能性があるため、毎授業に出席し状況に柔軟に対応する必要がある。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得

授業名	家庭工学演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）授業の概要や意図の共有。 （事前事後学修課題の内容） シラバス内容の確認。 指定の課題に対して資料を作成し提出する。
第2回	家具	（学修内容）暮らしの中にある家具の存在について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第3回	土地と不動産	（学修内容）土地と建物の現状と関係について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第4回	街の未来と用途地域	（学修内容）自分が暮らす街がどのような未来図を描くのか、都市計画や用途地域の視点から考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第5回	電気設備：基本	（学修内容）暮らしのインフラである電気について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第6回	電気設備：応用	（学修内容）暮らしの中にある電気を使った設備について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第7回	給排水衛生設備：基本	（学修内容）暮らしのインフラである水がガスについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第8回	給排水衛生設備：応用	（学修内容）暮らしの中にある水やガスに関わる設備について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第9回	温熱環境	（学修内容）住まいの温熱環境について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第10回	色	（学修内容）暮らしを豊かにする色の使い方について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第11回	安全性（防犯と災害）	（学修内容）住まいの安全性、防犯、耐震などの基本について。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第12回	暮らしと地震：準備	（学修内容）地震に対する心構え、備えについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第13回	暮らしと地震：考察	（学修内容）地震が実際の暮らしにどのような影響を及ぼすのか考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第14回	ディベート・意見交換	（学修内容）普段の暮らしの安心安全について考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して事前学習と準備を行う。 必要に応じて資料を作成し提出する。
第15回	まとめ	（学修内容）授業の振り返りとまとめ （事前事後学修課題の内容） 推奨資料等の学習、課題作成および授業のまとめ。

授業名	販売論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3790
英文名	Sales Theory	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	商品・サービスを取引する行為は貨幣経済が始まる前、物々交換の時代から続いています。講義では、販売の歴史、販売と営業の違い、マーケティングとの関係などの理論と事例を学び、販売を実践する上での基礎知識を身につけます。 また、近年のデジタル・トランスフォーメーション（DX）と言われる環境変化や、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取り組みの中で、販売をどのように変革するかについてグループワークやディスカッションを行いながら考えます。
学修成果 到達目標	(1)販売の概念、理論を理解し、説明することができる。 (2)販売革新の事例について分析することができる。 (3)企業の販売活動を考察し、見解を述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業中に適宜紹介します。
参考書	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『１からのマーケティング 第4版』（碩学舎,2019年） 『ハーバード・ビジネス・レビュー 営業論文ベスト11 営業の教科書』（ダイヤモンド社,2019年） 中西正雄・登坂一博編著『顧客価値創造型営業への進化 新たな営業戦略の論理と実践』（JTB能力開発,2010年） この他、授業中に適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	発表は授業内で適宜講評、レポートはコメントをつけて返却します。
留意事項	講義形式が基本ですが、知識を得るだけではなく、皆で考える授業です。予習復習はもちろん、普段からテレビ、新聞、インターネットなどで企業のニュースに関心を持ち、授業で発言、質問することで理解を深めましょう。
オフィスアワー	毎回の授業前後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	販売論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	販売とは何か	（学修内容）モノやサービスを売るという行為と意味について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 興味・関心のある商品・サービスについて調べておく。
第2回	販売の歴史	（学修内容）販売の歴史的背景について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 江戸時代の商人の活動について調べておく。
第3回	販売の理論	（学修内容）販売の理論の系譜について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 企業が行う販売の管理方法について考えておく。
第4回	販売とマーケティング	（学修内容）販売とマーケティングの関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 販売とマーケティングの関係について考えておく。
第5回	販売と営業	（学修内容）販売と営業の違いについて解説します。 （事前事後学修課題の内容） 販売と営業の違いについて考えておく。
第6回	競争戦略と販売	（学修内容）マーケティングのSTPについて解説します。 （事前事後学修課題の内容） 競合していると思われるブランドについて調べておく。
第7回	マーケティングミックスと販売	（学修内容）マーケティングミックスの4Pと4Cについて解説します。 （事前事後学修課題の内容） 競合していると思われる商品について調べておく。
第8回	製品と販売	（学修内容）製品と販売の関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 興味・関心のある商品の開発背景について調べておく。
第9回	価格と販売	（学修内容）価格と販売の関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 興味・関心のある商品の価格について調べておく。
第10回	流通と販売	（学修内容）流通経路の選択・管理と販売の関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 店舗販売と通信販売の違いについて考えておく。
第11回	販売促進と販売	（学修内容）広告、プロモーションと販売の関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 興味・関心のある広告について調べておく。
第12回	販売組織と販売担当者	（学修内容）販売組織、販売担当者の実態と課題について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 販売に関わる組織や人員について調べておく。
第13回	販売環境の変化	（学修内容）インターネット、SNSの普及が販売に与えた影響について解説します。 （事前事後学修課題の内容） SNSから販売に繋げる事例について調べておく。
第14回	これからの販売	（学修内容）デジタル化やSDGs達成推進が販売に与える影響について解説します。 （事前事後学修課題の内容） 販売の未来について考えておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの講義内容を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業の総復習をしておく。

授業名	子どもの食と栄養	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2440
英文名	Infant Nutrition	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、ICTを用いた振り返りテストやグループワークを行う。
学修成果到達目標	1）子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2）正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3）子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（60%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（40%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	子どもの食と栄養第3版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子，堤ちはる／編
参考書	資料を配布する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストやレポートについては、返却時に理解が深まるように解説を行う。
留意事項	子どもの発達を復習して臨み、食育を保育という広い視点でとらえる。
オフィスアワー	授業始まりにお知らせします。来る際は事前にメールで知らせてください。 また、授業の後に質問を受けつけます。
実践的教育	

授業名	子どもの食と栄養

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの健康と食生活の意義	（学修内容）子どもの食生活の現状と課題について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第1章1、2を読んでおく 事後：子どもの食生活における問題点を考える
第2回	小児の成長と発達	（学修内容）小児の成長と発達について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第1章3を読んでおく 事後：成長曲線の書き方を復習する
第3回	栄養の基礎知識①糖質、脂質、タンパク質	（学修内容）三大栄養素の消化と吸収、役割について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第2章1～3を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第4回	栄養の基礎知識②ビタミン	（学修内容）ビタミンの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第2章3を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第5回	栄養の基礎知識③ミネラル	（学修内容）ミネラルの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第2章3を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第6回	小児の食事摂取基準、食事バランスガイド	（学修内容）小児の食事摂取基準、食事バランスガイドについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第3章を読んでおく 事後：3日分の食事記録を食事バランスガイドを用いて行う
第7回	妊娠期と授乳期の栄養の意義と食生活	（学修内容）妊娠期と授乳期の栄養について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第4章を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第8回	乳児期の栄養の意義と食生活	（学修内容）乳汁栄養の方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第5章1を読んでおく 事後：調乳操作の方法をまとめておく
第9回	離乳期の栄養の意義と食生活	（学修内容）離乳食の意義と進め方について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第5章2を読んでおく 事後：離乳食の進め方についてまとめておく
第10回	幼児期の栄養の意義と食生活	（学修内容）幼児食の意義と注意すべき点について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第6章を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第11回	学童期と思春期の栄養の意義と食生活	（学修内容）学童期と思春期の食生活について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第7章を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第12回	小児期の疾病と食生活	（学修内容）疾病を持つ児の食生活について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第11、12章を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第13回	児童福祉施設の食生活	（学修内容）児童福祉施設での栄養と食生活 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第10章を読んでおく 事後：授業内容を復習しておく
第14回	小児期の食育の必要性	（学修内容）食育の重要性と方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第9章を読んでおく 事後：自分が受けたことがある食育を振り返る
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの学修内容をまとめる （事前事後学修課題の内容） これまでの学習内容を復習しておく

授業名	保育内容（造形表現）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2435
英文名	Child Care：the Formative Arts for Expressions	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	造形表現の様々な演習を通して，造形的感性や表現力，創造力などを養い材料や用具に関する知識や技能の向上を図る授業を行う。また学びを通して，幼児の表現活動の指導や支援のあり方についても考察する。個々の造形活動だけでなく，相互の助言，グループでの意見交流を通して，児童によりよく指導することができるか，を単なる「上手」「下手」といった評価にならないよう，教材としての自己の学びになるよう「指導の目線」ですすめる。
学修成果到達目標	1）授業で自ら考えて表現する，ねらいをもとに試したり表現を工夫したりする。 2）友だちからのアドバイスを自身の表現に生かすことができる。友だちの表現に適切な助言をすることができる。 3）授業から子どもの姿を想定し，表現力を育てる指導・支援のあり方について考察することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適時　関連するものを用意して，配布
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	共同制作などの取組については，その都度口頭で評価する。 表現や鑑賞の活動の中で受講生のコメントを紹介するなどしてクラス全体で学修の成果を共有できるようにする。
留意事項	1）普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心をもつようにすること。 2）汚れを気にしなくても良い，活動しやすい服装・持ち物で受講すること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。(担当授業の前を希望する場合は事前に連絡をすること)
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校，京都教育大学附属小学校，京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	保育内容（造形表現）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 造形表現について	（学修内容）造形表現について、本科目の概要と学修の意義を知る。履修上の留意事項 （事前事後学修課題の内容） 保育における造形活動にはどのようなものがあるか文献等で自分の考えをまとめる
第2回	材料体験：クレヨン・パス	（学修内容）クレヨン・パスについて知り，材料が持つ特性を体験する （事前事後学修課題の内容） パスの使い方や指導について考察とまとめをする
第3回	クレヨン・パスを使ったモダンテクニック	（学修内容）クレヨン・パスの特性を生かしたモダンテクニックを使って作品をつくる （事前事後学修課題の内容） パスの特性と指導の留意点について考察とまとめをする
第4回	クレヨン・パスを使ったステンドグラス	（学修内容）クレヨン・パスを使ったステンドグラス風の作品をつくる （事前事後学修課題の内容） ステンドグラス風の作品を完成させ、壊れないようように処理をするまたタイトルも付け気付いた点などをまとめる
第5回	造形的な遊び体験 ～版遊び～	（学修内容）身近なものをスタンピングする版遊びを体験する （事前事後学修課題の内容） 事前：スタンピングに使えそうなものを準備しておく 考察：スタンピングの指導と留意点について考察とまとめをする
第6回	造形的な遊び体験 ～色水遊び～	（学修内容）つくった色水を混色したり，容器に入れて並べたりする遊びを体験する （事前事後学修課題の内容） 色水遊びの指導と留意点について考察とまとめをする
第7回	造形的な遊び体験 ～友達といっしょに　高くつなげて～	（学修内容）新聞紙を用いた立体的な表現につながる造形的な遊びを体験する （事前事後学修課題の内容） 新聞紙を使った今日の造形遊びについてについて指導上の留意点をまとめる
第8回	造形的な遊び体験 ～小麦粉粘土でつくろう～	（学修内容）小麦粉粘土をつくり、それを使って作品にする （事前事後学修課題の内容） 小麦粉粘土を扱うときの留意する点をまとめる
第9回	幼児への指導法の立案方法	（学修内容）幼児に小麦粉粘土を使った活動を行う上での指導のあり方について考える （事前事後学修課題の内容） 指導する上で学んだことをまとめる
第10回	活動案作成	（学修内容）これまでに体験した活動をひとつ選び、幼児への活動案を作成する （事前事後学修課題の内容） スライドを使って活動案を作成する
第11回	これまでの振り返りをスケッチブックにまとめる	（学修内容）スライド作成とあわせて、スケッチブックのまとめをする （事前事後学修課題の内容） 活動案のスライドを完成させ、提出する
第12回	活動案発表会①前半	（学修内容）スライドを活用して自分の活動案を発表し，意見交流する（半数） （事前事後学修課題の内容） 仲間のプレゼンテーションを見て、観点ごとに気付いたことをまとめる
第13回	作品発表会②後半	（学修内容）スライドを活用して自分の作品を発表し，意見交流する（残りの半数） （事前事後学修課題の内容） 仲間のプレゼンテーションを見て、観点ごとに気付いたことをまとめる
第14回	活動案についての交流と総括	（学修内容）自分達が作成した活動案を振り返り、幼児が行う造形表現についてまとめる （事前事後学修課題の内容） 観点ごとに気付いたことをまとめる。
第15回	「保育内容(造形表現)」学修のまとめ	（学修内容）各自の授業の振り返りと指導者のまとめをする （事前事後学修課題の内容） 自身の取組を振り返り、スケッチブックにまとめる スケッチブックの提出

授業名	保育内容（音楽表現）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3458
英文名	Child Care：Musical Expression	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子・眞﨑　雅子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽や身体表現活動の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそび・リズムあそびの実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を習得する。このため、グループによる実践発表とそれに対するディスカッションを交えながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）領域（表現）に含まれる様々な音楽表現・リズム表現の主旨について理解することができる。 2）領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現とリズム的表現との関連性について理解することができる。 3）音楽・リズム表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術―感性と実践力豊かな保育者へ―』萌文書林
参考書	『平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省
課題に対するフィードバックの方法	授業課題に対して理解度確認のためのコメントシートを課し、回収後、学生にコメントをつけて返却する。 グループ発表に関しては発表後に全員が無記名でコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。シートは回収した後にコメントの再共有を授業で行い、その後発表したグループに返却する。
留意事項	グループでの実践発表を重視する。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	保育内容（音楽表現）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	保育実践における音楽あそびとその展開	（学修内容）音楽あそびとそのバリエーションについて。導入から展開方法について考える。 （事前事後学修課題の内容） 幼児期にした様々な音楽あそびについて思い出し、実践できるよう準備しておくこと。
第3回	簡易楽器を使った音楽あそび	（学修内容）簡易楽器を用いた音楽あそびとバリエーションについて （事前事後学修課題の内容） テキストp.114－123　「各簡易楽器の基本的持ち方や奏法」を読んでおくこと。
第4回	ボディーパーカッションをつかった音楽あそび	（学修内容）身体の様々な部分の音を使った音楽（音）あそびの実践方法について （事前事後学修課題の内容） 各身体部位の発する音の面白さを自ら探求しておくこと。
第5回	身の回りの様々な音を使った音楽あそび	（学修内容）身の回りの様々な音を総合的に扱った音・音楽あそびの実践方法について(ICT機器の使用含む) （事前事後学修課題の内容） 身の回りの様々な音素材を録音し、授業時に持参すること。
第6回	歌の世界を表現する音楽あそび	（学修内容）子どもの歌から表象される世界観を、音や造形・身体表現等を総合的に使って楽しむ音楽あそびの実践方法について （事前事後学修課題の内容） 歌の世界観を表現するにあたり、作品を予め選定し、その表現方法の可能性について考えておくこと。
第7回	絵本のなかの音の表現	（学修内容）絵本のなかで表現される音とその表現方法について （事前事後学修課題の内容） 絵本のなかの「音」に注目し、オノマトペ他魅力的な「音」の表現が表象されている部分を探しておくこと。
第8回	保育実践における身体表現あそびとその展開	（学修内容）保育実践動画の視聴を踏まえ、子どもと繋がる身体表現の実際について （事前事後学修課題の内容） 子どもの表現や子どもと繋がるための保育者の身体表現について考えておくこと。
第9回	リズムダンスと身体表現あそび	（学修内容）リズムに合わせて動く楽しさを体感する （事前事後学修課題の内容） ・多様なリズムパターンを刻めるように練習しておくこと。
第10回	歌と動きのリズム表現あそび	（学修内容）手あそびやわらべ唄を基にした身体表現あそびの実践方法について （事前事後学修課題の内容） 手あそびを覚えて発表できるようにしておくこと。
第11回	言葉と動きのリズム表現あそび	（学修内容）オノマトペから多様な身体表現を引き出す実践方法について （事前事後学修課題の内容） オノマトペにより引き出された動きについて考え練習しておくこと。
第12回	ペアやグループでの即興表現あそび	（学修内容）音や絵などから想起されるリズムやイメージの身体表現について （事前事後学修課題の内容） 音や絵から引き出される動き、他者との同調や共振について考えておくこと。
第13回	絵本のなかの動きのリズム表現	（学修内容）絵本のなかで表現されるリズムと動きの表現方法について （事前事後学修課題の内容） 絵本のなかで「リズム」「動き」が感じ取れる部分を探しておくこと。
第14回	絵本のなかの音と動きのリズム表現	（学修内容）絵本のなかで表現される音や動きのリズム表現の演出方法について （事前事後学修課題の内容） 絵本のなかで「リズム」「動き」が感じ取れる部分を探しておくこと。
第15回	まとめ	（学修内容）音楽およびリズム表現指導に関する総括 （事前事後学修課題の内容） 授業全体の総合的な振り返りをしておくこと。

授業名	保育内容（健康）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3445
英文名	Child Care：Health	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	福井　百合子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	子どもにとって健康は、健全な成長・発達に必要なものである。領域「健康」は心身の健康に関する領域であり、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す能力を培うことを目的とする。本授業では、領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、この視点で保育に必要な知識や技術を実践へ向けて深めていくことを目指す。特に乳幼児期の健康にかかわる心身の成長発達、生活習慣、運動発達の特徴の理解を深め、楽しく体を動かすことの意義や、遊びの重要性を理解し、適切な指導方法を身につける。適宜、課題ワーク、グループワークやディスカッション、活動の実践を行う。
学修成果 到達目標	1．幼児教育の基本と、乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容が理解できる。 2．領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる、小学校教育へつなぐ、子どもの資質や能力の育みについて考えることができる。 3．乳幼児の成長・発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣獲得支援など子どもの健康を保障するための具体的方法を考えることができる。 4．子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たす役割について説明できる。 5．現代の子どもの健康を取り巻く諸問題を知り、保育者の役割を考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　課題(ミニテスト込)提出　)■(　学習ノート　)

テキスト	河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」―基礎的事項の理解と指導法―』建帛社
参考書	●井狩芳子『演習 保育内容 健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 ●酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか？』萌文書林 ●勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい
課題に対するフィードバックの方法	ミニテストや課題などは提出後に答えと解説を表示、あるいは一部、全体で内容を共有する。
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。（適時確認すること有） ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・子どもの健康や育ちに関心をもちましょう。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。
オフィスアワー	授業ガイダンス時に知らせる。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師として救急、産婦人科、小児科の外来および病棟での実務経験から、乳幼児の様子や、病気・けがの対応がイメージしやすいよう工夫しなから授業を進めていく。

授業名	保育内容（健康）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の定義と乳幼児にふさわしい生活 体をよく動かす子どもを育てる	（学修内容）授業の案内。健康の定義、乳幼児にふさわしい生活、体をよく動かす子どもを育てることについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第１章を読む。事後はミニテストで復習する。
第2回	領域「健康」について ねらい、内容について 小学校教育へつなぐ資質や能力の育み	（学修内容）乳幼児の年齢ごとの特性、発達段階・課題を踏まえて、成長発達を支援する保育の配慮と関わりについて動画視聴やワーク等を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第８章、保育所保育指針と解説書を読む。事後はミニテストで復習する。
第3回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮① ０～２歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	（学修内容）０～２歳児の特性と運動機能の発達、生活動作の発達について学び、かかわりや配慮について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第３章、第５章を読む。事後はミニテストで復習する。
第4回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮② ２～３歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	（学修内容）２～３歳児の特性と運動機能、生活動作、認知機能や社会性の発達について学び、それに応じた環境やかかわり、配慮について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第３章、第５章を読む。事後はミニテストで復習する。
第5回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮③ ４～５歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	（学修内容）４～５歳児の特性と運動機能、生活動作、認知機能や社会性の発達について学ぶ。多様な動き、協応動作、統合の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第３章、第５章を読む。事後はミニテストで復習する。
第6回	０～１歳児の発達段階に合わせた遊びの実践に向けた構想（計画立案）	（学修内容）０～１歳児の特性を挙げ、それに応じた遊びの構想をグループで考え、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に０～１歳児の特性と運動機能、認知機能の発達を復習しておく。事後に発表の内容と資料づくり、振り返りを行う。
第7回	２～３歳児の発達段階に合わせた遊びの実践に向けた構想（計画立案）	（学修内容）２～３歳児の特性を挙げ、それに応じた遊びの構想をグループで考え、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に２～３歳児の特性と運動機能、認知機能の発達を復習しておく。事後に発表の内容と資料づくり、振り返りを行う。
第8回	４～５歳児の発達段階に合わせた遊びの実践に向けた構想（計画立案）	（学修内容）４～５歳児の特性を挙げ、それに応じた遊びの構想をグループで考え、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に４～５歳児の特性と運動機能、認知機能の発達を復習しておく。事後に発表の内容と資料づくり、振り返りを行う。
第9回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成と配慮 生活習慣形成の意義、生活リズム、睡眠・休息	（学修内容）基本的生活習慣（食事、排泄、睡眠、清潔、着脱衣、お手伝いやあいさつ等）の形成と、それを支援するかかわりや配慮について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第５章を読む。事後はミニテストで復習する。
第10回	「遊び」の意義 内発的動機からの主体性、繰り返しの重要性	（学修内容）遊びの意義、運動遊びの重要性、仕掛けと動機付けについて学ぶ。子どもの内発的動機付けのためのかかわりや働きかけをGWを交えて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に教科書第６章を読む。事後はミニテストで復習する。
第11回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動きの構想(1)計画立案	（学修内容）多様な動きの組み合わせと幼児期の子どもの体力を高めるための支援についてグループで考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に幼児期の終わりまでに身につけたい基本動作を復習しておく。事後に次週の実践指導に向け準備する。
第12回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動きの構想(2)模擬保育	（学修内容）多様な動きの組み合わせと幼児期の子どもの体力を高めるための支援について考えた内容を一部実施する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にグループで役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後に指導案(修正・加筆する)と振り返りを提出する。
第13回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動きの構想(3)模擬保育・振り返り	（学修内容）多様な動きの組み合わせと幼児期の子どもの体力を高めるための支援について考えた内容を一部実施する。模擬保育を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前にグループで役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後に指導案(修正・加筆する)と振り返りを提出する。
第14回	領域「健康」をめぐる現代的問題 家庭との連携、小学校教育への継続、子育て支援 保育者の役割	（学修内容）前回発表の振り返りの共有。現代の子どもの健康問題と課題、家庭との連携、小学校教育への継続、子育て支援、保育者の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に立案から実施の振り返りと、ワークの振り返りをしておく。事後、指導案の修正・加筆をする。
第15回	全体の振り返り 定期試験ガイダンス	（学修内容）全体の振り返り、質疑応答。定期試験の案内。 （事前事後学修課題の内容） 事前に全体の復讐をし質問があればまとめておく。事後は授業全体の復習。

授業名	保育内容（人間関係）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2436
英文名	Child Care：Human Relations	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	荘厳　茶茶	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育／教育の場における「人間関係」について、発達的視点、子どもの視点、保育者の視点、社会の視点等から多角的に捉え、子どもの「人間関係」の育みを支えるために必要な視座、方法論、資源について学ぶ。また、習得した知識を活用するワークにより、知識を応用へつなげるプロセスの実践学習をおこなう。
学修成果到達目標	1)子どもの「人間関係」の構成を多角的、多面的に捉えることができる。 2)子どもの「人間関係」の発達を理解し、説明することができる。 3)「人間関係」の育みを目指した活動内容の展開を、積極的に考える姿勢を身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	齊藤崇(編)　『資質・能力を育む　保育内容　領域　人間関係―こどもにとっての人間関係とは―』　教育情報出版　2023年
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。
留意事項	多様な仲間や考えに対する積極的態度と、他者に伝わりやすい文章構成を心がけ、授業に臨むことが望ましい。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。
実践的教育	

授業名	保育内容（人間関係）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業内容の概略、および授業計画の説明 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する。
第2回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(1)―基本的生活習慣―	（学修内容）現代社会における基本的生活習慣の問題と子どもの人間関係 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(2)―自己肯定感―	（学修内容）現代社会における自己肯定感の問題と子どもの人間関係 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(3)―体験活動―	（学修内容）現代社会における体験活動の問題と子どもの人間関係 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	乳幼児の育ちと人間関係	（学修内容）乳幼児の発達と人間関係の育ち （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	乳児保育における領域「人間関係」	（学修内容）乳児保育の視点 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(1)―幼児前期の発達―	（学修内容）幼児前期の発達の様相 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(2)―「ねらい」と「内容」―	（学修内容）幼児前期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	幼児前期を対象とした指導計画	（学修内容）幼児前期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」の立案 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(1)―幼児中後期の発達―	（学修内容）幼児中後期の発達の様相 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(2)―「ねらい」と「内容」―	（学修内容）幼児中後期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	幼児中後期を対象とした指導計画	（学修内容）幼児中後期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	幼児期の人間関係の重要性	（学修内容）専門家講話「ライフサイクルにおける子ども期の人間関係の意味・価値・大きさ」 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	多文化保育と人間関係	（学修内容）我が国における多文化社会の現状と多文化保育の視点 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	（学修内容）14回の学修内容の総括、振り返り （事前事後学修課題の内容） 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授業名	保育内容（言葉）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3447
英文名	Child Care：Language	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	ことばの特性を理解した上で、乳幼児期のことばの発達に基づいて、保育の留意点を解説する。その上で、絵本、ことばあそび、紙芝居、劇遊びなどの展開について体験的に学び、授業を進めていく。劇遊びについては、実際に上演することで、ものがたりの内容を深く理解し、劇をつくりあげる楽しさを実感できるようにする。
学修成果到達目標	・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 ・幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ・領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育の向上に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	①西川由紀子　子どもの思いにこころをよせて　０．１．２歳児の発達　かもがわ出版 ②西川由紀子　かかわりあって育つ子どもたち　２歳から５歳の発達と保育　かもがわ出版 ③文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	課題の成果やレポートについては、授業で発表や紹介などしながら解説する。質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。
実践的教育	

授業名	保育内容（言葉）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ことばとは何か	（学修内容）ことばのもつ機能について解説し、授業の展開を説明する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んでおく。
第2回	０歳、１歳、２歳児のことばの発達	（学修内容）０歳、１歳、２歳児のことばの発達を解説する。 （事前事後学修課題の内容） ①の０歳、１歳、２歳、②の２歳の部分のことばの発達の部分を読んでくる。③の乳児保育の言葉の領域に関する箇所を読んでくる。
第3回	２歳から５歳児のことばの発達	（学修内容）３歳、４歳、５歳児のことばの発達を考える。 （事前事後学修課題の内容） ②の３歳、４歳、５歳児のことばの発達の解説部分を読んでくる。③の3歳以上の「言葉」の領域に関する箇所を読んでくる。
第4回	書きことばの世界の展開	（学修内容）幼児にとっての文字の魅力を解説する。 （事前事後学修課題の内容） ②の４歳、５歳児のことばの解説部分を読んでくる。
第5回	書きことばを習得する時期について 絵本の楽しみ　絵本の特徴を考える	（学修内容）書きことばを習得する時期についての研究を紹介する。また、絵本の特徴を、他のメディアとの比較から捉え、絵本の楽しさを確認する。 （事前事後学修課題の内容） 絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	絵本の楽しみ　家での楽しみ・園での楽しみ	（学修内容）家庭での楽しみ方、友だちとの楽しみ方を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 絵本を多数見てくる。
第7回	絵本の世界　よい絵本とは？　絵の楽しさ	（学修内容）「よい絵本」とは何かを考える。絵本の絵と文の構成をみてみる。 （事前事後学修課題の内容） 絵本を多数見てくる。
第8回	紙芝居の読み方	（学修内容）紙芝居の読み方の基本を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 紙芝居を聞いた経験を振り返ってくる。
第9回	絵本読みの実際	（学修内容）小グループで読み聞かせの体験をし、絵本の読み方のこつをつかむ。 （事前事後学修課題の内容） 自分が子どもの頃好きだった絵本を探し出し、絵本紹介のレポートを作成し、読み聞かせをする練習をしてくる。
第10回	教材研究の方法・指導案の作成	（学修内容）絵本や紙芝居の読み取りをどのように深めていくかを解説する。 （事前事後学修課題の内容） 興味のある絵本や紙芝居を探し出し、読み深めてくる。
第11回	劇遊び　３歳児	（学修内容）３歳児の劇遊びのビデオ鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容） ３歳児の発達について復習しておく。
第12回	劇遊び　４歳児	（学修内容）４歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、子どもの好きな物語創作のポイントを解説する。 （事前事後学修課題の内容） ４歳児の発達について復習しておく。
第13回	劇遊び　５歳児	（学修内容）５歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容） ５歳児の発達について復習しておく。
第14回	劇あそびの実際	（学修内容）小グループで劇をつくり上演する。 （事前事後学修課題の内容） 小グループで劇を練習してくる。
第15回	劇あそびのふりかえりと「声」を届ける楽しさ	（学修内容）劇発表会を通して感じた楽しさから保育の留意点を解説する。また、「声」を相手に届ける体験をする。 （事前事後学修課題の内容） 劇発表会の振り返りをレポートとしてまとめてくる。

授業名	キャリア教育	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2208
英文名	Career Design	開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生、食物栄養2回生				

授業の概要	社会の変動が大きい時代。将来を見通してキャリアをデザインすることはとても難しい時代にあるということを知った上で、自分らしいキャリアをどのように切り拓けばよいのかを考える。そのため、講義では次のことを学修する。まず、日本の雇用のあり方の変遷である。日本の雇用のあり方を特質を把握した上で、現在、企業や公官庁などが求める人財像やそれに応じた能力を捉える。次に、就職活動とは何かを理解し、実際の活動に向けての練習として業界分析など受講生各自が進める。その際、簡単な自己分析も行い、自らのキャリアデザインへ活かす。また、就職活動だけではなく、大学卒業後にはじまる生活に向け、生活を支える社会保障制度の基本を理解するとともに、各ライフ・ステージで必要となる資金、その貯め方など金融リテラシーを高める。
学修成果到達目標	1)自らの将来を切り拓くため，働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2)自分の大学生活の送り方について具体的な行動計画を立てることができる。 3)進路実現に向け、自己分析、業界・職種研究の方法を理解できる。 4)キャリアセンターの役割を理解し、それを活用できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能
◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	教科書a 武石恵美子『「キャリアデザイン」って、どういうこと？過去は変えられる、正解は自分の中に』岩波書店、2024年（購入必須） 教科書b 日本FP協会『学生生活マネー&キャリア』日本FP協会、2024年（購入不用、授業初回に配付）
参考書	授業時に随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出を求めたレポートやワークシートについては、授業中に講評という形でフィールドワークしたり、場合によっては、提出されたペーパーなどにコメントをつけて返却する。プレゼンの際は事前に評価指標を伝え、プレゼンの後にその指標に則りコメントする。
留意事項	教科書を中心に進めます。そのため教科書aは必ず購入してください。毎回指定された教科書の頁を読み進め授業へのイメージを高めましょう。時に、発言を求める場合があります。授業への貢献として評価しますので積極的に応答してください。配慮を希望する者は事前に教えてください。配慮事項を検討します。授業を欠席する際は、ku096horide@kyotokacho-u.ac.jpまで事前に連絡をください（社会人としての練習の一環でもあります）。
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日昼休み（12時20分～13時）に3号館4階の堀出研究室を訪問してください。 事前にメールにてアポイトメントをとってください。
実践的教育	

授業名	キャリア教育

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション キャリアって何ですか？	（学修内容）本科目の目的や内容を説明できる。キャリアの定義、キャリア・レインボーの仕組みを説明できる（教科書a 1章） （事前事後学修課題の内容） 事前:シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後:ワークシード「キャリア・レインボー」の作成提出
第2回	昭和、平成における求められる人財像と働き方	（学修内容）昭和から平成にかけて働き方やキャリア観の変化を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a 2章を読んで、重要な箇所を線を引いてくる 事後:授業内容の概要と感想をレポートにまとめる
第3回	令和における求められる人財像と働き方	（学修内容）現在のわが国の働き方やキャリア観を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a 3章を読んで、重要な箇所を線を引いてくる 事後:授業内容の概要と感想をレポートにまとめる
第4回	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用	（学修内容）我が国と諸外国の雇用形態の違いを説明することができる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a 4章を読んで、重要な箇所を線を引いてくる 事後:授業内容の概要と感想をレポートにまとめる
第5回	キャリア自律	（学修内容）変動社会に求められる「キャリア自律」の考え方を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a 4章を読んで、重要な箇所を線を引いてくる 事後:授業内容の概要と感想をレポートにまとめる
第6回	キャリア・アンカー	（学修内容）キャリア・アンカーの考え方を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a 5章を読んで、重要な箇所を線を引いてくる 事後:ワークシート「キャリア・アンカー」の作成提出
第7回	自己分析入門【ICT活用】	（学修内容）過去・現在・未来の経験をふりかえることができる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書a を1度読み直し興味関心のある箇所をレポートにまとめる 事後:ワークシート「自己分析」の作成提出
第8回	自己分析発表【プレゼンテーション】	（学修内容）前回の自己分析の結果を発表。他者の自己分析を聴き、自らの自己分析をさらに深めることができる。 （事前事後学修課題の内容） 事前:自己分析に関するプレゼン資料の提出 事後:授業内容の概要と感想をレポートにまとめる
第9回	業界・職種研究入門【ICT活用】	（学修内容）就活生が行う業界研究・職種研究の基本的な方法について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:自己分析を踏まえ興味関心がでてきた仕事について調べてくる 事後:業界研究・職種研究の結果をレポートにまとめる
第10回	就職活動に向けて（キャリアセンターによる説明）	（学修内容）本学のキャリア支援について特にキャリアセンターの機能について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:本学のキャリアセンターの取り組みについて調べてくる 事後:授業の感想をレポートにまとめる
第11回	学生生活の収入と支出について	（学修内容）学生生活を送る上で収支のバランスを意識することができる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書b の関連ページを読んでくる（授業10回目で指示） 事後:授業の感想をレポートにまとめる
第12回	公的保険、民間保険について【ゲスト：ファイナンシャルプランナー】	（学修内容）各種保険についてその概要を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書b の関連ページを読んでくる（授業10回目で指示） 事後:授業の感想をレポートにまとめる
第13回	将来の貯蓄について	（学修内容）今後のライフステージで必要なる支出とそのための貯蓄の方法について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書b の関連ページを読んでくる（授業10回目で指示） 事後:授業の感想をレポートにまとめる
第14回	消費者トラブルについて【ゲスト：京都府消費生活安全センター】	（学修内容）大学をはじめ若者が狙われる悪質商法をはじめ消費者トラブルの現状と対処法を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書b の関連ページを読んでくる（授業10回目で指示） 事後:授業の感想をレポートにまとめる
第15回	ライフスタイルとライフプラン	（学修内容）授業全体を振り返り、今後のキャリアの歩みを計画をする （事前事後学修課題の内容） 事前:これまでの授業の内容をふりかえる 事後:今後のキャリアの歩みをレポートにまとめ提出

授業名	和食学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2431
英文名	Japanese Food	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	橋本　道範	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	「和食」は日本人の日常と関わる日本文化の要であり、豊かな風土とも関わり合いながら長い歴史を持ち、現在から未来へと繋がっていくものです。本講義では、まずユネスコ無形文化遺産に登録された際の議論から、「和食」とは何かということを理解することを最初の目標とします。次に、縄文時代から現代までの歴史的な展開を追い、「和食」が時代とともに変化してきたことを理解する力を養います。また、「和食」を構成する重要な要素である発酵食品については、特に詳しく解説します。その上で、「和食」がいま直面している問題に注意を促し、これからの日本文化創造について考察を加えます。これにより、日本文化を世界に向けて発信する基礎的知識を身に着けることができます。
学修成果 到達目標	1）「和食」について基礎的な知識に基づき説明することができる。 2）「和食」を基本として日本文化の歴史を理解することができる。 3）「和食」の将来について考え、議論することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業中にプリントを配布します。
参考書	石毛直道『日本の食文化史―旧石器時代から現代まで―』（岩波書店） 江原絢子・石川尚子編著『新版　日本の食文化　「和食」の継承と食育』（アイ・ケイコーポレーション）
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却します。
留意事項	本授業では、「和食」の歴史を重視します。
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として勤務、滋賀の食事文化研究会に属し、江戸時代のフナズシの再現実験に挑戦した経験から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野においたフィールドワーク教育を行う。

授業名	和食学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「和食」とは何か？	（学修内容）なにが「和食」なのか、みんなでディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 「和食」の特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	日本列島と京都の自然	（学修内容）日本列島と京都の自然について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 自分の出身地の自然について考えておく。
第3回	縄文時代の食事	（学修内容）縄文時代の自然環境と食文化について解説する。 （事前事後学修課題の内容） スープが飲めない時代の食事について考えてみる。
第4回	弥生時代・古墳時代の食事	（学修内容）コメが生産さるようになったことの意義について解説する。 （事前事後学修課題の内容） お米がない時代の食事について考えてみる。
第5回	古代の食事	（学修内容）国家が成立した古代の食文化について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 権力者の食事について考えてみる。
第6回	中世の食事	（学修内容）武士や僧侶の食文化について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 出汁がない時代の食実について考えてみる。
第7回	近世の食事	（学修内容）醤油が登場する時代の食文化について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 醤油がない時代の食事について考えてみる。
第8回	近代の食事	（学修内容）肉食が解禁された近代の食文化について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 獣肉が食べられない時代の食事について考えてみる。
第9回	おこめの歴史	（学修内容）稲作から精米、炊飯まで解説する。 （事前事後学修課題の内容） おこめを主食とする料理について考えておく。
第10回	ナレズシの歴史	（学修内容）淡水魚の料理の歴史について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 淡水魚の料理について考えておく。
第11回	発酵食品の歴史	（学修内容）味噌・醤油など発酵食品の歴史について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 日本の発酵食品について調べておく。
第12回	酒の歴史	（学修内容）日本酒の発達過程について解説する。 （事前事後学修課題の内容） どんな地酒があるか調べておく。
第13回	「和食」研究のこれまでとこれから	（学修内容）「和食」がどのように研究されてきたのかについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 「和食」について改めて考えてみる。
第14回	「和食」の現在	（学修内容）現在の「和食」の現状についてディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 「和食」を継承するためには、どうすればよいのか考えておく。
第15回	再び「和食」とは何か？	（学修内容）授業をまとめ、改めて「和食」とは何か、ディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 「和食」を継承するためには、どうすればよいのか考えておく。

授業名	ライフステージ栄養学	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3443
英文名	Nutrition of Life	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山本　明美	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的変化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても学ぶ。
学修成果到達目標	1）栄養状態の評価・判定について理解できる。 2）ライフステージ各期の栄養および食事に関する諸問題について理解できる。 3）加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	・Nブックス　応用栄養学概論（第2版）　編者：渡邊早苗、松田早苗、真野由紀子　共著：小長井ちづる、他　（建帛社）
参考書	日本人の食事摂取基準（2020年版）
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストは採点後、解答や留意点につき説明します。
留意事項	・学習項目に沿い予習をしておくこと。学んだ内容につき復習すること。 ・専門用語について充分理解しておくこと。
オフィスアワー	・授業の中で紹介、連絡します。
実践的教育	

授　業　名	ライフステージ栄養学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ２，１３　栄養マネジメントと食事摂取基準	（学修内容）授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、 食事摂取基準の基礎について学ぶ （事前事後学修課題の内容） シラバスと教科書を予習しておくこと。
第2回	１、成長・発達・加齢の概念と栄養	（学修内容）誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達・加齢における影響と栄養について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第3回	３、妊娠期の栄養	（学修内容）妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第4回	４、授乳期の栄養	（学修内容）授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第5回	５、乳児期の栄養	（学修内容）乳児期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第6回	６、幼児期の栄養	（学修内容）幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第7回	７、学童期の栄養	（学修内容）学童期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第8回	８、思春期の栄養	（学修内容）思春期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第9回	９、成人期の栄養	（学修内容）成人期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第10回	１０、更年期の栄養	（学修内容）更年期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第11回	１１、高齢期の栄養	（学修内容）高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第12回	１２、障がい者と栄養	（学修内容）障がい者における栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第13回	１４、運動・スポーツと栄養	（学修内容）運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第14回	１５、環境と栄養	（学修内容）ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第15回	まとめと評価（到達度の確認）	（学修内容）まとめと総合評価 (グループワークでまとめを発表する) （事前事後学修課題の内容） 全体の復習をしておくこと。

授業名	労働法	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2310
英文名	Labor Law	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	労働法は、働くことに関する法律の総称を意味します。私たちの生活では、働くことが様々な形で関わってきます。本授業では、労働法の知識や考え方を活用して、実際の働く経験の場面という事例（ケーススタディ）を通じて学びます。授業ではペアやグループ、教室全体でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて学びます。
学修成果到達目標	①アルバイトや就職して働く際に必要な知識を説明することができる。 ②労働に関するトラブルに遭った際に、どのように対応したらいいか考え行動することができる。 ③自分自身のキャリアと実際の労働環境や労働条件を踏まえ、働く意義を明確にすることができる。 ④他者と協働して、労働問題について議論したり、考えたりすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	必要に応じて関連する書籍や資料を紹介します。
参考書	井村 優 (著), 佐藤 善信 (監修)『同族企業の５代目社長が挑む企業風土改革』, 幻冬舎, 2022年. 必要に応じて適宜、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	授業では、グループワークを積極的に取り入れます。グループワークを円滑に進めるためにも、お互いのことを知ることから始めます。第１回から第５回の授業では、授業の最初にチェック・イン（身の回りの出来事について簡単に紹介）を行い、グループワークなどのアクティブ・ラーニングに慣れるように進めていきます。 各回の状況は、受講生の状況に応じて変更が生じることがあります。
オフィスアワー	毎回の授業後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	労働法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	（学修内容）授業のねらいと進め方について紹介、講師及び受講生の自己紹介 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容について確認すること
第2回	労働法の必要性と働くことを考える	（学修内容）なぜ労働法が必要か、日本社会の雇用や職場をめぐる問題から考える （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをすること
第3回	就職活動と有期雇用・無期雇用	（学修内容）就職活動や労働条件として重要な有期雇用と無期雇用の違いについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 就職活動の際に必要な履歴書とはどのようなものか実際に記入してみること
第4回	労働条件１ 賃金のルール	（学修内容）労働基準法や就業規則を踏まえ、賃金のルールについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをすること
第5回	労働条件２ 労働時間	（学修内容）労働基準法や就業規則を踏まえ、労働時間について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをすること
第6回	労働条件３ ワークライフバランス	（学修内容）現在の生活を踏まえ、仕事（勉強）と生活のバランスについて考える （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをすること
第7回	ケーススタディ１ セクハラやいじめ	（学修内容）実際の事例を踏まえ、職場におけるセクハラやいじめに遭った時の対応策について考える （事前事後学修課題の内容） 企業におけるセクハラやパワハラ、いじめにはどのような問題があるのか調べておくこと
第8回	ケーススタディ２ ブラック企業	（学修内容）実際の事例を踏まえ、ブラック企業の問題点について考える （事前事後学修課題の内容） ブラック企業と呼ばれる企業にはどのような特徴があるか調べておくこと
第9回	ケーススタディ３ 仕事と家庭生活、子育て	（学修内容）実際の事例を踏まえ、家庭を持ちながら働ける環境や支援制度について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 仕事と家庭を両立するには、どのような働き方がいいのか考えておくこと
第10回	金融リテラシー	（学修内容）自分の持っている資産を貯蓄や投資に配分する方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをしておくこと
第11回	雇用保険	（学修内容）失業や休業した時の支援制度について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをしておくこと
第12回	労働組合	（学修内容）労働組合の役割とその活動内容について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前回のまとめをしておくこと
第13回	グループによる発表（準備）	（学修内容）労働法の授業で学んだことを踏まえ、大学卒業後、どのように働きたいのかをグループを作りパワーポイントを使って発表する準備を行う （事前事後学修課題の内容） グループ発表の準備を進めること
第14回	グループによる発表	（学修内容）労働法の授業で学んだことを踏まえ、大学卒業後、どのように働きたいのかパワーポイントを使ってグループで発表する。 （事前事後学修課題の内容） 授業後、グループ発表を通じて学んだことについてまとめること
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	（学修内容）労働法の授業で何を学んだのか、これまでの授業内容を振り返り、学んだことについて言語化する （事前事後学修課題の内容） 授業で学んだことを事前にまとめておくこと

授業名	健康栄養概論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2321
英文名	Health and Nutrition	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	生涯を通じて健康な身体と心を維持することは、人生をより豊かにするために重要である。講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因の知識を深めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを日常生活で実践し自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。
学修成果到達目標	1）健康の大切さを理解することができる。 2）生活習慣病の背景要因と疾病予防を理解することができる。 3）ライフステージ別や高齢期における健康問題を理解し、予防に取り組むことができる。 4）健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	レビューブック管理栄養士2023―24　メディックメディア 社会・環境と健康 健康管理概論　東あかね／關戸啓子／久保加織・編　講談社サイエンティフィック（公衆衛生学Ⅱの教科書）
参考書	・日本栄養士会編『管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集』第一出版　2024年版 ・その他適宜、参考文献などを紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや提出物はコメント・解説を付けて返却する。
留意事項	食に関する報道や話題に関心をもち、常に正しい情報を得るように心がけておくこと。
オフィスアワー	授業の中で紹介し、連絡する。
実践的教育	

授業名	健康栄養概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会と健康	（学修内容）授業計画 健康の定義 （事前事後学修課題の内容） レビューブックP4～7を読んでおく
第2回	環境と健康	（学修内容）健康と環境の関係について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP8～15を読んでおく
第3回	保健統計、人口静態統計、人口動態統計	（学修内容）健康の指標となる保健統計について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP18～27を読んでおく
第4回	生命表、傷病統計	（学修内容）健康の指標となる保健統計について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP27～29を読んでおく
第5回	疫学の概念と指標	（学修内容）疫学研究の方法、スクリーニング検査について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP30～45を読んでおく
第6回	EBMと研究倫理	（学修内容）EBMと研究倫理について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP45～48読んでおく
第7回	健康に関連する行動と社会 身体活動、運動	（学修内容）生活習慣の課題と現状、身体活動基準2013について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP49～59を読んでおく
第8回	飲酒・喫煙行動 睡眠・休養、歯科保健	（学修内容）飲酒、喫煙対策、健康づくりのための睡眠指針2014、歯科保健について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP60～67を読んでおく
第9回	がんの疫学と対策	（学修内容）がんの現状と対策について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP68～70を読んでおく
第10回	循環器疾患・代謝疾患・感染症の疫学と対策	（学修内容）循環器疾患・代謝疾患・感染症の現状と対策について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP71～79を読んでおく
第11回	社会保障の概念と医療制度	（学修内容）社会保障の概念と医療制度について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP80～89を読んでおく
第12回	福祉制度、地域保健	（学修内容）福祉制度、地域保健について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP90～94を読んでおく
第13回	母子保健、成人保健	（学修内容）母子保健、成人保健 （事前事後学修課題の内容） レビューブックP95～104を読んでおく
第14回	高齢者保健、介護	（学修内容）高齢者保健と介護保険制度について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP105～115を読んでおく
第15回	産業保健、学校保健、国際保健	（学修内容）産業保健、学校保健、国際保健について学ぶ （事前事後学修課題の内容） レビューブックP116～129を読んでおく

授業名	解剖・生理学Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1307
英文名	Anatomy and Physiology Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。　解剖・生理学Ⅰでは、身体の概要およびその構造と機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液・造血器・リンパ系、消化器系、呼吸器系および泌尿器系について学ぶ。
学修成果到達目標	1）人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。 2）細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。 3）各臓器の生理学的機能について原理から実際の機能との関連を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	栄養科学イラストレイテッド 志村二三夫、岡　純、山田和彦編　解剖生理学　人体の構造と機能　第３版　羊土社
参考書	高野廣子著　解剖生理学　南山堂 志村二三夫、岡　純、山田和彦編　解剖生理学ノート　人体の構造と機能　第３版　羊土社
課題に対するフィードバックの方法	Google classroomであらかじめ資料を提供し、復習に役立てる。 毎授業終了後に、授業中に穴埋めをしたシラバスを送り、授業で追いつけなかったところも補充できるように復習を促す。 毎回Google classmateに課題を、おもに国家試験問題から出題し、終了後24時間に解答をうながし、理解度を確認する。
留意事項	学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を「解剖生理学ノート」で復習する。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（６９９床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行った。現在専門の腎臓病学における日常病理学診断、外来臨床業務を継続中。

授業名	解剖・生理学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養と解剖生理学 （栄養と生命、人体の階層構造、器官系と栄養） 細胞　Ⅰ（細胞の基本構造と細胞膜の機能）	（学修内容）栄養と生命とのかかわり、人体の構造と機能と栄養、各器官系と栄養のかかわりを大きく把握する。 （事前事後学修課題の内容） 細胞一般について把握し、細胞膜の構造と機能について調べておく。 「解剖生理学」　pp18-31
第2回	細胞　Ⅰ（細胞の基本構造と細胞膜の機能）	（学修内容）細胞一般、細胞膜について、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 細胞の基本構造、細胞の生体膜の機能について調べておく。 「解剖生理学」　PP33-34、38-39
第3回	細胞　Ⅱ（細胞の核と細胞内小器官の機能）	（学修内容）細胞の核と細胞内小器官の機能と細胞分裂時の変化について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 細胞の核と細胞内小器官の機能と細胞分裂時の変化を調べておく。 「解剖生理学」pp19-36
第4回	組織　Ⅰ　（上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）	（学修内容）上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴について調べておく。「解剖生理学」pp40-44
第5回	組織　Ⅱ　（筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴）と身体の概要（各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説）	（学修内容）筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴についてまなび、　体内の各臓器・器官の位置および構造について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 筋組織、神経組織の役割と細胞の特徴を学び、体内の各臓器・器官の構造について調べておく。「解剖生理学」pp43-48
第6回	消化器系　Ⅰ　（消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動の仕組み）	（学修内容）咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動の仕組みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動について調べておく。 「解剖生理学」pp49-54
第7回	消化器系　Ⅱ　（食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門まで）	（学修内容）食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門までを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門までにわたり調べておく。「解剖生理学」pp50-58
第8回	消化器系　Ⅲ（肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能	（学修内容）肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく。 「解剖生理学」pp58-72
第9回	血液・造血器・リンパ系　Ⅰ　（血液・造血器・血球系の機能）	（学修内容）リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構を理解する。 （事前事後学修課題の内容） リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構について調べておく。 「解剖生理学」pp73-76
第10回	血液・造血器・リンパ系　Ⅱ　（各血球系の機能と血漿タンパク質、止血凝固線溶系）	（学修内容）各血球系の機能と血漿タンパク質、止血凝固線溶系について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 各血球の組成と機能と血液型、血液凝固、線溶について調べておく。 「解剖生理学」pp79-89
第11回	循環器系　Ⅰ　（心臓と血管の構造と機能）	（学修内容）心臓および血管の構造と機能について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 心臓および血管の構造と機能について調べておく。 「解剖生理学」pp90-101
第12回	循環器系　Ⅱ　（血圧・循環調節機構）	（学修内容）血管と血圧の調節機能について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 血管と血圧の調節機能について調べておく。 「解剖生理学」pp101-109
第13回	呼吸器系　（呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構）	（学修内容）呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組みを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく。 「解剖生理学」pp111-125
第14回	腎・泌尿器系　Ⅰ　（腎臓の構造と尿の生成機構）	（学修内容）腎臓の構造と尿の生成機構、体液調節について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 腎臓の構造と尿の生成機構、体液調節について調べておく。 「解剖生理学」pp126-132
第15回	腎・泌尿器系　Ⅱ　（腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構）	（学修内容）循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて調べておく。「解剖生理学」pp133-138

授業名	解剖・生理学Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN2315
英文名	Anatomy and Physiology Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	解剖・生理学Ⅰに続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学Ⅱでは、生殖器系、運動器系、内分泌系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。
学修成果到達目標	1）生殖器系、運動器系、内分泌系、神経系、自律神経系、免疫系、感覚器系およびの構造とその機能が理解できる。 2）日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。 3）身体恒常性を保つシステムの生理学について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	志村二三夫、岡　純、山田和彦編　解剖生理学　人体の構造と機能　第3版　羊土社
参考書	高野廣子著　解剖生理学　南山堂 志村二三夫、岡　純、山田和彦編　解剖生理学ノート　人体の構造と機能　第3版　羊土社
課題に対するフィードバックの方法	Google Classroomに毎回の講義内容に関して、授業終了前に主に国家試験問題を中心に課題をだし、24時間以内に回答することを求めて理解度を確認、評価する。 毎授業終了後に、授業中に穴埋めをしたシラバスを送り、授業で追いつけなかったところも補充できるように復習を促す。
留意事項	解剖・生理学Ⅰで学んだことは復習しておく。 あらかじめGoogle Clasroomに講義資料ＰＤＦを添付してあり、学習項目に沿って予習しておく。 さらにClassroomで課題が毎回出されており、これに回答して、授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（６９９床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っていた。現在も腎臓病学を中心に病理診断、治療を継続、後進の指導もあたっている。

授業名	解剖・生理学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	生殖器系　Ⅰ　（男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生）	（学修内容）生殖器の構造と機能および生殖器の発生について （事前事後学修課題の内容） 男性生殖器の構造と機能について調べておく 「解剖生理学」pp140-142
第2回	生殖器系　Ⅱ　（女性生殖器　性周期、排卵の機序、受精・分娩）	（学修内容）女性性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について （事前事後学修課題の内容） 女性生殖器の構造、性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく「解剖生理学」pp143-146
第3回	運動器系　Ⅰ（全身の骨格の構造とその運動機能	（学修内容）運動器系（全身の骨と骨格）の構造とその機能について （事前事後学修課題の内容） 全身の骨格の構造とその構造、成長、形成と吸収について調べておく 「解剖生理学」pp148-158
第4回	運動器系　Ⅱ（全身の筋系の構造とその運動機能）	（学修内容）全身の筋系の構造とその運動機能、収縮について （事前事後学修課題の内容） 全身の筋系の構造とその運動機能、収縮について調べておく 「解剖生理学」pp160-164
第5回	運動器系　Ⅲ（骨格筋の構造とエネルギー代謝）	（学修内容）全身の骨格筋系の構造とエネルギー代謝について （事前事後学修課題の内容） 全身の筋系の構造とエネルギー代謝、骨格筋の赤筋、白筋について調べておく「解剖生理学」pp165-172
第6回	内分泌系　Ⅰ（ホルモン分泌の調節機構）	（学修内容）ホルモン分泌の受容体、情報伝達、フィードバック調節について （事前事後学修課題の内容） ホルモン分泌の受容体、情報伝達、フィードバック調節について調べておく「解剖生理学」pp173-177
第7回	内分泌系ＩＩ（ホルモンの種類とその働き）	（学修内容）ホルモン分泌器の種類とその働きについて （事前事後学修課題の内容） ホルモン分泌器の種類とその働きについて（視床下部から性腺まで）調べておく「解剖生理学」pp178-191
第8回	神経系　Ⅰ（神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能）	（学修内容）神経系のニューロンの構造、電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について （事前事後学修課題の内容） 神経細胞の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp204-208、193-199
第9回	神経系　Ⅱ（反射系および末梢神経系、自律神経系の構造と機能）	（学修内容）末梢神経の機能と、自律神経の全身の臓器への影響と機能について （事前事後学修課題の内容） 末梢神経の機能と、自律神経の全身の臓器への影響と機能について調べておく「解剖生理学」pp200-213
第10回	感覚器系　Ⅰ　（感覚器の構造とその機能、味覚、嗅覚について）	（学修内容）体性感覚器と内蔵感覚の特徴、味覚、嗅覚についてその機能について （事前事後学修課題の内容） 体性感覚器と内蔵感覚の特徴、特殊感覚の味覚、嗅覚について調べておく「解剖生理学」pp216-219
第11回	感覚器系　Ⅱ　（特殊感覚、視覚、聴覚、平衡覚について）	（学修内容）特殊感覚；、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について （事前事後学修課題の内容） 特殊感覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について調べておく 「解剖生理学」pp219-224
第12回	免疫系Ⅰ（免疫系の構造とその機構）	（学修内容）免疫系の構成と機構、非特異的防御機構について （事前事後学修課題の内容） 免疫系の構成と機構、非特異的防御機構について調べておく 「解剖生理学」pp225-227
第13回	免疫系ＩＩ（生体防御機構）	（学修内容）特異的生体防御機構の仕組み、体液性免疫、細胞性免疫、免疫寛容とその破綻について （事前事後学修課題の内容） 特異的生体防御機構の仕組み、体液性免疫、細胞性免疫、免疫寛容とその破綻について調べておく「解剖生理学」pp227-233
第14回	皮膚組織と体温調節　（皮膚の構造と体温の調節機能）	（学修内容）皮膚の構造と体温調節機能について （事前事後学修課題の内容） 皮膚の構造と体温調節機能について調べておく 「解剖生理学」pp234-240
第15回	体液の恒常化　（体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性）	（学修内容）体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について （事前事後学修課題の内容） 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について調べておく 「解剖生理学」pp131-132

授業名	解剖・生理学実験	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2322
英文名	Experiment of Anatomy and Physiology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチを通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。
学修成果到達目標	1）人体の基本構造を理解できる。 2）人体の基本機能を理解できる。 3）特に消化器系・循環器系・内分泌系・呼吸器系・泌尿器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ スケッチおよびレポートの完成度　）□（　）

テキスト	『イラスト人体そのしくみと働き〈第2版〉』編者：加藤昌彦、出版社：東京教学社
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントをつけて返却する。翌週、模範解答を提示しつつ解説を行う。
留意事項	・ 各回、観察する臓器などに関する説明をおこなう。 ・ レポートの提出は、期限を厳守すること。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	解剖・生理学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）オリエンテーション（実験実習の目的と進め方、顕微鏡の使い方、その他ルール説明） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.3-30を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第2回	組織観察１－A 胃、小腸（回腸）、大腸（結腸）	（学修内容）①消化管（胃、小腸、大腸）の一般的な構造、②消化管の筋層間結合組織 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.85-92とp.95-97を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第3回	組織観察１－B 胃、小腸（回腸）、大腸（結腸）	（学修内容）①消化管（胃、小腸、大腸）の一般的な構造、②消化管の筋層間結合組織 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.85-92とp.95-97を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第4回	組織観察２－A 肝臓、膵臓	（学修内容）①肝臓における基本的構造体（肝小葉）の構造と機能、②膵臓における内分泌と外分泌、③３種類の毛細血管の構造と機能 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.92-95、98-107、165-169を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第5回	組織観察２－B 肝臓、膵臓	（学修内容）①肝臓における基本的構造体（肝小葉）の構造と機能、②膵臓における内分泌と外分泌、③３種類の毛細血管の構造と機能 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.92-95、98-107、165-169を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第6回	組織観察３－A 腎臓、副腎	（学修内容）①腎臓の構造と尿生成・血流量調整の仕組み、②副腎髄質の交換神経細胞 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.133-137とp.140-144を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第7回	組織観察３－B 腎臓、副腎	（学修内容）①腎臓の構造と尿生成・血流量調整の仕組み、②副腎髄質の交換神経細胞 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.133-137とp.140-144を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第8回	組織観察４－A 甲状腺、肺臓、気管	（学修内容）①神経系と内分泌系によるホメオスタシス、②下気道～肺胞の構造と肺胞でのガス交換 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.125-127、170-173を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第9回	組織観察４－B 甲状腺、肺臓、気管	（学修内容）①神経系と内分泌系によるホメオスタシス、②下気道～肺胞の構造と肺胞でのガス交換 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.125-127、170-173を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第10回	組織観察５－A 心筋、脊髄、大脳	（学修内容）①心筋の構造と機能・動脈・静脈・毛細血管の構造と機能、②脊髄の前角細胞、③大脳皮質の内外錐体細胞の分布 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.109-111、117-121、151-160、179-181を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第11回	組織観察５－B 心筋、脊髄、大脳	（学修内容）①心筋の構造と機能・動脈・静脈・毛細血管の構造と機能、②脊髄の前角細胞、③大脳皮質の内外錐体細胞の分布 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.109-111、117-121、151-160、179-181を読んでおく 事後：授業内で描いたイラストの内容を覚えるまで何回も描く
第12回	感覚器系（味覚）－A	（学修内容）味覚の種類と基本味、味覚の神経支配、味覚の特徴、味覚の形態他 （事前事後学修課題の内容） 事前：「食品学Ⅰ」第９回の講義シートを見返しておく 事後：レポートを作成し、提出する
第13回	感覚器系（味覚）－B	（学修内容）味覚の分布、味覚の感度検出とウェバーの法則、味覚の相乗効果と対比効果、味覚と嗅覚他 （事前事後学修課題の内容） 事前：「食品学Ⅰ」第９回の講義シートを見返しておく 事後：レポートを作成し、提出する
第14回	循環器系（血圧）－A	（学修内容）血圧に関する知識の確認、測定器具の取り扱い方、測定時の状況環境の影響、圧受容器反射と化学受容器反射、血圧調節因子、心音他 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.113-117、121-123を読んでおく 事後：レポートを作成し、提出する
第15回	循環器系（血圧）－B	（学修内容）様々な状態における最高血圧・最低血圧・脈拍数・呼吸数の測定と２種類の心音の確認他 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストのp.113-117、121-123を読んでおく 事後：レポートを作成し、提出する

授業名	病理病態学Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2317
英文名	Physiological Pathology Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要

病理病態学Ⅰでは、正常の細胞、組織の疾患による変性を理解し、疾患を持つ患者の診察から検査、診断への経過を理解し、栄養療法を含む治療の全容を理解する。主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、特に糖尿病、脂質異常症、痛風、肥満、メタボリックシンドローム、ビタミン、ミネラル代謝病と、内分泌系疾患、消化器系疾患（上部、下部消化管、肝臓、胆嚢膵臓疾患）等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。特に栄養療法が重要となる代謝疾患については充分な理解を促す。これらの診断に不可欠な臨床検査による病態の評価や診断について、昨今のガイドラインも含めて学び、治療の基本的な考え方に加えて、臨床現場での活用のできる病理病態学について理解する。

学修成果到達目標

1）疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化およびから疾病にいたる機序について理解する。
2）疾病を持つ患者さんへの診断から治療にいたるアプローチの方法を理解する。
3）特に代謝疾患（糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドローム）などについて、発症機序と栄養との関連を理解し、治療のガイドラインを学習して実践につながることを理解する。
4）内分泌腺の多彩な疾患を理解し、これらが及ぼす全身臓器への影響とその対処法が理解出来る。
5）食物の消化吸収に関わる消化管と、代謝に関わる肝臓、胆嚢、膵臓の疾病が理解し、その治療法における栄養学のかかわりを理解する。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解		汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

栄養科学イラストレイテッド　「臨床医学」　疾病の成り立ち　第３版第1刷版　編/田中　明、藤岡由夫　　羊土社

参考書

エキスパート管理栄養士養成シリーズ　臨床病態学　伊藤節子編 武曾惠理他著　第14刷版　　化学同人社
栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　第３版　編/志村二三夫、岡　純、山田和彦　羊土社

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義毎にClassroomに課題を提出し、これに解答を講義終了後24時間以内に返答することとして、その課題の理解度を確認する。毎回の返答内容を確認して、成績に反映する。
毎授業終了後に、授業中に穴埋めをしたシラバスを送り、授業で追いつけなかったところも補充できるように復習を促す。

留意事項

病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。

オフィスアワー

初回講義時に知らせます。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（６９９床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導を行っていた。現在も臨床継続中。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。

授業名	病理病態学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	加齢・疾患に伴う変化 （加齢による細胞組織の変化、炎症と創傷治癒、変性萎縮，腫瘍などの理解）	（学修内容）加齢・疾患に伴う変化 （加齢による変化、炎症と創傷治癒、変性萎縮，腫瘍など理解する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第1章　細胞と組織を復習しておくこと。 事前にテキスト第2章をよんでおくこと。
第2回	診断のための身体診療と検査（問診・全身状態の測定、全身症候、その他の主な症候）	（学修内容）疾患診断の概要　（問診・診察、主な症候で実地での状況を理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第１章①～④を読んでおくこと。
第3回	臨床検査I （臨床検査の種類と特性、基準値と検体の理解 検体検査の理解）	（学修内容）臨床検査I（種類と特性、基準値を理解する。一般臨床検査、血液学、生化学、免疫学検査，腫瘍マーカーを理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第１章（⑤～⑪）を読んでおくこと。
第4回	臨床検査II (生理学検査、画像検査の実際）	（学修内容）臨床検査II （微生物学、生理学、画像検査の実際について理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第１章（⑫～⑭）を読んでおくこと。
第5回	疾患の治療 （治療の種類と特徴、治療の方法の理解）	（学修内容）疾患の治療I（種類と特徴、治療の方法を末期、急性期，ターミナルケアについても理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第３章を読んでおくこと。
第6回	栄養障害と代謝疾患I （栄養障害，飢餓、糖尿病の病因と症状の理解）	（学修内容）栄養障害と代謝疾患I （栄養障害，飢餓、糖尿病の病因と症状の理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第４章（①，②A,B）を読んでおくこと。
第7回	栄養障害と代謝疾患II （糖代謝との診断、治療、小児糖尿病について理解）	（学修内容）栄養障害と代謝疾患II（糖代謝との診断、治療、小児糖尿病について理解し栄養療法を理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第４章(②C,D,E)を読んでおくこと。
第8回	栄養障害と代謝疾患III (脂質代謝異常、肥満、肥満症、メタボリックシンドローム，痛風：脂質の種類、疾患の病因、肥満の成り立ち、メタボリックシンドローム、痛風の理解）	（学修内容）栄養障害と代謝疾患III　（脂質代謝異常、肥満、肥満症、メタボリックシンドローム，痛風の病態、診断基準と治療の理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第４章（③～⑤）を読んでおくこと。
第9回	栄養障害と代謝疾患IV （先天性代謝異常症、ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症、血液ｐH異常の理解）	（学修内容）栄養障害と代謝疾患IV　（先天性代謝異常症、ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症、血液ｐH異常の理解する。） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第４章(⑥～⑨）を読んでおくこと。
第10回	内分泌系疾患I （ホルモンの特性の調節を理解。脳下垂体異常疾患を理解）	（学修内容）内分泌系疾患I　（ホルモンの特性の調節を理解。脳下垂体異常疾患を理解し、代謝への影響と治療を理解する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第１０章　内分泌系を復習しておくこと。 事前にテキスト第５章(①，②)を読んでおくこと。
第11回	内分泌系疾患II （甲状腺異常、副甲状腺異常、副腎異常について理解する）	（学修内容）内分泌系疾患II　（甲状腺異常、副甲状腺異常、副腎異常についてその治療法も含めて理解する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第１０章　内分泌系を復習しておくこと。 事前にテキスト第５章（③～⑤）を読んでおくこと。
第12回	消化器系ー消化管疾患I （上部消化管の疾患：口腔内疾患と嚥下、食道、胃までの疾患の理解）	（学修内容）消化器系ー消化管疾患I（上部消化管の疾患：口腔内疾患と嚥下、食道、胃までの疾患についての病態と治療を学習する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第２章　消化器系　を復習しておくこと。 事前にテキスト第６章（①，②）を読んでおくこと。
第13回	消化器系ー消化管疾患II （下部消化管疾患：炎症性腸疾患をはじめとする小腸、大腸の疾患を理解）	（学修内容）消化器系ー消化管疾患II　（下部消化管疾患：炎症性腸疾患をはじめとする小腸、大腸の疾患を理解し治療についても学習する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第２章　消化器系　を復習しておくこと。 事前にテキスト第６章（③）を読んでおくこと。
第14回	消化器系-肝・胆・膵疾患I （肝疾患について、ウィルス肝炎、脂肪肝、NAFLLD.NASH,肝がんなどを理解）	（学修内容）消化器系-肝・胆・膵疾患I　（肝疾患について、ウィルス肝炎、脂肪肝、NAFLLD.NASH,肝がんなどを理解理解する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第２章　６，消化吸収　を復習すること。 事前にテキスト第７章（①）を読んでおくこと。
第15回	消化器系-肝・胆・膵疾患II （胆石症、胆嚢炎、膵炎、胆・膵のがんについて理解する）	（学修内容）消化器系-肝・胆・膵疾患II （胆石症、胆嚢炎、膵炎、胆・膵のがんについて理解する。） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第２章　６，消化吸収　を復習すること。 事前にテキスト第７章(②)を読んでおくこと。

授業名	病理病態学Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2323
英文名	Physiological Pathology Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	病理病態学Ⅰに引き続き、循環器系、腎/尿路疾患系、神経・精神疾患系、呼吸器系、血液系、運動器系、皮膚系、免疫・アレルギー系、生殖器系などの主要疾患および感染症の成因、病態、診断、治療等を理解する。それぞれの系統の疾患の成り立ちと、結果として起こる病態と多彩な治療について、栄養学の関わりの可能性も含めて学習する。それぞれの臓器の構造と機能については、解剖生理学のテキストを復習しながら、学習を進める。
学修成果到達目標	1）　疾患の発症や進行のメカニズムを解剖生理学から引き続いて理解できる。 2）　疾患の症状や治療法をガイドラインも含めて理解できる。 3）　疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　「臨床医学」疾病の成り立ち　第３版　１刷　編/田中　明、藤岡由夫　羊土社
参考書	エキスパート管理栄養士養成シリーズ　臨床病態学　伊藤節子編　武曾惠理他著　第15刷　化学同人社 栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　第３版　編/志村二三夫、岡　純、山田和彦　羊土社
課題に対するフィードバックの方法	講義毎にClassroomに課題を提出し解答を講義終了後24時間以内に送付して理解度をフィードバックする。この理解度については成績に反映する。 毎授業終了後に、授業中に穴埋めをしたシラバスを送り、授業で追いつけなかったところも補充できるように復習を促す。
留意事項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学Ⅰ」を理解しておく。
オフィスアワー	初回講義時に知らせます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（６９９床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導を行っていた。現在も臨床病理指導継続中。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。

授業名	病理病態学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	循環器系疾患I （心不全とは何かを理解、発症機序、診断を理解）	（学修内容）循環器系疾患I　（心不全の考え方、発症機序、分類、治療ガイドラインを理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第4章　1　を復習しておくこと。 事前にテキスト第８章（①）を読んでおくこと。
第2回	循環器系疾患II （動脈硬化、虚血性心疾患の発症機序、治療を理解）	（学修内容）循環病態学II　（動脈硬化の発症機序と虚血性心疾患の病態と治療を理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第4章　2，5を復習しておくこと。 事前にテキスト第８章（②～③）を読んでおくこと。
第3回	循環器系疾患III （高血圧症、不整脈の症状、機序、治療を理解、）	（学修内容）循環器系疾患III　（高血圧症について発症機序、合併症、治療、ガイドラインを理解、不整脈の発症機序、致死性不整脈の診断と治療） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第4章　６を復習しておくこと。 事前にテキスト第８章(④、⑤)を読んでおくこと。
第4回	循環器系疾患IV （静脈血栓塞栓症、脳血管障害の発症、治療を理解）	（学修内容）循環器系疾患IV　（静脈血栓塞栓症、脳血管障害の発症、治療を理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第4章　３，４，を復習しておくこと。 事前にテキスト第８章(⑥～⑦)を読んでおくこと。
第5回	腎・尿路系疾患I （腎・尿路系の構造と働き、臨床症候分類を理解し、糸球体疾患である急性腎炎，急速進行性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、無症候性蛋白尿・血尿、ネフローゼ症候群について学ぶ）	（学修内容）腎・尿路系疾患I（腎・尿路系の構造と働き、臨床症候分類、各種糸球体疾患、急性、慢性、急速進行性腎炎やネフローゼ症候群を理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第６章　１を復習しておくこと。 事前にテキスト第９章（①～⑥）を読んでおくこと。
第6回	腎・尿路系疾患II （急性腎障害、慢性腎臓病、末期腎不全の病態、治療、悪性腫瘍を含む尿路系疾患を理解）	（学修内容）腎・尿路系疾患II　（急性腎障害、慢性腎臓病、末期腎不全の病態、治療を理解し食事療法も学ぶ） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第６章　を復習しておくこと。 事前にテキスト第９章(⑦～⑨）を読んでおくこと。
第7回	腎・尿路疾患III （尿路系疾患、結石症などと尿路系癌の理解）	（学修内容）腎・尿路疾患III　（尿路系疾患、結石症などと尿路系癌の理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第６章　を復習しておくこと。 事前にテキスト第９章(⑩⑪）を読んでおくこと。
第8回	神経・精神系疾患 （摂食障害、認知症、アルコール依存症、神経変性疾患、精神疾患、脳腫瘍を理解する）	（学修内容）神経・精神系疾患（摂食障害、認知症、アルコール依存症、神経変性疾患、精神疾患、脳腫瘍の病態を理解し、治療法を学ぶ） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第１１章　を復習しておくこと。 事前にテキスト第10 章を読んでおくこと。
第9回	呼吸器系疾患 （呼吸器の概要と上気道感染性疾患,COPD,気管支喘息、肺がんについて理解する）	（学修内容）呼吸器系疾患　（呼吸器の概要と上気道感染性疾患、COPD,気管支喘息、肺がんの理解、呼吸機能検査の理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第５章を復習すること。 事前にテキスト第１１章を読んでおくこと。
第10回	血液系疾患 （貧血についてその病態の種類と治療を理解する。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血傾向をきたす疾患について理解する）	（学修内容）血液系疾患（貧血の分類と鉄代謝、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血傾向をきたす疾患について治療法を含めて理解する） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第３章　１～７について復習する。 事前にテキスト第１２章（①～⑤）を読んでおくこと。
第11回	運動器（骨格系）疾患 （カルシウム代謝異常の理解　骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性関節症、フレイルティ、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解）	（学修内容）運動器（骨格系）疾患　（骨粗鬆症、骨軟化症、くる病やフレイルティ、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第９章を復習すること 事前にテキスト第１３章を読んでおくこと。
第12回	免疫・アレルギー疾患I （免疫応答の仕組み、現象の概要、アレルギー疾患、皮膚疾患を含む疾患の理解）	（学修内容）免疫・アレルギー疾患I　（免疫応答の仕組み、現象の概要、アレルギー疾患、皮膚疾患を含む疾患の理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第１３章　免疫系を復習すること。 事前にテキスト第１４，１５章(①②)を読んでおくこと。
第13回	免疫・アレルギー疾患II （AIDS, 膠原病、自己免疫疾患各種の理解）	（学修内容）免疫・アレルギー疾患II　（AIDS、膠原病、自己免疫疾患各種の理解、全身性、局所性自己免疫疾患の理解） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第１３章　免疫系を復習すること。 事前にテキスト第１５章(③④)を読んでおくこと。
第14回	婦人科疾患 （腫瘍性疾患、子宮内膜症など、妊娠時の疾患について理解する）	（学修内容）婦人科疾患　（腫瘍性疾患、子宮内膜症など、妊娠時の耐糖能異常、高血圧、貧血について治療も含めて理解する） （事前事後学修課題の内容） 解剖生理学　第７章　１，３～５を復習しておくこと。 事前にテキスト第１６章（①～③）を読んでおくこと。
第15回	感染症 （感染症の成因と病態、病原体、食中毒、性感染、院内感染について理解する）	（学修内容）感染症（感染症の成因と病態、病原体、食中毒、性感染、院内感染について、予防制度や抗菌剤の治療についても理解する） （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト第１７章を読んでおくこと。

授業名	微生物学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2318
英文名	Microbiology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	小川　順	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求めます。
学修成果到達目標	1）微生物と人間とのかかわりについて理解できる。 2）食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3）有用微生物の特性と利用法が理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（85%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（15%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ　微生物学　小林秀光、白石淳　編集　化学同人
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求めます。
留意事項	
オフィスアワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。
実践的教育	

授業名	微生物学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	微生物学イントロダクジョン	（学修内容）微生物学とは、微生物学の歴史 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第2回	微生物の基礎（分類など）	（学修内容）微生物の基礎、種類、一般性状、分類について 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第3回	微生物の基礎（代謝など）	（学修内容）微生物の基礎、代謝について 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第4回	食品と微生物（食中毒微生物）	（学修内容）食品中の微生物相と食中毒微生物 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第5回	食品と微生物（腐敗と保存）	（学修内容）食品の腐敗と保存 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第6回	微生物を利用した食品（細菌の例）	（学修内容）微生物を利用した食品、細菌の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第7回	微生物を利用した食品（酵母・カビの例）	（学修内容）微生物を利用した食品、酵母、カビの例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第8回	病原微生物（感染機構）	（学修内容）病原微生物の感染機構 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第9回	病原微生物（腸内細菌）	（学修内容）病原微生物、細菌（腸内細菌）の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第10回	病原微生物（消化器系感染）	（学修内容）病原微生物、細菌（消化器系感染）の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第11回	病原微生物（呼吸器系感染）	（学修内容）病原微生物、細菌（呼吸器系感染）の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第12回	病原微生物（真菌症）	（学修内容）病原微生物、真菌（真菌症）の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第13回	病原微生物（ウイルス・原虫）	（学修内容）病原微生物、ウイルス、原虫の例 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第14回	免疫	（学修内容）免疫の仕組みと微生物 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと
第15回	応用微生物学	（学修内容）微生物のバイオテクノロジー 適時、プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの該当箇所を事前学習しておくこと

授業名	微生物学実験	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2319
英文名	Experiment of microbiology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	小川　順	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。実験は、グループワークを基本として取り組む。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求める。
学修成果到達目標	1）微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2）食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3）有用微生物の形態、利用法が理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適時資料を配付する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、適時コメントを行う。
留意事項	微生物学を復習しておくこと。
オフィスアワー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。
実践的教育	

授業名	微生物学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第2回	微生物の培養と形態観察（培養）	（学修内容）培地調製、微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第3回	微生物の培養と形態観察（細菌）	（学修内容）細菌の培養、細菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第4回	微生物の培養と形態観察（酵母）	（学修内容）酵母の培養、酵母の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第5回	微生物の培養と形態観察（糸状菌）	（学修内容）糸状菌の培養、糸状菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第6回	微生物の採集とコロニーの分離（培養）	（学修内容）環境からの微生物の培養と単離 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第7回	微生物の採集とコロニーの分離（観察）	（学修内容）空中落下菌、表面付着菌の測定、微生物の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第8回	大腸菌の増殖観察（培養）	（学修内容）培地調製、大腸菌の培養 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第9回	大腸菌の増殖観察（測定）	（学修内容）大腸菌の生育の定量分析 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第10回	抗生物質による細菌の生育阻害（培養）	（学修内容）培地調製、細菌の抗生物質処理 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第11回	抗生物質による細菌の生育阻害（測定）	（学修内容）生育阻害の観察、定量分析 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第12回	食品からの発酵微生物の分離（培養）	（学修内容）培地調製、食品微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第13回	食品からの発酵微生物の分離（観察）	（学修内容）食品微生物の単離と形態観察 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第14回	乳酸発酵と乳酸の測定（培養）	（学修内容）乳酸菌を用いた乳酸発酵 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート
第15回	乳酸発酵と乳酸の測定（測定）	（学修内容）乳酸発酵物中の乳酸測定 適時プレゼンテーションを求めます （事前事後学修課題の内容） テキストの予習とレポート

授業名	調理学	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1302
英文名	Introduction on Cooking	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史的変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。
学修成果到達目標	1）調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2）献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得し説明できる。 3）食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得し説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	中嶋加代子他著『イラスト調理科学』東京教学社
参考書	授業中に適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却します。
留意事項	常に、自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと。 ほぼ毎回、授業の初めに前回の復習テストを行う。ICTを活用した振り返りも行うのでしっかり活用して復習し、要点を覚えておくこと。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。
実践的教育	

授業名	調理学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	人間と食品 （調理の役割と意義・調理と嗜好性）	（学修内容）・食文化と食生活　　・食料と環境問題 ・食嗜好と健康 （事前事後学修課題の内容） テキスト第1章を読み、予習をしておく
第2回	調理の役割 （嗜好性の主観的・客観的評価）	（学修内容）・嗜好性の主観的評価の種類と内容 ・嗜好背の客観的評価の種類と内容 （事前事後学修課題の内容） 前回（調理について）の復習をしておくこと。
第3回	調理の基本１（非加熱調理）	（学修内容）・非加熱調理操作の種類と特徴 ・非加熱調理操作により生じる食品材料の変化 （事前事後学修課題の内容） テキスト第2章１「調理操作の目的と分類」を読み、理解をしておく
第4回	調理の基本２（加熱調理）	（学修内容）・加熱調理時の伝熱方式と操作の原理および特徴 ・加熱調理に用いる熱源と加熱用機器の特徴 （事前事後学修課題の内容） 前回（非加熱調理）の復習をしておくこと。
第5回	調理の基本３（調味操作）	（学修内容）・個々の調味料による操作と特徴 ・だしについて （事前事後学修課題の内容） 前回（加熱調理）の復習をしておくこと。
第6回	植物性食品1（穀類・いも類・豆類など）	（学修内容）米・小麦・いも類・豆類・種実類それぞれの種類と構成成分および調理特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（調味操作）の復習をしておくこと。
第7回	植物性食品2（野菜類、果物類など）	（学修内容）野菜類、果物類、きのこ類、藻類それぞれの種類と構成成分および調理特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（穀類・いも類・豆類など）の復習をしておくこと。
第8回	動物性食品１（食肉類）	（学修内容）食肉類の成分と調理特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（野菜類、果物類など）の復習をしておくこと。
第9回	動物性食品２（魚介類）	（学修内容）魚介類の成分と調理特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（食肉類）の復習をしておくこと。
第10回	動物性食品３（卵類、牛乳・乳製品）	（学修内容）卵類、牛乳・乳製品それぞれの成分と調理特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（魚介類）の復習をしておくこと。
第11回	成分抽出素材	（学修内容）でんぷん、ゲル化材料、油脂類それぞれの種類と特性および使用法 （事前事後学修課題の内容） 前回（卵類、牛乳・乳製品）の復習をしておくこと。
第12回	調味料・香辛料・嗜好飲料	（学修内容）調味料・香辛料・嗜好飲料それぞれの種類と特性 （事前事後学修課題の内容） 前回（成分抽出素材）の復習をしておくこと。
第13回	食事計画	（学修内容）・食事計画の基礎 ・食生活指針、食事摂取基準、食事バランスガイド、食品群等について （事前事後学修課題の内容） 前回（調味料・香辛料・嗜好飲料）の復習をしておくこと。
第14回	献立作成	（学修内容）献立作成の手順と留意点および評価（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 前回（食事計画）の復習をしておくこと。
第15回	日本食品標準成分表の理解	（学修内容）・構成と内容 ・利用上の注意点 （事前事後学修課題の内容） 前回（献立作成）の復習をしておくこと。

授業名	調理学実習Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1303
英文名	Practical Exercise Cooking Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子・岩田　美智子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的変化を確認および把握する。４～５名を単位としたグループで実習を行う。
学修成果到達目標	１）調理に関する基礎知識を修得し、基本的な操作ができる。 ２）安全・栄養・嗜好性を考慮した食事を提供できる。 ３）調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的変化を関連付けて説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 基本的な調理技術の習得 ）□（ ）
テキスト	新調理研究会編『これからの調理学実習－基本手法から各国料理・行事食まで－』オーム社 『調理のためのベーシックデータ　第6版』　女子栄養大学出版部 『八訂準拠　ビジュアル食品成分表』　大修館書店 坂本裕子・森美奈子編『調理・献立作成の基礎』化学同人
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。
留意事項	４～５名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。 また、状況によっては、大幅に予定を変更することもある。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。
実践的教育	

授業名	調理学実習Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理、調理の基本操作　等）	（学修内容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項と基本操作 （事前事後学修課題の内容） 「実習書」第1章の1と2、「調理・献立の基礎」第1章を読んでおく。
第2回	献立作成のための基礎知識	（学修内容）食品成分表の使い方、栄養価計算、調味パーセント （事前事後学修課題の内容） 「調理・献立の基礎」p.26～51をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。
第3回	日本料理の基礎１（炊く、ゆでる、だしをとる）	（学修内容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第4回	日本料理の基礎２（すし飯、蒸す）	（学修内容）ちらしずし、茶碗蒸し （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第5回	日本料理の基礎３（揚げる、和える）	（学修内容）天ぷら、和え物、すまし汁 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第6回	日本料理の基礎４（焼く、煮る）	（学修内容）魚の照り焼き、炊き合わせ （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第7回	西洋料理の基礎１（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（学修内容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第8回	西洋料理の基礎２（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（学修内容）ムニエル、サラダ、ゼリー （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第9回	西洋料理の基礎３（パスタの扱い方）	（学修内容）スパゲティ、クッキー （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第10回	中国料理の基礎１（湯をとる、炒める）	（学修内容）炒飯、湯菜 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第11回	中国料理の基礎２（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（学修内容）炸菜、炒菜、点心 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第12回	中国料理の基礎３（特徴的な調理法）	（学修内容）溜菜、拌菜 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第13回	パン生地づくりの基本	（学修内容）ピザ、ラタトゥイユ （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡するテキストの関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第14回	材料の切り方	（学修内容）基本的な切り方の練習・確認 （事前事後学修課題の内容） 事前に連絡する切り方について十分練習をしておくこと。
第15回	包丁について	（学修内容）包丁の種類や扱い方（外部講師） （事前事後学修課題の内容） 「調理・献立の基礎」p.11～14をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。

授業名	調理学実験	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2325
英文名	Experiment of Cooking	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的変化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身に着ける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。基本的にグループ単位で実験を行う。
学修成果到達目標	1）実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明できる。 2）調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行うことができる。 3）官能評価や、機器による物性測定を行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(分析力) □( )

テキスト	プリント配布。 1回生時の調理学のテキスト「イラスト　調理科学」（東京教学社）を復習のため用いる。
参考書	特に使用しないが、授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出のレポートは添削後返却する。
留意事項	事前に配布するプリントに目を通し、実験方法等をしっかり予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成し、期日に提出すること。
オフィスアワー	初回にアナウンスします。
実践的教育	

授業名	調理学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）実験を行う上での注意と基本操作、次回の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：調理用の白衣、帽子等の準備をしておく 事後：次回の操作をノートにまとめておく
第2回	植物性食品の調理特性１（野菜）：実験	（学修内容）生野菜の放水と吸水 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第3回	植物性食品の調理特性１（野菜）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第4回	植物性食品の調理特性２（米）：実験	（学修内容）炊飯に関する実験 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第5回	植物性食品の調理特性２（米）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第6回	動物性食品の調理特性１（鶏卵）：実験	（学修内容）卵白の起泡性と安定性 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第7回	動物性食品の調理特性１（鶏卵）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第8回	抽出素材の調理特性１（砂糖）：実験	（学修内容）砂糖の加熱による変化 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第9回	抽出素材の調理特性１（砂糖）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第10回	抽出素材の調理特性２（ゲル化剤）：実験	（学修内容）寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第11回	抽出素材の調理特性２（ゲル化剤）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第12回	動物性食品の調理特性２（乳）：実験	（学修内容）pHによる牛乳の変化 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第13回	動物性食品の調理特性２（乳）：解説	（学修内容）前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成
第14回	食品の官能評価：実験	（学修内容）官能評価の実践 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験操作の流れを確認しておく 事後：実験結果を整理しておく
第15回	食品の官能評価：解説 総括	（学修内容）官能評価で得られたデータをつかった検定とこれまでの総括 （事前事後学修課題の内容） 事前：実験結果をまとめておく 事後：レポートの作成

授業名	調理学実習Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1311
英文名	Practical Exercise Cooking Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子・岩田　美智子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	調理学実習Ⅰで学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。４～５名単位のグループで実習を行う。
学修成果到達目標	1）日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解し説明できる。 2）季節のもてなし料理や行事食についての知識を持ち提供できる。 3）給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　調理技術の修得　)□(　)

テキスト	調理学実習Ⅰで購入したテキストを使用する。 新調理研究会編『これからの調理学実習 - 基本手法から各国料理・行事食まで - 』オーム社 『調理のためのベーシックデータ　第6版』女子栄養大学出版部 『八訂準拠　新ビジュアル食品成分表』大修館書店 坂本裕子・森美奈子編『調理・献立作成の基礎』化学同人
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。
留意事項	４～５名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。 また、状況によっては予定を大幅に変更することもある。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。
実践的教育	

授業名	調理学実習Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）調理学実習を受講するにあたっての諸注意 （事前事後学修課題の内容） 実習に必要な白衣、帽子等を準備しておく。
第2回	日本料理１（煮物、でんぷんの種類と特徴）	（学修内容）鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第3回	日本料理２（味付飯、和え物の応用）	（学修内容）栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第4回	日本料理３（もてなし料理・もち米の調理）	（学修内容）赤飯、ブリの照り焼き、炊き合わせ、赤だし （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第5回	西洋料理１（魚介だし、油脂の調理特性）	（学修内容）ブイヤベース、パウンドケーキ （事前事後学修課題の内容） 配布プリントおよびテキストを読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第6回	西洋料理２（塊肉の調理、シュー生地）	（学修内容）ボルシチ、サラダ、シュークリーム （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第7回	西洋料理３（小麦粉の調理、スポンジ生地）	（学修内容）マカロニグラタン、ホットサラダ、ロールスポンジケーキ （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第8回	西洋料理４（パイ生地）	（学修内容）アップルパイ （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第9回	中国料理１（パン生地の応用、砂糖の調理特性）	（学修内容）肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、抜絲地瓜 （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第10回	中国料理２（魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方）	（学修内容）炒墨魚、冷拌 （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第11回	中国料理３（点心）	（学修内容）粽子、水果西米露 （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第12回	行事食１（クリスマ料理）	（学修内容）ローストチキン、ポタージュ、サラダ （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第13回	行事食２（正月料理）	（学修内容）正月吉例料理、雑煮 （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所を読み、手順を理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第14回	・テーブルセッティングとマナー ・材料の切り方	（学修内容）・テーブルセッティングとマナーの基本 ・材料の切り方の練習・確認 （事前事後学修課題の内容） 事前に伝えるテキスト関連個所をよく読んでおくこと。 事前に伝える切り方をしっかり練習をしておくこと。
第15回	・献立のたて方 ・総括	（学修内容）献立をたてるために必要な事項を学ぶ 1年間のまとめ （事前事後学修課題の内容） テキストをよく読んでおくこと。 1年間の実習を振り返り、要点をまとめる。

授業名	食品学Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1304
英文名	Food Science Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	栄養士・管理栄養士の仕事は、栄養素に関する知識を駆使して人々の健康に寄与することである。 そのためには、まず食品について詳しく知っておく必要がある。 本講義では、様々な食品に含まれる栄養素の構成や、調理による栄養素の変化、栄養素が劣化する仕組み、食品の色・味・香りに影響する成分などについて学んでいく。
学修成果到達目標	1）食品の持つ三つの機能について理解できる。 2）食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 3）食品中の成分の変化について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	『イラスト食品学総論＜第9版＞』著者：江藤義春ら、出版：東京教学社
参考書	『管理栄養士国家試験　得点アップのための一問一答　TOKU-ICHI〈3〉食べ物と健康　第2版』　著者：林一也、出版：インターメディカル 『2025　管理栄養士国家試験　頻出ワード別一問一答　出るトコ徹底分析』　編集：中央法規管理栄養士受験対策研究会、出版：中央法規出版 『レビューブック管理栄養士2026』（後日購入）
課題に対するフィードバックの方法	・各講義、冒頭で前回の復習をおこなう。 ・小テスト内で理解度についてのアンケートを実施する。理解度の低い箇所について補足説明をおこなう。
留意事項	・講義の要点をまとめた単語帳を毎回配布するので、次の講義までに内容を覚えておくこと。 ・各回、単語帳の内容に沿った小テストを行う（前回の講義内容が９割程度、前々回の講義内容が１割程度）。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	食品学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	人と食べ物	（学修内容）・食文化の歴史的な変遷について学ぶ ・食品に関連する社会問題などを学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.1-3を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第2回	食品の機能について	（学修内容）食品の持つ機能について概要を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.3-5を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第3回	食品の一次機能１　炭水化物	（学修内容）・炭水化物のはたらきを学ぶ ・炭水化物の分類やその特徴を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.29とp.34-43を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第4回	食品の一次機能２　脂質	（学修内容）・脂質のはたらきを学ぶ ・脂質の分類やその特徴を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.48-54とp.58-59を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第5回	食品の一次機能３　たんぱく質	（学修内容）・たんぱく質のはたらきを学ぶ ・たんぱく質の分類やその特徴を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.63-77を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第6回	食品の一次機能４　ビタミン	（学修内容）・ビタミンのはたらきを学ぶ ・ビタミンの分類やその特徴を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.78-87を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第7回	食品の一次機能５　ミネラル	（学修内容）・ミネラルのはたらきを学ぶ ・ミネラルの分類やその特徴を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.89-97を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第8回	食品の一次機能６　水	（学修内容）・水分と保存性の関係性について学ぶ ・食品成分としての核酸の機能について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.30-33を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第9回	食品の二次機能　色素、呈味成分、香気成分	（学修内容）色や味、香りの元となっている成分について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.98-125を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第10回	食品の三次機能　機能性成分	（学修内容）機能性成分による健康効果について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.16とp.126-129を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第11回	栄養成分の変化１　炭水化物、脂質	（学修内容）炭水化物や脂質が、調理や保存によってどのように変化するのかについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.44-47、p.54-58、p.59-62を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第12回	栄養成分の変化２　たんぱく質、ビタミン	（学修内容）たんぱく質やビタミンが、調理や保存によってどのように変化するのかについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.70-73、75-76、80-81、87-88を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第13回	食品の物性	（学修内容）食品の”歯ごたえ”や”とろみ”などの元となっている成分について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.131-148を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第14回	食品の表示と規格基準１　食品表示制度	（学修内容）・食品表示に関連する法律について学ぶ ・食品表示のルールについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：『食品表示を見てみよう』（作成：東京都）を見ておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第15回	食品の表示と規格基準２　規格基準	（学修内容）保健機能食品および特別用途食品の分類や、それに関連するルールについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.12-17を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する

授業名	食品学Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1312
英文名	Food Science Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	『食品学Ⅰ』で習得した”栄養素”に関する知識を基盤に、『食品学Ⅱ』ではそれらを含む食品の取り扱い方について、一歩引いた視点を持って学ぶ。 本講義では、『食品学Ⅰ』でも学んだ食品に含まれる栄養素や、調理・加工による食品成分（栄養素・色・味・香り・粘性など）の変化について、食品分類（植物性食品、動物性食品、油脂、調味料、発酵食品等）ごとに、より具体的に学んでいく。また、食品加工（インスタント麺・レトルト食品の製造、食品添加物など）や、発酵食品（酒類の醸造、味噌・醤油の製造など）などについても学ぶ。
学修成果到達目標	1）食品成分表について深く理解できる。 2）食品の嗜好性成分、食品の調理・加工特性などが理解できる。 3）食品の三次機能成分について健康に与える影響と役割を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 応用力 ）□（ ）

テキスト	『イラスト食品学各論』著者：北越香織ら、出版社：東京教学社
参考書	『管理栄養士国家試験　得点アップのための一問一答　TOKU-ICHI〈3〉食べ物と健康　第2版』　著者：林一也、出版：インターメディカル 『2025　管理栄養士国家試験　頻出ワード別一問一答　出るトコ徹底分析』　編集：中央法規管理栄養士受験対策研究会、出版：中央法規出版 『レビューブック管理栄養士2026』（後日購入）
課題に対するフィードバックの方法	・各講義、冒頭で前回の復習をおこなう。 ・小テスト内で理解度についてのアンケートを実施する。理解度の低い箇所について補足説明をおこなう。
留意事項	・講義の要点をまとめた単語帳を毎回配布するので、次の講義までに内容を覚えておくこと。 ・各回、単語帳の内容に沿った小テストを行う（前回の講義内容が9割程度、前々回の講義内容が1割程度）。
オフィスアワー	掲示します。
実践的教育	

授業名	食品学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の分類	（学修内容）・食品の分類法について学ぶ ・『日本食品標準成分表』について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.1-3を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第2回	植物性食品１　穀類、いも類	（学修内容）穀類・いも類に分類される食品の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.16-34を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第3回	植物性食品２　豆類、種実類	（学修内容）豆類・種実類に分類される食品の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.36-44を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第4回	植物性食品３　野菜類、果実類	（学修内容）野菜類・果実類に分類される食品の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.45-62を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第5回	植物性食品４　きのこ類、藻類	（学修内容）きのこ類・藻類に分類される食品の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.63-69を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第6回	動物性食品１　肉類	（学修内容）牛肉・豚肉・鶏肉などの特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.74-91を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第7回	動物性食品２　魚介類	（学修内容）魚・いか・たこ・えび・かに・貝の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.92-111を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第8回	動物性食品３　乳類	（学修内容）乳製品の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.112-123を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第9回	動物性食品４　卵類	（学修内容）卵の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.124-133を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第10回	食用油脂１　植物性油脂	（学修内容）植物性油脂の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.142-148を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第11回	食用油脂２　動物性油脂	（学修内容）動物性油脂の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.136-142、148-150を予習し、まとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第12回	調味料、香辛料、飲料	（学修内容）調味料・香辛料・嗜好飲料類の特徴や利用法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.150-167を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第13回	食品加工１　加工食品	（学修内容）・食品加工の意義について学ぶ ・各種の加工食品（冷凍食品など）について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.171-182、191-195を予習し、まとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第14回	食品加工２　微生物利用食品	（学修内容）各種の発酵食品（アルコール飲料・発酵調味料）について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.182-191を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第15回	食品流通、保存	（学修内容）・食料安全保障や食品の供給に関連する課題について学ぶ ・流通における食品の保存方法などについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストp.196-209を読んで予習し、関連箇所をまとめておく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する

授業名	食品学実験Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN1313
英文名	Experiment of food science Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	高村　仁知	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	食品中に存在する一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）の定性・定量分析などの実習を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。
学修成果到達目標	1）食品中の一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）について理解する。 2）分析器具および分析機器の使用法、ならびに食品の一般成分の分析法を修得する。 3）食品成分の定性分析と定量分析を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	基礎からの食品・栄養学実験　村上俊男編著　建帛社、配布プリント
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じ、コメントを付けてレポート返却
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	食品学実験Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、基本操作法	（学修内容）食品成分分析の基本操作 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第2回	卵の比重測定と鮮度検査	（学修内容）卵の比重測定と原理 食品の鮮度検査と原理 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第3回	比色分析～検量線の利用	（学修内容）吸光度測定 検量線の作成と利用 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第4回	pH試験紙を用いた固体食品のpH測定	（学修内容）pH試験紙 固体食品のpH測定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第5回	pHメーターを用いた液体食品のpH測定	（学修内容）pHメーター 液体食品のpH測定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第6回	中和滴定による牛乳の酸度測定	（学修内容）中和滴定 牛乳の酸度測定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第7回	ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離と同定	（学修内容）ペーパークロマトグラフィー アミノ酸の分離同定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第8回	薄層クロマトグラフィーによる色素の分離と同定	（学修内容）薄層クロマトグラフィー 色素の分離同定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第9回	キレート滴定法による水の硬度測定	（学修内容）キレート滴定 水の硬度測定 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第10回	糖質の定性反応による構造決定	（学修内容）糖質の構造 糖質の定性反応 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第11回	食品中のビタミンの分析～飲料に含まれるビタミンCの定性と定量	（学修内容）飲料に含まれるビタミンCの定性と定量 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第12回	食品中のビタミンの分析～食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用	（学修内容）食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第13回	食品中の機能性成分の分析～緑茶飲料に含まれる緑茶タンニンの定量	（学修内容）没食子酸エチルを用いた検量線の作成 緑茶タンニンの定量 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第14回	食品中の機能性成分の分析～茶葉抽出液に含まれる緑茶タンニンの定量	（学修内容）茶葉抽出液の調製 緑茶タンニンの定量 （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ	（学修内容）食品中の成分検出と特性のまとめ （事前事後学修課題の内容） テキスト該当部分の予習 実験レポート作成

授業名	食品学実験Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3326
英文名	Experiment of food science II	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	小西　康仁	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	食品学実験Ⅰを踏まえ、主要な食品成分の特性を捉えるとともに、食品成分間の化学反応による変化や脂質の酸化など食品に起こる現象について学ぶ。さらに、食品の加工や調理工程が、栄養や安全、嗜好に関する様々な特性を高めることを理解して、加工原理やその加工方法を修得する。また、共同実験者とのコミュニケーションを図りながら、グループで実験を進める。
学修成果到達目標	1）食品の成分やその変化について、専門用語を用いて説明することができる。 2）食品の加工特性について理解し、加工方法を説明することができる。 3）実験で得られた数値を正確に計算し、正しい単位で表現することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	村上俊男 編著　「改訂 基礎からの食品・栄養学実験」　建帛社 ＊実験で使用しているテキストを継続して使用します。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、総評しコメントいたします。
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認するため、食品学の復習もしておくこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	食品学実験Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	実験器具の取り扱いや注意点に関するオリエンテーション	（学修内容）食品成分の分析や加工実験に必要な器具の取り扱い関するオリエンテーションを行う （事前事後学修課題の内容） テキストに記載の器具の取り扱い等に関する予習 実験レポートの作成
第2回	食品加工実験① 微生物を用いた加工食品（味噌の原材料の特性）	（学修内容）微生物を用いた加工食品として味噌の原材料を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 味噌作り必要な微生物や原材料の大豆に関する予習 実験レポートの作成
第3回	食品加工実験② 微生物を用いた加工食品（味噌の加工原理と方法）	（学修内容）微生物を用いた加工食品として味噌作りを行う （事前事後学修課題の内容） 味噌の種類とその特徴に関する予習 実験レポートの作成
第4回	食品加工実験③ 水産物を用いた加工食品（水産練り製品の原材料の特性）	（学修内容）水産物を用いた加工食品として水産練り製品の原材料を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 水産練り製品の原材料となる魚類の成分に関する予習 実験レポートの作成
第5回	食品加工実験④ 水産物を用いた加工食品（水産練り製品の加工原理と方法）	（学修内容）水産物を用いた加工食品として水産練り製品を作る （事前事後学修課題の内容） 水産練り製品の種類とその特徴に関する予習 実験レポートの作成
第6回	非酵素的褐変反応① アミノカルボニル反応の原理	（学修内容）非酵素的褐変反応として、アミノカルボニル反応の条件を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストに記載のアミノカルボニル反応に関する予習 実験レポートの作成
第7回	非酵素的褐変反応② アミノカルボニル反応を利用した主な食品	（学修内容）非酵素的褐変反応として、アミノカルボニル反応を利用した食品を学ぶ （事前事後学修課題の内容） アミノカルボニル反応に関与する糖質とアミノ酸の構造に関する予習 実験レポートの作成
第8回	酵素的褐変反応① ポリフェノールオキシダーゼ反応の原理	（学修内容）酵素的褐変反応として、ポリフェノールオキシダーゼの反応条件を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストに記載のポリフェノールオキシダーゼの反応に関する予習 実験レポートの作成
第9回	酵素的褐変反応② ポリフェノールオキシダーゼ反応を利用した主な食品	（学修内容）酵素的褐変反応として、ポリフェノールオキシダーゼを利用した食品を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 酵素的褐変反応を利用したお茶の種類に関する予習 実験レポートの作成
第10回	デンプンの分離・観察 ジャガイモデンプンの分離と顕微鏡観察	（学修内容）ジャガイモに含まれるデンプンの分離し、デンプンの構造を顕微鏡にて観察を行う （事前事後学修課題の内容） デンプンを多く含む穀類やいも類などに関する予習 実験レポートの作成
第11回	食品に含まれるたんぱく質分解酵素 マイタケプロテアーゼの酵素活性測定	（学修内容）マイタケからプロテアーゼを抽出し、酵素活性の測定を行う （事前事後学修課題の内容） タンパク質分解酵素を多く含む食品に関する予習 実験レポートの作成
第12回	油脂の変敗① 酸価の測定	（学修内容）油脂の変敗を評価するため、食用油の酸価を測定する （事前事後学修課題の内容） テキストに記載の油脂の酸価に関する予習 実験レポートの作成
第13回	油脂の変敗② 過酸化物価の測定	（学修内容）油脂の変敗を評価するため、食用油の過酸化物価を測定する （事前事後学修課題の内容） テキストに記載の油脂の過酸化物価に関する予習 実験レポートの作成
第14回	官能評価の手法	（学修内容）味噌を用いた官能評価の手法を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストに記載の官能評価に関する予習 実験レポートの作成
第15回	食品成分の分析や加工実験に関するまとめ	（学修内容）食品成分の分析や加工実験に関するまとめを行う （事前事後学修課題の内容） 今まで提出した実験レポートを見て到達目標の振り返りを行う 実験レポートの作成

授業名	食品衛生学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2324
英文名	Food Hygiene	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	食に関わる現場において、提供するものが安全であることは大前提である。 とりわけ、免疫力や体力の弱い高齢者や子供においては、食中毒などが重篤な結果となる可能性が高いため、栄養士にとって食品衛生について学ぶことは最重要課題であると言っても過言ではない。 本講義では、食中毒の原因（細菌、カビ、寄生虫、自然毒、ウイルス、化学物質など）、原因物質による食品の変質、食中毒を引き起こす条件、およびその対策としての衛生管理の具体的な方法などについて学んでいく。 また、健康に影響を与えうる食品成分として食品添加物（第11回）やその表示に関するルール（第15回）、およびそれらを取り締まる法律（第1回）などについても学ぶ。
学修成果 到達目標	1）食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。 2）食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。 3）食品衛生管理のためのHACCPシステムを理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	『イラスト 食品の安全性〈第4版〉』編著者：小塚諭、出版社：東京教学社
参考書	『管理栄養士国家試験　得点アップのための一問一答　TOKU-ICHI〈3〉食べ物と健康　第2版』　著者：林一也、出版：インターメディカル 『2025　管理栄養士国家試験　頻出ワード別一問一答　出るトコ徹底分析』　編集：中央法規管理栄養士受験対策研究会、出版：中央法規出版 『レビューブック管理栄養士2026』（後日購入）
課題に対するフィードバックの方法	・各講義、冒頭で前回の復習をおこなう。 ・小テスト内で理解度についてのアンケートを実施する。理解度の低い箇所について補足説明をおこなう。
留意事項	・講義の要点をまとめた単語帳を毎回配布するので、次の講義までに内容を覚えておくこと。 ・各回、単語帳の内容に沿った小テストを行う（前回の講義内容が9割程度、前々回の講義内容が1割程度）。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	食品衛生学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生と法規	（学修内容）・食品衛生の重要性について学ぶ ・食品衛生や食品表示に関連する法令について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.1-22を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第2回	食品衛生と微生物	（学修内容）・食中毒とは何なのかを学ぶ ・食中毒の原因微生物や原因物質の概要を学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.44-45を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第3回	微生物の増殖因子とその制御について	（学修内容）食中毒の原因微生物が増殖する要因、およびその制御方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.25-41を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第4回	食中毒と発生状況	（学修内容）食中毒の起こりやすい季節や場所、その原因について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.46-50を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第5回	食中毒１　細菌性食中毒（感染型）	（学修内容）・細菌類の特徴や分類法について学ぶ ・細胞内に侵入するタイプの細菌による食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.67-74、77-79、92-93を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第6回	食中毒２　細菌性食中毒（毒素型）	（学修内容）毒素を出すタイプの細菌による食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.74-77、79-92、101-104を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第7回	食中毒３　ウイルス性食中毒	（学修内容）・人獣共通感染症について学ぶ ・ウイルスが原因となって起こる食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.93-97、104-107を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第8回	食中毒４　化学性食中毒、自然毒、カビ毒	（学修内容）化学性食中毒や動物性・植物性の自然毒、カビ毒などが原因となって起こる食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.50-66、143-148を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第9回	食中毒５　寄生虫	（学修内容）寄生虫が原因となって起こる食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.107-116を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第10回	食中毒６　化学物質、有害元素、放射性物質、アレルゲン	（学修内容）環境ホルモンや、食品に混入することのある化学物質（化学物質、有害元素、放射性物質）、アレルゲンなどについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.148-170を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第11回	食品添加物	（学修内容）食品添加物の分類や用途、安全性の評価法、関連する法律などについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.187-214を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第12回	器具・容器包装の規格基準と表示	（学修内容）食品に使用される器具や容器包装の特徴などについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.173-185を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第13回	食品衛生管理	（学修内容）HACCPガイドラインや一般衛生管理事項、ISO基準に基づいた衛生管理システム、家庭における衛生管理について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.121-140を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第14回	新規食品とその安全性	（学修内容）遺伝子組換え食品やゲノム編集食品、放射線照射食品の特徴や、食品表示制度における取り扱われ方について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.217-230を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する
第15回	食品表示制度	（学修内容）食品表示制度（原産地表示、栄養表示、強調表示、賞味期限・消費期限、保健機能食品、特別用途食品など）について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・事前：テキストのp.231-256を読んでおく ・事後：Classroom内の演習問題を実施する

授業名	食品衛生学実験	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3325
英文名	Experiment of food hygiene	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斉藤　伸一	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	食品の安全性の確保と衛生管理に必要となる測定・分析の基礎技術について学ぶ。具体的には食品の生物学的汚染（微生物）や食品の化学的汚染（農薬、重金属、毒物など）のチェック方法、食品添加物の検出、食品の腐敗、変質の検査法、環境水の安全管理の方法などについて学ぶ。衛生的管理の仕組みについては、調理行程の具体例を取り上げ、重要管理点の決定や管理基準の設定と実際のチェックなどを行いHACCPシステムの実際について学んでいく。
学修成果到達目標	1）食品の安全確保と衛生管理のための実験手法を理解している。 2）食品の生物学的汚染、化学的汚染を検出し、安全管理ができる。 3）HACCPシステムを理解でき、重要管理点のチェックができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 論理的に課題に対する考察ができる ）□（ ）
テキスト	『Nブックス 実験シリーズ 三訂 食品衛生学実験 第２版』後藤政幸、熊谷優子・編著（建帛社）
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出されるレポートを確認し、理解度を判定しコメントをつけて返却する。
留意事項	・ 各回、教科書および実習書（配布資料）を読んで、実験内容を予習すること。 ・ 不明な点は、「食品衛生学」の配布資料（Classroomアーカイブ）や教科書を見返して復習しておくこと。 ・ レポートの提出は、期限を厳守すること。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	食品衛生学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎	（学修内容）オリエンテーション（実験実習の目的と進め方、実験に関する注意事項、実験ノート・実験レポート作成、その他ルール説明） （事前事後学修課題の内容） テキスト第１章 「１.食品衛生検査の意義と目的」および「２．実験を始める前に」を読んでおく
第2回	微生物検査１ 手指の細菌検出	（学修内容）手指の細菌をグロープジュース法で分離し、培養し、検出する。皮膚の常在菌と手洗いの重要さについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.117-120、127-128を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第3回	微生物検査２ ①スタンプ法 ②ふき取り法	（学修内容）調理器具等について①スタンプ法　②ふき取り法で微生物検査を行い、一般衛生管理手法を修得する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.117-120、127-128を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第4回	油脂の変質試験 チオバルビツール酸価の測定	（学修内容）油脂の変質をチオバルビツール酸価を用い判定する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.20、23-24、26を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第5回	魚肉の変質・鮮度試験 ヒスタミンの検出	（学修内容）魚肉中のヒスタミンの検出を行い、新鮮度の判定を行う （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.20、23-24、26を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第6回	水分活性の測定	（学修内容）各種食品の水分活性について調べる （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.51-52を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第7回	器具および容器・包装の有害化学物質の溶出 ホルムアルデヒドの検出	（学修内容）器具および容器・包装からのホルムアルデヒドの溶出について確認する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.51-52を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第8回	食品添加物試験１ ①発色剤（亜硝酸ナトリウム）の検出 ②酸化防止剤の検出	（学修内容）食品添加物の発色剤と酸化防止剤を検出する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.69-74を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第9回	食品添加物試験２ ③酸性タール色素の抽出と検出	（学修内容）食品中の酸性タール色素を羊毛法で抽出し、薄層クロマトグラフィー法で同定する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.69-74を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第10回	飲料水の水質検査１ ①アンモニア性窒素 ②亜硝酸性窒素 ③硝酸性窒素	（学修内容）インドフェノール法によるアンモニア性窒素、ジアゾ法による亜硝酸性窒素、サリチル酸Na定量法による硝酸性窒素を測定する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.11-13、18-19を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第11回	飲料水の水質検査２ 残量塩素の測定	（学修内容）飲料水の水質検査の項、残留塩素をDPD法で測定する （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.11-13、18-19を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第12回	HACCPシステム１　重要管理点の設定	（学修内容）ハンバーグ調理を例にとり、重要管理点の設定を行い、HACCPシステムの構築について考えていく （事前事後学修課題の内容） ・実験前：「食品製造におけるHACCP入門のための手引書」（厚生労働省）を読んでおく
第13回	HACCPシステム２　管理基準	（学修内容）ハンバーグ焼成時の内部温度測定や食中毒細菌の検出、使用器具のたんぱく質の検出などを行い、管理基準の設定について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ・実験後：レポートを作成し、提出する
第14回	衛生管理について 清浄度検査 ①ATP測定 ②たんぱく質測定法 マスターテーブル法	（学修内容）ＡＴＰ測定、たんぱく質測定法で調理器具清浄後の清浄度チェックを行い、衛生管理の重要性について理解していく （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.125-128を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する
第15回	食品表示について	（学修内容）実際の食品の表示の分析を通して食品表示について理解するとともに、イムノクロマトグラフィー法によるアレルギー物質の検出を行う （事前事後学修課題の内容） ・実験前：テキストp.125-128を読んでおく ・実験後：レポートを作成し、提出する

授業名	基礎栄養学	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1401
英文名	Basic Nutrition	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。
学修成果到達目標	1）栄養の概念について解説できる。 2）食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて説明できる。 3）健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について解説できる。 4）体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	スタンダード人間栄養学 基礎栄養学、渡邉 早苗 編、朝倉書店（第4版）
参考書	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学、田地陽一　編、羊土社（第4版）
課題に対するフィードバックの方法	Google classroomからの質問および小テストについて解説を行います。
留意事項	テキストの予習と授業で配布した資料をしっかり読むこと。 復習課題として、ICTを活用した小テストを実施します。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	基礎栄養学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養の概念	（学修内容）栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割 （事前事後学修課題の内容） 教科書p14-26を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 教科書の章末問題の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第2回	食物の摂取	（学修内容）摂食行動について （事前事後学修課題の内容） 教科書p28-37を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 教科書の章末問題の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態（１）消化器系	（学修内容）消化器系の構造と機能 消化の概要 （事前事後学修課題の内容） 教科書p39-50を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-3の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態（２）消化の調節	（学修内容）管腔内消化と膜消化 栄養素別の消化・吸収 （事前事後学修課題の内容） 教科書p50-64を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q4-8の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態（３）栄養素の体内動態	（学修内容）門脈系とリンパ系 （事前事後学修課題の内容） 教科書p64-66を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 第1回から第5回までの範囲の管理栄養士国家試験過去問題を解く
第6回	糖質の栄養（１）分類	（学修内容）糖質の分類 エネルギー源 （事前事後学修課題の内容） 教科書p68-72を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章の問題Q1-3・7-10に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第7回	糖質の栄養（２）血糖	（学修内容）血糖とその調節 食物繊維 （事前事後学修課題の内容） 教科書p73-84を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q4-6・11-18に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第8回	脂質の栄養（１）種類	（学修内容）脂質の種類 脂質の臓器間輸送 （事前事後学修課題の内容） 教科書p87-97を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-10の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第9回	脂質の栄養（２）代謝	（学修内容）脂質の体内代謝 脂肪酸由来生理活性物質 （事前事後学修課題の内容） 教科書p98-103を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q11-12の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第10回	たんぱく質の栄養（１）構造と機能	（学修内容）たんぱく質の構造・機能 合成と分解 （事前事後学修課題の内容） 教科書p107-112を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-2の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第11回	たんぱく質の栄養（２）代謝	（学修内容）たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 摂取するたんぱく質の量と質の評価 （事前事後学修課題の内容） 教科書p112-123を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q3-5の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第12回	ビタミンの栄養	（学修内容）ビタミンの種類と構造 ビタミンの栄養学的機能 （事前事後学修課題の内容） 教科書p125-140を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-5の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第13回	ミネラルの栄養	（学修内容）ミネラルの種類と機能 （事前事後学修課題の内容） 教科書p142-152を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-5の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第14回	水・電解質の意義	（学修内容）水の出納と電解質代謝 （事前事後学修課題の内容） 教科書p154-166を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-5の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する
第15回	エネルギー代謝	（学修内容）エネルギー代謝の概念と測定法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p169-180を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 章末問題Q1-5の解答・解説に関する箇所にマーカーを入れ暗記する

授業名	基礎栄養学実験	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1402
英文名	Experiment of Basic Nutrition	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	田中　惠子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	実験を通して、基礎栄養学で学んだ知識と考え方の理解を深める。栄養素の消化・吸収に関わる実験や生体内の栄養素の測定を行い、その結果を栄養素の体内動態と関連付けて考察する。さらに、自身の身体活動と食事の簡易調査を行い、エネルギー代謝と身体活動の関連性を理解する。実験結果をまとめ、考察してレポートを作成する作業を通して、科学的な思考を身につけるとともに、グループで実験を行うことで人と協同する力を養う。
学修成果到達目標	1）消化吸収のしくみを説明できる。 2）栄養素の代謝と生理的な意義について説明できる。 3）順序や段取りを考えて実験を進めることができる。 4）数値データを正しく処理することができる。 5）実験結果を論理的に考察することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　45分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　生化学実験　　鈴木敏和、杉浦千佳子、高野　栞／著　羊土社　および　配布資料 ※「生化学実験」と同じテキストを使用します。
参考書	基礎栄養学、生化学の教科書
課題に対するフィードバックの方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。
留意事項	基礎栄養学と生化学の内容を復習しておくこと。 実験の内容を予習しておくこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	

授業名	基礎栄養学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）実験の基礎知識（単位、濃度、試薬、実験器具と洗浄など） （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分の予習と授業ノートの整理
第2回	容量分析（１）中和滴定の基礎	（学修内容）中和滴定による未知濃度塩酸の濃度測定 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分、配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第3回	容量分析（２）食品成分の定量	（学修内容）メスフラスコを用いた溶液調製、食酢の酸度測定 （事前事後学修課題の内容） 実験レポートを作成する。
第4回	in vitro　酵素消化（１）糖質	（学修内容）パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第5回	in vitro　酵素消化（２）脂質とタンパク質	（学修内容）パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 （事前事後学修課題の内容） 実験レポートを作成する。
第6回	尿中のミネラルの定性と定量（１）定性	（学修内容）尿中ミネラルの定性 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第7回	尿中のミネラルの定性と定量（２）定量	（学修内容）尿中Clイオンの定量 （事前事後学修課題の内容） 実験レポートを作成する。
第8回	尿中ビタミンの定量（１）前処理	（学修内容）尿中ビタミンC 試料の調製 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第9回	尿中ビタミンの定量（２）定量	（学修内容）尿中総ビタミンC の定量 （事前事後学修課題の内容） レポートを作成する。
第10回	エネルギー代謝（１）行動調査	（学修内容）行動調査による消費エネルギーの算出 （事前事後学修課題の内容） 配布資料と基礎栄養学の教科書第10章を読んでくること。１日間の行動と食事の記録をとる。
第11回	エネルギー代謝（２）食事調査	（学修内容）食事調査による摂取エネルギーの算出 （事前事後学修課題の内容） レポートを作成する。
第12回	肝臓グリコーゲンの分離と定量（１）分離	（学修内容）ブタ肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第13回	肝臓グリコーゲンの分離と定量（２）定量	（学修内容）ブタ肝臓のグリコーゲンの定量 （事前事後学修課題の内容） 実験レポートを作成する。
第14回	肝臓脂質の分離と定量（１）分離	（学修内容）ブタ肝臓からの脂質の抽出分離 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、ノートに予習してくること。
第15回	肝臓脂質の分離と定量（２）定量	（学修内容）ブタ肝臓の中性脂肪とコレステロールの定量 （事前事後学修課題の内容） 実験レポートを作成する。

授業名	応用栄養学Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2403
英文名	Applied Nutrition　Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	応用栄養学Ⅰでは、健康の維持増進や生活習慣病の発症予防、重症化予防を目指して、ライフステージの様々な対象者に応じた栄養管理のための基礎的事項について学ぶ。そのために栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を身につけ、「日本人の食事摂取基準」について策定の理論や管理栄養士として正しく活用するための基本的な事項について理解を深める。 応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して各ライフステージ別やスポーツ時、特殊環境下の栄養管理の考え方を詳しく学んでいくが、Ⅰでは基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化、およびそれらの特徴について理解する。
学修成果到達目標	1）栄養管理の考え方を正しく理解できる。 2）食事摂取基準について正しく理解できる。 3）成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「栄養科学イラストレイティッド　応用栄養学」第3版　栢下淳・上西一弘（羊土社）
参考書	「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版　※発売され次第購入します
課題に対するフィードバックの方法	Google classroomからの質問および小テストについて解説を行います。
留意事項	教科書の予習と授業で配布した資料をしっかり読むこと。 復習課題として、ICTを活用した小テストを実施します。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間を研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	応用栄養学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	応用栄養学の位置づけ、栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の概念と意義、PDCAサイクル	（学修内容）栄養ケア・マネジメントとは、実施の方法、PDCAサイクルについて （事前事後学修課題の内容） 教科書の目次を見て、興味のある章を3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第2回	栄養管理の進め方、栄養スクリーニングとPDCAサイクル	（学修内容）栄養学的リスクの判断と栄養スクリーニングについて （事前事後学修課題の内容） 教科書p.10-13を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第3回	栄養評価・栄養診断、栄養アセスメントについて	（学修内容）栄養評価の方法と栄養アセスメントの種類、方法について （事前事後学修課題の内容） 教科書p.14-21を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第4回	栄養管理計画の作成および実施について 栄養モニタリングと評価、修正、アウトカム	（学修内容）教科書p.22-26を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する （事前事後学修課題の内容） 教科書第1章を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第5回	日本人の食事摂取基準の策定方針	（学修内容）食事摂取基準の策定の方向性、対象者、対象とするエネルギー及び栄養素 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.27-30を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第6回	食事摂取基準の策定の基本的事項、指標を理解するための概念図	（学修内容）特徴科学的根拠と留意事項、指標の目的と種類 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.30-34を読んで、範囲内のキーワードを3つ以上抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第7回	推定エネルギー必要量の策定、身体活動レベル	（学修内容）推定エネルギー必要量の策定方法 エネルギー代謝と身体活動レベル （事前事後学修課題の内容） 教科書p.40-41を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第8回	栄養素の策定について１．たんぱく質、脂質	（学修内容）たんぱく質、脂質の策定方法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.42-43を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第9回	栄養素の策定について２．炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス	（学修内容）炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスの策定方法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.43-44を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第10回	栄養素の策定について３．脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン	（学修内容）脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの策定方法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.44-47を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第11回	栄養素の策定について４．多量ミネラル、微量ミネラル	（学修内容）ミネラルの策定方法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.47-50を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第12回	食事摂取基準の活用に関する基本的事項、食事調査方法、食事改善を目的とした食事摂取基準の活用	（学修内容）活用の基本的考え方と留意点、食事摂取状況に関する調査方法、個人の食事改善と集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用について （事前事後学修課題の内容） 教科書p.35-40を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第13回	成長・発達・加齢と身体的変化、スキャモンの発育曲線	（学修内容）成長・発達・加齢に伴う身体的変化、発育の5原則、体組成、スキャモンの発育曲線 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.59-67を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第14回	成長・発達・加齢と消化・吸収、代謝の変化 摂食機能の発達	（学修内容）消化・吸収、代謝の変化 摂食機能の発達 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.106-114を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第15回	加齢に伴う身体的、精神的変化と栄養状態 全体のまとめ	（学修内容）加齢に伴う身体的変化、社会性の発達と栄養状態の変化、評価の方法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.67-74を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する

授業名	応用栄養学Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2407
英文名	Applied Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	応用栄養学Ⅰで学んだ栄養管理のあり方、および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学Ⅱでは、妊娠期・授乳期および新生児期から成長期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方、およびその栄養管理について理解を深める。 同時に関連する疾病や健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。
学修成果到達目標	1）妊娠から成長の各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。 2）1）の各期における栄養管理について理解できる。 3）リスク管理の基本的な考え方や方法について考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「栄養科学イラストレイティッド　応用栄養学」第3版　栢下淳・上西一弘（羊土社） （応用栄養学Ⅰで使用のテキスト）
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	Google classroomからの質問および小テストについて解説を行います。
留意事項	応用栄養学Ⅰを復習し、専門用語の理解を深める。 復習課題として、ICTを活用した小テストを実施します。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	応用栄養学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	妊娠期の生理的特徴	（学修内容）妊娠の成立・維持、胎児の発育、母体の生理的変化 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.75-81を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第2回	産褥期・授乳期の生理的変化	（学修内容）産褥期の母体の変化、授乳、母乳成分 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.81-86を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第3回	妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア	（学修内容）妊娠期の栄養管理（食事摂取基準・妊産婦のための食生活指針・食事バランスガイド） （事前事後学修課題の内容） 教科書p.86-94を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第4回	妊娠期に注意を要する病態・疾患と栄養ケア	（学修内容）妊娠期のつわり（悪阻）、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群他と栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 教科書p.94-104を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第5回	授乳期の食事摂取基準、栄養管理	（学修内容）授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第6回	新生児期・乳児期の生理的特徴	（学修内容）乳児期の身体の成長、発達の特徴と栄養特性 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.105-114を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第7回	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	（学修内容）乳汁栄養の栄養管理、食事摂取基準、栄養補給法 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.114-118を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第8回	離乳期の食事と栄養管理	（学修内容）乳児期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理、食物アレルギーについて （事前事後学修課題の内容） 教科書p.118-121を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第9回	乳幼児期に注意を要する病態・疾患と栄養ケア	（学修内容）幼児期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.122-125を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第10回	幼児期の生理的特徴と栄養ケア	（学修内容）幼児期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理、食物アレルギーについて （事前事後学修課題の内容） 教科書p.127-137を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第11回	幼児期の食事管理（保育所給食）と食物アレルギー	（学修内容）保育所給食における給与栄養目標量、アレルギー対応 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.137-142を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第12回	学童期・思春期の生理的特徴と栄養ケア	（学修内容）学童期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性 学童期の栄養状態の評価と判定 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.142-145を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第13回	学童・思春期の学校給食の役割	（学修内容）学童・思春期の学校給食の役割と栄養管理 （事前事後学修課題の内容） 教科書p.145-148を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第14回	思春期の身体の成長・発達と栄養	（学修内容）思春期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する
第15回	保育所・学校での食物アレルギー対応	（学修内容）成長期の栄養アセスメントと栄養ケア （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読んで、範囲内のキーワードを3つ抽出しておく 小テストを解き、教科書の関連箇所にマーカーを入れ暗記する

授業名	応用栄養学Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	FN3414
英文名	Applied Nutrition Ⅲ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	応用栄養学Ⅲでは、ライフステージの中で特に成人期以降の加齢による身体的・生理的変化とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、および栄養管理について学ぶ。さらに、運動や特殊環境下など身体への影響が考えられる状況でのリスク管理を踏まえた栄養管理のありかたについて学ぶ。
学修成果到達目標	1）成人期以降における身体の変化と栄養管理のありかたについて理解できる。 2）加齢による変化に対応する食事のあり方について評価、判定できる。 3）運動負荷や特殊環境下における生体の状態を理解し、その栄養管理のありかたについて説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学　第3版　栢下　淳・上西一弘／編　羊土社 （応用栄養学Ⅰ、Ⅱで使用のテキスト）
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	Google classroomからの質問および小テストについて解説を行います。
留意事項	応用栄養学Ⅰ・Ⅱを復習しておく。 復習課題として、ICTを活用した小テストを実施します。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	応用栄養学Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	成人期の身体の変化と栄養	（学修内容）成人期の身体状況の変化と栄養 （事前事後学修課題の内容） テキスト（第9章）を読んで疑問に思った事を箇条書きにしておく 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第2回	成人期の生活習慣病と栄養管理、食事摂取基準	（学修内容）生活習慣病のリスクと予防、栄養管理 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第3回	更年期の身体の変化と栄養	（学修内容）更年期の身体状況の変化と栄養 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第4回	更年期の病態と栄養管理（骨粗鬆症予防）	（学修内容）更年期の骨粗鬆症予防、栄養管理 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第5回	高齢期の生理的特徴、病態・疾患と栄養	（学修内容）高齢期の生理的特徴 病態・疾患と栄養との関係 （事前事後学修課題の内容） テキスト（第10章）を読んで疑問に思った事を箇条書きにしておく 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第6回	高齢期の食事摂取基準	（学修内容）高齢期の栄養アセスメント、食事摂取基準 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第7回	高齢期の栄養管理、食事支援	（学修内容）高齢期の栄養ケア・マネジメント、後期高齢者の食事支援 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第8回	運動・スポーツ時の生理的特徴と代謝	（学修内容）運動時の生理的特徴と代謝 （事前事後学修課題の内容） テキスト（第11章）を読んで疑問に思った事を箇条書きにしておく 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第9回	運動・スポーツと健康作り	（学修内容）健康作りと運動 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第10回	運動・スポーツと栄養管理	（学修内容）運動と栄養ケア・マネジメント （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第11回	ストレス環境下の生理的変化と代謝	（学修内容）ストレス環境下における生理的特徴、代謝 （事前事後学修課題の内容） テキスト（第12章）を読んで疑問に思った事を箇条書きにしておく 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第12回	ストレス環境と栄養管理	（学修内容）ストレス環境下における栄養ケア・マネジメント （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第13回	特殊環境と栄養（高温・低温環境下における代謝変化と栄養ケア・マネジメント）	（学修内容）高音・低温環境下における栄養管理 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第14回	特殊環境と栄養（高圧・低圧、無重力による影響と栄養管理）	（学修内容）高圧・低圧、無重力下における栄養管理 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる
第15回	栄養管理の実践上の問題点について まとめ	（学修内容）栄養管理の実践上の問題点について （事前事後学修課題の内容） 前回の復習をし、理解できていない項目をGoogleClassroomで提出する 小テストを解き、教科書の関連個所にマーカーを入れる

授業名	応用栄養学実習	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3420
英文名	Practical Applied Nutrition	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能および栄養状態の変化、スポーツ時等における栄養について、実習を通して理解を深める。対象者に応じた栄養スクリーニング、栄養アセスメント、短期・中期・長期の栄養管理目標の設定と栄養ケアプランを作成し、プランに即した献立を作成する力をつける。それら献立プランを実習し、評価・判定を行い、栄養管理の方法について理解を深め、実践力を身につける。実習は4～5名のグループで行う。
学修成果到達目標	1）栄養アセスメントを理解し実践することができる。 2）栄養管理の考え方を理解し、対象者に応じた栄養管理が実践できる。 3）献立作成をはじめ栄養ケアプランを実践できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	改訂 応用栄養学実習書 第3版　―PDCAサイクルによる栄養ケアー、柳沢幸江 松井幾子 編著、建帛社
参考書	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで使用のテキスト 「日本食品標準成分表（文部科学省）」
課題に対するフィードバックの方法	提出課題や小テストは点検後、返却します。授業内で解説し、理解を深めます。
留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを復習しておく。 次週の授業内容について、何をするのかを把握しておく。 配布プリントや提出した課題プリントは各自、ファイルにまとめておくこと。 調理実習もしますので、身支度の準備をしておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。
実践的教育	

授業名	応用栄養学実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養マネジメントの概要	（学修内容）オリエンテーション、栄養マネジメントの理解、栄養スクリーニングと栄養アセスメントの方法と実際 （事前事後学修課題の内容） シラバス、テキスト第1・2章を読んで栄養マネジメントと食事摂取基準についてポイントを復習しておく。
第2回	日本人の食事摂取基準の活用とPDCAサイクル 必要栄養量の科学的根拠	（学修内容）食事摂取基準の復習 エネルギーと栄養素について （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第3・4章を読んで食品構成と荷重平均成分表を復習しておく。
第3回	栄養管理計画とその実践について	（学修内容）食品構成、荷重平均成分表の理解、 適正栄養量の算定と献立作成 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第5章を読んで、妊娠期・授乳期の栄養を復習しておく。
第4回	妊婦・授乳婦を対象とした栄養管理（ケーススタディの検討）	（学修内容）妊婦（妊娠前期、中期、後期）・授乳婦を対象とした栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 第5回の実習の手順を予習し、班での役割分担を決定しておく。
第5回	非妊娠時と妊娠期の指定献立の実習	（学修内容）非妊娠時と妊娠期（妊娠前期、中期、後期）に適した展開食を調理し、栄養評価を行う。 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第6章を読んで、新生児期・離乳期の栄養を復習しておく。
第6回	乳児期、離乳期の栄養管理	（学修内容）乳児期の栄養管理（調製粉乳と特殊ミルク、調乳法、離乳食の進め方） 食物アレルギーについての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第7章を読んで、幼児期の栄養を復習しておく。
第7回	幼児期の栄養管理（ケーススタディの検討）	（学修内容）幼児期の栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第7章を読んで、幼児期の栄養を復習しておく。
第8回	乳児期、離乳期、幼児期の栄養管理の実際	（学修内容）離乳食の展開、食物アレルギー対応食の献立作成と評価 保育所給食と間食の献立作成と評価 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 第9回の実習の手順を予習し、班での役割分担を決定しておく。
第9回	調乳、離乳食とアレルギー食の指定献立の実習	（学修内容）調乳を行い、離乳食と食物アレルギーに適した献立を実習し、栄養評価を行う。 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第8・9章を読んで学童・思春期のケーススタディを予習する。
第10回	学童・思春期の栄養管理の実際（ケーススタディの検討と献立作成）	（学修内容）ケーススタディ（肥満児、学校給食、貧血、やせの場合）の課題と改善、各班のまとめと発表、献立作成 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第10・11章を読んでケーススタディを予習する。
第11回	成人期、更年期の栄養管理の実際（ケーススタディの検討と献立作成）	（学修内容）ケーススタディ（メタボリックシンドローム、更年期障害の場合）の課題と改善、各班のまとめと発表、献立の作成 （事前事後学修課題の内容） 授業時に提示する課題をしておくこと。 テキスト第12・13章を読んでケーススタディを予習する。
第12回	高齢期、運動負荷に対応したの栄養管理の実際（ケーススタディの検討と献立作成）	（学修内容）ケーススタディ（低栄養、咀嚼力低下、運動負荷の場合）の課題と改善、各班のまとめと発表、献立の作成 （事前事後学修課題の内容） テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。
第13回	学童期～高齢期、スポーツ時の課題解決に向けた食事の提供（作成献立の実習）	（学修内容）学童期～高齢期、スポーツ時の各班の作成献立を実習し、栄養評価を行う。 （事前事後学修課題の内容） テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。
第14回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際① 各班のまとめ	（学修内容）各ライフステージにおけるケーススタディーの課題について、各班で改善に向けた検討を行いまとめる。 （事前事後学修課題の内容） テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。
第15回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際② 各班の発表	（学修内容）各班の検討課題に対する栄養ケア、食事プランを発表する。全体で評価を行う。 （事前事後学修課題の内容） 各班で課題をまとめ、発表準備をしておくこと。 授業時に提示する課題を提出する。

授業名	栄養教育論Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2404
英文名	Nutrition Education Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の目的を理解し、人々の健康に寄与するためには全てのライフステージにおいて栄養教育が必要であることを学ぶ。 また、管理栄養士に求められる資質について理解し、栄養教育の実施者としての素養を醸成する。 健康と食環境づくりの関係を理解し、広い視野をもって栄養教育をとらえる必要性を学ぶ。 行動変容理論やモデルを応用することで、効果的な栄養教育が計画・実施できることを学ぶ。
学修成果到達目標	1）栄養教育の定義・目的・必要性を説明できる。 2）健康の維持・増進と食環境づくりの関係性を説明できる。 3）効果的な栄養教育を実施するために応用できる行動変容理論やモデルについて説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論　改訂第５版　武見ゆかり　編集 栄養教育・指導実習ワークブック　第４版　出版社：みらい
参考書	適宜参考書を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして例を提示して解説を行う。
留意事項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	栄養教育論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養教育の定義と目的、栄養委教育の意義 栄養教育を担う管理栄養士に求められる資質・能力	（学修内容）栄養教育の目的と意義を理解し、管理栄養士の社会的責務を説明できる。管理栄養士に求められる資質・能力、職業倫理について理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。 テキストp.viiとp.1～5を読んでおく。
第2回	わが国における健康課題と栄養課題 ヘルスプロモーションと健康教育・栄養教育	（学修内容）わが国の健康課題と栄養課題の関係を理解し、健康寿命の延伸に向けた取組について理解する。ヘルスプロモーションの概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）健康と栄養の課題について調べておく。テキストp.5～7を見直しておく。
第3回	栄養教育の対象と機会 ライフステージ・ライフスタイルと栄養教育	（学修内容）栄養教育の対象について理解し、栄養教育は様々な年齢・生活スタイル・健康状態の対象に行われることを理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.82～87とp.147～159、p.211～224を見ておく。
第4回	栄養教育の対象と機会 健康・疾病予防と栄養教育	（学修内容）栄養教育は、様々な年齢・健康状態の対象に行われることを理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.1～4とp.160～180、p.200～210を見ておく。 （事後）授業終了後、課題プリントを提出する
第5回	食行動に関連する要因と生態学モデル	（学修内容）栄養教育に必要なモデルの１つである生態学モデルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.5～7、p.231～239を読んでおく。
第6回	食環境づくりと栄養教育 食環境の整備と健康	（学修内容）食行動は、組織やコミュニティ、政策に大きく影響されることを理解する。グループディスカッションを実施し食環境づくりの意義を考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.8～14を読んでおく。（事後）身近にある食環境整備の例を取り上げ、健康との関連について考察する。
第7回	健康と食事の関連性の評価	（学修内容）適正な量と質をもつ食事・食生活が健康や疾病予防に寄与することを理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）自身の食事内容と食環境を記録し、持参する。
第8回	栄養教育が扱う「行動」と「食物」について	（学修内容）栄養教育が扱う「行動」には、観察可能な行動以外にも知識や態度などを含むことを理解し、行動科学を理解する必要性を理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.15～22を読んでおく。 （事後）授業終了後、課題プリントを提出する
第9回	栄養教育で用いる理論やモデル	（学修内容）栄養教育に行動科学が必要であることを理解する。ヘルスビリーフモデルや計画的行動理論などの行動変容に関係する理論について理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.22～24を読んでおく。
第10回	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論	（学修内容）トランスセオレティカルモデルなどの行動変容に関係する理論について理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.24～26を読んでおく。ワークブックp.123～125を読んでおく。
第11回	対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論	（学修内容）社会的認知理論、ソーシャルサポート、自己効力感などの対人関係や環境との相互作用による行動変容理論について理解する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.26～29をを読んでおく
第12回	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論	（学修内容）集団の特性を活かした行動変容のあり方や大規模集団や地域レベルの行動変容について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.29～36を読んでおく
第13回	栄養カウンセリングの基本的な考え方と基本技法	（学修内容）栄養カウンセリングの基本的な考え方と基本技法を理解する。職業倫理や個人の情報の取り扱いなどを重視し、職業人としての態度を育む。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.37～45を読んでおく。ワークブックp.99～100を読んでおく。
第14回	行動変容のための技法	（学修内容）刺激統制法、認知再構成法、セルフモニタリングなど、習慣を変えやすくする様々な方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.65～75を読んでおく。
第15回	ナッジを用いた食環境づくり まとめ	（学修内容）ナッジを用いた健康行動の誘導について学ぶ。 栄養教育論Ⅰのまとめをする。 （事前事後学修課題の内容） （事前）テキストp.1～36の全体に目を通し、学習した内容を整理しておく。

授業名	栄養教育論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2408
英文名	Nutrition Education Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	栄養教育マネジメントのＰＤＣＡサイクルを理解し、栄養教育に必要な情報の収集と分析を行い、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。 また、主体的な食生活形成の支援に必要なアセスメントと評価方法を修得し、対象の健康やQOLの向上につながる栄養教育を実践する力を身につける。
学修成果到達目標	1）栄養教育のマネジメントサイクルを説明できるようになる。 2）栄養教育のアセスメントの種類と方法を説明できるようになる。 3）栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト	健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論　改訂第５版　武見ゆかり　編集　　＊春学期に購入済み 栄養教育・指導実習ワークブック　第４版　出版社：みらい　＊春学期に購入済み
参考書	食事バランスガイド　農林水産省 日本人のための食事摂取基準　2025年版　第一出版
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解説を行う。
留意事項	実際の栄養教育プログラムに関心を持ち、実施者の立場を想定しながら学修してもらいたい。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	栄養教育論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養教育マネジメントの概要 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	（学修内容）対象を理解するためのモデルについて理解する。 栄養教育マネジメントのＰＤＣＡサイクルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。 テキストp.79～93を読んでおく。
第2回	栄養教育のためのアセスメントの種類と方法 栄養教育におけるABCDサイクルの意義	（学修内容）栄養教育のための調査およびアセスメントの種類・方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.95～103を読んでおく。
第3回	身体検査値・臨床検査値の種類と特徴 食事調査の種類と特徴	（学修内容）身体検査値や臨床検査値の種類を理解し判定する。食事調査を体験型で学ぶ。（グループワークを含む） （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.14～28を読んでおく。授業終了後、課題プリントを提出する。
第4回	個人の栄養アセスメント 料理・食品・栄養素摂取量の評価 －食事摂取基準、食事バランスガイド	（学修内容）栄養アセスメントのツールとして食事摂取基準と食事バランスガイドを用い、個人の食事評価に必要な項目と内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.29～45を読んでおく。食事摂取基準、食事バランスガイドを復習しておく。授業終了後、課題プリントを提出する。
第5回	集団の栄養アセスメント	（学修内容）個人の栄養評価をまとめ、簡易な統計指標によって集団の栄養課題を抽出し、栄養課題を選定する必要性を理解する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.46～73を読んでおく。授業終了後、課題プリントを提出する。
第6回	栄養教育のマネジメント 　目標設定の意義と種類 　評価の意義と評価項目	（学修内容）栄養教育において、目標設定の意義とその種類について理解する。 栄養教育において、評価の意義とその種類について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.105～113を読んでおく。
第7回	栄養教育方法の選択 －学習者の設定、教材の選択、学習形態の選択、実施者のトレーニング	（学修内容）栄養教育のプログラムの作成のための、学習者の決定、時間・場所の設定、教材の選択、学習形態の種類と特徴などについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.113～128を読んでおく。
第8回	栄養教育プログラムの作成	（学修内容）対象（個人や集団）の行動変容に寄与する栄養教育のあり方（計画・実施・評価・モニタリングの過程）について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.128～131を読んでおく。ワークブックp.74～98を読んでおく。
第9回	栄養教育プログラムの実施と評価 栄養教育の評価デザイン	（学修内容）引き続き、対象（個人や集団）の行動変容に寄与する栄養教育のあり方（計画・実施・評価・モニタリングの過程）について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.133～146を読んでおく。
第10回	集団を対象とした栄養教育の実施例①　妊娠期、授乳期	（学修内容）妊娠期/胎児期や授乳期の栄養教育の実施例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.138～147を読んでおく。 授業終了後、課題プリントを提出する。
第11回	集団を対象とした栄養教育の実施例②　離乳期・幼児期	（学修内容）離乳期や幼児期の栄養教育の実施例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.148～160を読んでおく。 授業終了後、課題プリントを提出する。
第12回	集団を対象とした栄養教育の実施例③　学童期・思春期	（学修内容）学童期や思春期の栄養教育の実施例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.161～171を読んでおく。 授業終了後、課題プリントを提出する。
第13回	集団を対象とした栄養教育の実施例④　成人期	（学修内容）成人期の栄養教育の実施例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.172～175を読んでおく。 授業終了後、課題プリントを提出する。
第14回	集団を対象とした栄養教育の実施例⑤　生活習慣病	（学修内容）特定保健指導における栄養教育のあり方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.183～185、p.200～207を読んでおく。 授業終了後、課題プリントを提出する。
第15回	集団を対象とした栄養教育の実施例⑥　高齢期 栄養教育論Ⅱのまとめ	（学修内容）高齢期の栄養教育の実施例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.176～182を読んでおく。授業終了後、課題プリントを提出する。

授業名	栄養教育論実習Ⅰ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN2409
英文名	Practice in Nutrition Education Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	栄養教育論実習Ⅰでは、集団を対象とした栄養教育の模擬実演を通して、様々な対象集団における栄養問題のアセスメントからカリキュラムの作成、栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。
学修成果到達目標	1）集団を対象にした栄養教育を計画、実施し、評価できるようになる。 2）対象に適した教材を作成し、栄養教育を実施できるようになる。 3）プレゼンテーション技術を修得し、栄養教育を実施できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養教育・指導実習ワークブック第３版　山下静江・岩間範子 編　出版社：みらい （２回生時に購入済）
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	作成中の各段階に確認を行い、コメントを付してフィードバックする。 模擬栄養教育の実施時にクラス全体で評価・意見交換を行い、講評を行う。
留意事項	プレゼンテーションを楽しむ気持ちやコミュニケーション力を培い、各自が積極的に関わって進めていくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	栄養教育論実習Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ライフステージごとの栄養課題と栄養教育の実践	（学修内容）実習の概要と進め方の確認をする。 ライフステージごとの栄養課題を理解し、栄養教育を計画する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。
第2回	妊娠期・授乳期の栄養教育の実践	（学修内容）妊娠期・授乳期の栄養課題を挙げ、グループで指導案を作成し、用いる教材について検討する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.138～147を読んでおく。栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。
第3回	妊娠期・授乳期の教材の作成	（学修内容）対象に合った教材を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。
第4回	妊娠期・授乳期の栄養教育の実施と評価	（学修内容）栄養教育のリハーサルの後、修正点をグループで話し合い改善する。 その後、模擬的に栄養教育を実施し、聴講者より評価を得る。 （事前事後学修課題の内容） 作成した指導案を熟読し、実施前の準備を整えておく。 グループで振り返り、反省点・改善点をまとめ、提出する。
第5回	離乳期・幼児期の栄養教育の実践	（学修内容）離乳期・幼児期の栄養課題を挙げ、グループで指導案を作成し、用いる教材について検討する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.148～156を読んでおく。栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。
第6回	離乳期・幼児期の教材の作成	（学修内容）対象や養育者に合った教材を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。
第7回	離乳期・幼児期の栄養教育の実施と評価	（学修内容）栄養教育のリハーサルの後、修正点をグループで話し合い改善する。 その後、模擬的に栄養教育を実施し、聴講者より評価を得る。 （事前事後学修課題の内容） 作成した指導案を熟読し、実施前の準備を整えておく。 グループで振り返り、反省点・改善点をまとめ、提出する。
第8回	思春期・青年期の栄養教育の実践	（学修内容）学習形態の違いによる学習効果の差異についてグループで討議し、設定した結果目標により効果的な学習形態を選択し、計画する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.168～171、p.186～194を読んでおく。栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。
第9回	思春期・青年期の教材の作成	（学修内容）対象に合った教材を作成し、学習者にとって理解しやすく、実践につながりやすい教材とするための工夫について検討する。 （事前事後学修課題の内容） 栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。
第10回	思春期・青年期の栄養教育の実施と評価	（学修内容）グループで栄養教育のリハーサルを行い修正点をグループで話し合う。 その後、模擬的に栄養教育を実施し、評価票を用いて評価を得る。 （事前事後学修課題の内容） 作成した指導案を熟読し、実施前の準備を整えておく。 グループで振り返り、反省点・改善点をまとめ、提出する。
第11回	成人期・高齢期の栄養教育の実践	（学修内容）栄養課題を挙げ、指導案を作成し、用いる教材について検討する。講義型、討議型、体験型の違いによる行動変容の差異について検討する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp.172～185を読んでおく。栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。
第12回	成人期・高齢期の教材の作成	（学修内容）対象のライフスタイルに合った内容の教材を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 栄養課題に対応した栄養教育の実践例を検索しておく。栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。
第13回	成人期・高齢期の栄養教育の実施と評価	（学修内容）講義型、討議型、体験型の違いによる行動変容の差異について体験を通して学ぶ。模擬的に栄養教育を実施し、評価票を用いて評価を得る。 （事前事後学修課題の内容） 作成した指導案を熟読し、実施前の準備を整えておく。 グループで振り返り、反省点・改善点をまとめ、提出する。
第14回	健康イベントによる健康増進（模擬実践）	（学修内容）健康イベントを実施する場合の計画、準備、実施者のトレーニング、実施、評価、改善、報告の一連の流れを模擬実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 実践例を検索しておく。
第15回	栄養課題に対応した栄養教育の実施と評価 全体のまとめ	（学修内容）栄養教育の評価を踏まえ、改善案を考え、再計画する。 全体の振り返りと講評を行う。 （事前事後学修課題の内容） 評価の結果をまとめ、今後に向けた改善案を作成し、提出する。

授業名	栄養教育論Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	FN3415
英文名	Nutrition Education Ⅲ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	ライフコースを視野に入れ、人の生涯におけるそれぞれのライフステージ、ライフスタイルにおける栄養課題と必要な栄養教育について理解し、栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎知識を実践として活用する方法を修得する。
学修成果到達目標	1）ライフステージの特性に応じた栄養教育を行うためのアセスメント項目について説明できる。 2）ライフステージ別の栄養教育の特徴について説明できる。 3）ライフスタイル別の栄養教育の特徴と実施上の注意点を説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法			
定期試験（80%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（20%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論　改訂第５版　武見ゆかり　編集　＊２回生時に購入済み 栄養教育・指導実習ワークブック　第３版　出版社：みらい　＊２回生時に購入済み
参考書	適宜参考書を紹介する
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。
留意事項	栄養教育論、応用栄養学、臨床栄養学で学んだ内容を理解しておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認すること
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	栄養教育論Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ライフステージ別の栄養教育の対象と場	（学修内容）授業の進め方の説明をする。 ライフステージ別の栄養教育の対象と場について理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。 食生活指針・食事バランスガイドの復習をしておく。
第2回	妊娠期の栄養教育	（学修内容）妊娠期の特性について理解し、妊娠期における栄養教育の重要性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.147～159を読んでおく。 ワークブックp.138～147を読んでおく。
第3回	授乳期の栄養教育	（学修内容）授乳期の生活上および身体・精神的な特性について理解し、授乳期における栄養教育の必要性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.147～159を読んでおく。 ワークブックp.138～147を読んでおく。
第4回	乳児期の栄養教育	（学修内容）乳児期の特性、哺乳や離乳食／補完食と養育者への栄養教育について理解する。乳児の発育段階に応じた哺乳や離乳食の進め方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.160～172を読んでおく。 ワークブックp.148～151を読んでおく。
第5回	幼児期の栄養教育	（学修内容）幼児期の特性および幼児期の食生活のあり方について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.172～181を読んでおく。 ワークブックp.152～156を読んでおく。
第6回	保育所における基本計画と食育	（学修内容）保育所における保育計画と給食・食育とのつながりを理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.172～181を読んでおく。 ワークブックp.161～167を読んでおく。
第7回	学童期の栄養教育	（学修内容）学童期の特性および学童期の食生活のあり方について理解し、学校給食および養育者や地域への栄養教育について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.182～199を読んでおく。 ワークブックp.161～167を読んでおく。
第8回	食育基本法にみる「生きる力」の育成 －実践例－	（学修内容）幼児期、学童期、思春期の具体的な実践例を紹介する。 （事前事後学修課題の内容） 保育園、小学校、中学校における食育の取り組み例を検索し、１枚のプリントにまとめておく。
第9回	思春期の栄養教育	（学修内容）思春期の特性および思春期の食生活のあり方と栄養教育について理解するとともに、栄養教育の課題について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.200～210、ワークブックp.168～171を読んでおく。 確認テストの内容を復習しておく（妊娠・授乳期～思春期まで）
第10回	成人期の栄養教育(1) ライフスタイルを考慮した栄養教育	（学修内容）個々のライフスタイルの特徴に応じたアセスメントと栄養教育について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.211～217を読んでおく。 ワークブックp.172～175、183～185を読んでおく。
第11回	成人期の栄養教育(2) 健康経営、ICTを活用した栄養教育	（学修内容）健康と社会活動の関係性を理解し、健康経営の考え方を理解する。 また、栄養教育におけるICTの活用と今後について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.211～217を読んでおく。 ワークブックp.172～175、183～185を読んでおく。
第12回	成人期の栄養教育(3) 特定健診・特定保健指導	（学修内容）特定健診・特定保健指導のシステムを理解する。特定健診・特定保健指導における管理栄養士の役割と栄養教育のあり方について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.217～230を読んでおく。 ワークブックp.199～207を読んでおく。
第13回	高齢期の栄養教育	（学修内容）高齢期の栄養教育について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.231～236を読んでおく。 ワークブックp.176～182を読んでおく。
第14回	要介護者や在宅支援のため栄養教育・訪問指導	（学修内容）要介護者の栄養教育について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.236～247を読んでおく。 ワークブックp.176～182を読んでおく。
第15回	全体の振り返り、まとめ	（学修内容）授業全体を振り返る。 理解度確認テストと解説を行う。 （事前事後学修課題の内容） 確認テストの内容を復習しておく（妊娠期～高齢期）

授業名	栄養教育論実習Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3416
英文名	Practice in Nutrition Education Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	栄養状態や食行動などのライフスタイルに応じた個人への栄養教育のあり方や方法について学ぶ。 個人を対象とする栄養マネジメント力および栄養教育の実践力を養うため、自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、教材を用いた模擬教育を体験する他、食行動の変容が必要な個人を対象としたカウンセリングの実施について、講義で学んだ行動科学の理論を活用してその技術を身につけ、展開できる力を身につける。
学修成果到達目標	1）健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析から、それらを総合的に評価・判定できる。 2）対象者個人に応じた栄養教育を計画・実施・評価できる。 3）行動変容技法を用いて、食生活の変容に寄与する栄養教育が実施できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養教育・指導実習ワークブック　第3版　山下静江・岩間範子　編　　出版社：みらい
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	各グループの模擬栄養教育の実施後に講評を行う。
留意事項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	栄養教育論実習Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養カウンセリングの対象者と場面 カウンセリングマインドと職業倫理	（学修内容）栄養カウンセリングの概要について理解する。管理栄養士が持つべき態度と倫理を理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく
第2回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリング技法と話し方・聴き方、行動変容技法の適用	（学修内容）栄養カウンセリングの基本的技法である傾聴・受容・開かれた質問と閉ざされた質問・要約について学ぶ。行動変容技法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp99～110を読んでおく。
第3回	個人を対象とした栄養教育：カウンセリングの技法を交えた指導の展開（ロールプレイ）、行動変容技法の適用	（学修内容）傾聴・受容・開いた質問と閉じた質問・要約の仕方を体験型で学ぶ。栄養カウンセリングで用いる行動変容技法を対象に合わせて適用する。 （事前事後学修課題の内容） ワークブックp107～115を読んでおく。行動変容技法について復習しておく。実習後に課題を提出する。
第4回	ケーススタディ①：健常妊婦を対象とした栄養教育 アセスメントと栄養教育計画の作成	（学修内容）食生活、身体計測や生化学的指標のアセスメントを行い、対象を把握する。栄養教育を計画する。 （事前事後学修課題の内容） 妊娠期の食生活アセスメント、妊娠期の食事バランスガイドについて復習しておく。
第5回	ケーススタディ①：健常妊婦を対象とした栄養教育 指導用献立案の作成	（学修内容）アセスメントに基づき、対象に適切な指導用献立を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 献立作成の資料を準備する。実習後に指導献立を提出する。
第6回	ケーススタディ①： 健常妊婦に対する栄養教育の実施（ロールプレイ）	（学修内容）栄養指導計画に基づき、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 実習後に、グループメンバーによるフィードバックに対応したワークシートを提出する。
第7回	ケーススタディ②：特定保健指導対象者の栄養教育 アセスメントと栄養教育計画の作成	（学修内容）食生活、身体計測や生化学的指標のアセスメントを行い、対象を把握する。栄養教育を計画する。 （事前事後学修課題の内容） 生活習慣病の種類や生化学指標の基準値等について予習しておく。実習後、栄養教育計画を完成させ、提出する。
第8回	ケーススタディ②：特定保健指導対象者の栄養教育 指導用献立の作成	（学修内容）アセスメントに基づき、対象に適切な指導用献立を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 献立作成の資料を準備する。実習後に指導献立を提出する。
第9回	ケーススタディ②：特定保健指導対象者の栄養教育 栄養教育の実施（ロールプレイ）	（学修内容）栄養指導計画に基づき、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 模擬栄養指導の準備をする。 実習後、栄養教育のワークシートを完成させ、提出する。
第10回	ケーススタディ③：在宅高齢者（訪問指導）の栄養教育 アセスメントと栄養指導計画の立案	（学修内容）食生活、身体計測や生化学的指標のアセスメントを行い、対象を把握する。栄養教育を計画する。 （事前事後学修課題の内容） 実習後、栄養教育計画を完成させ、提出する。
第11回	ケーススタディ③：在宅高齢者（訪問指導）の栄養教育 指導用献立の作成	（学修内容）アセスメントに基づき、対象に適切な指導用献立を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 献立作成の資料を準備する。実習後に指導献立を提出する。
第12回	ケーススタディ③：在宅高齢者（訪問指導）の栄養教育 訪問栄養指導の実施（ロールプレイ）	（学修内容）栄養指導計画に基づき、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 模擬栄養指導の準備をする。 実習後、栄養教育のワークシートを完成させ、提出する。
第13回	継続指導：ケーススタディ①；健常妊婦	（学修内容）ケーススタディ①初回の栄養指導結果（妊婦）に基づいた継続指導案を作成し、模擬栄養指導を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 食事評価のツールや生化学指標の基準値等について復習しておく。 実習後、アセスメントシートを完成させ、提出する。
第14回	継続指導：ケーススタディ②；特定保健指導	（学修内容）ケーススタディ②初回の栄養指導結果（特定保健指導）に基づいた継続指導案を作成し、模擬栄養指導を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 食事評価のツールや生化学指標の基準値等について復習しておく。 実習後、アセスメントシートを完成させ、提出する。
第15回	継続指導：ケーススタディ③；在宅高齢者	（学修内容）ケーススタディ③初回の栄養指導結果（高齢者）に基づいた継続指導案を作成し、模擬栄養指導を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 食事評価のツールや生化学指標の基準値等について復習しておく。 実習後、アセスメントシートを完成させ、提出する。

授業名	臨床栄養学Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2405
英文名	Clinical Nutrition Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	臨床栄養学は傷病者・要介護者の栄養指導を行う管理栄養士業務に重要な内容である。臨床栄養学の意義と目的、及び臨床現揚における管理栄養士の業務内容、栄養管理の方法について、医療制度及び介護保険制度などを踏まえて、臨床栄養の概念の修得を目的とする。 具体的には、チーム医療、 NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士業務と多職種連携の概要、対象者の栄養状態を評価・判定する栄養評価法、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理プロセスと内容を理解する。また、外来や入院患者に対する栄養教育の方法や、栄養ケア記録（PES）、問題志向型システム（POS）を用いた栄養カルテの記載方法などについてグループでディスカッションを行い、理解を深める。
学修成果到達目標	1) 臨床における栄養ケアプロセスの意義と目的を理解し、説明できる。 2) 栄養ケアプロセスの手法である、栄養状態の把握・問題点の発見(アセスメント)、問題解決するためのケアプランの作成（栄養補給計画、栄養教育計画、他職種との連携など）、実践と経過観察(ケア記録の作成)など、それぞれの項目について 理解し、説明できる。 3) 医療・介護保険制度と臨床栄養について理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	・栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第3版　（羊土社） ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会　編・著（文光堂） ・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準　監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編（医歯薬出版株式会社）
参考書	・その他適宜、参考資料を配付する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業実施後に振り返り課題を提出し、採点後返却する。必要に応じ重要箇所や留意点につき説明する。
留意事項	学習項目に沿い、関連科目（基礎栄養学、解剖生理学、病理病態など）の復習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、定期試験・国家試験勉強に活用できるようにする。 また、定期的な小テストにより、理解度をはかる。成績不良者には再テストを実施し、理解が深まるまで再テストを実施する。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務の経験や、離乳食教室や親子料理教室、地域住民への食物アレルギーに関するセミナーなど、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	臨床栄養学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	臨床栄養学の概念	（学修内容）臨床栄養学の概念、意義と目的について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP13～P19を予習してまとめておくこと。 事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第2回	医療・介護と臨床栄養（医療における管理栄養士の役割）	（学修内容）医療における管理栄養士の役割と職業倫理、クリニカルパスと栄養ケア、チーム医療について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP20～23、P27～29を予習してまとめておくこと。 事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第3回	医療・介護と臨床栄養（医療保険制度・介護保険制度）	（学修内容）医療保険制度・介護保険制度について学ぶ。また、診療報酬・介護報酬のうち、栄養に関する算定の基本について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP24～26と診療報酬に関連する配布資料を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第4回	福祉・介護と在宅医療	（学修内容）福祉・介護における管理栄養士の役割について学ぶ。在宅ケアと地域包括ケアシステムについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP30～36と介護報酬に関連する配布資料を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第5回	小テスト① 栄養ケアマネジメントの概要	（学修内容）栄養ケアマネジメントの必要性、傷病者・要介護者の栄養ケアマネジメント、栄養スクリーニングと栄養アセスメントの種類について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第1回目から第4回目までの内容を十分に復習、テキストP40～48までをまとめる。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第6回	栄養アセスメント（臨床検査）	（学修内容）臨床検査の種類と評価指標について学ぶ。症例を用い、臨床検査値をもとに病態を理解するグループワークを実施する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP52～63を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第7回	栄養アセスメント（身体計測・食事調査）	（学修内容）栄養アセスメントを行うための身体計測、食事調査の種類と評価法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP63～72を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第8回	栄養ケアプラン（必要量決定法）	（学修内容）栄養ケアプランを立てるための必要量の算出法について学ぶ。症例を用い、必要栄養量の算出をグループワークで実施する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP75～81を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第9回	栄養ケアプラン（必要量決定の実際と多職種連携）	（学修内容）栄養ケアプランを立てるための必要量決定の実際について学ぶ。多職種連携の方法と栄養ケアプランへの活用についてグループワークで学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP81～83を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第10回	小テスト② 栄養補給法（経口栄養）	（学修内容）栄養食事療法とと栄養補給法の歴史について学ぶ。経口栄養補給法の種類と特徴について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第5回目から第9回目までを十分に復習、テキストP86～96までを予習してまとめる。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第11回	栄養補給法（経腸栄養）	（学修内容）経腸栄養法の種類と適応・投与法について、経腸栄養の合併症とその予防について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP96～101を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第12回	栄養補給法（経静脈栄養）	（学修内容）経静脈栄養法の種類と適応・投与法について、合併症とその対策について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP101～106を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第13回	薬と栄養・食物の相互作用	（学修内容）栄養・食べ物が医薬品に及ぼす影響、医薬品が栄養・食事に及ぼす影響につい学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP110～119を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第14回	栄養ケアの記録・モニタリングと再評価について学ぶ	（学修内容）栄養ケア記録の意義・方法、問題志向型システム（POS）やSOAPに基づく記録について学ぶ。モニタリングや再評価の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP122～127を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第15回	小テスト③ 栄養障害傷病者・要介護者への栄養教育 糖尿病食品交換表・腎臓病食品交換表の使い方	（学修内容）栄養障害傷病者および要介護者への栄養教育について学ぶ。糖尿病食品交換表・腎臓病食品交換表の概要と使い方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第10～14回目を十分に復習、テキストP130～154を予習してまとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。

授業名	臨床栄養学Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2410
英文名	Clinical Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	「臨床栄養学Ⅰ」で修得した栄養管理プロセスの基礎知識を基に、各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解及び栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法、薬物療法と栄養療法の相互作用、栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理を修得する。
学修成果到達目標	1）疾患別の病態および栄養・食事療法の理論について説明することができる。 2）疾患別の栄養評価について説明することができる。 3）疾患の予防治療のための栄養管理および栄養教育方法を提案することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	・栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第3版　本田佳子、曽根博仁　編　（羊土社） ＊糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会　編・著（文光堂） ＊腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準　監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編（医歯薬出版株式会社） ※＊は臨床栄養学Ⅰで購入済み
参考書	・その他適宜、参考文献などを紹介する
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業実施後、振り返り課題を提出し、採点後返却する。必要に応じ重要箇所や留意点について授業内で説明する。
留意事項	・学習項目に沿い関連科目（基礎栄養学、解剖生理学、病理病態など）の復習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、定期試験・国家試験勉強に活用できるようにする。 また、定期的な小テストにより理解度をはかる。成績不良の場合には再テストを実施し、理解が深まるまで実施する。
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務の経験や、離乳食教室や親子料理教室、地域住民への食物アレルギーに関するセミナーなど、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	臨床栄養学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、代謝系疾患①（糖尿病・肥満症）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）授業の進め方について説明。糖尿病の概略と栄養・食事療法、肥満症の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP14～20までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第2回	代謝系疾患②（メタボリックシンドローム・脂質異常症）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）メタボリックシンドローム・脂質異常症の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP20～28までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第3回	高尿酸血症・痛風・栄養障害における栄養ケアマネジメント	（学修内容）高尿酸血症・痛風・PEM、ビタミン・ミネラル異常症の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP28～37までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第4回	内分泌系疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）甲状腺異常、クッシング症候群、副甲状腺異常、副腎異常の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP106～117までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第5回	小テスト① 消化管疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）口腔・上部消化管・下部消化管疾患の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第1～4回目までの内容を十分に復習、テキストP40～53までをまとめる。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第6回	肝・胆・膵疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）肝・胆・膵疾患の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP55～68までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第7回	循環器疾患①（高血圧・動脈硬化）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）高血圧、動脈硬化症の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP70～76までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第8回	循環器疾患②（虚血性心疾患・心不全）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）虚血性心疾患・心不全の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP76～78までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第9回	腎疾患①（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎臓病）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎臓病の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP86～94までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第10回	腎疾患②（慢性腎臓病（CKD））における栄養ケアマネジメント	（学修内容）慢性腎臓病（CKD）の概略と食事療法と腎臓病食品交換表の活用について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP83～85までを読んで予習し、まとめておく。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第11回	腎疾患③（糖尿病性腎症（DKD）・透析療法）における栄養ケアマネジメント	（学修内容）糖尿病性腎症（DKD）、透析療法の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP94～102までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第12回	小テスト② 血液系疾患・呼吸器疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）貧血・出血性疾患・COPD・喘息・肺炎の概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第5～11回目までの内容を復習しておく。テキストP147～159までを読んでまとめておく。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第13回	筋・骨格疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）骨粗しょう症、くる病、変形性関節症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP160～170までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第14回	食物アレルギー・自己免疫疾患における栄養ケアマネジメント	（学修内容）食物アレルギー・膠原病・自己免疫疾患における概略と栄養・食事療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP173～186までを読んで予習し、まとめておくこと。事後はICTを活用し、授業内容復習問題を実施する。
第15回	小テスト③ 全体まとめ	（学修内容）全体を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 第12～14回目までの内容を十分に復習しておく。事後はICTを活用して授業内容復習問題を実施する。

授業名	臨床栄養学実習Ⅰ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN2411
英文名	Practical training for Clinical Nutrition Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの講義で修得した栄養管理プロセスや疾患別栄養管理の知識を基に、臨床現場における管理栄養士の業務内容や栄養管理手法の実際について修得することを目的とする。栄養管理プロセスに用いられる臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査法、必要栄養量の算定方法、栄養補給法の検討や疾患に応じた献立作成などについて、それぞれの実習で課題解決に向けたグループワーク・ディスカッションを行い、臨床現場において管理栄養士が身につけるべき技術の実際について学修する。 また、各グループで得られた成果をプレゼンテーションすることで、知識の定着とプレゼンテーション力を身につける。
学修成果 到達目標	1）栄養管理プロセスに必要な栄養管理手法を理解し、活用できる。 2）各疾患に対する適した栄養アセスメント、栄養ケアプラン作成ができる 3）各疾患や症例に対する適した献立作成や媒体作成ができ、プレゼンテーションを行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法							
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	・臨床栄養学実習書 第13版：今井佐恵子・富安広幸　編著（医歯薬出版） ※以下2点は臨床栄養学Ⅰですでに購入済みのものを引き続き使用します。 ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会　編・著（文光堂） ・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準　監修：黒川清、中山俊之、他編（医歯薬出版）
参考書	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第３版　編）本田佳子、曽根博仁 栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第３版　編）本田佳子、曽根博仁 適宜、参考資料などを紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	・課題提出により理解度の確認を行う。 ・各回の課題にはコメントをつけて返却を行う。適宜、再考・修正を行い、再提出を求める。
留意事項	・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱを復習しておくこと。 ・各回の症例疾患について事前予習および課題の提出を欠かさず行うこと。 ・グループワークを主体とする授業であるため、欠席、遅刻、早退はしないこと。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務の経験や、離乳食教室や親子料理教室、地域住民への食物アレルギーに関するセミナーなど、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	臨床栄養学実習Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、臨床の実際と診療記録および栄養管理業務について	（学修内容）授業概要の説明、臨床における患者の情報収集、診療記録の見方と理解および栄養管理に必要な帳票作成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストのｐ2～24までを予習し、まとめておくこと。 栄養ケア記録（POS）を復習して臨むこと。
第2回	栄養スクリーニング、アセスメントの実際	（学修内容）症例を用いて、栄養スクリーニング、アセスメントを行い、グループ内で検討し、栄養アセスメントの実際を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） SOAP記録について復習しておくこと。メタボリック・シンドロームと肥満症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第3回	身体計測の実際、食事調査法の実際	（学修内容）身体計測の手技と評価法について学ぶ。食事調査法の概要と自身の食事記録からの栄養価計算し、食事調査を用いた評価法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 身体計測、食事調査の種類と特徴を復習しておく。 事前に配付された資料を予習しておく。
第4回	臨床検査、必要量の算出方法	（学修内容）症例を用いた臨床検査値の評価、必要栄養量の考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 臨床検査項目の種類と概要について復習しておく。
第5回	疾患別栄養管理の栄養ケア①-1：糖尿病・脂質異常症症例検討	（学修内容）糖尿病・脂質異常症症例をSOAP形式でまとめ、栄養ケアプランを作成する。グループディスカッションを行い、栄養ケアプランの作成を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 糖尿病・脂質異常症の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習・復習をして臨むこと。
第6回	疾患別栄養管理の栄養ケア①-2：糖尿病・脂質異常症食事療法について	（学修内容）前回の栄養ケア計画から導き出された必要栄養量に沿うよう、糖尿病食品交換表を用いて１日分の献立、栄養指導媒体を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 糖尿病食品交換表の使い方の復習と糖尿病献立や媒体作成のために必要な参考書を確認しておく。事後は1日分の献立と媒体を完成させる。
第7回	疾患別栄養管理の栄養ケア②-1：肝疾患・循環器疾患症例検討	（学修内容）肝疾患・循環器疾患症例をSOAP形式でまとめ、栄養ケアプランを作成する。グループディスカッションを行い、栄養ケアプランの作成を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 肝疾患・循環器疾患の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習・復習をして臨むこと。
第8回	疾患別栄養管理の栄養ケア②-2：肝疾患：循環器疾患食事療法について	（学修内容）前回の栄養ケア計画から導き出された必要栄養量に沿うよう、１日分の献立、栄養指導媒体を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 肝疾患・循環器疾患の献立や指導媒体作成のために必要な参考書を確認しておく。事後は1日分の献立作成・栄養指導媒体を完成させる。
第9回	疾患別栄養管理の栄養ケア③-1腎臓病（CKD）症例検討	（学修内容）腎臓病（CKD）症例をSOAP形式でまとめ、栄養ケアプランを作成する。グループでディスカッションを行い、栄養ケアプランの作成を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 腎臓病の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習・復習をして臨むこと。
第10回	疾患別栄養管理の栄養ケア③-2腎臓病（CKD）食事療法について	（学修内容）モデル献立の調理実習を通して、腎臓病治療で用いられる特殊食品等の活用を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 腎臓病栄養管理、献立の特徴や腎臓病特殊食品の種類と特徴について予習・復習をして臨むこと。
第11回	疾患別栄養管理の栄養ケア③-3腎臓病（CKD）食事療法について	（学修内容）前回までの栄養ケア計画、調理実習をもとに必要栄養量に沿うよう、腎臓病食品交換表を用いて１日分の献立、栄養指導媒体を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 腎臓病食品交換表の概要と使い方を復習しておくこと。事後学習として1日分の献立作成・栄養指導媒体を完成させる。
第12回	疾患別栄養管理の栄養ケア④-1摂食嚥下障害症例検討	（学修内容）摂食嚥下障害症例をSOAP形式でまとめ、栄養ケアプランを作成する。グループでディスカッションを行い、栄養ケアプランの作成を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 摂食嚥下障害の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習・復習をして臨むこと。
第13回	疾患別栄養管理の栄養ケア④-2摂食嚥下障害食事療法について	（学修内容）調理実習を通して摂食嚥下機能別の食事形態等を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 摂食嚥下障害の栄養管理、献立の特徴や食事形態の特徴について予習・復習をして臨むこと。
第14回	疾患別栄養管理の栄養ケア④-3摂食嚥下障害食事療法について	（学修内容）前回までの栄養ケア計画、調理実習をもとに必要栄養量に沿うよう、１日分献立、栄養指導媒体を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 摂食嚥下障害の献立や指導媒体作成のために必要な参考書を確認しておく。事後学習として1日分の献立作成・栄養指導媒体を完成させる。
第15回	全体発表、報告、まとめ	（学修内容）これまでグループでまとめてきた疾患別栄養管理の栄養ケア①～④について立案した献立や作成した栄養指導媒体の発表。 （事前事後学修課題の内容） プレゼンテーションの準備を事前に行う。役割分担を明確にし、他の受講生と協力して臨むこと。

授業名	臨床栄養学Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	FN3417
英文名	Clinical Nutrition Ⅲ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、管理栄養士が行う傷病者を対象とした適切な栄養管理について学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用についての知識を修得する。さらに、チーム医療や在宅医療における栄養ケアの実際についてグループディスカッションを通して学ぶ。
学修成果到達目標	1）栄養ケアの概念を理解し、栄養アセスメント、栄養ケアプランの実施、症候や各ライフステージでの栄養ケアを理解できる。 2）各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。 3）チーム医療や在宅医療における栄養ケアの実際について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	・新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント　第5版：本田佳子編　（医歯薬出版） ・その他、適宜資料を配付する。
参考書	・栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第3版　本田佳子、曽根博仁（羊土社） ・Visual栄養学テキスト　臨床栄養学　Ⅱ各論　監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店） ・その他適宜、参考文献を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了後、授業内容復習問題を解いて提出し、採点後返却する。必要に応じ重要箇所や留意点について説明する。
留意事項	・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱをよく復習し、関連する分野の科目（基礎栄養学、解剖生理学、病理病態など）の復習も行うこと。 ・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱでオリジナルノートまとめを十分に活用する。 ・定期的な小テストにより理解度をはかる。成績不良の場合には、再テストを実施し理解が深まるまで行う。
オフィスアワー	・研究室に日時を掲示するので確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務の経験や、離乳食教室や親子料理教室、地域住民への食物アレルギーに関するセミナーなど、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	臨床栄養学Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養ケアの基礎①全人的医療と臨床栄養、摂食支援、チーム医療	（学修内容）授業の進め方、全人的医療と臨床栄養、摂食支援、チーム医療、クリニカルパスについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP3～14、22～30を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第2回	栄養ケアの基礎②医療・介護保険制度と栄養ケア、栄養ケアマネジメント	（学修内容）福祉・介護における臨床栄養、医療・介護保険制度と栄養ケア、栄養ケアマネジメントを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP14～21、31～32を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第3回	栄養アセスメント①栄養アセスメントの意義と必要性、主観的評価と客観的評価	（学修内容）傷病者への栄養アセスメントの意義と目的、評価方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP33～40を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第4回	栄養アセスメント②臨床診査、臨床検査について	（学修内容）栄養ケアに必要な臨床診査、臨床検査を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP41～53を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第5回	栄養アセスメント③身体計測と摂食状態の評価について 小テスト①	（学修内容）身体計測、摂食状態の評価を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第1～4回目までの復習、テキストP54～64を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第6回	栄養ケアプランの実施①栄養ケアプランの目標設定とケアプランの作成	（学修内容）栄養ケアプランの目標設定、栄養教育プラン、問題志向型システム（POS)を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP66～70を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第7回	栄養ケアプランの実施②栄養ケアの実施、栄養教育	（学修内容）栄養補給法、栄養教育、栄養カウンセリングについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP71～97を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第8回	栄養ケアプランの実施③栄養ケアと薬物療法、モニタリングと評価について	（学修内容）栄養ケアと薬物療法、特別用途食品・保健機能食品、モニタリングと評価を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP98～107を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第9回	症候への栄養ケア①発熱、脱水、ミネラル異常・酸塩基平衡異常	（学修内容）発熱、脱水、ナトリウム・カリウム・カルシウム・リン異常、アシドーシス・アルカローシスにおける栄養ケアについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP143～167を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第10回	小テスト② 症候への栄養ケア②熱傷、外傷、るい痩、食欲不振、ビタミン異常	（学修内容）熱傷、外傷、るい痩、食欲不振、ビタミン異常の栄養ケアを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第5～9回目までの復習、テキストP168～180を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第11回	症候への栄養ケア③貧血、出血症状、浮腫・腹水、口腔症状、下痢・便秘	（学修内容）貧血、出血症状、浮腫・腹水、口腔症状、下痢・便秘の栄養ケアを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP181～208を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第12回	保健性を保つ栄養ケア：新生児・低出生体重児 乳幼児・小児疾患における栄養ケア	（学修内容）新生児、正期産児、低出生体重児の栄養ケアと乳幼児の健康診査を学ぶ。乳幼児・小児における疾患とその栄養ケアについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP117～128、163、206、270、292、365を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第13回	回復を促す栄養ケア：外科療法、化学療法、放射線療法について	（学修内容）周術期の栄養管理、外科療法、化学療法、放射線療法の際の栄養療法と癌終末期の栄養ケアを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP129～141を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第14回	感染症における栄養ケア 加齢に伴う機能低下への栄養ケア	（学修内容）感染症、敗血症、サルコペニア・ロコモティブシンドローム、フレイル、認知症、褥瘡の栄養ケアについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP451～468を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。
第15回	小テスト③ 要介護・身体・知的障がいにおける栄養ケア	（学修内容）パーキンソン病、ALS、摂食嚥下障害、知的障がい・精神障がいにおける栄養ケアについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第10～14回目までの復習、テキストP433～450を読んで予習し、まとめておくこと。事後は振り返り課題を行う。

授業名	臨床栄養学Ⅳ	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	FN4424
英文名	Clinical Nutrition Ⅳ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した栄養療法の基礎知識をもとに、栄養食事療法の位置づけを明確にすべく、各疾患に対して、栄養管理に必要な情報収集、栄養評価、栄養診断、栄養介入、モニタリング・再評価といった栄養管理法について疾患ごとの栄養食事療法の特徴を理解する。また、栄養ケアマネジメントのプロセスに準拠し、栄養アセスメント・モニタリング・栄養管理目標の実際について理解を深める。
学修成果到達目標	1）各疾患おけるに病態や栄養生理代謝と栄養管理、栄養療法について理解できる。 2）傷病者・介護者の栄養管理や経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈について理解できる。 3）チーム医療、在宅医療における管理栄養士の役割について理解し、臨床栄養の知識が修得できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント第5版　本田佳子編（医歯薬出版）
参考書	・栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第3版　編：本田佳子、曽根博仁（羊土社） ・栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第3版　編：本田佳子、曽根博仁（羊土社） ・Visual栄養学テキスト　臨床栄養学　Ⅰ総論　監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店） （※上記参考書は臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したものと同じ） ・その他適宜、参考文献などを紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了後、復習問題を解いて提出し、採点後返却する。必要に応じて重要箇所や留意点について説明する。
留意事項	・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをよく復習し、学習項目に沿い、関連科目の復習をしておくこと。 ・人体の構造や疾病の成り立ち、栄養素の消化・吸収・代謝の理解を深めたうえで、国家試験に向けて、主体的な学びを行うこと。 ・定期的な小テストにより理解度を図る。成績不良の場合には再テストを実施し理解が深まるまで行う。
オフィスアワー	研究室に掲示します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務の経験や、離乳食教室や親子料理教室、地域住民への食物アレルギーに関するセミナーなど、実践的な管理栄養士業務の経験を活かし授業を進める。

授業名	臨床栄養学Ⅳ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	骨粗鬆症、貧血、消化器疾患の栄養ケア	（学修内容）骨粗鬆症、貧血、消化器疾患の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP209～228を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第2回	肝疾患（肝炎、脂肪肝、肝硬変）の栄養ケア	（学修内容）肝疾患（肝炎、脂肪肝、肝硬変）の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP229～248を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第3回	胆嚢炎、胆石症、膵炎の栄養ケア	（学修内容）胆嚢炎・胆石症、膵炎の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP249～260を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第4回	糖尿病、脂質異常症の栄養ケア	（学修内容）糖尿病（妊娠糖尿病、高齢者・小児糖尿病を含む）、脂質異常症の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP261～279を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第5回	肥満症、高尿酸血症、先天性代謝疾患の栄養ケア	（学修内容）肥満症、高尿酸血症、先天性代謝疾患の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第1～4回目までの復習、テキストP280～308を読んで予習しまとめておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第6回	甲状腺機能異常、ウィルソン病、糖原病の栄養ケア	（学修内容）甲状腺機能異常、ウィルソン病、糖原病の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP309～320を読んで予習、関連箇所を復習しまとめておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第7回	高血圧、循環器症状、脳血管疾患の栄養ケア	（学修内容）高血圧、不整脈、心房細動、心室細動、心室脈拍、脳血管疾患の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP321～332を読んで予習、関連箇所を復習しまとめておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第8回	虚血性心疾患、心不全の栄養ケア	（学修内容）狭心症、心筋梗塞、うっ血性心不全の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP333～344を読んで予習、関連箇所を復習しまとめておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第9回	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の栄養ケア	（学修内容）糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP344～354を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第10回	慢性腎不全、糖尿病性腎症の栄養ケア	（学修内容）慢性腎不全、糖尿病性腎症の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP355～371を読んで予習、関連箇所をまとめておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第11回	小テスト② 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息・肺炎の栄養ケア	（学修内容）慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息・肺炎の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第5～10回目までの復習、テキストP372～383を読んで予習、関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第12回	妊娠高血圧症候群、自己免疫疾患、免疫不全、食物アレルギー、心因性の摂食障害の栄養ケア	（学修内容）妊娠高血圧症候群、免疫疾患、食物アレルギー、心因性摂食障害の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP384～404を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第13回	消化機能が十分でない栄養ケア①：潰瘍性大腸炎、クローン病	（学修内容）潰瘍性大腸炎、クローン病の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP405～418を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第14回	消化機能が十分でない栄養ケア②：消化器の術前・術後、消化管以外の術前・術後	（学修内容）各疾患の術前術後の概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストP419～431を読んで予習、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連箇所を復習する。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。
第15回	感染症、敗血症の栄養ケア 要介護・身体・知的障がいにおける栄養ケア 小テスト③	（学修内容）感染症、敗血症、パーキンソン病、ALS、知的・精神障がいの概要、病因、栄養生理学、症状、診断基準、検査値と栄養管理目標を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 第11～14回目までの復習しておく。事後は振り返り課題を行い授業内容の復習を行う。

授業名	臨床栄養学実習Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3422
英文名	Practical training for Clinical Nutrition Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	富安　広幸	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。
学修成果到達目標	1）対象者にあわせた栄養ケアプランを立てることができる。 2）病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。 3）傷病者の栄養状態に応じた栄養補給法について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	臨床栄養学実習【第2版】岩井 達 編（みらい）
参考書	臨床栄養学実習書 第13版 今井佐恵子・富安広幸編・著（医歯薬出版） 日本食品標準成分表（文部科学省） 糖尿病食事療法のための食品交換表 第７版 日本糖尿病学会 編（日本糖尿病協会・文光堂）
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認後、修正等の指示をする。
留意事項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。 主にグループでの実習となる。グループ内での役割分担等を決め、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので確認すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	臨床栄養学実習Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養管理の意義 栄養アセスメント	（学修内容）栄養管理の意義、栄養アセスメント （事前事後学修課題の内容） テキストp.12～p.21の関連個所を読み、まとめておくこと。
第2回	栄養ケア・マネジメント 特定保健指導	（学修内容）栄養ケア・マネジメント、特定保健指導 （事前事後学修課題の内容） 特定保健指導について調べ、まとめておくこと。
第3回	病院食の種類と献立作成	（学修内容）病院食の種類と献立作成 （事前事後学修課題の内容） テキストp.13～p.29の関連個所を読み、まとめておくこと。
第4回	高血圧症患者の食事計画（高血圧症の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（学修内容）高血圧症患者の食事計画（高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。） 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.66～p.71の関連個所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第5回	高血圧症食の実習	（学修内容）高血圧症食の実習 （事前事後学修課題の内容） テキストp.66～p.71の関連個所および作業工程表等をまとめておくこと。手順をよく理解しておくこと。
第6回	糖尿病患者の食事計画（糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（学修内容）糖尿病患者の食事計画（糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。） 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.53～p.60の関連個所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第7回	糖尿病食の実習	（学修内容）糖尿病食の実習 （事前事後学修課題の内容） テキストp.53～p.60の関連個所および作業工程表等をまとめておくこと。手順をよく理解しておくこと。
第8回	脂質異常症患者の食事計画（脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（学修内容）脂質異常症患者の食事計画（脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。）食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.107～p.112の関連個所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第9回	脂質異常症食の実習	（学修内容）脂質異常症食の実習 （事前事後学修課題の内容） テキストp.107～p.112の関連個所および作業工程表等をまとめておくこと。手順をよく理解しておくこと。
第10回	膵臓病患者の食事計画（膵臓病の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（学修内容）膵臓病患者の食事計画（膵臓病の栄養ケアプラン、献立を含む。） 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.115～p.118の関連個所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第11回	慢性膵炎食の実習	（学修内容）慢性膵炎食の実習 （事前事後学修課題の内容） テキストp.115～p.118の関連個所および作業工程表等をまとめておくこと。手順をよく理解しておくこと。
第12回	要介護者の食事計画（要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。）	（学修内容）要介護者の食事計画（要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。） 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.161～p.167の関連個所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第13回	摂食・嚥下障害食のとろみ調整実習	（学修内容）摂食・嚥下障害食のとろみ調整実習 （事前事後学修課題の内容） とろみ調整食品の特徴等を調べ、まとめておくこと。
第14回	経管栄養法、胃瘻、濃厚流動食品	（学修内容）経管栄養法、胃瘻、濃厚流動食品 （事前事後学修課題の内容） テキストpp.12～13、pp.217～218の関連個所を読み、まとめておくこと。
第15回	評価、報告、まとめ	（学修内容）評価、報告、まとめ （事前事後学修課題の内容） 評価方法の検討を行いまとめておく。 報告会発表の準備をしておく。

授業名	公衆栄養学Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2412
英文名	Public Health Nutrition Ⅰ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	公衆栄養学では、国や地域、職域等の集団を対象とした人々の健康・栄養状態と、それを取り巻く自然・社会・文化・経済等の要因やニーズを評価・把握し（公衆栄養アセスメント）、それらの特徴に基づいた栄養関連サービスを提供するための活動（公衆栄養活動）をマネージメントするための知識や方法を修得する。公衆栄養活動は、主に政策として実施されていることを中心として説明するが、管理栄養士の知識と技能を持って、いかにその推進に多角的に貢献できるかを学ぶ。 公衆栄養学Iでは、主に概念や理論を理解するための基礎知識の習得を目標とし、公衆栄養学の概念と意義、国や地域等の健康・栄養課題の把握方法、栄養行政（栄養政策・施策）、市民社会（住民団体、NPO、学術機関）や民間企業との協調、世界が直面している健康・栄養課題と主要な活動、を中心に講義をおこなう。
学修成果到達目標	1）公衆栄養学の概念と公衆栄養活動を理解できる。 2）日本の健康・栄養状態、食環境等のデータから現状と課題を読み取ることができる。 3）日本の国レベルにおける課題と解決のための政策・施策について、概要を説明できる。 4）日本の地域レベルにおける自治体（都道府県と市町村）の役割について説明できる。また、市民社会（住民団体、NPO等）、学術機関（大学、研究所等）や民間企業との協調による公衆における栄養活動について理解できる。 5）国際的な健康・栄養課題と主要な対策について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「基礎から身につく公衆栄養学」逸見幾代　同文書院
参考書	国民衛生の動向（最新版）財）厚生統計協会 国民健康・栄養調査報告（最新版）健康栄養情報研究会編（第一出版） 日本人の食事摂取基準（最新版）（第一出版） 栄養士必携（最新版）日本栄養士会編 公衆衛生がみえる　MEDICMEDIA
課題に対するフィードバックの方法	小テストは返却時に解説を行う。
留意事項	教科書や配布資料をしっかり読むこと。 積極的に発言し、また他の意見への傾聴を心がけること。 実際に行われている取り組み事例を学ぶことを目的として、新聞や行政の広報誌などに目を通す習慣を持つこと。 小テストはICTを用いて実施する。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。
実践的教育	

授業名	公衆栄養学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆栄養学の概念と意義	（学修内容）公衆栄養学の考え方を学ぶ。管理栄養士・栄養士として習得する知識・技能を通して、社会にどの様に貢献できるかを考える。 （事前事後学修課題の内容） 在住地域をはじめ、日本や世界の人々の食や栄養に関わる課題について興味、関心、疑問をもつこと。
第2回	公衆栄養学の歴史	（学修内容）公衆栄養学の歴史や背景について学び、施策との繋がりを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 新聞やニュース、ソーシャルメディア等の情報を日頃から見聞きし、食や栄養に関わる課題、その原因、対策について考えてみること。
第3回	健康・栄養問題の現状と課題	（学修内容）現在の健康・栄養問題や疾病構造の推移、食を取り巻く環境の変化について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習 食や栄養に関わる課題について、既存の情報を調べてみる。
第4回	食生活の変化	（学修内容）食生活の変化と現状を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学習：テキストの関連箇所の予習・復習
第5回	食べ物へのアクセス、情報へのアクセス 食料需給表	（学修内容）食べ物・情報へのアクセスと食料需給表について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習
第6回	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	（学修内容）世界の健康・栄養問題の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習
第7回	栄養関連法規①地域保健法	（学修内容）国、都道府県、保健所、市町村の栄養行政について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習 国民健康・栄養調査の結果を参照
第8回	栄養関連法規②健康増進法	（学修内容）健康日本21の意義、目的、法的根拠、方法、地方計画、第二次の最終評価について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習 健康日本21（第二次）の最終報告を参照
第9回	栄養関連法規③食育基本法、食育推進計画、栄養士法	（学修内容）食育基本法、食育推進計画について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習
第10回	健康づくりのための施策①国民健康づくり対策、健康日本21	（学修内容）食生活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習
第11回	健康づくりのための施策④特定健診・特定保健指導	（学修内容）特定検診・特定保健指導のシステムを理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習
第12回	食環境づくりのための施策①食環境のアセスメント、食品表示制度	（学修内容）食環境のとらえ方、食品の表示制度について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習
第13回	食環境づくりのための施策②食べ物へのアクセス、情報へのアクセス	（学修内容）食べ物へのアクセス、情報へのアクセスについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習
第14回	諸外国の健康栄養課題と施策	（学修内容）諸外国の健康・栄養問題と施策について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習
第15回	まとめ	（学修内容）全体を振り返り、公衆栄養の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所の予習・復習

授業名	公衆栄養学Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	FN3418
英文名	Public Health Nutrition　Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通して、国や地域、職域等の集団を対象とした人々の健康・栄養状態と、それを取り巻く自然・社会・文化・経済等の要因やニーズを評価・把握し（公衆栄養アセスメント）、それらの特徴に基づいた栄養関連サービスを提供するための活動（公衆栄養活動）をマネージメントするための知識や方法を修得する。 公衆栄養学Ⅱでは、地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連の各種サービス、プログラムの調整、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理など、総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から学び、人的資源など社会的資源の活用について理解する。
学修成果到達目標	1）地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムが作成できる。 2）プログラムを実施し、評価し、総合的にマネジメントする方法を修得している。 3）地域の健康、栄養、食生活に関わる課題を明確にし、施策を推進することの大事さに気づくことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	基礎から身につく公衆栄養学　同文書院（公衆栄養学Ⅰと同じ）
参考書	栄養士必携(2020年度版）日本栄養士会編　第一出版 日本人の食事摂取基準[2020年版]　第一出版 公衆衛生が見える　MEDICMEDIA
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションに対し、評価・改善策を伝える。
留意事項	総合的に理解できるよう、公衆栄養学Ⅰで学んだ国内外の食や栄養にかかる課題や関連法規を良く復習しておいてください。それらを理解したうえで、具体的な公衆栄養活動としての実践の幅を広げることを意識して取り組んでください。
オフィスアワー	最初の授業で案内します
実践的教育	

授業名	公衆栄養学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養疫学の概要	（学修内容）栄養課題を把握・評価するための栄養疫学の役割と概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第2回	暴露情報としての食事摂取量	（学修内容）暴露情報としての食事摂取量や栄養素の考え方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習 疫学的手法について論文を検索しまとめる。
第3回	食事摂取量の測定方法	（学修内容）さまざまな食事摂取量の測定方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第4回	食事摂取量の評価方法	（学修内容）栄養疫学の指標と研究デザインについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第5回	公衆栄養マネジメント①　マネジメント	（学修内容）公衆栄養マネジメントとは何かについて考える。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第6回	公衆栄養マネジメント②　アセスメント	（学修内容）食事摂取基準や既存資料の活用方法について学ぶ。 公衆栄養アセスメントの目的と方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第7回	公衆栄養マネジメント③　目標設定	（学修内容）改善課題の抽出方法について学ぶ。 改善目標の設定の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習 目標の種類について確認し、ワークを仕上げる
第8回	公衆栄養マネジメント④　計画・実施	（学修内容）課題を改善するための計画を作成・実施の方法や留意点について学ぶ。 実際に計画を立案する。（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習 各機関の計画書などを参照し、取り入れる
第9回	公衆栄養マネジメント⑤　評価	（学修内容）評価についてその方法や分析の視点について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第10回	公衆栄養プログラムの展開①　地域栄養の課題	（学修内容）地域栄養の課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習 地域データを収集する
第11回	公衆栄養プログラムの展開②　地域栄養マネジメント	（学修内容）各地域で実施されている施策について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習 地域での各種施策を収集する。
第12回	公衆栄養プログラムの展開③　妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラム	（学修内容）公衆栄養プログラムの展開③　妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラムの実際について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト必要箇所を読んでおくこと
第13回	公衆栄養プログラムの展開④　成長期、成人期のプログラム	（学修内容）公衆栄養プログラムの展開④　成長期、成人期のプログラムの実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第14回	公衆栄養プログラムの展開⑤　高齢者のプログラム	（学修内容）公衆栄養プログラムの展開⑤　高齢者のプログラムの実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習
第15回	公衆栄養プログラムのまとめ	（学修内容）特定健診特定保健指導、在宅栄養、地域ネットワークなどの包括的なシステムについて学ぶ。(レポート提出) （事前事後学修課題の内容） テキスト関連箇所の予習・復習

授業名	公衆栄養学実習	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3423
英文名	Practical training for Public Health Nutrition	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	公衆栄養関連のサービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。地域や職域等の健康・栄養・食生活にかかる情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。日本人の食事摂取基準や国民健康・栄養調査データの活用、食物・栄養摂取量のデータ処理・統計解析などを行い理解する。
学修成果到達目標	1）地域や職域等の健康・栄養情報を収集し、それを分析・診断し、集団の特性を把握できる。 2）情報の分析・診断の結果から、問題点を把握し、公衆栄養プログラムの計画が作成できる。 3）地域の公衆栄養プログラムや関連サービスに参加し、協力することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	基礎から身につく公衆栄養学　同文書院（公衆栄養学Ⅰ、Ⅱの教科書と同じ）
参考書	日本人の食事摂取基準2025年版 栄養士必携 調理のためのベーシックデータ 公衆衛生の動向
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、添削し、授業内で解説、返却します。
留意事項	班員と協力して積極的に課題に取り組み、時間内にまとめるよう努力すること。 実習中に知り得た個人情報には守秘義務があります。
オフィスアワー	最初の授業時に伝えます。
実践的教育	

授業名	公衆栄養学実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆栄養学実習オリエンテーション	（学修内容）公衆栄養学実習オリエンテーション： 食事調査の方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 履修済みの公衆栄養学を復習しておく 秤量法を3日間実施してくる
第2回	社会アセスメントⅠ： 健康・栄養・食生活状況の評価概要	（学修内容）健康・栄養・食生活状況の評価方法の概要について学ぶ 摂取頻度調査法・24時間思い出し法について学ぶ（ロールプレイング） （事前事後学修課題の内容） テキストの復習 各自食事メモ、USBメモリを持参
第3回	社会アセスメントⅡ： 食物・栄養摂取状況調査法	（学修内容）秤量法、食物摂取頻度調査法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト復習
第4回	栄養疫学Ⅰ： データ集計	（学修内容）秤量法と食物摂取頻度調査法で得られたデータを集計、解析する （事前事後学修課題の内容） 栄養素密度法と残差法を復習しておく
第5回	栄養疫学Ⅰ： データ分析 食習慣調査票の作成	（学修内容）「日本人の食事摂取基準2025年度版」の活用 食習慣調査票の作成方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 日本人の食事摂取基準を集団の評価に使用する方法を復習しておく
第6回	栄養疫学Ⅱ： データ集計と分析	（学修内容）食習慣調査票の入力と解析 （事前事後学修課題の内容） 日本人の摂取基準「総論」をよく読み、データの取り扱いについて復習しておく
第7回	栄養疫学Ⅱ： データ集計と分析	（学修内容）データ解析の方法を学ぶ（カイ２乗検定・ｔ検定など） （事前事後学修課題の内容） 統計的手法について復習しておく
第8回	栄養疫学Ⅲ： プリシード・プロシードモデル	（学修内容）2～7回目までの結果を踏まえて、公衆栄養プログラムの立案をする （事前事後学修課題の内容） 国や地方の健康増進計画について復習しておく
第9回	栄養疫学Ⅲ： プリシード・プロシードモデル	（学修内容）プログラムの発表の準備をする （事前事後学修課題の内容） 前回に調べた内容について整理しておくこと
第10回	公衆栄養マネジメントⅠ： 地域の実態把握・分析	（学修内容）既存資料を活用した体系的な地域の実態把握を行う （事前事後学修課題の内容） 人口動態統計について復習しておく
第11回	公衆栄養マネジメントⅠ： 疫学アセスメント	（学修内容）地域を選定し、優先すべき健康課題を特定する （事前事後学修課題の内容） テキストの復習
第12回	公衆栄養マネジメントⅡ： 要因分析	（学修内容）健康課題の背景にある食習慣や食環境を特定する （事前事後学修課題の内容） 都道府県、市町村の食育推進計画を探しておく
第13回	公衆栄養マネジメントⅡ： 社会資源の活用	（学修内容）実際のプログラムなどを確認し、公衆栄養プログラムの展開について考える（PDCAサイクル） （事前事後学修課題の内容） 公衆栄養プログラムについて復習しておく 改善案の事例等を確認しておくこと
第14回	栄養疫学Ⅳ： プログラム発表	（学修内容）9回目で立案したプログラムについて発表する （事前事後学修課題の内容） テキストの復習
第15回	公衆栄養マネジメントⅢ： 計画発表と質疑応答 実習のまとめ	（学修内容）公衆栄養改善計画を発表する 各班の発表に対する自分の考えをまとめる （事前事後学修課題の内容） 発表の準備と練習を行っておくこと

授業名	給食経営管理論Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2406
英文名	Food Service Management Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	富安　広幸	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。
学修成果到達目標	1）給食の意義を理解できる。 2）給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3）マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（思考・判断力　）□（　）

テキスト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論（第4版） 幸林友男 編（講談社）
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	専門用語について充分理解しておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	給食経営管理論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）オリエンテーション 授業の進め方と給食の概要について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） シラバスとテキストp.1～p.6の関連個所を読み、まとめる。
第2回	給食の概念Ⅰ（給食の概要）	（学修内容）給食の概念Ⅰ（給食の概要） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.7～p.9の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	給食の概念Ⅱ（給食システム）	（学修内容）給食の概念Ⅱ（給食システム） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.17～p.25の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	給食の概念Ⅲ（給食を提供する施設と関係法規）	（学修内容）給食の概念Ⅲ（給食を提供する施設と関係法規） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.9～p.16の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第5回	給食経営管理の概念Ⅰ（給食経営管理の概要）	（学修内容）給食経営管理の概念Ⅰ（給食経営管理の概要） （経営に関する問題点を話し合う） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。テキストpp.107～114、pp.125～126の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第6回	給食経営管理の概念Ⅱ（マーケティングの原理）	（学修内容）給食経営管理の概念Ⅱ（マーケティングの原理） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.121～p.127の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第7回	給食経営管理の概念Ⅲ（給食とマーケティング）	（学修内容）給食経営管理の概念Ⅲ（給食とマーケティング） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.121～p.127の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第8回	給食経営管理の概念Ⅳ（給食経営と組織）	（学修内容）給食経営管理の概念Ⅳ（給食経営と組織） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.107～p.120の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第9回	給食の生産（調理）Ⅰ（原価管理、食材管理）	（学修内容）給食の生産（調理）Ⅰ（原価管理、食材管理） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。テキストpp.26～32、pp.130～136の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第10回	給食の生産（調理）Ⅱ（生産と提供）	（学修内容）給食の生産（調理）Ⅱ（生産と提供） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.32～p.37の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第11回	給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要と実際）	（学修内容）給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要と実際） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.38～p.45の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第12回	給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）	（学修内容）給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.94～p.106の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第13回	給食の施設・設備Ⅰ（生産施設・設備計画）	（学修内容）給食の施設・設備Ⅰ（生産施設・設備計画） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.45～p.60の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第14回	給食の施設・設備Ⅱ（食事環境の設計と設備）	（学修内容）給食の施設・設備Ⅱ（食事環境の設計と設備） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.45～p.60の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第15回	給食の人事・事務	（学修内容）給食の人事・事務 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.127～p.130の関連個所を読み、ポイントをまとめる。

授業名	給食経営管理論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2413
英文名	Food Service Management Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	富安　広幸	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	給食経営管理論Ⅱでは、ＰＤＣＡサイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論Ⅰで得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。
学修成果 到達目標	１）各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 ２）対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。 ３）給食施設での経営管理の基本的な考え方や方法について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　■（ 思考・判断力 ）□（ ）

テキスト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論（第４版） 幸林友男 編（講談社） ※春学期の「給食経営管理論Ⅰ」で使用したテキストを継続して使用します。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	給食経営管理論Ⅰを復習しておくこと。 専門用語について充分理解しておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	給食経営管理論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論Ⅰの復習）	（学修内容）オリエンテーション（給食経営管理論Ⅰの復習） （事前事後学修課題の内容） シラバスと給食経営管理論Ⅰの内容を復習し、まとめる。
第2回	栄養・食事管理Ⅰ（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（学修内容）栄養・食事管理Ⅰ（栄養・食事管理の概要・意義・目的） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.61～p.72の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	栄養・食事管理Ⅱ（栄養・食事のアセスメント）	（学修内容）栄養・食事管理Ⅱ（栄養・食事のアセスメント） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.61～p.72の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	栄養・食事管理Ⅲ（栄養・食事の計画）	（学修内容）栄養・食事管理Ⅲ（栄養・食事の計画） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.72～p.83の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第5回	栄養・食事管理Ⅳ（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（学修内容）栄養・食事管理Ⅳ（栄養・食事計画の実施、評価、改善） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.72～p.83の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第6回	給食の品質	（学修内容）給食の品質 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.84～p.89の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第7回	給食施設別経営管理Ⅰ（病院給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅰ（病院給食） （病院給食での栄養管理方法等について話し合う） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.170～p.180の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第8回	給食施設別経営管理Ⅱ（高齢者・介護福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅱ（高齢者・介護福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.181～p.189の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第9回	給食施設別経営管理Ⅲ（児童福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅲ（児童福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.142～p.152の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第10回	給食施設別経営管理Ⅳ（障害者福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅳ（障害者福祉施設給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.190～p.197の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第11回	給食施設別経営管理Ⅴ（学校・幼稚園給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅴ（学校・幼稚園給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.153～p.162の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第12回	給食施設別経営管理Ⅵ（事業所給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅵ（事業所給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.163～p.169の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第13回	給食施設別経営管理Ⅶ（自衛隊給食・矯正施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅶ（自衛隊給食・矯正施設給食） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 関連個所を調べ、ポイントをまとめる。
第14回	給食施設別経営管理Ⅷ（院外給食・配食サービス・その他）	（学修内容）給食施設別経営管理Ⅷ（院外給食・配食サービス・その他） （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。テキストp.179～p.188、p.188の関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（学修内容）健康増進法における特定給食施設の経営 （事前事後学修課題の内容） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストp.231～p.237の関連個所を読み、確認してまとめる。

授業名	給食経営管理実習	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	FN3419
英文名	Practice of Food Service Management	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	富安　広幸・石橋　朋美	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	本実習は、給食経営管理論ⅠおよびⅡで学んだ給食の経営の理論について、実習に取り組むことで理解を深め、ＰＤＣＡサイクルに基づいたマネジメントができる力を修得する。給食の運営だけではなく、組織づくり、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーション力などの全てが経営管理にとって不可欠なものであり、実習ではそれらの能力も養う。1クラスを３グループ(試作、管理、支援)に分け、グループごとにローテーションすることで全員が全ての役割を実習する。
学修成果到達目標	１）給食業務を総合的に理解し、給食運営に対する実践ができる。 ２）給食経営管理に関して臨地実習に生かす基本内容を修得し、応用ができる。 ３）給食の運営に必要な業務内容を理解し、マネジメントができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	改訂 給食経営管理論実習 石田裕美 編（建帛社）
参考書	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子 編（化学同人）
課題に対するフィードバックの方法	提出物は内容確認後修正箇所等がある場合は指示する。
留意事項	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ等関連科目の復習を十分しておくこと。 グループでの実習となるため、グループ内での役割分担等を把握し、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授　業　名	給食経営管理実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）オリエンテーション 授業の進め方、実習を行う上での注意事項 （事前事後学修課題の内容） 給食の流れ等について復習しまとめておくこと。
第2回	給食計画Ⅰ（給食対象者のアセスメント、献立作成）	（学修内容）給食計画Ⅰ（給食対象者のアセスメント、献立作成） （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	給食計画Ⅱ（食材購入計画、調理作業手順書の作成）	（学修内容）給食計画Ⅱ（食材購入計画、調理作業手順書の作成） （事前事後学修課題の内容） テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	給食の実施運営Ⅰ（A班：試作、B班：試作の準備、C班：試作の準備）	（学修内容）給食の実施運営Ⅰ（A班：試作、B班：試作の準備、C班：試作の準備） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第5回	給食の実施運営Ⅱ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（学修内容）給食の実施運営Ⅱ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第6回	給食の実施運営Ⅲ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（学修内容）給食の実施運営Ⅲ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第7回	給食の実施運営Ⅳ（A班：試作、B班：管理、C班：支援）	（学修内容）給食の実施運営Ⅳ（A班：試作、B班：管理、C班：支援） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第8回	給食の実施運営Ⅴ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（学修内容）給食の実施運営Ⅴ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第9回	給食の実施運営Ⅵ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（学修内容）給食の実施運営Ⅵ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第10回	給食の実施運営Ⅶ（A班：試作、B班：管理、C班：支援）	（学修内容）給食の実施運営Ⅶ（A班：試作、B班：管理、C班：支援） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第11回	給食の実施運営Ⅷ（A班：管理、B班：支援、C班：試作）	（学修内容）給食の実施運営Ⅷ（A班：管理、B班：支援、C班：試作） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第12回	給食の実施運営Ⅸ（A班：支援、B班：試作、C班：管理）	（学修内容）給食の実施運営Ⅸ（A班：支援、B班：試作、C班：管理） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第13回	給食の実施運営Ⅹ（A班：支援、B班：管理、C班：支援）	（学修内容）給食の実施運営Ⅹ（A班：支援、B班：管理、C班：支援） （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第14回	評価	（学修内容）評価 （事前事後学修課題の内容） 評価方法を検討をし、まとめておくこと。
第15回	報告会	（学修内容）報告会 （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をし、スムーズな発表ができるようにまとめておくこと。

授業名	教職論（幼・小）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2427
英文名	Teaching Theory (Kindergarten・Elementary School)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育者や教員に期待されている役割を理解したうえで、備えるべき倫理観、資質や能力を理解していく。また、保育者や教員が役割を遂行するために不可欠な連携の重要性を理解し、ひとりひとりが理想的な保育者像、教員像を思い描けるようにしてゆく。主体的に学ぶために、ディスカッションを行ったり、グループワークを行ったりしながら授業を進める。
学修成果 到達目標	1）保育者・教育者の存在意義を理解し,進路選択に向け、保育職・教育職の職業的特徴を理解している。 2）保育者・教育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。 3）幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の職務を含めた保育者・教員の職務の全体像を理解している。 4）保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 5）職場の同僚と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時にプリントを配布する
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、いくつかを紹介して解説する。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。
実践的教育	

授業名	教職論（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育者・教員の役割	（学修内容）保護者の立場から保育者・教員の役割を考える （事前事後学修課題の内容） 保護者にとっての保育者、教員像を考えてくる
第2回	教員養成・免許制度と保育士養成	（学修内容）教員・保育士がどのようなカリキュラムで養成されるかを知ることによって、それぞれの共通点、特殊性を理解する （事前事後学修課題の内容） 大学のシラバスの資格科目を見てくる。授業時にシラバスを持参すること。
第3回	教員の服務と規律	（学修内容）全体の奉仕者としての教員の服務の基準について解説する （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第4回	保育者・教員の倫理	（学修内容）保育者・教員のもつべき倫理観を解説する （事前事後学修課題の内容） 全国保育士会倫理綱領を読んでくる
第5回	保育者・教員の倫理(グループワーク)	（学修内容）保育者・教員のもつべき倫理観をグループワークによって深める （事前事後学修課題の内容） 全国保育士会倫理綱領を読んでくる
第6回	保育者・教員養成の歴史	（学修内容）保育者、教員養成の歴史からその特性を考える （事前事後学修課題の内容） プリントを参考にして、保育所、幼稚園、小学校いずれかの歴史を年表にまとめてくる
第7回	保育者・教員の資質と能力	（学修内容）保育者や教員の一日を解説し、そこから必要とされる資質、能力について考える （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第8回	計画立案の実際	（学修内容）3分間スピーチを実施することによって、導入の方法、展開の方法、結末の作り方を実感する （事前事後学修課題の内容） 3分間スピーチを考えてくる
第9回	計画と実践・省察	（学修内容）指導計画の立案から省察までの流れを解説する （事前事後学修課題の内容） 指導計画を完成させ、必要な教材を作成してくる
第10回	連携に必要な資質	（学修内容）連携に必要な資質をワークを通して考える （事前事後学修課題の内容） 職員連携に必要な資質を自分に引きつけて考えてくる
第11回	計画の実践の体験	（学修内容）指導計画を実施する （事前事後学修課題の内容） 指導計画を完成させ、必要な教材を作成してくる
第12回	保育者・教員の自己評価	（学修内容）自らの実践を振り返ることから、自己評価の意義を考える （事前事後学修課題の内容） 実践の自己評価をまとめてくる
第13回	保護者との連携	（学修内容）保護者との連携について考える （事前事後学修課題の内容） 保護者対応について調べてくる
第14回	保育施設と小学校の連携	（学修内容）小学校のスタートをよいものにするための工夫を考える （事前事後学修課題の内容） 自分の体験を思い出してくる
第15回	保育者・教員に求められること	（学修内容）保育者・教員に求められる資質を考える （事前事後学修課題の内容） これまでの授業を振り返っておく

授業名	教育心理学（幼・小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3448
英文名	Educational Psychology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渋谷　郁子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	教育のプロセスにおいては、加齢に伴う心身の発達的変化に応じて、個々の発達に見合った適切な経験を保障し、学習を促進することが必要である。本講義では、発達や学習とはいかなる過程なのか、これまでの心理学的知見をもとに学んでいく。また、発達や学習を促進する要因・阻害する要因や、教育現場で生じるさまざまな心理的・社会的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から考察する。
学修成果到達目標	1.人間の発達の諸側面について説明できる。 2.人間の学習の諸側面について説明できる。 3.人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えられる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。
参考書	授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。
留意事項	事前事後の学修を行うこと。毎回、インターネット上で確認テスト・コメント回収を実施する。
オフィスアワー	初回授業時に知らせる。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師

授業名	教育心理学（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教えるとはどのような営みか	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教えるという行為の本質、求められるものなどについて考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第2回	発達（1）発達に何が影響を与えるか、発達と教育	（学修内容）発達とはどのような現象を指すのかや、発達を規定する要因について学ぶ。発達と教育との関係性について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第3回	発達（2）認知の発達	（学修内容）ピアジェの認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第4回	発達（3）言語、社会性の発達	（学修内容）ヴィゴツキーの認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。具体例などをもとにディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第5回	発達（4）道徳性の発達	（学修内容）さまざまな研究結果を基に、善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第6回	学習（1）レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ	（学修内容）学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第7回	学習（2）観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	（学修内容）学習理論の教育への応用を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第8回	学習（3）動機づけ、原因帰属	（学修内容）動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。具体例などをもとにディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第9回	思考と知能	（学修内容）知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第10回	パーソナリティ（1）類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	（学修内容）パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第11回	パーソナリティ（2）個性の測定法	（学修内容）学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第12回	学級集団における人間関係	（学修内容）学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第13回	個人差や発達課題に応じた支援	（学修内容）発達の個人差について理解し、個別のニーズに応じた支援を考える。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第14回	教育相談	（学修内容）カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第15回	授業内容の振り返り	（学修内容）これまでの授業を振り返り、教育のあり方について考察を深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。

授業名	発達心理学（幼・小）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1403
英文名	Developmental Psychology	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期を中心に思春期まで、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。
学修成果到達目標	1）子どもの発達を学ぶ意義を理解できる。 2）子どもの発達を理解できる。 3）子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（85%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（15%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	①西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版　②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	発達心理学（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（学修内容）保育における発達理解の必要性を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト①１章を読んでくる
第2回	乳児期前半	（学修内容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト①２章を読んでくる
第3回	乳児期後半	（学修内容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト①３章を読んでくる
第4回	１歳児(運動・認知)	（学修内容）１歳児の運動発達、認知発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト①４章を読んでくる
第5回	１歳児（言語・社会性）	（学修内容）１歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト①４章を読んでくる
第6回	２歳児	（学修内容）２歳児の発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②２章を読んでくる
第7回	３歳児	（学修内容）３歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②３章を読んでくる
第8回	４歳児	（学修内容）４歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②４章を読んでくる
第9回	５歳児	（学修内容）５歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②５章を読んでくる
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（学修内容）乳幼児期の６年間を通してたいせつなことを解説する （事前事後学修課題の内容） ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる
第11回	児童期	（学修内容）児童期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第12回	思春期（認知発達）	（学修内容）思春期の発達を認知的側面から解説する （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第13回	思春期（対人関係）	（学修内容）思春期の発達を仲間作りの側面から解説する （事前事後学修課題の内容） プリントを読んでくる
第14回	発達の援助のあり方①　自閉症スペクトラム	（学修内容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②p１０８－１１９を読んでくる
第15回	発達の援助のあり方②　ADHD	（学修内容）ADHDの特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容） テキスト②ｐ１０８－１１９を読んでくる

授業名	教育課程総論（幼・小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3451
英文名	Outline of Curriculum (Kindergarten・Elementary School)	開講時期	春学期			必修選択	選択
担当者	柘植　誠子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本授業では、教育課程の意義や編成の基本原理について考察し理解を深め、学習指導要領や幼稚園教育要領に基づいた教育課程の展開方法を学ぶ。また、「カリキュラム・マネジメント」の重要性や「主体的・対話的で深い学び」を理解し、子どもたちの能力や個性を伸ばす教育課程（カリキュラム））の在り方について学びを深める。また、講義内容を深めるために適宜グループワークを実施する。
学修成果到達目標	1）教育課程をめぐるわが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を理解できる。 2）「カリキュラムマネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」について説明できる。 3）学習指導要領や幼稚園教育要領の内容を踏まえ、子どもや地域の実態に即した指導計画を理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	①神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香編著『教育課程論　（乳幼児教育・保育シリーズ）光生館　2018年 ②『幼稚園教育要領』フレーベル館　2017年 ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館　2017年 ④『保育所保育指針』フレーベル館　2017年　※②～④は、手持ちがあれば、別出版社でも可 ⑤『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』文部科学省　2019年　※小学校教員免取得希望者は必要
参考書	・文部科学省『小学校学習指導要領 総則編』2版　東洋館出版社 その他、その都度関係資料を提供します。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。 プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。
留意事項	取得予定免許に合わせた授業形態をとる場合があります。
オフィスアワー	第1回目の授業で告知します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として25年以上勤務。現場での実務経験をもとに実践的な授業を行います。

授業名	教育課程総論（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程の定義	（学修内容）授業概要の説明を把握する。 教育課程の概念について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書を読み、シラバスの内容を把握しておく。 事後：教育課程について理解したことをまとめておく。
第2回	教育課程の意義 社会に開かれた教育課程の意味	（学修内容）教育課程の意義や社会に開かれた教育課程を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教育課程に関連する内容を発表できるようにしておく。 事後：社会に開かれた教育課程について理解したことをまとめる。
第3回	社会に開かれた教育課程の事例 教育課程の役割	（学修内容）教育課程の役割や資質・能力の育成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：社会に開かれた教育課程の事例を調べる。事後：育成を目指す資質・能力（3つの柱）について、内容をまとめる。
第4回	教育課程の基準	（学修内容）教育課程の基準の必要性や教育課程に関する法令を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：学校教育に関わる法令を調べておく。 事後：教育課程に関する様々な法令についてまとめる。
第5回	教育課程の実施のための計画	（学修内容）主体的・対話的で深い学びを実現するする授業を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：主体的・対話的で深い学びの意味を調べておく。 事後：主体的・対話的で深い学びの配慮事項をまとめる。
第6回	カリキュラム・マネジメントの概念と意義	（学修内容）組織的なカリキュラム・マネジメントや全体構造について具体的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：カリキュラム・マネジメントとは何かを調べておく。事後：カリキュラム・マネジメントの必要性と3つの側面の内容をまとめる。
第7回	学級、保育現場におけるカリキュラム・マネジメント	（学修内容）学級や保育現場のカリキュラム・マネジメントを理解する。具体的なカリキュラム・マネジメントを事例から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：小学校や幼稚園のカリキュラムマネジメントを調べておく。事後：カリキュラム・マネジメントの事例をまとめる。
第8回	児童の発達と支援	（学修内容）児童の発達を支える指導の具体例を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：個に応じた指導について調べる。 事後：どのような支援があるか調べまとめる。
第9回	保育の基本と計画の考え方	（学修内容）幼稚園教育要領や保育所保育指針から保育の基本的な考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：幼稚園や保育所、認定こども園の園施設の特徴を調べておく。事後：要領・指針の内容を読んで理解する。
第10回	幼稚園等における教育課程の役割と編成	（学修内容）幼稚園教育要領や資料から教育課程を理解する。教育課程の役割や編成方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：幼稚園の教育課程の事例を調べておく。 事後：小学校の教育課程と幼稚園の教育課程のちがいをまとめておく。
第11回	保育所における全体的な計画	（学修内容）保育所保育指針や資料から全体的な計画を理解する。全体的な計画の役割や編成方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：保育所の全体的な計画の事例を調べておく。 事後：各年齢におけるカリキュラムの特徴の要点をまとめておく。
第12回	幼保連携型認定こども園における全体的な計画	（学修内容）幼保連携型認定こども園教育・保育要領や資料から全体的な計画を理解する。全体的な計画の役割や編成方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：認定こども園の全体的な計画の事例を調べておく。 事後：認定こども園の機能についてまとめる。
第13回	幼児教育と小学校教育との円滑な接続	（学修内容）接続の課題を知り、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの実際を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：それぞれのカリキュラムの意味を調べる。事後：それぞれのカリキュラムの事例を調べる。
第14回	教育課程から指導計画へ	（学修内容）教育課程と指導計画の関係について学ぶ。 指導計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：様々な計画を調べておく。 事後：様々な指導計画を作成する。
第15回	指導計画を立てる際の留意点	（学修内容）各グループにおいて様々な計画を発表し、他グループからも学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：作成した指導計画を発表できるよう点検する。事後：発表した内容について評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授業名	教育の方法と技術（ICT活用含む）（幼・小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3449
英文名	Teaching Methods and Techniques	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	**渡邊　雄一**	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術、プレゼンテーションの方法を学習する。 　また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコン、電子黒板や各種デジタルコンテンツ等のＩＣＴを活用した授業設計に関わる知識・技術を学ぶとともに、教育データの活用や遠隔・オンライン教育の基本を理解することにより、情報通信技術を活用した効果的な学習を推進する方法を習得する。 以上の内容を踏まえて、グループワークやディスカッションを通して教育の方法・技術に関する考察を深めるとともに、デジタル教科書や電子黒板を実際に活用した模擬授業を行う。 さらに、校務支援システム等の活用によって実現する校務の情報化については、課題も含め認識できる内容とする。
学修成果到達目標	（1）教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解する。 （2）情報通信技術の活用の意義や在り方を踏まえ、教育データを活用した学習指導や遠隔・オンライン教育等の基本を理解する。 （3）ＩＣＴを用いた授業設計の方法を理解し、デジタル教科書や電子黒板等のＩＣＴを活用した授業を行うことができる。 （4）グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房，2016年 稲垣忠『教育の方法と技術　主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授　業　名	教育の方法と技術（ICT活用含む）（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（ＩＣＴ活用含む）	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（学修内容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどの様なものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「教育方法・教授法・学習指導」の頁を読み、諸概念をまとめておく。
第3回	教育方法の史的変遷①　近代の教授法	（学修内容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「コメニウス・ペスタロッチ」の頁を読み、近代の教授法の関連箇所をまとめておく。
第4回	教育方法の史的変遷②　教育の現代化と教授理論	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「学習心理学の応用」の箇所を読み、「教育の現代化」との関連箇所をまとめておく。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「カリキュラム開発」の頁を読み、まとめておく。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「学習指導要領」の頁を読み、まとめておく。
第7回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「絶対評価・相対評価」の頁を読み、それぞれの問題点をまとめておく。
第8回	協働的な学習の理論	（学修内容）仲間との協同による学習の意義と方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「相互作用が学習効果を生む仕組み」の頁を読み、ヴィゴツキーの学習理論をまとめておく。
第9回	ＩＣＴ活用の意義と理論	（学修内容）ICTを用いた指導について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「ICTを用いた指導方法」を読み、「一斉学習・個別学習・協働学習」それぞれの特徴をまとめておく。
第10回	ＩＣＴを活用した学習指導	（学修内容）学習支援アプリ（ロイロノート）を用いたオンライン教育に関する学習指導方法を解説する。（ICT活用） （事前事後学修課題の内容） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	情報活用能力を育成するための指導法	（学修内容）情報活用能力の定義とその育成の動向を概観し、情報活用能力の指導法について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリント（「教育の情報化に関する手引」）を読み、情報活用能力の定義をまとめておく。
第12回	授業の設計	（学修内容）ＩＣＴ活用を含めた学習指導案の書き方について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリント（学習指導案の例）を読み、自身の学習指導案の内容を構想する。
第13回	模擬授業準備（ＩＣＴを活用した具体的な授業の設計）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割に従い、学習指導案の作成などを行う。
第14回	模擬授業（ＩＣＴを活用した授業の実践）	（学修内容）各グループがＩＣＴを活用した授業を実践する。（プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割（専門家グループでの役割）を果たす。
第15回	まとめ（ＩＣＴ活用含む）	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 前回までの資料を読み返しておくこと。

授業名	教育相談（幼・小）	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	HE4463
英文名	School Counseling	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	荘厳　茶茶	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	学校現場において子どもたちやその家庭が抱える多様な問題について、まず現状や背景を知り、教育相談とは何を目的とする活動であるかを理解する。その上で、教育相談に必要となる基礎的・理論的な知識とスキルを学び、事例やワークを通して実際的な教育相談のあり方への理解を深める。
学修成果 到達目標	1)教育相談の目的について説明することができる。 2)教育相談に必要な基礎的・理論的な知識とスキルについて説明できる。 3)教育相談の対象となる問題の多様性に柔軟な態度をもつことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	向後礼子・山本智子　『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック［第2版］』　ミネルヴァ書房　2019年
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。
留意事項	多様な問題や認知に対する受容・理解への積極性と、他者に伝わりやすい言葉の表現を心がけ、授業に臨むことが望ましい。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。
実践的教育	

授業名	教育相談（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業内容の概略、および授業計画の説明 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する。
第2回	教育相談の基礎知識	（学修内容）教育相談に関する基礎的・理論的知識 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	価値観の多様性への理解	（学修内容）価値観の多様性を受容・理解する資質 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	聴くスキル	（学修内容）傾聴に必要なスキル （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	子どもたちのサイン	（学修内容）子どもたちの発するSOSへの気づき （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	自己理解の深化	（学修内容）教育相談を受ける者の自己理解 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	不登校への対応(1)―基礎知識―	（学修内容）不登校問題に関する定義と実態 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	不登校への対応(2)―実践ポイント―	（学修内容）不登校問題への実際の対応とポイント （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	いじめへの対応(1)―基礎知識―	（学修内容）いじめ問題に関する定義と実態 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	いじめへの対応(2)―事例研究―	（学修内容）いじめ問題の様態と対応事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	障害への対応(1)―基礎知識―	（学修内容）各種障害の基礎知識 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	障害への対応(2)―児童・生徒理解―	（学修内容）障害を抱える児童・生徒への理解 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	保護者を対象とする教育相談(1)―基礎知識―	（学修内容）保護者対応の重要性とポイント （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	保護者を対象とする教育相談(2)―事例研究―	（学修内容）保護者対応の事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	教員のメンタルヘルス	（学修内容）学校教員のメンタルヘルスの実態、課題、背景 （事前事後学修課題の内容） 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授業名	特別活動（小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3460
英文名	Special Activities (Elementary School)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	前田　学	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、児童の個性伸長を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。 中でも、特別活動において育成を目指す資質・能力における三つの重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意識した指導のあり方に重点を置き、生徒理解や生徒指導・道徳教育・キャリア教育との関連を踏まえながら理解を深める。 また、学級活動(2)と学級活動(3)については学習指導案を作成し、授業づくりの基礎基本を習得できるようにする。
学修成果到達目標	1）特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。 2）特別活動の目標と内容について理解し、児童に育てたい力を明確に意識した指導観をもって指導案に書くことができる。 3）特別活動の特質や汎用性を生かし、各教科等との相互の関連を図りながら、学級や学校の文化を創造における特別活動の重要性を認識できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　15分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	テキストなし
参考書	特別活動指導資料　よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）
課題に対するフィードバックの方法	毎時間，授業後の振り返りを回収し，次時に解説を行います。
留意事項	特別活動は、多種多様な共生社会の形成者としての資質・能力を育成する重要な教育活動です。学級経営の充実においてもまた、特別活動の果たす役割は重要です。児童と向き合い、よりよい人間関係の形成、集団や社会で役に立つ自己の生き方の形成、なりたい自分に確かに向かおうとする意欲の形成に取り組みたい人にはぜひ履修してほしいです。
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。
実践的教育	

授業名	特別活動（小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動① 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を考察する。	（学修内容）「特別活動とは何か？」特別の目標と育てたい資質・能力を知り、「なすことによって学ぶ」意味を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、特別活動の意義を理解する。
第2回	学校教育と特別活動② 特別活動で育てる力とその実践について理解する。	（学修内容）「特別活動で育てる力は何か？」育てたい資質・能力の３観点から特別活動のよりよいあり方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、特別活動で育てたい力を育てる実践についての理解を確かなものにする。
第3回	学級活動① 学級活動の目標と内容及び学級会の事前指導と準備について理解する。	（学修内容）学級活動の目標と内容について理解するとともに、学級会の議題や提案理由、司会グループの役割と話合い活動の準備について知る。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会の事前活動の指導のポイントを確かなものにする。
第4回	学級活動② 学級経営と学級目標の関連、仲間とつながる学級会について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級目標に向かう活動としての学級会で大切にする議題や提案理由の意義を知り、話合い活動や実践活動を通して育てる力について考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会における指導のポイントを確かなものにする。
第5回	学級活動③ 学級活動(1)の話合い活動（学級会）について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級会の合意形成について理解し、つながりの実感できる話合いを工夫する。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会における合意形成の重要性とその意義を理解する。
第6回	学級活動④ 学級活動(1)の事後の活動や係活動について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級活動(1)の事前活動、話合い活動、事後の「ひとまとまりの活動」や、係活動について知り、育てるべき力を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級集会の活動や係活動についての理解を確かなものとする。
第7回	学級活動⑤ 学級活動(2)の学習内容と指導の要点を捉える。	（学修内容）学級活動(2)の特徴とねらい、内容の考え方、学習内容とその指導の要点などについての理解を深め、学級活動(2)の教育的意義を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級活動(2)の学習内容と指導の要点についての理解を確かなものにする。
第8回	学級活動⑥ 学級活動(3)の学習内容と指導の要点を捉える。	（学修内容）学級活動(3)の特徴とねらい、内容の考え方、学習内容とその指導の要点などについての理解を深め、学級活動(3)の教育的意義を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級活動(3)の学習内容と指導の要点についての理解を確かなものにする。
第9回	学級活動⑦ 学級活動(2)あるいは 学級活動(3)の指導案を作成し、具体的な学習内容や指導のイメージをもつ。	（学修内容）学級活動(2)及び(3)の指導案の作成方法の理解を図り、指導案を作成できるようにする。 （事前事後学修課題の内容） 授業時間で作成した指導案を見直し、修正を加えたり追記したりして、第１１回までに完成する。
第10回	特別授業「ごんぎつねと特別活動」 特別活動で育てる資質・能力における３つの重要な視点「人間関係形成・社会参画・自己実現」に焦点を当てて、童話「ごんぎつね」における「ごん」の考え方や行動の仕方について話し合う。	（学修内容）「人間関係形成・社会参画・自己実現」の視点で、童話「ごんぎつね」における「ごん」の考え方や行動の仕方について話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前に童話「ごんぎつね」を読んで、話の内容を把握しておく。
第11回	児童会活動・クラブ活動・学校行事 児童会活動やクラブ活動、学校行事の目標や内容、育てたい力を確かに育てる具体的な指導のあり方についての理解を図る。	（学修内容）異年齢集団による交流の視点で児童会活動やクラブ活動、学校行事の意義、教育的効果などを考え、具体的な指導のあり方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」P.116～135を読み、学校行事についての理解を確かなものにしておく。
第12回	特別活動と道徳教育① 道徳教育における特別活動の果たす役割を明らかにする。	（学修内容）道徳的実践の場とされる特別活動が、道徳教育で果たす役割を考察し、その意義を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに、道徳教育における特別活動の役割について理解を確かにする
第13回	特別活動と道徳教育② 道徳教育における両輪とされる特別活動と道徳科との関連を考察し、その両輪を効果的に駆動させる教育実践について知る。	（学修内容）特別活動と道徳科の両輪を効果的に駆動させる具体的な実践について考え、児童のよりよく生きる力を育てる指導についての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに、特別活動と道徳科の関連について理解を確かにする。
第14回	特別活動と生徒指導及び人権教育 特別活動と生徒指導及び人権教育との関連について明らかにし、特別活動の果たす役割をそれぞれの視点から考察する。	（学修内容）生徒指導の実践上の４つの視点から特別活動の実践を捉える。また人権教育で役割を果たす特別活動の実践のあり方について考える。 （事前事後学修課題の内容） 人間関係形成、社会参画、自己実現を重要な視点とする特別活動と生徒指導・人権教育の関連を講義資料から振り返る。
第15回	特別活動とキャリア教育 特別活動とキャリア教育をそれぞれで育てる基礎的・汎用的能力を関連付ける。	（学修内容）持続可能な社会の創り手としての基礎的・汎用的能力を育てる特別活動とキャリア教育の関連を理解する。 （事前事後学修課題の内容） キャリア教育の要といわれる特別活動の働きについて、講義資料から振り返り理解の定着を図る。

授業名	道徳教育論（小）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1413
英文名	Theory of Moral Education	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	前田　学	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	「特別の教科　道徳」の理論的な内容から実践的な内容へ、道徳授業の実践例を挙げて展開する。 また、一般的な内容から具体的な内容へ、出来るだけ具体例を挙げて展適宜、開する。 ○講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領解説や実践例をもとに、「道徳教育」と「道徳科」の教育課程上の位置づけや基本的性格、その教育的意義の理解を図る。 ○道徳科の授業づくりの基礎的知識の獲得を目指し、道徳的な理解や教材の活用についての解説を行い、理解を図る。 ○道徳の内容項目ごとに道徳科の授業づくりや指導のポイントを解説し、理解を図る。 ○演習として道徳科の指導案を作成し、指導の配慮事項や評価について理解を図る。 ○道徳科をかなめとする道徳教育と特別活動、生徒指導、人権教育などとの関連について解説し、理解を図る。
学修成果到達目標	○　子どもの道徳性の育ちに寄与する立場での道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持つことができる。 ○　道徳科の授業における道徳的な理解や教材の活用、授業づくりの基礎的なポイントについて理解できる。 ○　道徳科の授業づくりの基本型に沿って道徳科学習指導案を書くことができる。 ○　道徳科をかなめとする道徳教育と特別活動、生徒指導、人権教育などとの関連について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	テキストなし
参考書	永田繁雄編著「小学校　新学習指導要領の展開」明治図書
課題に対するフィードバックの方法	授業の初めに、毎回の授業で記入したレポートをもとに学習の振り返りを行うとともに、学習のポイントを抑えたり、課題を共有する。
留意事項	教職を志望する学生で、児童の道徳性の育成や道徳科の授業づくりに興味のある学生の履修を望む。 授業で提示するスライド資料を授業後も目を通し、理論と具体的な実践事例を関連付けて考察するなど、将来の教育実践に向けて意欲をもてる学生を育てる。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市の小学校教員として35年間勤務。加えて「道徳、特別活動」の指導主事、若手教育の研修支援主事として具体的な教育実践に携わる。 上記の経験を生かして、より実践的な道徳授業の在り方や道徳教育の効果的な進め方を講義する。

授業名	道徳教育論（小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	道徳教育論のオリエンテーションと道徳教育の理解	（学修内容）本講のオリエンテーション （講義のねらい・内容・評価）によって、道徳教育の意義や本質を理解できるようにする。 （事前事後学修課題の内容） 授業のまとめのレポートを作成する。
第2回	学校教育における道徳教育の役割	（学修内容）他の教育実践との横断的な関わりなどを理解し、「道徳教育全体計画」や「年間指導計画」「別葉」の意義と必要性について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第3回	道徳教育のかなめとしての「特別の教科 道徳」	（学修内容）道徳教育のかなめとしての「特別の教科 道徳」の位置づけや授業のあり方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第4回	道徳科の授業づくり１ 「内容項目Ａ及びＢの解説と具体的な授業実践例」	（学修内容）内容項目Ａ及びＢのポイントを理解し、具体的な授業実践例から道徳科の授業づくりの仕方や工夫を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第5回	道徳科の授業づくり２ 「内容項目Ｃ及びＤの解説と具体的な授業実践例」	（学修内容）内容項目Ｃ及びＤのポイントを理解し、具体的な授業実践例から道徳科の授業づくりの仕方や工夫を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第6回	道徳科の授業づくり３ 「ねらいとする道徳的価値とその理解、及び教材の活用類型」	（学修内容）ねらいとする道徳的価値とその理解、及び教材の活用類型について学び、授業づくりにいかせるようにする。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第7回	道徳科の授業づくり４ 「気付きかけているものに気付くことができる授業の工夫」	（学修内容）道徳科の授業における様々な手法を知り、授業づくりにいかせるようにする。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第8回	道徳科指導案作成演習１ 「指導観と授業構想（展開）、導入と終末の工夫」	（学修内容）道徳授業の学習指導案の作成にあたって、指導観についての書き方や授業構想の仕方を学んだり、導入や終末の工夫を考えたりする。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第9回	道徳科指導案作成演習２ 「発問の工夫」	（学修内容）道徳科授業における発問例を参考に、児童の気付きを的確に引き出す発問を考える。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第10回	道徳科指導案作成演習３ 「ディスプレイとしての板書」	（学修内容）道徳科授業の様々な板書例を参考にしながら板書の作成の仕方を学び、指導案の板書計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第11回	模擬授業演習１ 「模擬授業に向けてのグループ協議と準備」	（学修内容）個々に作成した指導案をもとに、模擬授業に向けてグループで協議をし、協力して授業の準備をする。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第12回	模擬授業演習２ 「グループごとの模擬授業リハーサル」	（学修内容）代表者による模擬授業リハーサルの実施とそれについてのグループ協議により、模擬授業の内容や進め方を完成させる。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第13回	模擬授業演習３ 「模擬授業と全体協議及び講評」	（学修内容）模擬授業の実施と児童体験から道徳科授業における児童について理解するとともに、全体協議と講評で授業づくりについての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第14回	道徳科と学級経営 「学級経営における道徳科の役割」	（学修内容）学級経営における道徳科の役割を理解し、道徳教育としての学級経営のあり方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。
第15回	道徳科と特別活動 「道徳科と特別活動の関連と効果的な駆動」	（学修内容）児童の道徳性を培う両輪としての道徳科と特別活動の関連性を理解し、その効果的な駆動について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前時のレポートをもとに、学習を振り返るとともに課題を共有する。 授業のまとめのレポートを作成する。

授業名	住空間とインテリア実習	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2316
英文名	Living space and interior training	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 図面の読み方・書き方の練習と、具体的なクライアントと実際の空間を用いたリノベーション計画の提案を通して、情報整理の方法、空間構成とその捉え方、暮らしの多様性について学ぶ。空間を測量して実測図を作図し、クライアントへのヒアリングから要望をまとめ、図面や模型を用いて各自のリノベーション提案をプレゼンテーションする。 3回生科目『室内デザイン実習』は『住空間とインテリア実習』の内容を踏まえた課題を行うので、『室内デザイン実習』を履修する予定がある場合は、『住空間とインテリア実習』の履修を推奨する。
学修成果 到達目標	1）建築図面の表現を理解し、読み取り、作図をすることができる。 2）さまざまな材料を用いて模型を制作し、空間を立体的に把握することができる。 3）空間リノベーションを構想し、図面や模型で表現することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	適宜、資料や情報を配布または共有する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、ディスカッション、レポート、提出物などに対し、必要に応じた採点やコメントをする。
留意事項	カッター、カッターマット、ボンド、カッター定規、コンベックス(メジャー)、模型材料などを各自で準備すること。 履修者数や状況によって、課題の内容、グループワークなどの有無など変更になる可能性がある。 3回生科目『室内デザイン実習』は『住空間とインテリア実習』の内容を踏まえた課題を行うので、『室内デザイン実習』を履修する予定がある場合は、『住空間とインテリア実習』の履修を推奨する。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得

授業名	住空間とインテリア実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）授業の意図と方向性の共有。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認
第2回	図面：準備	（学修内容）図面の読み方・描き方 （事前事後学修課題の内容） 必要な道具や材料を準備 図面の意味、読み方を予習復習
第3回	図面：基礎	（学修内容）図面の読み方・書き方 作図練習課題 （事前事後学修課題の内容） 必要な道具や材料を準備 図面の意味、読み方を予習復習
第4回	実測して平面図を描いてみよう	（学修内容）実際の空間の平面図を測量して作図する （事前事後学修課題の内容） 作品制作やプレゼンテーションの準備
第5回	実測して展開図を描いてみよう	（学修内容）実際の空間の展開図を測量して作図する （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第6回	空間模型を作ってみよう：準備	（学修内容）カッター・スコヤ・スチレンボードの扱い方 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ 筆記具、定規など必要な準備
第7回	空間模型を作ってみよう：基本	（学修内容）空間構成と平面形状を考える （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料を準備する 推奨された資料等の学習
第8回	クライアントヒアリング	（学修内容）条件の整理と空間分析 （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第9回	提案検討	（学修内容）提案の構想 （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第10回	作図	（学修内容）提案の構想と作図 （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第11回	提案の作図＆模型：作成	（学修内容）提案内容を模型化 （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第12回	提案の作図＆模型：完成	（学修内容）提案模型のチェック （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第13回	プレゼンテーション	（学修内容）模型制作チェック （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第14回	課題検討	（学修内容）実測と作図を行い提案を構想する （事前事後学修課題の内容） 模型制作道具、材料など必要な準備 推奨された資料等の学習
第15回	課題まとめ	（学修内容）図面を用いてプレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 作品プレゼンテーションの準備 授業のまとめ

授業名	生活とメディア	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2309
英文名	Life and Media	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	授業で生活と情報の関係について学びます。マスメディアとともにソーシャルメディアを介したわたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。
学修成果到達目標	・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる ・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる ・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	noa出版『情報倫理ハンドブック改訂版』2024年
参考書	・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」　https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/ca　ution/internet/ ・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」　https://www.npa.go.jp/cyber/ ・そのほか授業中に適宜指示します。
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う
留意事項	テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること 配慮事項がある場合は、事前に相談にくること （授業を欠席する場合も事前連絡を） また、最新情報を学ぶためゲストスピーカーを2回お招きすることを予定している
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：2009年から5年間程度、特定非営利活動法人学習開発研究所の所員として、アナログ回路・デジタル回路の技術者のスキルアップをめざした学習システムの開発と実践に携わる。

授業名	生活とメディア

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「生活とメディア」を通して学ぶこと	（学修内容）シラバス、テキストpp.1-3を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	（学修内容）インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：テキストpp.4-10を読む。 事後学修：著作権、肖像権の侵害に関する一事例をまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	（学修内容）生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：テキストpp.11-17を読む。 事後学修：SNSを一つ選び、その特徴をまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	（学修内容）インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：テキストpp.18-19を読む 事後学修：To,Bcc,Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	（学修内容）メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：テキストpp.20-22を読む 事後学修：SNS上のトラブルを調べコメントカードにまとめる
第6回	【ゲストスピーカー】 京都府警察サイバー対策本部 SNSなどにおけるサイバー犯罪について	（学修内容）SNS上でサイバー犯罪に遭わないためのセキュリティ対策を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：テキストpp.23-28を読む 事後学修：授業で学んだサイバー犯罪についてまとめる
第7回	サイバー犯罪対策	（学修内容）【実習】京都府警察作成のサイバー犯罪に関する学習プログラムをクリアできる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：pp.29-33まで読む 事後学修：SNS対策の実例をレポートにまとめる
第8回	大学生SNSトラブル事例	（学修内容）【グループワーク】大学生や若者に被害がでているSNSトラブルについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：pp.34-44まで読む 事後学修：授業で調べた内容をスライド資料にまとめる
第9回	大学生SNSトラブルの予防と対策	（学修内容）【プレゼンテーション】前回作成したスライド資料をグループごとに発表できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：pp.34-44まで読む 事後学修：SNSトラブル回避方法を1つレポートにまとめる
第10回	メディアが発する情報をチェック	（学修内容）ファクトチェックについて説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：pp.45-52までを読む 事後学修：ファクトチェックの具体例を1つレポートにまとめる
第11回	ネット依存	（学修内容）ネット依存の特徴と対策を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修：ネット依存のスクリーニングを行い結果をまとめる
第12回	【ゲストスピーカー】 京都府消費生活安全センター相談員	（学修内容）小中学生の間で起こるメディア依存と被害を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：子どものインターネット使用時間等を調べる 事後学修：家庭のルールづくり案をコメントカードにまとめる
第13回	小中学生を対象としたメディア教育の検討	（学修内容）【グループワーク】小中学生の適切なメディアの付き合い方を話し合い整理することができる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：内閣府のSociety5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修：わたしたちの生活の変化を予想しコメントカードにまとめる
第14回	小中学生を対象としたメディア教育の実際	（学修内容）【実習】実際に検討したメディア教育を実践することができる（ロールプレイも可） （事前事後学修課題の内容） 事前学修：実践に向けた準備を行う 事後学修：実践のふりかえりをレポートにまとめる
第15回	これからの「生活とメディア」	（学修内容）【グループワーク】授業全体を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる （事前事後学修課題の内容） 事前学修：授業全体を振り返って興味のもった箇所を調べる 事後学修：グループワークの内容をコメントカードにまとめる

授業名	都市と景観	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	HE3326
英文名	city and scenery	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 街並みや景観について、「文化や歴史」と「安心できる暮らし」の観点から考え、自分にとっての心地良い暮らしを再認識・再構築する。考え、調べ、理解して使える知識を持ち、プレゼンやディベートで情報共有することで、生き方、考え方には多様性があることを再認識し、自分の暮らしの選択肢を広げることを目的とする。 フィールドワークやプレゼンとディベートを中心とした参加型授業のため、受講生には自発的かつ積極的に授業参加する意識と姿勢が必要。 授業内容は、受講者数と授業内のディベートやプレゼンテーションの結果によって大きく変更となる可能性がある。 フィールドワークを行う場合、時間や施設の公開状況等により土日祝日へ授業日を変更する可能性がある。授業と先方のスケジュール都合によって、フィールドワークを他学年と合同実施する場合がある。
学修成果到達目標	1）自ら積極的に情報収集を行い、目的に沿って論理的に情報を整理しまとめることができる。 2）景観を構成する要素と歴史や文化および安心な暮らしとの関係について、身体性を持って理解できる。 3）他者の発表や意見に対し、客観的視点を持ち、敬意を持ちつつコメントやアドバイスができる。 4）授業内容を自分の暮らしにフィードバックし、自らの考えを持ち意見を述べる事ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　■実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	適宜、資料や情報を配布または共有する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、ディスカッション、レポート、提出物などに対し、必要に応じた採点またはコメントをする。
留意事項	初回授業に必ず出席すること。フィールドワークでは、迷惑行為、禁止行為は厳禁、各自責任を持った行動を厳守すること。フィールドワーク対象は、授業内のディスカッションなどにより変更になる可能性がある。スマートフォンが必要。 授業の状況や、フィールドワークの訪問先の都合等によって、土曜や日曜などに授業日を振り替える可能性がある。履修者数により授業内容が変わる可能性がある。フィールドワークでは入館料等が必要となる。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得

授業名	都市と景観

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）授業全体の意図・方向性の共有。フィールドワークのスケジュール調整。課題説明および担当者選任。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークの日程調整を行うため、今学期中の自分のスケジュールを把握しておくこと。シラバスの内容を確認し、指定の課題を提出。
第2回	景観認識の多様性	（学修内容）「好きな場所」「改善が必要な問題がある場所」について、景観要素やデザインと結びつけて考える。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して必要な準備をする。
第3回	身近にある景観の観察	（学修内容）大学周辺をサンプルに京都らしさの要素を考えるフィールドワーク。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して必要な準備をする。
第4回	街並みの要素	（学修内容）京都の街並みについてテーマを持って再認識し考察する。 （事前事後学修課題の内容） 指定の課題に対して必要な準備をする。
第5回	都市の暮らしと災害：準備	（学修内容）空間・文化・歴史についてフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 決められた集合時間、場所へのアクセス方法、スケジュールをしっかり確認しておく。
第6回	都市の暮らしと災害：考察	（学修内容）歴史の出来事と暮らしの環境についてフィールドワークを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークを通して、歴史的・文化的背景と空間との関係を身体性を持って理解する。
第7回	文化的暮らしの風景：考察	（学修内容）暮らしの背景を探り、その構成要素について観察し考察する。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。 指定の課題を行い提出する。
第8回	文化的暮らしの風景	（学修内容）暮らしと風景についてフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。 指定の課題を行い提出する。
第9回	文化的暮らしの要素	（学修内容）文化的暮らしを支える住まいの要素についてフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。 指定の課題を行い提出する。
第10回	都市とコミュニティ	（学修内容）街とコミュニティについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第11回	非常時のコミュニティ	（学修内容）非常時の街とコミュニティについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第12回	暮らしの風景：情報共有	（学修内容）風景と暮らしの関係とその構成要素についてプレゼンやディスカッションを通して情報共有する。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ、指定の課題を行う。 プレゼンやディスカッションに向けて準備する。
第13回	都市災害：ディベート	（学修内容）様々な街並みの中に身を置いてみて、身の安全について考え情報共有する。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ、指定の課題を行う。 プレゼンやディスカッションに向けて準備する。
第14回	都市生活：ディベート	（学修内容）都市と田舎といった二項対立しうるテーマを持ってディベートを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ 課題プレゼン、レポートなど必要な準備
第15回	まとめ	（学修内容）授業の振り返りとまとめ。 （事前事後学修課題の内容） 各自プレゼンテーションまたは資料作成の準備。 授業のまとめ。

授業名	統計学の基礎	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2312
英文名	Statistics for Business	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	Society5.0(内閣府)は経済の持続可能発展と社会的課題の解決を人工知能、ロボット、ビッグデータなど情報通信技術を駆使することで達成するが目指されています。センシング技術をはじめ、さまざまな情報を瞬時に一つのデータとして収集することが可能であり、その有効な活用が成功の鍵を握ります。有効に活用するために、データを分析する方法を習得する必要があります。それは統計的手法です。これからの社会、職場や地域活動を担う皆さんにとって分析者として統計のスキルを発揮する場合もあるでしょうし、自ら統計に携わらくなくてもメディアで公表される統計データなどを読み解く感覚を身に付けることはますます重要となるでしょう。この授業では統計を学ぶ導入として基本的な知識理解をExcelソフトなどを使用しながら実践的に獲得することをテーマに進めます。 課題の提出にはICTなどを活用します。 ※　受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。
学修成果到達目標	1）データの分布度合いが把握できる。 2）確率の意味が理解できる。 3）カイ2乗検定を説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時に資料を配布する。
参考書	授業中に紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	ICTなどを活用して、課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	ゆっくりと進めていきますので、問題が解けるまで頑張る。
オフィスアワー	毎回の授業終了後に行います。
実践的教育	

授業名	統計学の基礎

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容、進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスを読んでおいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第2回	平均と度数分布	（学修内容）平均と度数分布について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、平均と度数が意味するものについて復習しておいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第3回	分散と標準偏差Ⅰ：データの散らばりをみることの有効性	（学修内容）分散の計算方法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、データの分布が分かることのメリットを考察してみてください。事後、分散の計算をするなど授業内容を整理してみてください。
第4回	分散と標準偏差Ⅱ：分布の範囲を理解することの有効性	（学修内容）標準偏差の計算方法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、標準偏差が使われている例を探してみてください。事後、偏差値を計算してみるなど授業内容を整理してみてください。
第5回	集合Ⅰ：ベン図・表の作成	（学修内容）ベン図の作成について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、SPIの集合の問題をみてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第6回	集合Ⅱ：2つの円を使った集合	（学修内容）３つの集合を２つの円で解く問題について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、配布する問題に対してベン図を作成してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第7回	集合Ⅲ：3つの円を使った集合	（学修内容）３つの集合を解く問題について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、配布する問題に対してベン図を作成してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第8回	カイ二乗検定Ⅰ：クロス集計について	（学修内容）カイ二乗検定の概要について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、クロス表が示されている報告書を集めてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第9回	カイ二乗検定Ⅱ：期待度数について	（学修内容）期待度数の内容について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、関連がないとき、どのような数値を示すのか、考えてみてください。事後、集めたクロス表の期待度数を計算してみてください。
第10回	カイ二乗検定Ⅲ：カイ二乗値について	（学修内容）カイ二乗値の計算と度数分布表の見方について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、集めたクロス表の結果を説明してみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第11回	二項分布Ⅰ：公平なコインを10回投げて、表が出る回数の確率	（学修内容）二項分布の概要について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、当り10%のクジは10回ひけば1回当たるのか、を考えてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第12回	二項分布Ⅱ：製品の品質検査	（学修内容）場合の数について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、組み合わせの問題の復習をしておいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第13回	二項分布Ⅲ：医薬品の効果	（学修内容）二項分布の計算について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、確率を高める方法について考えてみてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第14回	復習Ⅰ：分散と標準偏差、集合の計算の復習	（学修内容）分散と標準偏差、集合の計算の復習をして行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、分散と標準偏差、集合の計算の復習をしておいてください。事後、間違った箇所など授業内容を整理してみてください。
第15回	復習Ⅱ：カイ二乗検定、二項分布の復習	（学修内容）総復習をして行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、カイ二乗検定、二項分布の計算の復習をしておいてください。事後、間違った箇所など授業内容を整理してみてください。

授業名	服飾と社会	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3442
英文名	Theory of Clothing Society	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本科目では、服飾を取り巻く社会的・文化的背景を幅広く捉え、現代におけるファッションが果たす役割と影響力を考察する。歴史・メディア・ジェンダー・グローバル化など多様な視点からファッションを検討し、家政学的アプローチを通じて今後の服飾文化の在り方を考える力を養うことを目的とする。
学修成果到達目標	1.服飾の歴史的変遷を学び、各時代の社会背景や文化との関連性を理解する。 2.社会の変化に応じて変容するファッションと、その背景要因を分析する。 3.ジェンダーやサブカルチャーなど、ファッションとアイデンティティとの関係性を考察する。 4.持続可能なファッションやグローバルサプライチェーンなど、今後の家政学の視点で重要となる課題を理解し、問題解決策を探究する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。

授業名	服飾と社会

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）シラバス説明 授業の進め方と到達目標の確認 服飾と社会の関係性を概観 （事前事後学修課題の内容） 事前:シラバスを読んで内容を把握 事後:今後取り上げたいテーマをリストアップ
第2回	服飾の歴史と社会的役割(1)	（学修内容）原始 古代から近世までのファッション史 権力や地位を示す服飾 （事前事後学修課題の内容） 事前:なし 事後:各時代の特徴をまとめる
第3回	服飾の歴史と社会的役割(2)	（学修内容）近代から現代ファッションの成立 大衆文化とファッションの発展 （事前事後学修課題の内容） 事前:前回講義の内容を復習し関連資料を確認 事後:近代と現代のファッション産業の変遷を調べる
第4回	メディアとファッション	（学修内容）雑誌 テレビ インターネットなどのメディアの影響 SNSとトレンド形成 （事前事後学修課題の内容） 事前:SNSで人気のブランドを調べる 事後:自身のSNSでのファッション情報発信を振り返る
第5回	ジェンダーとファッション	（学修内容）女性解放運動と服飾の変遷 メンズファッションの変化 ジェンダー表象 （事前事後学修課題の内容） 事前:ジェンダー問題について調べる 事後:ファッション広告のジェンダー表現を整理
第6回	サブカルチャーとファッション	（学修内容）若者文化 ストリート 音楽シーンとの関連 サブカルチャーの特徴と主張 （事前事後学修課題の内容） 事前:興味のあるサブカルファッションを調べる 事後:授業で紹介されたファッションスタイルの要素をまとめる
第7回	ファッションと身体・アイデンティティ	（学修内容）服飾と自己表現 身体観との関係 ブランド志向や個性化 同調圧力の考察 （事前事後学修課題の内容） 事前:自分のファッションヒストリーを振り返る 事後:他者との比較から自己表現を考えるレポートを作成
第8回	グローバル化と服飾産業	（学修内容）生産 流通のグローバル化 労働環境や経済格差とファッション消費 （事前事後学修課題の内容） 事前:主要ファストファッション企業の海外展開を調べる 事後:グローバル化によるメリットとデメリットを整理
第9回	持続可能性とファッション	（学修内容）サステナブルファッションの取り組み エシカル消費と服飾産業の課題 （事前事後学修課題の内容） 事前:倫理的ファッションブランドを見つけて特徴を調べる 事後:ブランドのサステナビリティ方針を評価する
第10回	服飾と多文化共生	（学修内容）異文化の服装や宗教的衣服への理解 観光や国際交流における服飾の役割 （事前事後学修課題の内容） 事前:他文化圏の服飾に関する記事を探して読む 事後:授業で取り上げた事例を踏まえて自分の考えをまとめる
第11回	現代家政学とファッション(1)	（学修内容）家政学の視点から見た衣食住と生活文化 衣生活指導 教育の歴史と現状 （事前事後学修課題の内容） 事前:家政学分野の基礎的な文献を読む 事後:衣生活教育に関する課題を箇条書きで整理
第12回	現代家政学とファッション(2)	（学修内容）高齢社会や介護現場での服飾の意義 防災ウェアや機能性衣類の技術発展 （事前事後学修課題の内容） 事前:介護 福祉関連資料で衣類に関する取り組みを確認 事後:機能性ウェアに関する課題とアイデアをメモ
第13回	ファッションビジネスと社会	（学修内容）小売業やECの展開と消費行動の変化 マーケティングとブランディング （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなブランドのビジネスモデルを調べてまとめる 事後:次回のグループ討議に向けマーケティング戦略を考える
第14回	総合討議 ファッションの未来像	（学修内容）AIやデジタル技術とファッション 環境 社会 技術の観点から見る今後の方向性 （事前事後学修課題の内容） 事前:AIやデジタル技術を活用したファッション事例を探す 事後:見つけた事例の利点と問題点を簡潔にまとめる
第15回	まとめと学習成果の確認	（学修内容）プレゼンテーションやレポート発表 全体の振り返りと今後の課題整理 （事前事後学修課題の内容） 事前:これまでの学習を通じた気づきを整理 事後:発表資料の内容を相互に確認しフィードバック

授業名	ファッション論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2430
英文名	Clothing Culture	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	馬場　まみ	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	ファッションは、時代により、また地域によって多様である。本講義では、日本と西洋のファッションの流れをたどり、現代的なファッションの成立過程、現代におけるファッションデザイナーの活動をみていく。様々な社会のファッションのあり方を知り、ファッションが果たしてきた役割や社会的意味について考える。また、現代社会におけるファッション産業の課題についても考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞する。
学修成果到達目標	1. ファッションの多様性について理解することができる。 2. 日本と西洋のファッションの変化を説明することができる。 3. ファッションと社会との関わりについて理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。
参考書	授業で随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	ファッション論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）講義内容と授業の進め方について （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで学びの目標を理解する。
第2回	日本のファッション：江戸時代の社会と服装	（学修内容）江戸時代の身分制と服装について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 江戸時代の身分制について予習する。授業後に江戸時代の身分と服装を整理する。
第3回	日本のファッション：江戸時代の女性のファッション	（学修内容）江戸時代の女性の着物、帯、化粧について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に江戸時代の女性の装いについて調べる。授業後に江戸時代の女性のファッションをまとめる。
第4回	日本のファッション：近代における洋服と和服	（学修内容）近代における洋服の導入と服装の変化を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に洋服の導入過程を調べる。授業後に洋服導入に関わる事象を年表にまとめる。
第5回	日本のファッション：近代における和服の変化	（学修内容）近代における和服のモダンデザインについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に近代の和服模様の変化について調べる。事後に特長的な模様をまとめる。
第6回	日本のファッション：民族服としての和服の成立	（学修内容）近代化によって洋服が導入され、和服が民族服として位置づけられたことを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に民族服について調べる。授業後に近代化と民族服の成立についてまとめる。
第7回	日本のファッション：現代の和服産業	（学修内容）現代の和服産業について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 現代の和服産業について予習する。授業後に生産額や特徴的な技術についてまとめる。
第8回	西洋のファッションの歴史：16世紀から19世紀	（学修内容）西洋における16世紀以降の貴族のファッションを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に西洋絵画にみる貴族のファッションの特徴を考える。授業後に貴族の服飾の特徴をまとめる。
第9回	西洋のファッションの歴史：20世紀	（学修内容）産業革命以降の男女の近代的洋装の成立について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に産業革命期の社会の変化を調べる。事後に服飾の変化をまとめる。
第10回	近代社会とシャネル	（学修内容）シャネルの活躍した時代とデザイナーとしての特徴を理解する。映像を鑑賞する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にシャネルについて調べる。授業後にDVDを見た感想を提出する。
第11回	ディオールのファッション	（学修内容）ディオールのファッションについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にディオールについて調べる。授業後ディオールのファッションに関する感想を提出する。
第12回	日本のデザイナー：世界で活躍したデザイナー	（学修内容）世界で活躍した日本人デザイナーとファッションの特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に日本人デザイナーについて調べる。授業後に日本人デザイナーの特徴的なファッションをまとめる。
第13回	日本のデザイナー：川久保玲のファッション	（学修内容）川久保玲のデザイナーとしての軌跡とファッションの特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に川久保玲について調べる。授業後川久保玲の活動について感想を提出する。
第14回	これからのファッション産業	（学修内容）ファッション産業の今後のあり方を考察する。 （事前事後学修課題の内容） サステナブルファッションについて予習する。授業後これからのファッションのあり方について考えたことを提出する。
第15回	まとめ	（学修内容）ファッションの社会的意味と現代的課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） これまで授業内容を整理する。

授業名	住居文化	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2419
英文名	Housing Culture	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	関口　太樹	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目。 暮らしや住まいがどのような変遷を辿ってきたのか、歴史や文化的側面に主眼をおいて学ぶ。講義や事前学習による知識の蓄積、プレゼンやディスカッションによる情報の共有、フィールドワークを通した身体的な体験とその体験を考察してまとめることを通して日本の住まいについて考える。フィールドワークやプレゼンとディベートを中心とした参加型授業のため、受講生には自発的かつ積極的に授業参加する意識と姿勢が必要。。受講者数、施設の公開状況、受講者の参加姿勢、プレゼンおよびディスカッションの内容などにより、グループワークの有無、フィールドワークの回数が変更となる可能性があり、授業日程が変則的になる場合もある。また授業と先方のスケジュール都合によって、フィールドワークを他学年と合同実施する場合がある。
学修成果到達目標	1）様々な媒体や実体験等を通して、自ら情報収集し積極的な自己学習ができる。 2）身体性を持ってフィールドワークを行うことができる。 3) 知識と体験の両側面から物事を多面的に理解することができる。 3）住まいについて文化的、歴史的な観点から自分の意見を述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜、資料配布または情報共有する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、レポート、提出物などに対し、必要に応じて採点またはコメントをする。
留意事項	フィールドワークでは、迷惑行為、禁止行為は厳禁、各自責任を持った行動を厳守すること。フィールドワーク対象は、授業内の ディスカッションなどによって変更になる可能性がある。スマートフォンが必要。授業の状況や、フィールドワークの訪問先の都合等によって、土曜や日曜などに授業日を振り替える可能性がある。履修者数により授業内容が変わる可能性がある。フィールドワークでは入館料等が必要となるが、京都市キャンパス文化パートナーズ制度によるアプリ「KYO- DENT」の登録と学生証の提示により、費用を低く抑えられる場合がある。
オフィスアワー	授業期間は週に１回(1h)設定。曜日・時間は学生演習室にて掲示。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得

授業名	住居文化

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：導入	（学修内容）授業の意図と方向性の共有、フィールドワークのスケジュール調整。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークのスケジュール調整を行うため、今学期中の自分のスケジュールをよく把握しておくこと。シラバスの内容を確認する。
第2回	文化と価値観	（学修内容）日本文化の背景にある価値観について考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第3回	フィールドワークA：講義	（学修内容）住まいと庭の設(しつらえ)から暮らし方の裏にある文化を読み解く （事前事後学修課題の内容） フィールドワークに必要な準備をしっかり行う。 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第4回	フィールドワークA：視察	（学修内容）建築と庭の融合した空間でフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 発表に向けて準備を行う。
第5回	フィールドワークA：発表	（学修内容）各自の体験と考えや情報を共有し、意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。 課題用紙、コンベックス、カメラなど必要な準備。
第6回	暮らしの変遷	（学修内容）原始時代・古代・中世までの暮らしと住まいの変遷を辿る。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワーク実施に向けて事前調べと発表準備を行う。 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第7回	住まいの変遷	（学修内容）近世・近代・現代の暮らしと住まいの変遷を辿りながら、住まいの形態や機能と背景の関係を理解する。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワーク実施に向けて事前調べと発表準備を行う。 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第8回	フィールドワークB：発表	（学修内容）別荘建築について行った事前学習の内容を発表し、情報共有や意見交換を行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第9回	フィールドワークB：視察	（学修内容）別荘建築でのフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第10回	フィールドワークB：考察	（学修内容）別荘建築の空間体験を課題を基に考える。 （事前事後学修課題の内容） 課題プレゼン・レポートなど必要な準備
第11回	フィールドワークB：まとめ	（学修内容）別荘建築の空間体験をレポートにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワーク実施に向けて事前調べと発表準備を行う。 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第12回	フィールドワークC：発表	（学修内容）歴史的住居について行った事前学習の内容を発表し、情報共有や意見交換を行う。 （事前事後学修課題の内容） フィールドワークの課題をレポートにまとめる。
第13回	フィールドワークC：視察	（学修内容）歴史的住居空間でのフィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第14回	フィールドワークC：考察	（学修内容）歴史的住居の空間体験を課題を基に考える。 （事前事後学修課題の内容） 推奨された資料等の学習や授業のまとめ
第15回	フィールドワークC：まとめ	（学修内容）歴史的住居の空間体験をレポートにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 各自プレゼンテーションまたは資料作成の準備 授業のまとめ

授業名	カラーコーディネート論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1409
英文名	Color Coordinates	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の衣食住の場面において色彩が持ち得る役割について理解する。さらに、それを実際の場面計画できるを能力を深める。 また、授業では演習を通して配色することを体験することにより、色彩を操作する実践的力を学び、できた作品を相互に鑑賞することで色彩理論を感覚で確認する。
学修成果 到達目標	1）衣食住における色彩についてその意味と効果を理解できる。 2）科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩計画を読解できる。 3）配色や色彩計画の演習を行ことで、さまざまな場面で色彩を計画できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「カラーコーディネーターのための配色入門」　川崎英昭著　財団法人日本色彩研究所監修 （授業時に購入してもらいます）
参考書	配色カード１９９ｃを使用（授業時に購入してもらいます）
課題に対するフィードバックの方法	各課題のワークシートを確認、適時指導する。
留意事項	実際に色カードによる配色演習を行なう 色彩検定などのアドバイスは必要に応じて適時行う。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施、その他、可能時間を授業時に伝える。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：■実践的教育教員の実務経験などについて、 美術家としての絵画作品の創作活動、色彩研究、美術館等での指導や表現ワークショップの指導

授業名	カラーコーディネート論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	色彩表現の世界	（学修内容）導入 色彩を学ぶこと、楽しむこと （事前事後学修課題の内容） 色彩について考える
第2回	色彩体系を学習（１） ～色相の構成要素と特徴～	（学修内容）色相の構成要素と特徴を理解する PCCSの色相環を配色カードを使って理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.4～13を読んでキーワードをマーキングする
第3回	色彩体系を学習（２） ～明度・彩度の特徴～	（学修内容）明度・彩度の設定方法と特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） ワークシートを振り返り完成させる
第4回	色彩体系を学習（３） ～トーンの概念～	（学修内容）日本色研配色体系（PCCS）や、トーンの概念についてワークシートを作成し理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.14～15を読む
第5回	色彩調和の基礎（１） ～色彩調和論～	（学修内容）自然色の秩序，色彩調和論の要約を理解する 色相を基準にした配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.16～19を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第6回	色彩調和の基礎（２） ～明度を基準とした配色～	（学修内容）明度を基準とした配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.20～21を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第7回	色彩調和の基礎（３） ～彩度を基準とした配色～	（学修内容）彩度を基準とした配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.22～23を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第8回	色彩調和の基礎（４） ～トーンを基準にした配色～	（学修内容）トーンを基準にした配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.24～25を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第9回	配色技法（１） ～いろいろな効果による配色～	（学修内容）ベースカラーとアソートカラー、アクセント効果による配色、セパレーション効果、ドミナントカラーによる配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.26～32を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第10回	配色技法（２） ～グラデーション効果による配色～	（学修内容）グラデーション効果による配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.33～35を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第11回	配色技法（３） ～トーンの配色～	（学修内容）トーンオントーン配色、トーンイントーン配色、トーナル配色を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.36～40を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第12回	色彩心理	（学修内容）色の見えの効果を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.41～46を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第13回	色のイメージと配色（カラープランニング）（１） ～日常空間の配色とイメージと配色の関係～	（学修内容）配色技法の応用：日常空間の配色を考えるイメージと配色の関係を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp.47～59を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第14回	色のイメージと配色（カラープランニング）（２） ～個人空間、住空間、都市空間の配色～	（学修内容）個人空間、住空間、都市空間の配色を考え,意見交換する （事前事後学修課題の内容） テキストp.60～77を読む ワークシートを振り返り、完成させる
第15回	まとめ	（学修内容）色彩についてのまとめる これまでのワークシートを完成させる （事前事後学修課題の内容） これまでのワークシートを振り返り、完成させて提出する

授業名	音楽の基礎（ピアノ・歌）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1404
英文名	Fundamentals of Music（Piano and Song）	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	音楽のごく初学者向け。子どもの音楽Ⅰに先立ち、ピアノ・歌唱および音楽理論の基本を学ぶ。毎回実技課題の到達度を個別レッスンによって確認しながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）読譜のための基礎的な音楽理論を理解することができる 2）正しい音程で発声することができる 3）簡単な楽譜のピアノ演奏ができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	『子どものうた』京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編 『新訂　バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業において実技課題の到達度を個別に確認する。
留意事項	「音楽の基礎」はピアノ及び音楽経験の無い初心者対象の授業です。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	音楽の基礎（ピアノ・歌）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ト音記号の読譜および視唱 ピアノを弾く際の注意事項および試奏	（学修内容）ト音記号による読譜と視唱およびピアノを演奏する際の基本的注意事項について （事前事後学修課題の内容） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読んでおくこと。
第2回	ト音記号およびヘ音記号および視唱・試奏（個別レッスンを含む）	（学修内容）ト音記号およびヘ音記号による読譜について （事前事後学修課題の内容） テキス第2章「音の高さ」の項目を読み、教則本での読譜練習をしておくこと。
第3回	音価①導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の基本的な考え方について （事前事後学修課題の内容） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読み、教則本およびテキストでの読譜練習（視唱・演奏）をしておくこと。
第4回	音価②基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の作品中でのとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） テキスト第1章・第2章のワークシートを記入し、音の長さについて理解しておくこと。
第5回	音価③発展（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の相対的な違いについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 音価に関する小品課題を復習しておくこと。
第6回	拍子①導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）基本的な拍子について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 基本的な拍子のとり方を復習しておくこと。
第7回	拍子②基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）子どもの歌によく用いられる拍子とその拍のとり方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 授業で取り上げた子どもの歌の拍子のとり方を復習しておくこと。
第8回	拍子とリズム①4分の4拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の4拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 4分の4拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第9回	拍子とリズム②4分の2拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の2拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 4分の2拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第10回	拍子とリズム③4分の3拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の3拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 4分の3拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第11回	拍子とリズム④総合演習（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出の拍子・リズムについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 拍子・リズム等既学習事項を復習しておくこと。
第12回	さまざまなリズム①シンコペーション・タイ等（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズム以外のリズム型（シンコペーション・タイ等）について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） シンコペーション・タイ等既学習事項の復習をしておくこと。
第13回	さまざまなリズム②応用（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズムバリエーションの総合的な理解について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 既出のリズムの復習をしておくこと。
第14回	加線による読譜（ト音記号・ヘ音記号）（個別レッスンを含む）	（学修内容）加線が用いられた楽譜の読譜について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容） 加線読譜の復習をしておくこと。
第15回	既学習事項の総復習と課題の克服（個別レッスン・個別相談を含む）	（学修内容）14回目迄の既学習事項の確認と、読譜および演奏上の課題の解決方法について （事前事後学修課題の内容） 既学習事項の総復習と、授業で克服できなかった課題をまとめておくこと。

授業名	教育心理学（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3766
英文名	Educational Psychology	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渋谷　郁子	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	教育のプロセスにおいては、加齢に伴う心身の発達的変化に応じて、個々の発達に見合った適切な経験を保障し、学習を促進することが必要である。本講義では、発達や学習とはいかなる過程なのか、これまでの心理学的知見をもとに学んでいく。また、発達や学習を促進する要因・阻害する要因や、教育現場で生じるさまざまな心理的・社会的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から考察する。
学修成果 到達目標	（1）人間の発達の諸側面について説明できる。 （2）人間の学習の諸側面について説明できる。 （3）人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。
参考書	授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜グループワークやディスカッションを行い、理解を深める。また、授業の終わりに授業内容について話し合う時間を設ける。疑問や不明な点はそこで解消していくことが望ましい。
留意事項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。事前学習をしっかり行うこと。 全部で4回、理解度を問う小テストを実施する。
オフィスアワー	担当授業後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：小・中スクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師

授業名	教育心理学（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教えるとはどのような営みなのか	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教えるという行為の本質、求められるものなどについて考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第2回	発達（1）発達の規定要因、発達と教育	（学修内容）発達とはどのような現象を指すのか、何が発達に影響を与えるのかを学ぶ。発達と教育との関係性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第3回	発達（2）エリクソンの生涯発達理論	（学修内容）各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第4回	発達（3）ピアジェの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第5回	発達（4）ヴィゴツキーの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第6回	学習（1）レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ	（学修内容）学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第7回	学習（2）観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	（学修内容）学習理論の教育への応用を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第8回	学習（3）動機づけ、原因帰属	（学修内容）動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第9回	思考と知能	（学修内容）知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第10回	パーソナリティ	（学修内容）パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第11回	仲間関係の理解	（学修内容）子どもの仲間関係の発達的変化について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第12回	教師の関わりと学級集団の発達	（学修内容）教師の関わりと学級集団で生じる人間関係について、様々な角度から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第13回	問題行動のとらえ方	（学修内容）いじめ、不登校、非行などの問題行動をどうとらえるか、様々な角度から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第14回	特別な配慮が必要な子どもの理解と支援	（学修内容）社会モデルから障害をとらえる観点や、インクルーシブ教育の具体的な手立てについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。
第15回	教育相談	（学修内容）教師に求められる共感的態度について、カウンセリングの基本的な考え方から考察する。多職種との連携の重要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：振り返りコメントを提出する。

授業名	教育の方法と技術（ICT活用含む）（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3742
英文名	Teaching Methods and Techniques	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	家庭科教諭及び栄養教諭の教育内容を理解し、効果的な授業を展開するために必要な教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術、プレゼンテーションの方法を学習する。 また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコン、電子黒板や各種デジタルコンテンツ等のＩＣＴを活用した授業設計に関わる知識・技術を学ぶとともに、教育データの活用や遠隔・オンライン教育の基本を理解することにより、情報通信技術を活用した効果的な学習を推進する方法を習得する。 以上の内容を踏まえて、グループワークやディスカッションを通して教育の方法・技術に関する考察を深めるとともに、デジタル教科書や電子黒板を実際に活用した模擬授業を行う。 さらに、校務支援システム等の活用によって実現する校務の情報化については、課題も含め認識できる内容とする。
学修成果到達目標	（1）教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解する。 （2）情報通信技術の活用の意義や在り方を踏まえ、教育データを活用した学習指導や遠隔・オンライン教育等の基本を理解する。 （3）ＩＣＴを用いた授業設計の方法を理解し、デジタル教科書や電子黒板等のＩＣＴを活用した授業を行うことができる。 （4）グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房，2016年 稲垣忠『教育の方法と技術　主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授　業　名	教育の方法と技術（ICT活用含む）（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（ＩＣＴ活用含む）	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育方法に関する諸概念	（学修内容）家庭科教諭及び栄養教諭として効果的な授業を実践するために必要な教育方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「ブルーム・タキソノミー」の頁を読み、家庭科教諭及び栄養教諭として留意すべき箇所をまとめておく。
第3回	教育方法の史的変遷①　近代の教授法	（学修内容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「コメニウス・ペスタロッチ」の頁を読み、近代の教授法の関連箇所をまとめておく。
第4回	教育方法の史的変遷②　教育の現代化と教授理論	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「学習心理学の応用」の箇所を読み、「教育の現代化」との関連箇所をまとめておく。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「カリキュラム開発」の頁を読み、まとめておく。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「学習指導要領」の頁を読み、まとめておく。
第7回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「絶対評価・相対評価」の頁を読み、それぞれの問題点をまとめておく。
第8回	協働的な学習の理論	（学修内容）仲間との協同による学習の意義と方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「相互作用が学習効果を生む仕組み」の頁を読み、ヴィゴツキーの学習理論をまとめておく。
第9回	ＩＣＴ活用の意義と理論	（学修内容）ICTを用いた指導について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの「ICTを用いた指導方法」を読み、「一斉学習・個別学習・協働学習」それぞれの特徴をまとめておく。
第10回	ＩＣＴを活用した学習指導	（学修内容）学習支援アプリ（ロイロノート）を用いたオンライン教育に関する学習指導方法を解説する。（ICT活用） （事前事後学修課題の内容） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	情報活用能力を育成するための指導法	（学修内容）情報活用能力の定義とその育成の動向を概観し、情報活用能力の指導法について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリント（「教育の情報化に関する手引」）を読み、情報活用能力の定義をまとめておく。
第12回	授業の設計	（学修内容）ＩＣＴ活用を含めた学習指導案の書き方について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリント（学習指導案の例）を読み、自身の学習指導案の内容を構想する。
第13回	模擬授業準備（ＩＣＴを活用した具体的な授業の設計）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割に従い、学習指導案の作成などを行う。
第14回	模擬授業（ＩＣＴを活用した授業の実践）	（学修内容）各グループがＩＣＴを活用した授業を実践する。（プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割（専門家グループでの役割）を果たす。
第15回	まとめ（ＩＣＴ活用含む）	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 前回までの資料を読み返しておくこと。

授業名	教育相談（家庭・栄養）	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4796
英文名	School Counseling	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	荘厳　茶茶	対象学生	現代家政4回生（発展科目）、食物栄養4回生（資格科目）				

授業の概要	学校現場において子どもたちやその家庭が抱える多様な問題について、まず現状や背景を知り、教育相談とは何を目的とする活動であるかを理解する。その上で、教育相談に必要となる基礎的・理論的な知識とスキルを学び、事例やワークを通して実際的な教育相談のあり方への理解を深める。
学修成果到達目標	1)教育相談の目的について説明することができる。 2)教育相談に必要な基礎的・理論的な知識とスキルについて説明できる。 3)教育相談の対象となる問題の多様性に柔軟な態度をもつことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	向後礼子・山本智子　『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック［第2版］』　ミネルヴァ書房　2019年
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。
留意事項	多様な問題や認知に対する受容・理解への積極性と、他者に伝わりやすい言葉の表現を心がけ、授業に臨むことが望ましい。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。
実践的教育	

授業名	教育相談（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業内容の概略、および授業計画の説明 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する。
第2回	教育相談の基礎知識	（学修内容）教育相談に関する基礎的・理論的知識 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	価値観の多様性への理解	（学修内容）価値観の多様性を受容・理解する資質 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	聴くスキル	（学修内容）傾聴に必要なスキル （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	子どもたちのサイン	（学修内容）子どもたちの発するSOSへの気づき （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	自己理解の深化	（学修内容）教育相談を受ける者の自己理解 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	不登校への対応(1)―基礎知識―	（学修内容）不登校問題に関する定義と実態 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	不登校への対応(2)―実践ポイント―	（学修内容）不登校問題への実際の対応とポイント （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	いじめへの対応(1)―基礎知識―	（学修内容）いじめ問題に関する定義と実態 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	いじめへの対応(2)―事例研究―	（学修内容）いじめ問題の様態と対応事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	障害への対応(1)―基礎知識―	（学修内容）各種障害の基礎知識 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	障害への対応(2)―児童・生徒理解―	（学修内容）障害を抱える児童・生徒への理解 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	保護者を対象とする教育相談(1)―基礎知識―	（学修内容）保護者対応の重要性とポイント （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	保護者を対象とする教育相談(2)―事例研究―	（学修内容）保護者対応の事例 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理とワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	教員のメンタルヘルス	（学修内容）学校教員のメンタルヘルスの実態、課題、背景 （事前事後学修課題の内容） 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授業名	教職論（家庭・栄養）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2714
英文名	Teaching Theory (Home Economics・Nutrition)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	盧　珠妍	対象学生	生活情報2回生（発展科目）、食物栄養2回生（資格科目）				

授業の概要	本講義は、「教職とはどのような仕事なのか」「なぜ自分は教師を志望しているのか」という問いから、教職について、また教師としての自己像について深く考えることを目的とする。まず、教職の本質と意義について原理的に考察する。つぎに、教師という仕事と役割、資質能力、職務内容等について概観する。つづいて、教職の歴史的変遷を辿りながらその理念、制度、実態などについて多角的に検討する。それらを踏まえて、教師としての仕事に求められる専門的特性と社会的使命について、教職の在り方と関連づけて吟味する。その上で、教師としての資質向上とキャリア形成、またプロフェッショナル性を構成するものについて理解を深める。
学修成果到達目標	1）学校教育の歴史を踏まえ、学校と教職の社会的意義を理解し説明できる。 2）現今の教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割や資質能力を理解し説明できる。 3）教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解し説明できる。 4）学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解し説明できる。 5）教師になるための自分の課題について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能	
◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	佐久間亜紀・佐伯 胖 （編集）『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。
参考書	吉田武男（監修, 編集）『教職論』ミネルヴァ書房、2019年。 その他、授業時に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業の際に随時課されるレポートや発表について、指導・助言を行う。
留意事項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	教職論（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教職とは何か	（学修内容）本講義のねらいと概要、授業の進め方について知る。 教職に関わって、教員・教師・教諭の違いについて議論する。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教員・教師・教諭の違いについて理解を深める。
第2回	教職をめぐる現状	（学修内容）教員の役割や教職の意義、また教職をめぐる現状について考える。 （事前事後学修課題の内容） 自分の教育体験を振り返りながら、現段階における自分自身の「教師像」を明確にする。
第3回	各教育段階における教師の役割・意義	（学修内容）学校教育の目的を理解するなかで、幼・小・中・高校それぞれの教育段階における教員の役割や教職の意義・魅力について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教職について各自の考えをまとめる。
第4回	日本の教職の特徴	（学修内容）グループごとに教職の特色を確認し、発表する。また、他の職種との比較を通して教員の職務内容や勤務形態など教職の特性について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教員の職務内容や学級規模などをまとめる。
第5回	教員の採用と研修	（学修内容）教員採用のしくみと採用後の研修制度を理解し、それを通して教職の人材確保及び養成について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、自分の居住地の教員採用試験の内容を調べておく。事後に、配布資料を参照しながら教員研修制度についてまとめる。
第6回	学校と教職の歴史（１）―近代日本の教師：明治期～昭和前期―	（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（昭和前期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割について考える。 （事前事後学修課題の内容） それぞれの時代の教師像の背景にある社会状況や教育制度に関係する重要な語句について調べておく。
第7回	学校と教職の歴史（２）―近代日本の教師：戦後教育改革～高度成長期―	（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（高度成長期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割を吟味する。 （事前事後学修課題の内容） それぞれの時代の教師像の背景にある社会状況や教育制度に関係する重要な語句について調べる。
第8回	教員の服務	（学修内容）教員の各種服務について学ぶとともに、その問題点について考える。 （事前事後学修課題の内容） 教員の服務について整理し、現代の教員が置かれている実情を理解する。
第9回	教員の権利と身分保障	（学修内容）教員の「職務上の義務」と「身分上の義務」を踏まえたうえで、その権利と身分保障について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 教員の義務および権利について整理し、現代の教員が置かれている実情についての理解を深める。
第10回	教員の職務と課題	（学修内容）教師の職務の全体像を踏まえて、教師の多忙化等の現代的な課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 教師の仕事や校務分掌について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第11回	学び続ける教師	（学修内容）教員研修の意義や制度や課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 生涯にわたって学び続ける存在としての教師について理解を深める。
第12回	チームとしての学校	（学修内容）「チームとしての学校」とは何か、その特徴と体制の現状、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 学校を構成するさまざまな専門職について事前に調べておく。
第13回	専門家としての教師	（学修内容）教師として子どもといかに人間関係を構築し、子どもの成長を支援するかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読んだうえで、教師の立場に立った場合、生徒に対しどのように関わるかについて、自分の考えをまとめる。
第14回	私のめざす教師像（１）―自分自身の課題と強み―	（学修内容）「私のめざす教師像」を構想するうえで、自己の課題と強みについて考える。 （事前事後学修課題の内容） これまでの学習資料の整理をしておく。
第15回	私のめざす教師像（２）―教師になるために― まとめと考察	（学修内容）これまでの授業を振り返り、自分が目指す教師像を確立する。 （事前事後学修課題の内容） 「私のめざす教師像」について、まとめる。５～１０分程度の発表準備をする。

授業名	教育課程総論（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3740
英文名	Outline of Curriculum (Home Economics・Nutrition)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	柘植　誠子	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	本授業では、教育課程の意義や編成の基本原理について考察し理解を深め、学習指導要領に基づいた教育課程の展開方法を学ぶ。また、「カリキュラム・マネジメント」の重要性や「主体的・対話的で深い学び」を理解し、子どもたちの能力や個性を伸ばす教育課程（カリキュラム））について学びを深める。その上で、個々の取得予定免許のカリキュラム作成に挑戦し、グループワークを通して実践的にカリキュラム編成の基礎的技法を学ぶ。
学修成果到達目標	1）教育課程をめぐるわが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を理解できる。 2）「カリキュラムマネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」について説明できる。 3）学習指導要領の内容を通して、生徒や地域の実態を踏まえた指導計画を作成することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法			
定期試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%）	■筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	①文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』　②文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』　③文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　家庭編 ④筒井恭子編著「小学校家庭科『資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』」　2020年　⑤筒井恭子編著「中学校技術・家庭科『資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』」2021年　※取得予定免許に応じて①②③のいずれかと、④⑤のいずれかを必携してください。（高等学校免許取得予定者は③⑤必携）
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。 プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。
留意事項	取得予定免許に合わせた授業形態をとる場合があります。
オフィスアワー	第1回目の授業で告知します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として25年以上勤務。現場での実務経験をもとに実践的な授業を行います。

授業名	教育課程総論（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育課程とは何か	（学修内容）授業概要の説明を把握する。 教育課程の定義について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書を確認し、シラバスの内容を把握しておく。 事後：「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	教育課程改訂の経緯、教育課程の基準	（学修内容）改訂の基本方針、教育課程の意義、教育課程に関する法令について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教育課程の意義について調べておく。 事後：改訂の基本方針を読み、要点をまとめる。
第3回	学校教育の基本と役割	（学修内容）教育課程編成の原則について学ぶ。 育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：カリキュラム・マネジメントの意味について調べておく。事後：育成を目指す資質・能力の要点をまとめる。
第4回	教育課程の編成と学習評価	（学修内容）教育課程編成の編成方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教育課程の事例を調べておく。 事後：教育課程の編成方法の要点をまとめる。
第5回	生徒の発達支援	（学修内容）生徒及び特別な配慮を必要とする生徒への指導について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：個に応じた指導について調べ、様々な指導の方法を発表できるようにまとめておく。事後：他者の発表をまとめる。
第6回	学校運営上の留意事項 道徳教育推進上の配慮事項	（学修内容）学校評価、家庭や地域社会との連携について学ぶ。 道徳教育の指導体制と全体計画について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：道徳教育とは何か、調べておく。 事後：道徳教育の重要性についてレポートを作成し提出する。
第7回	家庭科の目標及び内容	（学修内容）家庭分野の目標、内容構成、内容について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：家庭分野の内容（A、B、C群）を調べておく。 事後：家庭分野の目標をまとめる。
第8回	家庭分野の学習を通して「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」	（学修内容）家庭科、家庭分野において育成を目指す資質・能力について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：家庭分野の資質・能力を調べておく。 事後：「小・中学校の内容の系統性」を熟読し、要点をまとめる。
第9回	家庭分野を「どのように学ぶのか」	（学修内容）家庭分野における学習過程と題材構成および「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：主体的・対話的で深い学びについて調べておく。事後：指導計画例を参考に、自身が作成するカリキュラムについて構想する。
第10回	家庭分野の学習を通して「何が身に付いたのか」	（学修内容）家庭分野における学習評価の改善のポイントや学習評価の進め方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：評価に関する内容を読んでおく。事後：評価の進め方や評価方法の工夫についての具体案を構想しておく。
第11回	指導計画の作成と内容の取扱い	（学修内容）指導計画作成の配慮事項や内容の取扱いと指導上の配慮事項ついて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：授業例の構想を考えておく。 事後：授業内容を具体的に考え、用紙に記入しておく。
第12回	カリキュラム作成の実際	（学修内容）授業づくり（モデルプラン）を参考にして指導計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：モデルプランを参考に指導計画を作成していく。 事後：指導計画を点検しておく。
第13回	カリキュラム発表①（小学校向けカリキュラム）	（学修内容）小学校対象の指導計画を発表したり、他者のカリキュラムから学んだりする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：指導計画を完成し見直す。事後：反省評価をまとめておく。他者の発表からの学びをまとめる。
第14回	カリキュラム発表②（中学校・高校向けカリキュラム）	（学修内容）中学校、高校対象の指導計画を発表したり、他者のカリキュラムから学んだりする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の発表から自身も参考にできる点を加筆しておく。事後：反省評価をまとめる。他者の発表からの学びをまとめる。
第15回	カリキュラムと評価	（学修内容）教育評価の考え方、カリキュラム評価の進め方や様々な評価の実際を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：発表したないようでの反省点を書き出しておく。事後：自身の指導計画について評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授業名	子どもの生活	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2321
英文名	Children and Life	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	小学校の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。
学修成果 到達目標	1）子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。 2）生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。 3）近年の教育環境や教育目標の変化が、生活科に及ぼした影響について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　□レポート　■制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』文部科学省（東洋館出版社）
参考書	適宜配布する
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、授業内で紹介しコメントする。
留意事項	小学校教諭に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても，会議や出張などで在室できない場合があります。 また、担当者によってはメールによる対応が主になるため、対面を希望する場合は事前に予約してください。
実践的教育	

授業名	子どもの生活

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（学修内容）子どもと生活の目標、授業方法について （事前事後学修課題の内容） シラバスを読む
第2回	生活科の解説	（学修内容）生活科創設の経緯・変遷について説明する （事前事後学修課題の内容） 指導要領解説（p.5 ～p.7）を読む
第3回	教育指導要領の解説	（学修内容）生活科に関する指導要領の内容を説明する （事前事後学修課題の内容） 指導要領解説（p.8 ～p.9）を読む
第4回	教科目標と学年目標	（学修内容）生活科における教科目標と学年目標を説明する （事前事後学修課題の内容） 指導要領解説（p.10～p.13）を読む
第5回	学年目標と指導計画	（学修内容）生活科における学年目標に基づく指導計画を説明する （事前事後学修課題の内容） 他教科の学年目標を参照する
第6回	授業計画の目的と意義について	（学修内容）生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （事前事後学修課題の内容） 生活科の9つの領域を調べておく
第7回	指導案作成 －単元計画を話し合うー	（学修内容）指導案作成の手順を知り、単元計画について意見交換を行う （事前事後学修課題の内容） グループ内で出された意見をまとめる
第8回	グループワーク① ー単元の目標を構想するー	（学修内容）単元目標について意見交換を行う （事前事後学修課題の内容） グループ内で出された意見をまとめる
第9回	グループワーク② ー単元の評価規準を構想するー	（学修内容）評価規準の設定方法について学び、作成する （事前事後学修課題の内容） 指導案作成のひな形にか記入する
第10回	季節の変化と生活①　秋を体験する	（学修内容）学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （事前事後学修課題の内容） 体験するための準備物を用意する
第11回	単元の単元計画案を作成する	（学修内容）授業計画を作成する （事前事後学修課題の内容） 計画作りに必要な材料や資料を用意する
第12回	教育現場における変化と生活科	（学修内容）今後の生活科の展望や教育現場の変化を説明する （事前事後学修課題の内容） 指導要領解説（内容関わる箇所全体）を読む
第13回	単元計画案交流会	（学修内容）単元計画案を交流する （事前事後学修課題の内容） 交流を通して気付いたことをまとめる
第14回	季節の変化と生活②　秋を伝える	（学修内容）学外で体験した季節の変化について振り返る （事前事後学修課題の内容） 観察体験をまとめる。 外での体験を授業計画に反映させるために修正する
第15回	まとめ	（学修内容）半期の学びを総括し、レポートについて説明する （事前事後学修課題の内容） 半期間のまとめをする

授業名	子どもの運動	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2423
英文名	Children and Exercise	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	眞﨑　雅子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	子どもの心と体の健康、発育発達、体力などの視点から、「運動」の意義・役割について多角的に捉え、子どもの運動遊びの実践を通して、体を動かす楽しさや遊びの特性について理解を深める。同時に、多様な運動遊びの指導や援助について学ぶ。授業後半に取り組む模擬授業やグループでのリズム体操創作では、協働的に取り組む態度を身に付け、保育者・教育者としての資質やコミュニケーション能力を高めることを目指す。
学修成果到達目標	1）楽しく様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた運動遊びを自分で工夫する事ができる。 2）遊びを展開・発展させていく上で、重要な着眼点や基本的な配慮点に気づく事ができる。 3）運動遊びの重要性と楽しさを理解する事ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技	平常試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	【書籍名】 保育と幼児期の運動あそび 第2版 【編著者】 岩崎洋子/吉田伊津美/朴淳香/鈴木康弘 【出版社】 萌文書林
参考書	『幼児体育　基礎理論と指導の方法』　前橋明編著　樹村房 『幼児の運動遊び』　菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『0～5歳児の運動遊び指導百科』　前橋明著（ひかりのくに株式会社）
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。実技については、その都度コメントをする。
留意事項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくこと。 ボランティア活動にも積極的に参加してもらいたい。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	

授業名	子どもの運動

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業内容や進め方を説明し、幼児期の運動の重要性について理解する。 体力・柔軟性のチェック。 （事前事後学修課題の内容） 後：授業内容の振り返りを提出する
第2回	幼児期における運動の重要性（講義）	（学修内容）幼児期の子どもの体力や運動能力の現状を学び、体力を高めるための保育者の支援について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前：幼児期に必要な運動について調べる 後：授業内容の振り返りを提出する
第3回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動き	（学修内容）幼児期に身につけるべき36の基本動作を確認し、多様な動きを経験できる運動遊びの実践を通して遊びを工夫する方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前：前回の講義内容を復習し、幼児期の基本運動について理解しておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第4回	身体表現遊びとリズムダンス	（学修内容）多様なリズム・リズムの変化を楽しみ、手遊びやわらべ唄の表現遊びを体遊びへと発展させる。ステップや子ども向けダンスも実践する。 （事前事後学修課題の内容） 前：さまざまなリズムパタンや子ども用のリズムダンスを調べておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第5回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 新聞遊び・ボール遊び	（学修内容）新聞を使った遊びや、子どもの投力を高めるための遊びの展開方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前：年齢に応じた投球フォームを確認、ボール遊びの種類を調べておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第6回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 フープ遊び・縄あそび	（学修内容）フープや縄の特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを楽しむ。少人数の遊びと大人数の遊びを考える。 （事前事後学修課題の内容） 前：年齢ごとのフープ遊びについて調べて発表の準備をしておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第7回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 マット遊びと補助、動物なりきり遊び	（学修内容）マットを利用した遊びを通して、動きのバリエーションについて学ぶ。前転・後転・側転遊びの補助の方法を身に付ける。 （事前事後学修課題の内容） 前：年齢ごとのマット遊びについて調べて発表の準備をしておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第8回	マット・跳び箱・平均台を使った遊び サーキット遊びの計画と実践	（学修内容）マット・跳び箱・平均台の特性について理解し、それらを利用した遊びの実践を通してレパートリーを広げる。 （事前事後学修課題の内容） 前：運動の特性に合った道具を見つけ、多様な遊びを考えておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第9回	遊びの紹介１　指導案の作成と実践	（学修内容）様々な遊びの紹介を通して保育者としての支援や言葉がけについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前：運動遊びの計画を立て、グループで担当を決めて準備しておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第10回	遊びの紹介２　指導案の作成と実践	（学修内容）様々な遊びの紹介を通して保育者としての支援や言葉がけについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前：運動遊びの計画を立て、グループで担当を決めて準備しておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第11回	パラバルーン遊び	（学修内容）パラバルーンの特性を知り、基本の動きから大技まで表現方法を学ぶ。グループで協働的に作品を完成させる。 （事前事後学修課題の内容） 前：パラバルーンの特性や表現方法について調べておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第12回	リズム体操の曲・テーマ・グループ決め	（学修内容）体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を創作する。幼児の年齢に合った体操を考える。 （事前事後学修課題の内容） 前：人気のあるキッズダンスを参考に年齢に合わせた曲や動きを考える 後：授業内容の振り返りを提出する
第13回	リズム体操の動きの創出・空間構成について	（学修内容）体操の動きを見直し、様々な動きを取り入れたリズミカルで効果的な体操に仕上げる。 （事前事後学修課題の内容） 前：子ども達が楽しめる効果的な体操の流れについて確認し修正する 後：授業内容の振り返りを提出する
第14回	リズム体操の完成に向けて	（学修内容）グループでリズム体操を創作し、練習する。 （事前事後学修課題の内容） 前：グループで考えた動きを復習しておく 後：授業内容の振り返りを提出する
第15回	創作したリズム体操の発表会	（学修内容）グループで創作したリズム体操を発表し、評価する。 （事前事後学修課題の内容） 前：リズミカルに大きく動き表現できるように練習する 後：授業内容の振り返りを提出する

授業名	子ども家庭支援の心理学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2442
英文名	Psychology of Child and Family Support	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渋谷　郁子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	本講義は子どもや家庭という概念を改めて問い直すところから出発する。講義の主要な柱は、生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得することと、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係などについて発達的観点から理解することの2点である。これらを通して、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに子育て家庭をめぐる社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためには問題をどうとらえるべきなのか、考察を深める。
学修成果到達目標	（1）子どもとその家族の置かれた状況を理解し、発達的観点から説明することができる。 （2）家庭の機能を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。 （3）子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	テキストは使用せず、レジュメを配布します。
参考書	授業の中で適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題にはコメントをつけて返却します。
留意事項	都度、復習を行って、基本的な用語や考え方を理解すること。毎回、インターネット上で確認テスト・コメント回収を実施します。
オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務した経験を有する。

授業名	子ども家庭支援の心理学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと家庭	（学修内容）子どもと家庭をめぐる諸問題について学び、子どもの権利を尊重する態度を形成する。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第2回	生涯発達（1）ライフサイクルの理解	（学修内容）エリクソンの理論をもとに、生涯発達、ライフサイクルについて学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第3回	生涯発達（2）乳幼児期の発達	（学修内容）生涯発達の考え方・発達の連続性について理解し、乳幼児期の子どもの発達について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第4回	生涯発達（3）学童期の発達	（学修内容）学童期の子どもの発達について学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第5回	生涯発達（4）思春期・青年期の発達	（学修内容）思春期・青年期の心と体の変化、親子関係や友人関係の変化、心理的葛藤や悩みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第6回	生涯発達（5）成人期・高齢期の発達	（学修内容）成人初期、中年期、高齢期までの発達と心理的葛藤について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第7回	女性のライフコース：恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭	（学修内容）青年期以降の恋愛、結婚、子育て、仕事と家庭のワークライフバランスの問題などについて学び、多様な状況と価値観があることを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第8回	家族・家庭の意義と機能：親子関係・家族関係の理解	（学修内容）現代における家族・家庭の意義や機能について、文化や歴史的文脈もふまえて考察する。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第9回	子育てを取り巻く社会的状況と親としての育ち	（学修内容）現在の日本における社会的状況が、子育て家庭に与える影響について理解する。また、子育て経験を通した親としての成長・発達を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第10回	様々な家庭の理解	（学修内容）様々な家庭のありようについて理解し、必要となる配慮や支援について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第11回	子どもの生活・生育環境と心の健康（1）	（学修内容）生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第12回	子どもの生活・生育環境と心の健康（2）	（学修内容）子どもを育てる大人の精神的な健康が不全である場合に焦点を当て、子どもへの対応を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第13回	災害や事故と子どもの心	（学修内容）災害や事故の後に生じる子どもたちの変化やストレス障害について学び、保育者としての支援のあり方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第14回	発達支援が必要な子どもと家庭の理解（1）	（学修内容）子どもの発達的な課題とその支援方法について具体的に学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。
第15回	発達支援が必要な子どもと家庭の理解（2）	（学修内容）様々な発達課題をもつ子どもとその家族の生活について学び、ディスカッションを通して家族への支援を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストと振り返りコメントを提出する。

授業名	教育の基礎と制度（幼・小）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1402
英文名	Principles of Education	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	盧　珠妍	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	人間は一生涯（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義ではまず、「教育・保育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育・保育は必要なのか」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育・保育という営みの必要性と可能性について様々な思想を読み解きながら、理念的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育および保育の役割や課題、学校・園と地域との連携について検討する。その上で最終的に、生涯学習とも関連づけながら教育・保育の現状と今後を展望し、将来教育・保育の実践者としての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。
学修成果 到達目標	1）教育・保育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。 2）教育・保育の思想と歴史的変遷について学び、教育・保育に関する基礎的な理論について理解し説明できる。 3）教育・保育の制度について理解し説明できる。 4）現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。 5）生涯学習社会における教育・保育の現状と課題について理解し説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	特定のテキストを使用せず、資料を配布する。
参考書	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年。 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	レスポンスペーパーなどの小レポートについては翌週の授業時にコメントする。
留意事項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。
オフィスアワー	初回の授業時アナウンスする。 研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	教育の基礎と制度（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。私たちにとって教育・保育とはどのような意味をもつのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認する。自分がこれまで受けてきた教育・保育について振り返る。
第2回	教育・保育とは何か（１）―教育・保育の意味と意義―	（学修内容）自分の教育経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。教育・保育について理念的・思想的・原理的に考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、自分が抱く教育観・保育観について検討を加える。
第3回	教育・保育とは何か（２）―教育・保育の必要性―	（学修内容）人間にとってなぜ教育・保育は必要なのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教育・保育の必要性について自分の考えをまとめる。
第4回	教育・保育とは何か（３）―教育・保育の可能性―	（学修内容）人間の能力と教育・保育について人間学的な視点から考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教育・保育の可能性について自分の考えをまとめる。
第5回	教えることと学ぶこと	（学修内容）教育・保育について「教える」「学ぶ」という視点から考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教育・保育についての考えを深める。
第6回	教育と人間形成	（学修内容）「人間形成」という語を通して教育・保育という営みを吟味する。 （事前事後学修課題の内容） 「人間形成」の意味について調べておく。
第7回	教育思想と歴史（１）―近代学校教育の成立とその背景―	（学修内容）学校がなぜ生まれ、どのように発展したのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 学校の歴史を踏まえて学校の意味について理解を深める。
第8回	教育思想と歴史（２）―日本の教育制度―	（学修内容）日本の教育制度がどのように変容してきたのかを歴史的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 日本の近代公教育がどのように成立してきたのかについてまとめる。
第9回	子どもと教育思想（１）―子どもの発見―	（学修内容）近代ヨーロッパにおける子どもについての考えの転換と教育の変化について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、各思想家の人間観・教育観・子ども観を比較しまとめる。
第10回	子どもと教育思想（２）―近代教育と子ども―	（学修内容）近代教育における子ども教育の変遷について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、各思想家の人間観を比較しまとめる。
第11回	子どもと教育思想（３）―現代教育と子ども―	（学修内容）現代教育における子どもの存在についてアリエスの『子供の誕生』をもとに考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、「子ども」「子ども期」について理解を深める。
第12回	子どもと成長（１）―カリキュラム―	（学修内容）学校教育の系統主義と経験主義を比較しながら、子どもの成長とカリキュラムの関係について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、学修内容についてまとめる。
第13回	子どもと成長（２）―発達と生成―	（学修内容）子どもの成長を「子ども‐大人」の関係性から考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、子どもの成長について理解を深める。
第14回	現代における教育・保育の課題	（学修内容）現代の教育の課題について議論し考える。 （事前事後学修課題の内容） 教育の課題について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第15回	まとめと考察―教育・保育のあり方について―	（学修内容）これまでの授業内容を踏まえて、教育・保育とは何かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 （事前事後学修課題の内容） ５～１０分程度の発表準備をする。

授業名	子どもの国語（書写を含む。）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2437
英文名	Children and Japanese Language (including Calligraphy)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	遠藤　純	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語教育について学ぶ。小学校教員にふさわしい国語力を養い、言語と表現に関する問題について考察し理解を深める。小学校学習指導要領を視野に置きながら、物語、詩歌、民話、説明文等教材の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法と理解を教授する。音声言語教材および書写についても取り上げる。基本的に講義形式で行うが、とりあげる題材により、具体的な授業の進め方は個人または共同でのワークや発表形式などを含む。
学修成果到達目標	・国語科の授業内容および方法について理解する。 ・現在の子どもたちの言語環境について理解を深める。 ・教師として求められる基本的な日本語表現の能力を身に付けている。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜プリントを配布するとともに、参考にすべき資料等は授業内で提示する。
参考書	授業内で指示する。
課題に対するフィードバックの方法	次週に受講生のコメントをふまえてフィードバックを行う。
留意事項	真摯な態度での受講をのぞむ
オフィスアワー	初回授業の際に説明する。
実践的教育	

授業名	子どもの国語（書写を含む。）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス テーマ：国語を学ぶということ	（学修内容）授業の進め方やプログラム、評価の方法等について理解する （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを読み、国語について自分の考えをまとめる （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第2回	子どもの言語生活と国語	（学修内容）現代の子どもが置かれている物語環境について知り、教材としての絵本や児童文学について理解する （事前事後学修課題の内容） （事前）自身の物語体験についてふりかえり、まとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第3回	素材・教材としての国語	（学修内容）絵本の特質とその教材性について学ぶ （事前事後学修課題の内容） （事前）自身の絵本体験を振り返っておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第4回	絵本から考える国語	（学修内容）絵本の教材性をふまえ、日本語の特質について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）自身が受けてきた国語の授業についてまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第5回	絵本をよむ	（学修内容）教材として活用されている絵本をよみ、素材としての特質とその教材性について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）教材となっている絵本について調べておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第6回	日本語の特徴	（学修内容）さまざまな事例を通して日本語の特徴について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）日本語の特徴について考え、まとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第7回	文学教材の研究①教材研究とは	（学修内容）教材研究の内容と方法について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）教材研究について調べておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第8回	文学教材の研究②素材研究から教材研究へ（詩）	（学修内容）文学教材の教材研究の方法を詩を題材にしながら理解する （事前事後学修課題の内容） （事前）詩の学習経験を振り返りまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第9回	文学教材の研究③素材研究から教材研究へ（伝統的な言語文化）	（学修内容）素材として古典的作品を鑑賞し、古典教材を取り上げることの意味について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）素材文の魅力や気になったところをまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第10回	文学教材の研究④素材研究から教材研究へ（文学「手袋を買いに」）	（学修内容）素材作品を鑑賞し、「手袋を買いに」の特質と教材化の視点について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）配布資料をよみ、作品について感想をまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第11回	文学教材の研究⑤素材研究から教材研究へ（文学「ごんぎつね」）	（学修内容）素材作品を鑑賞し、「ごんぎつね」の特質と教材化の視点について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）配布資料をよみ、作品について感想をまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第12回	文学教材の研究⑥素材研究から教材研究へ（文学「注文の多い料理店」）	（学修内容）素材作品を鑑賞し、「注文の多い料理店」の特質と教材化の視点について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）配布資料をよみ、作品について感想をまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第13回	文学教材の研究⑦素材研究から教材研究へ（文学「なめとこ山の熊」）	（学修内容）素材作品を鑑賞し、「なめとこ山の熊」の特質と教材化の視点について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）配布資料をよみ、作品について感想をまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第14回	書写の指導	（学修内容）小学校国語科の「書写」指導事項を理解し、指導内容および方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） （事前）小学校教科書「書写」に一通り目を通しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業内容を振り返り、自分なりの総括を行う （事前事後学修課題の内容） （事前）これまでの資料をまとめ、質問事項を整理しておく （事後）配布資料と教科書から要点を整理しまとめる

授業名	子どもの理科	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3459
英文名	Children and Science	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	浅田　浩	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	自然事象に関わる子どもの素朴概念や見方・考え方などについての児童理解を深め、小学校理科で扱う観察や実験の実習を通して、指導に必要な基礎的な知識や技能を習得する。さらに、グループワークやディスカッションで観察や実験の結果をもとにした考察を深め、科学的な表現力を身に付けていく。
学修成果到達目標	1）子どもの素朴概念など自然事象の見方や捉え方について理解を深める。 2）学習指導要領に基づいて小学校理科の指導内容を説明できる。 3）学習問題に基づいて見通しをもって観察・実験を実施し、考察や結論を科学的に表現できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「イラスト図解ですっきりわかる理科」鳴川哲也ほか（2019年）東洋館出版社 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」をダウンロードしておいてください。
参考書	小学校理科で使用する教科用図書（小学校３・４・５・６年生用、新興出版社啓林館・大日本図書など）があると、観察・実験の具体を把握することができます。「小学校理科の観察、実験の手引き（平成２３年３月：文部科学省）」をダウンロードしておくと参考になります。
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題について簡単なコメントを付けて返却します。
留意事項	観察・実験を伴う学修内容については、材料準備などの都合により変更することもあります。 課題として，授業で行った観察・実験をもとにレポートを作成して学びの定着を図ります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：元京都市立小学校長。元京都市教育委員会学校指導課指導主事（初等理科担当）。元京都理科研究会長。京都市青少年科学センター専門主事。

授業名	子どもの理科

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ガイダンス 講義（1） 「子どもが捉える身近な自然事象について」	（学修内容）講座の概要、教材・資料、評価についてのガイダンス （事前事後学修課題の内容） 復習として、身近な自然現象についての疑問や不思議をレポートにまとめる。
第2回	「小学校理科の観察・実験」 3年「電気の通り道」	（学修内容）問題解決の過程：８つのステップ（学習問題から結論まで） （事前事後学修課題の内容） 復習として、問題解決の過程を踏まえた実験を伴う学習の流れをレポートにまとめる。
第3回	「小学校理科の観察・実験」 ３年「磁石の性質」	（学修内容）問題づくりに結びつく活動（遊びから学びへ） （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第4回	「小学校理科の観察・実験」 ３年「風とゴムの力の働き」	（学修内容）測定の工夫と結果の整理（表やグラフの活用） （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第5回	「小学校理科の観察・実験」 ３年「身の回りの生物」 ４年「植物の発芽、成長、結実」	（学修内容）観察をもとにした学び（種子等の観察と記録） （事前事後学修課題の内容） 復習として、観察用のワークシートを完成させる。
第6回	「小学校理科の観察・実験」 ４年「電流の働き」	（学修内容）関係付けを調べる活動（自然事象の変化と要因） （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第7回	「小学校理科の観察・実験」 ４年「空気と水の性質」	（学修内容）根拠に基づく予想と結果の見通し （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第8回	「小学校理科の観察・実験」 ４年「金属・水・空気と温度」	（学修内容）予想や考察において対話的な学びを引き出す工夫 （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第9回	「小学校理科の観察・実験」 ５年「振り子の運動」６年「てこの規則性」	（学修内容）条件を制御して調べるための工夫 （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第10回	「小学校理科の観察・実験」 ５年「物の溶け方」	（学修内容）予想に基づく実験方法の発想 （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第11回	「小学校理科の観察・実験」 ５年「動物の誕生」 ６年「人の体のつくりとはたらき」	（学修内容）資料調べをもとにした学び（問題解決のための調べ学習） （事前事後学修課題の内容） 復習として、資料調べをもとにした学習の要点をまとめる。
第12回	「小学校理科の観察・実験」 ６年「燃焼のしくみ」	（学修内容）より妥当な考えをつくりだすための工夫 （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第13回	「小学校理科の観察・実験」 ６年「水溶液の性質」	（学修内容）自然事象を多面的に調べるための工夫 （事前事後学修課題の内容） 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第14回	「小学校理科の観察・実験」 ４年「天気の様子」「月と星」 ５年「天気の変化」 ６年「月と太陽」	（学修内容）観測をもとにした学び（観測データに基づいた多面的な考察） 小テスト（これまでの学修内容の確認） （事前事後学修課題の内容） 復習として、観測をもとにした学習の要点をレポートにまとめる。
第15回	「まとめと振り返り」 ・講義およびグループワーク	（学修内容）学習内容の系統性について （事前事後学修課題の内容） 定期試験に向けて、これまでの内容を整理しておく。

授業名	子どもの音楽Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE1412
英文名	Children and Music I	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子・永峯　翠子・今井　順子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育士及び幼稚園、小学校教諭に求められる音楽の基礎力を身に付けるため、子どもの歌の歌唱・ピアノ教則本のレッスン・ピアノによる弾き歌い・音楽理論とを組み合わせて授業を行う。また、ピアノ実技に関しては毎回課題を出し、個別レッスンによって実技の習熟度を確認しながら授業を進める。
学修成果到達目標	1) 音楽の諸表現活動に必要となる基礎的な音楽理論を理解することができる 2) 子どもの歌の基本的な発声法を習得することができる 3) 子どもの歌の弾き歌いの基礎技術を習得することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能
◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（30%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 実技 ）□（ ）
テキスト	『子どものための音楽表現技術』（萌文書林） 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他（バイエルは初心者のみ使用） 『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験は回収後、解答の解説を行う。 実技に関しては基本的に毎回、課題の成果に対してコメントする。
留意事項	保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに応じてクラス分けを行う。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	子どもの音楽Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）ピアノのレベルチェック、進度確認をしたのち、授業内容の概要についての確認を行うとともに、その主旨を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 自分のこれまでの音楽経験や、ピアノ経験者は過去の学習進度の把握と振り返りをしておく。
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音部記号」	（学修内容）①子どもの歌の歌唱②ピアノレッスン③音楽理論「音部記号」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習復習・音楽理論「音部記号」の復習をしておく。
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音価」	（学修内容）①②および③「音価」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「音価」の復習をしておく。
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	（学修内容）①②および③「リズム」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「リズム」の復習をしておく。
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音階と調」	（学修内容）①②および③「音階と調」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「音階」の復習をしておく。
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ハ長調の音階とそのカデンツ」	（学修内容）①②および③「ハ長調の音階とそのカデンツ」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「ハ長調の音階とそのカデンツ」の復習をしておく。
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ヘ長調の音階とそのカデンツ」	（学修内容）①②および③「ヘ長調の音階とそのカデンツ」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「ヘ長調の音階とそのカデンツ」の復習をしておく。
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調の音階とそのカデンツ」	（学修内容）①②および③「ト長調とそのカデンツ」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「ト長調の音階とそのカデンツ」の復習をしておく。
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ニ長調の音階とそのカデンツ」	（学修内容）①②および③「ニ長調とそのカデンツ」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「ニ長調の音階とそのカデンツ」の復習をしておく。
第10回	ピアノレッスン・音楽理論「各調の音階・カデンツ総復習」(小試験)	（学修内容）②および③「各調の音階・カデンツ」を総合的に復習したのち、小試験によって理解度を確認する。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「各調の音階・カデンツ」の総復習をしておく。
第11回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コード(基本型)」	（学修内容）②および③「コード(基本型)」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「コード(基本型)」について復習しておく。
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コード(転回型）」	（学修内容）①②および③「コード(転回型）」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論「コード(転回型）」について復習しておく。
第13回	ピアノレッスン・音楽理論「コード(総復習)」(小試験)	（学修内容）②および③コードについて総合的に復習したのち、小試験によって理解度を確認する。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の予習・復習、音楽理論：コードについての総復習をしておく。
第14回	歌唱総復習・ピアノレッスン	（学修内容）①歌唱のポイントの総復習をするとともにその発声法を習得する。 ②ピアノ定期試験にむけてその準備とポイントを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ピアノ・歌唱の総復習をしておく。
第15回	ピアノ総復習	（学修内容）②ピアノ定期試験に向けて各々の課題曲を習得する。 （事前事後学修課題の内容） ピアノの総復習をしておく。

授業名	子どもの音楽Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2426
英文名	Children and Music Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子・権田　志帆子・今井　順子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育士及び幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、子どもの音楽Ⅰに引き続き、子どもの歌の歌唱、ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌い、音楽理論を学ぶ。ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌いに関しては毎回課題を課し、習熟度確認のための個別レッスンを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）子どもとの音楽諸表現活動に必要となる基礎的な音楽理論および知識を習得することができる。 2）基礎的なピアノ演奏技術の獲得のため、教則本は最低でもバイエル終了を目標とする。 3）子どもの歌の基本的な歌唱法と弾き歌いの技術を習得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	□筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技	平常試験（30%）　■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 実技 ）□（ ）

テキスト	『子どものための音楽表現技術』（萌文書林） 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験はその都度解説を行う。 実技に関しては毎回課題を課し、それに対する個別レッスンを行う。
留意事項	レベルに合わせてクラス分けを行う。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認してください。
実践的教育	

授業名	子どもの音楽Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）ピアノのレベルチェック、進度確認をしたのち、授業内容の概要についての確認を行うとともに、その主旨を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 子どもの音楽1の学習進度の確認と振り返りをしておく。
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の子どもの歌の伴奏付け	（学修内容）①子どもの歌の歌唱②ピアノレッスン③ハ・ヘ長調の子どもの歌の伴奏付けの方法を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・ハ・ヘ長調のカデンツの復習をしておく。
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の子どもの歌の伴奏付け	（学修内容）①②およびト長調の子どもの歌の伴奏付けの方法を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・ト長調のカデンツの復習をしておく。
第4回	歌唱・ピアノレッスン・二長調の子どもの歌の伴奏付け	（学修内容）①②および二長調の子どもの歌の伴奏付けの方法を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・二長調のカデンツの復習をしておくこと。
第5回	歌唱・ピアノレッスン・伴奏付け総復習	（学修内容）①②および伴奏付けの総復習をし、各調の基本的な伴奏付けのパターンを習得する。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・伴奏付けの総復習をしておく。
第6回	歌唱・ピアノレッスン・視唱（ハ長調）	（学修内容）①②および視唱（ハ長調）の基本を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・視唱（ハ長調）の復習をしておく。
第7回	歌唱・ピアノレッスン・視唱（ヘ長調）	（学修内容）①②および視唱（ヘ長調）の基本を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・視唱（ヘ長調）の復習をしておく。
第8回	歌唱・ピアノレッスン・視唱（ト長調）	（学修内容）①②および視唱（ト長調）の基本を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・視唱（ト長調）の復習をしておく。
第9回	歌唱・ピアノレッスン・視唱（二長調）	（学修内容）①②および視唱（二長調）の基本を実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・視唱（二長調）の復習をしておく。
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	（学修内容）①②および視唱の小試験を通して、基本的な視唱法を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・視唱課題の復習をしておく。
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち（基本）	（学修内容）①②およびリズム打ち（基本）について実践を通して学ぶ。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち（基本）の復習をしておく。
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち（符点・シンコペーション）	（学修内容）①②およびリズム打ち（符点・シンコペーション）について実践を通して学ぶ。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち（符点・シンコペーション）の復習をしておく。
第13回	歌唱・ピアノ総復習	（学修内容）①②の総復習と歌唱・演奏上の諸注意事項について振り返るとともに、定期試験に向けた準備と気を付けるべきポイントを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 既習の歌唱・ピアノ課題の復習をしておく。
第14回	歌唱総復習・ピアノレッスン	（学修内容）①の総復習及び②定期試験に向けた課題曲の選定とその演奏法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 既習の歌唱・ピアノ課題の復習と定期試験課題曲の練習をしておく。
第15回	ピアノ総復習	（学修内容）②定期試験課題曲の演奏法を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 定期試験課題曲の練習をしておく。

授業名	子どもの図画工作	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1405
英文名	Children and Art and Handicraft	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	絵を描いたり，ものをつくったりする活動は子どもの発達にとって大切な活動であるといわれている。この授業では，子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。造形活動を楽しみながら，自分の中にある柔軟な発想や感性などとともに優しさや思いやり，伝統文化への「誇り」などが育つことに気付くことができる授業にしたいと考えている。
学修成果到達目標	1）様々な表現方法を自らの体験を通して学び，その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることができる。 2）作品や試みた表現方法について考察し，その記録を分かりやすくまとめることができる。 3）つくった自分の作品のプレゼンテーションをすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	【タイトル】クレパスのじかん 【編著者】西尾正寛/小林貴史/山田芳明 【出版社】サクラクレパス出版部 【出版年】2021/10/14
参考書	必要に応じて授業で指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出した作品は，コメントを付けて返却する。
留意事項	造形活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参する。 小学校の公開授業参加，作品展鑑賞，作品展のボランティアを可能な限り積極的に行う。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。また，研究室前に日時を掲示する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校，京都教育大学附属小学校，京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	子どもの図画工作

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習指導要領　図画工作科の目標	（学修内容）授業の概要説明，学習指導要領，購入物品の確認と受講のための諸注意 （事前事後学修課題の内容） テキストの全体に目を通し、パスの基本的な使い方ついて学ぶ
第2回	（絵に表す）パスによる表現（1） 線と面による技法	（学修内容）パスの使い方や技法（1） （一般的な使い方について） （事前事後学修課題の内容） テキストを参考に，線や面で表現するときの一般的な使い方を確認する
第3回	（絵に表す）パスによる表現（2） 混色，ぼかし，など応用的な使い方	（学修内容）パスの使い方や技法（2） （混色，ぼかしなど） （事前事後学修課題の内容） テキストに示されている，パスの応用的な使い方について確認する
第4回	（絵に表す）水彩絵の具による表現（1） 基本的な使い方	（学修内容）水彩絵の具の使い方や技法 用具の使い方と色についてなど （事前事後学修課題の内容） 水彩絵の具による表現・作品をスケッチブックにまとめる
第5回	（絵に表す）水彩絵の具による表現 モダンテクニック	（学修内容）水彩絵の具による技法（モダンテクニック） （事前事後学修課題の内容） パスと水彩絵の具を使ってつくる作品について構想する
第6回	（絵に表す）パスと水彩絵の具による表現・作品づくり	（学修内容）製作した作品をスケッチブックにまとめる （事前事後学修課題の内容） 作品を完成させ、グループで話し合いながら留意点をまとめる
第7回	（工作に表す）飾るものをつくる（1） ～色紙をつかって～	（学修内容）折り紙をはさみで切る活動から，偶然生まれる形を生かして飾るものをつくる （事前事後学修課題の内容） 予習として，テーマを考えておく 折り紙やはさみの安全な使い方などをまとめる
第8回	（工作に表す）飾るものをつくる（2） ～様々な材料をつかって～	（学修内容）既習のパス，水彩絵の具や身近な材料（折り紙や画用紙）など，そのよさを生かして使い，飾るものをつくる （事前事後学修課題の内容） 予習として，テーマを考えておく 工作を通して気付いたことなどをまとめる
第9回	（造形遊び）（1） ～色水を使って～	（学修内容）造形遊びについて グループワークでの低学年における造形遊びを行う （事前事後学修課題の内容） 予習として，配布プリントを読んでおく 色水を使った造形遊びをして気付いたことなどをまとめる
第10回	（造形遊び）（2） ～マスキングテープを使って～	（学修内容）造形遊びについて グループワークでの高学年における造形遊びを行う （事前事後学修課題の内容） 予習として，配布プリントを読む グループで高学年の造形遊びをして気付いたことなどをまとめる
第11回	（立体に表す）（1） ～粘土を使って～	（学修内容）紙粘土を使った立体表現 （事前事後学修課題の内容） 予習として，配布プリントを読む 粘土を使った立体表現をして気付いたことなどをまとめる
第12回	（鑑賞）（1） ～アートカードを使って～	（学修内容）グループワークでアートゲームを通して鑑賞する （事前事後学修課題の内容） 予習として，配布プリントを読む グループワークでアートゲームをして気付いたことなどをまとめる
第13回	プレゼンテーション（1） ～発表準備をしよう～	（学修内容）本授業で学んだことをもとに，図画工作科に対する考えをスライドを使いまとめる （事前事後学修課題の内容） スライドを作成する 自分の考えをまとめる
第14回	プレゼンテーション（2） ～意見交流をしよう～	（学修内容）本授業で学んだことをもとに，図画工作科に対する考えを発表し合いグループで意見交流をする （事前事後学修課題の内容） スライドを完成させ提出する 意見交流から自分の考えをまとめる
第15回	まとめ・プレゼンテーション	（学修内容）授業全体の振り返り　作品返却 （事前事後学修課題の内容） 製作した作品や指導上の留意点、気付きなどをまとめたスケッチブックを提出する

授業名	子どもの家庭科	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3450
英文名	Children and Home Economics	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	馬場　まみ	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	小学校「家庭科」の学習指導要領に示された「家庭科」の教育理念、教育目標を理解し、家庭科を学ぶ意義を考える。 さらに、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の3つの領域を基底に、家庭科の授業を行うために必要な知識を学ぶ。
学修成果 到達目標	1. 家庭科を学ぶ意義を理解できる。 2. 小学校家庭科の内容構成を説明できる。 3. 小学校で家庭科を教授するために必要な基礎的知識を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	指定しない。適宜資料を配付する。
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	子どもの家庭科

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）科目の概要と目的 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読ん学びの目標を理解する。
第2回	家庭科のあゆみ	（学修内容）これまでの家庭科の歴史を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 家庭科の歴史を予習する。授業後時代による変化をまとめる。
第3回	家庭科の内容	（学修内容）家庭科で学ぶ内容構成を理解する （事前事後学修課題の内容） 配付資料の該当箇所を読み家庭科の内容を予習する。授業後家庭科で教える内容を整理する。
第4回	家庭科で育む能力	（学修内容）子どもの発達と家庭科で育む資質・能力について理解する （事前事後学修課題の内容） 配付資料を読み家庭科で育む能力について予習する。事後に家庭科で育む資質・能力を整理する。
第5回	学習指導要領：家庭科の目標	（学修内容）学習指導要領に示された家庭科の目標と内容構成を理解する （事前事後学修課題の内容） 配付資料の該当箇所を読み家庭科の内容を予習する。事後に目標と内容構成でわかったことをまとめて提出する。
第6回	学習指導要領：家族・家庭生活	（学修内容）学習指導要領に示された「家族・家庭生活」の内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にこれまでの授業で学んだ「家族・家庭生活」の内容をふりかえる。授業後学習指導要領の家族・家庭生活の箇所をまとめる。
第7回	学習指導要領：衣食住生活	（学修内容）学習指導要領に示された「衣食住生活」の内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にこれまでに学んだ「衣食住生活」の内容をふりかえる。事後に学習指導要領の衣食住生活の箇所をまとめる。
第8回	学習指導要領：消費生活・環境	（学修内容）学習指導要領に示された「消費生活・環境」の内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にこれまでに学んだ「消費生活・環境」の内容をふりかえる。事後に学習指導要領の消費生活・環境の箇所をまとめる。
第9回	家族・家庭生活分野の基礎知識	（学修内容）「家族・家庭生活」に関する基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前に現代家族の課題について調べる。授業後に課題に対する自分の考えを提出する。
第10回	食生活分野の基礎知識	（学修内容）「食生活」に関する基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 食育について予習する。授業後に食育の現状をまとめる。
第11回	衣生活分野の基礎	（学修内容）「衣生活」に関する基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前に衣生活に関する課題を考える。授業後課題に対する考えを提出する。
第12回	住生活分野の基礎	（学修内容）「住生活」に関する基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前に住まいの役割について考える。授業後住まいの重要性についてまとめる。
第13回	消費生活分野の基礎知識	（学修内容）消費に関わる基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前に消費に関わる課題を調べる。授業後に課題に対する考えをまとめる。
第14回	環境分野の基礎	（学修内容）環境に関する基礎知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前に環境に関わる課題と現状を調べる。授業後現状に対する考えをまとめる。
第15回	総括	（学修内容）家庭科の授業内容をまとめ、家庭科を学ぶ意義を考える （事前事後学修課題の内容） これまでの授業内容を整理する。

授業名	子どもの外国語	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2438
英文名	Children and Foreign Language	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	松尾　章子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けることを目標とします。授業では、英語４技能（聞く、話す、読む、書く）を中心に運用力を高める練習を行います。また、英語に関する背景的知識（音声、文構造、第二言語習得、児童文学、異文化理解など）について講義形式で学びます。
学修成果到達目標	１）英語に関する背景的な基礎知識を説明することができる。 ２）授業実践に必要な英語力（主に4技能）を身に付けている。 ３）人と分け隔てなくコミュニケーションを取ること（やり取り）ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	『小学校英語教育の基礎知識』村野井仁著　大修館書店　2,000円＋税
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出物・実技については、その都度コメントを返します。
留意事項	小学校の授業見学、ボランティアを積極的に行ってください。 多文化交流も積極的に行ってください。
オフィスアワー	研究室（5号館3階）前に日時を掲示しますので、確認してください。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：精華町立精華西中学校、精華町立川西小学校　非常勤国際理解教育講師 京都市立横大路小学校、京都市立洛央小学校　外国語指導助手 Mount Carmel R.C. Primary School　インターンシップ2か月（小学校1年生英語、算数担当） 英会話スクールAEON講師

授業名	子どもの外国語

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	（学修内容）授業の進め方、英語での自己紹介、ミニトークについて （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでテキストに目を通し、興味のある箇所を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第2回	6章：クラスルーム・イングリッシュ/授業に必要なスピーキング力について	（学修内容）英語でのインタラクション・英語授業に必要な基本表現について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第6章を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第3回	7章：英語コミュニケーション能力の高め方（多読・多聴による理解力向上）	（学修内容）多読・多聴を用いて英語力を伸ばす学習方について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第7章を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第4回	14章：異文化間コミュニケーション	（学修内容）ステレオタイプ、異文化適応、英語話者と日本語話者のコミュニケーション等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第14章を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第5回	13章：英語文学と児童文学	（学修内容）代表的な英語文学・児童文学作品とその知識・背景について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第13章を読む 事後：1作品を読み、感想文を提出（提出〆切日は授業内で伝える）
第6回	異文化間交流（調整の都合により、内容・実施日時等の変更有）	（学修内容）異文化を持つ人々と交流し、自身や周囲の考え方等を体験する （事前事後学修課題の内容） 事前：交流で話す内容を考える。やさしい日本語の使い方を練習する 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第7回	2章：第二言語習得に関する知識と外国語教育実践への応用	（学修内容）中間言語、認知スタイル、第二言語習得における個人差等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第2章を読む 事後：第2章をまとめて提出。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第8回	8章：英語コミュニケーション能力の高め方（表現力の向上）	（学修内容）英文を読む力・書く力等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第8章を読む、サンタカード1枚目を書く 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第9回	9章：英語コミュニケーション能力の高め方（シャドウイングによる聴く・話す力の向上）	（学修内容）シャドウイングの英語学習法やことばの処理メカニズムについて （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第9章を読む、サンタカード2枚目を書く 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第10回	10章：英語音声のしくみ	（学修内容）音声記号、子音と母音、強勢とイントネーション等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第10章を読む、サンタカード3枚目を書く 事後：第10章をまとめて提出。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第11回	11章：英文法	（学修内容）品詞、5文型、時制等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第11章を読む、サンタカード4枚目を書く 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第12回	Secret Santa体験（12月最終週に実施する） バーンガ体験	（学修内容）Secret Santaを体験して英語を使う楽しみを知る バーンガ体験をして異文化コミュニケーションを疑似体験する （事前事後学修課題の内容） 事前：サンタカード5枚目を書く 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第13回	15章：小学校における異文化間交流	（学修内容）小学校における異文化交流実践例等について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第15章を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第14回	12章：英語の歴史	（学修内容）変化し続ける英語の歴史について （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第12章を読む 事後：学んだ内容の復習。自身に関連付けた振り返りを書いて提出
第15回	まとめ	（学修内容）授業内で学んだ内容の総復習 （事前事後学修課題の内容） 事前：試験に向けて復習する 事後：第2章、第10章以外の章をまとめる。振り返りを書いて提出

授業名	特別支援教育（幼・小）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2439
英文名	Special Needs Education (Kindergarten・Elementary School)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	林　静香	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	近年、教育現場には全体の６．５%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれています。 さまざまな支援の必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要があります。 本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようすすめていきます。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいきます。
学修成果 到達目標	1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる 2）発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする幼児・児童の心身の発達について理解を深めることができる 3）支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学び、理解することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２０分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	前田泰弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』（2019）萌文書林
参考書	山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ　2019年 玉村公二彦編著『新版　キーワードブック　特別支援教育　インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ　2019年
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。
留意事項	授業内で出る課題については必ず期日までに提出してください。（期日後の提出は減点、未提出の場合は欠席となります）
オフィスアワー	木曜日　講義終了後 金曜日　講義終了後 ６号館　幼児教育演習室にて受け付けます
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設に勤務（保育士）した経験を活かし、現状や実態を伝え実践的な授業を進める。

授業名	特別支援教育（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育・保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ 障害者差別解消法、合理的配慮についての理解を深める （事前事後学修課題の内容） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身の考える障害像をまとめておく
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅰ部を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態 （手帳のしくみ・個別支援計画）	（学修内容）支援の必要な子どもたちの支援方法が（教育形態、個別支援計画）を理解する。手帳（身体・療育・精神）の仕組みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅰ部分を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第３章を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第５章を読んでおく
第6回	発達に課題のある子どもについての理解	（学修内容）発達障害について（分類、定義）理解する 発達障碍者支援法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第5章を読んでおく
第7回	自閉症スペクトラム障害（ASD)への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第６章を読んでおく
第8回	限局性学習症（SLD)児、注意欠如・多動症 （ADHD)児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）限局性学習症、注意欠如・多動症の障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第６章を読んでおく
第9回	保護者支援について	（学修内容）障害をもつ子どもの保護者の心理や特性を理解し、どのように援助していくのがのぞましいか考え、理解を深める （事前事後学修課題の内容） 指定した動画を視聴する
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害児の特性を理解するとともに、具体的にどのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいか(教材など）を考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第４章を読んでおく
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）聴覚障害児・言語障害児の特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第４章を読んでおく
第12回	身体に障害のある子ども（肢体不自由児・脳性まひ・医療ケア児）への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体に障害をもつ子どもたちの分類および各々の特性を理解し、どのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅱ部第４章-1を読んでおく
第13回	特別に支援の必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）特別支援教育に該当する子どもの環境を理解するとともに、その子どもを取り巻く社会時事について理解する（外国籍家庭・貧困家庭など） （事前事後学修課題の内容） テキスト第Ⅲ部第８章を読んでおく
第14回	ユニバーサルデザインについて	（学修内容）ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて理解を深め、支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについて調べておく
第15回	まとめ 小テスト	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容） 今までの講義内容を復習しておく

授業名	生徒・進路指導論（小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3461
英文名	Theory of Student Guidance	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	岡田　敏之	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	・実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論や方法を習得する。 ・進路指導・キャリア教育について論究し、学校現場での実践を考察する。
学修成果到達目標	(1) 生徒指導の全体像が理解でき、それを具現するために不可欠な内容・方法を認識できる。 (2) 進路指導・キャリア教育について理解でき、それを教育実践に生かせることができる。 (3) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 (4) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	文部科学省『生徒指導提要』2022，デジタル版（文部科学省ホームページよりダウンロード可）
参考書	『「支える生徒指導」の始め方』新井肇編著（2023教育開発研究所） 『生徒指導・進路指導』安達未来・森田健宏編著（2020ミネルヴァ書房）
課題に対するフィードバックの方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。 また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付し、必要に応じてコメントを付けて返却します。
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える学びを重視します。
オフィスアワー	担当授業終了後に行います。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：中学校、教育委員会、警察の勤務において経験した具体的実践例を話します。

授業名	生徒・進路指導論（小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。現代の教育を取り巻く社会の状況を理解する。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：現代の教育を取り巻く課題について調べておく。 事後：現代の教育課題について、さらに深める。
第2回	生徒指導・進路指導の基本概念（意義・原理）	（学修内容）生徒指導及び進路指導の基本概念を理解する。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.12-28を読み、要点を整理する。 事後：生徒指導のあるべき姿をさらに深める。
第3回	望ましい集団づくり（すべての生徒を対象とした生徒指導の進め方）	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.55-67を読み、要点を整理する。 事後：より良い集団づくりのあり方についてさらに深める。
第4回	学級担任等が行う生徒指導・教育相談	（学修内容）教育相談の全体像と生徒指導とのつながり、学級経営のあり方を学ぶ。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：予習資料「学級担任が行う教育相談」を読み、要点を整理する。 事後：教育相談と生徒指導のつながりについてさらに深める。
第5回	問題行動への対応	（学修内容）問題行動の発生時の対応のあり方や未然防止について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.68-80を読み、要点を整理する。 事後：問題行動発生時の対応について、さらに深める。
第6回	子どもの規範意識を育てる－非行防止教室－	（学修内容）実際に非行防止教室を体験し、規範意識の育成について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.153-170を読み、要点を整理する。 事後：子どもの規範意識を高める方策について調べる。
第7回	いじめ問題の理解と対応Ⅰ－いじめの原因－	（学修内容）いじめ発生時の対処のあり方について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：過去のいじめ重大事態について調べる。 事後：いじめ問題が発生した際の具体的な対応を考察する。
第8回	いじめ問題の理解と対応Ⅱ－未然防止に向けて－	（学修内容）いじめ問題の基本認識を深め、未然防止について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.120-140、240-254を読み、要点を整理する。 事後：いじめの未然防止のあり方についてさらに深める。
第9回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状を理解し、支援のあり方を考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.221-230を読み、要点を整理する。 事後：不登校児童の支援のあり方と未然防止についてさらに深める。
第10回	保護者対応	（学修内容）保護者対応の基本的なあり方を学ぶ。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.107-110を読み、要点を整理する。 事後：保護者とのより良い連携について深める。
第11回	子どもの意欲を育てる－コーチングスキルより－	（学修内容）コーチングの基本的な考え方を理解し、そのスキルを身につける。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「コーチング」について、YouTube等の動画を視聴する。 事後：「コーチングの５つのプロセス」の質問例をまとめる。
第12回	「職業指導」から「進路指導」そして、「キャリア教育」へ（進路指導・キャリア教育の基礎）	（学修内容）「キャリア教育」で身につけるべき能力について理解する。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：予習資料　「キャリア教育と進路指導」を読み、要点を整理する。
第13回	個々の発達を踏まえたキャリア教育（生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導）	（学修内容）個々の発達を踏まえたキャリア教育と職場体験学習について学ぶ。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「効果的な職場体験活動の在り方」を読み、要点を整理する。 事後：キャリアを意識した子どもへの対応のあり方についてまとめる。
第14回	キャリア意識を育むカリキュラムの構成（全体の生徒を対象とした進路指導・キャリア教育）	（学修内容）キャリア教育を踏まえたカリキュラムマネージメントについて考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「各教科におけるキャリア教育」を読み、要点を整理する。 事後：教科におけるキャリア教育の視点について深める。
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」 生徒指導・進路指導のまとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：夜間中学に関する予習資料を読み、要点を整理する。 事後：子どもの意欲を高める生徒指導のあり方について深める。

授業名	保育原理	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1406
英文名	Principles of Child Care	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	流石　智子・坂本　渉	対象学生	生活情報1回生、こども生活1回生				

授業の概要	子どもの育ちを考えるとき、保育の問題は社会状況と深くかかわっている。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史的変遷にもふれ、保育の現状と課題についても考える。保育についてどのような考えをもっているかなど、グループでの討議も行う。
学修成果到達目標	1）現代家庭の保育事情を理解することができる。 2）保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3）保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	天野珠路・北野幸子編著『新基本保育シリーズ　保育原理』中央法規　2019年
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出レポートの返却時に、解説をする。授業時のレポートについても、説明をして返却する。
留意事項	
オフィスアワー	研究室前、演習室に掲示する。在室の時は可能である。（時間が取れない時は、あとで連絡する。メールにより、予約も可能。）
実践的教育	

授業名	保育原理

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業についての説明と保育の理念と概念	（学修内容）保育の理念、概念・子どもを育てること （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ2～12を読み理解する。「保育の理念」についてまとめておく。
第2回	保育の社会的役割	（学修内容）保育の社会的役割と責任。（グループでの話し合いをする） （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ14～26を読み理解する。「保育所の役割について」まとめておく。
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	（学修内容）保育の制度的位置づけ （事前事後学修課題の内容） 事前に、ｐ28～38を理解する。事後に、36ｐ37ｐ参照。「社会的養護と保育」について、レポート提出①・800字程（クラスルームにて提出）
第4回	保育の実施体系	（学修内容）保育の実施体系について （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ40～50を読み理解し、「保育の必要性の認定」について考えをまとめる。
第5回	保育所保育指針に基づく保育	（学修内容）保育所保育指針等について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ52～66を読み理解し、「保育所保育指針はなぜ必要なのか」を考え、まとめる。
第6回	保育の目標と方法	（学修内容）保育の目標と方法について理解を深め、「遊び」との関係について学ぶ。（グループで話し合いをする） （事前事後学修課題の内容） 事前に、68～78を読み理解し、「保育所保育指針にみる保育の方法」を理解しまとめる。
第7回	乳児の保育	（学修内容）乳児の発達過程や保育の基本を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ80～90を読み理解し、「乳児保育のねらい」ついてまとめる。
第8回	１歳以上３歳未満児の保育	（学修内容）１歳以上３歳未満児の保育 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ92～102を読み理解し、「1歳以上３歳未満の生活につて」まとめる。
第9回	３歳以上児の保育	（学修内容）3歳以上の幼児期の保育のあり方 （事前事後学修課題の内容） 事前に、ｐ104～114を読み理解する。
第10回	子ども理解に基づく保育の過程：理論	（学修内容）保育過程について。（グループで話し合いをする） （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ116～126を読み理解する。「子ども理解の視点」についてまとめる。
第11回	子ども理解に基づく保育の過程：実践	（学修内容）学びの連続性と小学校との接続について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ128～138を読み理解し、「PDCAサイクルの方法について」まとめる。
第12回	諸外国の保育の思想と歴史 諸外国の保育の現状と課題	（学修内容）諸外国の保育の思想と歴史から学ぶ。諸外国の保育の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ140～149、ｐ164～173を読み理解し、「外国の保育」でで興味がもてたところをまとめる。。
第13回	日本の保育の思想と歴史 日本の保育の現状と課題	（学修内容）日本の保育の思想と歴史から現在を考える。日本の保育の現状と課題について、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、テキストｐ152～162、ｐ176～186を読み理解し、「日本の保育の課題について」まとめる。
第14回	ここまでの授業を参考にして、保育を実施する上での親とのコミュニケーションについて考える。（保育相談、親への対応について）	（学修内容）ロールプレイを中心に授業を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、場面の設定を考え、グループで事前打ち合わせをしておく。
第15回	まとめ	（学修内容）本授業のまとめ行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前にこの授業で、学んだことを書き、クラスルームに提出する。

授業名	子ども家庭福祉	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1414
英文名	Theory of Child Welfare	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	流石　智子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・子どもの貧困・児童虐待など様々なものがある。それらは、現代の子どもの育つ家庭状況と社会背景とに大きく左右されている。子どもの生活を支える社会保障や社会福祉の動向は、子どもの成長に大きな影響を及ぼす。そこで、本講義では、①子どもと社会　②子どもの幸せ　③子どもと家庭支援　④保育　⑤障害児等について学ぶ。子どもの権利、子どもに関係する法制度等についても理解する。子どもが幸せに生活できる毎日にするには、社会をどのようにすれば、実現できるのかについて児童家庭福祉の視点から考える。
学修成果到達目標	1）社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2）保育士・社会福祉士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3）児童福祉の制度等を理解し、子ども達の現状が理解できる。 4）児童福祉の法制度の対象者とサービス内容が理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	
平常試験（30%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	流石智子監修/浦田雅夫編者『知識を生かし実力をつける　子ども家庭福祉・第3版』教育情報出版
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、返却し、解説する。
留意事項	2回のレポート提出を行う。これは、平常試験として扱う。ミニレポート（授業内で学びの確認として実施の予定である。）
オフィスアワー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をする。在室の時は可能である。（Gメール等で流石まで、連絡をお願いします。予定を調整して連絡します。）
実践的教育	

授業名	子ども家庭福祉

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 子ども家庭福祉を学ぶ意義	（学修内容）オリエンテーション 現代の社会状況と背景 （事前事後学修課題の内容） 事前：「子ども家庭福祉で何を学びたいか」について、200字程度にまとめておく。
第2回	子どもと社会、どっちが変わったの。（今の社会状況）	（学修内容）子どもの貧困、虐待、ドメスティックバイオレンスについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ14～27を読み、用語の整理をしておく。
第3回	子どもの幸せって、どういうこと。（子ども家庭福祉とは）	（学修内容）子どもとは何だろう。子ども家庭福祉の考え方。「子どもの権利」について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストの29ｐ～34ｐまでを読み、子どもにとって家庭とはどのような存在かについて、整理する。
第4回	昔と今と何が違うの。（子ども家庭福祉のあゆみ）	（学修内容）日本の児童家庭福祉の歴史について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト37ｐ～47ｐを読み、子どもの権利条約についてまとめる。
第5回	子どもの家庭を支援するには、どうすればいいか。（法制度と実施機関）	（学修内容）子ども家庭福祉：児童福祉法、子ども家庭福祉サービスの実施など （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト50ｐ～58ｐを読み、「児童相談所」についてまとめる。
第6回	保育はみんなでするもの。（保育サービスと地域子育て支援）	（学修内容）保育サービス、保育所の仕組み、地域子育て支援について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト62ｐ～75ｐを読み、事後：レポート①「保育所と保育士の役割」についてまとめ、800字程度でクラスルームに提出。
第7回	子どもを安心して生むにはどうすればいいか。（母子の保健と子育てサービス）	（学修内容）母子保健サービスの現状等について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト77～87を読み、「子どもを産むということ」について考え、まとめる。
第8回	障害ってふつうじゃないの。（障害のある子どもへの福祉サービス）	（学修内容）障害のある子どもと家庭について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト89ｐ～98ｐまでを読み、「障害児について」理解したことをまとめる。
第9回	子どもが健やかに育つ環境ってなに。（子どもの健全育成）	（学修内容）子どもの健全育成について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト100ｐ～112ｐを読み、「児童健全育成」についてまとめる。
第10回	社会が子育てするってどういうこと。（社会的養護とは）	（学修内容）社会的養護について、保育士の役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト114ｐ～129ｐを読み、「里親について」まとめる。
第11回	どうして非行にはしる子どもがいるの。（少年非行）	（学修内容）非行について考える。非行と子ども達の家庭背景等について。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト131ｐ～136ｐを読み、「少年非行の背景」をまとめる。
第12回	ひとり親ってどういう家庭のこと。（ひとり親家庭への支援）	（学修内容）ひとり親家庭の生活と支援について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト139ｐ～144ｐを読み、事後：レポート②「ひとり親家庭の抱える問題」をまとめ、提出。クラスルームにて800字程度.
第13回	外国人の子どもにはどう支援するの。（外国籍の子どもへの支援）	（学修内容）日本に住む外国籍の子どもについて （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト147ｐ～152ｐを読み、「外国籍の子ども達が生活するのに抱える問題について」まとめる。
第14回	子どもたちにとって学校ってどういうところ。（学校での子ども支援）	（学修内容）いまの学校についての理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト155ｐ～160ｐを読み、「ひきこもりへの支援について」まとめる。
第15回	保育でのソーシャルワークって、どうすればいいの。（保育現場における子ども家庭福祉相談援助活動）	（学修内容）保育現場での相談援助活動について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト163ｐ～176ｐを読み、「相談援助の基本について」まとめる。

授業名	子ども家庭支援論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3462
英文名	Theory of Child and family support	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	流石　智子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策をどのようにするのか、検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、親は子育て支援を有効に活用しているか、現代の家庭に必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。グループに分かれて、課題についての討議をし、他の人の考えについて理解を深める。できれば、ロールプレイも行いたい。
学修成果到達目標	1）家庭における様々な子育ての問題点を理解できる。 2）家庭における子育て支援策を具体に理解することができる。 3）自分の子育て観の確認ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	松原康雄他編集『新基本保育シリーズ　子ども家庭支援論』第2版　中央法規　2019年
参考書	授業中に、紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートの返却時に,口頭やコメントにより講評する予定である。。
留意事項	レポート提出（3回）、授業時にミニレポート提出を行う予定である。レポート提出は、平常点として各10%で評価する予定である。
オフィスアワー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をするので、確認してください。在室の時は可能です。Gメールにて事前に連絡をいただくと、流石の予定を返信します。流石との調整をお願いします。
実践的教育	

授　業　名	子ども家庭支援論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに、 子ども家庭支援の意義と必要性	（学修内容）授業の進め方等について 家庭支援の意義と子育て支援 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ２～12を読み、「少子化社会と保育」について文章でまとめる。
第2回	子ども家庭支援の目的と機能	（学修内容）家庭支援の制度、目的等について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ14～24を読み、保育所保育指針第4章の子育て支援について文章でまとめる。
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援の推進	（学修内容）保育所、幼稚園における新制度の理解をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ26～36を読み、「子ども子育て新制度について」文章でまとめる。
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	（学修内容）社会資源について理解を深める。（グループで、話し合いをする） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ38～48を読み、「社会資源」を1つ取り上げて文章でまとめる。
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	（学修内容）保育者の専門性と子ども家庭支援について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ50～60を読む。事後：レポート①「保育者が支援するときの留意点」についてまとめる。800字程度、クラスルームに提出。
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	（学修内容）子どもの育ちを共有することとは。（ディスカッションをグループで行う。） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ62～72を読み、「子どもの育ちの共有」について思うところを文章でまとめる。
第7回	保護者および地域が有する子育てを自らが実践する力の向上に資する支援	（学修内容）地域での子育て・保育士に求められる支援について （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ74～84を読み、「地域で子育てをする親への支援について」文章でまとめる。
第8回	保育士に求められる基本的態度	（学修内容）保育士と保護者との信頼関係とは （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ86～96を読み、「信頼関係について」なぜ子育て支援に大切かを文章でまとめる。
第9回	家庭の状況に応じた支援	（学修内容）家庭状況の把握とその支援について。（グループでどのような家庭があるのかを話し合いをする） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ98～108を読み、「どのような家庭があるのか」について文章でまとめる。
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	（学修内容）子ども家庭支援と地域資源の活用 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ110～120を読む。事後：コラム「ストレングスの視点」を読み、理解したことを800字程度のレポート②。
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	（学修内容）さまざまな子ども家庭支援の対象：子ども、保護者、地域。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ122～132を読み、「保護者支援のアプローチの方法」について文章でまとめる。
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	（学修内容）家庭がかかえる生活課題と保育者等の役割 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ134～144を読み、「保育所利用の利点」について文章でまとめる。
第13回	地域の子育て家庭への支援	（学修内容）地域の子育て家庭への支援・支援者の姿勢。（地域支援の必要性についてデスカッションをグループでする） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ146～156を読み、「子育て支援は、指導ではなく支援が必要」ということについて文章でまとめる。
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	（学修内容）要保護児童とその家庭に対する支援について （事前事後学修課題の内容） 事前：ｐ158～168までを読み、「要保護児童への支援が大切である理由」について文章でまとめる。
第15回	子育て支援に関する課題と展望：まとめ	（学修内容）子育て支援のニーズの多様化と連携機関 まとめ （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストｐ170～180を読む。事後：レポート③「顕在的ニーズと潜在的ニーズについて」800字程度でまとめる。

授業名	社会的養護Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1415
英文名	Principles of Corporate Parenting	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山川　宏和	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 １．社会的養護とは何か　２．児童虐待の定義やその対応について　３．里親ケアや特別養子縁組などの家庭養護について　４．児童養護施設や乳児院、児童心理治療施設等の施設養護について　５．非行少年の処遇について　　法令に基づくそれぞれの機能や役割を理解し、映像資料などを用いて実態を学び、自分自身の問題として捉えられるようにディスカッションを行う。
学修成果到達目標	１）児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 ２）施設養護や家庭養護を利用する児童の現状について統計資料等をもとに定量的に説明できる。 ３）社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない
参考書	随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	Googleスプレッドシートを利用して毎回提出されたものを確認し、コメントを返信する
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出を。
実践的教育	

授業名	社会的養護Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	児童虐待の理解①身体的虐待、ネグレクト	（学修内容）身体的虐待とネグレクトの実際について （事前事後学修課題の内容） 事前：厚生労働省が示している身体的虐待とネグレクトの定義を学ぶ 事後：身体的虐待とネグレクトが及ぼす影響についてまとめる
第2回	児童虐待の理解②性的虐待、心理的虐待	（学修内容）性的虐待と心理的虐待について （事前事後学修課題の内容） 事前：厚生労働省が示している性的虐待と心理的虐待の定義を学ぶ 事後：面前DVの影響についてまとめる
第3回	家庭養護について　養育里親	（学修内容）里親ケアの登録、委託、手当について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を確認しておく 事後：里親登録の方法をまとめる
第4回	家庭養護について　専門里親	（学修内容）里親ケアの研修、委託児童について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を確認する 事後：養育里親との違いをまとめる
第5回	家庭養護について　養子縁組里親と親族里親	（学修内容）里親養育の特質について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を読む 事後：親等、親族、扶養義務などについてまとめる
第6回	特別養子縁組制度	（学修内容）特別養子縁組制度と民間あっせん機関 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を読む 事後：社会的養育ビジョンについて調べる
第7回	乳児院のケア①　入所児童と入所理由	（学修内容）乳児院に入所する児童の特徴と入所理由の変遷について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を読む 事後：入所児童の年齢による援助の違いを考える
第8回	乳児院のケア②　実家族との交流	（学修内容）実家族との交流の実際と、入所児の特徴について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を読む 事後：国際養子縁組について調べる
第9回	児童養護施設のケア①　入所児童と入所理由	（学修内容）児童養護施設入所児童の特徴について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布した資料を読む 事後：入所期間などの統計資料を読む
第10回	児童養護施設のケア②　実家族との交流と自立支援	（学修内容）入所中の家庭との関係と家庭復帰について （事前事後学修課題の内容） 事前：厚生労働省の資料を読む 事後：児童自立生活援助事業について調べる
第11回	児童養護施設のケア③　小規模化と今後の課題	（学修内容）小規模グループケアと地域小規模児童養護施設について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布資料を読む 事後：ユニットケア、グループホームの違いを再確認する
第12回	児童養護施設のケア④　社会的養育ビジョン	（学修内容）施設の運営管理と社会的養育ビジョンについて （事前事後学修課題の内容） 事前：配布資料を読む 事後：里親委託率の目標についてまとめる
第13回	非行少年と社会的養護	（学修内容）家庭裁判所、保護処分、児童自立支援施設について （事前事後学修課題の内容） 事前：保護処分の種類を調べておく 事後：児童自立支援施設についてまとめる
第14回	アタッチメント障がいについて	（学修内容）アタッチメント（愛着）障がいについて （事前事後学修課題の内容） 事前：発達障害について調べてくる 事後：児童心理治療施設の入所児の特徴をまとめる
第15回	児童心理治療施設について	（学修内容）児童心理治療施設について （事前事後学修課題の内容） 事前：配布資料を読む 事後：生活場面面接（Life Space Interview）について調べる

授業名	子どもの保健Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1416
英文名	Infant Health Ⅰ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	福井　百合子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	保育では、子どもの命を守り、安心・安全な生活、健やかな発育を支援することは必須事項である。本授業では、子どもの健康と保健活動の意義を知り、心身の発育の過程や特徴、子どもに多い病気について学び、子どもの健康管理に必要な基礎知識を身につける。テキストや授業資料・PPTを中心に進めていくが、適宜、理解を深めるために、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワーク等を実施する。
学修成果 到達目標	1.子どもにとっての健康と、保健活動の意義を理解する。 2.子どもの成長・発達(形態的成長、機能的発達、運動機能、生理機能、認知機能、精神機能、言語機能の発達)の過程を学び、年齢に応じた成長・発達をイメージし、その特性を説明できる。 3.保育での健康管理について学び、子どもの健康状態の把握の方法が理解できる。 4.子育てに必要な養護について、子どもの特徴をふまえて考えることができる。 5.子どもの病気や障害についての基礎知識を学び、特徴的な症状などが言える。 6.子どもを守り育てるための安全管理、保健活動に必要な子育て支援や、職員間(他職種間)の協働、関係機関との連携について学ぶ。 7.現在社会における子どもの健康に関する現状や、健康問題や障害が及ぼす影響について知る。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　課題(ミニテスト込)提出　)■(　学習ノート　)

テキスト	谷川友美 編集『知のゆりかご 子どもの保健』株式会社みらい
参考書	●松本峰雄 監修『 よくわかる保育士エクササイズ7 子どもの保健と安全 演習ブック）』ミネルヴァ書房 ●井狩芳子『演習 保育内容 健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●大西文子『子どもの保健　演習　改訂第２版』中山書店 ●及川郁子・草川功『子どもの保健』建帛社 その他は適宜提示。
課題に対するフィードバックの方法	ミニテストや課題などは提出後に答えと解説を表示、あるいは一部、全体で内容を共有する。
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。（適時確認すること有） ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・まずは子どもや自分自身の健康に関心を持つこと。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。
オフィスアワー	授業ガイダンス時に知らせる。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師として救急、産婦人科、小児科の外来および病棟での実務経験から、乳幼児の様子や、病気・けがの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。

授業名	子どもの保健Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 子どもの保健と保健活動 保健活動の意義(必要性) 生命の誕生と尊厳	（学修内容）授業の案内。子どもにとっての保健と保健活動の意義、ヒトの発生までの過程と命の尊厳について画像や動画を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第１章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第2回	子どもの発育① 発育の原則 形態的発育(身体発育)、体格指標、身体発育曲線 感覚器の発達 脳神経の発達	（学修内容）発育の原則、身体発育の過程、感覚器(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)の発達、脳神経の発達について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章、第５章を読む。事後：：ミニテストで復習する。
第3回	子どもの発育② 運動機能の発達 姿勢の変化	（学修内容）原始反射、運動機能の過程、粗大運動と微細運動、姿勢の変化、骨の成長について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第４章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	子どもの発育③ 出生後の身体変化 生理機能の発達(1)	（学修内容）乳幼児の呼吸・脈拍・体温の特徴、生理機能(恒常性―体温調整、免疫機能)の発達についてワークを入れながら学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第３章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの発育④ 生理機能の発達(2) 基本的生活習慣	（学修内容）乳幼児の生理機能(体内時計と睡眠、水分出納―排泄・汗腺の発達)と基本的生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・衣類の着脱)について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第３章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第6回	子どもの発育⑤ 情緒・認知・社会性・言語の発達 乳幼児期のかかわり	（学修内容）理論を紹介しながら、子どもの情緒、認知・社会性の発達、言語の発達について学ぶ。マザリーズ、適切な養護の必要性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第６章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの健康状態の観察 日々の観察と判断 健康診査	（学修内容）異常の早期発見の重要性、健康状態観察、健康診査(異常の発見と発育過程の確認、子育て支援と保健指導)について学び、ペアワークを行う （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第９章を読む、自分の母子健康手帳に書かれている内容を見ておく。事後：ミニテスト・課題などで復習する。
第8回	障害のある子ども 障害とは 身体障害、発達障害、その他の障害	（学修内容）障害の概念(障害者基本法)、身体障害、発達障害、感覚器の障害について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第７章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第9回	子どもの病気① 子どもの病気の特徴 呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、心疾患、腎疾患、その他の疾患	（学修内容）子どもの病気の特性、呼吸器疾患、内分泌疾患(糖尿病)、心疾患、腎疾患、その他の疾患について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第12章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	子どもの病気② てんかん、先天性股関節脱臼 アレルギー性疾患、生活管理指導表	（学修内容）てんかん、先天性股関節脱臼、アレルギー性疾患(喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)、生活管理指導表について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第11章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第11回	子どもに多い感染症① 感染と感染症 感染症の種類と取り扱い(1)	（学修内容）感染の基礎知識と、子どもに多い感染症について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第10章と、保育所における感染症対策ガイドラインを読む。事後：ミニテストで復習する。
第12回	子どもに多い感染症② 感染症の種類と取り扱い(2)	（学修内容）子どもに多い感染症、感染対策、予防接種について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第10章と、保育所における感染症対策ガイドラインを読む。事後：ミニテストで復習する。
第13回	子どものけがと死亡原因 子どもの特徴 子どもの死亡原因 けがの種類（外傷、出血、打撲・捻挫・骨折） 乳幼児突然死症候群	（学修内容）子どもの大人とは違う特徴、死亡原因、けがの種類と注意、乳幼児突然死症候群について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第13章を読む。事後：ミニテスト・課題などで復習する。
第14回	保育施設での保健活動 職員間、他職種の連携と協働 保健活動と関係法規	（学修内容）保育施設での保健活動と計画・評価、組織活動と職員間の協働、他職種連携について学ぶ。児童虐待防止、関係法規について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第14章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	母子保健と母子保健施策 定期試験ガイダンス	（学修内容）母子を取り巻く環境と保健活動の役割や母子保健対策について学ぶ。定期試験の案内。 （事前事後学修課題の内容） 授業全体の復習をしておく。

授業名	子どもの保健Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2428
英文名	Infant HealthⅡ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	福井　百合子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育では基本的事項として、子どもの健康の維持増進と健やかな発育を支援することが求められる。そのため保育者は、子どもの発達に応じた養育、病気やケガの予防や保健的対応、保育環境の調整に必要な知識と技術を身につけていることが必要である。本授業では、「子どもの保健Ⅰ」の学修内容をふまえて、保育者として必要な乳幼児の育児技術と保健的対応、疾病(感染)予防、応急・救急処置、安全確保の基本的知識の理解を深め、具体的な方法や技術を学ぶ。適宜、画像や動画視聴、演習、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。
学修成果 到達目標	1.子どもの健康と心身の発育に必要な日常的な養護について、年齢や発育過程の特徴をふまえて理解でき、一部実践できる。 2.保育場面での安全管理と衛生管理について、ガイドラインや指針をふまえた具体的内容がわかる。 3.病気や障害をもつ子どもの保育について理解できる。 4.保育場面での子どもの体調不良やけが等に対する適切な対応と予防対策について理解し、ガイドラインや指針をふまえて考えることができ、一部実践できる。 5.子どもの健康状態の観察と判断、成長・発達の確認について理解でき、一部実践できる。 6.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　課題(ミニテスト込)提出　)■(　学習ノート　)

テキスト	松本峰雄 監修「よくわかる保育士エクササイズ7 子どもの保健と安全 演習ブック」 ミネルヴァ書房
参考書	●大西文子・遠藤幸子・興水めぐみ ほか『子どもの健康と安全』中山書店 ●井狩芳子『演習 保育内容 健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●野原八千代 編『子どもの健康と安全』建帛社 ●髙内正子・梶美保 編『保育の場で活きる子どもの健康と安全』建帛社 その他は適宜提示。
課題に対するフィードバックの方法	ミニテストや課題などは提出後に答えと解説を表示、あるいは一部、全体で内容を共有する。
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。（適時、確認すること有） ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・演習時は、髪をまとめ、エプロン着用で行うこと。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。
オフィスアワー	授業ガイダンス時に知らせる。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師として救急、産婦人科、小児科の外来および病棟での実務経験から、乳幼児の様子や、病気・けがの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。

授業名	子どもの保健Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	業ガイダンス 個の健康と集団の健康の視点	（学修内容）授業の案内。一人ひとりの子どもの健康管理と発育支援、集団の健康管理と健康教育の必要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：子どもの保健Ⅰで学んだ子どもにとっての健康や保健活動の意義を復習しておく。事後：ミニテストで復習する。
第2回	乳幼児の養護の重要性と保育環境 健康と情緒の安定のための保育環境の調整と援助 マズローの欲求五段階説 エリクソンの心理社会的発達理論とボウルビィの愛着理論	（学修内容）乳幼児の健康と情緒の安定のための保育環境の調整と援助(愛着形成・信頼関係構築)について学ぶ。マザリーズと乳児の抱っこの演習を行う （事前事後学修課題の内容） 事前：事前学習資料、教科書第１章14コマ目、第２章15コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第3回	保育における安全管理① 乳幼児の事故 子どもの事故が起こりやすい子どもの特徴	（学修内容）保育施設での事故の傾向を知り、子どもの特徴をふまえた事故防止について幼児の視野体験と、保育場面の事故予測ワークを交えて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：幼児視野体験メガネの作成、教科書第２章16コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	保育における安全管理② 保育施設での事故防止対策と安全管理 リスクとハザード 安全教育 防災、防犯	（学修内容）保育施設での安全対策について学ぶ。実際の安全教育、避難訓練の様子を画像や動画で視聴、ハザードマップ作成GWを通じて学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章17コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの応急処置 外傷と出血、頭部外傷時の対処と処置 異物誤嚥	（学修内容）子どものケガ(外傷、出血、骨折、目耳の異物混入)の対処と処置について、画像や動画を交えて学び、一部演習(前腕の包帯の巻き方)を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章19コマ目を読む。事前資料がある場合は目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第6回	子どもの救急処置 緊急対応が必要な重篤な状態時の対処と処置 気道異物による窒息 ショック状態	（学修内容）異物誤嚥による気道閉塞(窒息)、ショック状態など重篤な状態時の対応と手順、救命処置について、動画視聴も併せ、一連の流れを演習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章19コマ目を読む。事前資料がある場合は目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの健康状態の把握と管理、発育経過の確認① 心身の健康状態の観察 子どもの呼吸、脈拍、体温の測定と判断	（学修内容）子どもの健康状態の観察と発育経過の確認の具体的方法と判断、健康管理について学ぶ。バイタルサインの測定と身体計測を一部演習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第１章7～8コマ目、第２章22コマ目を読む。事後:ミニテストで復習する。
第8回	子どもの健康状態の把握と管理、発育経過の確認② 身体計測と身体発育曲線 母子健康手帳、連絡帳、生活管理指導表の活用 健康教育	（学修内容）子どもの健康状態の観察と発育経過の確認の具体的方法と判断、健康管理について学ぶ。バイタルサインの測定と身体計測を一部演習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第１章7～8コマ目、第２章22コマ目を読む。自分の母子健康手帳の掲載内容に目を通しておく。事後:ミニテストで復習する。
第9回	子どもの体調不良に対する適切な対応① 発熱、熱中症、下痢、嘔気・嘔吐、咳、痛み、けいれん、脱水	（学修内容）子どもの発熱、熱中症、下痢、嘔気・嘔吐、咳、痛み、けいれん、脱水の対応について、動画を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第１章9～10コマ目、第２章18コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	子どもの体調不良に対する適切な対応② 吐物の処理、氷枕	（学修内容）嘔吐時の対応(対処と吐物処理)、発熱や熱中症時の冷罨法(作成とポイント)について、動画やワークを交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章18コマ目を読む。配布資料がある場合は必ず目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第11回	個別的な配慮を要する子どもへの対応① アレルギー疾患のある子どもの症状出現時の対応 アナフィラキシー、喘息発作	（学修内容）アレルギー疾患のある子どものアナフィラキシー出現時、喘息発作時の対応(エピペンの使用、吸入薬の使用)について動画を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章28コマを読む。事後：ミニテストで復習する。
第12回	個別的な配慮を要する子どもへの対応② 慢性疾患 肢体不自由児 医療的ケアを要する子ども 統合保育、インクルーシブ保育	（学修内容）慢性疾患、肢体不自由児、医療的ケアを必要とする子どもへの対応について学ぶ。小児慢性特定疾病について知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章26～27コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第13回	個別的な配慮を要する子どもへの対応③ 視覚障害・聴覚障害、発達障害のある子ども	（学修内容）視覚障害・聴覚障害、発達障害のある子どもへの対応について学ぶ。動画を用いて聴覚過敏、視覚過敏を疑似体験し理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第１章6コマ目、第２章29コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第14回	地域の保健活動と連携 子ども・子育て支援、母子保健施	（学修内容）地域の保健活動と連携、子ども・子育て支援、母子保健施策について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書第２章29～30コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	全体の振り返り 定期試験ガイダンス	（学修内容）定期試験の案内。全体の振り返りと質疑応答。 （事前事後学修課題の内容） 事前・事後：授業内容全体を復習する。

授業名	保育内容総論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1417
英文名	Outline of Child Care	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	保育所、幼稚園、認定こども園の特徴について解説した後、保育の内容の歴史的な変遷を学ぶ。その後、保育保育指針に基づいて、保育の目標と保育内容の関連を解説する。そのなかで、実際の指導計画を参照し、保育の展開を理解する。長時間保育や異年齢保育の保育の展開についても解説する。
学修成果到達目標	1）保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2）保育内容の変遷を理解する。 3）保育内容の展開について理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	厚生労働省編「保育所保育指針解説　平成３０年３月」（フレーベル館）　保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」（ひとなる書房）
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、いくつかを紹介しつつ、コメントする。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授　業　名	保育内容総論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育所保育における保育の特性１　幼稚園と比較して	（学修内容）幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する （事前事後学修課題の内容） 保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる
第2回	保育所保育における保育の特性２　保育所保育指針より	（学修内容）保育所保育指針総則より、保育所保育の特性を解説する （事前事後学修課題の内容） 保育所保育指針第１章総則を読んでくる
第3回	保育内容の変遷　１　明治期	（学修内容）明治期の保育を解説する （事前事後学修課題の内容） 明治期の生活を調べてくる
第4回	保育内容の変遷　２　大正から昭和初期	（学修内容）大正から昭和初期の保育を解説する （事前事後学修課題の内容） 大正から昭和初期の生活を調べてくる
第5回	保育内容の変遷　３　系統的保育案の実際	（学修内容）系統的保育案の実際と現代の保育への継承をVTRによって解説する （事前事後学修課題の内容） 配付資料を読んでくる
第6回	保育内容の変遷　４　戦時下	（学修内容）戦時下の保育を解説する （事前事後学修課題の内容） 戦時下の生活について調べてくる
第7回	保育内容の変遷　５　終戦後	（学修内容）戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ （事前事後学修課題の内容） 終戦後の生活について調べてくる
第8回	保育内容の変遷　６　1950年代	（学修内容）戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 配付資料を読んでくる
第9回	保育内容の変遷　７　1960年代以降	（学修内容）今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過を解説し、現行の保育所保育指針を解説する （事前事後学修課題の内容） 保育所保育指針第１章を読んでくる
第10回	保育内容の展開１　指導計画	（学修内容）指導計画の作成にあたっての留意点を解説する （事前事後学修課題の内容） 保育所保育指針第1章を読んでくる。テキストp54～、p147～を読んでくる
第11回	保育内容の展開　２　保育の実際	（学修内容）生きた保育の展開と指導計画の関連を解説する （事前事後学修課題の内容） テキストp184～を読んでくる
第12回	保育内容の展開　３　保育の過程と保育の評価	（学修内容）保育の過程の実際と保育の評価の２側面を解説する （事前事後学修課題の内容） テキストp72～を読んでくる。保育所保育指針１章の保育の評価の部分を読んでおく。
第13回	異年齢保育における保育内容	（学修内容）異年齢保育における保育内容の展開を解説する （事前事後学修課題の内容） テキストp216～を読んでくる
第14回	長時間保育における保育内容	（学修内容）長時間保育における保育者連携と保育の展開を映像から学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストｐ249～を読んでくる
第15回	長時間保育が子どもに及ぼす影響	（学修内容）長時間保育が子どもに与える影響を考える （事前事後学修課題の内容） 長時間保育についてそれぞれの経験を振り返っておく

授業名	乳児保育Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2429
英文名	Infant Care	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の発達と保育園の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、保育所の環境構成について理解を深め、子どもにとって過ごしやすい環境をつくる方法を具体的に考える。また、乳児向けの絵本をどのように子どもと楽しむかを考えたり、子どもがどのようにあそぶかを考えて、おもちゃをみたり作ったりする。そうした作業を通して、0歳から2歳の子どものイメージを把握し、子どもが集団の中で安心して過ごせるようになるための指導計画やその実際の展開の工夫を理解していく。
学修成果 到達目標	1）乳児保育の理念と保育所おける乳児保育の歩み、現状と課題について理解することができている。 2）0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解している。 3）絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになっている。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	①乳児保育研究会編　『改訂新版　資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房） ②保育計画研究会編　『改訂版　実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方（ひとなる書房） ③西川由紀子　『子どもの思いにこころをよせて』（かもがわ出版） ④厚生労働省　『保育所保育指針』
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートなどについては、授業で解説を行う。授業への質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	乳児保育Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた(保育所の普及)	（学修内容）子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する （事前事後学修課題の内容） ①第5章と④第2章1.2を読んで、授業のイメージをつくってくる
第2回	乳児保育のとらえ方（家事分担）	（学修内容）子育て家庭の家事分担について考える （事前事後学修課題の内容） ①第5章を読んで授業のイメージをつくってくる
第3回	乳児保育のあゆみ	（学修内容）乳児保育の歴史を解説する （事前事後学修課題の内容） ①第7章を読んで授業のイメージをつくってくる
第4回	０歳児の発達とあそび	（学修内容）0歳児の発達とあそびについて解説する （事前事後学修課題の内容） ①第1章2，第2章3、第3章の0歳児の部分、③の0歳児の部分を読んで授業のイメージをつくってくる
第5回	0歳児の保育の実際	（学修内容）0歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する （事前事後学修課題の内容） ②の0歳児の部分を読んで、前の週の授業を復習しておく
第6回	１歳児の発達とあそび	（学修内容）1歳児の発達とあそびについて解説する （事前事後学修課題の内容） ①第1章2，第2章3、第3章の1歳児の部分、③の1歳児の部分を読んで授業のイメージをつくってくる
第7回	1歳児の保育の実際	（学修内容）1歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する （事前事後学修課題の内容） ②の1歳児の部分を読んで前の週の授業を復習しておく
第8回	2歳児の発達とあそび	（学修内容）2歳児の発達とあそびについて解説する （事前事後学修課題の内容） ①第1章2，第2章3、第3章の2歳児の部分と③の2歳児の部分を読んでくる
第9回	乳児にとっての絵本と手あそび	（学修内容）乳児にとっての絵本や手あそびの楽しさを解説する （事前事後学修課題の内容） 乳児向け絵本をみてくる
第10回	０・１・２歳児クラスの保育環境とおもちゃ	（学修内容）保育室の環境づくりやおもちゃの配置を、子どもの発達や保育のねらいとの関連で解説する （事前事後学修課題の内容） 自分なりに保育室のレイアウトを考えてくる
第11回	目標に応じた保育室のレイアウトづくり（グループワーク）	（学修内容）各自がつくってきたレイアウトを交流し、グループでそれをひとつの保育室のレイアウトにまとめる （事前事後学修課題の内容） 自分の思い描く保育の目標と保育室のイメージをグループの人に伝えられるよう準備してくる
第12回	保育室のレイアウト発表と保育事故の防止	（学修内容）保育室のレイアウトをグループ毎に発表した後、保育事故防止の留意点を解説する （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をグループで協力して行ってくる
第13回	乳児保育とかみつきについて	（学修内容）乳児の集団保育にみられる困った行動のひとつであるかみつきについて解説した上で、保育を見直す視点を伝える （事前事後学修課題の内容） ③のp75からｐ79を読んで授業のイメージをつくってくる
第14回	乳児保育の指導計画、記録と評価	（学修内容）乳児保育における指導計画、記録と評価について解説する （事前事後学修課題の内容） ①第4章と④第1章3を読んで授業のイメージをつくってくる
第15回	手作りおもちゃの交流	（学修内容）各自が作ってきた手作りおもちゃの解説を行い、さまざまな手作りおもちゃのよさを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 手作りおもちゃを作成し持参するとともに、そのレポートをまとめてくる

授業名	教育の基礎と制度（中高・栄養）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1704
英文名	Principles of Education	開講時期	秋学期			必修選択	選択
担当者	盧　珠妍・大倉　健太郎	対象学生	生活情報1回生（発展科目）、食物栄養1回生（資格科目）、日本文化1回生（資格科目）				

授業の概要	人間は一生涯（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義ではまず、「教育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育は必要なのか」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育という営みの必要性と可能性について様々な思想を読み解きながら、理念的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育の役割や課題、学校と地域との連携について検討する。その上で最終的に、生涯学習と教育の現状と今後を展望し、将来教育の実践者としての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。
学修成果到達目標	1）教育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。 2）教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解し説明できる。 3）教育の制度について理解し説明できる。 4）現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。 5）生涯学習社会における教育の現状と課題について理解し説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法							
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	特定のテキストを使用せず、資料を配布する。
参考書	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年。 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	レスポンスペーパーを含む小レポートについては翌週の授業時にコメントする。
留意事項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。
オフィスアワー	初回の授業時アナウンスする。 盧　）研究室に日時を掲示するので、確認すること。 大倉）授業終了後に実施する。
実践的教育	

授業名	教育の基礎と制度（中高・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。私たちにとって教育とはどのような意味をもつのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認する。自分がこれまで受けてきた教育を振り返りまとめる。
第2回	教育とは何か（１）―教育の意味と意義―	（学修内容）自分の教育経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。教育について理念的・思想的・原理的に考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、自分が抱く教育観について検討を加える。
第3回	教育とは何か（２）―教育の必要性―	（学修内容）人間にとってなぜ教育は必要なのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教育の必要性について自分の考えをまとめる。
第4回	教育とは何か（３）―教育の可能性―	（学修内容）人間の能力と教育について人間学的な視点から考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教育の可能性について自分の考えをまとめる。
第5回	教育思想と歴史（１） ―近代学校教育の成立とその背景―	（学修内容）学校がなぜ生まれ、どのように発展したのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、学校教育の成立について考えを深める。
第6回	教育思想と歴史（２）―日本の教育制度―	（学修内容）日本の教育制度がどのように変容してきたのかを歴史的に考察する。 （事前事後学修課題の内容） 日本の教育制度の変容について理解を深める。
第7回	子どもと教育思想（１）―近代教育と子ども―	（学修内容）近代ヨーロッパにおける子どもについての考えの転換と教育の変化について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、学修内容についてまとめる。
第8回	子どもと教育思想（２）―現代教育と子ども―	（学修内容）現代教育における子どもの存在についてアリエスの『子供の誕生』をもとに考える。 （事前事後学修課題の内容） 現代教育における子どもの存在についてまとめる。
第9回	教育関係法規の理解	（学修内容）教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則など公教育制度を構成する法令と教育行政を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教育関係法規を比較しまとめる。
第10回	学校の目的と役割の理解	（学修内容）年間活動計画、地域連携、事故・災害対策など学校・学級運営における重要事項を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、学校・学級運営における事項について理解を深める。
第11回	子どもと成長（１）―カリキュラム―	（学修内容）学校教育の系統主義と経験主義を比較しながら、子どもの成長とカリキュラムの関係について考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、学修内容についてまとめる。
第12回	子どもの成長（２）―学力と評価―	（学修内容）学校における教育目標と学力、またその評価が子どもの成長とどのように関わっているのか考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、教師の立場から子どもの成長について吟味する。
第13回	子どもと成長（３）―発達と生成―	（学修内容）子どもの成長を「子ども‐大人」の関係性から考える。 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を参照しながら、子どもの成長について理解を深める。
第14回	現代における教育の課題	（学修内容）現代における教育の課題について議論し考える。 （事前事後学修課題の内容） 教育の課題について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第15回	まとめと考察―教育のあり方について―	（学修内容）これまでの授業内容を踏まえて、教育とは何かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 （事前事後学修課題の内容） ５～10分程度の発表準備をする。

授業名	特別支援教育（家庭・栄養）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2722
英文名	Special Needs Education (Home Economics・Nutrition)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	林　静香	対象学生	生活情報2回生（発展科目）、食物栄養2回生（資格科目）				

授業の概要	近年、教育現場には全体の６．５%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれるなかで、さまざまな支援の必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要がある。 本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようすすめていく。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいく。
学修成果到達目標	1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる 2）発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする児童・生徒の心身の発達について理解を深めることができる 3）支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学び、理解することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２０分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	資料を提供する
参考書	山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ　2019年 玉村公二彦編著『新版　キーワードブック　特別支援教育　インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ　2019年
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。
留意事項	授業内で出る課題については必ず期日に提出してください。（期日後の提出は減点、未提出の場合は欠席となります） 教育、特別支援についての時事問題は意識して学び、受講して下さい。
オフィスアワー	事前にメールでアポをとっていただければ調整します
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設に勤務（保育士）した経験を活かし、現状や実態を伝え実践的な授業を進める。

授業名	特別支援教育（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ 障害者差別解消法、合理的配慮についての理解を深める （事前事後学修課題の内容） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身のイメージする障害像をまとめておく
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 個別の支援計画について理解する （事前事後学修課題の内容） 指定された資料部分を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態	（学修内容）支援の必要な子どもたちにどのような支援方法が（教育形態、加配制度）があるのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された資料部分を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された資料部分を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第6回	発達に課題のある子どもについての理解	（学修内容）発達障害者支援法について理解し、どのような困難を抱える人が支援の対象となるのか、どのような援助方法がのぞまれるのかを理解する （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第7回	自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ）児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、 どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第8回	限局性学習症（ＳＬＤ）児、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）児への理解と援助、配慮すべき留意点小テスト	（学修内容）限局性学習症・注意欠如・多動症の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第9回	情緒に課題のある子どもに関する理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）情緒障害の諸症状について理解し、どのような援助がのぞましいか考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された内容に従って予習復習しておく
第10回	保護者支援について	（学修内容）障害のある子どもをもつ保護者の心理や特性を理解し、どのような援助がのぞましいか考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された動画を視聴する
第11回	視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害・聴覚障害・言語障害び特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第12回	身体に障害のある子ども（肢体不自由児・医療ケア児）への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体障害にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、各々に求める援助について理解を深める （事前事後学修課題の内容） 指定された題目について調べてくる
第13回	特別な支援が必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）支援が必要とされる家庭環境で育つ子どもに関する理解とともに援助方法について学ぶ（外国籍家庭・貧困家庭など） （事前事後学修課題の内容） 指定された動画を視聴する
第14回	ユニバーサルデザインについて	（学修内容）ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて理解を深め、支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについて調べておく
第15回	まとめ （小テスト）	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容） 今までの受講内容を復習しておく

授業名	道徳教育論（中・栄養）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1705
英文名	Theory of Moral Education	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	毛利　豊和	対象学生	生活情報1回生（発展科目）、食物栄養1回生（資格科目）、日本文化1回生（資格科目）				

授業の概要

いじめ・不登校・ＳＮＳ問題をはじめとする生きる力を育てる上での現代の課題を考えた場合、道徳教育に求められるものは大きい。その道徳教育の基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。

授業内容
○　道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。
○　実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。
○　指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。

学習方法
○　講義　　○　議論（全体・グループ）　　○　演習（全体・グループ）
○　模擬授業（考察・実習）　　○　授業外活動：宿題（資料収集・実施演習）
○　一人学習

学修成果到達目標

到達目標
①　道徳教育の意義と魅力を実感する。
②　生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。
③　道徳教育を推進するためのスキルを身につける。
④　社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション
■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)

テキスト

「先生が楽しい！道徳授業の作り方」
出版社：三晃書房　　定　価：￥１５００－
発　行：平成31年3月29日
図書分類コード：Ｃ３０３７
ＩＳＢＮコード：９７８－４－７８３０－８０１８－３

参考書

文科省　中学校学習指導要領の解説　特別の教科道徳編　（平成29年）

課題に対するフィードバックの方法

レポート：添削後返還
テスト　：希望者のみ返還

留意事項

資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。
授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。
今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。

オフィスアワー

担当授業終了後に、実施します。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：小学校教諭・教頭として実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。
また、地域保護者との連携を理解できるよう実践してきた取り組みを紹介する。

授業名	道徳教育論（中・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	（学修内容）オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等) 理　論：道徳教育に求められること　実践例：「もしも私が神様に」 （事前事後学修課題の内容） 目標 道徳教育と日常生活との関連を意識する。
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科　道徳	（学修内容）理　論：道徳教育と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「１こでも100このりんご」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	（学修内容）理　論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん（僕の生まれた日）」他 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント
第4回	現代的な課題　豊かな心① 指導技術　　中心教材・補助教材	（学修内容）理　論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」漢字で学ぶ「辛・優」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第5回	現代的な課題　豊かな心② 指導技術　　1時間の流れ	（学修内容）理　論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「ＣＭ」ポスターで学ぶ （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第6回	現代的な課題　豊かな心③ 指導案の書き方①　主題	（学修内容）理　論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント 中心発問を考える
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方②　中心発問・導入・終末	（学修内容）理　論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案
第8回	道徳教育における発達段階 スピーチ学習（チームザ～～）	（学修内容）理　論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンタで学ぶ「数字送り」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案
第9回	道徳教育における評価 スピーチ学習（リーダーシップ）	（学修内容）理　論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案
第10回	道徳教育の内容　Ａの領域 スピーチ学習（フォロアーシップ）	（学修内容）理　論：Ａの領域 実践例：ＴＰＯに学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案・教材
第11回	道徳教育の内容　Ｂの領域 模擬授業①グループ	（学修内容）理　論：Ｂの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・声・立ち位置 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案・教材
第12回	道徳教育の内容　Ｃの領域 模擬授業②グループ	（学修内容）理　論：Ｃの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・教材の魅力提示の工夫 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案・教材
第13回	道徳教育の内容　Ｄの領域 模擬授業③全体	（学修内容）理　論：Ｄの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・発問の工夫 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案・教材
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業④全体	（学修内容）理　論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・分析・教材の力・全体協議の在り方 （事前事後学修課題の内容） 前時のプリント・指導案・教材
第15回	まとめ	（学修内容）・指導者の研究（指導力向上への意欲と自己研鑽） ・教育指導者としてのプラス思考・テストについて （事前事後学修課題の内容） １～１４回の授業プリント

授業名	特別活動（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3767
英文名	Special Activities	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	前田　学	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性伸長を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。 中でも、特別活動において育成を目指す資質・能力における三つの重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意識した指導のあり方に重点を置き、生徒理解や生徒指導・道徳教育・キャリア教育との関連を踏まえながら理解を深める。 また、学級活動(2)と学級活動(3)については学習指導案を作成し、授業づくりの基礎基本を習得できるようにする。
学修成果到達目標	1）特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。 2）特別活動の目標と内容について理解し、生徒に育てたい力を明確に意識した指導観をもって指導案に書くことができる。 3）特別活動の特質や汎用性を生かし、各教科等との相互の関連を図りながら、中学校教育の目的や目標を達成を目指すことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　15分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	テキストはなし
参考書	文部科学省「中学校指導要領解説　特別活動編」平成29年
課題に対するフィードバックの方法	毎時間，授業後の振り返りを回収し、次時に解説を行います。
留意事項	特別活動は、多種多様な共生社会の形成者としての資質・能力を育成する重要な教育活動です。生徒と向き合い、よりよい人間関係の形成、集団や社会で役に立つ自己の生き方の形成、なりたい自分に確かに向かおうとする意欲の形成に取り組みたい人にはぜひ履修してほしいです。
オフィスアワー	授業終了後　オフィスアワーを設ける。
実践的教育	

授業名	特別活動（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動① 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を考察する。	（学修内容）「特別活動とは何か？」特別の目標と育てたい資質・能力を知り、「なすことによって学ぶ」意味を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、特別活動の意義を理解する。
第2回	学校教育と特別活動② 特別活動で育てる力とその実践について理解する。	（学修内容）「特別活動で育てる力は何か？」育てたい資質・能力の３観点から特別活動のよりよいあり方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、特別活動で育てたい力を育てる実践についての理解を確かなものにする。
第3回	学級活動① 学級活動の目標と内容及び学級会の事前指導と準備について理解する。	（学修内容）学級活動の目標と内容について理解するとともに、学級会の議題や提案理由、司会グループの役割と話合い活動の準備について知る。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会の事前活動の指導のポイントを確かなものにする。
第4回	学級活動② 学級経営と学級目標の関連、仲間とつながる学級会について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級目標に向かう活動としての学級会で大切にする議題や提案理由の意義を知り、話合い活動や実践活動を通して育てる力について考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会における指導のポイントを確かなものにする。
第5回	学級活動③ 学級活動(1)の話合い活動（学級会）について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級会の合意形成について理解し、つながりの実感できる話合いを工夫する。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級会における合意形成の重要性とその意義を理解する。
第6回	学級活動④ 学級活動(1)の事後の活動や係活動について具体的な実践を知り、指導の見通しをもつ。	（学修内容）学級活動(1)の事前活動、話合い活動、事後の「ひとまとまりの活動」や、係活動について知り、育てるべき力を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級集会の活動や係活動についての理解を確かなものとする。
第7回	学級活動⑤ 学級活動(2)の学習内容と指導の要点を捉える。	（学修内容）学級活動(2)の特徴とねらい、内容の考え方、学習内容とその指導の要点などについての理解を深め、学級活動(2)の教育的意義を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級活動(2)の学習内容と指導の要点についての理解を確かなものにする。
第8回	学級活動⑥ 学級活動(3)の学習内容と指導の要点を捉える。	（学修内容）学級活動(3)の特徴とねらい、内容の考え方、学習内容とその指導の要点などについての理解を深め、学級活動(3)の教育的意義を考える。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに振り返り、学級活動(3)の学習内容と指導の要点についての理解を確かなものにする。
第9回	学級活動⑦ 学級活動(2)あるいは 学級活動(3)の指導案を作成し、具体的な学習内容や指導のイメージをもつ。	（学修内容）学級活動(2)及び(3)の指導案の作成方法の理解を図り、指導案を作成できるようにする。 （事前事後学修課題の内容） 授業時間で作成した指導案を見直し、修正を加えたり追記したりして推敲し、第１１回までに完成させる。
第10回	特別授業「ごんぎつねと特別活動」 特別活動で育てる資質・能力における３つの重要な視点で、童話「ごんぎつね」における「ごん」の考え方や行動の仕方について話し合う。	（学修内容）「人間関係形成・社会参画・自己実現」の視点で、童話「ごんぎつね」における「ごん」の考え方や行動の仕方について話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前に童話「ごんぎつね」を読んで、話の内容を把握しておく。。
第11回	生徒会活動と学校行事 自治能力を育てるための「生徒会活動」や学校文化を創造する学校行事の具体的な内容の理解を図る。	（学修内容）異年齢集団による交流の視点で生徒会活動や学校行事の意義、教育的効果などを考え、具体的な指導のあり方を理解する。。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに、生徒会活動や学校行事の意義、教育的効果についての理解を確かにする。
第12回	特別活動と道徳教育① 道徳教育における特別活動の果たす役割を明らかにする。	（学修内容）道徳的実践の場とされる特別活動が、道徳教育で果たす役割を考察し、その意義を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに、道徳教育における特別活動の役割について理解を確かにする。
第13回	特別活動と道徳教育② 道徳教育における両輪とされる特別活動と道徳科との関連を考察し、その両輪を効果的に駆動させる教育実践について知る。	（学修内容）特別活動と道徳科の両輪を効果的に駆動させる具体的な実践について考え、生徒のよりよく生きる力を育てる指導についての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 講義資料をもとに、特別活動と道徳科の関連について理解を確かにする。
第14回	特別活動と生徒指導及び人権教育 特別活動と生徒指導及び人権教育との関連について明らかにし、特別活動の果たす役割をそれぞれの視点から考察する。	（学修内容）生徒指導の実践上の４つの視点から特別活動の実践を捉える。また人権教育で役割を果たす特別活動の実践のあり方について考える。 （事前事後学修課題の内容） 人間関係形成、社会参画、自己実現を重要な視点とする特別活動と生徒指導・人権教育の関連を講義資料から振り返る。
第15回	特別活動とキャリア教育 特別活動とキャリア教育をそれぞれで育てる基礎的・汎用的能力を関連付ける。	（学修内容）持続可能な社会の創り手としての基礎的・汎用的能力を育てる特別活動とキャリア教育の関連を理解する。 （事前事後学修課題の内容） キャリア教育の要といわれる特別活動の働きについて、講義資料から振り返り理解の定着を図る。

授業名	生徒・進路指導論（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3768
英文名	Theory of Student Guidance	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	岡田　敏之	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	・実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論や方法を習得する。 ・進路指導・キャリア教育について論究し、学校現場での実践を考察する。
学修成果到達目標	(1)　生徒指導の全体像が理解でき、それを具現するために不可欠な内容・方法を認識できる。 (2)　進路指導・キャリア教育について理解でき、それを教育実践に生かせることができる。 (3)　実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 (4)　仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	文部科学省『生徒指導提要』2022，デジタル版（文部科学省ホームページよりダウンロード可）
参考書	『「支える生徒指導」の始め方』新井肇編著（2023教育開発研究所） 『生徒指導・進路指導』安達未来・森田健宏編著（2020ミネルヴァ書房）
課題に対するフィードバックの方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。 また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付し、必要に応じてコメントを付けて返却します。
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える学びを重視します。
オフィスアワー	担当授業終了後に行います。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：中学校、教育委員会、警察の勤務において経験した具体的実践例を話します。

授業名	生徒・進路指導論（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。現代の教育を取り巻く社会の状況を理解する。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：現代の教育を取り巻く課題について調べておく。 事後：現代の教育課題について、さらに深める。
第2回	生徒指導・進路指導の基本概念（意義・原理）	（学修内容）生徒指導及び進路指導の基本概念を理解する。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.12-28を読み、要点を整理する。 事後：生徒指導のあるべき姿をさらに深める。
第3回	望ましい集団づくり（すべての生徒を対象とした生徒指導の進め方）	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.55-67を読み、要点を整理する。 事後：より良い集団づくりのあり方についてさらに深める。
第4回	学級担任等が行う生徒指導・教育相談	（学修内容）教育相談の全体像と生徒指導とのつながり、学級経営のあり方を学ぶ。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：予習資料「学級担任が行う教育相談」を読み、要点を整理する。 事後：教育相談と生徒指導のつながりについてさらに深める。
第5回	問題行動への対応	（学修内容）問題行動の発生時の対応のあり方や未然防止について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.68-80を読み、要点を整理する。 事後：問題行動発生の対応について、さらに深める。
第6回	子どもの規範意識を育てる－非行防止教室－	（学修内容）実際に非行防止教室を体験し、規範意識の育成について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.153-170を読み、要点を整理する。 事後：子どもの規範意識を高める方策について調べる。
第7回	いじめ問題の理解と対応Ⅰ－いじめの原因－	（学修内容）いじめ発生時の対処のあり方について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：過去のいじめ重大事態について調べる。 事後：いじめ問題が発生した際の具体的な対応を考察する。
第8回	いじめ問題の理解と対応Ⅱ－未然防止に向けて－	（学修内容）いじめ問題の基本認識を深め、未然防止について考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.120-140、240-254を読み、要点を整理する。 事後：いじめの未然防止のあり方についてさらに深める。
第9回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状を理解し、支援のあり方を考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.221-230を読み、要点を整理する。 事後：不登校生徒の支援のあり方と未然防止についてさらに深める。
第10回	保護者対応	（学修内容）保護者対応の基本的なあり方を学ぶ。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容） 事前：「生徒指導提要」p.107-110を読み、要点を整理する。 事後：保護者とのより良い連携について深める。
第11回	子どもの意欲を育てる－コーチングスキルより－	（学修内容）コーチングの基本的な考え方を理解し、そのスキルを身につける。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「コーチング」について、YouTube等の動画を視聴する。 事後：「コーチングの５つのプロセス」の質問例をまとめる。
第12回	「職業指導」から「進路指導」そして、「キャリア教育」へ（進路指導・キャリア教育の基礎）	（学修内容）「キャリア教育」で身につけるべき能力について理解する。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：予習資料　「キャリア教育と進路指導」を読み、要点を整理する。
第13回	個々の発達を踏まえたキャリア教育（生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導）	（学修内容）個々の発達を踏まえたキャリア教育と職場体験学習について学ぶ。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「効果的な職場体験活動の在り方」を読み、要点を整理する。 事後：キャリアを意識した子どもへの対応のあり方についてまとめる。
第14回	キャリア意識を育むカリキュラムの構成全体の生徒を対象とした進路指導・キャリア教育）	（学修内容）キャリア教育を踏まえたカリキュラムマネージメントについて考える。 ＰＢＬ、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：「各教科におけるキャリア教育」を読み、要点を整理する。 事後：教科におけるキャリア教育の視点について深める。
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」 生徒指導・進路指導のまとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：夜間中学に関する予習資料を読み、要点を整理する。 事後：子どもの意欲を高める生徒指導のあり方について深める。

授業名	幼児と健康	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	福井　百合子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本授業では、領域「健康」の内容をふまえつつ、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、養護および教育に必要な専門的知識をもとに、乳幼児の特徴をふまえた具体的な保育、援助が考えられる力を身につけることをめざす。
学修成果到達目標	1．乳幼児の健康課題と乳幼児にとっての健康の意義を理解し、心とからだの健康のための支援を考えることができる。 2．乳幼児の心と身体の発育の過程と特徴を理解し発達過程に応じたかかわりを考えられる。 3．幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を理解し、健康を維持するための生活習慣の獲得支援について考えることができる。 4．幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解できる。 5．幼児期の運動発達の特徴と運動遊びの意義を理解できる。 6．乳幼児の身体活動（多様な動きの経験）とそれを引き出す配慮について考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　課題(ミニテスト込)提出　)■(　学習ノート　)
テキスト	無藤隆(監)・倉持清美(編)『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』萌文書林
参考書	●井狩芳子『演習 保育内容 健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」―基礎的事項の理解と指導法―』建帛社 ●清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 ●酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか？』萌文書林 ●勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい
課題に対するフィードバックの方法	ミニテストや課題などは提出後に答えと解説を表示、あるいは一部、全体で内容を共有する。
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。（適時確認すること有） ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・子どもの健康増進と健やかな育ちを支援するための保育・幼児教育の中で求められる観点を意識しよう。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。
オフィスアワー	授業ガイダンス時に知らせる。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師として救急、産婦人科、小児科の外来および病棟での実務経験から、乳幼児の様子や、病気・けがの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。

授業名	幼児と健康

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の捉え方と幼児にとっての健康と健康づくり 領域「健康」	（学修内容）授業の案内。子どもにとっての健康の意義と保健活動の重要性、子どもの健康づくり、領域「健康」について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第１章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第2回	幼児教育の基本 養護と教育の一体化 視点と領域	（学修内容）幼児教育の基本と、年齢ごとの特徴に応じた領域「健康」のねらい、内容(視点から領域へ)について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第１章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第3回	小学校教育の基盤となる資質や能力の育み 環境を通じた学び 乳幼児にふさわしい生活	（学修内容）学校教育へ向けた資質や能力の育みと、それに必要な環境と遊びについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第１章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	子どもの育ちと領域「健康」① 身体発育、運動機能の発達 個人差、経験値の差	（学修内容）子どもの身体発育、運動機能の発達の過程に応じて育ちを引き出す、個人差や建研値の差を考慮した援助についてワークを通じて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第２章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの育ちと領域「健康」② 情緒の安定 愛着形成と信頼 自己肯定感	（学修内容）子どもの情緒の安定と、愛着形成の重要性について学び、乳幼児へのかかわりや環境について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第２章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第6回	現代の子どもの健康に関する現状と課題 子どもの生活や遊びと運動機能の発達 心身への影響 集団保育の役割	（学修内容）「健康」にかかわる現状と課題から、保育で留意したいこと、集団保育の役割について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第３章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの遊びと、健康および育ち 子どもにとっての遊びの意義 動機付けと繰り返し	（学修内容）子どもにとっての遊びの意義、主体的な遊びや繰り返しを引き出す工夫について学び、事例を通してワークやディスカッションを行い考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第４章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第8回	基本的生活習慣の自立に向けた援助 園生活の中で育む生活習慣 園と家庭の連携、経験値の差	（学修内容）生活の中での基本的生活習慣(食事、睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱)の習得、自立に向けた援助について事例意を通して考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第２章、第５章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第9回	子どもの安全教育 園での安全管理と安全教育 危険回避能力の育成、リスクとハザード 安全の意識の育む	（学修内容）園での安全教育と、子どもの安全な生活を作り出す力の育成の方法を学ぶ。ハザードマップ作成GWにより自己の危機意識を持つ機会を得る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第６章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	領域「健康」子どもの安全教育の構想① 個人で構想しグループ内で共有	（学修内容）子どもの安全教育について構想する。個人考察の後、グループワークを行い、構想内容のシェアと検討を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：安全教育の活動内容について、いくつか思い浮かべておく。事後：グループ内で話し合った内容を整理する。作業の進捗状況を提出。
第11回	領域「健康」子どもの安全教育の構想② グループで構想内容を検討	（学修内容）子どもへの安全教育についてグループに分かれてテーマを決め、ねらい・活動内容・具体な準備・方法・手順を考え、整理して書く。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループで考えた内容を整理し必要な情報や資料を集める。事後：グループ作業の進捗状況を配布プリントに書き、指定の方法で提出。
第12回	領域「健康」子どもの安全教育の構想③ 各グループの構想内容の全体発表	（学修内容）構想内容の発表(各グループ5～6分)を通じて、考案内容の共有と成果から実践へ向けての学びを得る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループでの検討内容、集めた情報や資料を整理。事後：発表資料(PPTやプリント)の作成、発表準備。作業の進捗状況を提出。
第13回	領域「健康」子どもの安全教育の構想④ 考案内容の発表と振り返り	（学修内容）全体の振り返りの共有を行い、気づきや学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループ毎に活動内容、活動テーマ、配慮や工夫をした点を5～6分で発表できるよう準備する。事後：資料と振り返りを提出。
第14回	領域「健康」現代社会における課題と取り組み 保育者の役割	（学修内容）現代の子どもの健康に関する今後の課題と目指したい取り組み、保育施設および保育者の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書 第７章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	定期試験ガイダンス 全体の振り返り	（学修内容）定期試験の案内。全体の振り返りと質疑応答。 （事前事後学修課題の内容） 授業全体の復習をしておく。

授業名	幼児と人間関係	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2444
英文名	Infants and Human Relations	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山川　宏和	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	「幼稚園教育要領」の領域「人間関係」について、ねらいや内容を理解し、幼稚園教育要領等に示される「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」について学ぶ。また、幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を実例を通じて学ぶ。さらに、事例を通して、発達の過程における人とかかわる力の育ちにおける保育者が果たす役割について学ぶ。実例を通じて学ぶ際には、より理解を深めるために、適宜グループワークを行う。
学修成果到達目標	1.領域「人間関係」のねらいや内容について説明することができる。 2.人とかかわる力の育ちと発達の関連性について説明することができる。 3.個の発達と集団保育の中で育つ力について理解し、子どもの人間関係を見る視点について意見を述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能	
◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	田宮縁『体験する・調べる・考える　領域「人間関係」〈第２版〉』萌文書林、2018年
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内の振り返りコメントを確認し、返却して解説する。
留意事項	アクティブラーニングに積極的に参加すること
オフィスアワー	毎週１回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	幼児と人間関係

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代社会における子どもの人間関係	（学修内容）子どもの人間関係に影響を与える社会状況について考える （事前事後学修課題の内容） 1年次の学びを振り返っておく
第2回	生態的環境としての関係	（学修内容）子どもを取り巻く人的環境、社会、文化について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture２を参照しておく
第3回	領域「人間関係」の基礎知識①　人間関係のねらい	（学修内容）領域「人間関係」の３つのねらいについて考える （事前事後学修課題の内容） Lecture４を参照しておく
第4回	領域「人間関係」の基礎知識②　人間関係の目的	（学修内容）幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらいや目的について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture４を参照しておく
第5回	領域「人間関係」の基礎知識③　アタッチメント	（学修内容）アタッチメントスタイルについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） Lecture３を参照しておく
第6回	０・１・２歳児の人間関係①	（学修内容）あそびのもたらす効果について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture５を参照しておく
第7回	０・１・２歳児の人間関係②	（学修内容）友だちとのふれあいや保育者とのかかわりについて考える （事前事後学修課題の内容） Lecture4を参照しておく
第8回	３・４歳児の人間関係①	（学修内容）想像や表現の楽しさについて考える （事前事後学修課題の内容） Lecture5を参照しておく
第9回	３・４歳児の人間関係②	（学修内容）居場所、自己主張、自己抑制について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture6・７を参照しておく
第10回	５歳児：園生活と人間関係	（学修内容）保育者・友だちとの人間関係について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture8を参照しておく
第11回	個の育ちと共同性の育ち	（学修内容）支援の必要な子どもとのかかわりについてグループワークを通して考える （事前事後学修課題の内容） Lecture9を参照しておく
第12回	保護者との関係	（学修内容）保育者の専門性について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture10を参照しておく
第13回	保育者同士の関係	（学修内容）保育者の連携、共通理解について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture11を参照しておく
第14回	人間関係を支える感覚	（学修内容）コミュニケーション技法について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture12を参照しておく
第15回	人間関係を支える体験	（学修内容）保育者としての成長について考える （事前事後学修課題の内容） Lecture13を参照しておく

授業名	幼児と環境	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2445
英文名	Infants and Environment	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	荘厳　茶茶	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	子どもたちが様々なことを知り、学び、深めていく上で、環境がどのような役割を果たしているか、環境との相互作用が子どもたちの学びや発達にどのように影響しているかを学ぶ。また、多面的な構成要素の複合体である環境について、個々の環境因子の特徴と意義を学び、教育上の「ねらい」とのつながりを考える。
学修成果到達目標	1)子どもを取り巻く環境の要素とその役割を理解し、説明することができる。 2)環境との相互作用が発達に及ぼす影響について理解し、説明することができる。 3)子どもの発達に即した保育環境整備の「ねらい」を捉えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。
留意事項	自分自身が経験・体験したことのある季節行事や地域行事、普段の身の回りの自然、自分を取り巻く人々等、自分が関わったり影響を受けたりしている事物や人物について、意識的に考える準備をすることが望まれる。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。
実践的教育	

授業名	幼児と環境

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業内容の概略、および授業計画の説明 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する。
第2回	就学前教育から小学校教育へ(1)―領域「環境」の定義―	（学修内容）就学前教育と領域「環境」とは （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	就学前教育から小学校教育へ(2)―保幼小連携―	（学修内容）保育所／幼稚園／こども園と小学校との連携を踏まえた教育 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	子どもの理解を深めるために(1)―園生活とは―	（学修内容）子どもにとっての園生活とは （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	子どもの理解を深めるために(2)―子ども理解とは―	（学修内容）子どもを理解することとは （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	子どもの理解を深めるために(3)―環境としての保育者とは―①	（学修内容）保育者の役割の多面性 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	子どもの理解を深めるために(3)―環境としての保育者とは―②	（学修内容）保育者の具体的業務 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	自然環境とのかかわり(1)―自然体験の定義と意義―	（学修内容）自然体験の意義と必要性 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	自然環境とのかかわり(2)―自然体験の実践　その1―	（学修内容）植物・動物・季節への興味関心を育む環境づくり―感触遊び― （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	自然環境とのかかわり(3)―自然体験の実践　その2―	（学修内容）植物・動物・季節への興味関心を育む環境づくり―季節の動植物― （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	自然環境とのかかわり(4)―「環境」保育と「生活科」―	（学修内容）就学前教育と小学校教育「生活科」における自然観察とは （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	物的環境とのかかわり(1)―身近なものとのかかわり―	（学修内容）身近なものとかかわることとは （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	物的環境とのかかわり(2)―身近なものとのかかわりと社会性―	（学修内容）身近なものを大切にする気持ちを育むために （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	社会環境とのかかわり	（学修内容）地域とのかかわり、行事の意義と役割／グループ・ディスカッション （事前事後学修課題の内容） 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	（学修内容）14回の学修内容の総括、振り返り （事前事後学修課題の内容） 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授業名	幼児と言葉	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2446
英文名	Infants and Language	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	柿本　真代・西川　由紀子	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	当該科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、 想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けられるようにする。
学修成果 到達目標	l)人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける。 7) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	プリントを配布します。
参考書	西川由紀子(2003)子どもの思いにこころをよせて　０．１．２歳児の発達　かもがわ出版 西川由紀子(2013）かかわりあって育つ子どもたち　2歳から5歳の発達と保育　かもがわ出版
課題に対するフィードバックの方法	授業の感想、質問は、翌週の授業のはじめに紹介して、復習することとします。その他の課題については、適宜、発表の機会などを設けます。
留意事項	
オフィスアワー	初回授業で説明します。
実践的教育	

授　業　名	幼児と言葉

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「言葉」とはなにか	（学修内容）コミュニケーションをする上でのことばの機能を実感する （事前事後学修課題の内容） ことばの機能を考えてくる
第2回	ことばでの伝え方　語りと文字	（学修内容）ことばでの伝え方の形式を比較検討する （事前事後学修課題の内容） 語りの経験を思い出してくる
第3回	すばなしの実践	（学修内容）すばなしを小グループで実践する （事前事後学修課題の内容） すばなしの準備をしてくる
第4回	絵本の特徴	（学修内容）すばなしと絵本を比較する （事前事後学修課題の内容） 絵本を見てくる
第5回	絵本に出会う	（学修内容）テーマを決めて、絵本のリストをつくる （事前事後学修課題の内容） 絵本を見てくる
第6回	絵本の紹介	（学修内容）グループごとに絵本のリストを発表する （事前事後学修課題の内容） 発表の準備をする
第7回	紙芝居の特徴	（学修内容）すばなし・絵本と紙芝居を比較する （事前事後学修課題の内容） 紙芝居の経験を思い出してくる
第8回	紙芝居に出会う	（学修内容）実際に紙芝居を演じながら魅力を体験する （事前事後学修課題の内容） 紙芝居の経験を思い出してくる
第9回	パネルシアター・ペープサートの特徴	（学修内容）子どもにとっての楽しさを紹介する （事前事後学修課題の内容） パネルシアターやペープサートについて調べてくる
第10回	想像の世界をつくる	（学修内容）想像的探検あそびの紹介 （事前事後学修課題の内容） 幼児期の探検あそびについて調べてくる
第11回	ことばあそびを楽しむ	（学修内容）ことばあそびを紹介する （事前事後学修課題の内容） ことばあそびを考えてくる
第12回	ことばあそびの発表	（学修内容）ことばあそびの交流をする （事前事後学修課題の内容） ことばあそびを考えてくる
第13回	文字をつかったあそび	（学修内容）幼児にとっての書きことばの魅力を考える （事前事後学修課題の内容） 書きことばを獲得しはじめた頃のことを思い出してくる
第14回	はなしことばの世界をゆたかに	（学修内容）ことばと出会い、駆使するようになるまでの過程を解説する （事前事後学修課題の内容） 子どもの発達を復習しておく
第15回	書きことばの世界をゆたかに	（学修内容）書きことばとの出会いをゆたかにする工夫を解説する （事前事後学修課題の内容） 書きことばを楽しむ方法を考えてくる

授業名	音楽表現	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE2447
英文名	Musical Expression	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子・千田　浩美・阿久津　啓・永峯　翠子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	保育・教育現場で求められる音楽活動に必要な身の回りの音に対する考え方・歌唱及び簡易楽器およびピアノ等の演奏技術と表現力を習得する。特に、保育・教育現場で必要とされる子どもの歌の弾き歌いのレパートリーをできるだけ習得し、現場での音楽実践に向けた基礎力を身に付ける。実技に関しては毎回課題を与え、習熟度の確認及び指導を行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1)　子どもの歌の弾き歌いの技術と表現力を習得することができる。 2)　音楽表現活動に必要な簡易楽器の扱い方とその様々な演奏法を習得することができるだけでなく、身の回りの生活音等にも着目した音の表現活動に対する援助の視点を獲得する。 3)　初見の楽曲の読譜力を身に付けるとともに、様々なリズムによる演奏表現を習得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■(　実技　) □(　)

テキスト	『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	実技は基本的に毎回課題の達成度の確認を行い、コメントを返却する。
留意事項	レベルに合わせてクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	音楽表現

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	初見の基礎(調判定の方法）および初見実践・子どもの歌弾き歌い	（学修内容）基本的な調判定の方法と、初見を含めた演奏の際の留意事項について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 調判定の方法を復習しておく。
第2回	初見の基礎(拍子の取り方）および実践・子どもの歌弾き歌い	（学修内容）子どもの歌のテンポ設定と拍子の取り方について、初見での演奏方法も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業で課された課題を特に拍子に留意して演奏できるように復習しておく。
第3回	初見の基礎(リズム)及び実践・子どもの歌弾き歌い	（学修内容）初見でのリズムの取り方について、初見での演奏方法も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業で課された課題を、特にリズムの取り方に留意して演奏できるように復習しておく。
第4回	初見総合演習・子どもの歌弾き歌い	（学修内容）これまでの学習を踏まえた初見演奏のポイントを、実践を通して総合的に習得する。 （事前事後学修課題の内容） 授業で課された課題のポイントを整理し、正しく演奏できるように復習しておく。
第5回	第1回弾き歌い小試験	（学修内容）弾き歌い個別小試験を通して、これまでに学習した課題の到達度を確認するとともに、実践に向けての今後の課題と改善点について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 弾き歌い課題曲の練習をしておく。
第6回	伴奏付け実践演習(ハ長調）	（学修内容）旋律のみのハ長調の楽曲への伴奏の付け方とそのバリエーションについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ハ長調の伴奏付け課題の練習をしておく。
第7回	伴奏付け実践演習(ヘ長調）	（学修内容）旋律のみのヘ長調の楽曲への伴奏の付け方とそのバリエーションついて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ヘ長調の伴奏付け課題の練習をしておく。
第8回	伴奏付け実践演習(ト長調）	（学修内容）旋律のみのト長調の楽曲の伴奏の付け方とそのバリエーションについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ト長調の伴奏付け課題の練習をしておく。
第9回	伴奏付け実践演習(ニ長調）	（学修内容）旋律のみのニ長調の楽曲の伴奏の付け方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） ニ長調の伴奏付課題の練習をしておく。
第10回	移調奏実践演習(基本）	（学修内容）移調奏の基本的な考え方について学ぶとともに、実際の楽曲を通して、子どもの歌唱可能音域に対応した調での演奏法の基礎を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 移調課題(基本編)の練習をしておく。
第11回	移調奏実践演習(応用） 第2回弾き歌い小試験	（学修内容）前回の移調奏の考え方を応用し、幅広い楽曲の移調奏を習得する。 弾き歌い小試験を通して、現時点での課題と到達度を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 弾き歌い課題および移調課題(応用編)の練習をしておく。
第12回	楽器を用いた音楽表現(基本）	（学修内容）保育・教育現場で使用される頻度の高い簡易楽器を中心に、基本的な扱い方・演奏法・表現の可能性・指導の際の注意点等を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 簡易楽器の扱い方とその指導法の可能性について考えておく。
第13回	楽器を用いた音楽表現（応用）	（学修内容）保育・教育現場で比較的使用される頻度の高い楽器を取り上げ、扱い方・演奏法・表現の可能性・指導の際の注意点などを総合的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 簡易楽器を含む教育楽器の扱い方とその指導法の可能性について考えておく。
第14回	様々な音素材を用いた音・音楽表現	（学修内容）身の回りの環境に存在する様々な音など、既製の楽器以外の音素材の特徴や面白さに着目する表現活動について学ぶ。（グループワーク含む） （事前事後学修課題の内容） 楽器以外の身の回りの音に着目し、ICT機器の録音機能を使って音素材を集める。
第15回	授業の総まとめ	（学修内容）14回目までの学習の振り返りを通して、到達度を確認するとともに、音楽活動実践に向けての今後の課題と改善点について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 14回目までに学習した音楽実践課題の総まとめとをしておく。

授業名	造形表現	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2448
英文名	Formative Arts for Expressions	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	演習を通して子どもたちならではの表現を理解し，材料や用具に関する知識や技能の向上を図りながら指導のあり方を考えることができる授業を行う。個々の造形活動だけでなく，相互の助言，グループでの意見交流を通して子どもの造形表現にどれだけ寄り添い，共感し，適切な援助ができるかについて考えていく。
学修成果 到達目標	1）自ら考えて表現するねらいをもとに試したり，表現を工夫したりする。 2）友だちからのアドバイスを自身の表現に生かすことができる。友だちの表現に適切な助言をすることができる。 3）演習を通して幼児の姿を想定し，表現力を育てる指導・支援のあり方について考察することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	特になし。必要な資料は授業の中で配布します。
参考書	必要に応じて授業で指示する。
課題に対するフィードバックの方法	作品などについてはその都度口頭で評価する。
留意事項	活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参する。 作品展鑑賞やボランティアを可能な限り積極的に行う。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校、京都教育大学附属小学校、京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	造形表現

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 幼児表現教育の目的と課題	（学修内容）造形表現について，本科目の概要と学修の意義を知る。履修上の留意事項 （事前事後学修課題の内容） テキストp.158～p.174を読む
第2回	材料体験：メッセージボードづくり① ～発想と構想，材料について知ろう～	（学修内容）身近な材料について知り，メッセージボードづくりの計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 自分で発想や構想したことについて考察・感想をまとめる
第3回	材料体験：メッセージボードづくり② ～材料の特徴を生かしてつくろう～	（学修内容）身近な材料の特性を生かしながら，メッセージボードづくりをする （事前事後学修課題の内容） 材料の特徴についての考察・感想をまとめる
第4回	材料体験：メッセージボードづくり③ ～材料の特徴を生かしてつくろう～ 完成と鑑賞会	（学修内容）自分や友だちの作品をふり返りながら材料の特徴についての考察・感想を小レポートにまとめる （事前事後学修課題の内容） しくみについての考察・感想をまとめる
第5回	遊びに使うもの① ～絵本づくり　仕組みを考えよう～	（学修内容）しくみについての考察・感想を小レポートにまとめる （事前事後学修課題の内容） 絵本づくりを通しての考察・感想をまとめる
第6回	遊びに使うもの② ～絵本づくり　意見交流をしよう～	（学修内容）しかけ絵本を完成させ，発表会・意見交流会を行う （事前事後学修課題の内容） 絵本づくりの交流会を通しての考察・感想をまとめる
第7回	遊びに使うもの③ ～新聞紙を使って　どんなことができるか考えよう～	（学修内容）変身グッズについて構想し、子どもへの指導を意識しながら作品づくりをすすめる （事前事後学修課題の内容） 指導者の視点から，新聞紙遊びについての考察・感想をまとめる
第8回	遊びに使うもの④ ～新聞紙を使って　意見交流をしよう～	（学修内容）変身グッズを完成させ，発表会・意見交流会を行う （事前事後学修課題の内容） 変身発表会を通しての考察・感想をまとめる
第9回	「美しいものや心を動かす出来事に触れる」① ～初夏みつけをしよう　鑑賞に出かけよう～	（学修内容）初夏みつけをして、見つけたものの形や色などについて考察する （事前事後学修課題の内容） パンフレットのつくり方の資料を読む
第10回	「美しいものや心を動かす出来事に触れる」② ～初夏みつけをしよう　みつけたことをまとめよう～	（学修内容）初夏みつけをしてみつけた場所を造形的な視点からまとめ，パンフレットを作成する （事前事後学修課題の内容） パンフレットを完成させ提出する
第11回	プレゼンテーション ～初夏みつけの発表会をしよう～	（学修内容）パンフレットを鑑賞し合い、意見交流をする （事前事後学修課題の内容） 指導者の視点から初夏みつけを通して気付いたことをまとめる
第12回	「感じたこと，考えたことから自由にかく」① ～見立て遊びから（平面）絵に表そう～	（学修内容）見立て遊びをして思い付いたものから絵を描くことを楽しむ （事前事後学修課題の内容） 見立て遊びについて考察・感想をまとめる。
第13回	「感じたこと，考えたことから自由にかく」② ～見立て遊びから（立体）意見交流会をしよう～	（学修内容）紙を折ることで思い付いた形から作品をつくる （事前事後学修課題の内容） 見立て遊びからの作品づくりについて考察・感想をまとめる
第14回	「自分をあらわす」 ～これまでの表現方法を使って～	（学修内容）指導者の視点から，本授業で学んだ技法での表現の違いやおもしろさについてふり返る （事前事後学修課題の内容） これまでの学びをふり返り，考察・感想をまとめる。 「新しい自分」の作品を仕上げる
第15回	作品交流とまとめ・考察 ～表現（造形）と自分の作品から　作品交流会～	（学修内容）幼稚園教育要領における表現（造形）についての指導と支援の在り方についてのふり返り （事前事後学修課題の内容） 考察・感想をスケッチブックに仕上げ提出する

授業名	管理栄養士特論Ⅰ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	林　育代・猿渡　綾子・富安　広幸	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	1～3回生のこれまでの授業で学修してきた管理栄養士として必要な専門知識について、苦手な部分、理解が不十分である部分を明らかにし、確実な知識として、定着させることを目指す。 個人個人で学修を進めることが基本となるが、グループ学習の形をとり、教え合いながら学びを深める方法をとることもある。 具体的には、3回生時の12月に実施される栄養士実力認定試験において得点率60%以上を目指し、その対策を行っていく。
学修成果 到達目標	1．地域、社会の人々の健康で豊かな暮らしの実現に寄与できる管理栄養士を目指し、主体的に学ぶことができる。 2．「栄養士実力認定試験」において評価A(得点率60%以上)をとることができる知識と能力を身につけている。 3．「管理栄養士国家試験」の合格を目指し、自ら進んで学習に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	レビューブック管理栄養士2025第7版、メディックメディア（ただし、現代家政学演習Ⅰで購入済み） 2025年版栄養士実力認定試験過去問題集、全国栄養士養成施設協会（2024年）（但し、総合演習Ⅰで購入済み）
参考書	これまでに使用した管理栄養士専門基礎、専門科目の教科書全般
課題に対するフィードバックの方法	確認テストにおいてもICTを活用するなどによって振り返りを行い、知識の定着を図る。得点率の低かった者については別に補講を行う。
留意事項	管理栄養士国家試験受験予定者はこの科目を必ず受講すること。 国家試験合格を目指し、実力向上のために努力すること。原則、遅刻・欠席は認めない。 12月に実施される栄養士実力認定試験を受験し、得点率60%以上を目標とすること。栄養士実力認定試験については12月第2日曜が予定されている。日程が明らかになり次第、お知らせするので必ず受験できるように予定しておくこと。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、授業で紹介する。
実践的教育	

授業名	管理栄養士特論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）国家試験までの流れと心構え （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく。 事後：授業内容を理解し、各自これからの学修への姿勢を熟考する。
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち１-生化学および解剖・生理学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち２-病理病態学および微生物学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第4回	食べ物と健康１-食品学および調理学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第5回	食べ物と健康２-食品衛生学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第6回	基礎栄養学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第7回	応用栄養学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第8回	栄養教育論	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第9回	臨床栄養学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第10回	公衆栄養学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第11回	給食経営管理論	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第12回	社会・環境と健康-公衆衛生学	（学修内容）該当科目の復習時間のあと確認テストを実施し、解答。できなかったところについて振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：該当科目の教科書を読み、復習をしておく。 事後：確認テストでできなかったところを特にしっかり復習しておく。
第13回	栄養士実力認定試験	（学修内容）栄養士実力認定試験の受験 （事前事後学修課題の内容） 事前：これまでの授業内容を復習しておく。 事後：認定試験において不確かだったところをチェックしておく。
第14回	栄養士実力認定試験の自己採点および振り返り	（学修内容）認定試験の自己採点を行い、自分の現在のレベルと弱点を確認し、弱点の補強を行う。 （事前事後学修課題の内容） 認定試験でできなかったところを繰り返し復習しておく。
第15回	実力認定試験の確認テスト	（学修内容）認定試験について確認テストを実施し、できなかったところについては、繰り返しチェックテストを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：しっかり準備をして確認テストにのぞむこと。 事後：春休みに自分がやらねばならない学修内容を確認する。

授業名	管理栄養士特論Ⅱ	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子・根岸　裕子・森　久美子	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	「健康長寿社会の実現」に貢献できる管理栄養士の育成を目指す。 そのために必要となる専門基礎科目及び専門科目に関する知識と学修への取組姿勢の定着と向上を図る。管理栄養士特論Ⅰで学修した基礎的な内容からのレベルアップとともに、繰り返し実施する模擬テストにおいて苦手な部分、理解が不十分である部分を明らかにしながら、そこを充足させる。
学修成果 到達目標	1．地域、社会の人々の健康で豊かな暮らしの実現に寄与できる管理栄養士を目指し、主体的に学ぶことができる。 2．模擬テストにおいて、各分野の問題を50%以上正解できる。 3．「管理栄養士国家試験」の合格を目指し、自ら進んで学習に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	管理栄養士特論Ⅰで使用した ・2025年版オープンセサミシリーズ管理栄養士国家試験対策完全合格教本（上・下巻）東京アカデミー七賢出版（2024）・2025管理栄養士国家試験過去問解説集、中央法規管理栄養士受験対策研究会（2024） を引き続き使用する。
参考書	これまでに使用した管理栄養士専門基礎、専門科目の教科書全般
課題に対するフィードバックの方法	ICTを活用して解答の解説等振り返りを行い、知識の定着を図る。 模擬テストの得点率が低かった者については別に補講を行う。
留意事項	管理栄養士国家試験受験予定者はこの科目を必ず受講すること。 国家試験合格を目指して、各自、実力向上のために努力すること。 時間割で設定された曜日・時間以外についても設定される。ガイダンス時に予定を配布する。すべての回について、原則、遅刻、欠席は認めない。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、初回の授業で紹介する。
実践的教育	

授業名	管理栄養士特論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の進め方・評価方法 （事前事後学修課題の内容） 春休みの課題を仕上げて持ってくること。
第2回	社会・環境と健康　－公衆衛生学－	（学修内容）公衆衛生学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの公衆衛生学関連部分を読んでおくこと
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち① －解剖・生理学－	（学修内容）解剖・生理学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの解剖・生理学関連部分を読んでおくこと
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち② －生化学－	（学修内容）生化学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの生化学関連部分を読んでおくこと
第5回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③ －病理病態学－	（学修内容）病理病態学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの病理病態学関連部分を読んでおくこと
第6回	食べ物と健康①　－調理学－	（学修内容）調理学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの調理学関連部分を読んでおくこと
第7回	食べ物と健康②　－食品学－	（学修内容）食品学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの解剖・生理学関連部分を読んでおくこと
第8回	食べ物と健康③　－食品衛生学－	（学修内容）食品衛生学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの解剖・生理学関連部分を読んでおくこと
第9回	基礎栄養学	（学修内容）基礎栄養学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの基礎栄養学関連部分を読んでおくこと
第10回	応用栄養学	（学修内容）応用栄養学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの応用栄養学関連部分を読んでおくこと
第11回	栄養教育論	（学修内容）栄養教育論の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの栄養教育論関連部分を読んでおくこと
第12回	臨床栄養学	（学修内容）臨床栄養学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの臨床栄養学関連部分を読んでおくこと
第13回	公衆栄養学	（学修内容）公衆栄養学の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの公衆栄養学関連部分を読んでおくこと
第14回	給食経営管理論	（学修内容）給食経営管理論の基礎的な内容についての講義と確認 （事前事後学修課題の内容） オープンセサミの給食経営管理論関連部分を読んでおくこと
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの学修内容を振り返る （事前事後学修課題の内容） 自分の理解が不十分な部分を明らかにして、特論Ⅲまでに補足しておくこと

授業名	管理栄養士特論Ⅲ	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	田中　愛佳・斉藤　伸一・有田　真理	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	「健康長寿社会の実現」に貢献できる管理栄養士の育成を目指す。 そのために必要となる専門基礎科目及び専門科目に関する知識と学修への取組姿勢の定着と向上を図る。管理栄養士特論ⅠおよびⅡで学修した基礎的な内容からのさらなるレベルアップとともに、繰り返し実施する模擬テストにおいて苦手な部分、理解が不十分である部分を明らかにしながらそこを充足させ、たしかな知識として定着させる。
学修成果到達目標	1．地域、社会の人々の健康で豊かな暮らしの実現に寄与できる管理栄養士を目指し、主体的に学ぶことができる。 2．模擬テストにおいて、各分野の問題を60%以上正解できる。 3．「管理栄養士国家試験」の合格を目指し、自ら進んで学習に取り組むことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	2025年版オープンセサミシリーズ管理栄養士国家試験対策完全合格教本　上・下巻　東京アカデミー編（東京アカデミー七賢出版） 2025管理栄養士過去問解説集　中央法規管理栄養士受験対策研究会編　（中央法規）
参考書	これまでに使用した管理栄養士専門基礎、専門科目の教科書全般 レビューブック管理栄養士2025第7版（メディックメディア）
課題に対するフィードバックの方法	ICTを活用して振り返りを行い、知識の定着を図る。 模擬テストの得点率が低かった者については別に補講を行う。
留意事項	管理栄養士国家試験受験予定者はこの科目を必ず受講すること。 国家試験合格を目指して、各自、実力向上のために努力すること。 時間割で設定された曜日・時間以外についても設定される。ガイダンス時に予定を配布する。すべての回について、原則、遅刻、欠席は認めない。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、初回の授業で紹介する。
実践的教育	

授業名	管理栄養士特論Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）この授業の進め方・評価方法 （事前事後学修課題の内容） 管理栄養士国家試験受験に向けて勉強を進めておく。
第2回	社会・環境と健康 －公衆衛生学－	（学修内容）公衆衛生学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち① －解剖・生理学－	（学修内容）解剖・生理学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち② －生化学－	（学修内容）生化学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第5回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③ －病理病態学－	（学修内容）病理病態学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第6回	食べ物と健康①　－調理学－	（学修内容）調理学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第7回	食べ物と健康②　－食品学－	（学修内容）食品学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第8回	食べ物と健康③　－食品衛生学－	（学修内容）食品衛生学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第9回	基礎栄養学	（学修内容）基礎栄養学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第10回	応用栄養学	（学修内容）応用栄養学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第11回	栄養教育論	（学修内容）栄養教育論の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第12回	臨床栄養学	（学修内容）臨床栄養学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第13回	公衆栄養学	（学修内容）公衆栄養学の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第14回	給食経営管理論	（学修内容）給食経営管理論の基礎とともに応用・発展的な内容についての講義と確認テスト （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。
第15回	まとめ	（学修内容）ここまでで自分の理解が不十分な部分を明らかにし、これからの学修方法を検討する。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業を振り返り、知識を定着させる。授業後は不正解問題・不明点についてよく復習する。

授業名	公衆衛生学Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1306
英文名	Public Health Ⅰ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	根岸　裕子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	人は年齢、居住地、社会生活等によって、さまざまな生活方法がある。これらすべての人々の心身の健康を維持することについて、衛生・公衆衛生学の観点から講義をすすめる。社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護のしくみの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。
学修成果到達目標	1）社会や環境と健康との関係が理解できる。 2）日本の現状について学び、健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3）保健・医療・福祉・介護に関する制度を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	
平常試験（30%）	■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	公衆衛生学・健康管理概論<2025年版>(サクセス管理栄養士・栄養士養成講座) 一般社団法人全国栄養士養成施設協会/公益社団法人日本栄養士会/武山英麿/伊藤央奈 第一出版
参考書	授業中に適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	質問シート、課題および小テストについて解説を行う。
留意事項	新聞やニュースなどを通じて、日本や世界の健康や公衆衛生に関する社会的な話題に関心を持つこと。 演習問題を使って復習をしっかりと行い、その際にはレビューブックや教科書を用いて、周辺知識も含めて理解をしておくこと。講義内容の理解確認のため、5回程度学修内容についての確認小テストを実施する。合格点に到達しない者については、別途再テストを実施する。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	公衆衛生学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆衛生の概念	（学修内容）健康の概念、公衆衛生の概念。プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第2回	環境と健康	（学修内容）地球環境の保全・生態系。環境汚染と健康影響。環境衛生について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、次回のテスト勉強をしておく
第3回	健康、疾病、行動に関わる統計資料(1) ～人口静態統計・人口動態統計～	（学修内容）概念、環境に関する確認小テスト① 人口静態統計・人口動態統計について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第4回	健康、疾病、行動に関わる統計資料(2) ～生命表　傷病統計～	（学修内容）生命表　傷病統計について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、次回のテスト勉強をしておく
第5回	健康状態・疾病の測定と評価（1） ～概念・指標～	（学修内容）人口統計についての確認小テスト② 疫学の概念、疫学の指標、バイアス、交絡について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第6回	健康状態・疾病の測定と評価（2） ～方法・スクリーニング・根拠・倫理～	（学修内容）疫学の方法、疫学研究に伴うスクリーニング、根拠（エビデンス）、倫理上配慮について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、次回のテスト勉強をしておく
第7回	生活習慣の現状と対策（1） ～健康日本21（第三次）～	（学修内容）疫学に関する確認小テスト③ 生活習慣病の概念、健康日本21 （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第8回	生活習慣の現状と対策（2） ～栄養・身体活動～	（学修内容）栄養・食事バランスガイド・身体活動について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第9回	生活習慣の現状と対策（3） ～喫煙・飲酒・睡眠・歯科保健～	（学修内容）喫煙・飲酒の現状および対策、睡眠指針、歯科保健行動について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、次回のテスト勉強をしておく
第10回	疾患の疫学と予防対策（1） ～がん、循環器疾患、代謝疾患～	（学修内容）生活習慣の現状と対策についての確認小テスト④ がん、循環器疾患、代謝疾患について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第11回	疾患の疫学と予防対策（2） ～骨・関節疾患、感染症、精神疾患、その他～	（学修内容）ロコモティブシンドローム、感染症、検疫、CKD、肝疾患、アレルギー疾患、難病対策について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、次回のテスト勉強をしておく
第12回	保健・医療・福祉の制度（1） ～社会保障の概念、行政のしくみ、医療制度～	（学修内容）疾患の疫学と予防対策についての確認小テスト⑤ 社会保障制度、医療保険などの制度について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第13回	保健・医療・福祉の制度（2） ～福祉制度、地域保健、母子保健～	（学修内容）社会福祉事業、保健所、市町村保健センター、母子保健法について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第14回	保健・医療・福祉の制度（3） ～成人保健、高齢者保健・産業保健～	（学修内容）生活習慣病発症予防、特定健康診査、後期高齢者医療制度、地域包括支援センター、労働安全衛生法、3管理、職業病について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックの該当箇所にマークをしておく
第15回	保健・医療・福祉の制度（4） ～学校保健・国際保健～	（学修内容）保健教育、保健管理、健康診断、学校感染症について 多国間協力、二国間協力、日本の経済協力について （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書を読んで、語句調べをしておく 事後はレビューブックを用い、テスト勉強をしておく

授業名	公衆衛生学Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2314
英文名	Public Health Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。WHO憲章における健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。 テーマに沿ったディスカッションを行い、理解を深める。
学修成果到達目標	健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	社会・環境と健康 健康管理概論　東あかね／關戸啓子／久保加織・編　講談社サイエンティフィック
参考書	公衆衛生がみえる　医療情報科学研究所編　メディックメディア社 プリント配布
課題に対するフィードバックの方法	レポートに対する質問への回答と解説を行う。
留意事項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること
オフィスアワー	授業終了後に実施
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：臨床医。腎臓内科医。京都府内、大阪市での臨床医、医学教育者として、48年の経験を持つ。臨床腎臓内科医として、京都、大阪の地域医療を担い、コメディカルとネットワークを作って治療にあたり、コメディカル教育に携わる。大阪府医師会、京都府医師会でのコメディカルとの医会の理事、顧問を務める。

授業名	公衆衛生学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界の健康	（学修内容）健康の概念の変遷 健康の概念についてのディスカッション （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読んで、世界保健機構（WHO)憲章の成り立ちと健康を阻害する各種要因についてノートにまとめておく。
第2回	日本の健康 １．日本における健康の概念の変遷	（学修内容）第一次国民健康づくり対策。第二次国民健康づくり運動。健康日本21 健康づくり政策についてのディスカッションをする。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読んで、健康日本21についてノートにまとめておく。
第3回	日本の健康 ２．日本における健康の現状	（学修内容）寿命と死亡。日本の健康管理システムの変遷と現状を理解する。 日本の医療と福祉施設を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 日本の健康管理システムについて調べておく。
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	（学修内容）健康管理にかかわる施設を学ぶ。 介護・福祉関連スタッフについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 保健医療、介護・福祉施設について調べておく。
第5回	胎児と妊婦の健康 １．胎児と妊婦の健康管理システム	（学修内容）母子保健法。妊婦健康診査。健やか親子２１について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 健やか親子21について調べておく。
第6回	胎児と妊婦の健康 ２．胎児と妊婦の健康の現状と課題	（学修内容）胎児と妊婦の健康にかかわる指標を学習する。 （事前事後学修課題の内容） 胎児と妊婦における食育について調べておく。
第7回	乳児の健康 １．乳児の健康管理システム	（学修内容）乳児健康診査と予防接種 （事前事後学修課題の内容） 乳児健康診査について調べておく。
第8回	乳児の健康 ２．乳児の健康の現状と課題	（学修内容）乳児の健康にかかわる指標を学ぶ。 乳幼児突然死症候群とは何かについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 乳児における食育について調べておく。
第9回	幼児の健康	（学修内容）幼児の健康管理システムについて学び幼児の健康の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 幼児における食育について調べておく。
第10回	児童の健康	（学修内容）児童の健康管理システムについて学び、児童の健康の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 児童における食育について調べておく
第11回	生徒の健康	（学修内容）生徒の健康管理システムについて学び、生徒の健康現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 中学生、高校生における食育について調べておく。
第12回	学生の健康	（学修内容）学生の健康管理システムについて学ぶ。 学生の健康の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 学生における食育について調べておく
第13回	成人の健康 １．成人の健康管理システム	（学修内容）成人、就業者における健康管理システムを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読んで、成人の健康管理システムについてノートにまとめておく。
第14回	成人の健康 ２．成人期における健康の現状と課題	（学修内容）ストレス、薬物、運動、喫煙について学ぶ。 成人期における健康についてのディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 成人における食育について調べておく。
第15回	高齢者の健康	（学修内容）高齢者の健康管理システムについて学び高齢者の健康の現状と課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 高齢者における食育について調べておく。

授業名	生化学Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1301
英文名	Biochemistry Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	根岸　裕子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子および遺伝子レベルで理解していく。
学修成果到達目標	1）生体を構成する物質の性質および機能について説明することができる。 2）５大栄養素それぞれの特徴と相互の違いについて説明することができる。 3）遺伝子の発現とその調節について説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（30%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」第３版、薗田勝編、羊土社
参考書	レビューブック　管理栄養士、メディックメディア
課題に対するフィードバックの方法	質問シートへの説明および小テストについて解説を行います。
留意事項	生化学Ⅱの学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので、レビューブックやWEB演習問題を用いて復習をしっかりと行うこと。 その確認のため、毎時間学修内容についての小テストを実施する。合格点に到達しない者については、別途再テストを実施する。
オフィスアワー	研究室に掲示します。
実践的教育	

授業名	生化学Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	細胞の構造	（学修内容）細胞の基本構造について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第１章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第2回	生体膜と物質輸送	（学修内容）生体膜の構造と性質、物質輸送における役割について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第１章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第3回	アミノ酸	（学修内容）タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第４章、～p52）を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第4回	タンパク質の種類と構造	（学修内容）生体を構成するタンパク質の種類と構造について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第４章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第5回	アミノ酸の構造と高次構造	（学修内容）アミノ酸の構造とタンパク質の高次構造について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第４章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第6回	酵素	（学修内容）酵素の性質、酵素活性調節について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第５章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第7回	糖質の構造	（学修内容）生体を構成する糖質の構造について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第２章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第8回	糖質の分類	（学修内容）糖質の種類とその特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第２章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第9回	脂質の構造	（学修内容）生体を構成する脂質の種類と構造について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストを（第３章）読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第10回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	（学修内容）脂質の誘導体の種類と構造、役割について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストを（第３章）読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第11回	ビタミン	（学修内容）ビタミンの種類、欠乏と過剰症、作用機構について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第7章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第12回	ミネラル	（学修内容）生体内に分布するミネラルの種類と役割について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第8章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第13回	異化経路と同化経路	（学修内容）糖質、脂質、窒素が取り除かれたアミノ酸が共通した異化経路をもつこと、相互に変換する同化経路を持つことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第13章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第14回	電子伝達系・酸化的リン酸化	（学修内容）エネルギー生成における電子伝達系および酸化的リン酸化と基質レベルのリン酸化の役割を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第12章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はすべての確認テストをまとめ、総復習をしておく
第15回	核酸・遺伝子の転写と調節	（学修内容）核酸分子を形成する基本単位であるヌクレオチドの構造を理解し、タンパク質合成での役割について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前にテキスト（第6章）を読んでわからない語句を調べておく 事後はすべてのWeb演習問題をまとめ、総復習をしておく

授業名	生化学実験Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1308
英文名	Experiment of Biochemistry Ⅰ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	根岸　裕子	対象学生	食物栄養1回生				

授業の概要	生体の構成成分を中心に分析し、人体の成り立ちと生体の化学反応(代謝)を理解する。生化学の講義で学習した知識をさらに深く理解するために、具体的な事象について実験し、その結果を考察することにより、個々の生命現象の基礎知識を身につける。実験を円滑に進めるため、実験課題はグループ毎に進め、結果についてディスカッションをした後、個人でレポートにまとめる。
学修成果到達目標	1）生体を構成する成分について深く理解できる。 2）生体における遺伝子の発現について理解できる。 3）生体材料の取り扱いについて理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間30分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ 実験技術の修得 ）■（ データ解析能力 ）

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　生化学実験　鈴木敏和、杉浦千佳子、高野　栞著　羊土社 配布資料 ※「基礎栄養学実験」と同じテキストを使用します。
参考書	生化学、基礎栄養学の教科書
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する。
留意事項	「生化学」、「基礎栄養学」の教科書を読んで復習しておくこと。 教科書および実習書（配布資料）を読んで、実験内容を予習すること。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	生化学実験Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）実験についての注意事項、実験ノート・実験レポート作成について理解する （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容をよく確認し、教科書の「第1章生化学実験をはじめる前に」を読んでおくこと
第2回	実験の基本操作（１） 溶液濃度の表し方	（学修内容）実験器具・実験機器の取り扱い方について理解する 希釈法を理解する （事前事後学修課題の内容） 重量・容量の単位、溶液濃度の表し方について復習し、それぞれについてまとめておく
第3回	実験の基本操作（２） ピペット操作、比色定量	（学修内容）種々のピペットの取り扱い方について理解する 波長と吸光度の関係、検量線を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んでおくこと。実験の基本操作について考察をし、実験レポート作成する
第4回	細胞分画（１） 核および細胞小器官の分離	（学修内容）細胞に含まれる細胞小器官について理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法について実験ノートにまとめておく
第5回	細胞分画（２） ミトコンドリア画分	（学修内容）クエン酸回路について理解する （事前事後学修課題の内容） 実験後、細胞小器官の働きについて考察し、実験レポートを作成する
第6回	尿中成分（１） 一般的性状	（学修内容）色調、混濁等の外観観察を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法を実験ノートにまとめておく
第7回	尿中成分（２） 定性反応と尿沈渣	（学修内容）検査紙による簡易検査、尿沈渣検査を実施し、尿中成分を理解する （事前事後学修課題の内容） 実験後、尿から分かる身体の健康について考察し、実験レポート作成する
第8回	血糖値に関する実験（１） 空腹時血糖	（学修内容）糖の消化吸収について理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法を実験ノートにまとめておく
第9回	血糖値に関する実験（２） 血糖曲線	（学修内容）グルコース濃度を定量する （事前事後学修課題の内容） 実験後、グルコースの消化・吸収についてまとめ、血糖値の維持について考察し、実験レポート作成する
第10回	生体成分の定性（１）アミノ酸	（学修内容）アミノ酸の定性と同定 （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法を実験ノートにまとめておく
第11回	生体成分の定性（２）タンパク質	（学修内容）タンパク質の定性反応 （事前事後学修課題の内容） 実験後、アミノ酸およびタンパク質の構造の違いによる性質について考察し、実験レポート作成する
第12回	酵素反応（１） 酵素活性と基質濃度	（学修内容）ペプシン活性と酵素量・基質量の関係 （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法を実験ノートにまとめておく
第13回	酵素反応（２） 酵素活性と至適pH	（学修内容）未知試料ペプシン活性とpH・温度の関係 （事前事後学修課題の内容） 実験後、酵素の働きについて考察し、実験レポートを作成する
第14回	遺伝子・タンパク質（１） DNA抽出	（学修内容）生体試料からDNAの抽出を行い、 DNAの塩基配列がタンパク質の設計図であることを理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、実習書を読んで、目的および方法を実験ノートにまとめておく
第15回	遺伝子・タンパク質（２） タンパク質、DNAの紫外光吸収スペクトル	（学修内容）タンパク質、DNAの紫外光吸収スペクトルを測定し、定量する これまでについての講評を行い、生化学についての理解を深める （事前事後学修課題の内容） 実験後、遺伝子の働きについて考察し、実験レポートを作成する

授業名	生化学Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN1309
英文名	Biochemistry Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	根岸　裕子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	本講義では、生化学で学んだ栄養素成分や生体構成成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、正常な人体の構造と機能について理解していく。
学修成果到達目標	1）摂取された栄養素の化学エネルギーが生命活動に必要な種々のエネルギーに変換される道筋を説明できる。 2）摂取された栄養素が生体成分に変化する道筋を説明できる。 3）生体成分の代謝について相互の関連性を説明できる。 4）生体成分の代謝と生体のホメオスタシスとの関連性を説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第3版　薗田勝　編　羊土社 ＊生化学Ⅰで使用したのと同じ教科書を使用します。
参考書	レビューブック　管理栄養士、メディックメディア
課題に対するフィードバックの方法	質問シートおよび小テストに対し解説を行います。
留意事項	臨床栄養学など他の科目の基礎となる科目であるので、レビューブックや教科書、WEB演習問題を用いて復習をしっかりと行うこと。その確認のため、毎時間学修内容についての小テストを実施する。合格点に到達しない者については、別途再テストを実施する。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	生化学Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	代謝について	（学修内容）物質代謝（異化と同化）とエネルギー代謝の基本概念について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前はシラバスを読んで、生化学Ⅰの配布プリントを見直しおく 事後は、レビューブックなどで栄養素を確認しておく
第2回	糖質の代謝（１）解糖系	（学修内容）解糖系の全体像を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書第2章、p100-107を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第3回	糖質の代謝（２）クエン酸回路	（学修内容）解糖系とクエン酸回路の全体像と関連を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p107-112を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第4回	糖質の代謝（３）糖新生	（学修内容）糖新生を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p110-117を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第5回	糖質の代謝（４）血糖値の調節、疾病	（学修内容）血糖値調節の意義を知り、代謝異常について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p117-122を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第6回	脂質の代謝（１）脂肪酸の代謝	（学修内容）脂肪酸の合成分解系とエイコサノイドの代謝を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書第3章とp124-131を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第7回	脂質の代謝（２）脂肪の代謝	（学修内容）中性脂肪の合成分解系と体内輸送を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p132-139を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第8回	アミノ酸代謝	（学修内容）タンパク質の合成分解系を理解し、アミノ酸プールとの関連性を知る （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書第4章とp142-149を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第9回	アミノ酸の体内変化	（学修内容）アミノ酸の炭素成分と窒素成分の代謝、生理活性成分への代謝を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p149-155を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第10回	生体エネルギーおよび中間代謝の概要	（学修内容）呼吸鎖と酸化的リン酸化を理解する 糖質代謝と脂質およびアミノ酸代謝の関連を知る （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p157-164、p166-178を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第11回	ヌクレオチドの代謝	（学修内容）プリンヌクレオチドとピリミジンヌクレオチドの合成分解系を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p180-189を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第12回	遺伝子発現とその調節（１）セントラルドグマ	（学修内容）核酸とタンパク質の生合成を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p191-201を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第13回	遺伝子発現とその調節（２）調節	（学修内容）遺伝子発現の調節を理解し、遺伝子工学の流れを知る （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p201-212を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第14回	ホメオスタシス	（学修内容）ホルモンと生体調節の関連を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p214-228を読んでおく 事後はWeb演習問題をし、レビューブックなどで確認しておく
第15回	生体防御機構	（学修内容）免疫の仕組みと特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前は教科書p230-242を読んでおく 事後はすべての確認テストをまとめ、総復習をしておく

授業名	生化学実験Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2316
英文名	Experiment of Biochemistry Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	根岸　裕子	対象学生	食物栄養2回生				

授業の概要	生化学、生化学Ⅱにおいて学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。
学修成果到達目標	1）生体成分の多様性を理解できる。 2）栄養素の代謝と生体成分の関連性について解説できる。 3）代謝にかかわる酵素の特性を説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間30分）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　生化学実験・鈴木敏和　杉浦千佳子　高野栞　著・化学同人、配布プリント ※1回生の時に使用したテキストと同じテキストを使用します。
参考書	「生化学」教科書、「基礎栄養学」教科書、生化学実験実習書
課題に対するフィードバックの方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。
留意事項	「生化学」、「基礎栄養学」の教科書の関連部分を読んで復習しておくこと。またグループワークで授業を実施するので、班員とよく連携して作業に当たり、データ共有を徹底すること。 実験記録をノートに取り、実験終了後は直ちに実験ノートを整理しレポートを作成すること。
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
実践的教育	

授業名	生化学実験Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテ－ション	（学修内容）試薬調整方法、濃度表示、ピペット類の操作の復習 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認し、生化学実験実習書の実験操作について復習しておく
第2回	グルコースの代謝（１）異化反応	（学修内容）グルコースが代謝され、水と二酸化炭素に分解することを理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第3回	グルコースの代謝（２）ピルビン酸の測定	（学修内容）グルコースの代謝過程でピルビン酸が生成されることを理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第4回	血清タンパク質の定量（１）血清総タンパク質	（学修内容）ビウレット法、ローリー法による血清総タンパク質の定量 （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第5回	血清タンパク質の定量（２）血清アルブミン	（学修内容）BCG法による血清アルブミンの定量 （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第6回	タンパク質発現解析	（学修内容）タンパク質の分析（SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動）方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第7回	タンパク質の分子量	（学修内容）クマシーブリリアントブルー（CBB）染色法により、タンパク質に含まれているペプチドの分子量を理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第8回	尿中成分の定量（１）尿素窒素	（学修内容）尿中尿素窒素を定量し、腎臓の働き、食事の影響を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第9回	尿中成分の定量（２）尿酸、クレアチニン	（学修内容）尿酸、クレアチニンを定量し、タンパク質の代謝について理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第10回	酵素の性質（１）阻害剤の影響	（学修内容）阻害剤による酵素活性への影響について理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第11回	酵素の性質（２）補酵素　ビタミンB群	（学修内容）補酵素として代謝に不可欠なビタミンB群について理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第12回	肝臓酵素（１）酵素試料の調製	（学修内容）肝臓および筋肉ホモジネイトからの試料調製をし、グルコース‐6‐ホスファターゼの各組織の分布を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第13回	肝臓酵素（２）酵素の活性測定	（学修内容）グルコース‐6‐ホスファターゼの活性を測定し、糖新生を理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる
第14回	血清ミネラルの定量（１）鉄	（学修内容）血清鉄の定量を行い、生体内の鉄の働きを理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書、配布プリントをよく読み、事前に実験ノートを作成する
第15回	血清ミネラルの定量（２）カルシウム	（学修内容）血清カルシウムの定量を行い、生体内のカルシウムの働きを理解する （事前事後学修課題の内容） 実験内容についてレポートにまとめる

授業名	食生活実習	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	細辻　珠紀	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。 また、グローバル化が進む現代だからこそ、日本の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。 さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識を習得するとともに、食育についての知識の習得を目指す。 実習はグループで行うため、メンバー間でコミュニケーションをとり協力体制を築くことを目指す。
学修成果 到達目標	1）基本的な調理技術の習得 2）調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3）中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	新調理研究会編『これからの調理学実習―基本手法から各国料理、行事食まで―』オーム社　2014年
参考書	必要な場合は、授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回、提出されたレポートは、確認の上返却する。
留意事項	４名程度を１グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なる場合がある。オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。また、食材の調達等の関係で実習内容が変更となる場合がある。
オフィスアワー	初回の授業で指示する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：大阪ガスクッキングスクールのインストラクターとして３８年間料理指導、食育活動を行ってきた。

授業名	食生活実習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、 授業計画と諸注意 基本的な調理操作、包丁法 小麦粉の調理Ⅰ（基本のクッキーを理解する）	（学修内容）実習の諸注意、グループの形成、レポートの書き方 計量の基本的な調理操作、包丁法、基本のクッキーを学ぶ （事前事後学修課題の内容） よく使う調味料について容量と重量の関係を確かめる。油脂について種類と特徴を調べる。レポートを作成して、次回に提出する。
第2回	炊飯の科学 野菜の調理（クロロフィルの理解） 煮干しのうま味成分の抽出 米を利用した粉の電子レンジによる糊化 緑茶のうま味成分の抽出	（学修内容）炊飯、野菜の茹で方、みそ汁の調理 電子レンジを利用した和菓子の調理 （事前事後学修課題の内容） 米の糊化の原理について調べておく。だしの取り方についてまとめる。 お茶の種類を調べる。レポートを作成して、次回に提出する。
第3回	小麦粉の調理Ⅱ（イースト発酵） 野菜の調理（カロテンの理解）	（学修内容）パン生地の作り方を学ぶ、野菜の煮物の調理。 （事前事後学修課題の内容） イースト菌の発酵の工程や野菜の特性について調べておく。 世界のパンについて調べ、レポートを作成して、次回に提出する。
第4回	小麦粉の調理Ⅲ 卵の調理特性	（学修内容）小麦粉を使ったルーの作り方を学ぶ：グラタンの調理 ロールケーキの作り方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） スポンジケーキの作り方について調べてまとめる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第5回	米飯調理（味つけ飯）の基本 昆布のうま味成分の抽出 和え物の調理	（学修内容）炊き込みご飯、澄まし汁、黄身酢和え （事前事後学修課題の内容） 味つけ飯について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。
第6回	中華調理の特徴Ⅰ（揚げ物、炒め物） 和え物の調理	（学修内容）鶏のから揚げ（炸菜）、青梗菜の炒め物（炒菜）、和え物（拌菜）の調理 （事前事後学修課題の内容） 中国料理の炒め物のポイントをまとめる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第7回	米飯調理（すし飯）の基本 卵の熱凝固性（希釈卵液）	（学修内容）すし飯、茶わん蒸し（希釈卵液の蒸し物）の調理 （事前事後学修課題の内容） 卵の調理特性である熱凝固性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。
第8回	鶏骨からのうま味成分の抽出 ひき肉調理の科学 エマルジョンの科学	（学修内容）コンソメスープ、ひき肉料理（ハンバーグ）、サラダの調理 （事前事後学修課題の内容） 肉類に種類と調理特性やマヨネーズとドレッシングの違いを調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第9回	中華料理の特徴Ⅱ 米飯調理（炒飯）の基本 中華食材の理解 中華菓子の調理	（学修内容）炒飯（点心）、湯菜の調理、ゴマ風味団子（点心）の調理 （事前事後学修課題の内容） 点心の種類を調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第10回	魚の調理 ゲル化剤（ゼラチン）を用いた調理	（学修内容）魚の卸し方を学ぶ ムニエル、サラダ、ゼリーの調理 （事前事後学修課題の内容） 魚の種類や旬、調理特性を調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第11回	中華料理の特徴Ⅲ（焼き物、炒め物） ゲル化剤（寒天）を用いた調理	（学修内容）芙蓉蟹（焼き物）、炒墨魚（炒め物）、杏仁豆腐（寒天）の調理 （事前事後学修課題の内容） 寒天とゼラチンの違いについて調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第12回	衣揚げの基本 和え物の要点 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	（学修内容）天ぷら、和え物，汁物の調理 （事前事後学修課題の内容） 食材に適した油の温度を調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第13回	乾麺の扱い方 焼き菓子の科学 シュー生地	（学修内容）パスタ、シュークリームの調理 （事前事後学修課題の内容） パスタの種類について調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第14回	中華料理の特徴Ⅳ 溜菜の要点を理解する 乾物を利用した調理	（学修内容）酢豚（とろみをつける調理）、中華菓子の学習 （事前事後学修課題の内容） 中華料理について地域による違いを調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第15回	テーブルセッティングとマナー 食育について学ぶ 振り返り	（学修内容）和洋の基本的なセッティングについて学ぶ 食育について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テーブルセッティングについて調べておく。 各自の食生活を振り返る。

授業名	高齢者福祉論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	生活情報2回生、こども生活2回生				

授業の概要	本講においては以下の４点について学ぶこととする。 １．高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ２．高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ３．高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ４．高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
学修成果 到達目標	１．高齢者の定義、特性を理解し説明できる。 ２．高齢者に関する法制度の発展過程や高齢化について説明できる。 ３．超高齢化社会における諸課題について整理し、社会福祉士としての専門性について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	最新社会福祉士養成講座２『第２版 高齢者福祉』中央法規　2025年1月1日第２版発行
参考書	『社会福祉小六法2024』を携行すること。 随時、参考となる文献や資料については紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で書いたリアクションペーパーについては、コメントを付して返却をする。
留意事項	１．自ら高齢化社会についてその現状を調べ、考えて、諸課題にどのように対応することができるのかを主張できるようにしましょう。 ２．グループワークや発表に際しては、他者の意見を尊重し、それについて意見などを出しながらディスカッションできるようにしましょう。
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室（１R-404）に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。
実践的教育	

授業名	高齢者福祉論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～高齢化社会について～	（学修内容）１）講義の進め方と成績評価の方法について ２）高齢化社会について （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストを必ず購入し、シラバスを読む。 事後　これからの授業に向けた準備を行う。
第2回	高齢者と少子高齢社会	（学修内容）高齢者の定義と特性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト2～25ページを読み、基礎データについて理解する。 事後　現代社会の様相をノートにまとめる。
第3回	高齢者の生活実態	（学修内容）高齢者の生活環境について、グループワークを通じて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト26～35ページを読み、GWに備える。 事後　GWを通じて理解したことをノートにまとめる。
第4回	高齢者を取り巻く社会環境	（学修内容）高齢者世帯の特徴やその課題についてグループワークを通じて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト36～49ページを読み、GWに備える。 事後　GWを通じて理解したことをノートにまとめる。
第5回	高齢者観の変遷	（学修内容）社会、老年学、現代における高齢者観の変遷について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト50～54を読み、専門用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第6回	高齢者福祉の発展過程	（学修内容）高齢者に関する歴史的発展過程について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト55～66ページを読み、歴史的展開について考える。 事後　歴史的展開をわかりやすくノートに整理する。
第7回	高齢者福祉の理念	（学修内容）高齢者に関する国連原則、法律にみる理念について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト67～73ページを読み、専門用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第8回	介護保険制度の概要	（学修内容）介護保険制度の枠組みや要介護認定の仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト74～90ページを読み、わからない用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第9回	介護保険サービスの体系	（学修内容）介護保険サービスの種類や地域支援事業について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト91～117ページを読み、わからない用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第10回	高齢者保健福祉の法体系	（学修内容）高齢者保健に関する法体系について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト118～125ページを読み、わからない用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第11回	老人福祉法について	（学修内容）老人福祉法成立の背景や目的・理念について学び、「老い」について発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト126～134ページを読み、わからない用語を抽出する。 事後　用語を整理し、ノートにまとめる。
第12回	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、認知症基本法について	（学修内容）高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、認知症基本法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト135～148ページを読み、法律の成立年を調べる。 事後　各法制度の理念や目的についてノートにまとめる。
第13回	高齢者に関する諸制度	（学修内容）バリアフリー法、高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト149～185ページを読み、法律の成立年を調べる。 事後　各法制度の理念や目的についてノートにまとめる。
第14回	高齢者領域におけるソーシャルワーク① ～事例検討：認知症ケア～	（学修内容）認知症ケアに関する事例検討を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト186～228ページを読み、認知症について調べる。 事後　リアクションペーパーの作成（800字程度）
第15回	高齢者領域におけるソーシャルワーク② ～事例検討：終末期ケア～	（学修内容）終末期ケアに関する事例検討を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト229～262ページを読み、終末期ケアについて調べる。 事後　リアクションペーパーの作成（800字程度）

授業名	ライティングスキル	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	15回の授業を通して日本語表現力を磨きます。 経済産業省の「社会人基礎力」は「前に踏み出す力（主体性）」「考え抜く力（深く考える）」「チームで働く力（他者との協力）」を総合したものです。文章表現力を高めることで、論理的に考える力を磨き、また相手に伝えるためにわかりやすく文章を書く力を伸ばすことができます。これらのトレーニングを積むことは社会人基礎力の土台づくりにつながります。授業を通してグループワークを行いますので対人関係スキルの伸長もめざします。
学修成果到達目標	（1）相手を意識した文章表現力を高める （2）文章表現を用いて自己PRできる （3）調べたものをレポートの形式でまとめることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	野田晴美ほか『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房、2016
参考書	授業中に適宜指示します。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で提出をもとめるふりかえり、その他グループワークを通して作成を課したものなど、適宜、全体で共有したり、個別に適宜指導助言をします。
留意事項	グループワークを前提としています。 積極的に参加してください。 教科書を中心に進めますので必ず購入してください。
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日の昼休み
実践的教育	

授業名	ライティングスキル

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	（学修内容）なぜグループワークで文章力のアップをめざすのか説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：シラバスを読んでくる 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第2回	情報の整理	（学修内容）メモやメニューとして整理する方法ができる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書2課と3課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第3回	情報を確実に正確に伝える	（学修内容）メールなどで連絡や案内を作成できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書4課と5課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第4回	情報発信力アップ	（学修内容）情報を発信する際の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書ステージ1まとめを事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第5回	相手に合わせて表現する	（学修内容）敬語の基礎を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書6課と7課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第6回	丁寧に伝える	（学修内容）相手に配慮した手紙の形式を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書8課と9課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第7回	コミュニケーション力アップ	（学修内容）相手と文章を介してコミュニケーションをとる際の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書ステージ2まとめを事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第8回	アカデミックな文章	（学修内容）論文の構成を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書10課と11課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第9回	自己PR	（学修内容）文章によって自己表現することができる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書12課と13課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第10回	アピール力アップ	（学修内容）自己PRの要点を説明することができる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書ステージ3まとめを事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第11回	レポートの特徴	（学修内容）レポートの構成を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書14課と15課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第12回	文献の引用	（学修内容）レポート作成する際の引用の仕方、記載方法を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書16課と17課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第13回	図表の示し方	（学修内容）図や表を用いて視覚的に説明する際のポイントを挙げられる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書18課と19課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第14回	レポートの内容のプレゼン化	（学修内容）プレゼン発表の方法を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書20課と21課の内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する
第15回	レポート執筆	（学修内容）これまで習得したスキルをもとに小レポートを作成することができる （事前事後学修課題の内容） 前：教科書レポート執筆のまとめの内容を事前に確認する 後：キーワードを整理しふりかえりシートに感想を記述し提出する

授業名	コミュニケーション論入門	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	メディアは何らかのメッセージを常に発しています。 メッセージを読み説き、解釈を加え、新たに意味を生成するため、絶え間ない自己と他者とのやりとり、 コミュニケーションが続きます。 本科目ではコミュニケーションを学ぶ入門として、ここでは3つの学問分野から基礎的なテーマを取り上げ、 毎時コミュニケーションに関する理論を学びます。 またコミュニケーションとは何かを考える過程を通して自己理解と他者理解と相互の理解を深めます。
学修成果 到達目標	・社会学的視点からコミュニケーションとは何かを説明することができる ・教育心理学的視点からコミュニケーションとは何かを説明することができる ・哲学的視点からコミュニケーションとは何かを説明することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	無し（適宜、資料をわたします）
参考書	船津衛『自我の社会学』放送大学教育振興会、2005 平木典子『アサーションの心』朝日新聞出版社、2015 白石克己『生涯学習と通信教育』玉川大学出版部、1990 苫野一徳『親子で哲学対話』大和書房、2024 苫野一徳『愛』講談社、2019ほか
課題に対するフィードバックの方法	提出物については授業中やclassroom上などでコメントをします。
留意事項	グループワークやプレゼンテーションを行います。また、科目名にあるように、授業時間中は、学生と教員、学生間で話し合う時間を毎時設けます。
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日お昼休み（できれば事前にメールで予約をください）
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所に在籍し企業や教員向けのコミュニケーションに関する研修を実施していた経験をもとに授業を進めていきます。

授業名	コミュニケーション論入門

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・ガイダンス ・社会学的視点から（１）第一次集団	（学修内容）・授業の学修内容と到達目標を説明できる ・「第一次集団」（クーリー）について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読み授業へのイメージを深める 事後：「第一次集団」とあなたの関係を具体例をレポートにまとめる
第2回	・社会学的視点から（２）親密性と疎遠性	（学修内容）・「インティメートな自我」（ターナー）を説明できる ・「我と汝」（ブーバー）を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：現実場面における「親しさ」について書き出す 事後：「インティメイト・ストレンジャー」をレポートにまとめる
第3回	・社会学的視点から（３）役割取得	（学修内容）・「意味のあるシンボル」を介した「意味の共有」と「役割取得」（ミード）を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：場面に応じて与えられる「役割」について書き出す 事後：「二重コミュニケーション」の葛藤経験をレポートにまとめる
第4回	・社会学的視点から（４）印象操作	（学修内容）・「印象操作」（ゴフマン）を説明できる ・「感情操作」（ホックシールド）を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：場面に応じた「ふるまい」について書き出す 事後：「感情労働」について具体例を挙げてレポートにまとめる
第5回	・社会学的視点から（５）役割形成	（学修内容）・「役割形成」と「役割変容」（ターナー）について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：高校までの経験（学活や部活など）における役割分担を書き出す 事後：具体例を挙げて「役割形成」をレポートにまとめる
第6回	・教育心理学的視点から（１）非認知能力・理論編	（学修内容）・「非認知能力」（ヘックマン）について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：認知テストで計れる力と計れない力について書き出す 事後：「非認知能力」を育成するための支援をレポートにまとめる
第7回	・教育心理学的視点から（２）非認知能力・実践編【プレゼンテーション】	（学修内容）・マンガやアニメを１つ取り上げ、それぞれのキャラクターの特徴を分析しそれが有する非認知能力を取り上げ説明することができる （事前事後学修課題の内容） 事前：分析するマンガやアニメを1つ選択する 事後：授業中に発表した内容をスライド資料にまとめる
第8回	・教育心理学的視点から（３）アサーション・理論編	（学修内容）・自己表現の3つのスタイルを説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：自身のコミュニケーションの特徴を書き出す 事後：「アサーティブな関わり」（平木）をレポートにまとめる
第9回	・教育心理学的視点から（４）アサーション・実践編【グループワーク】	（学修内容）・具体的な事例を「アサーティブなやりとり」（平木）へ変換できる （事前事後学修課題の内容） 事前：これまでの対人関係における失敗経験を書き出す 事後：ひとの権利とアサーションの関係性をレポートにまとめる
第10回	・教育心理学的視点から（５）画一性と多様性	（学修内容）・「学校式教育」（白石）について説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：これまでの学校経験における疑問点を書き出す 事後：「個性」と「協調」は両立できるかレポートにまとめる
第11回	・哲学的視点から（１）社会契約論	（学修内容）・「社会契約論」（ルソー）の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：なぜ校則が必要なのかを具体的な事例をもとに書き出す 事後：「ブラック校則」の問題点と改善方法をレポートにまとめる
第12回	・哲学的視点から（２）愛の本質	（学修内容）・「愛の本質」（フロム、ヘーゲル）の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：「好き」と「愛している」の違いを書き出す 事後：「愛」に関する解釈をレポートにまとめる
第13回	・哲学的視点から（３）本質観取・理論編	（学修内容）・「本質観取」（フッサール）の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 事前：「対話」とはなにか調べ「対話」の経験を書き出してくる 事後：紹介事例をもとに関わりのあるひとと対話し結果をまとめる
第14回	・哲学的視点から（４）本質観取・実践編【グループワーク】	（学修内容）・「本質観取」による「哲学的対話」（苫野）を受講生間で実施できる （事前事後学修課題の内容） 事前：「本質観取」で取り上げたいテーマを書き出してくる 事後：「本質観取」を実施した結果をスライド資料にまとめる
第15回	・哲学的視点から（５）本質観取・報告編【プレゼンテーション】	（学修内容）・「本質観取」を行った結果をまとめ発表できる （事前事後学修課題の内容） 事前：「本質観取」を実施結果をスライドにまとめ発表準備 事後：授業全体をふりかえり感想をレポートにまとめる

授業名	コンピュータの基礎	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	パソコンやスマートフォンなど、日常生活で使用されるコンピューターのハードウェア・ソフトウェアの基本構造と仕組みを学ぶ。あわせてOSやアプリケーションの活用方法、ネットワークの基礎など、ITリテラシーの根幹となる知識と操作スキルを身につける。またセキュリティーやリスクなどの基本を学習し、今後の情報系学科の基礎とする。 各回ディスカッションを行い、最終回前にはプレゼンテーションを行う（受講人数により個人・グループえを考慮する。）
学修成果 到達目標	1.コンピューターのハードウェアとソフトウェアの基本的な仕組みを理解し、説明できる。 2.OSの基本的な操作やアプリケーションソフトの使用方法を習得する。 3.ネットワークの仕組みやセキュリティの初歩的な知識を身につけ、安全に利用できるようになる。 4.デジタル社会におけるマナーや倫理、著作権・個人情報の基礎を理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。

授業名	コンピュータの基礎

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス・デジタル社会の基礎	（学修内容）授業の進め方と評価方法、現代社会におけるコンピューターの位置づけ （事前事後学修課題の内容） 事前：身の回りで使われているコンピューター機器を調べる 事後：授業内容の要点を整理し、疑問点をまとめる
第2回	ハードウェアの基礎	（学修内容）CPU、メモリ、ストレージなどの構成要素と動作原理 （事前事後学修課題の内容） 事前：PCのスペックを調べ、違いをメモする 事後：授業で扱った用語を整理し、追加情報を検索
第3回	ソフトウェアの基礎	（学修内容）OSとアプリケーションの違い、ライセンスの概念 （事前事後学修課題の内容） 事前：使っているアプリをOS別にリストアップ 事後：ソフトウェア更新の仕組みを資料で確認
第4回	OSの操作と設定	（学修内容）ファイル管理、ユーザー管理、設定パネルやアップデート方法の実習 （事前事後学修課題の内容） 事前：自分のOSの基本設定項目を触ってみる 事後：学んだ操作を自宅や学内PCで実践し、記録を取る
第5回	アプリケーションソフトの基礎	（学修内容）文書作成、表計算、プレゼンソフトの概要と基本操作 （事前事後学修課題の内容） 事前：よく使う文書・表計算アプリを調べる 事後：サンプル文書や表を作成し、基本機能を試す
第6回	ネットワークの基礎	（学修内容）インターネットの仕組み、IPアドレス、LAN・WAN、ルータの基本概念 （事前事後学修課題の内容） 事前：家庭や学内LANを図にしてみる 事後：ルータの管理画面などで設定を確認（安全に）
第7回	Webブラウザと検索技術	（学修内容）主要ブラウザの特徴、Cookie、検索演算子の使い方 （事前事後学修課題の内容） 事前：普段使うブラウザの設定や拡張機能をメモ 事後：検索演算子を用いて特定情報を探す手順を記録
第8回	セキュリティとウイルス対策	（学修内容）ウイルスやフィッシング対策、パスワード管理、安全な共有方法 （事前事後学修課題の内容） 事前：セキュリティ事件のニュースを調べ、概要をまとめる 事後：自分のパスワード設定やセキュリティを点検
第9回	クラウドサービスの活用	（学修内容）クラウドストレージやクラウドアプリのメリットとリスク （事前事後学修課題の内容） 事前：利用中のクラウドサービスと用途をリストアップ 事後：クラウド上でファイル共有・共同編集を試す
第10回	モバイルデバイスとアプリ活用	（学修内容）スマホ・タブレットの構造とセキュリティ、代表的アプリの導入事例 （事前事後学修課題の内容） 事前：スマホアプリの権限設定を確認 事後：権限設定の見直しや不要アプリの削除を実施
第11回	IoTとスマートホーム	（学修内容）IoT機器の事例と仕組み、生活や社会への影響 （事前事後学修課題の内容） 事前：自宅や周囲にあるIoT機器をリストアップ 事後：IoTのセキュリティ・プライバシー問題を調べレポート作成
第12回	デジタルマナーと倫理・法律	（学修内容）SNSマナー、著作権、個人情報保護法、情報倫理など （事前事後学修課題の内容） 事前：PSNSの問題事例を1件選び、問題点を整理 事後：学んだ部品名と役割を図解でまとめる
第13回	まとめの演習	（学修内容）過去のノートを復習し、苦手操作をリスト化 （事前事後学修課題の内容） 事前：演習内容をレポートにし、理解度を自己評価 事後：学んだ部品名と役割を図解でまとめる
第14回	プレゼンテーションと質疑	（学修内容）個人・グループで提案や調査結果を発表し質疑応答 （事前事後学修課題の内容） 事前：プレゼンのテーマ決定、資料収集、スライド作成 事後：他グループの発表を聞き、学んだ点を整理
第15回	まとめ・今後の学習指針	（学修内容）全体の振り返り、学期末最終レポートの説明 （事前事後学修課題の内容） 事前：過去の授業ノートを見直し、質問事項をまとめる 事後：学習計画表を作り、今後の学習目標を検討

授業名	情報学入門	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	生活情報学科向けに、身近な生活や社会活動でのIT活用をより深く考察する。コンピューターの基礎で習得した知識を土台に、情報検索やデータの活用、生成AIやSNS活用など、利用者として必要となる知識やスキルを学ぶ。各回ディスカッションを行い、最終回前にはプレゼンテーションを行う（受講人数により個人・グループえを考慮する。）また、生成AIについては最新の情報を紹介し、受講生自身が実際に活用できるようになるまでトレーニングを行う。本科目を履修し単位取得することで「ウェブ解析士協会認定初級SNSマネージャー養成講座」を受講したとみなされ、試験の受験資格を得る。
学修成果 到達目標	1.情報の収集・分析・発信に必要な方法論を理解する。 2.生成AIなどの最新技術の動向を把握し、実生活でどう活用できるかを考えられる。 3.データの読み解き方や情報セキュリティ・倫理を再確認し、利用者として適切な行動をとれる。 4.生活者目線でITを活用した課題解決方法を提案できる。 5.初級SNSマネージャーの講座を終了し、受験資格を得ることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。

授業名	情報学入門

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス・情報社会を再考	（学修内容）授業方針や評価方法、扱う領域と『コンピューターの基礎』との違い （事前事後学修課題の内容） 事前:『コンピューターの基礎』ノートをざっと見直す 事後:最新の情報社会トピックを1つ要約
第2回	情報リテラシーの再確認	（学修内容）情報の正確性、メディアリテラシー、検索技術の応用 （事前事後学修課題の内容） 事前:信頼できる情報源の特徴を整理、例を挙げる 事後:与えたトピックで情報ソースを比較・相違点をまとめる
第3回	データの扱い方とプライバシー	（学修内容）データ収集・分析の流れ、個人情報保護法と法制度 （事前事後学修課題の内容） 事前:日常で収集される個人情報の例と用途を予想 事後:SNSやアプリが収集するデータを調べる
第4回	データ可視化入門	（学修内容）グラフ・インフォグラフィックの基礎、Excelなどでの可視化演習 （事前事後学修課題の内容） 事前:主要SNSの特徴を表にまとめる 事後:自身のSNSを見直し、設定や投稿内容を点検
第5回	eコマースとキャッシュレス決済	（学修内容）ECサイトの仕組み、スマホ決済のメリットとトラブル事例 （事前事後学修課題の内容） 事前:利用しているECサイトや決済サービスと利用動機を整理 事後:安全に使うためのチェックリストを作る
第6回	生成AIの基礎	（学修内容）ChatGPTなど生成AIの仕組みと活用事例、問題点 （事前事後学修課題の内容） 事前:使用経験があれば振り返り、未経験なら触れてみる 事後:AIに質問し回答を分析、妥当性をレポートにまとめる
第7回	AI倫理・著作権・社会的課題	（学修内容）AIがもたらす著作権やフェイクコンテンツなどの問題点 （事前事後学修課題の内容） 事前:AI関連の社会問題記事を読み、概要をまとめる 事後:自分がAIを利用する際に注意すべき点を整理
第8回	情報検索と分析（応用編）	（学修内容）ビッグデータや簡単なテキストマイニングツールの体験 （事前事後学修課題の内容） 事前:検索したいテーマと検索式を考える 事後:ツールを使って追加データを可視化し、所見をまとめる
第9回	SNSの活用	（学修内容）SNSマーケティングの説明と最新の事例を紹介 （事前事後学修課題の内容） 事前:興味深い可視化事例を探し印象をメモ 事後:身近なデータをグラフ化してみる
第10回	初級SNSマネージャー養成講座1	（学修内容）初級SNSマネージャー養成講座前半 （事前事後学修課題の内容） 事前:テキストを読んで記載場所を確認 事後:講座内容を復習し、試験に備える
第11回	初級SNSマネージャー養成講座2	（学修内容）初級SNSマネージャー養成講座後半 （事前事後学修課題の内容） 事前:テキストを読んで記載場所を確認 事後:講座内容を復習し、試験に備える
第12回	生成AIを活用した情報発信・レポート作成	（学修内容）AIで文章や資料を作るワークショップ、著作権や引用ルール （事前事後学修課題の内容） 事前:AI依存のリスクを調べ、短いメモを作る 事後:AIを使ったレポート作成を試し、介在の必要性を検討
第13回	ITと社会課題	（学修内容）デジタル格差、サイバー犯罪、情報過多、デジタル・デトックスなど （事前事後学修課題の内容） 事前:周囲で感じるIT関連の困りごとを挙げる 事後:1つの課題を選び、具体的解決策を提案書にまとめる
第14回	発表・ディスカッション	（学修内容）生活者視点でのIT活用アイデアや調査内容を発表、質疑応答 （事前事後学修課題の内容） 事前:発表資料を作成し、リハーサルを行う 事後:他者の意見を参考に、自分のアイデアを改善
第15回	まとめ・今後の展望	（学修内容）総括、学期末試験や最終レポートの案内、今後のIT活用を考える （事前事後学修課題の内容） 事前:授業内容やノートを振り返り、深めたいテーマを整理 事後:期末レポートや試験勉強の計画を立てる

授業名	マーケティング入門	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	この授業ではマーケティングの基礎知識の習得を目的としています。組織や個人はなぜマーケティングの知識が必要になるのか。また、それを踏まえて、STPマーケティングの内容を学習し、実際にそれぞれのマーケティング課題に応じて、STPマーケティング戦略を立案し、それを実行できるようになってもらいたいと思っております。STPマーケティングのS（Segmentation；セグメンテーション）とは、自社の製品やサービスの顧客になってくれそうな対象者を同定するために自社市場を構成する人々のニーズなどを分類する作業です。T（Targeting；ターゲッティング）は分類された顧客からターゲットとなるべき顧客層を特定化する作業を意味します。最後に、P（Positioning；ポジショニング）とはターゲット・カスタマーが納得・満足するような製品・サービス（ProductのP）を開発し、リーズナブルな価格（PriceのP）を設定し、購入しやすいような販路（PromotionのP）を構築し、そして素晴らしい製品やサービスが、お得な価格で、買い物しやすい販路で購入できますよとうことを顧客にコミュニケーションするというプロセス（PromotionのP）から構成されます。ポジショニングとはライバル組織との関係で最適な４つのPを構成すること（＝マーケティング・ミックス）を意味 します。授業では、STPマーケティングの基本を毎回、異なった実例を挙げながら理解して頂きます。
学修成果 到達目標	マーケティング入門ですので、第1の到達目標は、新聞の経済面で紹介されている企業のニュースのマーケティングにかかわる部分をほぼ完ぺきに理解し、ニュースで取り上げられたその企業のマーケティングについて追加情報を収集して分析できるようになることです。第2の到達目標は、マーケティング戦略を立案・実行するする必要が生じた場合、マーケティング戦略の大体の方向性をイメージすることができることです。そうなるためには、毎回の授業の到達目標を意識しながら授業に取組んでください。 マーケティングはお客様と組織との接点を構築し、維持・発展する活動です。個人にとってもマーケティングは重要な過渡道になります。ケーススタディ（具体的な企業や組織、個人の事例研究）を中心に授業を進めますので、事前の課題や事後の課題にも熱心に取り組んでください。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（　レポートでは論理性と創造性を重視　）■（　毎回の小レポートを重視　）

テキスト	使用しません
参考書	授業中に、適宜、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の小レポートについては次回の授業で解説します。
留意事項	可能な限り授業に出席し、毎回の予習と復習をするようにしてください。そうすると確実に実力が身に付きます。
オフィスアワー	設定します。授業中に説明します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	マーケティング入門

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	組織と個人におけるマーケティングの役割	（学修内容）組織と個人におけるマーケティングの役割について説明します。マーケティングの最も広い定義と最も狭い定義にも触れます。 （事前事後学修課題の内容） 事前にインターネットなどを活用してマーケティングのイメージを作ってくる。授業後にマーケティングのイメージを再確認する。
第2回	STPマーケティングのケーススタディ：S（セグメンテーション）についてケーススタディします。	（学修内容）消費者のニーズ、ウォンツ、デマーンドの関係について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 消費者のニーズとウォンツの違いについて考える。授業後にはニーズとウォンツの関係性を整理する。
第3回	STPマーケティングのケーススタディ：T（ターゲティング）についてケーススタディします。	（学修内容）ターゲティングについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 組織や個人の強みと顧客ニーズ・ウォンツの関係について考える。
第4回	STPマーケティングのケーススタディ：P（ポジショニング）についてケーススタディします。	（学修内容）ポジショニングの意味とポジショニング戦略を構成する４Ｐｓについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） コンビニのセブンーイレブン、ローソン、ファミリーマートのイメージの違いについて考える。
第5回	P（ポジショニング）＝４PsのProduct（製品・サービス）についてケーススタディします。	（学修内容）製品とサービスの違いについて理解する。製品マーケティングとサービス・マーケティングの違いについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 商品としての物理的な製品とサービス財との違いについて考える。
第6回	P（ポジショニング）＝４PsのPrice（価格）についてケーススタディします。	（学修内容）マーケティングにおける価格戦略の特徴について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 製品やサービス財の価格はどのように決まるのかを考える。
第7回	P（ポジショニング）＝４PsのPlace（チャネル）についてケーススタディします。	（学修内容）マーケティング・チャネル戦略について理解する （事前事後学修課題の内容） 小売業態の中のコンビニ、スーパー、デパートの違いについて考える。
第8回	P（ポジショニング）＝４PsのPromotion（販売促進）の人的販売促進についてケーススタディします。	（学修内容）マーケティング・コミュニケーション戦略のうちのメディア戦略を理解する （事前事後学修課題の内容） 営業担当者の役割をイメージする
第9回	P（ポジショニング）＝４PsのPromotion（販売促進）の広告戦略にについてケーススタディします。	（学修内容）マーケティング・コミュニケーション戦略のうちの人的営業戦略を理解する （事前事後学修課題の内容） 化粧品のコマーシャルとカップ麺のコマーシャルの違いを理解する
第10回	STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略をケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。
第11回	STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略をケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。
第12回	STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略をケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。
第13回	STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略をケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。
第14回	STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略をケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。
第15回	これまでの学習内容を踏まえ、STPマーケティングの全体像を実際の企業のマーケティング戦略を総合的にケーススタディします。	（学修内容）STPマーケティングの実際を総合的に理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にケーススタディ企業を教えるので、その企業のマーケティング戦略の特徴をイメージする。授業後に特徴を正確に整理する。

授業名	インターネットリテラシー	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	堀出　雅人	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	SNSやeコマースなど私たちの生活にインターネットによる各種通信サービスは欠かせないものとなっています。 生活の各場面、また、ビジネスの場面でインターネット上の情報を適切に取捨選択し、適切に運用できる力が求められます。特に、本科目では、セキュリティについて取り上げます。さまざまなサイバー攻撃から私たちの大切な情報を守るための知識の習得をめざします。
学修成果 到達目標	(1) サイバー攻撃の仕組みを説明できる (2) 情報セキュリティ対策の基本を説明できる (3) 個人情報保護法など関連法規を説明できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	無し。 担当教員が作成した資料をもとに授業を進める。
参考書	授業中に適宜指示します。
課題に対するフィードバックの方法	毎回classroomを活用して授業のふりかえりを投稿します。 投稿内容について次の授業のなかでコメント付きで紹介し全体で共有します。 グループワークやプレゼンテーションの課題の際は事前に評価のポイントを伝え、 途中でそのポイントに従って指導助言を行います。
留意事項	グループワークやプレゼンテーションを行いますので積極的に参加してください。 日ごろ使用しているSNSなどを他の受講生と共有しながら議論を進めます。
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都府消費生活安全センターの情報モラルに関するアドバイザー 京都府警察本部サイバー犯罪対策課のネット安心ボランティア

授　業　名	インターネットリテラシー

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 情報セキュリティの定義	（学修内容）授業の流れを説明できる この授業におけるインターネットリテラシーの定義を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：シラバスを読んでくる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第2回	マルウエアの脅威	（学修内容）マルウエアの脅威を実例を挙げて説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：マルウエアに関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第3回	情報セキュリティの基本技術	（学修内容）情報セキュリティの基本技術を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：情報セキュリティ技術に関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第4回	サイバー攻撃の仕組み（主にオフィス）	（学修内容）民間企業、役所、学校や病院などが対象となるサイバー攻撃を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：組織を対象としたサイバー攻撃の記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第5回	サイバー攻撃の仕組み（主に個人）	（学修内容）個人スマホや家庭のネットワークが対象となるサイバー攻撃を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：個人を対象としたサイバー攻撃の記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第6回	情報セキュリティ対策の基本	（学修内容）情報セキュリティ対策の基本的要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：IPAのHPを閲覧し興味のある記事をピックアップする 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第7回	ネットワークセキュリティ	（学修内容）ネットワークセキュリティの基本を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：ファイアウォールに関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第8回	個人情報保護	（学修内容）日本における個人情報保護に関する現状を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：我が国の個人情報保護に関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第9回	セキュリティ関連法規	（学修内容）サイバーセキュリティ基本法など関連法規の要点を説明できる （事前事後学修課題の内容） 前：サイバーセキュリティ基本法を読んでくる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第10回	サイバー攻撃の実際 （予定：ゲストスピーカー）	（学修内容）今年度発生しているサイバー犯罪行為の種類を説明できる（京都府警察サイバー対策本部） （事前事後学修課題の内容） 前：サイバー犯罪に関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第11回	サイバーパトロールの実践【グループワーク】	（学修内容）サイバーパトロールを実行できる（技術援助：京都府警察サイバー対策本部） （事前事後学修課題の内容） 前：サイバーパトロールに関する記事を検索しまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第12回	サイバーパトロールの成果報告【プレゼン】	（学修内容）サイバーパトロールの成果と課題を発表できる （事前事後学修課題の内容） 前：スライド資料にサイバーパトロールの成果をまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第13回	消費生活上の世代別ネットトラブル （予定：ゲストスピーカー）	（学修内容）世代別のインターネット関連の消費者トラブルを説明できる（京都府消費生活安全センター） （事前事後学修課題の内容） 前：京都府消費生活安全センターのHPを読みその役割をまとめる 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する
第14回	消費者ネットトラブルを防ぐ対策【グループワーク】	（学修内容）消費者ネットトラブルを防ぐ対策を整理することができる（知識援助：京都府消費生活安全センター） （事前事後学修課題の内容） 前：ネットトラブルを防ぐ啓発活動を調べてくる 後：スライド資料をまとめる
第15回	消費生活上のネットトラブル防止対策【プレゼン】	（学修内容）企画した消費者ネットトラブル防止対策を発表できる （事前事後学修課題の内容） 前：消費者ネットトラブル防止対策の企画案を作成する 後：キーワードを整理し授業の感想をclassroomへ投稿する

授業名	デザイン論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	本授業「デザイン論」では、グラフィックデザインを中心に、色彩・タイポグラフィ・レイアウト・ブランドアイデンティティなど、デザインを支える基本的な概念を学ぶ。歴史的・社会的背景やデザイン思考の流れも踏まえながら、ポスター制作やブランドイメージ企画などの演習を通じて、論理的かつクリエイティブに「デザインする」力を養うことを目的とする。
学修成果到達目標	1.デザインの基礎知識 ・デザイン史の流れを把握し、各時代の代表的な作品やデザイナーを説明できる ・線・形・色・タイポグラフィ・レイアウトなど、デザインの要素と原則を理解し、実践的に応用できる 2.デザインプロセスの体得 ・ユーザー視点やリサーチを踏まえたデザイン思考の手順（課題発見からアイデア発想・試作）を身につける ・ポスターやブランドイメージなどの制作を通じて、企画・構想・実装・講評を繰り返すプロセスを経験する 3.コンセプト構築とプレゼンテーション ・視覚要素を効果的に活用し、コンセプトを魅力的かつ論理的に伝えられる ・制作物に対して、自分の意図やデザイン上の工夫点をわかりやすく説明し、他者からのフィードバックを反映させられる 4.多角的な視点の習得 ・グラフィックとデジタルメディアを関連づけて学び、ブランド構築やUIデザインなど他分野の視点も取り入れられる ・社会的背景やユーザーの利用状況を鑑み、デザインの役割や価値を多面的に考察できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。

授業名	デザイン論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業概要と到達目標の確認 デザイン論の範囲と演習の流れ （事前事後学修課題の内容） 事前:シラバスを読んで興味のあるテーマや分野をピックアップ 事後:ピックアップしたテーマを共有できるよう簡単に整理
第2回	デザインの歴史	（学修内容）グラフィックデザインを中心に各時代の特徴と社会的背景を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前:教科書や指定文献で時代別のデザイン事例を確認 事後:気になったデザイナーや作品を1〜2点まとめる
第3回	デザイン要素と原則	（学修内容）線 形 色 レイアウトなど基礎要素とバランス・コントラストなどの原則 （事前事後学修課題の内容） 事前:街中やSNSで目にした広告やポスターを1つ選び構成要素を分析 事後:分析結果をノートにまとめ次回発表用に準備
第4回	色彩論と配色計画	（学修内容）色彩理論と心理効果 印刷とデジタル表示の違い （事前事後学修課題の内容） 事前:身近な印刷物やディスプレイ広告の色合いを観察 事後:観察した色の印象や心理的効果を簡単なレポートにまとめる
第5回	タイポグラフィとレイアウト	（学修内容）文字選び・文字組み レイアウト技法 雑誌や広告への応用 （事前事後学修課題の内容） 事前:興味のある雑誌や広告を1つ選んでフォントを調べる 事後:選んだフォントの特徴・狙いをスライド等でまとめる
第6回	デザイン思考とリサーチ	（学修内容）ユーザー目線で課題を捉える方法 リサーチ・発想・試作の流れ （事前事後学修課題の内容） 事前:身近な課題を1つ挙げ課題点をリストアップ 事後:授業を踏まえたアイデアスケッチをノートに書く
第7回	ワークショップ1(ポスター制作案出し)	（学修内容）個人またはグループでポスターのテーマを決定 ざっくりとしたラフ作り （事前事後学修課題の内容） 事前:どんなテーマのポスターにするか考え資料を集める 事後:集めた資料をスケッチに活かしてデザイン案を作成
第8回	中間発表(ポスター案プレゼン)	（学修内容）作成中のポスターラフを発表 互いにフィードバックし修正点を洗い出す （事前事後学修課題の内容） 事前:発表用にデザイン意図を整理 事後:指摘や感想を踏まえた修正版を制作
第9回	完成ポスターの展示と講評	（学修内容）最終版ポスターを提示しコンセプトを説明 全体講評を行う （事前事後学修課題の内容） 事前:発表資料を再点検しスライドや口頭説明を準備 事後:他の受講者からの意見を踏まえて作品をデータ化や保管
第10回	デジタルメディアとグラフィック	（学修内容）ウェブやアプリなど画面上でのグラフィックデザイン事例紹介(構造や配色程度) （事前事後学修課題の内容） 事前:気になったアプリやサイトのグラフィック要素をピックアップ 事後:ピックアップ内容をノートまたはシートで整理
第11回	インタラクションとUIの基礎	（学修内容）UI要素(ボタンやアイコンなど)のデザイン原則とユーザー視点 （事前事後学修課題の内容） 事前:実際に使っているアプリのUIを観察 事後:気になるUIデザインを取り上げ良い点・課題をメモ
第12回	ブランドとビジュアルアイデンティティ	（学修内容）ロゴやパッケージなどブランド構築のためのビジュアル戦略 （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなブランドのロゴやパッケージを調べる 事後:調べたブランドのコンセプトをまとめ共有
第13回	ワークショップ2(ブランドイメージ企画)	（学修内容）想定ブランドのロゴやツール(名刺やパッケージ)デザインラフを作成 （事前事後学修課題の内容） 事前:どのようなブランドにするか設定資料を準備 事後:ラフデザインを具体化し簡単なモック(紙ベース)を作成
第14回	発表(ブランドイメージ案)	（学修内容）制作したロゴや各ツールの案をプレゼン 互いに感想や意見を交わす （事前事後学修課題の内容） 事前:発表用のコンセプト資料やラフ案を整理 事後:フィードバックを受けた修正点をメモし
第15回	振り返りと総括	（学修内容）全体のまとめ・講評 今後の発展へのヒント 作品や学習の振り返り （事前事後学修課題の内容） 事前:これまでの課題やノートを見直す 事後:最終レポートやアンケートを提出し学習を完結

授業名	ウェブデザイン	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	ウェブデザインの特徴や基本的な設計手法を学ぶ科目である。コーディングの専門知識や高度なデザインスキルは求めず、既存サイトの分析やAIツール、Canvaなどを使って、簡単なウェブページの構成案を作りながら学ぶ。ユーザービリティやアクセシビリティ、モバイル対応などの概念も扱い、実践的かつ幅広いウェブデザインの視点を身につけることを目的とする。
学修成果 到達目標	1.ウェブデザインの基本理解 ウェブの構造やレイアウト、UI/UXの基礎概念を把握し、既存サイトを分析したり簡易的なウェブページを構成できるようになる。 2.ツール活用とAI生成 CanvaやChatGPTなどの生成AIを使って、サイトのテキストやデザイン案を作り、編集・改善しながら効率的にアイデアを形にできるようになる。 3. ユーザー視点・アクセシビリティへの理解 スマホ対応や色覚バリアフリーなど、多様なユーザーが利用しやすいウェブデザインの考え方を学び、デザイン案に反映できる。 4.企画・発表スキル 自分のテーマやターゲットを想定し、サイトのワイヤーフレームやプロトタイプを企画。最終的にプレゼン資料をまとめ、わかりやすく説明できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	

授業名	ウェブデザイン

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業概要とゴールの確認 ウェブデザインの全体像 （事前事後学修課題の内容） 事前:シラバスを読んで疑問点をまとめる 事後:学びたいサイトやデザインをリストアップ
第2回	ウェブデザインの基礎とトレンド	（学修内容）サイト構成やレイアウト基本用語 最近のデザイントレンド事例 （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなサイトを1つ見つけ構成と配色を観察 事後:気づいた点をスライド1枚で整理し次回提出
第3回	UI/UXの基礎理解	（学修内容）ユーザー目線の設計や使いやすさを考える ヒートマップなど簡単な解説 （事前事後学修課題の内容） 事前:ユーザーとして使いにくいと感じたサイトを探す 事後:使いにくい理由を箇条書きでまとめる
第4回	既存サイトの講評(1)	（学修内容）受講生が選んだサイトを全体で講評 グループディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前:講評用にサイトのスクリーンショットとポイントを用意 事後:他グループからの意見を振り返りノートに記録
第5回	生成AIでサイト案を作る(1)	（学修内容）ChatGPTなどを使いサイト構成やコピーを生成してみる （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなジャンル(カフェ,ショップなど)のサイトを想定 事後:生成結果を編集し大まかな構成案を作成
第6回	Canvaの基本操作	（学修内容）Canvaでテンプレートを使った簡易Webページ作成 （事前事後学修課題の内容） 事前:Canvaのチュートリアルをざっと確認 事後:授業内で作った簡易ページを保存し共有
第7回	ワークショップ(Canvaでサイト作成)	（学修内容）実際にテーマを設定しCanvaを用いてページデザインを試作 （事前事後学修課題の内容） 事前:事前に使用する素材(画像・テキスト)を準備 事後:試作ページをクラス内で見せ合いフィードバックを記録
第8回	既存サイトの講評(2)	（学修内容）前回に引き続き別ジャンルのサイトを分析し講評 （事前事後学修課題の内容） 事前:新たに気になったサイトを選ぶ 事後:気づきをシートにまとめ次回復習用に提出
第9回	生成AIでサイト案を作る(2)	（学修内容）AI生成のテキストやレイアウトアイデアをさらにブラッシュアップ （事前事後学修課題の内容） 事前:前回のAI生成文や構成を見直し課題点を洗い出す 事後:改良版の構成とテキストを作り次回提示
第10回	ワイヤーフレーム作成	（学修内容）画面遷移図や配置などの基本設計を手書きで練習 （事前事後学修課題の内容） 事前:参考になるサイトマップ例やワイヤーフレーム例を検索 事後:自分のテーマに合わせて紙ベースでワイヤーフレームを描く
第11回	モバイル対応(レスポンシブ)の考え方	（学修内容）スマホなど異なる画面サイズに合わせたレイアウトの要点 （事前事後学修課題の内容） 事前:自分のスマホで様々なサイトを見て, レイアウトを比べる 事後:気づいた工夫や問題点をノートに残す
第12回	アクセシビリティとユーザビリティ	（学修内容）高齢者や障がいのあるユーザーへの配慮 色覚バリアフリーなど （事前事後学修課題の内容） 事前:アクセシビリティ関連のガイドラインをざっと確認 事後:どのような工夫が必要か事例を探し共有
第13回	最終課題(簡易サイト案)の制作(1)	（学修内容）CanvaまたはAIツールを使い最終サイト案を作成 （事前事後学修課題の内容） 事前:どのようなジャンルで作るかターゲット設定など決める 事後:初期段階のデザイン案を一通り形にして次回発表
第14回	最終課題(簡易サイト案)の制作(2)	（学修内容）前回の案をブラッシュアップして完成度を高める （事前事後学修課題の内容） 事前:フィードバックシートの内容を整理 事後:完成形を資料化して最終プレゼンに備える
第15回	最終発表と振り返り	（学修内容）完成したサイト案(Canva等)を発表 全体で講評 今後の学習展望 （事前事後学修課題の内容） 事前:発表用スライドやデモ映像を最終確認 事後:他者の作品から学んだ点や反省点をレポートにまとめる

授業名	経営学入門	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要

「経営学入門」の授業では、主に民間企業の経営（顧客ニーズを発見し、そのニーズを満足させる製品やサービスを開発し、顧客に製品やサービスの存在を告知し、顧客に購入してもらうためにアプローチする方法を考え、実行する活動）を説明します。経営には、このような価値創造プロセスだけではなく、そのプロセスを実行させる人材（最近は「人財」という漢字を当てる場合もあります）の採用・育成も重要です。この分野は経営学では「組織（行動・構造）論」や「人的資源管理」・「人的資源開発」という分野で研究されています。また、価値を創造するためには資金の調達・運用も重要になります。簿記論や会計学、財務管理論などが、この分野になります。最近は、利潤の追求だけではなく、企業には「社会的な課題」を本業を通じて解決することも求められています。このような企業活動は「社会的共有価値の創造」と表現されています。
　授業では、可能な限り実際の企業の実例（これを事例やケースと言います）を取り上げながら、理論との関連で、分かりやすく説明してゆきます。授業中には、受講生の発言を求める機会があります。その様な時には、恥ずかしがらずに、積極的に発言するようにしてください。

学修成果到達目標

1）企業とは何か、特に株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。
2）組織を運営・管理するための体系と関連する理論を理解する。
3）企業や組織の運営・管理について、意見提言できる力を身につける。

事前事後学修について

各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。
（1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連

◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業

■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション
□実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法

定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準

主たる評価観点：■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力
■授業態度・参加意欲　■(　グループワークでの貢献を重視しま　)□(　　)

テキスト

なし。授業で使用しますパワーポイントスライドのPDFファイルを共有します。

参考書

授業中に、適宜、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して必要なアドバイスを行います。

留意事項

　授業では、グループワークを積極的に取り入れます。グループワークを円滑に進めるためにも、お互いのことを知ることから始めます。第１回から第５回の授業では、授業の最初にチェック・イン（近況や今の状況について簡単に紹介）を行い、グループワークなどのアクティブ・ラーニングに慣れるように進めていきます。
　各回の状況は、受講生の状況に応じて変更が生じることがあります。

オフィスアワー

毎回の授業後に実施します。

実践的教育

■実践的教育
教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	経営学入門

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	（学修内容）授業のねらいと進め方について紹介、講師及び受講生の自己紹介 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容について確認すること
第2回	シラバスの内容について確認すること	（学修内容）経営の多岐にわたる活動分野を整理しながら説明します （事前事後学修課題の内容） 経営にはどのような活動が必要とされるのかを理解する
第3回	職能分野：マーケティング（1）	（学修内容）顧客（ニーズ）の発見について学習します （事前事後学修課題の内容） 「美しくなりたい」という抽象的なニーズを多面的に具体化してください
第4回	職能分野：マーケティング（2）	（学修内容）競争戦略について学習します （事前事後学修課題の内容） 競争の具体的な手段を考えてください
第5回	職能分野：財務管理	（学修内容）企業の血液循環に当たるお金の流れについて学習します （事前事後学修課題の内容） なぜ黒字倒産が発生するのかの理由を考えてください
第6回	職能分野：人事（1）：採用	（学修内容）採用人事について学習します （事前事後学修課題の内容） 自分が就職試験で面接を受けている状況を思い描いてください
第7回	職能分野：人事（2）：育成	（学修内容）OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）とOFF-JTについて学習します （事前事後学修課題の内容） 経験学習の抽象的理論化に成功した自分のケースを想起してください
第8回	職能分野：人事（3）：管理職	（学修内容）管理職の仕事内容を学習します （事前事後学修課題の内容） リーダーシップについて自分の経験を想起してください
第9回	組織（行動）論（1）：プロジェクト・マネジメント	（学修内容）特に、クロスバウンダリー・チーミング（CBT）について学習します （事前事後学修課題の内容） 身の回りのCBTの具体例を探してその問題点を分析してください
第10回	組織（行動）論（2）：コミュニケーション	（学修内容）ソーシャル・スタイル理論について学習します （事前事後学修課題の内容） 自分のソーシャル・スタイルを確認してください
第11回	組織（行動）論（3）：組織文化	（学修内容）シャインの組織文化の三層構造モデルについて学習します （事前事後学修課題の内容） シャインのモデルを使って、組織文化変革の困難性を分析しなさい
第12回	企業の国際化・グローバル化	（学修内容）企業の国際化、グローバル化とその課題について学習します （事前事後学修課題の内容） この大学の国際化について感じることをまとめてください
第13回	グループによる発表（準備）	（学修内容）この授業で学んだことを踏まえ、関心のある企業についてグループを作りパワーポイントを使って発表する準備を行う （事前事後学修課題の内容） 事例発表の準備
第14回	グループによる発表	（学修内容）この授業で学んだことを踏まえ、関心ある企業についてパワーポイントを使ってグループで発表する （事前事後学修課題の内容） グループ発表を通じて学んだことをまとめること
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	（学修内容）これまでの授業内容を振り返り、授業で学んだことについて述べる （事前事後学修課題の内容） 事前に授業で学んだことをまとめること

授業名	事業創造論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	事業創造論では、新規ビジネスや既存ビジネスのリニューアルを授業の主要テーマとします。近年、企業は環境の急速で予測不可能な変化に直面しています。その様な環境変化を英語ではVUCA World（ヴーカ・ワールド）と表現しています。VUCAとは、4つの英単語、Volatility（急速な大きな変化）, Uncertainty（現象が生ずる原因は明らかであるが、その現象がいつどこで発生するのかはまったく分からない状態）, Complexity（現象が複雑な因果連鎖によって引き起こされているので、現象が発生した真の原因が不明）, Ambiguity（変化が発生しているにもかかわらず、変化を持感じることが困難な状況）の頭文字から採られた言葉です。このような中で、近年の事業創造はエフェクチュエーション（effectuation）という方法によって実行されることが正解であるとされています。 環境変化が穏やかで、将来が予想可能な状況下では、コーゼーション（causation）という事業創造戦略が有効性を発揮できました。コーゼーションとは「因果連鎖」、つまり原因と喧嘩の連鎖が予想可能な状況での経営戦略の実行方法を意味しています。コーゼーションの下では、STPマーケティングが有効性を発揮します。この授業ではエフェクチュエーションをベースにして事業創造に成功した実際の日本のケース（事例）に基づいて、分かりやすく、かつ受講者が現場で実践可能なように説明してゆきます。
学修成果到達目標	・コーゼーションとエフェクチュエーションの戦略上の違いを説明できるようになる。 ・実際のケースをエフェクチュエーション理論に基づいて分析できるようになる。 ・実際に事業創造のための事業計画書を作成できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ レポートでは論理性と創造性を重視 ）■（ 毎回の小レポートを重視 ）
テキスト	使用しません
参考書	授業中に適宜、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	授業中の小レポートについては次回の授業で解説します。
留意事項	授業に真面目に出席し、事前課題と事後課題、そして授業中の小レポートに熱心に取り組んでください。そうすれば確実に実力が付きます。
オフィスアワー	授業中に紹介します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	事業創造論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	事業創造とは何か？	（学修内容）事業創造のさまざまな目的について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の事業構想案を考えること。事後課題は授業後に自分の事業構想の自己採点をすること。
第2回	STPマーケティングを知る	（学修内容）典型的なコーゼーション型事業創造方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の事業構想の修正案を作成すること。事後課題はさらに自己採点すること。
第3回	エフェクチュエーション理論を理解する：具体的な企業のケーススタディ	（学修内容）エフェクチュエーション理論を理論的、実践的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題はSTPマーケティングの基本的な構成要素を考えること。事後課題は自分のＷｈｏ Ａｍｌ？を考えてくること。
第4回	エフェクチュエーション理論を理解する：具体的な企業のケーススタディ	（学修内容）エフェクチュエーション理論を理論的、実践的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の事業構想のパーパスを考えること。事後課題はそのパーパスを採点すること。
第5回	エフェクチュエーション理論を理解する：具体的な企業のケーススタディ	（学修内容）エフェクチュエーション理論を理論的、実践的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分史になかでの「レモネードの原則」を考えること。事後課題は、それをエフェクチュエーション理論の中に位置づけること。
第6回	アントレプレナーシップ：リソースフルネスの重要性	（学修内容）アントレプレナーシップのリソースフルネス概念を理解すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の授業構想を実現する場合に必要な資源や能力について考えること。事後課題はその考えを理論的に評価すること。
第7回	アントレプレナーのケーススタディ：具体的な起業家のケーススタディ、取り上げる起業家は受講生と相談の上で決定する	（学修内容）アントレプレナー（起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第8回	アントレプレナーのケーススタディ：具体的な起業家のケーススタディ、取り上げる起業家は受講生と相談の上で決定する	（学修内容）アントレプレナー（起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第9回	アントレプレナーのケーススタディ：具体的な起業家のケーススタディ、取り上げる起業家は受講生と相談の上で決定する	（学修内容）アントレプレナー（起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第10回	アントレプレナーのケーススタディ：具体的な起業家のケーススタディ、取り上げる起業家は受講生と相談の上で決定する	（学修内容）アントレプレナー（起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第11回	アントレプレナーのケーススタディ：具体的な起業家のケーススタディ、取り上げる起業家は受講生と相談の上で決定する	（学修内容）アントレプレナー（起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第12回	イントラプレナーのケーススタディ：具体的なイントラプレナーのケーススタディ、取り上げるイントラプレナーは受講生と相談の上で決定する	（学修内容）イントラプレナー（企業内起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第13回	イントラプレナーのケーススタディ：具体的なイントラプレナーのケーススタディ、取り上げるイントラプレナーは受講生と相談の上で決定する	（学修内容）イントラプレナー（企業内起業家）の総合的なケーススタディにより事業構想力を涵養すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はケースを読み込んで分析してくること。事後課題は自分の分析結果を再確認すること。
第14回	第15回目の授業の発表の準備	（学修内容）第15回目の授業で発表するチームの事業構想計画を発表する準備をする （事前事後学修課題の内容） 事前課題はチームで事業構想案をまとめること。事後課題はチームの事業構想案を計画にまとめて発表できるようにすること
第15回	各チームの事業構想計画の発表	（学修内容）各チームの事業構想計画に基づいて、発表方法、発表態度の重要性を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題はチームの事業構想計画をパワーポイントスライドにまとめてくること。事後課題は発表後のコメントに対応すること。

授業名	ファッションビジネス	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	積　高之	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	ファッションビジネスの主要概念やプロセスを広く学ぶ科目である。ブランドやマーケティングの基本から始まり、SNS活用や消費者行動、サステナブルファッション、店舗運営、商品企画など多角的に探究する。講義と演習、グループワークを組み合わせることで、ファッションビジネスにおける実践的な視点やアイデア創出力を養うことを目的とする。
学修成果到達目標	1. ファッションビジネスにおけるブランド構築やマーケティングの基礎理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. SNSやECサイトなどデジタル領域でのビジネス展開について把握し、その応用例や課題点を具体的に考察できる。 3. 消費者行動やトレンド分析、サステナブルファッション、VMDなど、ファッションビジネスに必要な多様な視点を持ち、グループワークやディスカッションに積極的に参加できる。 4. 新たなビジネスプランやブランドコンセプトを企画し、ストーリーテリングやビジュアル企画などを活用してわかりやすくプレゼンできる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	"使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布"
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	授業内ないしコメントでフィードバック
留意事項	"PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。"
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。

授業名	ファッションビジネス

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の概要と目標の確認 ファッションビジネスの全体像 （事前事後学修課題の内容） 事前:シラバスを一読して興味のあるトピックを考える 事後:次回以降の授業で学びたいテーマを簡単にまとめる
第2回	ブランドとマーケティングの基本	（学修内容）ブランドの概念やマーケティングの基本用語 ファッション市場の特徴 （事前事後学修課題の内容） 事前:ファッションブランド1社を調べ概要をつかむ 事後:調べたブランドの強みと課題をまとめる
第3回	SNSとファッションビジネス	（学修内容）SNSの活用事例と特徴 インフルエンサーマーケティング （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなブランドのSNS発信を数日間チェック 事後:気づいた工夫やファンとのやり取りを発表用にメモする
第4回	顧客とのコミュニケーション	（学修内容）顧客エンゲージメントやCRMの基礎 オムニチャネル戦略 （事前事後学修課題の内容） 事前:ファッションECサイトを1つ見て顧客とのやり取りを観察 事後:観察内容を共有して気づきをA4一枚で整理
第5回	Eコマースとデジタルマーケティング消費者行動とトレンド分析	（学修内容）ECサイトの仕組みと運営 デジタル広告やSEO （事前事後学修課題の内容） 事前:ECモールや公式サイトを比較分析 事後:比較結果を授業中のディスカッションで発表
第6回	消費者行動とトレンド分析	（学修内容）ターゲット設定と市場調査 トレンドの見極め方 （事前事後学修課題の内容） 事前:街頭やSNSでどんなファッションが流行しているかリサーチ 事後:集めた情報をクラスのスライドで共有
第7回	サステナブルファッションビジネス	（学修内容）環境配慮や社会的責任を考慮したビジネスモデル （事前事後学修課題の内容） 事前:サステナブルを打ち出すブランドのPRを調べる 事後:調べたブランドの強みをポスター形式でまとめる
第8回	店舗マネジメントとVMD	（学修内容）ショップ運営の基礎 VMD(ビジュアル・マーチャンダイジング)の重要性 （事前事後学修課題の内容） 事前:近隣のアパレル店舗を数店回ってVMDの違いを見る 事後:VMDで工夫されている点を写真付きでまとめる
第9回	コラボレーションとインフルエンサー戦略	（学修内容）ブランド間コラボや著名人との共同企画の事例 （事前事後学修課題の内容） 事前:有名コラボ商品を1つ調べて成功要因を考える 事後:自分なりのコラボ企画を簡単にプランニングして発表
第10回	商品企画とビジュアル企画	（学修内容）商品企画の流れとビジュアルコンセプトの作り方 （事前事後学修課題の内容） 事前:好きなブランドで新商品を企画するイメージを考える 事後:考えた企画のキービジュアル案を手描きまたはデジタルで提出
第11回	ブランドストーリーテリング	（学修内容）ブランドの世界観やメッセージづくり ストーリーテリングの手法 （事前事後学修課題の内容） 事前:人気ブランドのストーリーブックや動画を視聴 事後:自分のブランドを想定しストーリーボードを作成
第12回	海外市場とグローバル展開	（学修内容）海外マーケティングの基本 輸出や現地化のポイント （事前事後学修課題の内容） 事前:海外ブランドの日本進出例を調べる 事後:海外進出時の課題と対策をグループでディスカッション
第13回	ファッションとデータ分析	（学修内容）在庫管理や販売分析 カスタマーアナリティクス入門 （事前事後学修課題の内容） 事前:身近なアパレル店のセールデータ(推定)を考えてみる 事後:分析結果を踏まえた改善策を簡単な資料にまとめる
第14回	ワークショップ 実践的ファッションビジネス企画	（学修内容）グループで新たなファッションビジネスプランを立案 （事前事後学修課題の内容） 事前:事前にグループでアイデア出しをする 事後:完成したビジネスプランをクラスで発表
第15回	まとめと最終プレゼン	（学修内容）全体の振り返りと学習成果の共有 発表・レポート提出 （事前事後学修課題の内容） 事前:これまでの内容を振り返りポイントを整理 事後:最終レポートまたはプレゼンテーション資料を仕上げる

授業名	消費者行動	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	現代消費者の消費行動を分析するための基本的なマーケティング手法を、代表的な理論モデルと近年の実例（事例・ケース）によって学習します。同時に、その知識を企業活動や自分の商社行動にに応用できるスキルを、ディスカッションやケーススタディを通して身につけること 。
学修成果 到達目標	組織が存続するためには顧客のニーズを満足させることが必要になります。このことは個人営業の場合にもあてはまります。本授業は消費者行動をさまざまな観点から考察し、実際の消費者行動を理解し、消費者の満足度を高め、製品やサービスの消費者コミットメントを高め、それと同時にブランド・エンゲージメントを高めるスキルを身に付けることが学習成果・到達目標になります。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法							
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（　レポートでは論理性と創造性を重視　）■（　毎回の小レポートを重視　）

テキスト	使用しません
参考書	授業中に適宜、紹介します
課題に対するフィードバックの方法	小レポートの解説は次回の授業で行います。
留意事項	毎回授業に出席し、事前課題と事後課題に真面目に取り組んでください。実力が向上します。
オフィスアワー	授業中に説明します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	消費者行動

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	消費者行動とマーケティング‐Ⅰ：「消費者行動」の重要性	（学修内容）マーケティングの観点から消費者行動を理解することの重要性 （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の消費行動の特徴を考えてくること。事後課題は考えてきた自分の消費行動の特徴を整理すること。
第2回	消費者行動とマーケティング‐Ⅱ：消費者のニーズ、ウォンツ、デマーンドの三層構造モデル	（学修内容）マズローの欲求五段階説との関連で、消費者のニーズ、ウォンツ、デマーンドの違いを理解します。 （事前事後学修課題の内容） 事前課題はマズローのニースの5段階モデルで自分の消費行動の特徴を考えてくること。事後課題はその特徴を整理すること。
第3回	セグメンテーション（市場細分化）戦略：STPマーケティングとの関連で	（学修内容）実際の企業の消費者ニーズの細分化の事例を理解します （事前事後学修課題の内容） 事前課題は関心のある製品・サービスの消費を考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第4回	マーケティングと消費者の価値創造	（学修内容）機能的価値と情緒的価値の違いと関係性について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は関心のある製品・サービスの機能的価値と情緒的価値消費を考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第5回	革新の普及モデルと製品ライフサイクルの関連性	（学修内容）エベリット・ロジャーズの革新の普及モデルを理解し、ケース分析に応用できるようになる （事前事後学修課題の内容） 事前課題は関心のある製品・サービスのライフサイクルを考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第6回	ファッションの流行現象を分析する	（学修内容）具体的な流行現象を分析する能力の涵養 （事前事後学修課題の内容） 事前課題はファッションの流行現象について考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第7回	飲食店（ラーメン店）の流行現象を分析する	（学修内容）具体的な流行現象を分析する能力の涵養 （事前事後学修課題の内容） 事前課題はラーメン店の流行現象について考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第8回	飲食店（ドーナッツ店）の流行現象を分析する	（学修内容）具体的な流行現象を分析する能力の涵養 （事前事後学修課題の内容） 事前課題はドーナッツ店の流行現象について考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第9回	高級食パンの流行現象を分析する	（学修内容）具体的な流行現象を分析する能力の涵養 （事前事後学修課題の内容） 事前課題は高級食パンの流行現象について考えてくること。事後課題はそれを整理すること。
第10回	流行現象を分析する：具体的なケースは受講生と相談して決定する	（学修内容）具体的な流行現象を分析する能力の涵養 （事前事後学修課題の内容） 事前課題は授業で取り上げる流行現象について情報を収集してくること。事後課題はそれを整理すること。
第11回	コロナ禍における消費者行動の特質	（学修内容）パンデミック発生時の消費行動の特徴について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前課題は自分の場合を整理してくること。事後課題はそれを整理すること。
第12回	SDGsと消費者の役割：SDGsの内容紹介とそれに関連した消費者の役割	（学修内容）SDGsの12番目の目標は、「作る責任、使う責任」です。使う責任について理解し、実践すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題は事前ケースを分析してくること。事後課題はそれを整理すること。
第13回	リジェネレーションと消費者の役割：SDGsの限界とそれを克服するリジェネレーションという概念を理解し、消費者がリジェネラティブに取り組む方法	（学修内容）SDGsとの関連で、リジェネレーション、特にリジェネラrティブ・コンサンプションについて理解し、実践すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題はリジェネレーションのケースについて情報を調べてくること。事後課題はそれを整理すること。
第14回	チーム発表の準備	（学修内容）チーム編成の確認と発表内容の確認 （事前事後学修課題の内容） 事前課題はチーム発表案の作成。事後課題は第15回目の発表のためにそれを整理すること。
第15回	チーム発表	（学修内容）チームでのパワーポイントスライドでの発表を通じて、消費者行動全般の理解を互いに確認すること （事前事後学修課題の内容） 事前課題は発表のためのパワーポイントスライドの作成。事後課題はそれを整理すること。

授業名	総合的な学習の時間（小）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3452
英文名	The Period of Integrated Study	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	飯田　令子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	総合的な学習の時間の先進事例をもとに，総合的な学習の時間の意義や，各学校における目標及び内容を定める際の考え方を解説する。本授業を通して，指導計画作成の考え方や指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解するとともに，その目標達成のために必要な基礎的な資質・能力を身に付けるようにする。
学修成果到達目標	１．学習指導要領に基づいて，教員の求められる総合的な学習の時間に関する具体的な指導の在り方，並びに学習活動の評価などの基本的知識・技能を修得することができる。 ２．探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための指導法を理解することができるようにする。 ３．各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用・応用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究する学びを実現できるような指導計画を作成することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編　平成29年7月　文部科学省 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　文部科学省，国立教育政策研究所教育課程研究センター
参考書	小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月　告示　文部科学省　東洋館出版
課題に対するフィードバックの方法	コメントカード等により受講生の声を受け止めながら，本授業の課題を共有する。
留意事項	到達目標に迫るため，15回の授業に出席し学びを深めるとともに，その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う。
オフィスアワー	授業日の昼休憩時，及び授業後の時間
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市立小学校校長として勤務　京都市小学校生活科・総合的な学習教育研究会会長　日本生活科・総合的学習教育学会京都支部事務局長

授業名	総合的な学習の時間（小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	総合的な学習の時間の創設とその背景	（学修内容）総合的な学習の時間の創設とその背景 （事前事後学修課題の内容） 配布した資料に基づき，提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	総合的な学習の時間の意義と目標，目指す資質・能力	（学修内容）総合的な学習の時間の意義と目標，目指す資質・能力 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第1章，第2章，第3章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導，及び評価の基本的な考え方	（学修内容）総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導，及び評価の基本的な考え方 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第4章から第8章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法	（学修内容）総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法 （事前事後学修課題の内容） 配布する資料を基に，提示する課題について小レポートにまとめる。
第5回	総合的な学習の時間　実践事例(1)「地域の文化と伝統」	（学修内容）「地域の文化と伝統」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域の文化と伝統」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第6回	総合的な学習の時間　実践事例(2)「地域と自然環境」	（学修内容）「地域と自然環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第7回	総合的な学習の時間　実践事例(3)「地域の町づくり」	（学修内容）「地域の町づくり」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域の町づくり」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第8回	総合的な学習の時間　実践事例(4)「地域と福祉」	（学修内容）「地域と福祉」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と福祉」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第9回	総合的な学習の時間　実践事例(5)「エネルギー資源と環境」	（学修内容）「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第10回	総合的な学習の時間　実践事例(6)「地域と防災」	（学修内容）「地域と防災」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と防災」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第11回	総合的な学習の時間　実践事例(7)「和食の文化」	（学修内容）「和食の文化」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「和食の文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第12回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備(1)	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案作成 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案作成と提案に向けての準備をする。
第13回	グループ協議に基づく学習指導計画案作成とプレゼンテーションの作成	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の提案準備とプレゼンテーション作成 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案の提案に向けてのプレゼンテーション作成する。
第14回	グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(1)	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の提案 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに，相互評価を行う。また，提示するレポート論題についてまとめる。
第15回	グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(2)，及び総合的な学習の時間の展望（まとめ）	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(2)，及び総合的な学習の時間の展望（まとめ） （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに，相互評価を行い，総合的な学習の時間についてまとめる。

授業名	総合的な学習の時間（家庭・栄養）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3741
英文名	The Period of Integrated Study	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	飯田　令子	対象学生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				

授業の概要	総合的な学習の時間の先進事例をもとに，総合的な学習の時間の意義や，各学校における目標及び内容を定める際の考え方を解説する。本授業を通して，指導計画作成の考え方や指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解するとともに，その目標達成のために必要な基礎的な資質・能力を身に付けるようにする。
学修成果到達目標	1．学習指導要領に基づいて，教員の求められる総合的な学習の時間に関する具体的な指導の在り方，並びに学習活動の評 価などの基本的知識・技能を修得することができる。 2．探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を 考えていくための指導法を理解することができるようにする。 3．各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用・応用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生 活の課題を探究する学びを実現できるような指導計画を作成することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編　平成29年7月　文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編　平成30年7月　文部科学省
参考書	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　総合的な学習の時間　令和2年7月　文部科学省，国立教育政策研究所教育課程研究センター 中学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月　告示　文部科学省　東洋館出版
課題に対するフィードバックの方法	コメントカード等により受講生の声を受け止めながら，本授業の課題を共有する。
留意事項	到達目標に迫るため，15回の授業に出席し学びを深めるとともに，その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う。
オフィスアワー	火曜日の昼休憩時，及び授業後の時間
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市立小学校校長として勤務

授業名	総合的な学習の時間（家庭・栄養）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	総合的な学習の時間の創設とその背景	（学修内容）総合的な学習の時間の創設とその背景 （事前事後学修課題の内容） 配布した資料に基づき，提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	総合的な学習の時間の意義と目標，目指す資質・能力	（学修内容）総合的な学習の時間の意義と目標，目指す資質・能力 （事前事後学修課題の内容） 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第1章，第2章，第3章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導，及び評価の基本的な考え方	（学修内容）総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導，及び評価の基本的な考え方 （事前事後学修課題の内容） 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第4章から第8章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法	（学修内容）総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法 （事前事後学修課題の内容） 配付する資料を基に，提示する課題について小レポートにまとめる。
第5回	総合的な学習の時間の実践事例(1)「地域の伝統と文化」	（学修内容）「地域の伝統と文化」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域の伝統と文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第6回	総合的な学習の時間の実践事例(2)「地域と自然環境」	（学修内容）「地域と自然環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第7回	総合的な学習の時間の実践事例(3)「地域の町づくり」	（学修内容）「地域の町づくり」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域の町づくり」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第8回	総合的な学習の時間の実践事例(4)「地域と福祉」	（学修内容）「地域と福祉」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と福祉」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第9回	総合的な学習の時間の実践事例(5)「エネルギー資源と環境」	（学修内容）「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第10回	総合的な学習の時間の実践事例(6)「地域と防災」	（学修内容）「地域と防災」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第11回	総合的な学習の時間の実践事例(7)「和食の文化」	（学修内容）「和食の文化」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容） 「和食の文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第12回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備 （事前事後学修課題の内容） グループ協議の基づく学習指導計画案作成と提案に向けての準備をする。
第13回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成，プレゼンテーションの作成	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の作成，プレゼンテーションの作成 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案の提案に向けてプレゼンテーションを作成する。
第14回	グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(1)	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに，相互評価を行う。また，提示するレポート論題についてまとめる。
第15回	グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(2)，及び総合的な学習の時間の展望	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(2)，及び総合的な学習の時間の展望 （事前事後学修課題の内容） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに，相互評価を行い，総合的な学習の時間についてまとめる。

授業名	日本文化総論Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	馬場　まみ	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	日本文化は、前近代の文化が近代化の過程で変化しながら形成されてきた。本講義では、西洋人が江戸時代の文化をどのように捉え、近代化の過程で日本は西洋文明を取り入れながらどのような文化を形成してきたのかを資料からたどり、近代化と日本文化形成の関わりを概説する。 資料として、幕末・明治初期に来日した外国人の記録、日本人の西洋見聞記を用い、記述からどのような文化の形成を目指したのかを読み取る。さらに、19世から20世紀に開催された内国博覧会および万国博覧会の記録と出品物を概観し、日本文化形成の過程と特色を考察する。
学修成果到達目標	1. 近代化の過程で日本文化がどのように形成されてきたのかを理解できる。 2. 幕末・明治初期の日本文化を理解できる。 3. 近代に西洋文明をどのように取り入れたのか説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	指定しない。適宜資料を配付する。
参考書	授業で随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	日本文化総論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）講義内容と授業の進め方 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで学びの目標を理解する。
第2回	幕末・明治初期の日本文化　①外国人の見た日本	（学修内容）幕末・明治初期に日本に滞日した外国人の記録の概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に幕末・明治初期に来日した外国人について調べる。授業後に外国人の記録を整理する。
第3回	幕末・明治初期の日本文化　②記録を読む	（学修内容）外国人の見聞記を読み、内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に見聞記の著者について調べる。事後に記述内容を整理する。
第4回	幕末・明治初期の日本文化　③西洋人の日本認識	（学修内容）様々な外国人見聞記に共通する日本認識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 外国人の書いた見聞記の内容を予習する。授業後に日本に関する記述を整理する。
第5回	幕末・明治初期の日本文化　④明治政府の対応と風習の変化	（学修内容）外国人の意見に対して明治政府がどのように対応し、日本人の風習がどのように変化したのか学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に幕末の風習について調べる。事後に幕府の政策をまとめる。
第6回	日本人の西洋体験　①幕末・明治初期の渡欧	（学修内容）幕末・明治初期の日本人の渡欧の概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に幕末・明治初期の渡欧について調べる。事後に渡欧に関する年表を作成する。
第7回	日本人の西洋体験　②岩倉使節団	（学修内容）岩倉使節団のメンバーや視察日程などの概要を知る。 （事前事後学修課題の内容） 岩倉使節団について予習する。授業後に使節団の日程と視察先をまとめる。
第8回	日本人の西洋体験　③『米欧回覧実記』の概要	（学修内容）岩倉使節団の記録である『米欧回覧実記』の概要を知る。 （事前事後学修課題の内容） 『米欧回覧実記』について予習する。授業後に記述の概要を整理する。
第9回	日本人の西洋体験　③『米欧回覧実記』の内容と日本人の西洋認識	（学修内容）『米欧回覧実記』を記述から、日本人の西洋文明に対する考え方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付した『米欧回覧実記』を読む。授業後に使節団が学んだことを整理する。
第10回	内国博覧会にみる日本文化　①内国博覧会の概要	（学修内容）近代に開催された内国博覧会の種類と概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容） どのような内国博覧会が開催されたか予習する。授業後に内国博覧会に関する年表を完成させる。
第11回	内国博覧会にみる日本文化　②内国博覧会の出品物と評価	（学修内容）内国博覧会の出品物と製品に対する評価を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に内国博覧会の報告書を調べる。授業後に評価の概要と課題をまとめる。
第12回	万国博覧会にみる日本文化　①万国博覧会の概要	（学修内容）西洋諸国が開催した万国博覧会の概要とを開催目的、展示品について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 開催された万国博覧会について予習する。事後に万博に関する年表を完成させる。
第13回	万国博覧会にみる日本文化　②19世紀の万国博覧会	（学修内容）19世紀に開催された万国博覧会との種類と出品物、日本の参加目的を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 19世紀の万国博覧会について予習する。授業後に日本の出品物と評価についてまとめる。
第14回	万国博覧会にみる日本文化　③20世紀の万国博覧会	（学修内容）20世紀に開催された万国博覧会との種類と出品物、日本製品に対する評価を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 20世紀の万国博覧会について予習する。授業後に日本の出品物と評価についてまとめる。
第15回	近代に形成された日本文化	（学修内容）近代に形成された日本文化の特色を考える。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業内容をまとめる。

授業名	日本文化総論Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	工藤　美和子	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	日本文化は、インドで誕生しアジア諸国を通じて伝わった仏教の影響を大きく受けている。授業では、仏教が日本に伝来した飛鳥時代から、奈良時代の仏教を経て、法華信仰と浄土信仰が隆盛した平安時代、浄土宗・真宗・日蓮宗・禅宗などが祖師たちの活動を通して様々な仏教の教えが人々に受容された鎌倉時代までを中心に、仏教文化関連の史資料を読みながら仏教思想が日本文化へ与えた影響について考えていく。
学修成果到達目標	(1) 日本文化の特徴を時代ごとに理解し説明することができる。 (2) 日本に伝来した仏教思想が、日本文化に与えた影響について理解し、説明することができる。 (3) 自国の文化と他国の文化を公平にみる視点を養い、自らの考えを述べることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	使用しない。授業内で資料を配付する。
参考書	・朝尾直弘・宇野俊一・他『日本史辞典 新版』（KADOKAWA、1996年） ・授業内で適宜紹介するが、高校の日本史教科書を読んでおくことをすすめる。
課題に対するフィードバックの方法	・課題提出後、質疑応答を通じて理解を深める。 ・提出された課題にはコメントを記して返却する。
留意事項	・史資料を読んでもらうので、分からない語句等は日本語・漢和・日本史の辞書等を用いて予習・復習すること。 ・学外調査は、天候等や調査場所によっては授業時間外で日程の調整をすることがある。 ・授業に関する博物館や美術館で行われる展覧会、行事や祭礼を紹介するので、積極的に足を運んでもらいたい。 ・授業の進行の妨げや、他の学生の参加意欲を損なうような行為はしないこと。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合はGメールで連絡をとること。
実践的教育	

授業名	日本文化総論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 「文化」とは何か	（学修内容）授業全体の概要を説明する。「文化」とは何かについて考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを読み、授業概要を理解する。（80分） （事後）次回授業の資料を読み語句等を調べる。（160分）
第2回	仏教東漸と日本への仏教公伝	（学修内容）日本への仏教伝来について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）飛鳥時代と仏教伝来について調べておく。 （事後）仏教伝来をまとめる。次回資料を読み語句等を調べておく。
第3回	飛鳥時代の仏教文化―聖徳太子の登場	（学修内容）飛鳥時代の仏教と聖徳太子に関する説話や太子信仰について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）聖徳太子と太子信仰について調べておく。 （事後）聖徳太子と太子信仰をまとめる。次回資料を読む。
第4回	奈良時代の仏教文化―東大寺大仏の建立	（学修内容）奈良時代の仏教および東大寺大仏造立と関連する仏教文化について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）東大寺と大仏について調べておく。 （事後）奈良時代の仏教文化をまとめる。次回資料を読む。
第5回	平安時代の仏教文化（１）最澄と空海	（学修内容）平安時代の仏教と、最澄と空海が中国から伝えた仏教が日本文化に与えた影響について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）最澄と空海について調べる。 （事後）平安初期の仏教文化をまとめる。次回資料を読む。
第6回	平安時代の仏教文化（２）厭離穢土・欣求浄土	（学修内容）平安中期の仏教と、源信『往生要集』を読み、平安時代の人々に影響を与えた六道と極楽浄土観について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）『往生要集』と「六道」について調べる。 （事後）平安中期の仏教文化をまとめる。次回資料を読む。
第7回	平安時代の仏教文化（３）藤原道長と仏教	（学修内容）藤原道長をとりあげ、平安貴族の仏教信仰について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）藤原家と藤原道長について調べる。 （事後）貴族と仏教の関わりをまとめる。次回資料を読む。
第8回	学外調査	（学修内容）学外調査を行う。テーマに基づいた課題を作成する。 （事前事後学修課題の内容） （事前）学外調査の下調べを行い、テーマを決める。 （事後）テーマに基づいたレポート課題を作成し提出する。
第9回	平安時代の仏教文化（４）物語と仏教	（学修内容）『源氏物語』や『枕草子』など平安時代の文学作品にみられる当時の人々と仏教との関わりについて考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）平安時代の主な文学作品を調べる。 （事後）平安文学と仏教の関係を整理する。次回資料を読む。
第10回	平安時代の仏教文化（５）寺社縁起	（学修内容）寺社縁起に関する絵巻物を読み解き、寺社の起源の意味について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）絵巻と寺社縁起について調べる。 （事後）寺社縁起徒は何かについてまとめる。次回資料を読む。
第11回	平安時代の仏教文化（６）院政と仏教	（学修内容）平安時代後期に院政がはじまるが、院政の中心にいた院（上皇）が構想した院政と仏教との関係について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）院政とは何かを調べる。 （事後）院政と仏教との関わりについてまとめる。次回資料を読む。
第12回	鎌倉時代と仏教文化（１）法然と浄土教	（学修内容）鎌倉時代を代表する僧侶の１人である法然が説いた浄土信仰と、当時の人々に与えた影響について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）鎌倉時代の仏教と法然について調べる。 （事後）法然と浄土信仰をまとめる。次回資料を読む。
第13回	鎌倉時代と仏教文化（２）武家社会と仏教	（学修内容）平氏および源氏という武家と仏教との関わりを、平清盛と源頼朝が行った仏道修行から考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）平氏と源氏について調べる。 （事後）武家社会と仏教思想についてまとめる。次回資料を読む。
第14回	鎌倉時代と仏教文化（３）仏師	（学修内容）鎌倉時代を代表する定朝様と慶派の特徴を、奈良・平安時代の仏像彫刻等と比較しつつ、その後の仏教文化に与えた影響について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）奈良・平安時代と鎌倉時代の仏師について調べる。 （事後）鎌倉時代の仏師についてまとめる。次回資料を読む。
第15回	鎌倉時代と仏教文化（４）仏教思想と庭園	（学修内容）仏教思想と寺院の作庭との変遷について考える。 （事前事後学修課題の内容） （事前）浄土や禅宗などの代表的な寺院手園について調べる。 （事後）仏教の教えと作庭の関係をまとめる。授業全体を振り返る。

授業名	地域文化論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	新矢　昌昭	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	「都」を基本として京都を学んでいく。都としての京都を学ぶことは、首都としてあった意義、すなわち政治、文化の中心地であったことを念頭におく必要がある。こうした都としての京都を歴史的な変遷の中で考えたい。さらには現代社会の中での京都の意義を考え、地域文化の視点か他都市との比較を行いたい。
学修成果到達目標	1）京都を時間的、空間的に把握することができる 2）京都の歴史的・文化的価値の理解を深めることができる 3）現代の京都を歴史から考えることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない
参考書	講義中に指摘
課題に対するフィードバックの方法	講義中に指摘する
留意事項	普段から京都を歩いている時に、京都を発見して欲しい。グループワークや史料輪読、フィールドワークを行う。フィールドワークは、京都を外から見る視点も考えている。わからない箇所は講義後に聞くこと。なお、外部講師による講義、フィールドワークは、先方との調整が伴うので、時期のずれる時がある。
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する
実践的教育	

授業名	地域文化論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	地域文化と京都	（学修内容）地域文化としての京都の考え方 （事前事後学修課題の内容） 配布資料を読み、要点、疑問点をまとめる。京都のイメージについてまとめておく
第2回	歴史都市京都の形成	（学修内容）どのように京都は成立したのか （事前事後学修課題の内容） 平安京の成立について調べ、要点、疑問点をまとめておく
第3回	京都の百鬼夜行の出現	（学修内容）百鬼夜行の出現地 （事前事後学修課題の内容） 平安京の地図を用意しておく。配布史料を読み、要点、疑問点をまとめておく
第4回	京都の百鬼夜行の意味するもの	（学修内容）百鬼夜行と平安京の行方 （事前事後学修課題の内容） 配布史料を読み、まとめておく。百鬼夜行の出現箇所をまとめる
第5回	秀吉の大仏	（学修内容）豊臣秀吉と大仏建立の目的 （事前事後学修課題の内容） 配布史料を一読して要点、疑問点をまとめておく
第6回	幕末の京都1（幕末の政治動向）	（学修内容）文化都市から政治都市へ （事前事後学修課題の内容） 配布史料を読み、要点、疑問点をまとめておく。
第7回	幕末の京都2（幕末の政変）	（学修内容）政変とどんどん焼けによる京都の消失 （事前事後学修課題の内容） 配布史料を読み、要点、疑問点をまとめておく。
第8回	近代都市京都	（学修内容）古都京都の復興 （事前事後学修課題の内容） 配布史料（漢文）を読み、要点、疑問点をまとめておく。
第9回	空襲と文化都市京都	（学修内容）京都の空襲について考える （事前事後学修課題の内容） 配布史料を読み、要点、疑問点をまとめておく。
第10回	観光都市京都の形成	（学修内容）いつから京都は観光都市となったのか （事前事後学修課題の内容） 配布史料を読み、要点、疑問点をまとめておく。
第11回	外部講師（観光業事業者）による講義	（学修内容）京都と観光事業 （事前事後学修課題の内容） 当該事業所の概要を読み、当該事業所の概要、質問点、疑問点をまとめておく
第12回	フィールドワーク事前学習	（学修内容）担当グループによる事前発表 （事前事後学修課題の内容） レジュメを用意する
第13回	フィールドワーク1	（学修内容）フィールドワーク先の調査 （事前事後学修課題の内容） 当日のガイドのレジュメ用意
第14回	フィールドワーク2	（学修内容）フィールドワーク先の調査 （事前事後学修課題の内容） 当日のガイドのレジュメ用意
第15回	フィールドワーク事後学習	（学修内容）担当グループによる事後発表 （事前事後学修課題の内容） レジュメを用意する

授業名	日本語史	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	水谷　隆	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	日本語は、原始日本語の特徴を受け継ぎつつ、漢字・漢語の渡来により大きな変容を遂げ、外来語の影響等により今なお変化し続けている。万葉仮名、平仮名、片仮名という日本語の変遷を、それを用いた文学から理解し、現代の日本語に及ぼす影響についても考える。
学修成果到達目標	（1）日本語の特色とその歴史的背景を理解する。 （2）ふだん無意識に使っている日本語に対する認識を深める。 （3）日本語の歴史的変化をふまえることで、現代日本語を適切に用いることができるようになる。 （4）絶えず変化し続けている日本語において、「変化」と「乱れ」との違いを正しく認識することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	
平常試験（30%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業時にプリントを配布する。
参考書	適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	理解度を確認して、レポート等には授業内で講評等のフィードバックを行う。
留意事項	受講生の興味関心・理解度に応じて各回の学修内容を変更・調整することがある。その際は事前に知らせる。
オフィスアワー	適宜対応する、メール等にて連絡すること。
実践的教育	

授業名	日本語史

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	日本語の歴史を学ぶ意義	（学修内容）日本語史を学ぶ意義を説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：高校までの学びをふりかえる 事後：授業中の説明を振り返り、疑問点や派生する問題について考える
第2回	日本語の起源と系	（学修内容）言語の類型などを説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：日本語の特徴について自分なりに調べる 事後：日本語の特長を日本語以外の言語と比較してみる
第3回	漢字の伝来と受容	（学修内容）中国・朝鮮半島などの文化の流入を説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：漢字とはどのような文字なのか考える 事後：漢字の受容が日本文化にとってどのような意味を持つのか考える
第4回	漢字による日本語の表記－訓字と万葉仮名（古事記）	（学修内容）漢字表記の日本語を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：古事記について概要を調べる 事後：授業中に提示した以外の場所について自分なりに読んでみる
第5回	漢字による日本語の表記－訓字と万葉仮名（万葉集）	（学修内容）万葉仮名について意説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：万葉集について概要を調べる 事後：授業中に提示した以外の和歌について自分なりに読んでみる
第6回	上代特殊仮名遣いとその評価の変遷	（学修内容）上代特殊仮名遣いとは何かについて説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：五十音図の各行の実際の音について考えてみる 事後：上代特殊仮名遣いの実態について考える
第7回	仮名の意味と文学的使用	（学修内容）仮名（仮の文字）の意味と和歌での使用を説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：平仮名と片仮名との成立過程について調べる 事後：授業中に示した以外の類似文献から気になる箇所を読んでみる
第8回	平安時代初期の仮名字体－万葉仮名から草仮名へ－	（学修内容）万葉仮名から草仮名など古今和歌集との関係を説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：古今和歌集の概要を調べる 事後：草仮名の具体的作品を調べる
第9回	平仮名の成立－草仮名から平仮名へ－	（学修内容）平仮名の流通について説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：平安時代前期の政治・社会の状況を調べる 事後：土佐日記青谿書屋本の仮名遣いを見てみる
第10回	片仮名字体の変遷	（学修内容）片仮名と漢字の関係について説明する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：現代日本語における片仮名のＩについて考える 事後：和漢混淆文の作品を幾つか読んでみる
第11回	漢文訓読語と和語－用語の特徴と文体－	（学修内容）訓点を付して漢文を読むことの説明をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：漢文の読み下し方法について確認しておく 事後：現代日本語の文体と漢語の使用について考える
第12回	漢語の受容と日本語への定着	（学修内容）昼食、昼飯など漢語と和語の違いを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：漢語と和語の使い分けの具体例を調べる 事後：韓国・朝鮮語における漢語の具体例を調べる
第13回	漢語の受容と日本語への影響	（学修内容）和語に及ぼした漢語の影響を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：訓読みの無い漢字と音読みの無い漢字をできるだけ多くみつける 事後：外来語を漢字を用いて訳したものを調べる
第14回	助動詞の変遷－『古今和歌集』仮名序から－	（学修内容）古今和歌集における助動詞の使用を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：平安時代の文法を復習しておく 事後：授業中に示した各単語の時代的変遷を考える
第15回	現代日本語助動詞の特徴－古典語助動詞との比較から－	（学修内容）「けり」「たり」「ぬ」などの助動詞を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：現代日本語文法を復習しておく 事後：これまでの授業を振り返り疑問点などがないか確認する

授業名	日本文学概論Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	平間　尚子	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	上代から近世までの日本文学の作品を通観し、古典文学の世界を楽しみ、文学作品への理解を深め、日本文化の特徴を知る。 単に作品情報を暗記するのではなく、各作品の時代背景や作者の生涯、登場人物の人間関係を踏まえ、どのような意図をもって作品が成立し、どのように評価されてきたのか、という点を念頭において、作品を読解する。 最終的には、日本文学に関する知識を涵養することを目指す。
学修成果到達目標	（1）日本文学の時代区分やジャンルについて説明できる。 （2）日本文学の研究に必要な研究力（技術、考え方）を修得する。 （3）「なぜ」このような作品が描かれたのか自ら考え、作品に描かれた心情・思想・信仰などが理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	秋山虔・三好行雄（編著）『原色 新日本文学史【増補版】』文英堂、2017年
参考書	角川ソフィア文庫 ビギナーズ・クラシックス　日本の古典シリーズ。その他、適宜、授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	発表や感想についてフィードバックを行う。 提出された課題にはコメントを記して返却する。
留意事項	事前事後学修では、各作品の興味のある章段を積極的に読むこと。 授業は、座学の講義だけでなく、百人一首のかるたを取ったり、絵巻物を手に取って読んだりする時間を設ける。受講生の積極的な態度・質問・感想を求める。 大学近郊でのフィールドワークも実施予定である。実施回は、変更になる場合もある。
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。
実践的教育	

授業名	日本文学概論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の概要と進め方について理解する。上代から近世の時代区分と古典文学作品の流れについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：これまで絵本や教科書で読んだことのある『竹取物語』や『かぐや姫』の内容を思い出す。事後：授業内容をノートにまとめる。
第2回	上代文学①　『古事記』『日本書紀』	（学修内容）『古事記』『日本書紀』の成立背景を理解したうえで、『古事記』を中心に有名な場面を読んでみる。例：天岩戸伝説 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト12～17頁を読み作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。故郷の神社について調べる。
第3回	上代文学②　『古事記』『日本書紀』	（学修内容）『古事記』『日本書紀』の成立背景を理解したうえで、『古事記』を中心に有名な場面を読んでみる。例：因幡の白兎、イワナガヒメ （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト12～17頁を読み作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。故郷の神社について調べる。
第4回	上代文学②　『万葉集』	（学修内容）『万葉集』の成立と和歌について理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト23～30頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第5回	中古文学①　勅撰集	（学修内容）『古今和歌集』をはじめとする勅撰集の成立と採録された和歌について理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト34～43頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第6回	中古文学②　『源氏物語』フィールドワーク	（学修内容）『源氏物語』５４帖の主要場面が理解できる。源氏物語ゆかりの場所で学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト44～47頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第7回	中古文学③　『源氏物語』	（学修内容）『源氏物語』５４帖の主要場面が理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト48～52頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第8回	中世文学①　和歌・連歌	（学修内容）小倉山百人一首の成立と和歌の内容について理解できる。 百人一首のかるた取りにも挑戦しよう。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト68～73頁を読み疑問点を調べる。百人一首の札が取れるように予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第9回	中世文学②　軍記物語	（学修内容）『平家物語』などの軍記物語の成立を理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト78～81頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段予習しておく事後：授業内容をノートにまとめる。
第10回	中世文学③　軍記物語	（学修内容）『平家物語』の有名な章段を読んでみよう。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト78～81頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第11回	中世文学③　日記・随筆	（学修内容）女性作家の日記随筆（『紫式部日記』『蜻蛉日記』『枕草子』など）から、当時の作家がどのような思想や信仰を有していたか理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト55～62頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第12回	中世文学④　説話	（学修内容）『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』をとりあげ、近代作家がどのような古典文学作品に興味を持ち、自身の作品に取りあげたか理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト63～64,85頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第13回	中世文学⑤　芸能・歌謡	（学修内容）中世に流行した説話が能楽などの芸能に取り入れられることを理解する。狂言『附子』なども鑑賞したい。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト65,97頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第14回	近世文学①　『道成寺縁起絵巻』	（学修内容）和歌山県日高郡にある道成寺の伝承は、作品によってその内容が少しずつ異なる。説話から絵巻、能楽へと展開することを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト104,105頁を読み疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。
第15回	近世文学②　『道成寺縁起絵巻』	（学修内容）道成寺の伝承は、各地に残る作品により内容が少しずつ異なる。作品の形態も絵巻から版本へとかわり、内容の相違についても理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配付資料を読み、疑問点を調べる。作品中から興味のある章段を予習しておく。事後：授業内容をノートにまとめる。

授業名	京都と文学（古典）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	水谷　隆	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	奈良に都がおかれた時代に成立した万葉集は、現存する日本最古の和歌集である。その和歌表現および中国文学の影響を受けながら、京都に都の移された平安時代以後、和歌だけではなく散文も含めた文学作品が新たな達成を見た。 本講義は、平安時代の文学の基礎を形づくった一人である紀貫之に焦点を当てる。なかでも日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』ならびに、日記文学という新しい文学形態を創造した『土佐日記』を取り上げながら、日本古典文学と京都の関係について学ぶ。 また文学作品の背景となる貴族政治や国風文化のありようについても併せ学ぶことで、その時代を生きた人々の生活や思想についても理解を深める。
学修成果到達目標	（1）平安初期から末期の京都をより具体的に認識し、平安時代の人の思想が説明できる。 （2）その中で生きた紀貫之の人生や偉業、『古今和歌集』と『土佐日記』の意義を理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（30%）
		□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時にプリントを配布する。
参考書	適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	理解度を確認して、レポート等には授業内で講評等のフィードバックを行う。
留意事項	受講生の興味関心・理解度に応じて各回の学修内容を変更・調整することがある。その際は事前に知らせる。
オフィスアワー	適宜対応する、メール等にて連絡すること。
実践的教育	

授業名	京都と文学（古典）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	上代（古代～奈良時代）文学の概説	（学修内容）古事記・万葉集について説明する。 （事前事後学修課題の内容） 高校までの学びを振り返る
第2回	古今和歌集について①（勅撰和歌集）	（学修内容）編纂の背景となる人物史を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 当時の京都について調べる
第3回	古今和歌集について②（万葉集との関係）	（学修内容）撰者・紀貫之に与えた万葉集の影響について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 万葉集の特徴について調べる
第4回	古今和歌集について③（漢字と仮名）	（学修内容）古今和歌集に特徴的な和歌表現について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 仮名の成立過程をまとめる
第5回	古今和歌集について④（掛詞、見立て、類型）	（学修内容）同音異義語、比喩などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 現代における比喩について調べる
第6回	古今和歌集について⑤（本歌取り）	（学修内容）和歌における表現効果について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 古今和歌集の新古今和歌集への影響を調べる
第7回	土佐日記①（文学的意義）	（学修内容）土佐日記における女性仮託について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 「歌俳優」としての柿本人麻呂について調べる
第8回	土佐日記②（主題）	（学修内容）土佐日記の内容から亡児哀悼と望郷の念、歌論などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 阿倍仲麻呂について調べる
第9回	土佐日記③（記録性）	（学修内容）漢文日記の特徴について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 男性貴族の日記について調べる
第10回	土佐日記④（文学性）	（学修内容）和文と和歌の表現力について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 伊勢物語について調べる
第11回	土佐日記⑤（後世への影響）	（学修内容）虚実、風刺、文体について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 女性日記への影響について調べる
第12回	日記文学	（学修内容）紫式部日記、更級日記について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 源氏物語が同時代に与えていた影響について調べる
第13回	作り物語	（学修内容）竹取物語について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 都として唯一無二だった京都について調べる
第14回	歴史物語	（学修内容）大鏡・栄華物語の文学的意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 摂関政治の起源と発展について調べる
第15回	鎌倉～室町時代の京都と文学	（学修内容）太平記、徒然草、方丈記と現代への影響を考える。 （事前事後学修課題の内容） 授業のポイントをまとめる

授業名	京都と文学（近現代）	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	新矢　昌昭	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	この講義では、文学者が京都をどのように描いていたのかを考えることを目的とする。京都は、様々な小説やエッセイの舞台になっている。特に、夏目漱石、梶井基次郎、谷崎潤一郎、川端康成などの作品を取り挙げ、京都の特質、または彼らの優れた視線を感じてもらいたい。また、これらの作品を通して京都の町や風景、風俗などをも観察し、現代の京都と比較し、継続するもの、失われたもの、さらには作品を通して近現代社会について考えたい。
学修成果到達目標	1）文学者の作品を通して京都を知ることができる 2）作品を通して京都をどのようなイメージが語られたのかを考えることができる 3）作品を通して近現代社会を考えることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	使用しない。プリントを配布する
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	適宜、コメントを付け加える
留意事項	わからないことは、講義後に聞くこと。なお、フィールドワークは、先方との調整が伴うので、時期のずれる時がある。
オフィスアワー	研究室の扉に掲示
実践的教育	

授業名	京都と文学（近現代）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）この講義はどのようなことをするのか （事前事後学修課題の内容） 予め配布したプリントを読も疑問点や要点をまとめておく
第2回	近代京都へのまなざし	（学修内容）京都はどのようにイメージされていったのか （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第3回	旅行地としての京都	（学修内容）旅行地としての京都 （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第4回	京都の文学史	（学修内容）京都を扱った作品 （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第5回	夏目漱石の京都1	（学修内容）漱石の作品から京都を読む （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第6回	夏目漱石の京都2	（学修内容）漱石が京都にみたもの （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第7回	夏目漱石の近代日本	（学修内容）漱石は日本の近代をどのように捉えたのか。京都との影響 （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第8回	梶井基次郎の檸檬を読む1	（学修内容）梶井基次郎の中の京都を考える （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第9回	梶井基次郎の檸檬を読む2	（学修内容）梶井基次郎の京都イメージを考える （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第10回	事前学習	（学修内容）フィールドワークの準備 （事前事後学修課題の内容） 各自テーマ設定についてのレジュメの用意
第11回	フィールドワーク	（学修内容）フィールドワークの実践 （事前事後学修課題の内容） 各自テーマ設定についての調査を調べ、まとめておく
第12回	事後学習	（学修内容）フィールドワークの振り返り （事前事後学修課題の内容） フィールドワーク調査結果のレジュメの用意
第13回	谷崎潤一郎の陰影礼賛を読む	（学修内容）谷崎潤一郎の京都を考える （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第14回	川端康成の古都を読む1	（学修内容）川端康成にとっての京都 （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく
第15回	川端康成の古都を読む2	（学修内容）京都＝古都は本当なのか （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読み、要点、疑問点をまとめておく

授業名	保育の計画と評価	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3453
英文名	Child Care Planning and Assessment	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	近本　佳子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	・「保育の計画」についてとらえ、指導計画の作り方と活用の仕方を理解するために、保育現場での実践を紹介しながら授業を行う。 ・設定保育を行うにあたってのねらいや留意点、子どもの生活との関わりをおさえた上で、本学の様式で指導案を作成・修正の後、少人数グループでの模擬保育と振り返りを行い、提出する。教員のコメントを受けた後にグループで交流し、次に活かせるようにする。
学修成果 到達目標	①「保育の計画」をとらえ、指導計画の作り方・活用の仕方について理解できる。 ②設定保育指導案を作成し、実施することができる。 ③振り返りを通して次への課題を明らかにすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	・片山紀子編著　荒木美知子・西村美佳著　新版「保育実習・教育実習の設定保育」　朱鷺書房　2012年 ・厚生労働省　保育所保育指針解説 ・保育計画研究会編　「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」　ひとなる書房
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	少人数グループでの模擬保育について、事後にグループで振り返りを行い、子ども役の学生から客観的な意見を貰った後、様式の「反省」欄を記入して提出、教員がコメントする。その後、グループで交流する。
留意事項	実習生として子どもの前に立つ（＝子どもにとっては保育士と同じ）という自覚と責任を持ち、授業に臨むこと。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：元風の子保育園(京都市)保育士・主任保育士

授業名	保育の計画と評価

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 指導計画の作り方・活用の仕方① 全体的な計画と指導計画	（学修内容）保育園はどのようにしてまわっているのか （事前事後学修課題の内容） いつでも応えられる手あそびと絵本を一つずつマスターする(乳児向け)
第2回	指導計画の作り方・活用の仕方② 保育実践の評価	（学修内容）指導計画と保育実践の振り返りについて 「特別な日」のねらいと留意点から （事前事後学修課題の内容） いつでも応えられる手あそびと絵本を一つずつマスターする(幼児向け)
第3回	指導計画の作り方・活用の仕方③ 設定保育	（学修内容）保育実習における設定保育・つなぎの部分実習について 指導計画のねらいと留意点、活動の中で大切にしたいことについて （事前事後学修課題の内容） 造形・表現活動の具体例から、印象に残った活動についてまとめる
第4回	設定保育指導案の作り方	（学修内容）模擬保育と指導案の説明、素案から指導案へ （事前事後学修課題の内容） 指導案を書いてくる
第5回	設定保育指導案の修正（幼児） 6～8回の実施方法について	（学修内容）指導案のチェックと修正 少人数グループでの「実施と振り返り」の仕方についての説明 （事前事後学修課題の内容） 設定保育の準備、自身での模擬保育を行ってみる
第6回	設定保育指導案の実施と振り返り（幼児） 設定保育の流れを体験する	（学修内容）少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う （事前事後学修課題の内容） 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第7回	設定保育指導案の実施と振り返り（幼児） 設定保育を実施する	（学修内容）少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う （事前事後学修課題の内容） 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第8回	設定保育指導案の実施と振り返り（幼児） 設定保育を振り返る	（学修内容）少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う （事前事後学修課題の内容） 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第9回	指導計画の作り方・活用の仕方④ 夏の保育・異年齢保育	（学修内容）夏の保育や異年齢保育でのねらいと留意点について（水遊び・プール遊び、異年齢での生活や活動から） （事前事後学修課題の内容） 水遊びのオノマトペを生活から実感して見つけてくる
第10回	指導計画の作り方・活用の仕方⑤ 子どもとともに創る保育 12回13回授業の説明	（学修内容）保育はいきもの、子どもとともに創る（実践から） 12回13回授業（二回目設定保育）について （事前事後学修課題の内容） 指導案を書いてくる
第11回	指導計画の作り方・活用の仕方⑥ 一回目の設定保育の交流 設定保育指導案の修正（乳児）	（学修内容）提出物を返却し、グループごとに交流する 二回目指導案のチェックと修正 （事前事後学修課題の内容） 設定保育の準備、自身での模擬保育を行ってみる
第12回	設定保育指導案の実施と振り返り（乳児） 設定保育を実施する	（学修内容）少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う （事前事後学修課題の内容） 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第13回	設定保育指導案の実施と振り返り（乳児） 設定保育を振り返る	（学修内容）少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う （事前事後学修課題の内容） 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第14回	指導計画の作り方・活用の仕方⑦ 子どもとともに創る保育	（学修内容）卒園に向かう活動と子どもの姿から、指導計画のねらいや留意点について考える （事前事後学修課題の内容） 保育実習設定保育でやってみたい活動を1～2つ考え、乳児版幼児版のイメージを持つ
第15回	まとめ	（学修内容）「二回目の設定保育指導案の実施・振り返り」のコメント 実習での設定保育・つなぎの部分保育を楽しむために （事前事後学修課題の内容） 14回課題をふまえ「ねらい」を考え、「導入・活動・まとめ」のイメージを膨らませ可能性を探る

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ	開講学年	3回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	根岸　裕子・富安　広幸・林　育代・森　久美子・塩田　二三子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	3回生秋学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、各自が決定した卒論テーマの先行研究について調べ、現状について理解するとともに、研究方法、結果の考察方法やまとめ方などについて学んでいく。研究方法については調査、実験や地域連携の取り組みなど様々あるので適切な方法を考えて実践していく。さらに、ゼミ内での発表や意見交換および個人指導を通して自身の研究を深めていく。
学修成果到達目標	1）自らが決定した課題について解決のために主体的に取り組むことができる 2）論理的に物事を考えることができる 3）得られた結果について適切な考察ができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	■口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	個人指導において、各自の発表、研究成果における問題点など、さらに今後の進め方などを話し合う。
留意事項	卒業演習をとおして、人々の健康に貢献するために必要なスキルである論理的思考、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、協調性、実践力を養うことの意義をより深く理解すること。 なお、卒業演習はゼミの時間だけで行うものではないので、計画的に研究を行うように心がけること。 また、学科単位で実施する演習、セミナー等には参加し、研究活動に役立てること。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	ゼミ担当者より指示する。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｔａ～ｔｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒業演習のスケジュールと進め方	（学修内容）卒論論文作成に向けて、手引き等の確認、および 各自進める上での問題点および先行研究の整理などについて確認をする （事前事後学修課題の内容） 先行研究論文などを読み問題点を整理しておく
第2回	研究発表1-1 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況など についての発表	（学修内容）自分の研究内容について発表を行い、課題、問題点などについて討議し、内容を検討する （事前事後学修課題の内容） 研究発表のためのレジュメの準備、および討議内容に対する検討を行う
第3回	研究発表1-2 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況など についての発表	（学修内容）自分の研究内容について発表を行い、課題、問題点などについて討議し、内容を検討する （事前事後学修課題の内容） 研究発表のためのレジュメの準備、および討議内容に対する検討を行う
第4回	研究発表1-3　研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況など についての発表	（学修内容）自分の研究内容について発表を行い、課題、問題点などについて討議し、内容を検討する （事前事後学修課題の内容） 研究発表のためのレジュメの準備、および討議内容に対する検討を行う
第5回	個別指導1-1 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討する （事前事後学修課題の内容） 研究の目的について文章化し、論文構成について考えておく
第6回	個別指導1-2 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討する （事前事後学修課題の内容） 研究の目的について文章化し、論文構成について考えておく
第7回	個別指導1-3 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討する （事前事後学修課題の内容） 研究の目的について文章化し、論文構成について考えておく
第8回	個別指導1-4 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討する （事前事後学修課題の内容） 研究の目的について文章化し、論文構成について考えておく
第9回	個別指導1-5 研究の進捗状況確認と内容の検討	（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討する （事前事後学修課題の内容） 研究の目的について文章化し、論文構成について考えておく
第10回	研究発表2-1 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの作成をし、データの解析結果について考察しておく 指摘された問題点について解決策を考える
第11回	研究発表2-2 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの作成をし、データの解析結果について考察しておく 指摘された問題点について解決策を考える
第12回	研究発表2-3 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメの作成をし、データの解析結果について考察しておく 指摘された問題点について解決策を考える
第13回	個別指導2-1 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討する （事前事後学修課題の内容） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく 論文の章立てを考えておく
第14回	個別指導2-2 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジュメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく 論文の章立てを考えておく
第15回	個別指導2-3 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	（学修内容）3回生秋学期の卒論演習の振り返る 研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく 論文の章立てを考えておく

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ	開講学年	4回生	単位数	6単位	科目コード	GE3216
英文名	Graduation Thesis	開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	秋山　裕之・宮川　紀宏・西川　由紀子・馬場　まみ・湯浅　俊郎	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。
学修成果到達目標	1）自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進めることができる。 2）学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させることができる。 3）卒業論文の作成でどのような研究成果があったかを「口頭試問」で明確に伝えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	ゼミ担当者より指示する。
参考書	ゼミ担当者より指示する。
課題に対するフィードバックの方法	研究進捗状況を確認し、適宜アドバイスをする。
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。 【不定期開講科目対象】詳細は、授業担当教員の指示に沿ってください。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしてもの場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。
実践的教育	

授業名	卒業演習（論文を含む。）ｓａ～ｓｅ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 （事前事後学修課題の内容） 先行研究を読み込んでおく
第2回	研究発表１－①（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメの準備
第3回	研究発表１－②（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメの準備
第4回	研究発表１－③（研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容） 研究発表、レジュメの準備
第5回	個別指導（面談）１－①（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容） 研究進捗状況報告を準備する
第6回	個別指導（面談）１－②（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容） 研究進捗状況報告を準備する
第7回	個別指導（面談）１－③（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容） 研究進捗状況報告を準備する
第8回	個別指導（面談）１－④（研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容） 研究進捗状況報告を準備する
第9回	研究発表２－①（研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第10回	研究発表２－②（研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	個別指導（面談）２－①（卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容） 卒業論文の提出原稿の準備
第12回	個別指導（面談）２－②（卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容） 卒業論文の提出原稿の準備
第13回	個別指導（面談）２－③（卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容） 卒業論文の提出原稿の準備
第14回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容） 口頭試問の質疑応答準備
第15回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容） 口頭試問の質疑応答準備

授業名	更生保護の制度	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	芹澤　出	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	非行・犯罪臨床の概要を理解したうえで、刑事司法のなかの更生保護について、福祉との関連を踏まえて概説する。犯罪をした者および非行のある少年に対し、社会のなかで適切に働きかけることにより、その再犯を防ぎ、非行をなくし、彼らが自立し立ち直ることを助けることで、社会を保護し、個人と公共の福祉を増進することであることを理解する。
学修成果 到達目標	刑事司法について理解する 更生保護にについて理解する 刑事司法・更生保護と福祉との関連について理解する
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２０分）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	社会福祉学習双書2025　第13巻「権利擁護を支える司法制度/刑事司法と福祉」　全国社会福祉協議会 ISBN　978-4-7935-1478-4
参考書	法務省「更生保護」https://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_hogo01.html
課題に対するフィードバックの方法	事例学習、練習問題に取り組み理解度を再確認します
留意事項	積極的に授業に参加し、出された事例や練習問題について考察することが求められます
オフィスアワー	授業終了時に質問時間を設けます
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：平成18年より京都保護観察所右京地区保護司就任、現在に至る

授業名	更生保護の制度

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の説明 第１章　刑事司法・少年司法 第1節　刑事司法と福祉の関係性 P216	（学修内容）オリエンテーション 更生保護概要の理解 （事前事後学修課題の内容） シラバスの確認 教科書P218～通読 （20分）
第2回	第１章　刑事司法・少年司法 第２節　刑法 P218	（学修内容）刑法における警察庁、検察庁、裁判所と更生保護の関係性理解、犯罪発生の背景について考察する （事前事後学修課題の内容） 警察庁・検察庁・裁判所、更生保護について調べておく 教科書P218～通読 （20分）
第3回	第１章　刑事司法・少年司法 第３節　少年法 P224	（学修内容）刑事司法のなかの更生保護の理解、（視聴覚教材、練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 少年司法について調べておく 教科書P218～通読（20分）
第4回	第２章　更生保護制度の概要 第1節　刑事司法のなかの更生保護 P232 第２節　保護観察　一号観察 P237	（学修内容）刑事司法と更生保護の関係性の理解、（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 保護観察について調べておく 教科書P232～通読（20分）
第5回	第２章　更生保護制度の概要 第1節　刑事司法のなかの更生保護 P232 第２節　保護観察　二号観察 P237	（学修内容）刑事司法と更生保護の関係性の理解、（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 保護観察について調べておく 教科書P232～通読（20分）
第6回	第２章　更生保護制度の概要 第1節　刑事司法のなかの更生保護 P232 第２節　保護観察　三号観察 P237	（学修内容）刑事司法と更生保護の関係性の理解、（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 保護観察について調べておく 教科書P232～通読（20分）
第7回	第２章　更生保護制度の概要 第1節　刑事司法のなかの更生保護 P232 第２節　保護観察　四号観察 P237	（学修内容）刑事司法と更生保護の関係性の理解、（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 保護観察について調べておく 教科書P232～通読（20分）
第8回	第２章　更生保護制度の概要 第３節　生活環境の調整 P250	（学修内容）生活環境調整についての理解（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 生活環境調整について調べておく 教科書P250～通読 （20分）
第9回	第２章　更生保護制度の概要 第４節　仮釈放 P255	（学修内容）仮釈放についての理解（事例　練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 仮釈放について調べておく 教科書P255～通読（20分）
第10回	第２章　更生保護制度の概要 第５節　更生緊急保護 P356	（学修内容）更生緊急保護についての理解　（事例　練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション（視聴覚教材） （事前事後学修課題の内容） 更生緊急保護について調べておく 教科書P356～通読 （20分）
第11回	第３章　犯罪被害者等支援 第１節　犯罪被害者等施策 P264 第２節　犯罪予防活動　P271 第３節　更生保護施設 P284 第４節　民間協力者 P293	（学修内容）犯罪被害者支援についての理解　（事例　練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 更生保護施設、自立準備ホームについて調べておく 教科書P284～ P293～通読（20分）
第12回	第4章　更生保護制度の担い手 第１節　保護観察官 P276 第２節　保護司 P280 第３節　更生保護施設 P284 第４節　民間協力者 P293	（学修内容）更生保護の担い手についての理解、(事例　練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者について調べておく 教科書P276～通読（20分）
第13回	第５章　更生保護における関係機関・団体との連携 第１節　刑事司法関係機関との連携 第２節　就労、福祉その他の関係機関・団体との連携 P296	（学修内容）更生関係機関・団体との連携についての理解（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 更生関係機関・団体との連携について調べておく 教科書P296～通読（20分）
第14回	第６章　医療観察制度の概要 P310 第１節　医療観察制度の意義 第２.３節　生活環境の調整	（学修内容）医療観察制度についての理解（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション （事前事後学修課題の内容） 医療観察制度ついて調べておく 教科書P310～通読（20分）
第15回	第６章　医療観察制度の概要 P310 第４節　地域社会における処遇 第５節　関係機関相互間の連携の確保 授業の振り返り	（学修内容）医療観察制度についての理解（練習問題）グループディスカッション、プレゼンテーション　授業の振り返りとまとめ （事前事後学修課題の内容） 医療観察制度ついて調べておく　教科書P310～通読（20分） これまでの授業内容を確認しておく（60分）

授業名	情報サービス論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2716
英文名	Theory of Information Services	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2）レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 3）情報検索システムにおける論理演算の役割について説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山崎久道・原田智子、樹村房、2019年
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	・図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験してくることが望ましい。 ・本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	情報サービス論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	（学修内容）「情報の仲介者」としての図書館の役割について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際①　直接的サービス	（学修内容）情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 第１回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際②　間接的サービス	（学修内容）情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	（学修内容）レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	（学修内容）レファレンスプロセスの概念について学習し、情報 探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム①　種類と内容	（学修内容）情報検索の種類・内容について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム②　検索過程	（学修内容）論理演算の概念を中心に情報検索システムにおける検索過程を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	（学修内容）個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	（学修内容）著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	（学修内容）オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	（学修内容）電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について（プレゼンテーション）	（学修内容）レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について（プレゼンテーション）	（学修内容）前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	（学修内容）今後の情報サービスのあり方について考える。 （事前事後学修課題の内容） 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授業名	図書館情報技術論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3780
英文名	Theory of Library Information Technology	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	岡　紀子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題や、グループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。
学修成果到達目標	1）図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2）知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3）インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4）情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。期間中に合格した場合10点の加算を行う。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（　毎回の課題の提出は2/3以上　）■（　実習課題は実施し提出を必須とする　）	

テキスト	三訂 図書館と情報技術（樹村房）2023 3月発刊
参考書	・図書館情報技術論　田中均　青弓社　2019年 ・新しい産業創造へ (デジタルアーカイブ・ベーシックス 5)　2021年5月　2750円（税含）時実　象一　勉誠出版 ・自然史・理工系研究データの活用 (デジタルアーカイブ・ベーシックス3)　2020年4月2750円井上　透　勉誠出版 ・検索スキルをみがく第二版検索技術者検定3級公式テキスト　2020年5月刊行　吉田孝明　森美由紀（樹村房）
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。
留意事項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける
実践的教育	

授業名	図書館情報技術論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	（学修内容）IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	（学修内容）コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	（学修内容）ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	（学修内容）情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	（学修内容）データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン（検索エンジン）の仕組み	（学修内容）ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	（学修内容）コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とICT　その１	（学修内容）図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書館システム、ICタグをはじめ図書館で利用されるシステムや機器について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とICT　その２	（学修内容）デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、学術機関リポジトリー。図書管理システムの導入と運用についてついて。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	（学修内容）図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定：提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要：アカウントとＰＷを配布	（学修内容）デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 （事前事後学修課題の内容） 該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習（１）	（学修内容）障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする （事前事後学修課題の内容） アカウント・PWでアクセスの確認
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション（１） マルチメディアDAISY作成の演習（２）	（学修内容）レポート提出期限　履修者が少ない場合レポートプレゼン（１） マルチメディアDAISY作成の演習（２） （事前事後学修課題の内容） 各自mDAISY編集作業を継続
第14回	レポートのプレゼンテーション（２） プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習（３）継続	（学修内容）課題レポートの発表（２） マルチメディアDAISY作成の演習（３） （事前事後学修課題の内容） 各自mDAISY編集作業を継続
第15回	レポートのプレゼンテーション（３） マルチメディアDAISY完成・提出（４）	（学修内容）課題レポートの発表（３） mDAISY編集完成版の提出 （事前事後学修課題の内容） 各自mDAISY編集作業完成

授業名	図書館制度・経営論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3779
英文名	Theory of Library System and Management	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。
学修成果到達目標	1）図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2）図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3）図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（55%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（45%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	図書館制度・経営論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の法制度	（学修内容）憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、地方自治法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地方教育行政法）の内容を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 法制度に関する事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	（学修内容）図書館法の条文を解説する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館法の条文をよく読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	（学修内容）学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	（学修内容）著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館経営の概要	（学修内容）図書館経営の意義と基本的な考え方について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館と営利企業の違いについてまとめておく。
第7回	図書館の管理運営の外部化①　指定管理者制度	（学修内容）指定管理者制度について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 指定管理者制度について調べておくこと。
第8回	図書館の管理運営の外部化②　PFI	（学修内容）PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 （事前事後学修課題の内容） PFIについて調べておくこと。
第9回	図書館のサービス計画	（学修内容）図書館サービスの計画について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館のマーケティング	（学修内容）図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	図書館の建築計画	（学修内容）図書館建設手順の流れについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第12回	レイアウト図をつくる①　ゾーニング計画	（学修内容）ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる②　書架	（学修内容）図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 （事前事後学修課題の内容） 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する①　ゾーニング計画	（学修内容）作成したゾーニング計画を発表する。 （事前事後学修課題の内容） レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する②　コンセプト・レイアウト図	（学修内容）コンセプトをふまえてゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 （事前事後学修課題の内容） レイアウト図を完成させる。

授業名	情報資源組織論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2733
英文名	Theory of Informational Resource Organization	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	松田　泰代	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	・情報資源を客観的に記述する目録法と、内容（主題）により資料を体系的に配列する分類法・件名法の歴史や意義、目録作成や分類・索引法の基本について概説します。 ・図書館が扱う情報資源はWeb情報源も含め多様化しており、利用者の情報への世界規模でのアクセスを保障するための書誌情報の標準化やその意義について解説します。 ・情報資源組織は図書館の資料の収集・保存・提供に不可欠な専門的な技術です。専門的な用語を含め情報資源組織の基本的な知識や現状について理解を深めます。
学修成果到達目標	１）図書館の情報資源の組織化の基本的な概念、用語を理解し使用できる。 ２）利用者が図書館の多様な情報資源に容易にアクセスできるために必要な目録、分類法の意義を説明することができる。 ３）情報社会において「知る自由」を保障するための情報資源へのアクセスについてFRBR等の書誌記述の構造を理解し、利用者の情報アクセスを支援する仕組みを考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　３時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	田窪直規『三訂 情報資源組織論』樹村房　2020年　ISBN;978-4-88367-339-1
参考書	日本図書館研究会編『情報資源組織法』(日本図書館研究会,2020),『日本十進分類法（ＮＤＣ）10版』,『日本目録規則2018年版』（いずれも日本図書館協会出版）など
課題に対するフィードバックの方法	小テスト6回（5点×6）は、授業内で解説し、答案を返却する。 第15回のグループごとのプレゼンテーション（口述20点）は、授業内に講評をする。
留意事項	Google Classroomを使用します。ネットへの接続環境を確保しておいてください。 専門的な用語が多いのでテキストをよく読み、適宜図書館情報学用語辞典やIT用語辞典なども活用してください。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：大学図書館員の勤務経験を有する教員が、書誌データ作成業務、NIIの地域目録講習会の講師等を務めた経験をもとに授業を進める。

授業名	情報資源組織論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・情報資源組織化の意義と理論	（学修内容）科目の説明、図書館サービスにおける情報資源とその組織化 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.1-16　復習: 小テスト1に向け学習したことを復習する。
第2回	目録法の意義と基本的な考え方/小テスト1	（学修内容）目録と目録法の基本、OPACの特性、典拠コントロール （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.17-28　復習: 小テスト2に向け学習したことを復習する。
第3回	FRBR(書誌レコードの機能要件)	（学修内容）FRBRモデルによる目録の考え方とその構成要素 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.28-35　復習: 小テスト2に向け学習したことを復習する。
第4回	実体の属性の記録、実体に対する統制形アクセス・ポイント、実体間の関連の記録/小テスト2	（学修内容）資料の属性と統制形アクセス・ポイント （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.36-54　復習: 小テスト3に向け学習したことを復習する。
第5回	目録法の歴史的展開	（学修内容）西洋及び日本における目録法の歴史とその変遷と現在 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.55-62　復習: 小テスト3に向け学習したことを復習する。
第6回	情報通信技術を活用した書誌情報の提供	（学修内容）インターネットとウェブ,ウェブにおける情報検索とメタデータ （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.63－71　復習: 小テスト3に向け学習したことを復習する。
第7回	図書館におけるコンピュータ・ネットワークと情報検索システム/小テスト3	（学修内容）図書館におけるコンピュータ・ネットワークを用いた目録作業,図書館における情報検索システム （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.71-84　復習: 小テスト4に向け学習したことを復習する。
第8回	メタデータの活用と展開	（学修内容）メタデータの相互運用性:XML, メタデータ標準,セマンティック・ウェブ （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.84-100　復習: 小テスト4に向け学習したことを復習する。
第9回	主題組織法	（学修内容）主題組織法の意義, 分類法と件名法, 事前結合 索引法・事後結合索引法 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.101-111　復習: 小テスト4に向け学習したことを復習する。
第10回	分類法/小テスト4	（学修内容）分類の基本原理, 分類記号の種類, 分類法の変遷 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.112-121　復習: 小テスト5に向け学習したことを復習する。
第11回	日本十進分類法	（学修内容）NDCの構成, 細目表の構成要素, 補助表、分類規程 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.121-147　復習: 小テスト5に向け学習したことを復習する。
第12回	語による主題組織法、シソーラスと件名標目表/小テスト5	（学修内容）自然語検索と統制語検索の特徴、自然語による主題組織法と統制語による主題組織法 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.148-163　復習: 小テスト6に向け学習したことを復習する
第13回	基本件名標目表	（学修内容）基本件名標目表第4版、件名標目と参照語、細目、件名規程 （事前事後学修課題の内容） 予習: 教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.163-172　復習: 小テスト6に向け学習したことを復習する
第14回	グループワーク 課題「分類記号を読み解く」/小テスト6	（学修内容）日本十進分類法の構造と補助表の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 予習: 割り当てられた課題３問を解いてくる。　復習: グループでの発表用資料の準備と個人で提出するレポートを作成する。
第15回	グループ発表と講評 まとめ	（学修内容）他者の発表を聞き、プレゼンテーション方法について考える。 日本十進分類法の構造と補助表の使い方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 予習: プレゼンテーションの準備・練習をしてくる。 復習: この授業全般をおさらいし、次の情報資源組織演習に備える。

授業名	食品衛生学	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3762
英文名	Food Hygiene	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	桐村　ます美	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	飲食等に起因する健康被害を予防し、人の生命と健康を守るために食品の安全性確保のための基礎知識を修得する。生産、加工、保存、流通、調理を経て消費者に食されるまでの一連の過程において安全・安心な食べ物を確保するための仕組みを理解する。授業では食品の変質、食中毒、環境汚染や微生物汚染などについて学ぶ。また、食品関連の各種法規やHACCPシステムについて理解し、さらには新しい知見や安全性確保のための考え方や取り組みについても学ぶ。
学修成果到達目標	1）食品の安全性、衛生確保に関連する健康被害の原因物質と対策を説明できる。 2）食品の衛生的取り扱い、安全管理の現状について理解できる。 3）食品衛生管理のためのHACCPシステムを説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	三訂食品の安全性、日本フードスペシャリスト協会　編　建帛社
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	復習テストは翌週に、レポートは提出後に解答と解説を行います。
留意事項	事前にテキストを読み、課題について調べておくこと。 興味を持った内容については自主的に調べる習慣を身につける。 授業終了後に配布する復習テストには必ず解答してくること。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：管理栄養士・栄養士養成校、教員養成校で教育歴あり

授業名	食品衛生学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生とは	（学修内容）授業計画について 食品の安全性、食品生産から最終消費までの安全性確保について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p1-9を読み食品の安全確保について調べておく 事後：食品の安全性確保について復習する
第2回	食品衛生と微生物	（学修内容）微生物の種類、特性、検査法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p11-17を読み食品にかかわる微生物の種類を調べておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第3回	食品の変質とその防止	（学修内容）微生物などによる食品の変質とその防止方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p17-26を読み整理しておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第4回	食中毒と発生状況	（学修内容）最近発生した食中毒の事例をあげ特徴、原因物質及び感染状況等を発表し防止方法を話し合う （事前事後学修課題の内容） 事前：近年の食中毒発生状況を調べ、事例発表の準備をする 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第5回	微生物性食中毒	（学修内容）微生物性食中毒について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p35-51を読み、食中毒事件について調べておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第6回	自然毒、化学性食中毒	（学修内容）動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒、寄生虫について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p52-61を読み、自然毒についてまとめておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第7回	食品の安全性：食肉製品、水産加工食品など	（学修内容）食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵について原料や製造工程・流通過程での安全性確保のについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：p63-75を読み食品の安全性についてチェックポイントを整理する 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第8回	食品の安全性：惣菜食品ほか、冷凍食品	（学修内容）各種食品の特徴を理解した上で消費者が安全に摂取できるよう生産から消費までの安全性確保の方法を意見交換し理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：食品購入から消費までの安全性の保持方法について調べておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第9回	家庭における食品の安全保持	（学修内容）微生物の汚染源となる台所用品、冷蔵・冷凍庫、電子レンジなどの取り扱い方法および洗浄剤の分類と種類について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：p85-100を読み家庭内で安全が保持されているか調べておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第10回	環境汚染と食品	（学修内容）環境中の有害化学物質や放射性物質による食品汚染について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p101-114を読み、身近な環境汚染について考える 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第11回	食品用の器具および容器包装	（学修内容）食品用の器具、容器包装の安全性について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p115-122を読み、容器包装の材質識別マークを探す 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第12回	水の衛生、食品の表示	（学修内容）水の安全性に関する水質基準と食品表示について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p123-137を読み食品表示を市販食品の中から確認しておく 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第13回	食品添加物、輸入食品	（学修内容）食品添加物の分類、用途、作用、特徴について学び、輸入食品の安全性の確保について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p138-157を読み、食品添加物の添加されている食品を探す 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第14回	食品の新しい安全性問題	（学修内容）様々な食品の安全性の問題について、安全な食品を手にするための方策を考え、消費者に正確な情報の提供の仕方を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書p158-176を読み、安全に食品の選択ができるよう考える 事後：授業内容を整理し、復習テストを行う
第15回	食品の安全管理	（学修内容）食品の安全確保に関する法制度や組織、HACCPシステムについて理解する　さらに未来の新しい食のあり方と安全性について話し合う （事前事後学修課題の内容） 食品の安全管理について整理し、新しい食のあり方と安全性について考えておく。終了後は授業での学びを今後に生かせるよう整理しておく

授業名	食品の官能評価演習	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3761
英文名	Sensory Food Evaluation Practice	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	森　久美子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	農薬や食品添加物、表示の偽装、遺伝子組み換えなど食についての不安が広がる昨今、我々は食品の品質について正しく判断する必要がある。そのためのひとつの方法が人間の五感を用いて行う官能評価であるが、それも正しい方法で行われなければ無意味なものとなってしまう。本授業では、官能評価の基本と実施方法、そして得られたデータの統計的解析の手法を学ぶとともに、品質評価に必要な化学的評価法、物理的評価法について実習も交えて学ぶ。 また、フードスペシャリスト検定試験に向けて、グループワークにより試験対策を実施する。
学修成果到達目標	1）官能評価を正しく行うことができる。 2）官能評価の結果を正しく検定することができる。 3）正確に食品の品質を判断できる力を身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　■筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	『四訂　食品の官能評価・鑑別演習』日本フードスペシャリスト協会　編、建帛社 食品鑑別論で使用するテキストです。
参考書	資料を配布する。
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題等についてはコメントをつけて返却する
留意事項	官能評価はフードスペシャリストにとって大変重要な技術のひとつである。資格取得を目指し、授業に真剣に取り組んでもらいたい。
オフィスアワー	初回にアナウンスします。
実践的教育	

授業名	食品の官能評価演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	官能評価とは	（学修内容）官能評価がどのようなものかを学ぶ （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認する
第2回	官能評価の管理	（学修内容）官能評価の管理 （事前事後学修課題の内容） テキストp.5-12を読んで予習をしておく
第3回	官能評価の手法の選択	（学修内容）官能評価にどのような方法があるかを学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.12-30を読んで予習をしておく
第4回	官能評価の実施 （個室法・円卓法）	（学修内容）個室法・円卓法を用いて、実際に官能評価を行う （事前事後学修課題の内容） 官能評価の手法（個室法・円卓法）について復習をしておく
第5回	統計の基本	（学修内容）検定に必要な統計の基本知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 官能評価の手法（円卓法）について復習をしておく
第6回	これまでの復習	（学修内容）資格認定試験の過去問を使って復習する （事前事後学修課題の内容） 資格認定試験の過去問の指定範囲を解いておく
第7回	化学的評価法 1（食品成分と品質）	（学修内容）食品成分と品質の関わりについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.31-50を読んで理解を深めておく
第8回	化学的評価法 2（化学的品質評価法）	（学修内容）化学的品質評価法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.31-50を読んで理解を深めておく
第9回	物理的評価法 1（分散系の分類）	（学修内容）分散系の分類について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.50-58を読んで理解を深めておく
第10回	物理的評価法 2（レオロジーとテクスチャー）	（学修内容）食品の物理的性質について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.60-63を読んで理解を深めておく
第11回	物理的性質の評価方法	（学修内容）物理的性質の評価方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.64-68を読んで理解を深めておく
第12回	これまでの復習	（学修内容）資格認定試験の過去問を使って復習する （事前事後学修課題の内容） 資格認定試験の過去問の指定範囲を解いておく
第13回	プレゼンテーション	（学修内容）これまでの学習について、一人1テーマを発表する （事前事後学修課題の内容） テキストp.69-85を読んで理解を深めておく
第14回	模擬試験	（学修内容）これまでの学習について、および、フードスペシャリスト試験の理解度を確認する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp.31-85を読んでみて、理解できていないところをチェックしておく
第15回	まとめ	（学修内容）問題を解きながらこれまでのまとめをおこなう （事前事後学修課題の内容） 資格認定試験の過去問について何度も取り組み、復習しておく

授業名	保育実習指導Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3777
英文名	Guidance on Child Care TrainingⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	保育実習Ⅱでは、保育所おいて二回目の保育実習を行う。そのために、保育実習Ⅰを振り返り、保育所の役割の理解、保育者の援助の方法の理解を深めた上で、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。
学修成果到達目標	1）保育実習Ⅱを実施するために必要な事項について理解する。 2）授業で学んだことが、実践できるようにする。 3）保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	特に無し。
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	保育所実習の振り返り、保育所実習の目標作成など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習Ⅱの単位が取得できることを条件とする。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	保育実習指導Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育実習Ⅰの振り返り	（学修内容）保育実習Ⅰを振り返り課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰで使用したメモや制作物をみて実習を振り返っておく
第2回	保育実習報告会	（学修内容）保育実習Ⅰでの体験を交流する。 （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰでの体験を振り返っておく
第3回	2回目の保育所実習についての解説（保育者の役割）	（学修内容）保育実習Ⅱでの課題を保育者の役割に焦点をあてて理解する （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰで学んだことを整理しておく
第4回	2回目の保育所実習についての解説（保育所の役割）	（学修内容）保育実習Ⅱでの課題を保育所の役割に焦点をあてて理解する （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰで学んだことを整理しておく
第5回	保育実習事後面談	（学修内容）個人面談を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 面談の内容をまとめる
第6回	これまでの実習の振り返り	（学修内容）グループに分かれて２回生と交流し、実習での体験を伝える。実習に関するディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰの日誌を見直す
第7回	保育所実習からの課題抽出	（学修内容）抽出された課題を達成する方法を考える （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰの学びを振り返る
第8回	保育実習Ⅰをふまえた実習目標の設定	（学修内容）実習目標を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 実習目標を作成する準備をしてくる
第9回	公立・私立保育園、児童福祉施設の仕事の実際	（学修内容）公立・私立の保育園、児童福祉施設の仕事の実際を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 質問したい項目をまとめておく
第10回	実習目標の見直しと実習の諸注意事項の確認	（学修内容）グループワークを通じて、実習目標を相互に見直す。検便など実習の諸注意事項を確認する （事前事後学修課題の内容） 実習目標を再考する。諸注意事項を確認する。
第11回	実習記録の書き方	（学修内容）二度目の保育所実習にふさわしい記録の書き方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 保育所実習の記録を読み返しておく
第12回	保育実習Ⅱに向けての個人面談	（学修内容）個人面談を行う。 （事前事後学修課題の内容） 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる
第13回	これまでの実習で残された課題の精査	（学修内容）これまでの実習を振り返り、最後の実習の課題を明らかにする （事前事後学修課題の内容） 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す
第14回	保育士になるための講座	（学修内容）保育士になるために必要な学びを先輩から聞く （事前事後学修課題の内容） 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる
第15回	保育実習Ⅱの直前指導	（学修内容）保育実習Ⅱの諸注意事項を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 実習に必要な事前準備を完了しておく

授業名	家族ソーシャルワーク論	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC3759
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	本講義は、社会福祉士指定科目である「ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）」の家族支援を中心に総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際を学びます。個人である家族構成員のケースワークから「家族」との関係を理解し、家族関係や家族の経験、生活スタイルや生活状況、ライフサイクルなどからの影響について、ジェネラル・ソーシャルワーカーとして家族への支援展開、家族システムの複合的課題解決に理論やモデル、アプローチ方法を活用し解決・緩和の思考過程が理解できるよう学んでいきます。現代社会のニュースや新聞記事、視覚教材を活用し、実践的な理論と方法の定着を目指し授業を展開します。
学修成果 到達目標	1）家族ソーシャルワークの基本的な考え方が理解できる 2）家族ソーシャルワークの価値・原理・対象の理解ができる 3）家族全体のアセスメント方法と活用できる理論やモデルを知る 4）家族支援のための具体的な方法・技術を知る（記録・面接）
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、資料を配付します
参考書	ソーシャルワーク教育学校連盟編集（２０２１）『ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントをつけて返却します。
留意事項	本授業は、「ソーシャルワーク演習（社会専門）」の家族を中心にしたソーシャルワークの実践について技術を理論的かつ体験的に学んでいきます。自己の家族観にも左右されるところがあり、自己覚知を深めつつ授業に参加し多様な家族のあり方と支援方法の理解を深めていってください。
オフィスアワー	講義終了時及び研究室に在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	家族ソーシャルワーク論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・家族ソーシャルワークの基本的な考え	（学修内容）本授業の到達目標を理解する。家族・家庭・世帯の違いについて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読み、家族と家庭、世帯の概念を整理する 事後：社会福祉士の倫理綱領を読み、行動規範について、整理する
第2回	家族ソーシャルワークの価値	（学修内容）事例から家族ソーシャルワークの価値を考える （事前事後学修課題の内容） 事前：会福祉士の倫理綱領を読み、行動規範について、整理する 事後：ソーシャルワークの原理・原則を整理する
第3回	家族ソーシャルワークの原理	（学修内容）事例からソーシャルワークの原理を考える （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク原理・原則を整理する 事後：血縁・地縁・社縁とは何か調べる
第4回	家族ソーシャルワークの対象	（学修内容）ワークシートを通して、家族ソーシャルワークの対象を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：血縁・地縁・社縁とは何か調べる 事後：家族周期理論について調べる
第5回	家族ライフサイクル・モデル	（学修内容）生活困窮が生まれる背景を家族ライフサイクルから考える （事前事後学修課題の内容） 事前：家族周期理論について調べる 事後：人生に起こりうるストレスを調べる
第6回	家族ストレス・モデル	（学修内容）事例を通して予想される家族ストレスの理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：人生に起こりうるストレスを調べる 事後：システム理論について調べる
第7回	家族システム・モデル	（学修内容）事例を通して家族の課題維持の連鎖を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：システム理論について調べる 事後：ソーシャルワーク演習Ⅰの記録の方法を復習する
第8回	家族関係図と家族生態図	（学修内容）事例を通して家族関係図と家族生態図の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク演習Ⅰの記録の方法を復習する 事後：危機介入アプローチについて調べる
第9回	家族への危機介入アプローチ①エンゲージメント・インテーク	（学修内容）ＤＶＤ視聴し、家族への危機介入アプローチ方法を検討する ＤＶＤ『前科者』視聴 （事前事後学修課題の内容） 事前：危機介入アプローチについて調べる 事後：自分の住んでいる地域の利用できる社会資源を調べる
第10回	家族への危機介入アプローチ②アセスメント	（学修内容）ＤＶＤ視聴し、活用可能な社会資源（フォーマル・インフォーマル）の検討をするＤＶＤ『前科者』視聴 （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の住んでいる地域の利用できる社会資源を調べる 事後：家族関係図及び家族生体図を描く
第11回	家族への危機介入アプローチ③プランニング	（学修内容）グループワークを通して、アセスメント結果及び支援計画を立案し理解し深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：家族関係図及び家族生態図を描く 事後：フィールドワークの準備をする
第12回	家族への危機介入アプローチ④総合的理解 フィールドワーク	（学修内容）実際に介入をしている社会資源の見学を行ない、理論と実践を結び付け総合的に危機介入について理解する。フィールドワーク （事前事後学修課題の内容） 事前：フィールドワークの準備 事後：初回面接の目的と留意点を整理しておく
第13回	個人面接の技法（インテーク時の家族関係や家族の経験、生活スタイルや生活状況の理解）	（学修内容）家族ソーシャルワークのインテーク面接の留意点を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：初回面接の目的を明文化確認する 事後：児童相談所の主な相談内容を調べる
第14回	家族面接の展開方法（家族システム理論）	（学修内容）事例をもとにロールプレイを行い家族面接の展開を理論と結びつけ理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：児童相談所の主な相談内容を調べる 事後：中途障害者について調べる
第15回	家族の自立支援を目的とした家族ソーシャルワークの展開	（学修内容）家族生態図を活用しグループワークで事例の理解をし、社会資源を活用した支援方法を検討し、発表する （事前事後学修課題の内容） 事前：中途障害者について調べる 事後：家族ソーシャルワークの動向を整理する

授業名	図書館概論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1707
英文名	Introduction to Library	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	生活情報1回生、日本文化1回生				

授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際的な事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2）図書館と知的自由に関する今日的課題を解決するために、「図書館の自由に関する宣言」について理解し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。 3）公立図書館の管理運営形態の一つである指定管理者制度について理解し、その長所と短所を整理して自己の見解をプレゼンテーションすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『図書館概論』六訂版（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ１）、塩見昇、日本図書館協会、2024年
参考書	随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	図書館概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは何か	（学修内容）図書館の定義、種類について概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.13～P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	（学修内容）「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.57～P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	（学修内容）図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容） 「図書館の自由に関する宣言」（テキストP.65～P.67）を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	（学修内容）公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開（欧米）	（学修内容）欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.225～P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開（日本）	（学修内容）日本の図書館の歴史的展開を概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.229～P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	（学修内容）「図書館法」の構成と性格を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	（学修内容）公共図書館が提供するサービスについて概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.146～P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営上の課題（指定管理者制度）について考える	（学修内容）公立図書館の管理運営上の課題の一つである指定管理者制度に関してグループディスカッションを行い、プレゼンテーションも行う。 （事前事後学修課題の内容） 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	（学修内容）学校図書館の役割と機能について概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.161～P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	（学修内容）大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.177～P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	（学修内容）専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.190～P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	（学修内容）国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.203～211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	（学修内容）出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.45～P.48をよく読んでまとめておくこと。

授業名	社会福祉サービス運営	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4738
英文名	Management of Social Welfare Services	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	箱田　成司	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	社会福祉事業の立ち上げ準備から事務職と言われている経理や労務管理について理解する。 また、福祉サービスに必要な組織や人材について理解する。
学修成果到達目標	・法人について概要を理解し、社会情勢が与える影響がわかる。 ・社会福祉事業の経営と運営の違いを理解し、社会情勢に合わせた経営のノウハウを身につける。 ・人材育成や社会福祉の組織と福祉サービスの関係を説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	福祉サービスの組織と経営（中央法規）
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	講義の時にその都度、対応する。
留意事項	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	

授業名	社会福祉サービス運営

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	福祉サービスの運営と経営について	（学修内容）日本の福祉事業所の数の把握やこれからの福祉について理解をする。 （事前事後学修課題の内容） 実習の施設についての特徴をまとめておく。
第2回	法人格について	（学修内容）福祉事業の立ち上げるために必要な法人格の種類と性質について理解をする。 （事前事後学修課題の内容） 日本の法人の種類について調べておく。
第3回	NPO法人の設立について	（学修内容）NPO法人の設立の方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） NPO法人について調べておく。
第4回	事業所の認可について	（学修内容）福祉事業の認可の方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 行政書士について調べておく。
第5回	労務管理について	（学修内容）給与規定、給与計算、社会保障、福利厚生について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 社会保険労務士について調べておく。
第6回	財務管理と会計管理について	（学修内容）複式簿記、給料計算、融資、住民税、所得税、法人税、請求業務について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 税理士と会計士について調べておく。
第7回	理念経営について	（学修内容）理念経営について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 社会福祉法人の理念について調べてくる。
第8回	広報戦略と営業について	（学修内容）ホームページの作成、SNS戦略について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 福祉事業所の良いと思うホームページを探してくる。
第9回	組織について1	（学修内容）組織間連携について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 興味のある福祉分野の施設種別を調べてくる。
第10回	組織について2	（学修内容）組織の理論について （事前事後学修課題の内容） ティール組織について調べておく。
第11回	組織について3	（学修内容）集団力学について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 実習の施設の現場職員の数を調べてくる。
第12回	組織について4	（学修内容）リーダーシップ、人材育成について理解する。人材の多様性について理解する。 （事前事後学修課題の内容） ダイバーシティインクルージョンという言葉の意味を調べておく。
第13回	経営管理について１	（学修内容）経営戦略について理解する。 （事前事後学修課題の内容） CSR、CSV、SDGsについて調べておく。
第14回	経営管理について2	（学修内容）サービスマネジメントについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 経営がうまいと思う会社を調べる。
第15回	サービスの質の向上について	（学修内容）リスクマネジメントについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 実習中で体験した事故やヒヤリハットについて考えておく。

授業名	地域福祉論Ⅱ	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC2730
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	「地域社会」と聞いて何を思い浮かべますか？わたしたちの日々の生活に密接に関連してくるものかもしれません。その問いを整理しながら、ソーシャルワーカーとして地域住民をどのように支えていくことが求められているのかを理解することを目的としています。本講では、さまざまな地域課題に対して切れ目なくサポートできるコミュニティを構築する方法について考え、個別の相談援助だけではなく、地域支援までを担う「ソーシャルワーク」能力を高め、課題解決の実践力をつけることを目指します。そのために、機会があれば講義だけではなく、地域の機関に出向き実践者から学ぶことも考えています。
学修成果到達目標	①地域社会で暮らす住民の多様化と課題を自身で調べ発表することができる。 ②自身の地域社会資源を知り、地域課題に応じた社会資源の提案ができる。 ③災害時における社会福祉士の役割をチームで考え発表することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	最新社会福祉士養成講座６『地域福祉と包括的支援体制』中央法規　2021年2月1日発行
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で授業に関する感想や質問を受け付け、次の授業時間に対応する。 また、個別の質問についてはメールでも対応する。
留意事項	社会福祉士は実践者であることを考え、自ら進んで<調べる>、<課題を見つける>、<地域へ出向く>ことを主眼におきます。積極的に授業に臨んでください。
オフィスアワー	講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室（１R-404）に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。
実践的教育	

授業名	地域福祉論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～地域福祉のねらい～	（学修内容）１）講義の進め方　２）地域福祉論Ⅰで学んだ内容の復習 ３）成績評価の方法 （事前事後学修課題の内容） 事前　シラバスを読んでおく。 事後　テキスト「はじめに」を読んでおく。
第2回	地域社会の概念と理論	（学修内容）京都市東山地域の理解を行い、この地域における住民の課題について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　東山地域に関するデータの収集 事後　テキスト2～19ページを読み、わからない語句を調べる。
第3回	地域社会の変化① ～世帯の小規模化～	（学修内容）テキスト11～36ページを読み、グループワークを行い、近年の地域社会の変化を読み取る。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト11～36ページを読み、わからない語句を調べる。 事後　気になった部分を調べ発表資料を作成する。
第4回	地域社会の変化② ～過疎地域と中山間地域の現状～	（学修内容）地域社会の変化について調べ学習を行う。資料作成。 （事前事後学修課題の内容） 事前　気になった部分を調べ発表資料を作成する。 事後　発表原稿を作成する。
第5回	地域社会の変化③ ～外国人住民の増加～	（学修内容）前回授業で調べたことを発表する。資料必要。 （事前事後学修課題の内容） 事前　発表原稿を作成する。 事後　テキスト38～60ページを読みわからない語句を調べる。
第6回	地域包括ケアシステム① ～社会的孤立と地域包括システムの考え方～	（学修内容）地域包括ケアシステムの考え方と展開を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト38～43、55～57を読み、わからない語句を調べる。 事後　地域包括ケアの取り組みについて調べる。
第7回	地域包括ケアシステム② ～包括的支援体制の構築と実践～	（学修内容）地域包括支援センターへ出向き、包括的な相談支援体制について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　機関で質問ができるように考えておく。 事後　学んだことをレポートにまとめる。(1200字)
第8回	地域共生社会の構築① ～ニッポン一億総活躍プラン～	（学修内容）地域共生社会の理解とその実現にむけての方法 （事前事後学修課題の内容） 事前　学んだことをレポートにまとめる。(1200字) 事後　機関で質問ができるように考えておく。
第9回	地域共生社会の構築② ～他機関協働を促進する仕組み～	（学修内容）社会福祉協議会へ出向き、地域共生社会の構築やコミュニティーソーシャルワーカーの役割を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　機関で質問ができるように考えておく。 事後　学んだことをレポートにまとめる。(1200字)
第10回	災害時における総合的包括的な支援体制① ～災害時や非常時における法制度～	（学修内容）非常時や災害時における法制度を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ200～218を読み、わからない語句を調べる。 事後　テキストｐ219～236を読み、わからない語句を調べる。
第11回	災害時における総合的包括的な支援体制② ～DMAT・DWAT・DPATの役割～	（学修内容）災害時における専門職の役割について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト219～236ページを読み、わからない語句を調べる。 事後　社会福祉士としてできる取り組みを具体的に考えてくる。
第12回	災害時における総合的包括的な支援体制③ ～社会福祉士の役割～	（学修内容）前回授業内容から得た知識を踏まえ、ディスカッションしながら総合的かつ包括的な支援を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　社会福祉士としてできる取り組みを具体的に考えてくる。 事後　まとめたものを資料として提出できるようにしておく。
第13回	地域資源と社会資源① ～コミュニティーワーカーの地域アセスメント～	（学修内容）自身の地域の社会福祉資源について調べてきたこと、社会資源の提案を発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前　まとめたものを資料として提出できるようにしておく。 事後　他者の発表内容を聞き、自分の資料に追記する。
第14回	地域資源と社会資源② ～社会資源の開発～	（学修内容）他者が発表したことについて意見を述べる。 （事前事後学修課題の内容） 事前　他者の発表内容を聞き自分の資料に追記する。 事後　テキスト44～54ページを読み、わからない語句を調べる。
第15回	まとめにかえて ～貧困と現代社会～	（学修内容）現代社会における貧困について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキストｐ44～54を読み、わからない語句を調べる。 事後　地域福祉における多職種連携についてまとめる。

授業名	中等教科教育法Ⅰ（家庭）	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2723
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School I	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	馬場　まみ	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	家庭科は、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、より良い生活のあり方を考え、創造していく力を培う教科である。本講義では、家庭科の歴史、教科の目的や意義を理解する。さらに、中学校・高等学校家庭科の教育内容を把握し、家庭科の教材研究と授業づくりの方法を理解する。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行う。
学修成果到達目標	1. 家庭科の目的、意義を理解できる。 2. 中学校・高等学校の家庭科の内容構成を説明できる。 3. 家庭科の教材研究と授業展開の方法を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	『実践的指導力をつける家庭科教育法』多々納道子・伊藤圭子編著 【大学教育出版】
参考書	随時紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	中等教科教育法Ⅰ（家庭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）科目の概要と授業の進め方について （事前事後学修課題の内容） これまでに受けた家庭科の授業を振り返る。
第2回	家政学、家庭科の目的と領域	（学修内容）家政学、家庭科の目的と意義、領域を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料を読み家庭科の目的を考える。授業後家庭科の目的をまとめる。
第3回	家庭科で育む資質・能力	（学修内容）家庭科で育む資質や能力について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に配付資料を読み、家庭科で育む資質について考える。授業後家庭科授業で重要だと思うことを提出する。
第4回	家庭科の歴史：近代教育と家庭科	（学修内容）近代における女子教育、家庭科教育について理解する （事前事後学修課題の内容） 近代の教育制度について予習する。授業後近代の女子教育と現代との違いを提出する。
第5回	家庭科の歴史：戦後の男女共学教育	（学修内容）戦後に男女平等教育となり家庭科がどのように履修されるようになったのかを理解する （事前事後学修課題の内容） 戦後の教育改革について予習する。授業後戦後改革の要点をまとめる。
第6回	家庭科の歴史：高度経済成長期の家庭科	（学修内容）高度経済成長期に家庭科の履修方法がどのように変わったのか理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に高度経済成長期の社会の変化について調べる。授業後当時の学習指導要領に対する感想を提出する。
第7回	家庭科の歴史：女性差別撤廃条約と家庭科	（学修内容）女性差別撤廃条約の批准を契機に家庭科の履修方法が変わったことを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前に女性差別撤廃条約について調べる。授業後女性差別撤廃条約の教育に関わる条文をまとめる。
第8回	家庭科の歴史：家庭科教育と男女共同参画社会	（学修内容）男女共同参画社会における家庭科の意義を考える （事前事後学修課題の内容） 事前に現代生活における生活の課題を考える。授業後課題解決にむけての教材を考える。
第9回	家庭科の授業づくりの基礎：家庭科の目標と評価	（学修内容）家庭科の目標設定と評価方法について理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、評価方法について予習する。授業後に評価方法の要点をまとめる。
第10回	家庭科の授業づくりの基礎：授業設計	（学修内容）家庭科の授業計画、指導案について理解する （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、授業計画について予習する。授業後指導案のつくり方の要点をまとめる。
第11回	家庭科の授業づくりの基礎：教材研究	（学修内容）家庭科の教材の要件、教材研究の方法を理解する　適宜ディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前に家庭科の教材を考える。授業後教材について考えが深まったことをまとめる。
第12回	家庭科の授業づくりの基礎：アクティブ・ラーニング	（学修内容）アクティブ・ラーニングを理解し、家庭科でどのように実践できるか考える （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、主体的な学びについて予習する。授業後家庭科でのアクティブ・ラーニングの実践方法を考える。
第13回	家庭科の授業づくりの基礎：インクルーシブ教育	（学修内容）インクルーシブ教育について理解し、家庭科での実践を考える （事前事後学修課題の内容） テキストの関連部分を読み、インクルーシブ教育について予習する。授業後インクルーシブ教育の実践例を調べる。
第14回	家庭科の授業づくりの基礎：学習環境の整備	（学修内容）家庭科の人的学習環境、物的学習環境の整備について理解する　適宜ディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストの関連部分を読み、家庭科の学習環境の整え方を考える。授業後家庭科室の運営に必要なことをまとめる。
第15回	まとめとディスカッション	（学修内容）家庭科の目的を踏まえよりよい授業づくりについて考える　適宜ディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） これまでに学んだことを整理する。

授業名	中等教科教育法Ⅲ（家庭）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3771
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅲ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	守野　美佐子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	家庭科の特質を活かした学習計画を立て、領域ごとの講義、実習の効果的な指導をするために、基本事項を理解し、具体的な授業設計ができる力をつけ、深く学習指導計画の立案と展開、評価に関する実践的な力を習得する。授業を作る視点とその方法を理解し、教育現場に活かせる、家庭科教員としての指導能力と資質の育成を図る。理解を深めるために、適宜ディスカッションやグループワークを実施する。
学修成果到達目標	1）実践的体験的学習を多く取り入れて授業が工夫できるようになる。 2）生徒自身が学習意欲を持ち、主体的に取り組める家庭科模擬授業をすることができる。 3）学習の評価を考えて指導計画が立てられる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「新しい技術・家庭　家庭分野」東京書籍、「家庭総合」東京書籍 中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ（家庭）で使用した教科書も使用する
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究の発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。
留意事項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。
オフィスアワー	毎週、授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有

授　業　名	中等教科教育法Ⅲ（家庭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション　学習の動機付けとは	（学修内容）学習指導要領の確認　家庭科の目標と評価を復習する 生徒の学習動機を引き出す工夫を考え、ディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 習指導要領の内容を復習しておく 生徒が家庭科を学ぶ動機を考えておく
第2回	参加型アクション志向学習法とは	（学修内容）参加型アクション志向学習法について学ぶ 視聴覚教材の活用や情報機器の活用についても学ぶ （事前事後学修課題の内容） 参加型学習法を調べてくる
第3回	実践例　家族、保育領域	（学修内容）家族・保育領域参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 家族・保育領域の学習内容を復習しておく
第4回	実践例　食生活	（学修内容）食生活領域の参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 食生活の領域の学習内容を復習しておく
第5回	実践例　衣生活・住生活	（学修内容）衣・住領域の参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 衣生活・住生活の領域の学習内容を復習しておく
第6回	実践例　情報、環境	（学修内容）情報・環境領域の参加型アクション志向学習のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 情報・環境領域の学習内容を復習しておく
第7回	家庭科の教師としての資質、教育実習	（学修内容）教育実習に臨むにあたっての心構えと準備について話し合うディスカッション （事前事後学修課題の内容） 教育実習の目的、自分の目標を決めておく
第8回	実技、実習を含む授業の衛生と安全管理の指導	（学修内容）調理実習室や家庭科室の安全・衛生管理について考える 調理実習や被服製作実習の指導について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 実技・実習における事故と安全対策について考えておく 調理実習や被服製作の教材について考えておく
第9回	学習指導案の作成　消費生活	（学修内容）消費生活領域の主体的学習の計画　指導案の作成 （事前事後学修課題の内容） 消費生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第10回	学習指導案の作成　衣生活	（学修内容）衣生活領域の主体的学習の計画　指導案の作成 （事前事後学修課題の内容） 衣生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第11回	学習指導案の作成　住生活	（学修内容）住生活領域の生徒の主体的学習の計画　指導案の作成 （事前事後学修課題の内容） 住生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第12回	模擬授業　１回目　消費生活　数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第13回	模擬授業　２回目　衣生活　数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第14回	模擬授業　３回目　住生活　数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第15回	まとめ　学習集団とは	（学修内容）模擬授業の相互評価、総評 学習集団の保障と形成について考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容） これまでの講義をふりかえっておく

授業名	教職実践演習（幼・小）	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4818
英文名	Teaching Practice(Kindergarten・Elementary School)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	盧　珠妍・宮川　紀宏・竹村　伸子・森岡　葉子	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	教職実践演習は、教職課程全体を通して、教師・保育者として適切な資質能力を多角的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。 履修カルテや実習の振り返りをもとに、学生の個別的な課題およびこれからの社会情勢を見据え、教師・保育者が身につけるべき全体的な課題を掘り下げ、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、教師・保育者としての資質能力をさらに高めることを目的としている。
学修成果 到達目標	1）教師・保育者としての使命感、責任感を自覚し、言動に表すことができる。 2）多様な子どもや保護者とのコミュニケーションを想定して対応することができる。 3）新任教師・保育者として必要な教科・保育に必要な指導力を身につけ、指導案作成や模擬授業または模擬保育に活かすことができる。 4）語彙力や表現力を豊かにして他者に働きかけができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	＜小学校＞『小学校学習指導要領解説総則　平成29年告示』文部科学省、東洋館出版社、2018。 ＜幼保＞『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』文部科学省、フレーベル館、2018。 『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子編、わかば社、2017。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションやロールプレイなどについては、学生同士のピア評価と教師のコメントと解説をおこなう。
留意事項	教職課程の総仕上げとなる演習形式の授業であり、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、原則として無断欠席・遅刻は認めず、主体的な授業参画を求める。 校種別に活動するため、シラバスの内容は変更になる可能性がある。 受講にあたっては、「履修カルテ」の作成・提出が必要となる。
オフィスアワー	小学校については宮川、幼保については柿本が担当し随時実施する。非常勤教員については授業前後に相談のこと。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 京都市立小学校教諭・教頭、京都教育大学附属小学校など 大津市立幼稚園園長、京都市立幼稚園園長などとして勤務した勤務経験を活かして、実体験を踏まえて、実践に向けた心構えや知識について授業を実施する。

授業名	教職実践演習（幼・小）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教職実践演習の意義と目的	（学修内容）本授業の進め方を理解する。本授業の意義と目的を理解して、入学後これまでの教職課程および教育実習の内容を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 「教育実習振り返りシート」「履修カルテ」の記述および整理。
第2回	個別の課題設定と習得計画の作成	（学修内容）履修カルテや教育実習等の振り返りから各自の研修課題を明確にし、必要な知識技能の習得に向けて計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 自己の課題をまとめ、課題克服の計画を修正し提出する。
第3回	教師・保育者の役割と使命感	（学修内容）教師・保育者の役割について社会の現状や教育実習等の経験をふまえながらグループ討議を行い、グループごとに発表する。 （事前事後学修課題の内容） 課題についての自己の経験をまとめてくる。
第4回	困りを抱える子どもの理解と援助方法	（学修内容）困りを抱える子どもへの指導について、事例をもとにロールプレーやグループ討議を通して考える。 （事前事後学修課題の内容） 困りを抱える子どもについての特性や指導法について調べてくる。
第5回	子ども同士のけんかやトラブルの理解と援助方法	（学修内容）ビデオを見ながら、子ども同士のけんかやトラブルについて考え、グループ討議する。 （事前事後学修課題の内容） 実習での実際のけんかやトラブルの場面を思い出して書き出し、その時の対応なども整理しておく。
第6回	危機管理への備え	（学修内容）想定されうる危機管理について理解し、具体的な対応について話し合って深める。 （事前事後学修課題の内容） 実習校・園の内外にある「危険」を書き出す。教員の備え、子どもとともにする行動について考えておく。
第7回	これからの教師・保育者に求められるもの（外部講師）	（学修内容）校長・園長経験者などの講義をもとにこれからの教師に求められる資質能力について考える。 （事前事後学修課題の内容） 今後の社会状況の変化と教師・保育者に求められる力について予測しておく。
第8回	模擬授業または模擬保育の準備	（学修内容）2回の授業から各自の課題を実践するための具体的な案をグループで考え、各グループごとの模擬授業または模擬保育の準備をする。 （事前事後学修課題の内容） 各自の課題を再確認し、模擬授業または模擬保育にどのように取り組むかを考えておく。
第9回	第1グループから第3グループまでの模擬授業または模擬保育	（学修内容）第1～3グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　指導案・保育教材の作成。
第10回	第4グループから第6グループまでの模擬授業または模擬保育	（学修内容）第4～6グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　指導案・保育教材の作成。
第11回	第7グループから第9グループまでの模擬授業または模擬保育	（学修内容）第7～9グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　指導案・保育教材の作成。
第12回	保護者・地域との関係づくり①ロールプレイ	（学修内容）学校・園と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （事前事後学修課題の内容） 保護者との連携の必要性について考えてくる。
第13回	保護者対応と連携クラス通信作成	（学修内容）ロールプレイで学んだことをふまえ日々の教育・保育や行事を保護者に伝えるクラス通信にまとめる （事前事後学修課題の内容） 実習ノートからクラス通信に書きたい内容について考えておく。
第14回	事例に基づくカンファレンス	（学修内容）グループごとにカンファレンス形式で、事例研究を行う。 （事前事後学修課題の内容） これまでの実習などから議論したいエピソードを抜き出しておく。
第15回	総括	（学修内容）これまでの授業と教職課程全般を振り返り、今後の抱負を相互に伝え合う。 （事前事後学修課題の内容） 履修カルテの総括欄に記入しておく。

授業名	ソーシャルワーク総論Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1711
英文名	Outline of Social WorkⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	本講義は、社会福祉士養成カリキュラムの「ソーシャルワークの基盤と専門職社会専門」に該当する科目です。社会福祉士として重要な倫理、現在のソーシャルワークに関わるせんおん職が働く分野と職域、諸外国におけるソーシャルワーカーの状況を学習します。さらに、ソーシャルワークの展開内容を実践的、総合的かつ包括的な支援の意義や内容について、ジェネラリストの視点、多職種、社会資源、地域の人々などととの連携・協働について学んでいきます。
学修成果到達目標	1．社会福祉士の倫理について理解できる 2．ソーシャルワークに関わる専門職が働く分野と職域が理解できる 3．ソーシャルワークの実践がミクロ・メゾ・マクロレベルに連動して展開することを理解できる 4．社会福祉士に求められる総合的かつ包括的支援の意義や内容を説明することができる 5．ソーシャルワークに関連する社会資源について、自分のことばで説明することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	一般社団法日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著『ソーシャルワークの基盤と専門職【共通・社会専門】』中央法規、2021 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物返却時に行う。
留意事項	「ソーシャルワーク総論Ⅰ」の継続科目です。身近なニュースに目を向け、興味関心を高めていってください。
オフィスアワー	授業終了後及び研究室に在室時、対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設に勤務経験がある

授業名	ソーシャルワーク総論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・価値と倫理	（学修内容）授業計画の理解とソーシャルワークの価値と倫理を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク総論Ⅰの学びの確認 事後：社会福祉士の倫理綱領を読む（p182～186）
第2回	ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ	（学修内容）ソーシャルワーク実践を行う上で起こりうる倫理的ジレンマと判断方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉士の倫理綱領を読む（p182～186） 事後：テキストを読む（p192～202）
第3回	ソーシャルワークの体系	（学修内容）ソーシャルワークの共通基盤の理解とソーシャルワークの体系を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p192～202） 事後：ノートの整理
第4回	ソーシャルワークの展開過程	（学修内容）ソーシャルワークの各過程を学び、展開過程を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ノートの整理 事後：福祉行政で働く専門職を調べ、反転授業の準備をする。
第5回	ソーシャルワークに関わる専門職①福祉行政における専門職とその活動	（学修内容）福祉行政で働く専門職の理解をする。（反転授業） （事前事後学修課題の内容） 事前：福祉行政で働く専門職を調べ、反転授業の準備をする。 事後：民間組織・雇用関係がない担い手を調べ反転授業の準備をする
第6回	ソーシャルワークに関わる専門職②民間の施設組織、雇用関係をもたない社会福祉の担い手	（学修内容）民間の施設組織、雇用関係をもたない社会福祉の担い手について理解する（フィールドワーク） （事前事後学修課題の内容） 事前：民間組織・雇用関係がない担い手を調べ反転授業の準備をする 事後：テキストを読む（p206～217）
第7回	ソーシャルワークにおける援助関係	（学修内容）援助関係の構築の基本的事項を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p206～217） 事前：テキストを読む（p108～109）
第8回	ソーシャルワークにおける権利擁護	（学修内容）福祉サービス利用者の現状を理解し、権利擁護の役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p108～109） 事後：テキストを読む（p235～240）反転授業の準備をする
第9回	諸外国のソーシャルワーカーの動向①アメリカ・カナダ	（学修内容）アメリカ、カナダにおけるソーシャルワーカーの動向を理解する(反転授業） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p235～240）反転授業の準備をする 事後：テキストを読む（p240～242）反転授業の準備をする
第10回	諸外国のソーシャルワーカーの動向②イギリス・ドイツ・スウェーデン	（学修内容）イギリス、ドイツ、スウェーデンにおけるソーシャルワーカーの動向を理解する（反転授業） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p240～242）反転授業の準備をする 事後：テキストを読む（p242～243）反転授業の準備をする
第11回	諸外国のソーシャルワーカーの動向③韓国・インドネシア・中国	（学修内容）アジア諸国におけるソーシャルワークの動向を理解する（反転授業） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p242～243）反転授業の準備をする 事後：テキストを読む（p246～254）
第12回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	（学修内容）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と課題状況を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p246～254） 事後：テキストを読む（p255～267）
第13回	ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク	（学修内容）ソーシャルワークの機能を理解し、レベルに合わせた展開の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p255～267） 事後：テキストを読む（p270～302）
第14回	ジェネラリストの視点に基づく総合的・包括的支援の意義と内容	（学修内容）具体的映像教材を通して、総合的・包括的支援の意義と内容を理解する（DVD視聴） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストを読む（p270～302） 事後：映像教材から得た視点を整理する
第15回	生活の基盤としての地域を支える援助活動	（学修内容）実際の地域での活動映像を通して、生活を支えるソーシャルワークの専門職の理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：映像教材から得た視点を整理する 事後：本授業に学んだ人物名、法律、専門用語を整理する

授業名	ソーシャルワーク論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2731
英文名	Theory of Social WorkⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武田　康晴	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、歴史的な展開も含め、ソーシャルワークの各種アプローチについて、その特徴や定義、展開過程を学ぶ。その上で、ソーシャルワークの方法としてケースワーク（ケアマネジメント）、グループワーク、コミュニティーワーク、ソーシャルアクション、ネットワーキング等について学ぶ。
学修成果到達目標	1）ソーシャルワークの様々なアプローチについて、定義や展開過程を理解できる。 2）ケースワーク（ケアマネジメント）の定義は展開過程を理解できる。 3）ソーシャルワークの専門性、特徴、独自性について説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（30%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　■口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	空閑浩人ほか編著『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房、2022
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	事前学習の状況を確認しながら授業を進める。課題については添削・評価して返却する。
留意事項	授業で全てを教えることはできないので、自分で学習すること、考えることを大切にする。
オフィスアワー	授業中に伝達する。
実践的教育	

授業名	ソーシャルワーク論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ソーシャルワーク論Ⅰの内容を踏まえ、科目ガイダンス	（学修内容）ソーシャルワークの特徴、専門性等について振り返り、授業の内容を説明する。キーワードを挙げ学生の発言を聞いて理解度を確認する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認しておく。春学期の内容を復習して疑問点をまとめてくる。学び残しがないよう、これまでのところをしっかり復習する。
第2回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ(1)	（学修内容）診断主義的アプローチと機能主義的アプローチ、課題解決アプローチについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第3回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ(2)	（学修内容）エコロジカル、エンパワメント、ナラティブアプローチについて理解する。各種モデル、アプローチについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第4回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討(1)	（学修内容）児童の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第5回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討(2)	（学修内容）高齢者の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第6回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討(3)	（学修内容）障害者の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の誓いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第7回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討(4)	（学修内容）多問題家庭の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の誓いを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第8回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク①	（学修内容）ソーシャルケースワークの定義と歴史的展開を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第9回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク②	（学修内容）ケアマネジメントの定義と登場の背景、構成要素、展開過程、留意点について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第10回	ソーシャルワークの方法(2)～グループワーク	（学修内容）グループワークの成立経緯を確認しつつ、定義及び構造、実践原則について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第11回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク①	（学修内容）コミュニティワークの概念と定義、展開方法、社会資源の開発について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第12回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク②	（学修内容）ソーシャルアクションやアウトリーチを含む地域を基盤としたソーシャルワークについて復習を含め再度学ぶ。各技法について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第13回	これからのソーシャルワーク①	（学修内容）スーパービジョンやコンサルテーション等などソーシャルワーク実践の質を高める手法、仕組みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第14回	これからのソーシャルワーク②	（学修内容）災害ソーシャルワークの事例を題材に、医療・保健との連携を含め今後のソーシャルワークの在り方について意見交換しながら考える。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら意見交換し、疑問点を解消する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書と資料、ノートに目を通し、疑問点を整理して質問できるようにしておく。学び残しのないようしっかり復習する。

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC3784
英文名	Social Work　Practice Ⅰ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	本講義は、ソーシャルワークの知識と技術に関わる他の科目との関連性を踏まえ社会福祉士に求められる基礎的な能力を滋養することねらいとし、学びをしていきます。「ソーシャルワーク論」で学んだ知識を活用し、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーションの方法について演習を通して体験的に理解していきます。ソーシャルワークを構成する価値・知識・技術を総合的・包括的に用いる能力（コンピテンシー）の体得を目指し学習していきます。
学修成果到達目標	1．自己洞察し、自己覚知ができる 2．価値観の違いを理解し、他者への理解ができる 3．援助的コミュニケーションの方法を理解し実践できる 4．面接の技法を理解し実践できる 5．記録の方法を知り、支援の展開時に活用できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%）	□筆記試験　□レポート　■制作物 ■口述　□実習　■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、資料を配布します
参考書	必要に応じて指示する。 一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟編集『ソーシャルワーク演習（共通科目）』 一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規
課題に対するフィードバックの方法	提出物（振り返りシートやレポート）については確認後、口頭で解説しながらまたはコメントをつけて返却する。
留意事項	本科目は、演習科目です。講義→演習→振り返り(気づき）→気づきの共有→講義のサイクルとなっています。 自己の特性を理解し、取り組んでください。
オフィスアワー	授業後及び研究室在室中に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格を所持 高齢者施設、児童福祉施設に勤務経験がある

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ソーシャルワーク演習とは	（学修内容）本授業の目標及びねらいが理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく 事後：自分の長所と短所を整理しておく
第2回	自己覚知①自己覚知の意義と自分イメージ	（学修内容）自分のイメージをワークを通して理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の長所と短所を整理しておく 事後：ワークの振り返りをする
第3回	自己覚知②ライフヒストリーと自分を取り巻く環境	（学修内容）自分の過去と現在の状況を図示し自己理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：ワークの振り返りをする 事後：大切な人へ手紙を書く
第4回	他者理解①価値観、コンセンサス	（学修内容）価値観の理解をし価値の尊重と衝突を知り、他者理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前；大切な人へ手紙を書く 事後：社会福祉士の倫理綱領を読む
第5回	個人の価値と専門職の価値	（学修内容）個人の価値観を理解し、社会福祉士としての価値を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉士の倫理綱領を読む 事後：ソーシャルワークの理念を書き出す
第6回	援助的コミュニケーション①非言語コミュニケーション（信頼される態度）	（学修内容）非言語コミュニケーションとは何かを理解し、専門職としての態度・姿勢を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワークの理念を書き出す 事後：自分の特性を理解し、他者と関わるときに意識し実践する
第7回	援助的コミュニケーション②言語コミュニケーション	（学修内容）言語コミュニケーションを理解し、ストレングスの視点について演習を通して理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の特性を理解し、他者と関わるときに意識し実践する 事後：コミュニケーション技法の整理をする
第8回	面接技法～面接の構造化・質問技法	（学修内容）面接時の対象者に合わせた適切な構造及び質問の方法について演習を通して学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：コミュニケーション技法を整理しておく 事後：面接技法を整理しておく
第9回	記録の方法①図式（ジェノグラム・エコマップ・ソシオグラム）	（学修内容）記録の方法を理解し、実際に図式の記録方法を書いてみることにより、書き方を習得する （事前事後学修課題の内容） 事前：面接技法を整理しておく 事後：配布された事例（実習生の関わり）を読んでおく
第10回	記録の方法②プロセスレコード	（学修内容）専門職としての実践したことの振り返りの記録方法について、実際に書いてみることにより書き方と支援内容の考察方法を習得する （事前事後学修課題の内容） 事前：配布された事例（実習生の関わり）を読んでおく 事後：他者のプロセスレコードを読む
第11回	評価技法	（学修内容）評価の意義と様々な方法を知り、実際に演習で評価を行い、評価技法の理解し、支援計画の目標設定、実践方法や内容との繋がりを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：他者のプロセスレコードを読む 事後：配布された事例（アルコール依存症）を読んでおく
第12回	人と環境の相互作用①バイオ・サイコ・ソーシャル・スピリチュアルモデル	（学修内容）事例を通してグループワークを通してで人と環境の相互作用について、全人的理解する視点を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：配布された事例（アルコール依存症）を読んでおく 事後：ＩＣＦとは何か復習しておく
第13回	人と環境の相互作用①ＩＣＦ	（学修内容）第12回の事例をＩＣＦの視点で、検討し課題及びアセスの方法の方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ＩＣＦとは何か復習しておく 事後：バイスティックの7原則を復習しておく
第14回	ケースワークの展開方法の基礎	（学修内容）ケースワークの基本的視点と方法をロールプレイを行い実践的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：バイスティックの7原則を復習しておく 事後：乳児の母親の子育ての悩みを調べておく
第15回	グループワークの展開方法の基礎	（学修内容）グループワークの方法と集団規範の形成についてロールプレイを行い実践的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：乳児の母親の子育ての悩みを調べておく 事後：ソーシャルワーク演習Ⅱに向けて、専門用語の整理をする

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3737
英文名	Social Work PracticeⅢ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	ソーシャルワーク現場実習での事例に関して、事例検討や事例研究を行い、ソーシャルワーカーに求められている地域共生に向けた、複合化・複雑化した課題を受けとめ、多職種協働による包括的相談支援体制が身につくよう、その意義や方法が具体的に理解できるように進めていきます。ソーシャル機能が発揮できるよう体験的にスーパービジョンを受け、学生自身の理解が深められるようにし、専門職としてのソーシャルワーク実践力が確かなものになるようしていきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合ができる 2．ソーシャルワークの価値規範を理解できる 3．ソーシャルワークの倫理的判断能力が養われる 4．支援を必要な人の総合的かつ包括的な支援について理解できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜、資料を配布します
参考書	適宜紹介します
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントをつけて返却します。
留意事項	リーダーシップ、オーナーシップ、メンバーシップが必要となります．役割を意識し、受講してください。 教科書については、ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴでも使用します。 本授業の事例は、教科書には掲載されていない事例をもとに教科書の展開方法を参考に学習します。 教科書は、ソーシャルワーク演習Ⅳ・ソーシャルワーク演習Ⅴの授業も使用します。
オフィスアワー	講義終了時及び研究室に在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅲ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）本授業について到達目標及び授業の流れを理解し、予習復習課題の見通しをもち取り組めるよう取り扱い事例の概説をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：実習で使用したアセスメントシートのデータ化をする 事後：アセスメントシートの個人情報の確認をする
第2回	課題別ソーシャルワークの展開①事例の作成	（学修内容）事例作成を通してソーシャルワークの構成要素を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：事例に必要な知識（理論・モデル・アプローチ）を調べる 事後：介護保健制度の整理をする
第3回	課題別ソーシャルワークの展開：高齢者分野における職種間の協働・連携方法①事例検討	（学修内容）事例を通して高齢者施設における協働するためのソーシャルワーカーの役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：介護保健制度の整理をする 事後：介護老人保健施設と介護老人福祉施設の違いを整理する
第4回	課題別ソーシャルワークの展開：高齢者分野における職種間の協働・連携方法②アセスメント・支援計画の立案	（学修内容）高齢者施設における地域支援・アウトリーチの方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：介護老人保健施設と介護老人福祉施設の違いを整理する 事後：住んでいる地域の地域福祉計画と関連計画を整理する
第5回	課題別ソーシャルワークの展開：高齢者施設におけるメゾレベルの展開方法①地域アセスメントの方法	（学修内容）住んでいる地域の地域福祉計画と関連計画との関係を理解し、地域アセスメントの方法を知る （事前事後学修課題の内容） 事前：住んでいる地域の地域福祉計画と関連計画を整理する 事後：地域における高齢者に活用できる社会資源を調べる
第6回	課題別ソーシャルワークの展開：高齢者施設におけるメゾレベルの展開方法②地域支援・アウトリーチの方法	（学修内容）高齢者施設における地域支援・アウトリーチの展開方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：地域における高齢者に活用できる社会資源を調べる 事後：高等学校で実施されている就労支援を調べる
第7回	課題別ソーシャルワークの展開；障害者分野における就労支援①関連機関との連携	（学修内容）児童期から成人期に向けての社会資源の活用と連携方法について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：高等学校で実施されている就労支援を調べる 事後：成年後見制度、日常生活自立支援事業について整理する
第8回	課題別ソーシャルワークの展開；障害者分野における就労支援②法制度の活用方法（家庭裁判所を含）	（学修内容）就労支援と生活支援の24時間支援を具体的にどのように組み立て、制度を活用するかを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：成年後見制度、日常生活自立支援事業について調べる 事後：子育て、ひとり親家庭の支援制度を整理する
第9回	課題別ソーシャルワークの展開：児童福祉分野における支援①子育て支援・ひとり親家庭支援	（学修内容）子育て、ひとり親家庭を地域で支援する方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：子育て、ひとり親家庭の支援制度を整理する 事後：児童虐待に関連する機関を調べ整理する
第10回	課題別ソーシャルワークの展開：児童福祉福祉分野における支援②児童虐待児及び虐待者へのアプローチ	（学修内容）虐待の発見から保護、家族再統合までの支援方法について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：児童虐待に関連する機関を調べ整理する 事後：ホームレス支援に関する法律を調べる
第11回	課題別ソーシャルワークの展開：低所得者福祉分野における支援ーホームレス支援（社会的排除と包摂）	（学修内容）ホームレスに対する施策を活用した支援方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ホームレス支援に関する法律を調べる 事後：在留資格について調べる
第12回	課題別ソーシャルワークの展開：外国人における支援ー日本で生活する外国人	（学修内容）日本で生活する外国人の支援方法について理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：在留資格について調べる 事後：がん患者の日本の現状を調べ整理する
第13回	課題別ソーシャルワークの展開：医療福祉分野における支援ーがん患者へ支援	（学修内容）医療ソーシャルワーカーの医療機関での支援方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：がん患者の日本の現状を調べ整理する 事後：日本における犯罪者の現状とオランダの刑務所いついて調べる
第14回	課題別ソーシャルワークの展開：司法福祉分野における支援ー刑務所出所後の支援	（学修内容）社会的孤立をつくらない、社会資源の活用・調整・開発について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：日本における犯罪者の現状とオランダの刑務所について調べる 事後：不登校の現状を調べる
第15回	課題別ソーシャルワークの展開：教育福祉分野における支援ー不登校への支援	（学修内容）不登校への支援とスクールソーシャルワーカーの役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：不登校の現状を調べる 事後：15回の授業で出てきた用語、法令を整理する

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅴ	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC4798
英文名	Social Work Practice Ⅴ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	本科目は、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅳ」の継続科目です。 「ソーシャルワーク論」の知識ベースに授業を行います。ソーシャルワーカーに求められる実践に必要な知識と技術を統合し、専門職として概念化や理論化し体系立てていけるよう、様々な教科学習での知識・技術を駆使し演習課題に取り組んでいきます。（グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング）一人一人のクライエントへの支援だけではなくクライエントを取り巻くシステムへの働きかけ（ミクロからマクロ領域）へと実践に還元できるように学習を進めていきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク実践の過程について、様々な演習方法を通じて理解と習得ができる。 2．生活者の理解と横断的・総合的・包括的支援の方法を理解できる。 3．地域課題や対象者の生活課題が理解でき、実践的技術が習得できる。 4．対象者のニーズに対して必要な環境調整や社会資源の活用等の援助計画の立案について理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	「ソーシャルワーク演習Ⅳ」で使用したテキストを引き続き使用します。 必要に応じて、資料を配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	提出物の返却時にコメントを入れて返却するもしくは、口頭でフィードバックをします。
留意事項	授業内容に応じてフィールドワークや見学へ学外へ行く場合があります。現地までの交通費は実費となります。 また、時間割を変更し実施する場合があります。 関連科目の知識が必要となります。社会福祉士養成カリキュラムの科目については、復習をして授業に臨んでください。
オフィスアワー	授業終了時及び研究室在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅴ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・プレゼンテーション提案型	（学修内容）本講義の内容及び目標について理解する　プレゼンテーションの提案型を実施する （事前事後学修課題の内容） 事前：プレゼンテーションの準備 事後：ＤＷＡＴ・ＤＭＯＴについて調べる
第2回	災害支援における社会福祉士の役割①社会福祉法人・ＤＷＡＴ・ＤＭＯＴの活動	（学修内容）社会福祉法人・ＤＷＡＴ・日本ＤＭＯＴの活動について、理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉法人・ＤＷＡＴ・ＤＭＯＴについて調べる 事後：最近発生した近隣の災害について調べる
第3回	災害支援における社会福祉士の役割②災害時の地域課題　フィールドワーク	（学修内容）フィールドワークを通して地域の災害時の課題を抽出する （事前事後学修課題の内容） 事前：最近発生した近隣の災害について調べる 事後：フィールドワークの記録をする
第4回	災害支援における社会福祉士の役割③フィールドワーク	（学修内容）フィールドワークを通して地域の災害時の現状、対象者に合わせた支援の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前事後：フィールドワークの記録をする
第5回	災害支援における社会福祉士の役割④地域課題の抽出	（学修内容）フィールド調査の結果から地域の災害時の課題を抽出する。多様な住民に立脚し検討する （事前事後学修課題の内容） 事前：フィールドワークの記録をする 事後：教員からのスーパーバイズを取り入れ発表の準備をする
第6回	災害支援における社会福祉士の役割⑤地域住民の役割	（学修内容）身近な共生社会への取り組みについてグループワークを通して整理し学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：教員からのスーパーバイズを取り入れ発表の準備をする 事後：立場の違う人の意見を取り入れ課題の見直しをする
第7回	共生社会に向けての取り組み	（学修内容）ロールプレイを通して、地域共生社会の取り組みについて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：立場の違う人の意見を取り入れ課題の見直しをする 事後：医学概論・心理学と心理的支援・高齢者福祉の復習をする
第8回	社会福祉士と実践学問との繋がり①会福祉士国家試験問題より（医学概論・心理学と心理的支援・高齢者福祉）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりについて、医学概論・心理学と心理的支援・高齢者福祉を中心に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：医学概論・心理学と心理的支援・高齢者福祉の復習をする 事後：社会学と社会システム・社会福祉の原理と政策・社会調査の復習
第9回	社会福祉士と実践学問との繋がり②社会福祉士国家試験問題より（社会学と社会システム・社会福祉の原理と政策・社会調査）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりについて、社会学と社会システム・社会福祉の原理と政策・社会調査を中心に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会学と社会システム・社会福祉の原理と政策・社会調査の復習 事後：現代社会と福祉・福祉サービスの組織と経営について整理する
第10回	社会福祉士と実践学問との繋がり③会福祉士国家試験問題より（現代社会と福祉・福祉サービスの組織と経営）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりについて現代社会と福祉・福祉サービスの組織と経営に関連付けて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：現代社会と福祉・福祉サービスの組織と経営について整理する 事後：社会保障・保健医療サービスについて整理する
第11回	社会福祉士と実践学問との繋がり①社会福祉士試験試験問題より（社会保障・保健医療サービス）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりについて、社会保障・保健医療サービス制度や仕組みと繋げて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会保障・保健医療サービスについて整理する 事後：地域福祉と包括的支援体制・刑事司法と福祉について整理する
第12回	社会福祉士と実践学問との繋がり②社会福祉士国家試験問題より（地域福祉と包括的支援体制・刑事司法と福祉）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりについて、地域福祉と包括的支援体制・刑事司法と福祉の学びと繋げて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：域福祉と包括的支援体制・刑事司法と福祉について整理する 事後：権利擁護を支える法制度・障害者福祉を整理する
第13回	社会福祉士と実践学問との繋が③社会福祉士国家問題より（権利擁護を支える法制度・障害者福祉）	（学修内容）障害者総合支援法や後見人制度など関連法令の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：権利擁護を支える法制度・障害者福祉を整理する 事後：貧困に対する支援・児童・家庭福祉整理する
第14回	社会福祉士と実践学問との繋がり④社会福祉士試験試験問題より（貧困に対する支援・児童・家庭福祉）	（学修内容）ひとり親家庭への支援や子育て家庭への支援の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：貧困に対する支援・児童・家庭福祉整理する 事後：ソーシャルワークの理論とアプローチ方法を整理する
第15回	社会福祉士と実践学問との繋がり⑤社会福祉士国家試験問題より（ソーシャルワークの基盤と専門職・ソーシャルワークの理論と方法）	（学修内容）社会福祉士と実践学問との繋がりを事例問題を通して総合的理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワークの理論とアプローチ方法を整理する 事後：分からない用語・法制度の整理をする

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3787
英文名	Guidance on　Social Work Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本授業では、ソーシャルワーク現場実習【60時間】の事後学習ををを通してソーシャルワーク業務や実践に必要な知識・技術を深めていきます。座学で学んだ社会福祉の法律や制度、ソーシャルワーク技術等について、自らの経験を振り返り関連づけて理解していきます．自己課題を明確にし、ソーシャルワーク現場実習【180時間】に向けての準備をします。具体的には、支援計画を立案するためのアセスメントシート、地域の社会資源、統計データ、法令など調べ、実習施設の特性の理解を深めていきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク現場実習の意義について理解できる 2．実習を通じて、大学で学んだ知識、技術を具体的かつ実際的に理解するための実習準備ができる 3．社会福祉の専門職としての自覚を促し、総合的に対応できるの能力を習得する
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配付する
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規、２０２１
課題に対するフィードバックの方法	授業内でのフィードバック及び必要に応じて個別面談を行う
留意事項	準備物をあらかじめ伝えるが、GーMailもしくはCLASSroomを使用する。こまめにチェックをするようにしてください。 連続性のある授業のため、健康管理に留意し、やむを得ず欠席した場合は次の授業までに担当教員に授業内容を確認する様にしてください。 2回生秋学期（7回）と3回生春学期（8回）にかけての連続している科目です。 施設への事前訪問等学外へ行く際の交通費は自己負担となります。
オフィスアワー	講義終了時及び研究室在室時に対応います。また急な質問等についてはメールを活用してください。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：　社会福祉士、介護福祉士、保育士を所持 高齢者施設、児童福祉施設に勤務経験がある

授　業　名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ーシャルワーク現場実習【8日間】の自己評価	（学修内容）本校の授業計画を確認する。ソーシャルワーク現場実習【8日間】の自己評価をする （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく 事後：実習日誌を読みエピソードを整理する
第2回	実習事後学習①体験と感情の整理	（学修内容）ワークシートを用いて実習での体験を整理する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習日誌を読みエピソードを整理する 事後：実習の目標を読みできたことと課題を整理する
第3回	実習事後学習②実習計画に照らし合わせた達成と課題	（学修内容）実習の目標達成と今後の課題について具体的学習計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 事前：実習の目標を読みできたことと課題を整理する 事後：実習時に作成したメモを読み返す
第4回	実習評価を用いた振り返り①（個別指導）	（学修内容）個別面談を受け、自己覚知と及び今後の学習課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：実習時に作成したメモを読み返す。発表の準備をする。 事後：実習日誌の指導を受けた箇所を修正する
第5回	実習評価を用いた振り返り②（個別指導）	（学修内容）個別面談を受け、自己覚知及び今後の学習課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前事後：面談結果を踏まえ、今後の課題を抽出し具体的に今後の取り組みを考える。実習日誌の指導を受けた箇所を修正する。
第6回	実習での学びの共有①60時間実習報告会の準備	（学修内容）実習の学びを他者と共有するため、プレゼンテーションの技術を用い準備をする （事前事後学修課題の内容） 事前：発表の練習をする 事後：発表での気づきのレポート作成
第7回	実習での学びの共有②60時間実習報告会	（学修内容）実習の学びを共有し、他者の実習での学びから学びを深め （事前事後学修課題の内容） 事前：学習課題の整理し、レポート作成をする 事後：学習計画を立てる
第8回	実習施設・機関の情報収集①（基本情報・職員に関する情報・利用者に関する情報・社会資源に関する情報・地域に関する情報）	（学修内容）配当された施設について理解を深める。事務手続きをする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の実習日誌を読んでおく 事後：実習施設について調べる（根拠法）
第9回	実習施設・機関の情報収集②（基本情報・職員に関する情報・利用者に関する情報・地域に関する情報・社会資源に関する情報）	（学修内容）配当された施設の環境の理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる（根拠法） 事後：実習施設について調べる（地域特性）
第10回	実習計画の作成・事前訪問	（学修内容）前回の実習の課題及び実習施設の特性を理解し計画計画を立案する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる（地域特性） 事後：実習施設について調べる（地域の社会資源）
第11回	事前訪問と実習計画の修正	（学修内容）教員より個別指導を受け、実習計画を修正する(個別指導） （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる（地域の社会資源） 事後：実習計画を完成する
第12回	支援計画作成方法	（学修内容）支援計画立案の視点を学ぶ（ケアプランとの違いの理解）ケアワークとソーシャルワークの違いを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習計画を完成させる 事後：ＩＣＦについて調べる
第13回	支援計画の作成の実際①アセスメントを行う際のＩＣＦの視点	（学修内容）支援計画におけるＩＣＦの視点を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ＩＣＦについて調べる 事後：実習施設に関するアセスメントシートを探す
第14回	支援計画の作成の実際②アセスメントシート	（学修内容）アセスメントソートについて、実際使用されているシートから配当された施設で活用できるアセスメントシートを作成する　対象者の理解含む （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設に関するアセスメントシートを探す 事後：アセスメントシートの完成をする
第15回	実習直指導・実習壮行会	（学修内容）実習に向けて諸注意（訪問指導の受け方含む）及び実習に向けての最終確認を行う （事前事後学修課題の内容） 事前：アセスメントシートの完成をする 事後：実習に必要な事項の準備をする

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3736
英文名	Guidance on　Social Work Ⅲ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	ソーシャルワーク現場実習【180時間】について、実習で得た具体的な体験や支援活動を専門的支援技術として概念化し、理論化し体系立てて行くことができる総合的な能力が滋養できるよう学習を進めていきます。具体的には、①実習での体験を言語化し、報告書としてまとめる②実習で作成した支援計画をてブラッシュアップし支援計画に必要な価値・知識・技術を理解しかつミクロ・メゾ・マクロレベルの支援について理解を深める③実習での体験を整理し、報告会を実施し、社会福祉士に求められる課題把握や総合的な力について理解を深めるの3点を学習していきます。
学修成果到達目標	①実習体験や記録を踏まえ課題の整理ができる ②実習総括のレポート作成ができる ③実習体験をソーシャルワークの概念や理論と結びつけることができる ④社会福祉士として自己の課題が明確にすることができる ⑤社会福祉士としてのプレゼンテーションの技術が身につく
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜資料を配付します。
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習（社会専門）』 中央法規、2021
課題に対するフィードバックの方法	返却時及び授業時間内にコメントを入れるもしくは口頭でフィードバックします。 実習評価表に基づき、個別面談をします。
留意事項	個人情報を取り扱うことになります。細心の注意と協力者への感謝を忘れずに取り組んでください。
オフィスアワー	授業後及び研究室に在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉士、介護福祉士、保育士資格を所持している 高齢者福祉施設および児童福祉施設で勤務経験がある。

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）本授業の到達目標と全体の流れを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読む 事後：実習日誌の読み返しをする
第2回	実習の振り返り①利用者理解	（学修内容）実習での印象に残っているエピソードからソーシャルワークの必要な支援について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習日誌の読み返しをする 事後：日誌内の個人情報の確認をし、倫理的配慮を行う
第3回	実習の振り返り②実習施設・機関と機能と機能	（学修内容）実習施設・機関の機能と役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：日誌内の個人情報の確認し、倫理的配慮を行う 事後：施設の資料の整理をする
第4回	実習の振り返り③ソーシャルワークの価値・知識・技術	（学修内容）実習施設で実施されていた具体的事例からソーシャルワークの価値・知識・技術を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：施設の資料を整理する 事後：実習の振り返り、活用したアプローチ、理論を整理する
第5回	実習報告書の作成①実習プログラムから社会福祉士のアプローチ方法を抽出	（学修内容）報告書の作成方法を理解し、実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理及びプログラムから実習での実践アプローチを照らし合わせ理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習の振り返り、活用したアプローチ、理論を整理する 事後：実習報告書の作成をする（実習施設の概要）
第6回	実習報告書の作成②個別指導①	（学修内容）実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理をする。体験の言語化、使用する専門用語の確認をしながら理解をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告書の作成をする（実習施設の概要） 事後：実習報告書の作成をする（実習プログラム）
第7回	実習報告書の作成③個別指導②（実習施設の概要）	（学修内容）実習体験を社会福祉士の専門援助技術として概念化・理論化し体系立てて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告書の作成をする（実習プログラム） 事後：実習報告書の作成をする（アセスメントと支援計画）
第8回	実習報告書の作成④個別指導③（実習プログラム）	（学修内容）個別指導を受け、報告書を完成させる　誤字脱字・倫理的配慮を相互チェックする （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告書の作成をする（アセスメントと支援計画） 事後：実習報告書の作成をする（社会福祉士の価値・知識・技術）
第9回	支援計画①アセスメントと支援計画	（学修内容）支援計画立案の立案方法と留意点について、具体的事例から理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告書の作成をする（アセスメントと支援計画） 事後：実習報告書の作成をする（社会福祉士の価値・知識・技術）
第10回	支援計画②社会資源の活用・開発	（学修内容）地域とのつながりと社会資源の活用・開発について、実際的理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：アセスメントシートの整理をする 事後：社会資源の整理をする
第11回	実習報告会の準備①資料作成	（学修内容）実習報告会のプレゼンテーション・配付資料の作成をする （事前事後学修課題の内容） 事前：社会資源の整理をする 事後：実習報告書を読む
第12回	実習報告会の準備②プレゼンテーションスキル	（学修内容）実習報告会のリハーサルを行いプレゼンテーション・スキルを身につける （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告書を読む 事後：パワーポイント、配付資料の作成をする
第13回	実習報告会の準備③運営方法	（学修内容）実習報告会における報告と運営方法について実際に行い理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：パワーポイント、配付資料の作成をする 事後：実習報告会のプレゼンテーションの練習をする
第14回	実習報告会①高齢者施設	（学修内容）実習報告会における報告と運営方法について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告会のプレゼンテーションの練習をする 事後：質疑内容の整理と調べる
第15回	実習報告会②障害者施設・児童福祉施設	（学修内容）実習報告内容と質疑応答結果について検討し、課題の整理する 事例を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：質疑内容の整理と調べる 事後：配付資料の整理をする

授業名	児童サービス論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2717
英文名	Theory of Child Services	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	杉岡　和弘	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務である。子どもは、生涯続く図書館利用者だからです。知識を得るだけでなく、業務の実際を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成をめざします。 子どもの図書館にとって、1. 子どもを知ること、2. 子どもの本を知ること、3. 子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。
学修成果到達目標	1）公共図書館における児童サービスの役割を生涯学習者形成の観点から理解できること。 2）児童図書館員の役割を主眼に、講義中の各テーマについて自分の視点に沿って意見を論述できること。 3）グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１５分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ レポートの完成度 ）■（ グループ討議の積極性 ）

テキスト	使用しない（Google Classroomで授業スライドなどPDF配布）。
参考書	堀川照代編著,『児童サービス論』,日本図書館協会,2014,ISBN9784820413158 日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編,『児童図書館サービス１・２』,日本図書館協会,2011,ISBN9784820411062,ISBN9784820411079 杉岡和弘著,『子ども図書館をつくる』（図書館の現場 ; 4）, 2005,勁草書房.ISBN9784326098309
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。 コメントシートの記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。
留意事項	授業は、学んだことをグループ討議を通して学習していく。また、グループ学習の報告・課題のレポート提出・小テストが学習システムで求められる。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。課題・小テストは、随時与えられるので、心構えしてほしい。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：香寺町立図書館における館長、姫路市立図書館における司書の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説します。

授業名	児童サービス論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション	（学修内容）授業の概要や課題、学習方法を説明する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。(30分)
第2回	子どもを知る	（学修内容）子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 子どもの成長と読書の関係を、自分の経験をもとに考えておくこと。
第3回	子どもの図書館を知る	（学修内容）子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 課題「図書館見学レポート」が出題されます。
第4回	子どもの本を知る(1)就学前の子ども	（学修内容）就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 書評スリップの課題で、どの図書を選ぶか留意してください。
第5回	子どもの本を知る(2)学童期の子ども	（学修内容）学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 書評スリップの課題で、どの図書を選ぶか留意してください。
第6回	本を選ぶ(1)出版流通と選書会議	（学修内容）児童図書出版状況、選書の実際とその重要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 次週、「書評スリップ」を利用して選書会議をします。
第7回	本を選ぶ(2)選書会議の実際	（学修内容）書評（レビュー）スリップを利用して、グループ討議を通して選書を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 選書会議での他メンバーの意見を書評スリップにまとめておくこと。
第8回	書評を書く	（学修内容）書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、評価することを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 「書評」課題について、締め切り、字数に留意して作成してください。
第9回	ブックリストを作る	（学修内容）子ども向けの文章の違いを学び、子どものためのブックガイドの書き方、ブックリストを作成について考えます。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 グループ討議を参考に、課題について取り組んでください。
第10回	子どもの本を紹介する	（学修内容）公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 本を紹介する技術にはどのようなものがあるか、整理してください。
第11回	子どもの図書館を考える	（学修内容）図書館計画において子どものために留意する点について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 課題「図書館見学レポート」をもとに、グループ討議をします。
第12回	児童室のレイアウトを考える	（学修内容）図書館の中の児童室の書架レイアウトを考えます。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 課題「レイアウトをつくる」を取り組んでください。
第13回	子どもの図書館の運営	（学修内容）ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 特別なニーズに対してどのような資料があるか整理してください。
第14回	子ども読書活動推進計画を考える	（学修内容）児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考える。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 プレゼンテーションで発表できるように準備をしてください。
第15回	おはなし会の実際とグループ発表「子ども読書活動推進計画」	（学修内容）おはなし会の実際について学ぶ。「子ども読書活動推進計画」をグループ発表します。 （事前事後学修課題の内容） 授業レジュメを事前に目を通してください。 他のグループとの相違や類似について整理してください。

授業名	情報サービス演習	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3781
英文名	Information Service Practice	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果 到達目標	1）図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2）情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3）パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ７）、樹村房、2021年
参考書	随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	・レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。(「情報サービス論」あるいは「情報サービス」を履修済みであることが望ましい。) ・講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかり復習すること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	情報サービス演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	（学修内容）情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	（学修内容）情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	（学修内容）さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	（学修内容）Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	（学修内容）図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	（学修内容）雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	（学修内容）新聞の種類、特徴、探し方について学習する。（新聞記事集成については図書館にてレファレンス実習） （事前事後学修課題の内容） テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	（学修内容）言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。（図書館にてレファレンス実習） （事前事後学修課題の内容） テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	（学修内容）歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。（図書館にてレファレンス実習） （事前事後学修課題の内容） テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例の探し方	（学修内容）法令、判例資料の種類、特徴、探し方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト12章1節を読み予習すること。
第12回	特許の探し方	（学修内容）特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト12章2節を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	（学修内容）人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。（図書館にてレファレンス実習） （事前事後学修課題の内容） テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	発信型情報サービス	（学修内容）発信型情報サービス(パスファインダー）の構築する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト15章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表 まとめ	（学修内容）パスファインダー調査成果を発表する。（プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） 各自調査結果の発表準備を行う。

授業名	図書館基礎特論	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3748
英文名	Special Lecture on Library	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	図書館司書課程の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的動向を表すサービスの一つである課題解決支援サービスの在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して考察を深める。
学修成果到達目標	1）図書館サービスに関してテーマを各自で設定し、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2）図書館の課題解決支援サービスが求められる背景と今日的意義について説明することができる。 3）公共図書館で行われている課題解決支援サービスを紹介する資料を作成し、プレゼンテーションを10分間行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。
留意事項	受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な情報を収集し、整理し、資料を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	図書館基礎特論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	公共図書館とは	（学修内容）図書館の定義、公共図書館の意義について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館の定義について調べておくこと。
第3回	公共図書館の今日的課題について	（学修内容）公共図書館の管理運営やサービス内容からみる今日的な課題について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第4回	公共図書館運営の新たな動向について	（学修内容）指定管理者制度等の公共図書館をめぐる新たな動向について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスを考える	（学修内容）地域住民に奉仕する公共図書館のサービスの在り方について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に出向き、図書館サービスの内容を確認すること。
第6回	レファレンスサービスについて	（学修内容）図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。
第7回	課題解決支援サービスについて	（学修内容）ビジネス支援サービス等の課題解決支援サービスの意義と課題について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に出向き、課題解決支援サービスの内容を調べておくこと。
第8回	レファレンス協同データベースについて	（学修内容）レファレンス協同データベースの意義について考察する。データベースを用いてレファレンスサービスの具体的事例を検索する。 （事前事後学修課題の内容） 検索したいテーマを考えておくこと。
第9回	サードプレイスについて	（学修内容）公共図書館に求められる役割として注目されるサードプレイスの概念について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第10回	ラーニングコモンズについて	（学修内容）ラーニングコモンズが求められる背景とその内容について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第11回	図書館建築の動向（吹き抜け等）	（学修内容）図書館建築に見られる吹き抜け等について、その意義と課題について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第12回	図書館資料の探索と活用	（学修内容）図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。
第13回	発表資料作成	（学修内容）図書館サービスを紹介する資料を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館で関連する資料を収集する。
第14回	発表	（学修内容）各自で調べた図書館サービスの内容を発表する。 （事前事後学修課題の内容） 発表資料を完成させておく。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、レポートを作成する。 （事前事後学修課題の内容） これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。

授業名	保育実習指導Ｉｕｂ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training I	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子・山川　宏和・近本　佳子・芹澤　出	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	演習形式の授業を通して、保育実習を円滑にすすめていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化する。施設実習の事後指導としては、実習の評価をみながら、各自の課題を見つけ、新たな学習目標を明確化させていく。保育所実習の事前指導としては、講義で保育士の役割、保育実習の意義、目的、内容について伝えていく。また、設定保育の指導案の立て方の解説を行ったうえで、指導案の立案から実施、振り返りまでを体験する。こうした取り組みをとおして、保育所実習の目標を具体的にしていく。実習日誌の記述方法や、目標設定について、グループワークを行う。
学修成果到達目標	1）施設実習の振り返りを行い、保育所実習に生かすことができる。 2）保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨むことができる。 3）人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解できる。 4）実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業でプリントを配布する。
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	施設実習の振り返り、保育所実習の目標、設定保育の指導案など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習Ｉの単位が取得できることを条件とする。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 母子生活支援施設長、京都市内保育園勤務勤務の担当者がこれまでの経験を活かして保育現場の実情などを含めて実践的教育を行う。

授業名	保育実習指導Ｉｕｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	施設実習の振り返りと今後の実習について	（学修内容）施設実習を振り返り、保育所実習の課題を考える （事前事後学修課題の内容） 施設実習について振り返る
第2回	施設実習報告会	（学修内容）施設実習での体験を発表する （事前事後学修課題の内容） 施設実習での体験をまとめておく
第3回	指導案の立て方	（学修内容）指導案の立て方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指導案についてイメージをつくってくる
第4回	指導案の立て方の実際	（学修内容）指導案の展開を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指導案についてイメージをつくってくる
第5回	施設実習事後面談	（学修内容）個人面談を実施する （事前事後学修課題の内容） 施設実習を振り返る 指導案を立案する
第6回	施設実習からの課題抽出	（学修内容）施設実習を経て自らの課題を抽出する （事前事後学修課題の内容） 施設実習の学んだことをまとめる
第7回	保育士倫理綱領、実習目標の立て方	（学修内容）保育士倫理綱領と実習目標の立て方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 保育士倫理綱領を読んでくる
第8回	保育所実習記録の書き方　実習目標の再検討	（学修内容）実習記録の書き方を解説する （事前事後学修課題の内容） 実習目標を立ててくる
第9回	設定保育とその記録①　製作活動	（学修内容）小グループで指導案を実施する （事前事後学修課題の内容） 指導案が実施できるように準備する 実習目標を立て直してくる
第10回	設定保育とその記録②　からだを使った遊び	（学修内容）小グループで指導案を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する
第11回	設定保育のふり返りと保育所実習の課題	（学修内容）設定保育のふり返りをして保育所での実習の課題を明らかにする （事前事後学修課題の内容） 設定保育の実践を思いだしておく
第12回	保育所にむけての面談	（学修内容）個人面談を実施する （事前事後学修課題の内容） 保育所での自分の課題を考えるための資料を集める
第13回	課題に基づいた事前学習設定	（学修内容）自分の課題に基づいて事前学習する （事前事後学修課題の内容） 保育所実習の事前学習課題を実施する
第14回	よりよい保育所実習に向けて	（学修内容）保育所実習に向けての期待や不安を交流する （事前事後学修課題の内容） 保育所実習の実施を具体的に想像しておく
第15回	保育所実習直前指導	（学修内容）保育所実習の諸注意を確認する （事前事後学修課題の内容） 提出書類に必要なものを用意する

授業名	生活科学実験	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3792
英文名	Experiments of Life Science	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	豊原　容子（Ｒ６～）	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	近年の生産・加工技術の進歩や流通の変化等によって、私たちは日常生活において多様な食品を手に入れることが出来るようになりました。多様な食品にアクセスできることは、私たちの食のニーズや好みを満たし、生活の豊かさにつながっています。その一方で、生産・加工や流通のプロセスが複雑化することにより、私たちは普段手に取る食品がどの様に作られているいるのかを判断し難くなってきています。 本実験では身近な食品を取り上げ、実験を行い、食品の特性について理解するとともに、食品を分析して考察する力を養うことを目標としています。講義で学んだ事項について、実験実習をとおして原理や方法を確認するとともに、データ分析などを行うことにより、科学的な視点で考察を深めていきます。
学修成果到達目標	１）科学的な視点で分析することができる。 ２）食品の特性についての正しい知識を身につける。 ３）日常使用する食品の問題点に気づくことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２０分）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	毎回プリントを配布します。
参考書	『基礎からの食品・栄養学実験』（ISBN-13: 978-4767904993）
課題に対するフィードバックの方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。
留意事項	実験方法について予習をしておくこと。講義のあと、グループで実験を行う。 実験後、レポートを作成して次回に提出する。
オフィスアワー	初回の実験で指示します。
実践的教育	

授　業　名	生活科学実験

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテ―ション	（学修内容）グループによる実験・実習を行う上での安全上の留意点や実験器具等の使用時の注意事項について　暮らしにある食の科学について考える （事前事後学修課題の内容） 生活の中でどの様に食べものが加工、調理、保存、消費されているかを意識すること
第2回	実験の基礎	（学修内容）実験の基本操作（計量、測定値の扱い方）、レポートのまとめ方などを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 配布プリントを読んでおく
第3回	調理科学実験１：野菜	（学修内容）野菜の色と加熱に伴う変化について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第4回	調理科学実験２：砂糖	（学修内容）砂糖の加熱による変化について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第5回	調理科学実験３：卵	（学修内容）卵の特性についてついて考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第6回	調理科学実験４：小麦	（学修内容）小麦の特性について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第7回	食品の安全・衛生に関する実験１：水質検査	（学修内容）水の基礎的性情や遊離残留塩素などの測定をとおして衛生的な水の管理について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第8回	食品の安全・衛生に関する実験２：細菌検査	（学修内容）一般細菌数の測定をとおして食中毒の発生について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第9回	食品の安全・衛生に関する実験３：食品添加物	（学修内容）よく用いられている食品添加物の特徴と使用状況について （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第10回	食品加工実験１：食肉	（学修内容）ソーセージの製造をとおして肉の加工について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第11回	食品加工実験２：大豆	（学修内容）豆腐の製造をとおして大豆の加工について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第12回	食品加工実験３：乳	（学修内容）チーズの製造をとおして乳の加工について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第13回	食品学実験１：テクスチャー測定	（学修内容）寒天とゼラチンのテクスチャーの違いについて考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第14回	食品学実験２：官能評価法	（学修内容）官能検査の種類と方法から味覚について考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく
第15回	食品学実験３：塩分濃度測定	（学修内容）身近な食品（みそ汁等）の塩分濃度の違いについて考える （事前事後学修課題の内容） 実験方法等について予習しておく

授業名	食品鑑別論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3760
英文名	Theory of Food Discrimination	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	フードスペシャリストは食品の特性についての深い知識を持つとともに品質を見抜く力が必要である。食品の品質を判定するためには対象である食品の化学的および物理的性質だけでなくその評価法についても理解しておかなければならない。本講義では、これら個々の食品の品質に関する基礎知識について適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら学んでいく。
学修成果到達目標	1）食品鑑別の意義や目的について理解することができる 2）食品の成分と品質の関わりについて理解することができる 3）食品の鑑別を正しく行うことができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編（建帛社）
参考書	食品学で使用したテキスト
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題、小テストについては確認後返却する
留意事項	テキストは食品の官能評価演習にも使用する
オフィスアワー	初回授業時に連絡します。
実践的教育	

授業名	食品鑑別論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の品質について	（学修内容）食品に求められる特性と品質について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第2回	穀類の鑑別①米	（学修内容）米の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第3回	穀類の鑑別②小麦	（学修内容）小麦およびその他の穀類の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第4回	イモ類、豆類の鑑別	（学修内容）イモ類、豆類の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第5回	野菜類の鑑別	（学修内容）緑黄色野菜と淡色野菜の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと 自宅の野菜の保存方法について調べておくこと
第6回	果物類、海藻類、キノコ類の鑑別	（学修内容）果物類、海藻類、キノコ類の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第7回	植物性食品の品質変化	（学修内容）保存に伴う萎凋、加工に伴う色素変化、乾燥、追熟などによる品質の変化などについて （事前事後学修課題の内容） 植物性食品の鑑別についてまとめておくこと
第8回	魚介類の鑑別	（学修内容）魚介類の種類と成分の季節変動および品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第9回	肉類の鑑別	（学修内容）肉類の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第10回	卵とその加工品の鑑別	（学修内容）卵とその加工品の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第11回	乳・乳製品の鑑別	（学修内容）乳・乳製品の種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第12回	油脂の鑑別	（学修内容）油脂の種類および分類方法および品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第13回	酒類の鑑別	（学修内容）酒の種類と主な生産地および品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する
第14回	茶類、各種飲料の鑑別	（学修内容）茶類およびコーヒー、ココア、清涼飲料水の種類と主な産地および品質評価について （事前事後学修課題の内容） ミネラルウォーター類等の表示を見ておくこと
第15回	醸造食品・調味料の鑑別	（学修内容）醸造食品、調味料、香辛料、加工食品、機能性食品などの種類と品質評価について （事前事後学修課題の内容） 教科書関連ページを読んでおくこと ページ数は毎回指示する

授業名	フードスペシャリスト論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3791
英文名	Theory of Food Coordination	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	豊原　容子（Ｒ６～）	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	流通・販売分野においてフードスペシャリストが担っている専門的役割を明確にしていく。また、フードスペシャリストとして食品の品質評価判定や情報の提供など専門的な仕事に取り組むために必要な知識・技術について学んでいく。
学修成果到達目標	1）フードスペシャリストの職責について理解できる 2）食の専門家として必要な知識と技術について理解できる 3）食の情報を正しく取捨選択することができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	日本フードスペシャリスト協会　著・編　『四訂フードスペシャリスト論第７版』（建帛社） 日本フードスペシャリスト協会　著・編　『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』2025年版（建帛社）
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	予習で解いてきた過去問について時間内で解答・解説を行い、理解度を確認する
留意事項	資格認定試験過去問題を解き、これまでに学習したフードスペシャリスト必修科目の復習も同時におこなう。各教科のテキストの用意をしておくこと。
オフィスアワー	授業後に質問の時間をとります。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	フードスペシャリスト論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フードスペシャリストとは	（学修内容）フードスペシャリストの概念について学ぶ （事前事後学修課題の内容） フードスペシャリストの資格科目の教科書・ノートを見直しておく
第2回	フードスペシャリストの社会における責務	（学修内容）フードスペシャリストの業務内容、活躍分野について学び、社会においてフードスペシャリストが果たすべき責務について考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p1-28を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第3回	人類のあゆみと食物	（学修内容）人類の食物調達の変化について学び、現代社会の食物調達の問題点などについて考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p28-43を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第4回	世界の食①食作法、タブーについて	（学修内容）世界の食作法、タブーについて学び、食のグローバル化の中で自身がどのように行動すべきかについて考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p46-52を読んでおく「フードコーディネート論」の復習をして過去問を解いておく
第5回	世界の食②ヨーロッパ・アジアの食事情	（学修内容）ユーラシア大陸各国の食の現状について学び、自らの食生活への影響について考える （事前事後学修課題の内容） 世界の食糧事情について調べておく、「フードコーディネート論」の過去問を解いておく
第6回	世界の食③アメリカ大陸・アフリカの食事情	（学修内容）南北アメリカとアフリカ大陸各国の食の現状について学び、自らの食生活への影響について考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p55-62を読んでおく、「栄養と健康」の復習をして過去問を解いておく
第7回	日本の食の変化①縄文時代から鎌倉時代の食	（学修内容）日本の古代から中世の食について学び、食の伝統について考えていく （事前事後学修課題の内容） 教科書p63-69を読んでおく、「栄養と健康」の過去問を解いておく
第8回	日本の食の変化②江戸、明治・大正の食	（学修内容）日本の近世から近代の食について学び、食の伝統について考えていく （事前事後学修課題の内容） 教科書69-73を読んでおく、「食物学」の過去問を解いておく
第9回	日本の食の変化③戦後から現代の食	（学修内容）日本の戦後から現代までの食の変化について学び、伝統食について考えていく （事前事後学修課題の内容） 教科書p80-89を読んでおく、「食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第10回	現代の食の問題点について	（学修内容）現代社会が抱える食の問題について学び、自らの食生活の問題について考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p90-103を読んでおく、食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第11回	食品産業の変遷と役割	（学修内容）我々の食生活を支えている食品産業について体系的に学び、今後の日本の食料供給について考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p104-123を読んでおく、「食品流通・消費」の復習をして過去問を解いておく
第12回	食品の品質規格と表示①JAS法、食品表示法	（学修内容）食品表示の重要性と法制度について学び、具体的な表示の内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書p124-155を読んでおく、「食品流通・消費」の過去問を解いておく
第13回	食品の品質規格と表示②保健機能食品, 表示に関する法律	（学修内容）特別用途食品と保健機能食品の分類、そのほかの法律による表示について理解する （事前事後学修課題の内容） 教科書p156-172を読んでおく、「食品の安全性」の教科書を読みなおして過去問を解いておく
第14回	食情報の信頼性	（学修内容）食情報の取捨選択について考える （事前事後学修課題の内容） 教科書p174-189を読んでおく、「食品の安全性」の過去問を解いておく
第15回	フードスペシャリストとして必要な知識と姿勢について	（学修内容）これまでの学びの総復習を行うとともに、フードスペシャリストとしてどのような姿勢で食生活に取り組むかについて考える （事前事後学修課題の内容） これまでの復習を行うとともにこれからのあるべき食生活について考えておく

授業名	権利擁護の実際	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4739
英文名	Actual Conditions of Advocacy	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	なぜ権利擁護が必要となるのか？この「なぜ」について、現代日本における「権利擁護」の法的基盤を基軸として、その意義や実際について学ぶことを目的とする。学びの柱としては以下の五点に分けることができる。 ① 日本国憲法に見る人権を基軸として、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ② 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③ 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④ 権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。
学修成果到達目標	①ソーシャルワークにおける権利擁護の実際について理解できる。 ②権利擁護に関する法的根拠を理解し、重要な概念や用語について理解できる。 ③障害者や高齢者への意思決定支援のあり方について、「最善の方法」へと導く知識や技術を身につける。 ④ソーシャルワーカーとして適切な表現を身につけ、授業でのプレゼンテーションを通じて適切な表現について学ぶ。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『権利擁護を支える法制度（第2版）』中央法規出版
参考書	『社会福祉小六法』については購入することが望ましい。（出版社は問いません。） 随時参考となる図書については紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーなどの提出物には、コメントを付して返却する。
留意事項	テキスト履修となるので、必ず指定のテキストを購入するようにして下さい。
オフィスアワー	講義初回時に説明を行う。 基本的に学内G-mailにて随時対応を行います。
実践的教育	

授業名	権利擁護の実際

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～講義の進め方・成績評価の方法・参加度～	（学修内容）本講の進め方について説明し、「権利擁護」を学ぶ意味についてワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキスト「はじめに」を読み本書の構成を理解しておく。 事後：ワークで話した内容をまとめる。
第2回	ソーシャルワークと法制度① ～権利擁護に関する法制度～	（学修内容）権利擁護に関する法制度について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.2-8を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語の整理をし、まとめる。
第3回	ソーシャルワークと法制度② ～憲法の役割とその概要～	（学修内容）日本国憲法における権利擁護や人権との関連性について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.9-20を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語の整理をし、まとめる。
第4回	ソーシャルワークと法制度③ ～民法と行政法の役割とその概要～	（学修内容）民法にみる人権と行政活動についてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.21-44を読み、専門用語を抽出する。 事後：グループからの発表に基づきレポートにまとめる。
第5回	法の基礎知識と法の解釈	（学修内容）法の基礎知識と法の解釈について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.45-68を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第6回	権利擁護の意義と支える仕組み① ～権利擁護の意義とソーシャルワーク～	（学修内容）ソーシャルワークにおける権利擁護の意義について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.70-78を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第7回	権利擁護の意義と支える仕組み② ～福祉サービスの適切な利用と苦情解決～	（学修内容）福祉サービスの利用とそのために生じる苦情の解決について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.79-92を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第8回	権利擁護の意義と支える仕組み③ ～虐待・暴力防止関係法の概要～	（学修内容）児童、高齢者、障害者に関する虐待防止法等についてディスカッションを通して、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.93-108を読み、問題意識を形成しておく。 事後：発表の内容についてまとめる。
第9回	権利擁護に関わる組織、団体、専門職	（学修内容）自治体、家庭裁判所、社会福祉協議会、弁護士などの役割について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.156-190を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第10回	意思決定支援と権利擁護① ～意思決定支援ガイドラインについて～	（学修内容）意思決定支援ガイドラインについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.110-133を読み、各自治体のＨＰを検索しておく。 事後：各自治体の特徴をまとめる。
第11回	意思決定支援と権利擁護② ～インフォームド・コンセントと守秘義務～	（学修内容）インフォームド・コンセントについてディスカッションを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.134-153を読み、ＩＣの問題点を探しておく。 事後：発表の内容についてまとめる。
第12回	成年後見制度の意義と実際① ～成年後見制度の概要～	（学修内容）成年後見制度の成立の背景、制度の概要を解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.192-203を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第13回	成年後見制度の意義と実際② ～後見人、保佐、補助、任意後見の概要～	（学修内容）被後見人と後見人、保佐、補助、任意後見について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.204-224を読み、専門用語を抽出する。 事後：用語を整理し、まとめる。
第14回	成年後見制度の意義と実際③ ～制度の動向と日常生活自立支援事業の課題～	（学修内容）成年後見制度の最近の動向と日常生活自立支援事業の実施体制とその課題について解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストpp.225-233を読み、専門用語を抽出する。 事後:用語を整理し、まとめる。
第15回	まとめにかえて ～「生きる権利」と「死ぬ権利」～	（学修内容）ワーク：「生きる権利」「死ぬ権利」を考えることからソーシャルワークを見つめなおす。 （事前事後学修課題の内容） 事前：用語を整理したノートを準備 事後：定期試験に向けて準備

授業名	社会保障論Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3782
英文名	Theory of Social Security Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	田中　真美	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	社会保障は、私たちの生活と深く関わっています。誕生し、成長していく過程においての仕事や子育て、また、高齢期を迎え、やがてこの世を去る時まで様々な社会保障制度と関係しています。病気や事故、災害、出産、子育て、失業など、生活に支援が必要になった場合、様々な社会保障制度が適用されることにより、それが、私たちの生活の安定や支えになります。 社会福祉士の仕事は、保健、医療、福祉等のサービス関係者や、行政機関などとの連絡、調整を進めていくために社会保障制度を理解することが重要になります。 本講義では、広範多岐にわたる社会保障制度を具体的に理解すること、現代社会における社会保障制度の役割について理解することを目指して、授業を進めます。
学修成果到達目標	1)社会保障の概念、対象、理念などを理解する 2)社会保障の個別の制度について理解する 3)社会保障の意義、近年の動向、諸外国における現状と我が国との関わりについて理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（80%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（20%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業時、適宜、資料配布する。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。
留意事項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。
オフィスアワー	個別の質問など、授業後に受付け、あるいはメールにても対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：急性期病院の医療社会事業部、医療ソーシャルワーカー

授業名	社会保障論Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会保障の理念と機能	（学修内容）社会保障においての日本国憲法とのつながりを理解して、社会保障と私たちの生活との関わりについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分が生活する中で社会保障との関わりをまとめる。事後は、授業の内容を復習する。
第2回	社会保障を取り巻く環境の変化	（学修内容）社会保障を取り巻く環境の変化により私たちの生活がどのように変化するのかを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、社会保障関連の報道などから、現在の社会保障の問題を考え、整理する。事後は、グループワークしたことをまとめる。
第3回	医療保障の仕組み	（学修内容）医療保険の構造、内容について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分が今までに医療と関わりがあった事などを振り返り、整理する。事後は、医療保険についての課題をまとめる。
第4回	年金制度の歴史、仕組み	（学修内容）日本の年金制度の歴史を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の生活の中での年金制度との関わりを整理する。事後は、現在の、年金制度について調べる。
第5回	高齢者に対する支援と介護保険の実際	（学修内容）介護保険制度の成立、仕組みを具体的に理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に介護保険について、身近で知っていることを整理する。事後は、介護保険の課題について考え、まとめる。
第6回	介護保険の実際	（学修内容）介護保険を使った実際の事例について考え、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分の住む地域で介護保険を使って生活をする高齢者のことを調べ、レポートにまとめる。事後は、高齢者に必要な資源をまとめる。
第7回	生活保護の意義、最近の動向	（学修内容）生活保護法の目的、原理、原則が理解出来る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に生活保護に関連することを調べる。事後は、生活保護についての課題をレポートに整理する。
第8回	雇用保険、労災保険 （ゲストスピーカー）	（学修内容）失業者の生活を保障するための雇用保険、業務災害などに被災した労働者の為の労災保険などについて理解できる。（特別招聘講師有り） （事前事後学修課題の内容） 事前に働くことと社会保障の関係を整理する。事後は、ゲスト講師の授業の感想をまとめ、提出する。
第9回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	（学修内容）障害者に対する支援と制度を理解出来る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に障害をもって生きていくことを支えると言うことについて、自分に出来ることを整理する。事後は、支援制度の課題についてまとめる。
第10回	児童手当の意義	（学修内容）児童福祉の中心となる法律は、児童福祉法であることをふまえて、社会保障においての児童手当について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に児童について児童手当について、関わりのあることを整理する。事後は、児童支援の手当で、必要なものを自分で考えてまとめる。
第11回	社会保障の行財政	（学修内容）社会保障の財源は、公費負担と社会保険料であることを理解し、これから国民負担率が高まることを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に社会保障の財源について、自分が考えた事を整理する。事後は、社会保障の財源についてまとめる。
第12回	諸外国における社会保障	（学修内容）我が国は、諸外国と社会保障協定を発効し、貿易を初め、外国人介護士、看護師の受け入れなども行っている現状について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に日本がどんな国と協定を結んでいるかを整理する。事後は、授業の内容をもとにして海外の社会保障制度について調べる。
第13回	社会保障と民間保険	（学修内容）人びとが助け合う仕組みとしての社会保障と、民間保険の役割の違いを理解できる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に自分たちの身近にある民間保険を整理する。事後に、これからの民間保険について整理する。
第14回	社会保障の今後の課題	（学修内容）社会保障制度が出来てから半世紀以上が経過し、家族形態の変化や社会環境の変化による社会保障の課題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に本講義を通じて、社会保障制度と自分の生活との関わりについて、まとめて発表する。事後は、社会保障の課題を整理して提出する。
第15回	社会保障Ⅱのまとめ	（学修内容）社会福祉士国家試験の社会保障の問題を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に社会保障を通じて、自分の生活や人生と深く関わっていることを整理する。事後は、社会福祉士国家試験の近年の傾向を調べる。

授業名	中等教科教育法Ⅱ（家庭）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3743
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	馬場　まみ	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	中学校・高等学校の学習指導要領の内容を理解する。さらに、「中等教科教育法Ⅰ（家庭）」で明確化した家庭科の目的や授業づくりの基本をふまえ、中学・高校家庭科で展開する授業構成を考える。理解を深め、実践力をつけるため、プレゼンテーションとディスカッションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1. 学習指導要領に書かれている家庭科の目的を説明できる。 2. 家庭科で教える内容と構成を理解できる。 3. 生活に関わる課題をふまえた授業構成を考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	『中学校学習指導要領解説　技術・家庭編』文部科学省　開隆堂
参考書	中学校教科教育法Ⅰ(家庭)で使用したテキストを用いる。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。
実践的教育	

授業名	中等教科教育法Ⅱ（家庭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）中等家教科教育法Ⅰの復習および本講義の進め方 （事前事後学修課題の内容） 中等教科教育法Ⅰの内容を振り返る。
第2回	中学校学習指導要領の基本方針	（学修内容）学習指導要領改訂の経緯と基本方針を理解する （事前事後学修課題の内容） 学習指導要領の基本方針について予習する。授業後学習指導要領の基本方針の要点をまとめる。
第3回	学習指導要領の理解：家庭科の目標	（学修内容）家庭科の目標と内容構成について理解する （事前事後学修課題の内容） 家庭科の目標を予習する。家庭科の学習指導要領の内容構成を復習する。
第4回	学習指導要領の理解：家族・家庭生活	（学修内容）家族・家庭分野の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 家族・家庭領域の内容を予習する。授業後学習指導要領の家庭領域の要点をまとめる。
第5回	学習指導要領の理解：食生活	（学修内容）食生活分野の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 食生活分野の内容を予習する。授業後学習指導要領の食分野の要点をまとめる。
第6回	学習指導要領の理解：衣生活・住生活	（学修内容）衣生活・住生活分野の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 衣・住分野の内容を予習する。授業後学習指導要領の衣・住分野の要点をまとめる。
第7回	学習指導要領の理解：消費生活・環境	（学修内容）消費生活・環境分野の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 消費・環境分野の内容を予習する。授業後学習指導要領のしゅおひ生活・環境分野の要点をまとめる。
第8回	家族・家庭生活分野の授業づくり	（学修内容）家族・家庭分野の授業実践をとりあげ、プレゼンテーションとディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前に家族・家庭分野の授業実践例を調べる。授業後家族・家庭分野の授業構成を考える。
第9回	食生活分野の授業づくり	（学修内容）食生活分野の授業実践をとりあげ、プレゼンテーションとディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前に食生活分野の授業実践を調べる。授業後食生活分野の授業構成を考える。
第10回	衣生活・住生活分野の授業づくり	（学修内容）衣生活・住生活分野の授業実践をとりあげ、プレゼンテーションとディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前に衣生活・住生活分野の授業実践を調べる。授業後衣生活・住生活分野の授業構成を考える。
第11回	消費生活・環境分野の授業づくり	（学修内容）消費生活・環境分野の授業実践をとりあげ、プレゼンテーションとディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前に消費生活・環境分野の授業実践を調べる。授業後消費生活・環境分野の授業構成を考える。
第12回	高等学校学習指導要領の理解：家庭科の目標	（学修内容）高等学校学習指導要領の家庭科の目標について理解する （事前事後学修課題の内容） 高等学校での家庭科の目標を予習する。授業後高等学校の家庭科の目標をまとめる。
第13回	高等学校家庭科学習指導要領の理解：家族・家庭及び福祉、衣食住	（学修内容）高等学校学習指導要領家庭科「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の自立と設計」の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 高等学校の家族・家庭、衣食住分野の内容を予習する。授業後家族・家庭、衣食住分野の授業を考える。
第14回	高等学校家庭科学習指導要領の理解：持続可能な消費生活・環境	（学修内容）高等学校学習指導要領家庭科「持続可能な消費生活・環境」の目標と内容を理解する （事前事後学修課題の内容） 高等学校の消費・環境分野の内容を予習する。授業後消費・環境分野の授業を考える。
第15回	総括	（学修内容）これまでの授業内容を総括し、よりよい家庭科の授業のあり方を考える （事前事後学修課題の内容） これまでの授業内容を振り返り家庭科の授業で重要なことを考える。

授業名	中等教科教育法Ⅳ（家庭）	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3772
英文名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School Ⅳ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	守野　美佐子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。授業の実践力を高めるため
学修成果到達目標	1）生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2）視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3）生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（家庭）で使用した教科書
参考書	「ＳＤＧｓと家庭科～カリキュラム・デザイン～」教育図書　荒井　紀子他編著　２０２０年６月
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し講義時に返却する。制作物等は採点し講義時に返却する。レポートは採点し返却日に返却する。
留意事項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。
オフィスアワー	毎週、授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有

授業名	中等教科教育法Ⅳ（家庭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション　教育実習の準備	（学修内容）教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ （事前事後学修課題の内容） 自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備　　指導計画の立案	（学修内容）自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる （事前事後学修課題の内容） 教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備　　指導詳案の作成	（学修内容）視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する （事前事後学修課題の内容） 指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備　　指導詳案の発表と修正	（学修内容）指導詳案を発表しディスカッションする 他者の意見を参考に指導案を修正する （事前事後学修課題の内容） 発表の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントの作成　視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目　2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備してくる
第6回	模擬授業2回目　2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目　2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の準備　指導案の見直し　板書計画　配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	（学修内容）実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究　環境・消費	（学修内容）環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究　経済・生活設計	（学修内容）経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容） ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究　家族・保育	（学修内容）家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 子どもの生活環境について復習しておく
第12回	ＳＤＧｓと家庭科について	（学修内容）ＳＤＧｓについて学ぶ 家庭科教育の中のＳＤＧｓと関連する内容をディスカッションする （事前事後学修課題の内容） ＳＤＧｓについて調べてくる
第13回	シティズンシップ教育と家庭科について	（学修内容）シティズンシップ教育について学ぶ 家庭科教育の中のシティズンシップ教育と関連する内容を話し合う （事前事後学修課題の内容） シティズンシップ教育について調べてくる
第14回	家庭生活の中の文化と伝承	（学修内容）生活の中の伝統と伝承について考えディスカッションする 現代の家庭生活の抱える問題について学ぶ　家族の多様性について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく　家族の多様性について調べておく
第15回	まとめ　教育実習に向けて	（学修内容）教育実習に向けて、今後の自身の課題を明確にする 家庭科の指導と家庭科の果たす使命についてディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 教育実習に向けて自身の課題を見直してくる

授業名	ソーシャルワーク総論Ⅰ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1701
英文名	Outline of Social Work Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	本講義は、社会福祉士養成カリキュラムにおける「ソーシャルワーク基盤と専門職（共通）」に該当する科目です。養成課程においてソーシャルワークについて全体的な概説をする科目となっています。ソーシャルワークの歴史的発展、理念、原則について学習を進めていきます。ソーシャルワーカー（社会福祉士）という営みについて、これからの社会で期待されている内容や学習者にソーシャルワークの魅力が伝えられるよう、専門用語の解説や具体的実践事例を用い、私たちの生活を支えているソーシャルワーカー（社会福祉士）について理解が深まるよう展開していきます。
学修成果到達目標	1．社会福祉士及び精神保健福祉士及び介護福祉士の法的な位置づけについて、理解ができる。 2．ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解できる。 3．ソーシャルワークの理念と価値・倫理が理解できる。 4．社会福祉士の活躍の場と関連職種について知る。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集『ソーシャルワークの基盤と専門職』　中央法規出版
参考書	岩間文雄『とてもわかりやすい社会福祉の本第２刷ー目指す歩とへのメッセージ』ふくろう出版．２００７
課題に対するフィードバックの方法	返却時にコメントを入れて返却をします。
留意事項	ノートテイク（方法については、初回に説明をします）
オフィスアワー	授業後及び研究室在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士を所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク総論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・現代社会の福祉的課題	（学修内容）オリエンテーション・現在社会における福祉課題を新聞記事を通して理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読む 事後：テキストを読むｐ７～１３
第2回	社会福祉士および介護福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけおよび福祉専門職（社会福祉主事任用資格・保育士等）	（学修内容）社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士法の定義と義務及び福祉専門職の専門性について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１５～２２）を読み、専門用語を抽出し調べる
第3回	ソーシャルワークの定義と社会背景	（学修内容）ソーシャルワークの定義とＩＦＳＷによるソーシャルワークの定義の解説とグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ５２～６６）を読み、専門用語を抽出し調べる
第4回	ソーシャルワークの４つの構成要素	（学修内容）ソーシャルワークの主たる構成要素と関連性を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ６８～８２）を読み、専門用語を抽出し調べる
第5回	ソーシャルワークの歴史的展開①創成期	（学修内容）ソーシャルワークの萌芽であるＣＯＳの活動、セツルメント運動について理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１２０～１２５）を読み、専門用語を抽出し調べる
第6回	ソーシャルワークの歴史的展開②メアリー・リッチモンドの貢献	（学修内容）リッチモンドが体系づけようとした社会診断の過程を理解し、ケースワークを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１２～～１３１）を読み、専門用語を抽出し調べる
第7回	ソーシャルワークの歴史的展開③ケースワーク・グループワーク・コミュニティ・オーガニゼーション	（学修内容）ソーシャルワークの各分野の経緯を知り、ソーシャルワークの形成過程を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１３２～１４３）を読み、専門用語を抽出し調べる
第8回	ソーシャルワークの歴史的展開④日本における形成過程	（学修内容）ソーシャルワークの日本における形成過程を理解する（DVD視聴） （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１５７～１６９）を読み、専門用語を抽出し調べる
第9回	ソソーシャルワークの理論と実践モデル・アプローチ	（学修内容）ソーシャルワークの主な理論・実践モデル・アプローチについて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキストｐ１４５～１５５）を読み、専門用語を抽出し調べる
第10回	ソーシャルワークの基本理念①人権尊重・社会正義	（学修内容）ソーシャルワークの基本理念の人権尊重・社会正義について具体的事例を基に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ８６～ｐ１０２）を読み、専門用語を抽出し調べる
第11回	ソーシャルワークの基本理念②利用者本位・尊厳の保持	（学修内容）ソーシャルワークの基本理念の利用者本位・尊厳の保持について概説し、具体的事例を基に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ８６～１０２）を読み、専門用語を抽出し調べる
第12回	ソーシャルワークの基本理念③権利擁護・自立支援	（学修内容）ソーシャルワークの基本理念の権利擁護・自立支援について概説し、具体的事例を基に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ８６～１０２）を読み、専門用語を抽出し調べる
第13回	ソーシャルワークの基本理念④ノーマライゼーション・インクルージョン・エンパワメント	（学修内容）ソーシャルワークの基本理念のノーマライゼーション・インクルージョン・エンパワメントについて概説し具体的事例から理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１０３～１１８）を読み、専門用語を抽出し調べる
第14回	ソーシャルワークの価値（ソーシャルワーク・グローバル定義）	（学修内容）ソーシャルワークの価値について概説後、あるべき姿についてディスカッションを通して理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前事後：テキスト（ｐ１７２～１７３）を読み、専門用語を抽出し調べる
第15回	ソーシャルワークの原則（バイスティックの7原則）	（学修内容）バイスティックの７原則について、ブレインストーミングから具体的事例を抽出し、理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事後：教科書巻末索引より、本授業で頻出した用語と人物名の整理をする

授業名	ソーシャルワーク論Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2713
英文名	Theory of Social Work I	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武田　康晴	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、地域を基盤としたソーシャルワークの理論、ソーシャルワークのプロセス、ソーシャルワークの様々な実践モデルについて理解することを目的とする。社会福祉の枠組みにおけるソーシャルワーク（相談援助）とは何か、人と環境の交互作用としてのシステム理論および地域を基盤としたソーシャルワークの理論をまず押さえる。そして、実践モデルとして、治療モデル、生活モデル等の枠組みを理解しながら実践モデルの実際を理解していく。実践アプローチとして、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、危機介入アプローチ等の方法を併せて理解する。
学修成果到達目標	1）地域を基盤としたソーシャルワークとは何かについて理解できる。 2）ソーシャルワークの基礎的な理論やそれぞれのモデル等について理解ができる。 3）ソーシャルワークのプロセスについて理解し説明することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	学修の進行具合によって学生と相談して決める。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	事前学習の実施状況、内容について確認しながら授業を進める。
留意事項	自分で考える姿勢を大切にしてください。
オフィスアワー	初回の授業で伝える。
実践的教育	

授業名	ソーシャルワーク論Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス（学習状況の確認を含む）	（学修内容）授業ガイダンスの中でソーシャルワークに関する基礎力を確認する。社会福祉士養成におけるソーシャルワーク論の位置づけを確認する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスに目を通し、学習内容を確認しておく。事後では、確認した学習状況について復習する。
第2回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(1)（必要性と基本的視座）	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と基本的視座について理解する。教員も交えて意見交換し、自分の考えを表明する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第3回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(2)（8つの機能とジェネラリストソーシャルワークとの関連）	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、ジェネラリストソーシャルワークの理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第4回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク①（意義、定義、留意点、ラポール形成）	（学修内容）インテークの意義と定義、留意点、ラポールの形成について事例を交えて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第5回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク②（インテークの実際とアウトリーチ）	（学修内容）インテークの展開とアウトリーチについて理解する。２回の授業内容を踏まえインテークのポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第6回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント①（定義、原則、アセスメントツール）	（学修内容）アセスメントの定義と原則、ツールについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第7回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント②（ニースとは、ニーズアセスメント）	（学修内容）ニーズの把握とニーズアセスメントについて理解する。２回の授業内容を踏まえアセスメントのポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第8回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング①（支援におけるプランニングの位置づけ）	（学修内容）プランニングの位置づけと、作成前後を含めた展開過程について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第9回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング②（ケアプラン、サービス等利用計画、個別支援計画）	（学修内容）プランニングのツールについて、各項の意味と関連について理解する。２回の授業内容について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第10回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング③（個別支援計画書の記入）	（学修内容）プランニング（計画）の作成方法について個別支援計画の様式を活用して実践し理解する。計画作成のポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に配布した記入の手引きに目を通してくる。事後では、授業で提示する事例で計画書を作成する。（要提出）
第11回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション①（モニタリングの定義、留意点）	（学修内容）ケアマネジメントプロセスにおけるモニタリングの定義と留意点、方法について解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第12回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション②（エバリュエーションの定義、留意点）	（学修内容）エバリュエーションの定義と留意点、方法について解説する。２回の授業内容を踏まえモニタリングと終結のポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第13回	ソーシャルワークの実践モデル(1)～システム理論と医学モデル	（学修内容）システム理論について基本を押さえた上で、伝統的な医学モデルについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第14回	ソーシャルワークの実践モデル(2)～生活モデルと社会モデル、ストレングスモデル	（学修内容）1980年より展開した現代のソーシャルワークのモデル、生活モデルと社会モデル、ストレングスモデルについて解説する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら疑問点を解消する。また、授業全体について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 今までやったところを振り返り、不明な点や質問事項をノートにまとめてくる。定期試験に合格するよう全体を復習する。

授業名	ソーシャルワーク論Ⅲ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3750
英文名	Theory of Social WorkⅢ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武田　康晴	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	教科書の内容を材料とした意見交換など双方向の授業を通じて、ソーシャルワークに関する基本事項を学ぶとともに「ソーシャルワークというモノの見方」を身に付けることに主眼を置く。ソーシャルワーク論ⅠⅡに続いてⅢということになるので、具体的に扱うテーマはソーシャルワークの機能、ソーシャルワークの面接技法、ソーシャルワークの援助関係、スーパービジョンと人材育成、コンサルテーションと事業運営、記録とICT活用といった、より高度で実践的な内容となる。現場の事例を活用し、できる限り実践的な授業内容で進めることを考えている。
学修成果到達目標	①ソーシャルワークの機能について理解する。 ②ソーシャルワークの面接技法について理解する。 ③ソーシャルワークの援助関係について理解する。 ④スーパービジョン、コンサルテーションについて理解する。 ⑤記録の意義と書き方、ICTの活用について理解する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（70%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（30%）　■筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	学修の進行度によって学生と相談して決める。
参考書	必要に応じて紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業での疑問点は（事前学習でまとめ）次回の授業で解説する。レポートについては返却時に口頭で説明するか、コメントを付けて返却する。
留意事項	講義を聴くだけ（知識だけ）では「ソーシャルワークというモノの見方」は身に付かないので、自分で考え、発言し、他者の意見を聴くことを大切にしてほしい。
オフィスアワー	授業時に説明する。Gmailでの相談は随時受け付ける。
実践的教育	

授業名	ソーシャルワーク論Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ソーシャルワークの視点（ミクロからマクロへ） ※確認テストを実施予定	（学修内容）ソーシャルワーク論ⅠⅡの内容を確認し、ソーシャルワーク論Ⅲで扱う内容について説明する。確認テストを実施する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認しておく。ⅠⅡの中で不明な点をまとめておく。これまでの学びを説明できるよう復習する。（確認テストの内容を含む）
第2回	人間と環境①（ソーシャルワークの定義、システム理論）	（学修内容）グローバル定義を確認し、システム理論、エコシステムによるソーシャルワークについて学ぶ。キーワードを挙げ意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第3回	人間と環境②（ジェネラリストソーシャルワークへ）	（学修内容）エコロジカルソーシャルワークからジェネラリストソーシャルワークに至る流れについて、その理論的背景も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第4回	ソーシャルワークの機能①（調整機能、開発機能）	（学修内容）ケアマネジメントの手法を題材に、ソーシャルワークの調整機能と社会資源開発について学ぶ。キーワードを挙げ意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第5回	ソーシャルワークの機能②（代弁機能、教育機能）	（学修内容）成年後見制度を材料として、アドボカシーについて学ぶ。また、社会福祉士の職域拡大や人材育成についても学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第6回	ソーシャルワークの面接技術①（定義、内容、過程）	（学修内容）面接技術の定義と内容について、インテークから終結に至る面接のプロセスを通じて学ぶ。キーワードを挙げ意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第7回	ソーシャルワークの面接技術②（理論の適用）	（学修内容）システム理論、社会モデル、エコロジカルアプローチといった各種理論、モデル、アプローチの実践への反映を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第8回	ソーシャルワークの面接技術③（面接技術の実際）	（学修内容）事例を活用しながら、個別事例、家族事例、困難事例、多問題事例などにおける面接技術の実際について学ぶ。事例について意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第9回	ソーシャルワークの援助関係（専門的関係、援助関係、信頼関係、教育関係など）	（学修内容）ソーシャルワーク場面において想定される各種の関係について、関係の実際やポイントについて根拠も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第10回	スーパービジョンと人材育成①（定義、歴史、機能）	（学修内容）スーパービジョンの歴史と定義を踏まえ、３つの機能（管理的機能、教育的機能、支持的機能）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第11回	スーパービジョンと人材育成②（内容、実際）	（学修内容）各種の援助場面におけるスーパービジョンの実際について、課題と展望を学ぶ。実習スーパービジョンについても、短い演習を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第12回	コンサルテーションと社会福祉事業運営	（学修内容）多種の専門職によるコンサルテーションの必要性と今後の社会福祉事業運営について学ぶ。キーワードを挙げ意見交換する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第13回	ソーシャルワークにおける記録（意義、方法、活用）	（学修内容）記録に関する意義と基本事項を確認し、実際のインテークシート、アセスメントシート、記録様式も含めて記入方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第14回	ソーシャルワークにおける事例研究（意義、方法、実際）	（学修内容）事例研究の方法について、実際の事例を活用し、事例検討の持ち方や活用の仕方について学ぶ。事例検討の演習を取り入れる。 （事前事後学修課題の内容） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習し、事後では授業内容について平易な言葉で説明できるよう復習する。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）ソーシャルワーク論Ⅲの授業内容を振り返り、疑問点や再度説明が必要な部分について意見を聞き、解説して疑問点を解消する。 （事前事後学修課題の内容） 教科書とノートを振り返り疑問点を書き出して授業に参加する。ソーシャルワークに関連するキーワードを書き出し説明できるよう復習する。

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅱ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3785
英文名	Social Work　Practice Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本講義は、ソーシャルワーク演習Ⅰでの学びを踏まえ、学習を進めていきます。具体的には、社会福祉士としての根拠である倫理・価値・ソーシャルワークの理論・モデル・アプローチを用いてアカウンタビリティ（説明責任）が発揮でき、効果的なソーシャルワーク実践ができるようにグループワークを通して検討をします。検討過程においても多様な価値や視点、解決策や対策を知る機会となるよう対話的授業を展開していきます。事例を使用しミクロレベルからメゾレベル、マクロレベルへの展開方法を実践的に学習をしていきます。
学修成果到達目標	1．自己の実習体験から事例検討と事例研究の方法が理解できる 2．実習体験からスーパービジョンの目的と実際的方法の理解ができる 3．ミクロレベルからマクロレベルの地域を基盤としてソーシャルワークの展開方法を理解する 4．ソーシャルワークの理念と実践を結びつけることができる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規
参考書	『高齢社会白書』『障害者白書』『子ども・若者白書』『男女共同参画白書』内閣府 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規、2021 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規、2021 一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規 一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、口頭もしくはコメントをつけて返却します
留意事項	実践力を高めるための演習科目です。社会の動向に目を向けておいてください。 授業内容に応じてフィールドワークや見学へ学外へ行く場合があります。現地までの交通費は実費となります。 また、時間割を変更し土曜日等に実施する場合があります。
オフィスアワー	授業後及び研究室に在室時に対応します
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士を所持 高齢者施設、児童福祉施設での勤務経験がある

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・事例検討と事例研究の違い・スーパービジョン	（学修内容）本授業の目的と計画について理解する。事例検討と事例研究の違いを理解し、スーパービジョンとコンサルテーションの違いを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：スーパービジョンとコンサルテーションの違いを整理する 事後：自分の住む地域の写真を8枚撮影する
第2回	地域を基盤としたソーシャルワーク①地域を知る（フィールドワーク）	（学修内容）地域とはどのような場であるか理解をする（フィールドワーク） （事前事後学修課題の内容） 事前：自分の住む地域の写真を8枚撮影する 事後：地域の社会資源を調べる
第3回	地域を基盤としたソーシャルワーク②地域とは	（学修内容）地域とはどのような場であるか理解をする(グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 事前：地域の社会資源を調べる 事後：地域の統計的な情報を収集する
第4回	地域を基盤としたソーシャルワーク③地域の社会資源	（学修内容）地域の社会資源と社会開発について具体的な方法を理解する（グループワーク・プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） 事前：地域の統計的な情報を収集する 事後：地域課題を整理する
第5回	地域を基盤としたソーシャルワーク④住民を知る	（学修内容）住民とは何かの理解をする （グループワーク）メゾレベルの展開方法を知る （事前事後学修課題の内容） 事前：地域課題を整理する 事後：認知症について調べる
第6回	地域を基盤としたソーシャルワーク⑤地域住民のニーズを知る	（学修内容）アセスメントの視点の理解をする （グループワーク・プレゼンテーション）具体的ニースの把握方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：認知症について調べる 事後：『すこやか進行中』を読む
第7回	地域での生活を支える①インテーク、エンゲージメント・アセスメントアセスメント、プランニング、実施、モニタリング、アフターケア	（学修内容）ソーシャルワークの過程の理解をする。ミクロレベルからマクロレベルでの展開方法を知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：『すこやか進行中を読む』 事後：資料を読んでおく
第8回	地域での生活を支える②連携・協働 （フィールドワーク）	（学修内容）地域の社会資源の活用について理解する （ペアワーク） フィールドワークを通して具体的理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配付資料を読む 事後：地域密着型サービスを調べる
第9回	地域で生活を支える③地域密着型サービス（施設見学）	（学修内容）地域包括支援センター・地域密着サービスとの協働について理解する。（施設見学） （事前事後学修課題の内容） 事前：地域密着型サービスを調べる 事後：配布資料・掲示物等の作成
第10回	地域で生活を支える④地域づくり	（学修内容）誰もが生活しやすい地域づりについて理解する（メゾレベル）(グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 事前：配付資料・掲示物等の作成 事後：プレゼンテーション資準備準備
第11回	地域生活を支える⑤市民のエンパワーする視点と技法	（学修内容）市民のエンパワーメントの視点を理解する（ミクロからマクロレベル）研修会のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容） 事前：プレゼンテーション準備 事後：地域包括支援センターと自治連合会を調べる
第12回	地域における社会的孤立への支援①地域住民との協働（ゲストスピーカー）	（学修内容）地域住民との協働を通し、コミュニティソーシャルワークの実践方法を具体的に知る。（認知症サポーター研修・ゲストスピーカー） （事前事後学修課題の内容） 事前：地域包括支援センターと自治連合会を調べる 事後：ソーシャルワークのアプローチを整理しておく
第13回	地域における社会的孤立への支援②事例に必要な知識、アセスメントからプランニング	（学修内容）事例を通してアセスメントから計画までの一連の流れを理解する （グループワーク）他の科目での知識を活用し、検討する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワークのアプローチを整理しておく 事後：社会福祉協議会の事業内容を調べる
第14回	地域における社会的孤立への支援③社会福祉協議会	（学修内容）社会福祉協議会の業務内容を地域実態と合わせて理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉協議会の事業内容を調べる 事後：ソーシャルワークのコンピテンシーを読んでおく
第15回	ソーシャルワークのコンピテンシー	（学修内容）ソーシャルワークのコンピテンシーを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワークのコンピテンシーを読んでおく 事後：ソーシャルワークのコンピテンシーの分からない用語を調べる

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅳ	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC4797
英文名	Social Work PracticeIV	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	事例を題材として、相談援助場面及び援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア等）を想定して授業を展開していきます。ソーシャルワークの価値、知識、技術が定着できるよう、フィールドワーク等様々な方法を活用し、ミクロレベルからマクロレベルの実践的方法が習得できるよう学生が主体的に学べるよう授業をしていきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク実践（個別から集団）における倫理・価値・知識を基礎とした技術の獲得ができる 2．実習体験を通して、意義や方法を具体的に理解できる 3．スーパービジョンを体験的に理解する
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　□レポート　■制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%）	□筆記試験　■レポート　■制作物 □口述　□実習　■実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『社会福祉士国家試験　合格テキスト　2026』中央法規
参考書	必要に応じて適宜紹介します
課題に対するフィードバックの方法	提出物、返却時にコメントを入れてます。
留意事項	学生参加型の講義方法をとる。積極的な受講態度を希望します。 授業内容に応じてフィールドワークや見学へ学外へ行く場合があります。現地までの交通費は実費となります。 また、時間割を変更し土曜日等に実施する場合があります。
オフィスアワー	授業終了時及び研究室在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士を所持 高齢者施設、児童福祉施設勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク演習Ⅳ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）オリエンテーション　本講義の到達目標の理解と学習方法を理解する。 ソーシャルワーク演習Ⅲの復習をする （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク演習Ⅲの事例の整理をする（用語・法令など） 事後：社会福祉法人の役割を整理する
第2回	地域支援と地域住民の参加（フィールドワーク）	（学修内容）フィールドワークを通して社会福祉法人の役割と地域住民とのかかわりについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉法人の役割を整理する 事後：児童虐待に関する法律と機関と法律を整理する
第3回	ソーシャルワークにおける社会モデルの活用　児童虐待事例	（学修内容）社会モデルを活用し児童虐待事例の検討をしソーシャルワーク機能の理解をする （事前事後学修課題の内容） 事前：児童虐待に関する法律と機関と法律を整理する 事後：障害者雇用に関連する法令と専門職を調べ整理する
第4回	スキャンパーのフレームワーク　ひきこもり事例	（学修内容）ひきこもり事例を通して支援方法を検討する枠組みを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：障害者雇用に関連する法令と専門職を調べ整理する 事後：イタリアのバザリア法を調べる
第5回	ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術①アセスメントの方法　ＤＶＤ視聴	（学修内容）映像教材を『人生ここにあり』を視聴しイタリアの法律からソーシャルワークの価値・倫理・技術を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：イタリアのバザリア法を調べる 事後：ソーシャルワーク実践から理論、アプローチを抽出する
第6回	ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術②具体的支援の方法　ＤＶＤ視聴	（学修内容）映像教材を『人生ここにあり』を視聴し、ソーシャルワーカーの実践からソーシャルワークの価値・倫理・技術を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク実践から理論、アプローチを抽出する 事後：障害者に関連する法令と専門職を調べ整理する
第7回	ネゴシエーションのプロセス　障害者虐待事例	（学修内容）障害者の権利を擁護するための社会福祉士の役割や具体的方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：障害者に関連する法令と専門職を調べ整理する 事後：合理的配慮について調べ、プレゼンの準備をする
第8回	ソーシャルマーケティング　障害者虐待事例（フィールドワーク）	（学修内容）ソーシャルマーケティングの方法を用いて、目標達成への取り組みを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：合理的配慮について調べる、プレゼンの準備をする 事後：社会福祉士および介護福祉士法を整理する
第9回	終末期におけるソーシャルワークの展開（施設見学）	（学修内容）終末期における緩和ケアや家族支援における社会福祉士の役割を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：社会福祉士および介護福祉士法を整理する 事後：見学内容の整理をする
第10回	終末期におけるソーシャルワークの展開　意思決定支援	（学修内容）終末期における意思決定支援の具体的方法を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：見学内容の整理をする 事後：今までにあった施設建設におけるコンフリクトを調べる
第11回	コンフリクト・レゾリューションに向けた方法	（学修内容）コンセンサスを導くパブリック・プロセスを援用し空き家活用の事例を通して理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：今までにあった施設建設におけるコンフリクトを調べる 事後：介護支援専門員について調べ整理する
第12回	ケアマネジメントにおける会議の運営（ミクロレベル）	（学修内容）社会福祉施設内で行われるミクロレベルの会議の運営や留意点を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：介護支援専門員について調べ整理する 事後：指定された高齢者事業の役割と機能を整理する
第13回	運営会議（メゾレベル）	（学修内容）メゾレベルでの会議の目的、運営の留意点を理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：指定された高齢者事業の役割と機能を整理する 事後：ソーシャル・キャピタルについて調べ整理する
第14回	コーディネートによって目指すソーシャル・キャピタル	（学修内容）ソーシャル・キャピタルの醸成に向けての双方向への働きかけを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャル・キャピタルについて調べ整理する 事後：京都華頂大学のアピールポイントと改善点を整理する
第15回	プレゼンテーション①紹介型と提案型	（学修内容）紹介型と提案型のプレゼンテーションを理解し、提案型のプレゼンテーションの方法を準備から実践までを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：京都華頂大学のアピールポイントと改善点を整理する 事後：プレゼン資料を作成する

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC3786
英文名	Guidance on　Social Work Ⅰ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク現場実習【60時間】に向けて、ソーシャルワーク実習の意義を理解し、社会福祉士として社会から求められている役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としてあるべき姿について、具体的に学習を進めていきます。実践現場の実情に即した内容で展開していきます。実践現場の方から話を聞く機会や実際に施設を見学しより、実習のイメージができ実習に向けてのモチベーションが高まるようにしていきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク実習の意義について理解できる 2．社会福祉士として求められる役割が理解できる 3．社会福祉士としての価値・倫理に基づく専門職としての姿勢が意識できる 4．ソーシャルワーク現場実習（8日間）の実習準備ができる 5．実習施設の概要を理解し、自分のことばで説明できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配布する。 ソーシャルワーク実習ハンドブック
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習』中央法規、2021
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを入れ返却をします。 必要に応じて個別にフィードバックを対面で実施します。
留意事項	準備物は予め伝えるが、G-mailもしくはClassroomを使用することがある。定期的に確認をするようにして下さい。 継続的な授業内容です。体調管理に気をつけてください。 施設見学を予定しています。時間割とは別に実施予定です。（見学施設までの交通費は実費負担です）
オフィスアワー	講義終了時および研究室在室時に対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・目指す社会福祉像	（学修内容）本講義の目標、授業計画の理解をする。目指す社会福祉士像をグループワークを通して明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく 事後：ソーシャルワーク現場実習で身につけたいスキルを挙げる
第2回	ソーシャルワーク現場実習の意義	（学修内容）ソーシャルワーク現場実習の意義を知り、実習に向けてコミュニケーションを理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク現場実習で身につけたいスキルを挙げる 事後：ソーシャルワーク現場実習で対象となる施設種別を調べる
第3回	実習施設の理解①ソーシャルワーク現場実習で対象となる施設・施設見学オリエンテーション	（学修内容）ソーシャルワーク現場実習で対象となる施設について、法的根拠や目的、利用対象等を調べる。見学児のマナーを知る （事前事後学修課題の内容） 事前：ソーシャルワーク現場実習で対象となる施設種別を調べる 事後：担当の施設について調べ、発表の準備をする
第4回	実習施設の理解②高齢者施設 （ゲストスピーカー）	（学修内容）高齢者施設の理解を深める（ゲストスピーカー） （事前事後学修課題の内容） 事前事後：担当の施設について調べ、発表の準備をする
第5回	実習施設の理解③障害児者・施設　（施設見学）	（学修内容）障害児・者施設の法的根拠、利用方法、職員配置、利用者の状況を調べ、現状を理解する。　施設見学 （事前事後学修課題の内容） 事前事後：担当の施設について調べ、発表の準備をする
第6回	実習施設の理解④児童福祉施設（施設見学）	（学修内容）児童福祉施設の法的根拠、利用方法、職員配置、等を理解する等を理解する　施設見学 （事前事後学修課題の内容） 事前；担当施設について調べ発表に準備をする 事後：感染の種類を調べる
第7回	実習に必要な知識ー感染予防と車いすの操作方法	（学修内容）感染予防の方法と車いすの操作方法を体験的に理解する （事前事後学修課題の内容） 事前：感染の種類を調べる 事後：車いすの操作方法の復習をする
第8回	配属施設の理解①施設の概要	（学修内容）実習先の種別及び実習施設の発表及び実習施設の具体的理解をする。事務をするをする （事前事後学修課題の内容） 事前：車いすの操作方法の復習をする 事後：実習施設について調べる
第9回	到達目標と実習計画①	（学修内容）実習施設について理解し、実習計画を立案する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる 事後：実習施設に関連する法律を調べる
第10回	配属施設の理解②法的根拠	（学修内容）配属された施設について、地域特性、施設の概要、法的根拠及び関連法等を調べ、実習施設に理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設に関連する法律を調べる 事後：実習施設のある地域を調べる
第11回	到達目標と実習計画②個別指導 配属施設の理解③地域特性	（学修内容）実習計画の修正を個別で指導を受ける。実習準備に向けて、個別の進捗に合わせて準備を行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設のある地域を調べる 事後：実習施設までのアクセスを確認する
第12回	ソーシャルワーク現場実習事前オリエンテーション	（学修内容）事前オリエンテーションの受け方が理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設までのアクセスを確認する 事後：事前オリエンテーションのアポを取る
第13回	実習日誌の意義	（学修内容）実習日誌の意義を理解し、書き方や記入する際の方法・留意点が理解できる （事前事後学修課題の内容） 事前：オリエンテーションのアポを取る 事後：事前オリエンテーション記録の作成をする
第14回	実習中の記録について	（学修内容）実習中に必要な記録物の理解をする（お礼状含む） （事前事後学修課題の内容） 事前：事前オリエンテーション記録の作成をする 事後：実習に向けての準備を確認する
第15回	ソーシャルワーク実習に向けて	（学修内容）諸注意、実習中の連絡方法等について確認をする。準備状況の確認をする （事前事後学修課題の内容） 事前：実習に向けての準備を確認する 事後：配付資料を読む

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC3787
英文名	Guidance on　Social Work Ⅱ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島　紀江	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	本授業では、ソーシャルワーク現場実習【60時間】の事後学習を通してソーシャルワークの業務や実践に必要な知識・技術を深めていきます。また、座学で学んだ社会福祉の法律や制度、ソーシャルワーク技術等について、自らの経験の振り返りと関連づけて理解していきます。また、自己課題を明確にし、ソーシャルワーク現場実習【180時間】に向けての準備をします。１８０時間実習の準備として、支援計画の立案方法やアセスメントの方法、ケアワークとソーシャルワークの視点の違いを理解できるよう、実習の充実に向けて展開していきます。
学修成果到達目標	1．ソーシャルワーク実習の意義について理解できる 2．実習を通じて，大学で学んだ知識，技術等を具体的かつ実際的に理解するための実習準備ができる 3．社会福祉の専門職としての自覚を促し，総合的に対応できる能力を修得できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規、2021
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーにはコメントを付して返却をする。 必要に応じて個別面談を行う。
留意事項	授業に必要な準備物は予め伝えるが、G-mailもしくはClassroomを頻繁に使用することがあるのでこまめにチェックをするようにして下さい。 この授業は、2回生にソーシャルワーク現場実習（60時間）の事後指導として7回実施し、３回生でソーシャルワーク現場実習（180時間）事前指導として8回授業を実施します。 施設への事前訪問にかかる交通費は、自己負担となります。
オフィスアワー	講義終了時及び研究室で在室時は対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設での勤務経験あり

授業名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ソーシャルワーク現場実習【８日間】自己評価	（学修内容）本講の授業計画を確認する．ソーシャルワーク現場実習【8日間】の自己評価をする （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読んでおく 事後：ワークシートに沿って実習を振り返る
第2回	実習事後学習①体験と感情の整理	（学修内容）ワークシートを用いて実習での体験を整理する （事前事後学修課題の内容） 事前：ワークシートに沿って実習を振り返る 事後：実習の目標を読み、達成できたことと課題を整理する
第3回	実習事後学習②実習計画に照らし合わせた達成と課題	（学修内容）ワークシートに基づき実習の目標達成と今後の課題について具体的学習計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 事前：実習の目標を読み、達成できたことと課題を整理する 事後：実習でのエピソードを整理する
第4回	実習評価を用いた振り返り①（個別指導）	（学修内容）個別面談を受け、自己覚知及び今後の学習課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：実習でのエピソードを整理する 事後：実習報告の準備をする
第5回	実習評価を用いた振り返り②（個別指導）	（学修内容）個別面談を受け、自己覚知及び今後の学習課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前 事後：発表原稿の作成及び発表の練習をする。
第6回	課題の抽出と今後の学習方法/実習での学びの共有① 発表	（学修内容）実習の学びを他者と共有し、他者の報告から追体験し自己課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：実習報告の準備をする 事後：発表からの気づきのレポートを作成する
第7回	実習での学びの共有②発表	（学修内容）実習の学びを他者と共有し、他者の報告から追体験し自己課題を明確にする （事前事後学修課題の内容） 事前：発表からの気づきのレポートを作成する 事後：自己の学習課題の整理をする。
第8回	実習施設・機関の情報収集①(基本情報・職員に関する情報・利用者に関する情報・地域に関する情報・社会資源に関する情報)	（学修内容）配当された施設について理解を深める。事務的手続き及び実習に必要な書類の準備をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：８日間実習の日誌を読み返す 事後：実習施設について調べる（根拠法・設置基準・人員配置）
第9回	実習施設・機関の情報収集②(基本情報・職員に関する情報・利用者に関する情報・地域に関する情報・社会資源に関する情報)	（学修内容）配当された施設の環境の理解を深める （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる（根拠法・設置基準・人員配置） 事後：実習施設について調べる（地域特性）
第10回	実習計画の作成・事前訪問	（学修内容）前回の実習の課題及び実習施設の特性を理解し実習計画を立案する（個別指導） （事前事後学修課題の内容） 事前実習施設について調べる（地域特性） 事後：実習施設について調べる（近隣の社会資源）
第11回	事前訪問と実習計画の修正	（学修内容）教員より個別に指導を受け、実習計画の修正をする(個別指導） （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設について調べる（近隣の社会資源） 事後：実習計画を完成させる
第12回	支援計画の意義と作成方法	（学修内容）支援計画の意義を理解し、立案時の視点を学ぶ（ケアプランとの違いの理解を含む） （事前事後学修課題の内容） 事前：実習計画を完成させる 事後：ＩＣＦについて調べる
第13回	支援計画の作成の実際①ＩＣＦによるアセスメントの方法	（学修内容）支援計画におけるＩＣＦの視点を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前：ＩＣＦについて調べる 事後：実習施設に関連するアセスメントシートを探す
第14回	支援計画の作成の実際②実習で活用できるアセスメントの作成の作成	（学修内容）アセスメントシートについて、実際使用されているシートから配当された施設に適当なアセスメントシートを作成する （事前事後学修課題の内容） 事前：実習施設に関するアセスメントシートを探す 事後：アセスメントシートの完成をする
第15回	実習直前指導・実習壮行会	（学修内容）実習に向けての諸注意（訪問指導の準備等）及び実習に向けての最終確認を行う （事前事後学修課題の内容） 事前：アセスメントシートの完成をする 事後：実習に必要な事項の準備をする

授業名	図書館サービス概論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2715
英文名	Introduction to Library Services	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	四方　未来	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	図書館には様々なサービスがあります。図書館サービスの理念や構造などを知り、図書館でどんなことが出来るのかを学びます。 資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説します。また、館種別のサービスや実際の現場でのサービスの形についても学ぶ。理解を深めるために、ビデオや写真を見たり、グループワークを行いながら授業を進めます。毎回授業内に小レポートまたは小テストをします。 受講生の関心ある内容や理解度、進路など受講生に合わせシラバスを変更する場合があります。
学修成果 到達目標	1）図書館サービスの理念や様々なサービスを理解し、説明することができる。 2）図書館サービスの構造を知り、利用者に合わせたサービスを提供することができる。 3）館種ごとのサービスの特徴や違いを知り、説明することができる。 4）図書館サービスの課題を見つけ、維持・発展のために何が必要かを考え、新しいサービス等を提案できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	使用しない。
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。
留意事項	公共図書館や大学図書館など様々な図書館を実際に訪れ、どのようなサービスが行われているか確認しましょう。 出席日数が3分の2に満たない者は、原則単位を与えません。 受講生の関心ある内容や理解度、進路など受講生に合わせシラバスを変更する場合があります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：中学校・高等学校　数学教員、公共図書館、大学図書館　図書館員、医療系専門学校　正規図書館司書、公立小中学校　学校司書として勤務などの勤務経験を活かして、実体験を踏まえて授業を実施する。

授業名	図書館サービス概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（授業の概要説明）、図書館のサービスについて	（学修内容）授業の概要（授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明）と説明、図書館サービスについて。 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを確認してください。図書館サービスについて、イメージしておいてください。事後：確認テストの回答又は小レポート。
第2回	図書館サービスの意義・理念・概要	（学修内容）図書館サービスの意義や理念、内容、構造について。図書館サービスの変換や図書館法についてもふれる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第3回	図書館サービスと資料提供サービス	（学修内容）貸出、リクエストなど資料提供サービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第4回	図書館サービスと情報提供サービス	（学修内容）レファレンスや情報発信など情報提供サービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第5回	図書館サービスと利用空間の整備	（学修内容）図書館内の整備について解説。またどのような空間が利用しやすいか考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第6回	図書館サービスと全域サービス	（学修内容）Mapなどを活用し、全域奉仕について考える。郷土資料のデジタル化やなどDXでどのように図書館サービスが変化するか考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第7回	図書館サービスと課題解決サービス支援	（学修内容）ビジネス支援や医療健康情報などを知り、社会の変化との関連を含め考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第8回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス1（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第9回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス2（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第10回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス3（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第11回	館種別サービス1（公共図書館（都道府県市町村立）、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など）	（学修内容）公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第12回	館種別サービス2　（公共図書館（都道府県市町村立）、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など）	（学修内容）公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 （事前事後学修課題の内容） 前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第13回	図書館サービスとボランティア、広報について	（学修内容）図書館でのボランティア活動や広報について。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第14回	図書館サービスと著作権、課題について	（学修内容）図書館の複写など著作権について。館種別によくある事例も含め解説。「図書館だより」など配布物についても解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。
第15回	各種図書館とのネットワーク、利用者とのコミュニケーション、これまでの補足とまとめ	（学修内容）各種図書館とのネットワークや利用者とのコミュニケーションの重要性について。これまでの補足とまとめ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：確認テストまたは小レポートの提出。

授業名	図書・図書館史	開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC2719
英文名	History of Books and Libraries	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2）図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3）日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　■制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　□授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	佃一可『図書・図書館史』（現代図書館情報学シリーズ11）、樹村房、2012年
参考書	随時指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	普段から図書館に出向くよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	図書・図書館史

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館（西洋）	（学修内容）文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館（西洋）	（学修内容）修道院図書館や大学図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.62～P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館（西洋）	（学修内容）ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.94～P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館（西洋）	（学修内容）大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.134～P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史（古代・中世）	（学修内容）紙の発明、四部分類について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.27～P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史（近世・近代）	（学修内容）印刷時代の図書について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.123～P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館（日本）	（学修内容）奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.50～P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館（日本）	（学修内容）鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.86～P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館（日本）	（学修内容）江戸時代の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.112～P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館（日本）	（学修内容）明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.147～P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館（日本）	（学修内容）第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキストP.183～P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について（グループワーク） ①　図書館の概要	（学修内容）これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 （事前事後学修課題の内容） 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について（グループワーク） ②　関わった人物	（学修内容）これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 （事前事後学修課題の内容） 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について（プレゼンテーション）	（学修内容）前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 （事前事後学修課題の内容） 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授業名	図書館情報資源概論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2718
英文名	Introduction to Library Information Resource	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料）の種類と特性について理解し、説明できる。 2）図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3）ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8）学文社，2016年
参考書	吉井潤『事例で学ぶ図書館情報資源概論』青弓社，2023年
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。
留意事項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。

授業名	図書館情報資源概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館情報資源の経緯	（学修内容）図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。
第3回	印刷資料の類型と特質	（学修内容）資料の類型を整理し、図書、逐次刊行物、小冊子の定義、種類、特徴などについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト3章p.18-22を読んでまとめておくこと。
第4回	非印刷資料の類型と特質	（学修内容）視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴などについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト3章p.22-25を読んでまとめておくこと。
第5回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	（学修内容）電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。
第6回	地域資料、行政資料、灰色文献	（学修内容）地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。
第7回	情報資源の生産(出版)と流通	（学修内容）出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。
第8回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	（学修内容）図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。
第9回	コレクション形成の理論と方法	（学修内容）蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	（学修内容）人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	（学修内容）科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	（学修内容）資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	（学修内容）クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと。
第14回	電子書籍、電子ジャーナル	（学修内容）電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと。
第15回	まとめ	（学修内容）総復習 （事前事後学修課題の内容） テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと。

授業名	保育実習指導Ｉｕａ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training I	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	西川　由紀子・山川　宏和・近本　佳子・芹澤　出	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育実習を行うために必要な事項について学ぶ。講義形式の授業を通して、保育実習の目的や概要、各実習施設の役割や機能、さらに実習を記録する方法について学ぶ。演習形式の授業を通して、子どもや利用者とのかかわりや記録の書き方を実践的に学ぶ。実習日誌の記述方法や目標設定について、グループワークを行う。子どもや利用者の人権やプライバシー保護に配慮した実習について理解し、保育士の専門性を学ぶ。
学修成果到達目標	1）保育実習の目的や概要などについて理解する。 2）各種施設の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。 3）人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解する。 4）実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)
テキスト	新川泰弘・渡邊慶一・山川宏和　編著『施設実習必携ハンドブック』晃洋書房　2024年
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	実習ノートの書き方、実習目標の立て方などの各種課題について、学生相互にチェックしながら学びを深めたり、教員からコメントを行う。
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。
オフィスアワー	授業終了後に、オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 母子生活支援施設長、京都市内保育園勤務勤務の担当者がこれまでの経験を活かして保育現場の実情などを含めて実践的教育を行う。

授業名	保育実習指導Ｉｕａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育実習とは	（学修内容）保育実習の目的を解説する （事前事後学修課題の内容） 保育実習のイメージを自分なりに考えてみる
第2回	保育実習について（保育実習全般について）	（学修内容）保育実習の全体像を解説する （事前事後学修課題の内容） 授業のまとめをレポートする
第3回	保育実習について　（障害児施設について）	（学修内容）障害児施設における実習の特性を解説する （事前事後学修課題の内容） 授業のまとめをレポートする
第4回	保育実習について　（養護系施設について）	（学修内容）養護系施設における実習の特性を解説する （事前事後学修課題の内容） 授業のまとめをレポートする
第5回	実習ノートの書き方の講義	（学修内容）実習ノートの書き方を解説する （事前事後学修課題の内容） 授業で出された課題を仕上げる
第6回	実習についての質問の会	（学修内容）実習にあたっての質問を出す （事前事後学修課題の内容） 質問を考えてくる
第7回	実習ノートの書き方の演習	（学修内容）第5回の講義を受けて小グループで演習を行う （事前事後学修課題の内容） 授業を受けて、指摘された課題を書き直す
第8回	実習目標の立て方についての講義	（学修内容）実習目標の立て方について解説する （事前事後学修課題の内容） 施設実習を成功させるために自分の目標を考える
第9回	実習にあたっての諸留意事項	（学修内容）実習に対する心構え・諸手続を伝える （事前事後学修課題の内容） 諸手続を完了する
第10回	各自の実習目標を検討する	（学修内容）小グループで実習目標を検討する （事前事後学修課題の内容） 実習目標を立て直す
第11回	施設実習を成功させるためのポイント	（学修内容）施設実習を成功させるためのポイントを解説する （事前事後学修課題の内容） 授業の内容をまとめて、施設の概要や目的を調べる
第12回	春実習に向けての個人面談	（学修内容）個人面談を実施する （事前事後学修課題の内容） 面談をうけて、課題を見直す
第13回	名札作製など実習準備	（学修内容）名札や自己紹介カードをつくる （事前事後学修課題の内容） 名札や自己紹介カードをつくる
第14回	課題に基づいた事前学習	（学修内容）自分の課題に基づいて事前学習する （事前事後学修課題の内容） 自分の行く施設について調べる
第15回	春実習直前指導	（学修内容）春実習の諸注意を確認する （事前事後学修課題の内容） 実習の準備ができているか確認する

授業名	情報資源組織演習	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4819
英文名	Bibliographic Organization Practice	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	松田　泰代	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	図書館で扱う情報資源の組織化（目録作業・分類作業・件名作業）を演習形式で学び、図書館で目録作成・分類作成ができる実務能力の育成を図る。
学修成果到達目標	1）書誌データ作成についての基礎技術を身につける。 2）情報資源の主題をさまざまな観点から分析できる。 3）『日本十進分類法』をツールとして使えるようになり分類の付与ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　3時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	・日本図書館研究会編『情報資源組織法』日本図書館研究会, 2021, ISBN 9784930992284 ・適宜、Google classroom に掲載してあるワークシートを出力して持参すること
参考書	【購入不要】 ・小西和信・田窪直規編『情報資源組織演習 三訂』 樹村房, 2021, ISBN 9784883673506 ・もりきよし原編『日本十進分類法. 新訂10版簡易版』 日本図書館協会, 2018（授業時貸出） ・日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第４版』日本図書館協会, 1999, (授業ではデータベースを使用)
課題に対するフィードバックの方法	演習課題について授業中に口頭による全般的な解説・講評を行う。
留意事項	演習科目なので3分の2以上の出席と授業への積極的な参加を求める。 理解不足の内容が残らないよう予習・復習をして、知識の定着を図ること。 授業目的以外のパソコン使用は減点の対象となるので注意。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：大学図書館員の勤務経験を有する教員が、書誌データ作成業務、NIIの地域目録講習会の講師等を務めた経験をもとに授業を進める。

授業名	情報資源組織演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 情報資源組織論の概要と演習のねらい、演 習の進め方、おさらい IFLA-LRM、国際標準書誌記述(ISBD)	（学修内容）情報資源組織化の意義と目的、IFLA-LRM、国際標準書誌記述(ISBD) （事前事後学修課題の内容） 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。
第2回	書誌データ作成の実際(1)NCR2018:記録に関する総則、属性 総則	（学修内容）『日本目録規則 2018年版』の概要と目録規則の理解 （事前事後学修課題の内容） 『日本目録規則 2018年版』を読んでおくこと。
第3回	書誌データ作成の実際(2)NCR2018:体現形の属性の記録	（学修内容）体現形に関する記録の解説と演習 （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第4回	書誌データ作成の実際(3)NCR2018:その他の属性の記録	（学修内容）著作・表現形の記録の解説と演習 （事前事後学修課題の内容） 前前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第5回	書誌データ作成の実際(4)NCR2018:アクセス・ポイントの構 築	（学修内容）アクセス・ポイントの構築 （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第6回	書誌データ作成の実際(5)総合演習・試験(30点)	（学修内容）総合演習と試験 （事前事後学修課題の内容） 前回までのPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第7回	主題分析と分類作業の実際(1)NDC10の構成 主表、補助表、 相関索引	（学修内容）主題目録法、日本十進分類法(NDC)の構造、補助表の理解と適用 （事前事後学修課題の内容） 『日本十進分類法 第10版』に目を通しておくこと。
第8回	主題分析と分類作業の実際(2)NDC10の分類規程、小テスト	（学修内容）日本十進分類法(NDC)の分類規程、小テスト （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第9回	主題分析と分類作業の実際(3)NDL10 各類別	（学修内容）各類の理解と分類記号についての理解・演習 （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第10回	主題分析と分類作業の実際(4)NDC10 応用編、小テスト	（学修内容）分類記号の付与作業 基礎編、小テスト （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第11回	主題分析と分類作業の実際(5)総合演習・試験(20点)	（学修内容）分類記号の付与作業 応用編・試験 （事前事後学修課題の内容） 前回までのプリントを見て、復習をしておくこと。
第12回	主題分析と統制語彙適用の実際(1)BSH4 細目の結合順序	（学修内容）基本件名標目表(BSH)の構成と主標目の付与演習、と細目の結合順序 （事前事後学修課題の内容） 『基本件名標目標 第4版』に目を通しておくこと。
第13回	主題分析と統制語彙適用の実際(2)BSH 一般件名規定、特殊 件名規定、小テスト	（学修内容）件名規程(一般件名規定、特殊件名規定)、小テスト （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第14回	主題分析と統制語彙適用の実際(3)総合演習、小テスト	（学修内容）件名の付与作業、小テスト （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第15回	主題分析と統制語彙適用の実際(4)BSHとNDLSH、小テスト	（学修内容）BSHとNDLSHの比較、Web NDL Authorities、小テスト （事前事後学修課題の内容） 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。

授業名	フードコーディネート論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3763
英文名	Theory of Food Specialist	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	「食」とは生きるために必要な栄養の摂取のみならず、近年、心の栄養という面でもその重要性が注目されている。だからこそ演出することで、本当においしい状態や心地よい環境で食を提供することは大変重要であるといえる。そこでこの授業では、わが国および諸外国の食文化や調理文化、そしてテーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどについて学ぶとともに、食環境にも触れ、食生活をトータルにコーディネート出来る力を修得する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。
学修成果到達目標	1）「食」の精神的な意義を理解できる。 2）これからの食生活を豊かなものにコーディネートできる。 3）「食」に関する企画を立てることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』 建帛社
参考書	使用しない
課題に対するフィードバックの方法	課題や授業中に行う平常試験についてClassroomを利用して実施、解説を行う。
留意事項	フードスペシャリスト資格認定試験を意識した授業内容となる。資格取得希望者は、毎時間、試験勉強のつもりで受講すること。
オフィスアワー	初回の授業で連絡する。
実践的教育	

授業名	フードコーディネート論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フードコーディネートの基本理念	（学修内容）おいしさとは、もてなしの意味とは （事前事後学修課題の内容） テキストp.2-13を読んでおくこと。
第2回	食事の文化１（日本の食文化）	（学修内容）日本の食事文化について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.15-29を読んでおくこと。
第3回	食事の文化２（諸外国の食文化）	（学修内容）諸外国の食事文化について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.29-33を読んでおくこと。
第4回	日本のテーブルウェア	（学修内容）日本の食器・食具について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.35-43を読んでおくこと。
第5回	西洋および中国のテーブルウェア	（学修内容）西洋および中国の食器・食具について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.43-51を読んでおくこと。
第6回	テーブルセッティングとテーブルコーディネート	（学修内容）テーブルセッティングの基本ルールとテーブルコーディネートのポイントを学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.51-55を読んでおくこと。
第7回	食事のサービスとマナー	（学修内容）食卓におけるサービスとマナーの基本を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.57-80を読んでおくこと。
第8回	メニュープランニング	（学修内容）献立作成に必要な知識を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.81-98を読んでおくこと。
第9回	食空間のコーディネート	（学修内容）食空間のコーディネートの基礎を学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.99-122を読んでおくこと。
第10回	フードビジネスの展開	（学修内容）レストランビジネスの展開について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.123-133を読んでおくこと。
第11回	フードビジネスの投資・収支計画	（学修内容）投資計画、収支計画の作成について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.134-143を読んでおくこと。
第12回	食企画の実践（企画案のたてかた）	（学修内容）食企画のたてかたを学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストp.146-163を読んでおくこと。
第13回	食企画の実践（企画する）	（学修内容）食企画をたててみる （事前事後学修課題の内容） 各自で食企画の素案をたててくる
第14回	食企画の実践（評価）	（学修内容）たててみた食企画について評価しあう（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 実際に行われている食企画について調べてくる
第15回	これまでの復習	（学修内容）認定試験の過去問題を利用して復習する （事前事後学修課題の内容） これまでの授業内容を振り返って復習しておくこと

授業名	食品加工学	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2735
英文名	Food Processing	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	有田　真理	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	食品の加工は、食品原材料を精製、調味、発酵などの手法を用いて、貯蔵性に優れ、より安全で、人間の嗜好に合った食品を作ることを目的として行われる。また、この加工によって食品素材よりも商品価値を高めた食品とすることができる。講義形式の授業を通して、食品加工についての理論を学び、主要な加工食品についての製造工程とその原理及び加工食品としての特質、貯蔵法について、また、近年市場に流通している多様な食商品についての知識を深める。
学修成果 到達目標	1) 食品素材の特性を理解できる。 2)　食品加工の原理と方法を理解できる。 3)　食品の保存性と規格を理解できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	食物学II 第2版―食品材料と加工，貯蔵・流通技術―（ISBN:978-4-7679-0733-8）
参考書	授業にて指示する
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	フードスペシャリスト資格認定試験に向けて授業を行います。資格取得を目指して真剣に取り組んでもらいたい。 知識の確認をするためにICTを用いて、小テストを実施します。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。
実践的教育	

授業名	食品加工学

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食をめぐる現状と課題	（学修内容）食品の多様化と加工食品の急増時代における課題について （事前事後学修課題の内容） 食品の種類や特性を調べておく
第2回	食品加工の原理	（学修内容）食品の特性を活かした加工法の原理を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 食品の加工方法について調べておく
第3回	穀類の加工食品	（学修内容）米や小麦等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 穀類の加工品について調べておく
第4回	いも類の加工食品	（学修内容）ジャガイモやサツマイモ等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） イモ類の加工品について調べておく
第5回	種実類と豆類の加工食品	（学修内容）大豆やクリ等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 豆類や種実類の加工品について調べておく
第6回	野菜類の加工食品	（学修内容）葉菜類などの特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 野菜類の加工品について調べておく
第7回	果実類、きのこ類、海藻類の加工食品	（学修内容）仁果類や椎茸、緑藻類等の加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） きのこ類、果実類の加工品について調べておく
第8回	魚介類の加工食品	（学修内容）主な魚介類の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 魚介類の加工食品について調べておく
第9回	食肉類の加工食品	（学修内容）牛肉や豚肉、鶏肉等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 畜肉類の加工品のついて調べておく
第10回	卵類の加工食品	（学修内容）鶏卵等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 卵類の加工品について調べておく
第11回	乳類の加工食品	（学修内容）牛乳等の特性とその加工品について理解する （事前事後学修課題の内容） 乳類の加工品について調べておく
第12回	食用油脂	（学修内容）食用植物油脂や動物油脂等の種類とその特性について理解する （事前事後学修課題の内容） 油脂類について調べておく
第13回	調味料、香辛料、嗜好品	（学修内容）調味料と香辛料、嗜好品の種類と特徴について理解する （事前事後学修課題の内容） 調味料や香辛料について調べておく
第14回	食品の保存と規格	（学修内容）食品の保存法や規格基準、保健機能食品、特別用途食品について理解する （事前事後学修課題の内容） 食品の保存方法について調べておく
第15回	現代の加工技術について	（学修内容）加工技術の発展とその問題点について （事前事後学修課題の内容） 加工技術の種類を調べておく

授業名	保育実習指導III	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3778
英文名	Guidance on Child Care Training III	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山川　宏和	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	保育実習IIIでは、児童館において保育実習を行う。そのために必要な事項として、保育実習Ｉの振り返り、児童館の機能や対象者の理解、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。
学修成果到達目標	1）保育所実習の振り返りを通して、自己の課題を明確化する。 2）児童館の役割を理解し、計画を立案して実践できるようにする。 3）保育士に必要な資質を理解し、実習の目標に反映させることができる。 4）保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	特に無し。
参考書	使用しない。
課題に対するフィードバックの方法	保育所実習の振り返り、児童館実習の目標作成など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習IIIの単位が取得できることを条件とする。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	保育実習指導Ⅲ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育実習Ⅰの振り返り	（学修内容）保育実習Ⅰを振り返り課題を明らかにする （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰで使用したメモや制作物を見て振り返っておく
第2回	保育実習報告会	（学修内容）保育実習Ⅰでの体験を交流する （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰでの体験を振り返っておく
第3回	児童館実習についての解説（保育者の役割）	（学修内容）保育実習Ⅲでの課題を保育者の役割に焦点をあてて理解する （事前事後学修課題の内容） 児童館について調べておく
第4回	児童館実習についての解説（児童館の役割）	（学修内容）保育実習Ⅲでの課題を児童館の役割に焦点をあてて理解する （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰで学んだことを整理しておく
第5回	保育実習事後面談	（学修内容）個人面談を実施する （事前事後学修課題の内容） 面談の内容をまとめる
第6回	これまでの実習の振り返り	（学修内容）グループに分かれて２回生と交流し、実習での体験を伝える。実習に関するディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰの日誌を見直す
第7回	保育所実習からの課題抽出	（学修内容）抽出された課題を達成する方法を考える （事前事後学修課題の内容） 保育実習Ⅰの学びを振り返る
第8回	保育実習Ⅰをふまえた実習目標の設定	（学修内容）実習目標を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 実習目標を作成する準備をしてくる
第9回	公立・私立保育園、児童福祉施設の仕事の実際	（学修内容）公立・私立の保育園、児童福祉施設の仕事の実際を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 質問したい項目をまとめておく
第10回	実習目標の見直しと実習の諸注意事項の確認	（学修内容）グループワークを通じて、実習目標を相互に見直す。検便など実習の諸注意事項を確認する （事前事後学修課題の内容） 実習目標を再考する。諸注意事項を確認する。
第11回	実習記録の書き方	（学修内容）児童館実習にふさわしい記録の書き方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 保育所実習の記録を読み返しておく
第12回	保育実習Ⅲに向けての個人面談	（学修内容）個人面談を行う （事前事後学修課題の内容） 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる
第13回	これまでの実習で残された課題の精査	（学修内容）これまでの実習を振り返り、最後の実習の課題を明らかにする （事前事後学修課題の内容） 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す
第14回	保育士になるための講座	（学修内容）保育士になるために必要な学びを先輩から聞く （事前事後学修課題の内容） 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる
第15回	保育実習Ⅲ直前指導	（学修内容）保育実習Ⅲの諸注意事項を確認する （事前事後学修課題の内容） 実習に必要な事前準備を完了しておく

授業名	ビジネス実務総論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1702
英文名	Business Routine Concept	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	市川　順子	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでの準備としてビジネス社会の仕組みや活動について学修します。 また、テキストの第３部を予習・復習に使い理解を深め、社会人としての基礎能力を身につけていきます。
学修成果到達目標	１）ビジネス社会を理解できる。 ２）職業人として求められる基本的な知識を理解できる。 ３）ビジネス実務全体に必要な情報業務や対人業務に関する知識・スキル・態度およびそれらを活用するための力を身につ けることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 ■口述　□実習　□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	授業時に配布します。
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします。 解説については、授業内で行います。
留意事項	社会人になるまでに社会(世の中のできごと)に対して興味・関心を持ち、新聞や企業のHPなどで自分が目指す業界の情報を積極的に収集してください。 受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付応対、電話応対、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準１級面接審査員の経験を有する。

授　業　名	ビジネス実務総論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/ビジネス社会とは	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容） 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと。
第2回	企業の種類	（学修内容）企業の種類・組織について学ぶ （事前事後学修課題の内容） テキストを読み、ふりかえりシートを使って予習しておく。 両親等身近な人が働く企業の種類を確認する。
第3回	社会と企業	（学修内容）社会における企業の役割を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 各自が興味のある企業のＣＳＲを調べておく。
第4回	企業のＣＳＲ (ゲストスピーカー)	（学修内容）企業の方を招聘して、企業のＣＳＲについて詳しく学ぶ 授業を受けた感想を書いて提出する （事前事後学修課題の内容） 自分自身が調べた企業のＣＳＲと招聘した方の企業のＣＳＲを比較して振り返る。
第5回	企業の会計	（学修内容）企業会計について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 各自が興味のある企業の決算について調べておく。
第6回	日本経済の流れと身の回りの経済	（学修内容）戦後から現代までの経済の流れについて学び、日常生活と経済についての関係について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 身の回りのものの値段について調べてみる。 ふりかえりシートを使って復習する。
第7回	税と社会保障	（学修内容）税金の種類と社会保障について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 税金の種類、社会保険について調べておく。 授業で視聴した社会保障についての動画を復習のため再度視聴する。
第8回	労働と法律	（学修内容）労働者を守る法律について学ぶ 正規雇用と非正規雇用の違いを考える （事前事後学修課題の内容） 労働三法について調べておく。 ふりかえりシートを使って復習する。
第9回	人生とお金 (ゲストスピーカー)	（学修内容）企業の方を招聘して、人生にかかわるお金について学び、自分自身のライフプランを考えてみる　授業を受けた感想を書いて提出する （事前事後学修課題の内容） 生活にかかるお金(費用)を調べておく。 ライフプラン作成後、今、自分は何をするべきか考える。
第10回	企業研究１ 今まで学習した内容をふまえて(CSRや福利厚生に視点をおいて)調べたい企業を決める	（学修内容）グループで興味のある企業を選び、その企業について調べる （事前事後学修課題の内容） グループで選んだ企業について、各人でも調べて資料を作成しておく。
第11回	企業研究２ 一つに絞った企業について発表用の資料を作成する	（学修内容）グループで調べた企業について、PPT等の資料を作成し、発表の準備をする （事前事後学修課題の内容） 発表のための準備(資料作成・発表の練習)をする。
第12回	企業研究３ グループごとに発表する	（学修内容）各グループが調べた企業について発表する （事前事後学修課題の内容） 発表後、振り返りをする。 他のグループと自分たちの発表を比較検討する(良い点・改善点)。
第13回	ボランティア	（学修内容）ボランティアについて学ぶ （事前事後学修課題の内容） 自分自身ができるボランティア活動を考えてみる。 できれば、調べたボランティア活動に参加する。
第14回	さまざまな働き方	（学修内容）働く意義や働き方の変化について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 回りの人たち(両親等)がどのような働き方をしているのか調べておく 自分がどのような働き方をしたいのか考える。
第15回	まとめ	（学修内容）これまで学習したことを整理し、確認する （事前事後学修課題の内容） 自分自身のキャリアプランを考える。 どのような企業でどのように働きたいのか、10年先の目標を考える。

授業名	応用ビジネス実務論	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1708
英文名	Applied Business Routine Concept	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅　俊郎	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	変化の厳しい現代社会の中にあって、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなどデータ分析の実践を通して、理論的に考察していく。 課題の提出にはICTを活用していく。 ※　受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。
学修成果到達目標	1）創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2）データ分析を通して、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3）論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時に資料を配布する。
参考書	適宜授業内に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	ICTなどを活用して、課題に対して必要なアドバイスを行います。
留意事項	
オフィスアワー	授業終了後に実施する。
実践的教育	

授業名	応用ビジネス実務論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画・内容・注意事項等。家計調査の内容について、説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、シラバスを一読しておいてください。事後、授業内容を整理してください。
第2回	マーケティングに使える家計調査について	（学修内容）家計調査の内容について、説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、授業で使用する家計調査のデータ内容をみておいてください。事後、授業の内容を整理してください。
第3回	データの加工について	（学修内容）データの加工の手順について実践します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、家計調査のデータを用いて、データを整理してみてください。事後、授業の内容を整理してください。
第4回	図の示し方について	（学修内容）相手に伝わるように、データを図で示す方法について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、どのようなところで折れ線グラフ、帯グラフ、円グラフが使われているのか調べてみる。事後、内容を整理してみる。
第5回	地域で異なる消費支出についてⅠ---肉類	（学修内容）　実際にデータを用いて、地域による肉類の消費支出額の違いを分析して行きます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、地域により牛肉、豚肉、鶏肉の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第6回	地域で異なる消費支出についてⅡ---野菜類	（学修内容）　実際にデータを用いて、地域による野菜類の消費支出額の違いを分析し　ていきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、地域により野菜類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第7回	地域で異なる消費支出についてⅢ---魚類	（学修内容）　実際にデータを用いて、地域による魚類の消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、地域により魚類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第8回	地域で異なる消費支出についてⅣ---果物類	（学修内容）　実際にデータを用いて、地域による果物類の消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、地域により果物類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第9回	年齢で異なる消費支出についてⅠ---食品	（学修内容）　実際にデータを用いて、年齢による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、年齢により食品の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第10回	年齢で異なる消費支出についてⅡ---教養娯楽サービス	（学修内容）　実際にデータを用いて、年齢による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、年齢により教養娯楽サービスの消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第11回	収入で異なる消費支出についてⅠ---食品	（学修内容）　実際にデータを用いて、収入による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、収入により食品の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第12回	収入で異なる消費支出についてⅡ---教養娯楽サービス	（学修内容）　実際にデータを用いて、収入による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、収入により教養娯楽サービスの消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第13回	仮説の設定について	（学修内容）仮説の設定について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、これまで作成したものを振り返って、どのような傾向がみられたのか整理してみる。事後、仮説を設定してみる。
第14回	検証について	（学修内容）検証について説明します。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、これまで作成したものを振り返って、どのように検証できるのか、整理してみる。事後、自分で設定した仮説を検証してみる。
第15回	まとめ	（学修内容）データ作成について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に、レポートで提出する仮説を整理してみる。事後、仮説から検証へと展開するレポートを書いてみる。

授業名	ビジネス実務演習	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1703
英文名	Practical Business Affairs	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	佐藤　善信	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	IT化によるビジネス環境の変化とともに仕事の仕方も変化してきている。それに対応するビジネスワーカーの基礎能力を身につける。本科目は「上級ビジネス実務士」の資格を取得するための基本科目である。実際のビジネスのプロセスがどのようになっているのか、そのプロセスではどのような仕事が必要とされているのか、またその仕事を行なうためにはどのような知識や能力が必要となるのかを理解し、ビジネス・プロセスで必要とされる専門知識や実践能力を涵養することを授業の目的とします。
学修成果到達目標	1）ビジネスで必要なマナーについて理解・実践し、効率のよい仕事の進め方ができる。 2）ビジネスコミュニケーションの知識・技能を身につけ、状況に応じて適切な行動ができる。 3）Googleのドキュメント類の基本操作が身につく。 4）「知る」だけでなく「できる」ようになることを目標とする。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	使用しません。
参考書	授業中に、適宜、指示します。特に、2024年度版 要点と演習「ビジネス能力検定　3級」（実教出版）、は重要です。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の提出の記入用紙に、課題に対しての修正箇所とコメントを付けて返却します。
留意事項	* 企業で働くことを希望する学生が履修し、 新聞等から社会の動きに興味を持つようにすること。 * 配布プリントは常に用意すること。 * 実習は恥ずかしがらず積極的参加すること。 * 受講時の言動はオフィスワーカーに求められる、時間・期限・連絡・正確を守ること。
オフィスアワー	担当授業前後に実施する
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。

授業名	ビジネス実務演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス ビジネスで必要とされる知識や能力の紹介、上級ビジネス実務士とは何か？	（学修内容）本講義の目標理解とシラバス・授業の進め方説明。キャリアについて （事前事後学修課題の内容） (事前)シラバスの確認 (事後)企業に就職して仕事をすることのイメージを具体的に考えてくる
第2回	産業のバリューチェーンと分業体制	（学修内容）業界のなかの分業や専門化がどのように関連しているのかを学習する （事前事後学修課題の内容） (事前)どのような仕事に就きたいのかを考えてくる (事後)就きたい仕事のイメージを明確にする
第3回	キャリア自律性	（学修内容）キャリア自律性について理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)会社を辞めようと思うときを多面的にイメージする (事後)どのようなキャリア遍歴のパターンがあるのかを明確にする
第4回	キャリア・トランジション	（学修内容）自分のキャリアを変える時の基本的考え方を理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)自分の理想とする働き方をイメージしてくる (事後)理想的なキャリアをどのようにして達成するのかを理解する
第5回	様々なキャリア・モデル：プロティアンとバウンダリーレス・キャリア	（学修内容）キャリア変遷の様々なモデルとその特徴を理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)キャリア・トランジションで直面する課題について考えてくる (事後)その課題の克服方法を理解する
第6回	井村屋グループの中島伸子会長のケーススタディ	（学修内容）井村屋の中島伸子会長のキャリア・トランジションを考えることにより、これまでのキャリア関係で学習した内容を肉付けする （事前事後学修課題の内容） (事前)女性のキャリア・トランジションを具体的にイメージしてくる (事後)自分の理想的なキャリア・トランジションを具体的に考える
第7回	ヤッホーブルーイングの井手直行社長のケーススタディ	（学修内容）ヤッホーの井手直行社長のキャリア・トランジションを考えることにより、これまでのキャリア関係で学習した内容を肉付けする （事前事後学修課題の内容） (事前)キャリア・トランジションの男女間の違いを考えてくる (事後)キャリア・トランジションの男女間の違いを明確にする
第8回	自分の強みの発見と活用方法：ポジティブ心理学の活用	（学修内容）キャリアの自分の強みを発揮しながら構築する方法を理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)自分の強みと弱みを整理しておく (事後)ポジティブ心理学のフレームを活用して、分の強みを明確にする
第9回	ストレングス・ファインダーとその他のモデル	（学修内容）ストレングス・ファインダーを始めとする様々な強みに関するモデルを理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)自分の強みと弱みを整理しておく (事後)ポジティブ心理学と他のモデルとの違いと共通点を理解する
第10回	職能としてのマーケティング	（学修内容）マーケティング職能について具体的な仕事内容を理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)職能（機能）としてのマーケティングについてイメージしてくる (事後)マーケティングの役割と仕事内容について明確にイメージする
第11回	職能としての経営戦略（経営企画）	（学修内容）経営戦略の機能を仕事の側面から理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)職能（機能）としての経営戦略についてイメージしてくる (事後)経営戦略の役割と仕事内容について明確にイメージする
第12回	職能としての人的資源管理	（学修内容）人的資源管理（人事部）の機能を仕事の側面から理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)職能（機能）としての人的資源管理についてイメージしてくる (事後)人的資源管理の役割と仕事内容について明確にイメージする
第13回	必要とされる人的資本経営	（学修内容）近年、世界中で話題となっている人的資本経営の経営の中での役割について理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)経営の中での人的資本経営についてイメージしてくる (事後)人的資本経営の役割と仕事内容について明確にイメージする
第14回	逸脱的職場行動とは？	（学修内容）近年、世界中で大きな問題となっている「逸脱的職場行動」の形態と発祥の原因を理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)逸脱的職場行動について具体的にイメージしてくる (事後)逸脱的食が行動の形態別の発生理由を明確に理解する
第15回	インシビリティ・マネジメント	（学修内容）逸脱的職場行動の発生を防止する手法であるインシビリティ・マネジメントを組織文化の側面から理解する （事前事後学修課題の内容） (事前)逸脱的職場行動が発生しない組織文化をイメージしてくる (事後)インシビリティ・マネジメント概念について明確に理解する

授業名	ビジネス実務実践演習	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1709
英文名	Business Manner Practice Seminar	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	市川　順子	対象学生	生活情報1回生				

授業の概要	社会に出たときに必要とされる知識とスキルを学び、即、実践できることを目標に、演習を行います。
学修成果到達目標	1）職業人として必要な基本的知識を身に付け実践する力をつけることができる。 2）仕事を進める上での課題を見つけ、問題解決に向けて論理的思考ができる。 3）さまざまな場面・状況を想定し、臨機応変に対応することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　□レポート　□制作物 ■口述　□実習　■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』 宮田篤/水原道子/上田知美　著 樹村房
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては確認をして返却し、解説については授業内で行います。 実技(ロールプレイング)については、その都度コメントします。
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付応対、電話応対、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準１級面接審査員の経験を有する。

授　業　名	ビジネス実務実践演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容） 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。
第2回	言葉遣い１ 敬語・クッション言葉・改まった表現	（学修内容）敬語を復習し、お客さまとの会話、社内での会話を演習によって学ぶ （事前事後学修課題の内容） 敬語・クッション言葉・接遇用語について確認しておく。
第3回	言葉遣い２ さまざまな場面での言葉遣い	（学修内容）遅刻しそうなとき、休暇をとるときなど、さまざまな場面での言葉遣いを演習によって学ぶ （事前事後学修課題の内容） 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第4回	報・連・相	（学修内容）社内における報告・連絡・相談のポイントを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第5回	電話応対１(基本演習)	（学修内容）電話応対の基本を確認し、演習によって学ぶ （事前事後学修課題の内容） 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第6回	電話応対２(応用演習)	（学修内容）電話応対の応用を確認し、演習によって学ぶ わかりやすい伝言メモを書くコツを学ぶ （事前事後学修課題の内容） 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第7回	来客応対（演習）	（学修内容）来客応対の基本(受付・案内・見送り)を確認し、演習によって学ぶ （事前事後学修課題の内容） 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。 名刺交換については、友人や家族と練習しておく。
第8回	文書作成１ 社内文書(案内文)	（学修内容）文書作成の基本的ルールを学び、簡単な社内文書を作成する （事前事後学修課題の内容） 文書作成のポイント・レイアウトを確認しておく。
第9回	文書作成２ 社内文書(報告書)	（学修内容）報告書のフォーム(レイアウト)を学び、報告書を作成する （事前事後学修課題の内容） 報告書に必要な項目は何か確認しておく。
第10回	文書作成３ 社外文書と内定のお礼状	（学修内容）社外文書のポイントを学び、簡単な取引文書を作成する 内定のお礼状の書き方を学び、作成する （事前事後学修課題の内容） 頭語と結語、時候のあいさつについて確認しておく 例にならって、お礼状を作成する。
第11回	慶弔業務	（学修内容）慶弔業務のそれぞれの対応について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 上書き等、学んだことを確認しておく。
第12回	郵便の知識・ファイリング	（学修内容）郵便の知識とファイリングの方法を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 自分自身の資料・プリントをファイリングしてみる。
第13回	接客応対	（学修内容）お客さまを意識した接客応対を学ぶ 相手の立場に立っての声かけを考える （事前事後学修課題の内容） 日常で目にする接客について考えてみる。
第14回	クレーム対応	（学修内容）誠実なクレーム対応について学ぶ （事前事後学修課題の内容） クレームの理由や対応について確認しておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまで学習したことを整理し、確認する （事前事後学修課題の内容） これまで学習したことを実践できるよう確認しておく。

授業名	総合演習Ⅰ（管理栄養士）	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3753
英文名	Integrated Study Ⅰ (national registered dietitian)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子・田中　愛佳・富安　広幸・平　正人	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	専門分野の各講義や実習で学習した内容を発展させ理解を深めるために、臨地実習を想定した課題・情報収集や分析を行い、解決策を自らで考案し課題解決に取り組む。衛生管理や栄養指導の実際を修得する。また、栄養評価や栄養管理に必要な総合的能力を養う。 臨地実習の事前事後指導を行うことで実習を効果的なものにする。管理栄養士としての実践力をつける。
学修成果到達目標	1）管理栄養士としての基礎を修得して、実践的な力がついている。 2）臨地実習に向けて、総合力、応用力がついている。 3）マナーや言葉遣いなど、社会人として必要なスキルが身についている。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	○	汎用的技能
	◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録（後日配布） 2025年版栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） 管理栄養士・栄養士必携 2025年度版 公益社団法人日本栄養士会 編（第一出版）
参考書	日本人の食事摂取基準(2025年版) 佐々木敏 監修（第一出版） 臨地実習・校外実習ハンドブック 藤原政嘉/田中俊治/赤尾正 編（みらい） 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 日本糖尿病学会編・著（糖尿病協会・文光堂）
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション時のアドバイス・指導 提出物への各自コメント記入
留意事項	臨地実習における専門的知識および技術の統合を図るための事前指導を含む。 国家試験対策などの結果も参考に、総合的な学力について判断する。
オフィスアワー	研究室に貼付します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者としてや私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等、管理栄養士として勤務、総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務など、これらの経験の実例を照会し実践的な授業をします。

授業名	総合演習Ⅰ（管理栄養士）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	管理栄養士の役割と業務について	（学修内容）オリエンテーション 管理栄養士の役割について確認する （事前事後学修課題の内容） 栄養士法など関連法規を再読しておく
第2回	臨地実習の目的と意義	（学修内容）臨地実習の目的と意義について詳しく学ぶ （事前事後学修課題の内容） 臨地・校外実習要録を熟読し、ポイントをまとめておく
第3回	臨地実習の心構え	（学修内容）(外部講師予定)実習生としての心構えやマナーについて考える (ロールプレイ含む) （事前事後学修課題の内容） マナーや敬語について各自復習をしておく
第4回	臨地実習課題への取り組み方法	（学修内容）病院・福祉施設・保健所など各施設での設定課題取り組む （事前事後学修課題の内容） 各施設に置ける関連トピックについて検索し、施設の特徴を調べておく
第5回	情報収集	（学修内容）課題の状況や原因などについて現状を調べる （事前事後学修課題の内容） 既存資料、各種調査結果から必要な資料の収集を行い持参する
第6回	課題の実践と研究	（学修内容）課題解決策を提案しまとめる（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） グループで協力し、課題解決策案をまとめる
第7回	実習目標の設定	（学修内容）課題への解決策と改善への取り組みについて、各自目標を設定する （事前事後学修課題の内容） PDCAサイクルなどを復習のこと
第8回	特定給食施設における給食運営について	（学修内容）(外部講師予定)特定給食施設における給食業務の実際について学ぶ 特に給食会社での業務について （事前事後学修課題の内容） 給食経営管理論（特にHACCP）について復習しておく
第9回	臨地実習「給食の運営」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）臨地実習での目標等を設定する （事前事後学修課題の内容） 各実習先にあった自己目標を設定できるよう、施設について調べる
第10回	臨床現場での食事・栄養管理情報の取得とミールラウンド	（学修内容）ベッドサイド訪問における管理栄養士の役割と使命について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 栄養教育論を復習しておく
第11回	「臨床栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）栄養管理計画の作成と評価、チーム医療活動の実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学について復習しておく
第12回	特定給食施設における給食マネジメントについて	（学修内容）臨地実習先で確認・検討する点等をグループでまとめる （事前事後学修課題の内容） 各自の目標設定・実習計画を明確にしておく
第13回	「給食経営管理臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）臨地実習に出向く際の準備や各自のテーマについて考える （事前事後学修課題の内容） 給食の運営に関して、各自持ち寄った計画へのグループディスカッションを行う
第14回	公衆栄養行政の現状と事業の実際	（学修内容）栄養行政を取り巻く現状の課題と法律や施策との関係を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 公衆栄養学について復習しておく
第15回	チーム医療・検査値の活用	（学修内容）現場で活用するデータについて確認する （事前事後学修課題の内容） 症例について各自検討しておくこと

授業名	総合演習Ⅱ（管理栄養士）	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC4807
英文名	Integrated Study Ⅱ (national registered dietitian)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡　綾子・田中　愛佳・富安　広幸・平　正人	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	これまで学んできた専門分野の内容を横断的に理解するため、医療・行政・福祉施設などにおける食と栄養の課題を設定し、解決策を考察し課題解決に取り組むことで、管理栄養士として必要な栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養う。
学修成果 到達目標	1）専門分野の内容を横断的に理解して、栄養評価や管理が行える力を修得している。 2）これまでの専門分野の学びと関連付けて各施設における食と栄養の課題を発見し、課題への解決策をマネジメントサイクルに沿って実施できる。 3）応用的な現場課題に対し、自ら科学的根拠を基に改善策を提案できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜プリント配布 ※「総合演習Ⅰ」で使用した「管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録」を継続して使用します。
参考書	日本人のための食事摂取基準（2025年版） 佐々木敏 監修（第一出版） 管理栄養士・栄養士必携（2024年度版又は2025年度版）公益社団法人日本栄養士会 編（第一出版） 糖尿病治療のための食品交換表第7版 日本糖尿病学会 編・著（日本糖尿病協会・文光堂）
課題に対するフィードバックの方法	提出物について、コメントを添えて指導を行う。 プレゼンテーションについて、教員・クラスメイトからのコメントを返す。
留意事項	管理栄養士としての基礎的な視点を養った上で臨地実習に臨めるよう、健康管理を含め積極的に自らの力を発揮できるよう、総合的な復習・準備をしっかり行うこと。 国家試験対策セミナーの出席および国試模擬試験結果なども参考に、総合的な学力について判断する。
オフィスアワー	研究室に貼付します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者としてや私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等、管理栄養士として勤務、総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務など、これらの経験の実例を照会し実践的な授業をします。

授業名	総合演習Ⅱ（管理栄養士）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 臨地実習の詳細について	（学修内容）臨地実習についてのスケジュールと準備について知る より成果のある実習記録の取り方について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 臨地実習の意義について確認しておく
第2回	特定給食施設における給食マネジメントについてのこれからの課題	（学修内容）給食マネジメントについて、現場での取り組みの実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 給食経営管理論について復習しておく
第3回	臨床現場での栄養・食事指導における課題Ⅰ	（学修内容）病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ （集団指導　グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第4回	臨床現場での栄養・食事指導における課題Ⅱ	（学修内容）病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ （個別指導　ロールプレイング） （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第5回	健康増進・栄養行政におけるこれからの課題・地域住民への管理栄養士の役割について	（学修内容）保健所・保健センターにおける住民課題について学ぶ 公衆栄養活動のための、地域における役割を確認し活動方法を考える （事前事後学修課題の内容） 公衆栄養学について復習しておく
第6回	管理栄養士の役割とその重要性について確認し、自己の実習目標を設定する	（学修内容）管理栄養士の仕事と役割について理解し、自己の実習目標を定める （プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容） 前もって、自ら学ぶ点について整理しておくこと
第7回	健康増進・栄養行政における食環境整備の課題について	（学修内容）社会における食環境整備の課題を掘り下げ、PDCAサイクルに沿った改善策の提案を行う（グループワーク） （事前事後学修課題の内容） 地域の情報を収集しておくこと（教科書のみではなく、住民の声や事業などを検索）
第8回	チーム医療・職種間の連携について	（学修内容）実際の現場での事例を基に、グループで意見を出し合い解決策を考える （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学・栄養教育論を復習 現場の課題について検索しておくこと
第9回	経腸栄養剤・薬剤について	（学修内容）現場で活用される製剤やその使い方について確認する （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学・給食経営管理論を復習しておくこと
第10回	病院・施設での危機管理対応	（学修内容）感染症・災害などの危機管理体制についての現状を知るとともに、グループでディスカッションする （事前事後学修課題の内容） 危機管理に関する情報を収集し、多くの解決策を導きだせるよう準備すること
第11回	ケースワークⅠ（高血圧、糖尿病）	（学修内容）課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケアプランを作成する （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学を復習のこと
第12回	ケースワークⅡ （肝臓病・クローン病）	（学修内容）課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケアプランを作成する （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学を復習のこと
第13回	ケースワークⅢ （経管栄養）	（学修内容）主に高齢者症例いついて、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケアプランを作成する （事前事後学修課題の内容） 臨床栄養学を復習のこと
第14回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と相互評価Ⅰ	（学修内容）取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） （事前事後学修課題の内容） スムーズな発表ができるように事前準備をする
第15回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と相互評価Ⅱ まとめと総括	（学修内容）取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） 自己の取り組みに対する評価を行う （事前事後学修課題の内容） 授業と臨地実習での自己の学びを総合的に評価する

授業名	学校栄養教育概論	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4812
英文名	Nutrition Education at School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	坂本　裕子（Ｒ６～）	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	栄養教諭は食育基本法に基づき、学校教育において食育を推進していく主要な食の専門家として位置づけられている。 栄養教諭としての使命、役割を理解し、子どもたちに食生活が健康な身体をつくる基本であることを教えていくための基礎的な知識と技能を修得する。食に関する指導プラン、他教科との連携の在り方を理解するために、ディスカッションを行いながら授業を進め、学習指導案を仕上げて発表する。
学修成果 到達目標	1）栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導の全体計画を作成することができる。 2）児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、課題を解決する方策を考えることができる。 3）学校給食を生きた教材とし、食に関する学習指導案を作成することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	「四訂 栄養教諭論　-理論と実際-」金田雅代 編著　建帛社（「学校栄養教育指導論」で購入のもの）
参考書	食に関する指導の手引き－第二次改定版－　文部科学省 栄養教諭のための学校栄養教育論　補訂　笠原賢子編著　医歯薬出版株式会社
課題に対するフィードバックの方法	添削後、解説して返却します。
留意事項	課題を見いだし、要約力、コミュニケーション力を磨き、優れた食育実践ができる力をつけるよう励んでください。
オフィスアワー	授業終了後に対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：　京都府立高校　家庭科教員

授業名	学校栄養教育概論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養教論の制度と役割 学校給食法、食育基本法と食育推進計画	（学修内容）栄養教論の使命と職務内容、学校給食法、食育基本法と食育推進計画について学ぶ（テキストp.1-18） （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておく。テキストp.1-18をよく読み、要点をまとめる
第2回	食育推進計画と学校における食育推進について学ぶ	（学修内容）さまざまな市町の「食育推進計画」を調べ、地域社会の食育実践状況について理解を深める（テキストp.18-27） （事前事後学修課題の内容） テキストp.18-27をよく読み、要点をまとめ,出身市町の食育推進計画を調べまとめてくる
第3回	出身地の食育推進計画の発表 学習指導要領の意義と食育のあり方	（学修内容）各自調べた出身市町の「食育推進計画」について発表する。学習指導要領の食育のあり方と栄養教諭の役割について学ぶ（テキストp.47-54） （事前事後学修課題の内容） テキストp.47-54の要点をまとめ、出身市町の「食育推進計画」について発表の準備をする。各自発表後、評価、改善し提出する
第4回	食に関する指導の全体計画の作成、評価	（学修内容）食に関する指導の「全体計画」の内容を理解し、作成の手順、食育推進の評価について学ぶ（テキストp.55-65） （事前事後学修課題の内容） テキストp,55-65をよく読み、要点をまとめる
第5回	食に関する指導の全体計画の発表	（学修内容）出身小学校の「全体計画」について調べる（テキストp.55-65） それらを参考に、各自で全体計画案を作成、発表する （事前事後学修課題の内容） テキストp.55-65をよく読み、出身小学校の全体計画を参考に、各自で全体計画案を考え発表準備をする。発表後、改善点を理解する
第6回	「食に関する指導」の展開 指導計画の作成、実践、評価の方法	（学修内容）全体計画をふまえ、子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成し、実践、評価していくのかを学ぶ（テキストp.66-74） （事前事後学修課題の内容） 各自、全体計画案を検討改善し、提出する。テキストp.66-74をよく読み、要点をまとめる。
第7回	「生活科」における食に関する指導	（学修内容）「生活科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.97-101） （事前事後学修課題の内容） テキストp.97-101をよく読み、要点をまとめる。「生活科」に関する指導案を集める
第8回	「家庭科」「技術・家庭科（家庭分野）」における食に関する指導	（学修内容）「家庭科」「技術・家庭科（家庭分野）」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.101-108） （事前事後学修課題の内容） テキストp.101-108をよく読み、要点をまとめる。「家庭科」に関する指導案を集める
第9回	「体育」「保健体育科」における食に関する指導	（学修内容）「体育」「保健体育科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.108-114） （事前事後学修課題の内容） テキストp.108-114をよく読み、要点をまとめる。「保健体育科」に関する指導案を集める
第10回	「総合的な学習の時間」における食に関する指導	（学修内容）「総合的な学習の時間」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.114-121） （事前事後学修課題の内容） テキストp.141-121をよく読み、要点をまとめる。「総合的な学習の時間」に関する指導案を集める
第11回	「特別活動」における食に関する指導―栄養教諭の役割―	（学修内容）「特別活動」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.121-128） （事前事後学修課題の内容） テキストp.121-128をよく読み、要点をまとめる。「特別活動」に関する指導案を集める
第12回	「特別活動」における食に関する指導案の作成	（学修内容）「特別活動」における指導案の作成を行う（テキストp.121-128） （事前事後学修課題の内容） テキスト等を参考に、「特別活動」における指導案を作成する
第13回	「社会科」「理科」「道徳」における食に関する指導 食に関する指導案の作成	（学修内容）「社会科」「理科」「道徳」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ（テキストp.129-140）。教科を選び、食に関する指導の例を考える （事前事後学修課題の内容） テキストp.129-140をよく読み、要点をまとめる。「社会科」「理科」「道徳」に関する指導案を集める
第14回	食に関する指導案の作成、発表	（学修内容）教科を選び、発表に向け、各自で指導案を作成する （事前事後学修課題の内容） テキストを見直し、各自、教科を選び、指導案を作成し、発表の準備をする
第15回	食に関する指導案の発表、評価、改善	（学修内容）作成してきた指導案を発表し、互いに評価し、改善へとつなげる （事前事後学修課題の内容） 指導案を作成し、発表の準備をする。各自の発表後、指導案や発表の仕方について評価し、課題を把握し、改善を行う

授業名	学校栄養教育指導論	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC4813
英文名	Nutrition education in school	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山下　良子	対象学生	食物栄養3回生				

授業の概要	日本の食文化や児童・生徒を取り巻く社会的背景をもとに、食の専門家である栄養教諭としての使命、役割、職務内容を理解する。本講義では、学校教育において食に関する指導の専門的な知識・技能、及び教育者としての基礎的な技能を習得する。理解を深めるために、適宜グループワークを行い、事例検討や模擬授業等を通して実践できる力をつける。
学修成果到達目標	1）義務教育諸学校における食に関わる教育を実践するための専門的な知識及び技能を習得することができる。 2）児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、方策を考えることができる。 3）学校給食の実際と食に関する指導や家庭・地域との連携による食に関する指導について理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（60%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　■制作物 ■口述　□実習　■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	金田雅代編著『四訂栄養教諭』建帛社　2019年
参考書	「食に関する指導の手引きー第二次改定ー」文部科学省 その他の参考書は適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして模擬授業、事例検討などの実施後の講評を行う。 提出されたレポートは、今後の取組にも活かせるようコメントをつけて返却する。
留意事項	受講者間の討議に積極的に参加すること。
オフィスアワー	毎回の授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：全市的視野に立っての学校給食物資選定委員、学校給食検討委員、学校給食における「和食」の検討会議委員等を務めた。「京都市学校給食の手引き」編集を担当。また、京都市児童・生徒の食事調査を実施し、その結果を京都市学校給食の栄養管理や指導に活かした。児童・生徒の食に関する指導実践や食に課題を持つ子への支援を積極的に取組む。栄養教諭の研修会講師も行った。

授業名	学校栄養教育指導論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養教諭の役割と学校組織、学校給食や食に関する指導等の位置づけ、自分の食の原風景について考える。	（学修内容）栄養教諭の役割、学校組織と学校給食や食に関する指導等の位置づけについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容確認。自分の食の原風景について400字でまとめる。
第2回	学校給食と日本人の食生活について	（学修内容）学校給食の食事内容の変遷と日本人の食生活の関係を考察、自分の食事観への影響についてディスカッションする。第1回の課題を発表する。 （事前事後学修課題の内容） 日本の学校給食の変遷について調べる。
第3回	学校給食の教育的意義と役割について	（学修内容）学校給食の教育的意義や役割について学校給食法から読み解き、学校現場の実際について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 次回の「子どもの発達と食生活」（教科書P.37～46）について、考察しまとめる。
第4回	子どもの発達と学校給食について	（学修内容）子どもの健康や食生活の実態とそれに対しての学校給食の役割ついて考える。前回課題についてプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容） 「子どもの発達と食生活」に与える学校給食の影響について考えをまとめる。
第5回	学校給食の管理部門において栄養教諭の果たすべき役割	（学修内容）学校給食の献立作成と学校給食の管理部門おける栄養教諭の果たすべき役割についてディスカッションし、現状を知り理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） 自分の出身地における地場産物について調べる。
第6回	給食時間における食に関する指導について	（学修内容）給食時間における食に関しての栄養教諭の指導（小・中・支援学校）について、その実際の様子から理解する。 （事前事後学修課題の内容） 「学校給食献立を教材として」とはどの様な意味を持っているかについて考えをまとめる。
第7回	教科・領域等における食に関する指導について	（学修内容）教科・領域等授業における食に関する事項と栄養教諭の関わり方について考えをディスカッションし、現状を知り、理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教科・領域等の指導の中で栄養教諭はどの様に関わることが出来るか考えをまとめる。
第8回	個別的な相談指導・食に課題を持つ子への支援について	（学修内容）食について課題を持つ子への支援について事例から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 個別的な相談指導の対応について留意すべきことは何かをまとめる。
第9回	個別的な相談指導の事例検討	（学修内容）食に課題を持つ子の事例からカウンセリングの手法について理解し、グループワークとして模擬カンファレンスを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事例について、対応する子の実態把握と短期目標及び長期目標等について考えをまとめる。
第10回	給食だより等広報のあり方と家庭や地域との連携について	（学修内容）給食だよりの役割、効果的な活用の仕方と食育における家庭や地域との連携の在り方をディスカッションし、考える。 （事前事後学修課題の内容） 自分の出身地における地場産物を使った給食献立についての給食だよりを作成し、第12回に提出する。
第11回	食に関する指導の指導案と教材研究について①	（学修内容）食に関する指導の進め方と指導案の作成等について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業に向けて指導案を考える。
第12回	食に関する指導の指導案と教材研究について②	（学修内容）食に関する指導を効果的に進めるための教材（媒体）の実際を知り、食に関する指導への活かし方を考える。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業に向けて媒体計画を作成する。
第13回	食に関する指導の指導案と教材研究について③	（学修内容）食に関する指導を効果的に進めるための媒体について考える。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業に向けて媒体を作成する。
第14回	模擬授業	（学修内容）食に関する指導の模擬授業を行い、事後振り返り交流し、望ましい授業についてディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の事後感をまとめる。
第15回	「学校栄養教育指導論」全体のまとめ	（学修内容）15回の授業のまとめを行い、自分の考える「栄養教諭像」についてディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容） 15回の授業を振り返り、「栄養教諭」像について考えをまとめる。

授業名	栄養教育実習事前・事後指導	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC4814
英文名	Guidance to Teaching Practicum（Nutrition Teachers）	開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	塩田　二三子	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	栄養教育実習を充実したものにすることが、より良い教員への第一歩であることを自覚し、実習に向けての心構えを身につける。これまでの教職に関する科目や食物の専門科目の学びを活かし、実習計画を立案し、対象の児童生徒に適した指導案の作成、準備を行うとともに、責任ある社会人としての態度を育成する。 実習後は、客観的に自己分析を行い、より専門職としての資質を高めるよう学びを深める。
学修成果到達目標	1）栄養教育実習の意義と目的を理解し、必要とされる指導案を書くことができる。 2）子どもや学校組織の理解を深め、栄養教諭の責任と役割が理解できる。 3）児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導ができる。 4）実習後は実習を振返り、評価を行い、自己の課題を整理することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能	
◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	「栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート」芦川/田中/守田編著　学建書院 「四訂 栄養教諭論」金田雅代編著　建帛社（「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストです。） 「食に関する指導の手引き－第二次改定版－」文部科学省（「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストです。）
参考書	「栄養教諭のための学校栄養教育論」　笠原賀子　医歯薬出版
課題に対するフィードバックの方法	実習前はレポート、指導案を点検、添削し、個々の学生に適したアドバイスを行い、返却します。 実習後は報告会で個々にアドバイスを行うとともに、学びの成果の共有化をはかります。
留意事項	実習に必要な伝達事項がある場合や、教育実習の時期に合わせて開講時期、時間が変則的になる可能性があります。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授　業　名	栄養教育実習事前・事後指導

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養教育実習の法的根拠 学校経営、校務分掌など	（学修内容）栄養教育実習実施の法的根拠、受け入れの根拠等、 校内の組織、教育計画などを理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバス、テキストを確認しておく。 講義の内容をまとめる。
第2回	栄養教育実習の意義と目指す教師像	（学修内容）栄養教育実習の意義、教師に求められる資質や職務内容等について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト、課題プリントを読み、要点をまとめておく。 講義の内容をまとめる。
第3回	教育実習の準備と心構え	（学修内容）事前準備、一般的な注意事項を理解する。 実習ノートの作成、実習校への挨拶等、留意点を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト、課題プリントを読む。実習校の状況を調べておく。 打合せ等実習準備を進める。
第4回	児童心理の理解と指導	（学修内容）児童理解と対象者に応じた指導法についての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容） テキスト、課題プリントを読み、要点をまとめる。 講義の内容をまとめる。
第5回	特別活動における指導案の作成	（学修内容）特別活動の指導案・教材を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 指導案を作成、教材研究する。
第6回	家庭科における指導案の作成	（学修内容）家庭科の指導案・教材を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 指導案を作成、教材研究する。
第7回	模擬授業１．特別活動における指導案を用いて	（学修内容）模擬授業を行い、研究協議する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の指導案を確認する。 評価し、レポートにまとめる。
第8回	模擬授業２．家庭科における指導案を用いて	（学修内容）模擬授業を行い、研究協議する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の指導案を確認する。 評価し、レポートにまとめる。
第9回	研究授業の指導案の発表、評価	（学修内容）研究授業の指導案・教材を完成させ、発表、協議する。 （事前事後学修課題の内容） 指導案・教材を作成する。
第10回	教育実習の準備（最終確認）	（学修内容）実習準備を済ませる。 （事前事後学修課題の内容） 実習準備を完了する。
第11回	教育実習後の評価と課題	（学修内容）実習ノートのまとめ、課題のまとめをする。 お礼状の作成と発送を行う。 （事前事後学修課題の内容） 実習ノートをまとめる
第12回	教育実習の課題と改善	（学修内容）教育実習の報告をする。研究協議する。 （事前事後学修課題の内容） 実習報告を聞き、課題と改善について考える。 講義の内容をまとめる。
第13回	教育実習報告会の資料作り	（学修内容）報告会の資料を作る。 （事前事後学修課題の内容） 報告会の資料をまとめてくる。。
第14回	教育実習の報告会	（学修内容）教育実習の報告をする。研究協議する。 （事前事後学修課題の内容） 報告会の資料を読んでおく。 報告を聞いて、レポートにまとめる。
第15回	実習の振返り・まとめ	（学修内容）栄養教育実習を総括する。 教育実習ノート、履修カルテを完成させる。 （事前事後学修課題の内容） 課題レポートを作成する。 実習ノート、履修カルテを提出する。

授業名	教職実践演習（栄養教諭）	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4821
英文名	Educational practice seminar	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田　二三子	対象学生	食物栄養4回生				

授業の概要	大学での授業や栄養教育実習、地域活動やボランティア等を通して修得してきた知識や技能を活かし、履修カルテを用いた自己の振返りを基に、栄養教諭として課題となった事柄や、今後、さらに必要とされる内容を明確にし、講義や演習、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業、発表等、実際の教育現場を想定した学習活動等を通し、指導力のある栄養教諭として必要な資質や技能、実践力を習得していく。さらに教育現場の講師を招き、指導・助言をいただき、実践力を磨く。
学修成果到達目標	1）栄養教諭としての自己の課題を明確にし、説明することができる。 2）教諭としての使命感、責任感を身につけ、学校での栄養教諭の役割を理解することができる。 3）児童、生徒理解を深め、対象者に適した食に関する指導を行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」ならびに「栄養教育実習事前・事後指導」で使用のテキストを使います。
参考書	「食に関する指導の手引き－第二次改定版－」　文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」　笠原賀子　医歯薬出版
課題に対するフィードバックの方法	発表については授業の中で評価、解説し、提出物についてはチェックを行い返却し、説明を行う。
留意事項	栄養教諭担当教員とともに外部講師（栄養教諭、栄養教諭経験者）が一部参加協力し、実践的に授業を進める。 履修カルテ、実習ノートを持参すること。
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。
実践的教育	

授業名	教職実践演習（栄養教諭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 自己の実習における課題	（学修内容）履修カルテ、実習ノートを振り返り、課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 履修カルテや実習ノートなどを振り返り、自己の課題を確認しまとめる。教職の意義、学校現場についても振り返る。
第2回	教職の意義、学校現場の理解	（学修内容）教員の仕事、学校の役割、責任について講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容） 教職の意義についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第3回	学校での連携、学校と家庭、地域との連携	（学修内容）教職員との協同、家庭・地域との連携のためのコーディネートについて講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでに受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第4回	栄養教諭の役割と責任について	（学修内容）栄養教諭の役割と責任について講義、グループ討議による事例研究 （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第5回	社会性やコミュニケーション能力の育成について	（学修内容）社会性やコミュニケーション能力の育成について講義、グループ学習報告資料の作成 （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第6回	児童・生徒理解、発達段階と指導法	（学修内容）児童・生徒理解、発達段階と指導法について講義、グループ討議による事例研究、報告資料の作成 （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第7回	食の指導に関する実践研究１実習報告を行う	（学修内容）学内教員、栄養教諭資格取得希望の３回生に、栄養教育実習の報告を行う。 （事前事後学修課題の内容） 報告会資料を作成しておく。 今日の授業についてまとめる。
第8回	食の指導に関する実践研究２実習報告から学ぶこと	（学修内容）学校現場の課題について考える （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第9回	食の指導に関する実践研究３子ども理解、支援について	（学修内容）子ども理解、支援の方法について考える （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第10回	食の指導に関する実践研究４給食を生きた教材として	（学修内容）栄養教諭経験者による給食を活かす実践的指導方法から学ぶ （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第11回	食の指導に関する実践研究５生きる力を引き出す	（学修内容）栄養教諭経験者による食に関する生きる力を引き出す実践的指導から学ぶ （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第12回	食の指導の事後反省と改善に向けての教材研究	（学修内容）食の指導の事後反省と改善方法 教材研究のグループワーク （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第13回	栄養教育実習での実習授業の振返り	（学修内容）望ましい食育授業の構築（現栄養教諭による実習指導を交えて） （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第14回	食育指導の模擬授業の構築―アクティブラーニングの活用方法―	（学修内容）現栄養教諭によるアクティブラーニングの実践指導を交えて （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、次回の学習項目を予習してくる。
第15回	栄養教諭の役割 全体のまとめ	（学修内容）栄養教諭としての課題解決についてまとめる （事前事後学修課題の内容） 今日の授業についてまとめる。

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）ｕａ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3774
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)	開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	盧　珠妍・宮川　紀宏・竹村　伸子・森岡　葉子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	教育実習事前事後指導は、教育実習に臨む心構えを確かなものにするために、演習形式の授業を通して、教師として求められる姿勢や態度、知識、技能の基本を身につけることを目的とする。 具体的には、学習指導要領や幼稚園教育要領などに基づいて、教師として必要な要件を確認したのち、子ども理解の基本を復習する。学校・園現場での観察、指導案作成、模擬授業または模擬保育などによって実践力をつけていく。
学修成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 2）教育実習に臨むにあたり、子どもの発達段階や関わり方、学級経営の基本を理解し、保育・学習指導計画を立てることができる。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	＜小学校＞『小学校学習指導要領解説総則　平成29年告示』文部科学省、東洋館出版社、2018。 ＜幼稚園＞『幼稚園教育要領　平成29年告示』文部科学省、フレーベル館、2017。 『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』文部科学省、フレーベル館、2018。 『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子編、わかば社、2023。
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	グループ討議の発表や個人・グループの発表後には必ずコメントやアドバイスをする。 提出物については、コメントや解説をする。
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動する。
オフィスアワー	小学校（宮川）、幼稚園（盧）が担当し随時実施する。非常勤教員については授業後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 京都市立小学校教諭・教頭、京都教育大学附属小学校など 大津市立幼稚園園長、京都市立幼稚園園長などとして勤務した勤務経験を活かして、実体験を踏まえて、実践に向けた心構えや知識について授業を実施する。

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）ｕａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、 教育実習の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスを確認し、（ある場合は）これまでの実習について振り返る。
第2回	学校文化の理解	（学修内容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （事前事後学修課題の内容） 各自の経験から学校文化について整理しておく。
第3回	教師に求められる資質・能力	（学修内容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 教師にとって大切な資質能力を最低10項目あげておく。
第4回	子ども理解	（学修内容）幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領からそれぞれの時期の子どもの特性を考えておく。
第5回	人権と教育	（学修内容）子どもの一人一人の背景を多面的に見ることを通して、子どもの人権について考える。 （事前事後学修課題の内容） 困りを持った子ども、虐待が疑われる子ども、性に関する困りを持った子どもなど人権に関する諸問題についてわかる範囲で調べてくる。
第6回	教育実習報告会	（学修内容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。事後課題として、発表から自分なりの課題を整理してみる。
第7回	実習記録のとりかた	（学修内容）観察実習の意義と記録の書き方について理解する。ビデオなどの視聴を通して実際の記録を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 配付資料および教科書の該当箇所を読み、まとめる。
第8回	実習記録と考察	（学修内容）実際の授業または保育をビデオ等で視聴し、記録のポイント、考察の書き方についてグループディスカッションを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	（学修内容）指導案の意義とその作成法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業または模擬保育をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	（学修内容）グループごとに指導案の作成、教材研究をする。 （事前事後学修課題の内容） 各自で指導案の構想を立ててくる。
第11回	第１グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）グループ毎に模擬授業または模擬保育をし、その省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 指導案を完成してくる。
第12回	第２グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）担当者を交代し、グループ毎の反省会を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 前回の反省会資料をまとめてくる。
第13回	第３グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）担当者を交代し、グループ毎の反省会を実施する。 （事前事後学修課題の内容） 前回の反省会資料をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	（学修内容）実習校・園でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （事前事後学修課題の内容） オリエンテーションで知りたい情報について書きあげてくる
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、４春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）ｕｂ	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC3774
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	盧　珠妍・宮川　紀宏・竹村　伸子・森岡　葉子	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	教育実習事前・事後指導ua（3回生配当）に引き続き、目前の教育実習に向けた、より個別的・具体的な指導を行うことが目的である。 実習後には、各自が実習を振り返って、課題を見出し、さらに良い教師を目指して、身につけるべき知識・技能を明らかにする。
学修成果到達目標	１）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。 ２）教育実習に臨むにあたり、幼児・児童生徒の理解、保育・学習指導、学級経営、学校組織のあり方等の基礎的・基本的な事柄を理解し、主体的に実習に向けて態度や行動をとることができる。 ３）教育実習に向けての自己の課題を明確にすることができる。 ４）上記１）や２）の観点から客観的に実習を振り返り、教員になるための自分の長所や課題などを明確にすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	＜小学校＞『小学校学習指導要領解説総則　平成29年告示』文部科学省、東洋館出版社、2018。 ＜幼稚園＞『幼稚園教育要領　平成29年告示』文部科学省、フレーベル館、2017。 『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』文部科学省、フレーベル館、2018。 『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子編、わかば社、2017。
参考書	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	個人やグループでのプレゼンテーションなどはその場でコメントやアドバイスをする。提出物は解説やコメントをする。
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動する。 原則無断欠席は厳禁。
オフィスアワー	小学校（宮川）、幼稚園（柿本・盧）が担当し随時実施する。非常勤教員については授業後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 京都市立小学校教諭・教頭、京都教育大学附属小学校など 大津市立幼稚園園長、京都市立幼稚園園長などとして勤務した勤務経験を活かして、実体験を踏まえて、実践に向けた心構えや知識について授業を実施する。

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）ｕｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の目的、進め方を確認し、実習に向けての課題を確認する。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習事前・事後指導uaの最終講で作成した、課題を見直しておく。
第2回	実習意義の確認と実習生カードの作成	（学修内容）教師にとって大切な資質能力などについて再確認し、実習生カードを作成する。 （事前事後学修課題の内容） 実習生カード作成のため、所有する資格や健康状態、ピアノレベルなどの正確な状況を把握しておく。
第3回	オリエンテーションのねらい	（学修内容）実習前オリエンテーションについて、その意味を知り、事前準備を行う。 （事前事後学修課題の内容） 実習校・園の概要について調べておく。
第4回	オリエンテーション事後確認と実習直前準備	（学修内容）オリエンテーション後の確認作業をもとに、実習前の最終準備を行う。 （事前事後学修課題の内容） 実習ノートの該当部分にオリエンテーション報告を記述しておく。
第5回	学級観察と子ども理解	（学修内容）実習校・園に溶け込もうとし、配属学級における授業や子どもの活動観察とその省察を行う。 （事前事後学修課題の内容） 担当教師の授業記録または保育記録をとり、授業または保育を計画する。
第6回	授業・保育の実践 ①略案または部分実習	（学修内容）計画を立て担当教師の指導のもとに実践をし、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 部分的な実習や略案による授業実践のためのシミュレーションなどをしておく。
第7回	子ども理解の実際	（学修内容）教師と子どもの関係性の理解、子ども同士の関係性の理解。 （事前事後学修課題の内容） 記録をもとに子ども理解を深める。
第8回	授業・保育の実践 ②細案または一日実習	（学修内容）計画を立て担当教師の指導のもとに実践し、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　指導案の作成。
第9回	実習直後の振り返り	（学修内容）実習直後の記憶を頼りに、自己設定目標との差異を明確にし、そのために必要な今後の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 振り返りシートの作成。
第10回	実習記録の振り返り	（学修内容）教育実習ノートをもとに、一定時間経過後の実習を振り返り（主に教科指導や研究保育などの）成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 返却された実習ノートの記述から振り返りを整理しておく。
第11回	グループによる振り返りの共有	（学修内容）グループによる話し合いをそれらのプレゼンテーションによって、自分たちの現状を把握し、課題を考える。 （事前事後学修課題の内容） 振り返りシートと教育実習ノートの持参、事前課題をしておく。
第12回	教育実習報告会の計画立案	（学修内容）実習報告会の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習ノートなどから報告会のためのテーマを考える。
第13回	教育実習報告会の資料作成	（学修内容）教育実習報告会の発表資料の作成。 （事前事後学修課題の内容） テーマ別の事前課題をグループでしておく。
第14回	報告会の具体的な役割分担とシュミレーション	（学修内容）先週に引き続き、資料を作成すると同時に、主体的な報告会を進めるための下準備をする。 （事前事後学修課題の内容） グループごとに役割を分け、プログラムなどの作成案をつくっておく。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 履修カルテの実習部分を記述しておく。

授業名	教育実習事前・事後指導（家庭）ｕａ	開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3773
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Home Economics)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイ等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	１）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 ２）教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、 学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 ３）必要な教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２時間）

学位授与の方針との関連				
	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（50%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。 ※ 理由があって欠席する場合は、担当教員ならびに大学事務局（修学支援課）に欠席連絡をしなければならない。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	教育実習事前・事後指導（家庭）ｕａ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、 教育実習の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の目的 学校文化の理解	（学修内容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教師に求められる資質・能力	（学修内容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （事前事後学修課題の内容） テーマについて、既存の知識をまとめておくこと。
第4回	生徒理解	（学修内容）生徒理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容） 事前配付プリントの該当箇所を下調べしておくこと。
第5回	人権と教育	（学修内容）「人権と教育」について、発達障害の生徒の理解を中心に考える。支援を要する生徒への指導の在り方についてグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 発達障害について調べてくる。
第6回	教育実習報告会	（学修内容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （事前事後学修課題の内容） これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。
第7回	観察実習記録の取り方	（学修内容）観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 授業記録（資料）を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	（学修内容）実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 （事前事後学修課題の内容） 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	（学修内容）学習指導案の意義とその作成法について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	（学修内容）学習指導案を作成し、教材研究をする。 （事前事後学修課題の内容） 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	模擬授業と教材研究①　導入の工夫	（学修内容）模擬授業を行い、グループ毎の授業研究会を実施し、意見交換する。（導入の工夫を中心に） （事前事後学修課題の内容） 学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究②　発問の工夫	（学修内容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施し、意見交換する。（発問の工夫を中心に） （事前事後学修課題の内容） 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	模擬授業と教材研究③　主体的・対話的で深い学び	（学修内容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施し、意見交換する。（主体的・対話的で深い学びを中心に） （事前事後学修課題の内容） 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	（学修内容）実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （事前事後学修課題の内容） 実習生カードの内容をまとめてくる。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、４春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	教育実習事前・事後指導（家庭）ｕｂ	開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC3773
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Home Economics)	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討など今後の課題を明らかにする。グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 2）教育実習に臨むにあたり、学習指導、生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3）教育実習に向けての自己の課題を明確にし、論述することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。 ※ 理由があって欠席する場合は、担当教員ならびに大学事務局（修学支援課）に欠席連絡をしなければならない。
オフィスアワー	毎週１回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授　業　名	教育実習事前・事後指導（家庭）ｕｂ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。 （事前事後学修課題の内容） シラバスの内容を確認すること。
第2回	実習目標の策定	（学修内容）オリエンテーションに際しての注意事項を確認すると同時に、自己の実習目標を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容） 実習生カードを仕上げておく。
第3回	オリエンテーション計画	（学修内容）オリエンテーションに際して実習校についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容） 実習校の概要について調べておく。
第4回	オリエンテーション結果考察	（学修内容）オリエンテーションの結果交流を図ることにより、さらに課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容） オリエンテーション報告を作成しておく。
第5回	模擬学級指導	（学修内容）実習校での生徒への自己紹介等の模擬指導の実践及び省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 学級指導の略案を立ててくる。
第6回	授業実践①	（学修内容）略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　略案の作成。
第7回	生徒実践的理解①	（学修内容）生徒の参与観察をし、その省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 生徒の観察記録の作成
第8回	授業実践②	（学修内容）細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 教材研究　学習指導案の作成
第9回	生徒実践的理解②	（学修内容）生徒の参与観察及びその省察をする。 （事前事後学修課題の内容） 生徒の観察記録の作成。
第10回	教育実習の振り返り①　教科指導	（学修内容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に教科指導）その成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習ノートの内容を確認する。
第11回	教育実習の振り返り②　生徒理解	（学修内容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に生徒理解）その成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習ノートの内容を確認する。
第12回	教育実習報告会に向けて①　計画づくり	（学修内容）実習報告会の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習ノートをもとに報告する内容を考える。
第13回	教育実習報告会に向けて②　資料作成	（学修内容）教育実習報告会の発表資料を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習ノートや成果物などを読み返し、資料作成の準備をする。
第14回	教育実習から学んだこと	（学修内容）教育自習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 （事前事後学修課題の内容） 成果物を整理する。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる （事前事後学修課題の内容） 履修カルテを作成する。

授業名	教職実践演習（家庭）	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4817
英文名	Teaching Practice(Home Economics)	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊　雄一	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとすることを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）教師として必要な教科指導力について理解し、主体的で対話的な学びを促す授業のための学習指導案を作成することができる。 2）教師として必要な生徒指導力や学級経営力について理解し、学級経営に対する自己の見解を説明することができる。 3）教育実習の成果と課題についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　2時間）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（55%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（45%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　□知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。
留意事項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。
実践的教育	

授業名	教職実践演習（家庭）

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）演習の意義とその進め方を理解する。履修カルテに記入する。 （事前事後学修課題の内容） 履修カルテの整理をしておくこと。
第2回	自己のこれからの研修課題	（学修内容）教職の意義、教員の役割、職務内容、子どもに対する責任など、実習から気づいたこと、考えたことを振り返る。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容） 自己の課題をまとめておくこと。
第3回	社会性や対人関係能力についての振り返り	（学修内容）教員組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係について考える。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容） 課題についての自己の経験をまとめておくこと。
第4回	生徒理解、授業づくりについての振り返り	（学修内容）生徒理解、授業づくりについて振り返る。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容） 実習校の生徒観をまとめておくこと。
第5回	教育実習報告会	（学修内容）教育実習を振り返り、教育実習の概要や実習の成果・課題について発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習の概要、実習の成果や課題をまとめた発表資料を作成しておくこと。
第6回	生徒理解と場面指導	（学修内容）実際的な生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。（いじめ等） （事前事後学修課題の内容） 課題について効果的な指導法を調べてくる。
第7回	生徒理解と学級経営	（学修内容）生徒同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 学級のルールや教室経営について調べる。
第8回	現在の教育課題について	（学修内容）教育委員会より講師を招き、「現在の教育課題について」の講義を受け、授業法について考える。 （事前事後学修課題の内容） 教育実習の授業省察をまとめておく。
第9回	生徒理解と教育方法（特別な支援を要する子どもへの教育支援について）	（学修内容）マルチメディアコンテンツ製作を通して、特別な支援を要する子どもへの教育支援の在り方について考える。 （事前事後学修課題の内容） 実習校の特別支援教育の内容についてまとめておくこと。
第10回	これからの教師に求められる資質・能力について	（学修内容）教育委員会より講師を招き、「これからの教師に求められる資質・能力について」の講義を受け、求められる教師像について考える。 （事前事後学修課題の内容） 教育委員会HPを調べ、求められる教師像についてまとめておくこと。
第11回	模擬授業①（導入の工夫、授業の流れを中心に）	（学修内容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。①（導入の工夫、授業の流れを中心に） （事前事後学修課題の内容） 教材研究、学習指導案の作成。
第12回	模擬授業②（発問の工夫を中心に）	（学修内容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。②（発問の工夫を中心に） （事前事後学修課題の内容） 教材研究、学習指導案の作成。
第13回	模擬授業③（ICT機器の効果的な活用法を中心に）	（学修内容）模擬授業の実施　相互評価、省察をする。③（ICT機器の効果的な活用法を中心に） （事前事後学修課題の内容） 教材研究、学習指導案の作成。
第14回	教師と保護者の関係づくりについて	（学修内容）教師と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （事前事後学修課題の内容） 家庭との連携の必要性について考えておくこと。
第15回	まとめ	（学修内容）演習のまとめをする。 （事前事後学修課題の内容） 履修カルテへの記入を済ませておくこと。

授業名	子どもの音楽Ⅳ	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3744
英文名	Children and Music	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	子どもの音楽Ⅲに引き続きピアノによる初見および弾き歌いを通して、保育・教育現場でのより高い音楽的実践力を身に付ける。また、リズム表現等に必要となる即興的変奏も音楽理論の理解を深めつつ学ぶ。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認の確認および指導を行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1）初見での子どもの弾き歌いに必要な読譜能力を身に付けることができる。 2）既存の子どもの歌の弾き歌いを応用した即興的変奏を習得することができる。 3）子どもの音楽活動に必要となる音楽の諸理論を理解し、それらを実践に生かすことができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	○	汎用的技能
	◎	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	□筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	■筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	■実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）
参考書	授業にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	実技および実技を支える楽典等は定期的に小試験を課し、課題の達成度を確認する。
留意事項	レベルに合わせたクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。
実践的教育	

授業名	子どもの音楽Ⅳ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	初見（応用編：調）および初見視唱（基礎）・弾き歌い	（学修内容）基本的な調性による初見復習および平易な８小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 子どもの音楽Ⅲで習得した基本的な初見の手順を復習しておくこと
第2回	初見（応用編：２拍子）および初見視唱（ハ長調）・弾き歌い	（学修内容）2拍子の子どもの歌の初見練習および平易なハ長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 1回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと
第3回	初見（応用編：３拍子）および初見視唱（ヘ長調）・弾き歌い	（学修内容）3拍子の子どもの歌の初見練習および平易なヘ長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 2回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと
第4回	初見（応用編：４拍子）および弾き歌い小試験	（学修内容）4拍子の子どもの歌の初見練習および弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容） 3回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと
第5回	初見（応用編：符点）および初見視唱（ト長調）・弾き歌い	（学修内容）符点のリズムを用いた初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 4回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌い（小試験）の復習をしておくこと
第6回	初見（応用編：タイ）および弾き歌い	（学修内容）タイを用いた子どもの歌の初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 5回目に説明した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。
第7回	初見（応用編：総合演習）および弾き歌い	（学修内容）1回目から6回目までに学習した初見の総合実践演習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 1回目から6回目までに学習した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。
第8回	初見小テストおよび弾き歌い小試験	（学修内容）初見および弾き歌いの個別小試験 （事前事後学修課題の内容） 1回目から7回目までに学習した初見・弾き歌いの総復習をしておくこと
第9回	即興的なリズム変奏（マーチ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（マーチ）の実践演習および弾き歌いとその移調の際の理論について （事前事後学修課題の内容） リズム変奏（マーチ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと
第10回	即興的なリズム変奏（ワルツ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（ワルツ）の実践演習および弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容） リズム変奏（ワルツ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと
第11回	即興的なリズム変奏（スキップ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（スキップ）の実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容） リズム変奏（スキップ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと
第12回	即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）および弾き歌い小試験	（学修内容）即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）の実践演習と弾き歌い（移調含む）の個別小試験 （事前事後学修課題の内容） リズム変奏（様々なステップパターン）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと
第13回	即興的なリズム変奏（総合演習）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の総合実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容） 9回目から12回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと
第14回	即興的なリズム変奏（小試験）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の小試験と弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容） 9回目から13回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと
第15回	初見・弾き歌い・移調奏総合実践演習	（学修内容）子どもの歌を用いた初見・弾き歌い・移調奏の総合実践について （事前事後学修課題の内容） 1回目から14回目までに学習した内容の総復習をしておくこと

授業名	小学国語・指導法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3745
英文名	Teaching Method of Japanese in Elementary School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	遠藤　純	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	小学校国語科の目標や内容、評価について理解したうえで、文学、詩、古典、説明文等の教材としての特徴や指導上の留意点等をふまえつつ、実際に教材研究および模擬授業を実施することで、小学校における国語科授業の実践的スキルを身につける。
学修成果到達目標	1）小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について説明できる。 2）教材や情報機器の効果的な活用法を理解したうえで小学校国語科の授業を計画・立案・実施することができる。 3）模擬授業とその振り返りを行い、授業の改善ができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』文部科学省、2017年 他に、参考にすべき資料等は授業内で紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	授業後に書くリアクションペーパーについては、翌週に振り返りを行う。模擬授業については、授業内で総括を行う。
留意事項	模擬授業やその参観が主な内容になるため、十分に準備をしたうえで積極的かつ真摯な受講態度を求める。 なお、シラバスの順番や模擬授業の回数は受講人数や受講生の要望等により変更することがある。
オフィスアワー	初回の授業で説明する。
実践的教育	

授業名	小学国語・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の目的や内容、プログラム、評価等について理解する （事前事後学修課題の内容） （事前）シラバスを読んでおく （事後）小学校学習指導要領を読みまとめておく
第2回	国語を読む、学ぶ意味と意義	（学修内容）国語を学ぶことの意味についてあらためて考え、自分なりの総括を行う （事前事後学修課題の内容） （事前）これまでの国語科の授業をふり返っておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第3回	模擬授業の実施準備	（学修内容）模擬授業を行うにあたり、必要な準備について考え、理解する （事前事後学修課題の内容） （事前）事前配布資料を読み直しておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第4回	学習指導案について	（学修内容）国語科学習指導案の作成目的について学ぶ （事前事後学修課題の内容） （事前）学習指導案の目的や内容についてまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第5回	発問および板書について	（学修内容）発問および板書の重要性について学ぶ （事前事後学修課題の内容） （事前）事前配布資料を読み直しておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第6回	文学の授業構想	（学修内容）文学の授業構想について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）事前配布資料を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第7回	詩の授業構想	（学修内容）詩の授業構想について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）事前配布資料を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第8回	言語の授業構想	（学修内容）言語（話すこと・聞くこと）の授業構想について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）事前配布資料を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第9回	単元指導計画および本時の展開の作成	（学修内容）模擬授業にて取り上げる教材の単元指導計画や本時の展開について考える （事前事後学修課題の内容） （事前）単元指導計画をまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第10回	模擬授業①「1年生の授業」	（学修内容）1年生を対象とした模擬授業を行い、その後授業研究をして総括する （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第11回	模擬授業②「2年生の授業」	（学修内容）2年生を対象とした模擬授業を行い、その後授業研究をして総括する （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第12回	模擬授業③「3・4年生の授業」	（学修内容）3・4年生を対象とした模擬授業を行い、その後授業研究をして総括する （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第13回	模擬授業④「5年生の授業」	（学修内容）5年生を対象とした模擬授業を行い、その後授業研究をして総括する （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第14回	模擬授業⑤「6年生の授業」	（学修内容）6年生を対象とした模擬授業を行い、その後授業研究をして総括する （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）配布資料を読み、まとめておく
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの学びを振り返る （事前事後学修課題の内容） （事前）対象作品および指導案を読みコメントをまとめておく （事後）この授業で学んだことをまとめ、課題に取り組む

授業名	小学理科・指導法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3769
英文名	Teaching Method of Science in Elementary School	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	浅田　浩	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	小学校学習指導要領・小学校理科の目標には、知識・技能の習得だけでなく、めざすべき資質・能力の育成が簡潔に示されている。そこで、小学校理科の指導内容や問題を科学的に解決するための学習過程等について、事前調査をもとにした発表形式の授業で相互の学びを深める。後半は、学習指導案（授業案）の作成演習及び模擬授業を通して，小学校理科の指導に必要な実践的スキルの体得をめざす。
学修成果到達目標	小学校理科指導における要点を，具体的に説明することができる。 問題解決の過程を大切にした単元計画を作成できる。 単元の特性を踏まえた学習指導案を作成することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	◎	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	□筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　■レポート　□制作物 □口述　□実習　■実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	「イラスト図解ですっきりわかる理科」鳴川哲也ほか（2019年）東洋館出版社 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」をダウンロードしておいてください。
参考書	小学校理科で使用する教科用図書（小学校３・４・５・６年生用、新興出版社啓林館・大日本図書など）。特に調査発表や模擬授業で担当する学年の教科用図書があるととても参考になります。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポート・学習指導案等についてはコメントを付けて返却します。
留意事項	少人数グループで指導内容等の調査とグループディスカッションを行い、その成果をプレゼンテーションします。 各自が作成した指導案に基づいて模擬授業を行います。指導案は短時間に作成できないため、計画的な取り組みが必要です。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：元京都市立小学校長。元京都市教育委員会学校指導課指導主事（初等理科担当）。元京都理科研究会長。京都市青少年科学センター専門主事

授業名	小学理科・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ガイダンス 講義（1） 「小学校学習指導用要領における理科の目標、内容について」	（学修内容）講座の概要、教材・資料、評価についてのガイダンス グループ編成 （事前事後学修課題の内容） 予習として、小学校学習指導要領解説（理科編）第２章「理科の目標及び内容」 第１節「教科の目標」のキーワードをまとめておく。
第2回	講義（2） 「理科の授業づくり」 単元目標、観察実験、学習展開などについて	（学修内容）実験を踏まえた結果の整理や考察と、グループワークでの改善検討 （事前事後学修課題の内容） 予習として、次回からのプレゼンテーションで担当する単元の要点を整理しておく。
第3回	演習（1） プレゼンテーション（前半グループ　1回目）	（学修内容）3年「光と音の性質」、４年「空気と水の性質」など 授業開始時に３・４年A区分の重点についてグループ協議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、学習指導要領解説３～４年のA区分（物質・エネルギー）、に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第4回	演習（2） プレゼンテーション（後半グループ　1回目）	（学修内容）３年「昆虫の成長」、４年「雨水の行方と地面の様子」など 授業開始時に３・４年B区分の重点についてグループ協議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、学習指導要領解説３～４年のB区分（生命・地球）、に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第5回	演習（3） プレゼンテーション（前半グループ　2回目）	（学修内容）５年「流れる水の働き」、６年「土地のつくりと変化」など 授業開始時に５・６年B区分の重点についてグループ協議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、学習指導要領解説５～６年のB区分（生命・地球）に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第6回	演習（4） プレゼンテーション（後半グループ　2回目）	（学修内容）５年「電気がつくる磁力」、６年「水溶液の性質」など 授業開始時に５・６年A区分の重点についてグループ協議を行う。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、学習指導要領解説５～６年のA区分（物質・エネルギー）に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第7回	講義と演習 「理科の資質・能力の育成をめざした学習指導案の作成」	（学修内容）学習指導案（学習問題と展開、板書計画など）の作成について 担当する模擬授業の分担や学習指導案、準備物についての検討 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業に向けた指導案の作成
第8回	模擬授業および授業検討会（1） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第9回	模擬授業および授業検討会（2） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第10回	模擬授業および授業検討会（3） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第11回	模擬授業および授業検討会（4） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第12回	模擬授業および授業検討会（5） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第13回	模擬授業および授業検討会（6） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第14回	模擬授業および授業検討会（7） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第15回	まとめと振り返り （講義、グループワーク及び小テスト）	（学修内容）本講座で行ってきたプレゼンテーションや模擬授業の振り返りと、小学校理科に関わる指導のあり方や授業改善についての整理／小テスト （事前事後学修課題の内容） 復習として、これまでの模擬授業やプレゼンテーションをもとに、指導案を改善する。

授業名	小学生活・指導法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3746
英文名	Teaching Method of Life Environment Studies in Elementary School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	寺田　博幸	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	本授業では，生活科が創設された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し，生活科の目標や内容，指導計画作成と学習指導とその評価について理解する。また，実践事例をもとに，基礎的な学習指導理論や指導上の留意点を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けるとともに，授業設計に基づく学習指導案を作成し模擬授業を行う。
学修成果到達目標	１．生活科が創設された背景を踏まえ，生活科に関わる基礎的・基本的な理論について理解することができる。 ２．生活科で育成を目指す資質・能力を育てるための指導計画作成や単元構想，学習指導の在り方について理解することができる。 ３．生活科における指導と評価の一体化と子供の学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。 ４．生活科における子供自身の自己評価や相互評価の在り方について理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編　平成29年7月　文部科学省　東洋館出版社 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校　生活　文部科学省　国立教育政策研究所教育課程研究センター　東洋館出版社
参考書	小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン　亀岡正睦　編著　明治図書
課題に対するフィードバックの方法	受講生の声（コメントカード等）の声を受け止めながら，本授業の課題を共有する。
留意事項	到達目標に迫るため，15回の授業に出席し学びを深めるとともに，その学びを生かすための事前・事後学習に積極的に取り組むこと。教職を強く志望する学生の履修を望む。
オフィスアワー	第1回に授業日に伝える。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市立小学校校長として勤務

授業名	小学生活・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	生活科教育の意義と教科目標や内容，及び全体構造	（学修内容）生活科教育の意義と教科目標や内容，及び全体構造 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説生活編第1章，第2章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	生活科の個別の内容と指導上の留意点	（学修内容）生活科の個別の内容と指導上の留意点 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説生活編第3章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	生活科の学習指導とその評価の考え方，実践上の留意点	（学修内容）生活科の学習指導とその評価の考え方，実践上の留意点 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説生活編第4章，第5章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	生活科のカリキュラム・マネジメントを意識した指導計画作成，及び教材研究	（学修内容）生活科のカリキュラム・マネジメントを意識した指導計画の作成，及び教材研究 （事前事後学修課題の内容） 配布する資料に基づき，指導計画の全体像をイメージする。
第5回	子供の思考の流れを意識した単元構想と学習指導，及び教材研究	（学修内容）子供の思考の流れを意識した単元構想と学習指導，及び教材研究 （事前事後学修課題の内容） 配布する資料に基づき，単元構想と学習指導をイメージする。
第6回	生活科学習指導の実践事例１，ICTを活用した授業設計　単元「ぐんぐん　そだて　みんなの　やさい」関連内容項目(7)，(5)，(8)	（学修内容）実践事例単元「ぐんぐんそだて　みんなのやさい」の授業づくり　関連項目(7)，(5)，(8) （事前事後学修課題の内容） 学習指導計画「ぐんぐんそだて　みんなのやさい」に基づき，授業設計をイメージする。
第7回	生活科学習指導の実践事例2，ICTを活用した授業設計　単元「いきものと　なかよし」関連内容項目(7)，(8)	（学修内容）単元「いきものと　なかよし」の授業づくり　関連項目(7)，(8) （事前事後学修課題の内容） 学習指導計画「いきものと　なかよし」に基づき，授業設計をイメージする。
第8回	生活科学習指導の実践事例１，ICTを活用した授業設計　単元「町たんけん」関連内容項目(3)，(5)，(8)	（学修内容）単元「町たんけん」の授業づくり　関連内容項目(3)，(5)，(8) （事前事後学修課題の内容） 学習指導計画「町たんけん」に基づき，授業設計をイメージする。
第9回	生活科学習指導の実践事例１，ICTを活用した授業設計　単元「かぞく　だいすき」関連内容項目(2)，(8)，(9)	（学修内容）単元「かぞく　だいすき」関連内容項目(2)，(8)，(9) （事前事後学修課題の内容） 学習指導計画「かぞく　だいすき」に基づき，授業設計をイメージする。
第10回	生活科学習指導の実践事例１，ICTを活用した授業設計　単元「がっこう　だいすき」関連内容項目(1)，(8)	（学修内容）単元「がっこう　だいすき」の授業づくり　関連内容項目(1)，(8) （事前事後学修課題の内容） 学習指導計画「がっこう　だいすき」に基づき，授業設計をイメージする。
第11回	生活科学習指導案作成とグループ別模擬授業１	（学修内容）作成した学習指導案の提案とグループ別模擬授業 （事前事後学修課題の内容） 作成した学習指導案に基づき，グループ別の模擬授業に取り組むとともに，相互評価を行う。
第12回	生活科学習指導案作成とグループ別模擬授業２	（学修内容）作成した学習指導案の提案とグループ別模擬授業 （事前事後学修課題の内容） 作成した学習指導案に基づき，グループ別の模擬授業に取り組むとともに，相互評価を行う。
第13回	生活科学習指導案に基づく模擬授業の全体提案１	（学修内容）作成した学習指導案に基づく模擬授業の全体提案 （事前事後学修課題の内容） 作成した学習指導案に基づき，全体の模擬授業に取り組むとともに，相互評価を行う。
第14回	生活科学習指導案に基づく模擬授業の全体提案２	（学修内容）作成した学習指導案に基づく模擬授業の全体提案 （事前事後学修課題の内容） 作成した学習指導案に基づき，全体の模擬授業に取り組むとともに，相互評価を行う。
第15回	教材づくりと模擬授業の総括，生活科学習の充実と総合的な学習の時間への適切な接続	（学修内容）教材づくりと模擬授業の総括，生活科学習の充実と総合的な学習の時間への適切な接続 （事前事後学修課題の内容） 教材づくりと模擬授業について総括するとともに，総合的な学習の時間への適切な接続についてまとめる。

授業名	小学音楽・指導法	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4793
英文名	Teaching Method of Music in Elementary School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	小学校音楽科の理念、目標、内容を理解するとともに、小学生の資質・能力の育成における音楽科の役割を把握する。またこれらを踏まえた上で音楽科の諸活動(表現・鑑賞)について学習計画・指導案を作成する。グループでの模擬授業およびディスカッション等を行いながら授業を進める。
学修成果到達目標	1)小学校音楽科における学習内容及び指導法に関する基本的事項を理解できる。 2)小学校音楽科の学習指導案の作成方法について理解することができる。 3)模擬授業の実施により、授業の全体構成および指導実践の留意点について理解することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	『最新　初等科音楽教育法[改訂版]』（初等科音楽教育研究会編　音楽之友社）
参考書	『小学校学習指導要領　解説　音楽編』(文部科学省)
課題に対するフィードバックの方法	小課題等はコメントを付けて返却する。 模擬授業は毎回振り返りためのディスカッションおよび助言を行い、実践によって明らかとなった課題の確認を行う。
留意事項	グループでの取り組みと模擬授業を重視する。 ソプラノリコーダーを準備しておくこと。
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので確認しておくこと。
実践的教育	

授業名	小学音楽・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業全般の概要説明および諸注意事項について （事前事後学修課題の内容） シラバスおよびテキストの概要を確認しておく
第2回	小学校音楽科学習指導要領の概要	（学修内容）小学校音楽科学習指導要領の概要と改訂の要点について （事前事後学修課題の内容） テキストの序章「これからの初等科音楽」を読み、学習指導要領の概要と改訂の要点についての基本的理解を深めておく
第3回	小学校音楽科学習指導要領の解説	（学修内容）小学校音楽科の目標と指導内容について （事前事後学修課題の内容） テキストの第1部第2章「音楽科の指導内容」第3章「音楽科の学習指導計画」を読んでおく
第4回	歌唱（歌唱共通教材を使った指導案作成の基礎含む）	（学修内容）歌唱共通教材の指導実践例と指導案の作成法について （事前事後学修課題の内容） テキストp.33「学習指導案の作成」を読み、共通事項を踏まえた歌唱共通教材の指導法について考えておく
第5回	歌唱（指導案作成法の応用含む）	（学修内容）歌唱活動を行う際の各学年の基本事項(目標及び内容）と指導計画について （事前事後学修課題の内容） 歌唱活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容）について事前学習をし、指導計画の基本的な立案プロセスについて概ね理解しておく
第6回	器楽	（学修内容）器楽活動における各学年の基本事項(目標及び内容）と指導計画について （事前事後学修課題の内容） 器楽活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容）について事前学習を行い、指導計画の基本的な立案プロセスについて概ね理解しておく
第7回	音楽づくり	（学修内容）音楽づくり活動における各学年の基本事項(目標及び計画）と指導計画について（映像資料視聴後ディスカッション） （事前事後学修課題の内容） 音楽づくり活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容）について事前学習をし、指導計画の基本的な立案プロセスを理解しておく
第8回	鑑賞（低学年・中学年）	（学修内容）低・中学年の鑑賞活動における各学年の基本事項(目標及び計画）と指導計画について(映像資料視聴後ディスカッション） （事前事後学修課題の内容） 低・中学年の鑑賞活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容）について事前学習をし、指導計画の立案プロセスを理解しておく
第9回	鑑賞(高学年)	（学修内容）高学年の鑑賞活動における各学年の基本事項(目標及び計画）と指導計画について（映像資料視聴後ディスカッション） （事前事後学修課題の内容） 高学年の鑑賞活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容）について学び、指導計画の立案プロセスを理解しておく
第10回	模擬授業発表(歌唱：低学年・中学年)	（学修内容）歌唱(低学年・中学年）のグループ別模擬授業発表及びディスカッション （事前事後学修課題の内容） 歌唱(低学年・中学年）の活動に必要な教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第11回	模擬授業発表(歌唱：高学年)	（学修内容）歌唱活動(高学年）のグループ別模擬授業発表及びディスカッション （事前事後学修課題の内容） 歌唱(高学年）の活動に必要な事前の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第12回	模擬授業発表(器楽)	（学修内容）器楽活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション （事前事後学修課題の内容） 器楽活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第13回	模擬授業発表(音楽づくり)	（学修内容）音楽づくり活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション （事前事後学修課題の内容） 音楽づくり活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第14回	模擬授業発表(鑑賞)	（学修内容）鑑賞活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション （事前事後学修課題の内容） 鑑賞活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第15回	まとめ	（学修内容）これまで学んだ小学校音楽科の諸活動における内容の総括 （事前事後学修課題の内容） 小学校音楽科諸活動の内容の振り返りと発表等を終えて課題の確認をしておく

授業名	小学図画工作・指導法	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4794
英文名	Teaching Method of Art and Handicraft　in Elementary School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	宮川　紀宏	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	小学校学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容，方法などについて理解し，児童の実態を考慮しながら題材及び教材開発を行う。さらに，それらを通してレポート・グループでの研究発表・指導案作成と模擬授業を行い検証し，指導者の具体を身に付けることをめざす。
学修成果到達目標	1） 学習指導要領に示されている図画工作科の目標や内容を説明できる。 2） 指導のねらいを明確にしながら，児童の発達段階に応じて授業をデザインすることができる。 3） 学習指導案や教材などを作成し，指導案に基づく授業を実践することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解	○	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	【タイトル】 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編 【編著者】 文部科学省 【出版社】 日本文教出版 【出版年】 2018/02/28
参考書	必要に応じて授業で指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物は，コメントをつけて返却する。
留意事項	教職を強く希望する学生の履修を望む。理論と実践力をむすびつける。可能であれば，小学校での実際の授業を参観する。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。また，研究室前に日時を掲示する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立西院小学校，京都教育大学附属小学校，京都市立衣笠小学校，教諭　等

授業名	小学図画工作・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 図画工作教育の目的と課題	（学修内容）授業内容についてオリエンテーション （事前事後学修課題の内容） テキスト「図画工作教育の意義・目的」に目を通しておく。
第2回	子どもの発達段階と教育現場の現状と課題	（学修内容）ローエンフェルド等による児童画の発達段階，方式化の弊害，コンクールの功罪，指導と評価のあり方，図画工作科教育と人権 （事前事後学修課題の内容） 「子どもの成長・発達と表現活動」を読む
第3回	学習指導要領と図画工作科の内容と目標① 「絵や立体、工作に表す」	（学修内容）「絵や立体、工作に表す」の内容及び，内容用具の活用方法，表し方の工夫 （事前事後学修課題の内容） 「学習指導要領」（各学年の「絵や立体、工作に表す」箇所）を読む
第4回	学習指導要領と図画工作科の内容と目標② 「造形遊び」	（学修内容）造形遊びをする活動の指導，材料・場所・空間などの特徴から発想，全身性，総合性 （事前事後学修課題の内容） 「学習指導要領」（各学年の「造形遊び」箇所）を読む
第5回	学習指導要領と図画工作科の内容と目標③ 「鑑賞」	（学修内容）鑑賞する活動の指導，授業の実際，評価等 （事前事後学修課題の内容） 「学習指導要領」（各学年の「鑑賞」箇所）を読む
第6回	図画工作科学習指導案の書き方	（学修内容）検定教科書，学習指導要領解説，評価のための参考資料 （事前事後学修課題の内容） 資料：「指導案の作成の手順」を読む
第7回	学習指導案作成①	（学修内容）学習指導案作成にあたっての概要と留意すること （事前事後学修課題の内容） 学習指導案を作成し始める
第8回	学習指導案作成②	（学修内容）学習指導案の作成 （事前事後学修課題の内容） 学習指導案を完成させ，必要な教材を考えておく
第9回	模擬授業準備（教材づくり）	（学修内容）模擬授業に向けての教材等作成をする （事前事後学修課題の内容） 授業のための準備をしておく
第10回	模擬授業準備（評価のためのワークシートづくり）	（学修内容）模擬授業の評価規準の作成をする （事前事後学修課題の内容） 児童用のワークシートを作成する
第11回	模擬授業準備（役割分担と準備物の整理）	（学修内容）模擬授業準備（役割分担と準備物の整理）をする （事前事後学修課題の内容） 授業に必要なものを知らせ，準備する
第12回	模擬授業	（学修内容）模擬授業及び事後研究と模擬授業の評価 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業のふりかえりをまとめる
第13回	本授業の振り返り	（学修内容）本授業で学んだことを振り返り、スライドにまとめる （事前事後学修課題の内容） 指導上の留意点など振り返りを行いスライドにまとめる
第14回	スライド発表	（学修内容）スライドでの振り返りと考察のまとめ発表 （事前事後学修課題の内容） スライドを完成させ提出する スライドの修正をする
第15回	まとめと考察	（学修内容）学習の目標と指導と支援の在り方についてのふり返り （事前事後学修課題の内容） 自分の考えをまとめる

授業名	小学家庭・指導法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3770
英文名	Teaching Method of Home Economics in Elementary School	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	守野　美佐子	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	小学校家庭科の各領域について基本的な内容を概説する。「子どもたちが家庭生活をみつめ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、創造していける基礎能力をつけていく」ために、小学校家庭科の指導や教材研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。生活課題を把握し、それに即した指導内容と指導方法を習得する。理解を深めるために、グループ学習を取り入れる。授業の実践力を高めるために、指導案の作成、授業のプレゼンテーションなどを取り入れる。
学修成果到達目標	1）小学校家庭科の教科としての特徴と独自性を理解する。 2）小学校家庭科の目標、内容を把握して、教科指導ができる。 3）小学校家庭科で教える技能を習得し、それらを教えることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　30分）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　■ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	□レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	「新しい家庭5・6」東京書籍
参考書	「小学校学習指導要領」文部科学省 「小学校　家庭科教育法」大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著 (2018)
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究などの発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。
留意事項	授業で配布するプリント資料もしっかり読むこと。
オフィスアワー	授業終了後に　オフィスアワーを設けます。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有

授　業　名	小学家庭・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	小学校家庭科の新学習指導要領	（学修内容）新学習指導要領の改訂のキーポイントを理解する 家庭科の目標と評価、内容構成について復習する （事前事後学修課題の内容） 学習指導要領を読んでくる 家庭科で育てたい力について考えておくこと
第2回	家庭科の指導計画と授業の方法	（学修内容）主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業時数や題材構成を考慮して指導計画を立てる視点を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 小学校の家庭科の教科書に目を通しておくこと
第3回	指導案の書き方と授業の工夫	（学修内容）ICT活用、実践的・体験的授業の充実、個に応じた指導、家庭や地域との連携、実習指導における配慮点を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 指導案の書き方を復習しておくこと
第4回	家庭科の内容　A.家族・家庭生活	（学修内容）A.家族・家庭生活　の内容についてと、家庭生活と家族の今日的課題について1時間の授業を計画する （事前事後学修課題の内容） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる
第5回	家庭科の内容　B.衣食住の生活　1.食生活	（学修内容）B.衣食住の生活　1.食生活　について、食生活の今日的課題と調理実習の指導について学ぶ　調理実習の教材を考える （事前事後学修課題の内容） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 調理実習の意義と調理実習の内容を考えてくる
第6回	家庭科の内容　B.衣食住の生活　2.衣生活・住生活	（学修内容）B.衣食住の生活　2.衣生活・住生活　について、衣生活・住生活の今日的課題と布を用いた製作教材を考える （事前事後学修課題の内容） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 布を用いた製作実習の意義と製作実習の内容を考えてくる
第7回	布を用いた製作	（学修内容）手縫いでできる作品作りを通して実技指導を含む授業について学ぶ 基本縫いの実技実践 （事前事後学修課題の内容） 作品作りに必要な基本の手縫いを復習しておく
第8回	家庭科の内容　C.消費生活・環境	（学修内容）C.消費生活・環境　について、消費生活・環境の今日的課題について学び、視聴覚教材を活用した授業の計画をする （事前事後学修課題の内容） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 実生活で実践できるSDGｓを考えてくる
第9回	指導案の作成	（学修内容）指導案の書き方を復習し、題材を決め、指導案を作成する 模擬授業の準備をする （事前事後学修課題の内容） ４回目の講義で計画した指導案を見直し、必要に応じ修正する 模擬授業に必要なプリントを作成する
第10回	模擬授業　A.家族・家庭生活	（学修内容）４回目の講義で計画した指導案を元に模擬授業のプレゼンテーションをする　発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしてくること
第11回	家庭科の新授業ブラン　B.衣食住の生活	（学修内容）新授業プランの例から学び、自身の授業のアイデアを話し合う 調理実習の教材をグループで意見交換する （事前事後学修課題の内容） B.衣食住の生活の内容で、自分が授業をするイメージをし、自身のアイデアが話せるようにしてくる
第12回	模擬授業　C.消費生活・環境	（学修内容）８回目の講義で計画した、視聴覚教材を活用した授業プレゼンテーションをする。発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしてくること
第13回	児童が主体的に学べる授業の計画	（学修内容）アクティブラーニングの学習方法や、実践的・体験的授業などを効果的に取り入れた授業を計画する（グループ活動） （事前事後学修課題の内容） 児童が主体的に学べる1時間の授業をイメージしてくる 参考になる実践例や必要な情報を調べておくとよい
第14回	児童が主体的に学べる授業の発表　前半グループ	（学修内容）１３回目で計画した授業をグループ毎に発表 意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容） グループ内で分担し、発表の準備をしてくること
第15回	児童が主体的に学べる授業の発表　後半グループ	（学修内容）１３回目で計画した授業をグループ毎に発表 意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容） グループ内で分担し、発表の準備をしてくること

授業名	小学体育・指導法	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4795
英文名	Teaching Method of Physical Education　in Elementary School	開講時期	春学期			必修選択	選択
担当者	山口　孝治	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	小学校体育科の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ボール運動、表現運動、保健）の理解を深めるために、適宜実技やグループワークを実施する。また、学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び、模擬授業等を通して指導のポイントを習得する。
学修成果到達目標	（1）体育科の目標・内容を理解し、説明することができる。 （2）体育科の学習指導案を作成することができる。 （3）留意事項を理解して、模擬授業を行うことができる。 （4）模擬授業を振り返って改善することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	◎	知識・理解		汎用的技能
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)　□(　　)	

テキスト	山口孝治・石田智巳編著『新しい教職講座　教科教育編9　初等体育科教育』ミネルヴァ書房 2018年
参考書	小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月、文部科学省、東洋館出版） 小学校ボールゲームの授業づくり－実践理論の生成と展開－（身体教育研究会著、梅野 圭史編集、創文企画） 小学校学習指導要領（平成29年3月、文部科学省）
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、チェックを行い全体について講評するとともに、コメントをつけて返却します。
留意事項	運動の得意・不得意は評価に関係しません。積極的な参加を期待します。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：国公立小学校、国立中学校勤務

授業名	小学体育・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	体育科教育の概念と歴史的変遷	（学修内容）体育科教育の意義と歴史的変遷について調べる。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「学習指導要領からみた体育科の変遷（第2章）」を読み、要旨を提出する。
第2回	体育科の目標と内容	（学修内容）体育科の目標と領域の内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体育科の目標と内容（第1章）」を読み、要旨を提出する。
第3回	各領域の教材研究と指導の視点①　体つくり運動系領域の授業	（学修内容）体つくり運動系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体つくり運動系の領域の授業づくり（第7章）」を読み、要旨を提出する。
第4回	各領域の教材研究と指導の視点②　器械運動系領域の授業	（学修内容）器械運動系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「器械運動系の領域の授業づくり（第8章）」を読み、要旨を提出する。
第5回	各領域の教材研究と指導の視点③　陸上運動系領域の授業	（学修内容）陸上運動系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「陸上運動系の領域の授業づくり（第9章）」を読み、要旨を提出する。
第6回	各領域の教材研究と指導の視点④　水泳系領域の授業	（学修内容）水泳系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「水泳系の領域の授業づくり（第10章）」を読み、要旨を提出する。
第7回	各領域の教材研究と指導の視点⑤　ボール運動系領域の授業	（学修内容）ボール運動系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「ボール運動系の領域の授業づくり（第11章）」を読み、要旨を提出する。
第8回	各領域の教材研究と指導の視点⑥　表現運動系領域の授業	（学修内容）表現運動系領域の授業づくりの視点と指導法について、映像資料の視聴や実技などを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「表現運動系の領域の授業づくり（第12章）」を読み、要旨を提出する。
第9回	各領域の教材研究と指導の視点⑦　保健領域の授業	（学修内容）保健領域の授業づくりの視点と指導法について、グループワークを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「保健領域の授業づくり（第13章）」を読み、要旨を提出する。
第10回	体育授業におけるICT（学習資料，教育機器）の活用	（学修内容）体育授業におけるICT（学習資料，教育機器）の活用について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体育科の指導法（第5章）」を読み、要旨を提出する。
第11回	体育科の評価	（学修内容）体育科の評価のあり方について、グループワークを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体育科の評価（第6章）」を読み、要旨を提出する。
第12回	体育科の年間指導計画	（学修内容）体育科の年間指導計画の考え方や作成の視点について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体育科の指導計画（第4章）」を読み、要旨を提出する。
第13回	体育科の学習指導案の作成（生徒の多様な発達への対応含む）	（学修内容）体育科の学習指導案の書き方（生徒の多様な発達への対応含む）について学び、学習指導案を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 予習として、テキストの「体育科の教材づくり論（第3章）」を読み、要旨を提出する。
第14回	模擬授業の実際	（学修内容）模擬授業を通して教授活動のあり方や評価について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 復習として、模擬授業をもとに指導案を改善し提出する。
第15回	優れた体育授業の創造をめざして（まとめ）	（学修内容）これまでの学習を総復習をする。グループワークを通して授業実践の重要性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 復習として、模擬授業をもとに改善した指導案を最終課題として提出する。

授業名	小学外国語・指導法	開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3747
英文名	Teaching Method of Foreign language in Elementary School	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	石井　正	対象学生	現代家政3回生				

授業の概要	・講義を通して、小学校の外国語活動・外国科の学習指導要領の目標や内容について理解する。 ・授業動画を視聴した後、グループワークやディスカッションといった協働的な学びを通して、「よい授業」に必要な要素を学ぶ。 ・授業で活用する様々な教育技法を体験的に学ぶ。 ・教室英語やスモールトークを通して、簡単な英語を使って指示をしたり、対話したりできるようにする。 ・授業づくりのために指導案の書き方を学んだり、模擬授業をしたりして、実践的な指導技術を習得する。
学修成果到達目標	(1)「外国語活動」と「外国語科」の目標や内容を理解して説明できる。 (2)「外国語活動」と「外国語科」の具体的な指導法を身に付けている。 (3) 簡単な英語表現を使って、Small Talkができる。 (4) 簡単な教室英語を使って、言語活動を意識した模擬授業を進めることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　２時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法							
定期試験（60%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（40%）	■筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	酒井　英樹 「小学校の外国語活動・外国語科基本の「き」　大修館書店 ISBN978-4-469-24664-3
参考書	文部科学省編「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動・外国語」 文部科学省編「Let's try ！１・２」 光村図書編　「Here We Go！５・６」 東京書籍編　「New Horizon Elementary English Course ５・６」
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験については、採点して返却します。 実技については、その都度コメントします。 毎回の授業後に、学修した内容、質問事項、自己評価などができる「振り返りカード」を提出させ、コメントを記入して返却します。
留意事項	１）　小学校現場にボランティアに行き積極的に外国語活動・外国語科の授業を見学してください。 ２）　ラジオ講座などを活用して，自分自身の英語力を上げる努力をしてください。
オフィスアワー	授業終了後に実施します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭・教頭・校長として勤務（教員生活37年間）2年間英語担当者として小学校英語活動の教材・授業案集を作成　一週間に12コマ程度T１として担任と外国語の指導経験。京都市小学校英語活動研究会会長・全国小学校英語活動実践研究会副会長を歴任。京都市教育委員会学校指導課参与（小学校英語担当）年間100コマ以上小学校英語の授業を指導して6年目

授業名	小学外国語・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 小学校における外国語活動・外国語の目標について 動画視聴①　教科指導の留意点	（学修内容）授業の概要や学習指導要領に示された外国語活動・外国語科の目標について理解。動画を視聴し、教科指導の留意点についてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事後：授業の振り返りカードをメールで提出。テキストP128～134の内容（外国語活動・外国語科の目標）のまとめプリント提出。
第2回	スモールトーク クラスルームイングリッシュ 授業動画視聴②・グループディスカッション 授業で使うゲーム①	（学修内容）教室英語で使える英語について知る。授業動画を視聴し、良い授業の要件についてディスカッションを行う。授業で使うゲームを体験する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備。事後：授業振り返りカード提出。テキストP135～145の内容（資質能力と領域別目標）のまとめプリント提出。
第3回	授業動画視聴③・グループディスカッション スモールトーク 授業で使うゲーム②	（学修内容）スモール・トークの意義や進め方について理解する。 授業動画を視聴し、良い授業の要件についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備。事後：授業振り返りカード提出。テキストP146～P151の内容（communication能力）のまとめプリント提出。
第4回	スモールトーク クラスルームイングリッシュ 授業動画視聴④・グループディスカッション 授業で使えるゲーム③	（学修内容）求められる指導者の資質・能力について考える。 授業動画を視聴し、良い授業の要件についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備をしておく。事後：授業振り返りカード提出。テキストP152～158の内容（言語活動）のまとめプリント提出。
第5回	スモールトーク テキストから 授業動画視聴⑤・グループディスカッション 授業で使うゲーム④	（学修内容）言語活動を大切にした授業づくりの在り方を理解する。 授業動画を視聴し、良い授業の要件についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備をしておく。事後：授業振り返りカード提出。テキストP91～P98の内容（聞く活動）のまとめプリント提出。
第6回	スモールトーク テキストから 小学校英語「聞くこと」の指導について 授業で使うゲーム⑤	（学修内容）「聞くこと」の指導のポイント理解する。 「聞くこと」の活動を進める具体的な指導方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備をしておく。 事後：授業振り返りカード提出。絵本の読み聞かせの練習。
第7回	スモールトーク テキストから 小学校英語「読むこと」の指導について 実践：絵本の読み聞かせ	（学修内容）「読むこと」の指導のポイントを理解する。 絵本の読み聞かせに慣れ親しむ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備をしておく。事後：授業振り返りカード提出。テキストP90～104（話すこと「発表」）のまとめプリント提出。
第8回	スモールトーク テキストから 授業動画視聴⑥・グループディスカッション 模擬授業のグループ分け	（学修内容）「話す（やりとり）」や「話す（発表）」の指導のポイントを理解 授業動画を視聴し良い授業の要件についてディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前：スモールトークの準備をしておく。事後：授業振り返りカード提出。テキストP116～120の内容（書くこと）のまとめプリント提出。
第9回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❶ テキストから 授業動画視聴⑦・グループディスカッション	（学修内容）「書くこと」ことの指導のポイントやアルファベットの指導の仕方を理解授業動画を視聴し、良い授業の要件についてディスカッション （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❶の予習をしておく。事後：授業振り返りカードを提出。例示された指導案の資料を予習しておく。
第10回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❷ 指導案の書き方、作り方について 模擬授業の計画を立てる	（学修内容）学習目標、指導計画の立て方、指導細案の書き方について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❷の予習。事後：授業の振り返りカードを次回の授業までにメールで提出。次回の担当者は模擬授業の準備をする。
第11回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❸ 第１回模擬授業の発表とディスカッション 挨拶⇒スモールトーク⇒Activity	（学修内容）担当２グループによる模擬授業を行い、発表しないグループは子供役で参加する。模擬授業の成果と課題についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❸の予習をしておく。担当者は模擬授業の準備事後：授業振り返りカードを提出。授業者は事後レポート提出。
第12回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❹ 第２回模擬授業の発表とディスカッション② 挨拶⇒スモールトーク⇒Activity	（学修内容）担当２グループによる模擬授業を行い、発表しないグループは子供役で参加する。模擬授業の成果と課題についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❹の予習をしておく。担当者は模擬授業の準備事後：授業振り返りカードを提出。授業者は事後レポートを提出。
第13回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❺ 第１回ペアでの絵本の読み聞かせ発表とディスカッション	（学修内容）担当グループによる絵本の読み聞かせを行う（発表者以外は児童役で参加）読み聞かせを行う上での留意点についてディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❺の予習。担当者は絵本の読み聞かせを練習 事後：授業振り返りカードを提出。発表者は、事後レポートを提出。
第14回	クラスルームイングリッシュ　ミニテスト❻ 第２回ペアでの絵本の読み聞かせ発表とディスカッション	（学修内容）担当グループによる絵本の読み聞かせを行う（発表者以外は児童役で参加）読み聞かせを行う上での留意点についてディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教室英語ミニテスト❻の予習。担当者は絵本の読み聞かせを練習 事後：授業振り返りカード提出。発表者は、事後レポートを提出。
第15回	まとめとふりかえり（筆記テスト） クラスルームイングリッシュのまとめ（筆記テスト）	（学修内容）小学校外国語活動・外国語科指導のまとめを行う。 クラスルームイングリッシュの確認を行う。） （事前事後学修課題の内容） 事前：まとめテストの予習。 事後：講義を通して学んだことをまとめ提出。

授業名	乳児保育Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2727
英文名	Infant CareⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	安藤　正彦	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。 １）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活できるとはどういうことか、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージし、保育園、保育士のあり方を学ぶ。 ２）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交換しながら、あそび（手あそび、歌あそび等）づくりにつなげていく。（プレゼンテーション）
学修成果到達目標	１）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解し実践できる。 ２）各年齢（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解している。 ３）実際の保育場面で活かせる、乳児との関わりに適応したあそびを習得する。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	乳児保育研究会編『改訂５版　資料でわかる乳児の保育新時代』 ※乳児保育Ⅰuと同じテキストになります。
参考書	授業中に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	受講生は「ふり返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。
留意事項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：私立保育園　保育士として勤務 指導者対象の実技講習など

授業名	乳児保育Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 乳児保育の基本 ［生活とあそび］	（学修内容）15回の学修内容を理解する。乳児の生活とあそびの大切さを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書最初の写真、及びはじめにと第１章の１を読んでくる 事後：乳児の生活とあそびが何故大切なのかを復習しておく
第2回	乳児保育の基本 ［乳児の発達の特徴］	（学修内容）乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第１章の２，３を読んでくる 事後：発達表を制作し、項目毎に目を通しておく
第3回	乳児保育の内容と方法（１） ［目標とねらい、保育園での生活］	（学修内容）乳児保育の目標とねらい及び保育園においての生活環境を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第２章の１，２を読んでくる 事後：保育園での1日の生活、デイリープログラムを復習する
第4回	乳児保育の内容と方法（１） ［情緒の安定と環境整備］ レポート①	（学修内容）子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 課題レポートを提出する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第２章の３を読んでくる 事後：子どもの安全を確保する観光整備を復習しておく
第5回	乳児保育の内容と方法（２） ［大人とあそぶ］	（学修内容）乳児のあそびのあり方と実践（動画）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第３章１の①を読んでくる。対おとなと遊ぶあそびを調べておく 事後：実際に授業で行なったあそびを復習しておく
第6回	乳児保育の内容と方法（２） ［友だちとあそぶ］	（学修内容）乳児のあそびのあり方と実践（動画）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第３章１の③を読んでくる。友だちとするあそびを調べておく。 事後：動画を思い出し、つもりみたて、ごっこあそびを復習する
第7回	乳児保育の内容と方法（２） ［物とあそぶ］	（学修内容）乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第３章１の②を読んでくる。物を使ったあそびを調べておく。 事後：年齢毎のおもちゃのちがいを発達と合わせて復習する
第8回	乳児保育の内容と方法（２） ［おもちゃ作り］	（学修内容）乳児のあそびに使用するおもちゃを実際に作る。 （事前事後学修課題の内容） 事前：乳児の年令に適したおもちゃをいくつか調べておく。 事後：作ったおもちゃで実際にあそんでみたり、新たに作ってみる
第9回	乳児保育の内容と方法（２） ［全身を使ってあそぶ］	（学修内容）乳児のあそびのあり方と実践（動画）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第３章１の④を読んでくる。身体を使うあそびを調べておく 事後：発達表を見ながら、子どもの身体の特徴を復習する
第10回	乳児保育の内容と方法（２） ［あそびの文化］	（学修内容）あそびにおける保育士の役割とあそび文化（絵本・紙芝居等）を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第３章３，４を読んでくる。（資料５は必ず目を通しておく） 事後：授業で行なった歌やあそびを復習して身につける
第11回	乳児のあそびの実際 ［あそびの実践］	（学修内容）実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：ふれあいあそびや手あそびの大切さを調べておく。 事後：実際に子どもの前ですることを意識しながらあそびを復習する
第12回	乳児のあそびの実際 ［グループ相談活動］ レポート②	（学修内容）年令の発達を踏まえた上で、あそび（ふれあい、歌、手あそび等）をグループで考える。課題レポートを提出する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回のあそびを復習し、グループに反映させる。 事後：グループで相談し、あそびをつくりあげる
第13回	プレゼンテーション ［グループ発表］	（学修内容）各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：作ったあそびを所定用紙に記入し、提出できるようにしておく。 事後：他のグループのあそびを参考にしてあそんでみる
第14回	乳児保育における計画の実際	（学修内容）乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第４章を読んでくる。（資料１は必ず目を通しておく） 事後：記録の大切さ、保育計画を立てる意義を復習する
第15回	乳児保育のまとめ ［子どもと保育士の関係］	（学修内容）子どもと保育士、親と保育士、職員集団の中での保育士の関係とあり方を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：第６章を読んでくる。（資料１、２は必ず目を通しておく） 事後：保育園での子どもと保育士、保護者と保育士の関係を復習する

実習名	地域教育実習（幼・小）ｕａ	対象学生	こども生活1回生
担当者	宮川　紀宏・盧　珠妍		
実習の概要	1. 目標・目的 　将来の教職を目指す学生が教育現場に入り、主として学校のある地域の特性を知るとともに、地域に根差す学校教育とはどのようなものかを理解することが本実習の大きな目的である。学校での授業や具体的な取り組みが、子どもの現状と地域の実情に照らして、どのように展開されているのかを継続的に現場に入ることを通して理解する。また、これらの授業や取り組みが子どもの成長にどのように効果的であるか考察することも目標とする。 2. 地域教育実習の内容（学修成果を含む） ・　地域に根差す学校教育の現状を把握する。 ・　地域とつながる教育活動が子どもたちの成長にどのようにつながるのか考える。 ・　自分と子どもとのどのような関わりが子どもの成長につながるか考えて実践する。 ・　教員としてのやりがいや大切なことを現場教員の言動から見て学ぶ。		
備考	1. 実習受講の条件など ・　総合基礎演習Ⅰ、総合基礎演習Ⅱ、教育の基礎と制度、発達心理学を履修済または履修中であること。 2. 実習態度、参加意欲など ・　小学校および幼稚園の教育現場の現状や諸課題を知るために、現場教員や子どもとともに学ぼうとする意欲をもつこと。 ・　学びを活かし、主体的に考えて実習に取り組もうとすること。 ・　人権に配慮した言動を取り、実習中に知りえた個人情報などの守秘義務を固く守ることができるもの。 3. レポート ・　実習に向けたレポートを作成すること		

実習名	地域教育実習（幼・小）ｕｂ	対象学生	こども生活2回生
担当者	宮川　紀宏・盧　珠妍		
実習の概要	1. 目標・目的 　将来の教職を目指す学生が教育現場に入り、主として学校のある地域の特性を知るとともに、地域に根差す学校教育とはどのようなものかを理解することが本実習の大きな目的である。学校での授業や具体的な取り組みが、子どもの現状と地域の実情に照らして、 どのように展開されているのかを継続的に現場に入ることを通して理解する。 　また、これらの授業や取り組みが子どもの成長にどのように効果的であるか考察することも目標とする。 2. 地域教育実習の内容（学修成果を含む） ・　地域に根差す学校教育の現状を把握する。 ・　地域とつながる教育活動が子どもたちの成長にどのようにつながるのか考える。 ・　自分と子どもとのどのような関わりが子どもの成長につながるか考えて実践する。 ・　教員としてのやりがいや大切なことを現場教員の言動から見て学ぶ。		
備考	1. 実習受講の条件など ・　総合基礎演習Ⅰ、総合基礎演習Ⅱ、教育の基礎と制度、発達心理学を履修済または履修中であること。 2. 実習態度、参加意欲など ・　小学校および幼稚園の教育現場の現状や諸課題を知るために、現場教員や子どもとともに学ぼうとする意欲をもつこと。 ・　学びを活かし、主体的に考えて実習に取り組もうとすること。 ・　人権に配慮した言動を取り、実習中に知りえた個人情報などの守秘義務を固く守ること。 3. レポート ・　実習に向けたレポートを作成すること		

実　習　名	地域教育実習（幼・小）ｕｂ	対象学生	現代家政3回生
担　当　者	宮川　紀宏・盧　珠妍		
実習の概要	1. 目標・目的 　将来の教職を目指す学生が教育現場に入り、主として学校のある地域の特性を知るとともに、地域に根差す学校教育とはどのようなものかを理解することが本実習の大きな目的である。学校での授業や具体的な取り組みが、子どもの現状と地域の実情に照らして、 どのように展開されているのかを継続的に現場に入ることを通して理解する。 　また、これらの授業や取り組みが子どもの成長にどのように効果的であるか考察することも目標とする。 2. 地域教育実習の内容（学修成果を含む） ・　地域に根差す学校教育の現状を把握する。 ・　地域とつながる教育活動が子どもたちの成長にどのようにつながるのか考える。 ・　自分と子どもとのどのような関わりが子どもの成長につながるか考えて実践する。 ・　教員としてのやりがいや大切なことを現場教員の言動から見て学ぶ。		
備　　考	1. 実習受講の条件など ・　総合基礎演習Ⅰ、総合基礎演習Ⅱ、教育の基礎と制度、発達心理学を履修済または履修中であること。 2. 実習態度、参加意欲など ・　小学校および幼稚園の教育現場の現状や諸課題を知るために、現場教員や子どもとともに学ぼうとする意欲をもつこと。 ・　学びを活かし、主体的に考えて実習に取り組もうとすること。 ・　人権に配慮した言動を取り、実習中に知りえた個人情報などの守秘義務を固く守ること。 3. レポート ・　実習に向けたレポートを作成すること		

授業名	社会的養護Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2712
英文名	Social Corporate Parenting Ⅱ	開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	芹澤　出	対象学生	こども生活2回生				

授業の概要	社会的養護を必要とする問題の発生状況と今日的特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法について学ぶと共に、施設や職員の役割を理解し援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ
学修成果到達目標	1）社会的養護を必要とする問題の発生状況と求められる支援について理解できる 2）社会的養護児童の行動特性をアセスメントできる 3）アセスメントに基づく支援計画を作成すると共に、支援に必要なスキルについて理解できる
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　２０分）

学位授与の方針との関連				
		知識・理解	◎	汎用的技能
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（80%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（20%）　□筆記試験　■レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)
テキスト	授業資料、事例のプリントを配布
参考書	社会的養護入門（社会的養護Ⅰ使用教科書）　ミネルバ書房　芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和「編著」
課題に対するフィードバックの方法	事例や練習問題の解答と解説を行います 授業内で質問時間を設けます
留意事項	積極的に授業に参加し、出された課題や事例について考察することが求められます
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務の現役施設長

授業名	社会的養護Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	（学修内容）社会的養護Ⅰ学習内容の確認、授業概要とシラバスの理解 （事前事後学修課題の内容） 社会的養護Ⅰで学んだ内容を復習しておく 事前にシラバスを読んでおく
第2回	社会的養護を取り巻く体系の理解	（学修内容）社会的養育、社会的養護、代替え養育、家庭養護、家庭的養護の確認と理解 （事前事後学修課題の内容） 社会的養育と社会的養護施設等の基本を確認しておく
第3回	社会的養護における子どもの理解	（学修内容）1支援・対応の前に必要な子どもの理解、2発達障害についての理解、 3虐待・ネグレクトの影響についての理解 （事前事後学修課題の内容） 施設を利用する子どもについて確認しておく
第4回	日常生活支援と治療的支援、自立支援	（学修内容）安定した生活を前提とする治療的支援についての理解と自立支援 （事前事後学修課題の内容） 第３回の社会的養護における子どもの理解をしっかりと復習しておく
第5回	事例を通して学ぶ① （視線が合わないこどもの事例）	（学修内容）保育所での相談事例を通して家庭養育支援の実際について学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） 家庭養育支援とは何かを確認しておく
第6回	事例を通して学ぶ② （弟をいじめる事例）	（学修内容）事例からジェノグラムを作成し、必要な支援について考察する 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） ジェノグラムについて事前学習しておく
第7回	事例を通して学ぶ③ （幼稚園入学に向けた相談事例）	（学修内容）事例を通して家庭養育支援とエコマップについて学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） エコマップについて学習しておく
第8回	事例を通して学ぶ④ （母子生活支援施設の支援事例）	（学修内容）事例を通してDVや児童虐待について学び、支援について考察する 事例について、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う （事前事後学修課題の内容） DVと児童虐待について学習しておく
第9回	事例を通して学ぶ⑤ （バスジャック事件事例）	（学修内容）事例から、少年が犯罪に至った経過を時系列に整理して考察する 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） 不登校引きこもり家庭内暴力について調べておく
第10回	事例を通して学ぶ⑥ （デートDV事例）	（学修内容）事例を通してアサーティブコミュニケーションについて学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） アサーティブコミュニケーションについて学習しておく
第11回	事例を通して学ぶ⑦ （児童養護施設事例）	（学修内容）事例を通して児童養護施設における支援のあり方について学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） 身体的虐待とその影響について調べておく
第12回	事例を通して学ぶ⑧ （虐待事例）	（学修内容）事例を通して虐待の影響と支援のあり方について学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） 性的虐待とその影響について調べておく
第13回	事例を通して学ぶ⑨ （虐待事例）	（学修内容）事例を通して虐待の援響と支援のあり方について学ぶ 事例について、グループディスカッション、プレゼンテ－ションを行う （事前事後学修課題の内容） 事例を振り返り、心理的虐待対応について考察する
第14回	ロールプレイイングを通して学ぶ	（学修内容）ロールプレイイングを通して、記録の作成と考察について学ぶ （事前事後学修課題の内容） ストレングス視点とエンパワメントについて理解しておく
第15回	振り返りとまとめ	（学修内容）これまでの授業内容の振り返りとまとめ、テストについての説明 （事前事後学修課題の内容） 授業の復習とまとめ授業の内容に沿って試験勉強する

授業名	医学の基礎知識	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武曾　惠理	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	社会福祉士として対応する対象者の心身の構造、疾病状況、回復への介入の可能性を理解し、これらに対する社会的制度も理解して、国家試験対策に取り組む土台とする。 そのために、人の身体構造と心身機能について基本的な理解をうながし、そのライフステージに応じた変化を理解する。 また、疾病と障害の成り立ち及び回復過程、リハビリテーションによる介入の効果について理解し、これらを支える公衆衛生としての、国内外の制度および対策とシステムを理解する。
学修成果 到達目標	1）社会福祉士として必要とされる、人の身体構造と心身機能およびそれらのライフステージにおける変化を理解する。 2）疾病と障害の成り立ち及び回復過程、リハビリテーションによる介入の効果について理解する。 3）人の健康状態の維持や疾病の課題に取り組む国内外の制度および対策を公衆衛生の立場から理解をする。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	■ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法		
定期試験（50%）	■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技	平常試験（50%） ■筆記試験　□レポート　□制作物 □口述　□実習　□実技

評価基準	
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	最新・社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座 一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集 1．医学概論
参考書	解剖生理学　南山堂
課題に対するフィードバックの方法	Classroomで毎回課題を出し、その回答をチェックする。 講義に用いたシラバスの穴埋め後のスライドPDFを毎授業後にClassroomで配信し、復習を促す。
留意事項	授業のプリントに毎回の重要ポイントを記すので、これを確信すること。
オフィスアワー	講義終了後の空き時間
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：医師としての48年にわたる実地臨床医の経験と、医学部教官としての医師に対する研究、実臨床教育の経歴があり、これらは社会福祉士への医学の基礎知識を教育するためには十分活用できる。

授業名	医学の基礎知識

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ライフステージにおける心身の変化と健康課題I	（学修内容）人生の成長、発達やその後の心身の特徴を胎児期、乳幼児期、児童期、青年期　成人期、加齢の各段階について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp2-14を予習し参考とする。
第2回	ライフステージにおける心身の変化と健康課題II	（学修内容）胎児期、乳幼児期、児童期、青年期　成人期、加齢の各段階について健康課題をまなび、死因についても理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp15-21を予習し参考とする。
第3回	健康および疾病のとらえ方 国際生活機能分類（ICF)	（学修内容）健康と疾病の概念をまなび、国際生活機能分類（ICF)の意義、枠組み、活用について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp22-31を予習し参考とする。
第4回	身体構造と心身機能I（身体を構成する器官と臓器。骨格、筋、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系の構造と機能の理解）	（学修内容）身体構造と心身機能I　人体各部（骨格、筋、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）の臓器の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp32-40を予習し参考とする。
第5回	身体構造と心身機能I（身体を構成する器官と臓器。生殖、内分泌、神経、感覚器、皮膚、血液系の構造と機能の理解）	（学修内容）身体構造と心身機能I　人体各部（生殖、内分泌、神経、感覚器、皮膚、血液系）の臓器の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp40-57を予習し参考とする。
第6回	疾患と障害の成り立ちおよび回復過程	（学修内容）疾病の発生原因と病変の成立機序について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキストp58-69を予習し参考とする。
第7回	リハビリテーションの概要と範囲 アクティブラーニングを含む	（学修内容）リハビリテーションの定義、目的、対象、方法について学ぶ。 実際のリハビリの流れを学び、学生間でプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） テキストp70-91を予習し参考とする。
第8回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションI（感染症）	（学修内容）感染症の各疾患について概要、現状、治療を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp92-101を予習し参考とする。
第9回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションII（神経疾患、認知症、高次脳機能障害、脳血管障害）	（学修内容）神経疾患・認知症、高次脳機能障害、脳血管障害の各疾患について概要、現状、治療を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp101-114を予習し参考とする。
第10回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションIII（心疾患、内分泌・代謝疾患）	（学修内容）心疾患、内分泌・代謝疾患について概要、現状、治療を理解する （事前事後学修課題の内容） テキストp115-128を予習し参考とする。
第11回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションIV（呼吸器疾患、腎・泌尿器科疾患）	（学修内容）呼吸器疾患、腎・泌尿器科疾患について概要、現状、治療を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp129-144を予習し参考とする。
第12回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションV（消化器疾患・骨関節疾患・血液疾患）	（学修内容）消化器・肝胆膵疾患・骨関節疾患・血液、免疫、アレルギー疾患について概要、現状、治療を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp145-162を予習し参考とする。
第13回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションVI（目耳の疾患と障害、口腔疾患）	（学修内容）目耳の疾患と視覚、聴覚、平衡覚障害、口腔疾患や歯科保険について概要、現状、治療を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp163-183を予習し参考とする。
第14回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションVII (婦人科疾患、精神疾患、小児疾患）	（学修内容）婦人科・産科疾患、精神疾患、精神小学、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害などについて概要、現状、治療、対策を理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp184-201を予習し参考とする。
第15回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションVIII（高齢者病、生活習慣病、各腫瘍）公衆衛生	（学修内容）高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケアについて概要、現状、対策を理解する。公衆衛生の概念について理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキストp202-232を予習し参考とする。

授業名	現代社会と福祉Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1710
英文名	Modern Society and WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	野田　隆生	対象学生	こども生活1回生				

授業の概要	現代社会におけるわたしたちのくらしの実態を明らかにしながら、そこで抱える生活課題にどのように関わっていけばいいのか、その根底となる総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割や機能について考える。また、生活課題の構造把握をもとに社会福祉の果たす役割について検討し、さらには原理と政策の視点より今日的な展開・動向・課題について考察を深めていく。
学修成果到達目標	1）わたしたちのくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2）社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3）これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
	○	知識・理解		汎用的技能
	◎	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	□知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	（最新）社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第4巻『社会福祉の原理と政策』中央法規
参考書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室（1R-404）に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。
実践的教育	

授業名	現代社会と福祉Ⅱ

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに～社会福祉の原理とは～	（学修内容）本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 社会福祉の原理の意味やその展開について学ぶ （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト序章（pp.2-14）を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　用語の意味を整理する。
第2回	欧米の社会福祉の歴史	（学修内容）歴史を学ぶ視点について解説し、その後、イギリスやアメリカにおける社会福祉の歴史について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第1章(pp.16-33)を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　用語と歴史的背景について整理する。
第3回	日本の社会福祉の歴史	（学修内容）日本の社会福祉の歴史について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第1（pp.34-45）を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　用語と歴史的背景について整理する。
第4回	社会福祉の思想と哲学	（学修内容）社会福祉における思想と哲学との関連性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第2章（pp.48-59）を読み人物について調べる。 事後　人物が主張する思想についてまとめる。
第5回	社会福祉の定義と論点	（学修内容）社会福祉の定義について日本における展開とその論点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第2章(pp.60-79)を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　定義の整理を時系列で行う。
第6回	社会福祉の対象とニーズ	（学修内容）社会福祉における対象とそのニーズについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第2章(pp.80-87)を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　事例を整理し、対象とニーズを整理する。
第7回	社会問題と社会構造	（学修内容）現代の社会問題とその構造的背景について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第3章(pp.90-108)を読み重要項目にチェックを入れる。 事後　重要項目を整理し、まとめる。
第8回	福祉政策の基本的視点	（学修内容）福祉とは何かを再考し、福祉政策の概念と理念について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第4章（pp.110-131）を読み政策課題について考える。 事後　政策の基本的視点についてまとめる。
第9回	福祉政策におけるニーズと資源	（学修内容）福祉政策におけるニーズ（必要）について再考し、資源（リソース）について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第5章（pp.134-163）を読み用語について調べる。 事後　用語の整理を行う。
第10回	福祉政策の構成要素と過程	（学修内容）福祉政策の構成要素とその評価について、グループワーク通じて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第6章（pp.166-192）を読み用語について調べる。 事後　GWでの内容についてまとめる。
第11回	福祉政策の動向と課題	（学修内容）社会福祉基礎構造改革を例に福祉政策の概要とその課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第7章（pp194-220）を読み時系列に整理する。 事後　諸課題についてまとめる。
第12回	福祉政策と関連施策	（学修内容）さまざまな分野の福祉施策と関連する施策について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第8章（pp.224-251）を読み用語について調べる。 事後　関連する施策の概要についてまとめる。
第13回	福祉サービスの供給と利用の過程	（学修内容）福祉サービスの供給過程と利用過程について、グループワークを通じて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第9章（pp.254-280）を読み用語について調べる。 事後　GWでの内容についてまとめる。
第14回	福祉政策の国際比較	（学修内容）国際比較の意義とその方法について学び、各国の福祉政策の特徴について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　テキスト第10章（pp.282-303）を読みＨＰにて検索する。 事後　各国の特徴についてまとめる。
第15回	おわりに～これからの社会福祉～	（学修内容）全体をふりかえりながら、グループワークを通してこれからの社会福祉について考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前　理想の福祉社会について考え、ノートに記述しておくこと。 事後　筆記試験に向けてポイントを整理する。

授業名	音楽実践演習	開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中　信子	対象学生	現代家政4回生				

授業の概要	各種実習および採用試験等に向けて必要とされる音楽技術(特に子どもの歌の弾き歌い)のさらなる向上を目指す。特に、音楽初級者のレベルアップを図ることを目的とする。実習・採用試験の要点を意識した具体的な音楽技術指導に加え、学生の希望に応じた音楽表現諸活動の実践方法の指導を行う。このため、学生が能動的かつ自主的な進路希望先の情報収集や目標設定を行い、その目標達成の実現に向けて教員と相互確認を行いつつ授業を進める。
学修成果到達目標	1)ピアノによる弾き歌いおよび初見課題等に対応できる実践的能力を身に付けることができる。 2)子どもの音楽実践に必要な諸理論を活用し、リズム・リトミック・劇あそび等の活動に必要な即興演奏能力を身に付けることができる。 3)学んだ理論と音楽表現技術との往還を通して、上記以外の子どもとの音楽表現活動にも幅広く対応できる実践力を身に付けることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
○	知識・理解	○	汎用的技能
	態度・志向性	◎	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（70%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技 平常試験（30%）　□筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　■実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力　■授業態度・参加意欲　■(実技) □( )
テキスト	京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編『子どものうた』
参考書	授業内で指示する。
課題に対するフィードバックの方法	課題の練習成果は毎回教員が確認し、コメントする。
留意事項	希望する進路先に応じた指導を円滑に行うため、可能な限り事前に実習先や希望する進路先の採用試験内容等、進路に関する情報収集を自主的にしておくことが望ましい。
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は3号館4階に掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。
実践的教育	

授業名	音楽実践演習

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	音楽表現の諸活動について （音楽指導内容の希望等の相談指導含む）	（学修内容）実習等で実際に行われることの多い音楽諸活動の種類と必要となる音楽技術・実践方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） テキスト『子どもの歌』のなかから、これまで履修した曲をピックアップし、各々の内容からどのような表現活動が可能かを考えておく。
第2回	生活の歌①朝	（学修内容）生活の歌、特に朝の活動で歌われる歌の伴奏法と、演奏が困難な場合の簡易的なアレンジ方法を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 生活の歌、特に朝の活動で歌われる楽曲の復習と、教育実習事前オリエンテーションで課された音楽課題の予習をしておく。
第3回	生活の歌②昼～降園	（学修内容）生活の歌、特にお昼から降園までに歌われることの多い楽曲の伴奏法と、演奏が困難な場合の簡易的なアレンジ法を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 生活の歌、特にお昼から降園までに歌われることの多い楽曲の読譜及び演奏練習をしておく。
第4回	季節・行事の歌①春～夏	（学修内容）春から夏にかけて歌われる子どもの歌と、それに伴って行われる音楽活動の諸実践を円滑に進めるために必要な知識および演奏技術を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 季節・行事の歌、特に3月～8月までに歌われることの多い楽曲の読譜及び演奏練習をしておく。
第5回	季節・行事の歌②秋～冬	（学修内容）秋から冬にかけて歌われる子どもの歌と、それに伴って行われる音楽活動の諸実践を円滑に進めるために必要な知識および演奏技術を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 季節・行事の歌、特に9月から2月までに歌われることの多い歌の読譜及び演奏練習をしておく。
第6回	リズム・リトミック活動の即興伴奏法①コードの基礎から応用まで	（学修内容）リズム・リトミック活動の際に必要となる簡易的な即興伴奏法とその応用について、主にコード進行法と転回形の扱い方を取得する。 （事前事後学修課題の内容） 子どもの音楽Ⅰ・Ⅱで学んだ、基本となるコードと、各主要調の終止形を完全に覚えておく。
第7回	リズム・リトミック活動の即興伴奏法②表現の実際	（学修内容）基本コードに加え、サブドミナントコードなどの扱いに慣れるとともに身体の動きに応じた表現方法について習得する。 （事前事後学修課題の内容） サブドミナントコードとその扱いについて、これまで学んだコード進行に加えて学習しておく。
第8回	劇あそび等の表現法①クラスター奏法	（学修内容）劇あそび等におけるクラスター奏法の効果的な使い方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 保育・幼稚園等で頻繁に取り上げられる劇あそび作品のなかから一つ選び、クラスター奏法が適用可能な場面を考えておく。
第9回	劇あそび等の表現法②グリッサンド・トリル	（学修内容）劇あそび等におけるグリッサンド・トリルの効果的な使い方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 劇あそび作品のなかから一つ選び、グリッサンドおよびトリル奏法が活用可能な場面を考えておく。
第10回	劇あそび等の表現法③短いテーマによる簡単な即興表現	（学修内容）劇あそび等の劇中イメージ(場面変化や登場人物のイメージ)を簡易に音楽で表現するための短く平易な即興表現の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 前回選んだ劇あそび作品の場面毎のイメージを、可能な限り言語化しておく。
第11回	難易度の高い子どもの歌の初見読譜法①理論	（学修内容）初心者にとって読譜の困難な楽譜を、可能な限り短期間で読譜し、演奏するための基本的なポイントを復習し、理解する。 （事前事後学修課題の内容） テキスト等から特に演奏難易度の高い楽曲を選び、可能な範囲で読譜しておく。
第12回	難易度の高い子どもの歌の初見読譜法②伴奏部分の基本構造の理解と初見演奏実践	（学修内容）教育実習等で実際に課される難易度の高い楽曲を実際に取り上げ、初見の際の主要音の迅速な峻別方法と、その演奏への生かし方を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 取り上げてほしい課題等を選定し、可能な範囲で読譜しておく。
第13回	各種園歌の読譜とその演奏法	（学修内容）前回学習した初見読譜法を応用し、教育実習先の園歌等の初見実践を通し、限られた時間内での演奏完成度を高める方法を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 難易度の高い子どもの歌の楽曲の基本構造を分析し、読譜しておく。
第14回	音楽活動実践総合演習①生活の歌・行事の歌他	（学修内容）学習した音楽技術及び理論を、与えられた題材（生活の歌・行事の歌）でどのように生かし、また指導を展開するかを総合的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 生活の歌・行事の歌等を題材にした音楽活動の展開方法を考え、指導の目的に応じた楽曲の演奏及び表現の方法を考えておく。
第15回	音楽活動実践総合演習②リズムほか まとめ	（学修内容）音楽の諸表現活動に必要な理論および技術を総合的に生かした実践方法を考える。（グループワーク・ディスカッション含む） （事前事後学修課題の内容） 第6・7回目で学習したコードと和声進行・およびリズムパターンを生かした音楽活動を考えておく。

授業名	ITパスポート総論	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山口　透	対象学生	生活情報2回生				

授業の概要	本授業は、IT初心者を対象とし、IPA（情報処理推進機構）が実施するITパスポート試験に合格できるレベルの基礎知識を習得することを目指します。講義は、ITパスポートの出題範囲を構成する、ストラテジ系（経営戦略・法務など）、マネジメント系（プロジェクト管理・サービス運用など）、テクノロジ系（ネットワーク・セキュリティなど）を毎回30分ずつ並行して学びます。また、身近な事例や演習問題を取り入れ、専門用語や概念をできるだけ平易に解説することで、ITへの苦手意識を払拭し、興味を喚起します。過去問題演習を実施し、試験本番に向けた総仕上げを行うとともに、弱点補強も行います。ITを活用する社会人基礎力を身につけ、就職活動や今後の学習・キャリアに活かすための入門講座として、幅広い知識習得を目指します。
学修成果到達目標	1）ITパスポート試験の出題範囲（ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジ系）の基本概念を理解できる。 2）業務や日常生活において、ITを活用して課題を分析し、適切な解決策を提案できる。 3）情報技術の進化に関心を持ち、最新のIT動向について自主的に学ぶ姿勢を身につける。 4）学習した知識を活かして、試験合格を目指し、自己学習を継続できる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　1時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）
評価方法	定期試験（60%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技 平常試験（40%）　■筆記試験　□レポート　□制作物　□口述　□実習　□実技
評価基準	主たる評価観点　■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　■（ ITパスポート試験合格 ）□（ ）
テキスト	令和07年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる かやのき先生のITパスポート教室 栢木 厚 (著) 技術評論社 https://amzn.to/40FgRN7 2024/11/25
参考書	キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 令和07年 きたみりゅうじ（著） 技術評論社 https://amzn.to/4gpOHLz 2024/12/2
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストを回収後、解答の解説を行います
留意事項	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：企業経営とITのコンサルティング事業の実務経験

授業名	ITパスポート総論

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ITの基礎知識と導入	（学修内容）企業活動の基本、プロジェクトマネジメントの概要、コンピュータ構成要素 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第2回	経営戦略とシステム活用	（学修内容）経営戦略手法、システム開発プロセス、ネットワークの基本 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第3回	法務と情報セキュリティ	（学修内容）知的財産権、リスクマネジメント、セキュリティ基礎 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第4回	データ活用と業務改善	（学修内容）業務分析とビジュアル化、サービスマネジメント、データベースの基本 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第5回	マーケティングとプロジェクト	（学修内容）マーケティング基礎、プロジェクトスコープとWBS、OSの役割 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第6回	会計と意思決定	（学修内容）財務・会計の基礎、意思決定手法、アルゴリズムとプログラミング （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第7回	技術戦略とネットワーク	（学修内容）技術戦略マネジメント、データ分析手法とBIツール、ネットワークプロトコル （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第8回	法規と内部統制	（学修内容）労働法規と取引法規、内部統制、セキュリティ対策 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第9回	eビジネスと効率化	（学修内容）eビジネス、業務効率化、データ構造 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第10回	社会的責任とIT倫理	（学修内容）CSRとSDGs、ソリューションビジネス、データ操作とトランザクション （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第11回	標準化と情報デザイン	（学修内容）標準化、業務改善プロセス、情報デザイン （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第12回	データ分析とクラウド	（学修内容）データ分析と可視化、クラウドコンピューティング、情報セキュリティ管理 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第13回	IoTと技術革新	（学修内容）IoTとスマートシステム、サービスマネジメントシステム、セキュリティ技術 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第14回	AIと未来技術	（学修内容）AIとデジタル変革、プロジェクトレビューと改善、AI技術と活用 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う
第15回	総復習	（学修内容）弱点確認 （事前事後学修課題の内容） （事前学習）これまでの学修内容の用語を調べ、概要を理解する （事後学習）授業内容を振り返り用語や概念について復習を行う

授業名	小学社会・指導法	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2725
英文名	Teaching Method of Social Studies in Elementary School	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	寺田　博幸	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	本授業では，小学校社会科の目標や内容，主な学習指導方法について理解するとともに，今日的な社会科の諸課題について考察する。また，小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案を作成するとともに，模擬授業を通して授業づくりを体験的に学ぶ。
学修成果到達目標	1．小学校社会科の教科目標や育成を目指す資質・能力とともに，小学校社会科に関わる基礎的・基本的な理論について理解することができる。 2．小学校社会科で育成を目指す資質・能力を育てるための指導計画作成や学習指導の在り方について理解することができる。 3．小学校社会科における指導と評価の一体化に基づく学習指導案を作成するとともに，模擬授業を通して社会科の学習指導方法を修得することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　■プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク　■ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	■制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	■実習	■実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　■プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　) □(　　)

テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編平成29年7月　文部科学省　東洋館出版社 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校社会　令和2年3月　文部科学省　国立教育政策研究教育課程研究センター　東洋館出版社
参考書	小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月　告示　文部科学省　東洋館出版 京都・宇治発地域協働の総合的な学習「宇治学」副読本による教育実践　橋本祥夫編著　ミネルヴァ書房
課題に対するフィードバックの方法	受講生の声（コメントカード等）を受け止めながら，本授業の課題を共有する。
留意事項	到達目標に迫るため，15回の授業に出席し学びを深めるとともに，その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う
オフィスアワー	第1回授業日に伝える。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市立小学校校長として勤務

授業名	小学社会・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション，小学校社会科学習の意義，目標と内容，及び育成を目指す資質・能力	（学修内容）小学校社会科学習の意義，目標と内容，及び育成を目指す資質・能力 （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説社会編第1章，第2章を読み込むとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	小学校社会科の各学年の目標，及び内容（中学年）	（学修内容）小学校社会科の各学年の目標，及び内容（中学年） （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説社会編第3章第1節，同第2節を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	小学校社会科の各学年の目標，及び内容（高学年）	（学修内容）小学校社会科の各学年の目標，及び内容（高学年） （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説社会編第3章第3節，同第4節を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	小学校社会科の指導計画作成と内容の取扱い	（学修内容）小学校社会科の指導計画作成と内容の取扱い （事前事後学修課題の内容） 小学校学習指導要領解説社会編第4章を読み解くとともに，提示する課題について小レポートにまとめる。
第5回	小学校社会科における指導と評価の一体化	（学修内容）小学校社会科における指導と評価の一体化 （事前事後学修課題の内容） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に基づき，提示する課題について小レポートにまとめる。
第6回	小学校社会科の実践事例１ 単元「くらしと水」（第4学年内容（2））の目標と指導内容	（学修内容）単元「人々の健康や生活環境を支える事業」（第4学年内容（2））の目標と指導内容 （事前事後学修課題の内容） 単元「人々の健康や生活環境を支える事業」（第4学年内容（2））の目標と指導内容についてまとめる。
第7回	小学校社会科の実践事例２ 単元「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」（第3学年内容(3)）の目標と指導内容	（学修内容）「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」（第3学年内容(3)）の目標と指導内容 （事前事後学修課題の内容） 「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」（第3学年内容(3)）の目標と指導内容についてまとめる。
第8回	小学校社会科の実践事例３ 単元「米づくりのさかんな地域」（第5学年（2））の目標と指導内容	（学修内容）単元「米づくりのさかんな地域」（第5学年（2））の目標と指導内容 （事前事後学修課題の内容） 単元「米づくりのさかんな地域」（第5学年（2））の目標と指導内容についてまとめる。
第9回	小学校社会科の多様な評価方法の事例 第6学年単元「天皇中心の国づくり」，単元「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」の指導と評価の一体化	（学修内容）第6学年単元「天皇中心の国づくり」，単元「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」の指導と評価の一体化 （事前事後学修課題の内容） 第6学年単元「天皇中心の国づくり」，「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」を通して，指導と評価の一体化についてまとめる。
第10回	小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成（グループ別），及び提案準備	（学修内容）小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成（グループ別），及び提案準備 （事前事後学修課題の内容） 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成（グループ別）するとともに，提案準備をする。
第11回	小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議と提案準備	（学修内容）小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議と提案準備 （事前事後学修課題の内容） 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議を行うとともに，提案準備をする。
第12回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案（1）と相互評価	（学修内容）学習指導案に基づく模擬授業の提案（1）と相互評価 （事前事後学修課題の内容） 学習指導案に基づく模擬授業の提案（1）を行うとともに，相互評価を行う。
第13回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案（2）と相互評価	（学修内容）学習指導案に基づく模擬授業の提案（2） （事前事後学修課題の内容） 学習指導案に基づく模擬授業の提案（2）を行うとともに，相互評価を行う。
第14回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案（3）と相互評価	（学修内容）学習指導案に基づく模擬授業の提案（3）と相互評価 （事前事後学修課題の内容） 学習指導案に基づく模擬授業の提案（3）を行うとともに，相互評価を行う。
第15回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案（4）と相互評価，及び全体講評とまとめ	（学修内容）学習指導案に基づく模擬授業の提案（4）と相互評価，及び全体講評とまとめ （事前事後学修課題の内容） 学習指導案に基づく模擬授業の提案（4）を行うとともに相互評価，全体講評を行い，15回の授業をまとめる。

授業名	小学算数・指導法	開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2726
英文名	Teaching Method of Mathematics in Elementary School	開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	青山　泰浩	対象学生	現代家政2回生				

授業の概要	小学校学習指導要領（平成29年告示）では「主体的・対話的で深い学び」が求められています。算数科学習においてそれはどのように実現されるのか，本授業では具体的な教材をもとに指導法を考えます。また，算数科の授業実践において大切な役割を果たす学習指導案を作成し，模擬授業を通して算数科学習の進め方を身に着けます。授業はグループワークやディスカッション，模擬授業を交えながら進めます。
学修成果到達目標	1）算数科学習の基本的な進め方，主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法を理解することができる。 2）算数科学習指導案の内容と書き方を理解し，学習指導案を作成することができる。 3）数学的な見方・考え方を深める指導法について，自ら調査・研究し，グループで協議をしたり，レポートを作成したりすることができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計　4時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解	○	汎用的技能
○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　■ディスカッション・ディベート　■グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（50%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（50%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		■口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　■コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　□課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)

テキスト	授業時に資料(プリントなど）を配布します。また，資料の一部はClassroomにアップします。
参考書	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版）、算数教科書「わくわく算数１年～６年」
課題に対するフィードバックの方法	次時の授業やClassroomにてコメントします。
留意事項	小学校算数科の指導法に興味・関心を持ち，自ら研究し実践するなど，積極的に学ぶ意欲を持った人の受講を望みます。
オフィスアワー	授業終了後の教室で，またはメールで対応します。
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，京都教育大学附属京都小学校教諭，京都市総合教育センター指導主事・研修主事，京都市立小学校校長

授業名	小学算数・指導法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションと算数を学ぶ意義	（学修内容）学修内容の概観と学修の進め方ついて理解するとともに，算数をなぜ学ぶのかについて考察する。 （事前事後学修課題の内容） 算数をなぜ学ぶのかについて考察し，子どもむけのパンフレットを作成する。
第2回	教育関係の法律と学習指導要領	（学修内容）算数科学習を成立させている法律や小学校学習指導要領の内容，算数科の目標と学習内容について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 学習指導要領に示されている算数科の目標とその内容について学んだことをまとめる。
第3回	算数科の各領域の内容と指導上の留意点(1): 数の構成，様々な数	（学修内容）集合の意味，1対1対応の意味，数の構成など数について理解を深めるとともに，その指導法について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 日常生活に使われている数を調査し，日常生活における数の働きについて考察する。
第4回	算数科の各領域の内容と指導上の留意点(2): 演算の意味と計算のきまり	（学修内容）加法，減法，乗法，除法の意味と　計算のきまりについて理解を深めるとともに，その指導法について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 計算のきまりを使って，計算を簡潔にする方法について考察する。
第5回	算数科の各領域の内容と指導上の留意点(3): 量と測定，図形	（学修内容）小学校で学習する量と単位，図形の定義・性質について理解を深めるとともに，その指導法について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 日常生活の中で使われている量を調査し，どのように使われているのかについて考察する。
第6回	算数科の各領域の内容と指導上の留意点(4): データの処理と統計，関数	（学修内容）データの処理の仕方と表やグラフの扱い，変化のきまりと関数の扱いについて理解を深めるとともに，その指導法について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 日常の生活から様々なグラフを調査し，どんなグラフがどのように使われているのかを考察する。
第7回	算数科の各領域の内容と指導上の留意点(5): 問題解決と数学的な見方・考え方	（学修内容）問題解決学習と数学的な見方・考え方，図の活用について理解を深めるとともに，その指導法について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 図を使った問題解決の方法と指導上の留意点をまとめる。
第8回	算数科学習の進め方(1): 模擬授業の体験と授業の考察	（学修内容）模擬授業を体験し，算数科学習の進め方のモデルについて学修する。 （事前事後学修課題の内容） 模擬授業を通して算数科学習の進め方について学んだことをまとめる。
第9回	算数科学習の進め方(2): 主体的・対話的で深い学びと1時間の学習モデル	（学修内容）主体的・対話的で深い学びとはどのような学びなのかを1時間の学習のモデルを通して学修する。 （事前事後学修課題の内容） 主体的・対話的で深い学びを研究し，具体例を作成する。
第10回	算数科学習の進め方(3): 話し合いの進め方と教師の発問	（学修内容）算数科授業のビデオを視聴し，話し合いの進め方と教師の発問について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 教師の授業における発問の仕方，具体的な発問について具体例を作成する。
第11回	算数科学習の進め方(4): 単元の指導計画と指導と評価の一体化	（学修内容）単元の指導計画の意味と形式，学習評価の進め方，指導と評価の一体化について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 単元の学習計画と評価計画を作成する。
第12回	算数科学習指導案と授業実践(1) 学習指導案の形式と作成の進め方	（学修内容）算数科の学習指導案の形式を理解し，学習指導案作成の進め方について学修する。 （事前事後学修課題の内容） 学習指導案(本時の展開)を試作する。
第13回	算数科学習指導案と授業実践(2):本時の展開と板書計画	（学修内容）学習指導案の中の本時の展開と板書計画について検討し，指導案を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 自らの工夫を盛り込んだ学習指導案(細案)を作成する。
第14回	算数科学習指導案と授業実践(3):作成した学習指導案の検討	（学修内容）作成した学習指導案についてグループで協議し，検討を加える。 （事前事後学修課題の内容） 再検討した学習指導案を完成させる。
第15回	算数科指導法のまとめ:主体的・対話的で，深い学びのまとめ	（学修内容）主体的・対話的で深い学び，協働的な学びの進め方について学んだことをまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 授業で学んだこと，今後に生かしたいことについて個人の見解をまとめる。

授業名	日本語文法	開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名		開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	岡村　弘樹	対象学生	日本文化1回生				

授業の概要	日本語を品詞にわけて学習し、日常生活の中で日本語がどのように使用されているのか、また、日本語を実際使用するにあたってどのような点に注意すれば良いのか、文章で書く表現と談話として話す表現とのちがいを意識しつつ、日本語文法について学ぶ。小学校・中学校・高等学校で学習してきた学校文法について振り返りるとともに、学校文法の枠を超えた日本語文法の発展的な内容や課題を考察することを通して、その特色を理解する。
学修成果到達目標	①日本語の口語文法および文語文法について基礎的な知識を身につけることができる。 ②学校文法の特色と問題点を説明することができる。 ③文章を読んで文法上の誤りを指摘し、修正することができる。
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）

学位授与の方針との関連				
◎	知識・理解		汎用的技能	
	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力	

アクティブ・ラーニング対象授業	□ＰＢＬ　□ディスカッション・ディベート　□グループワーク　□プレゼンテーション □実習・フィールドワーク　□ＩＣＴ活用（双方向型授業）　□ＩＣＴ活用（自主学習支援）

評価方法								
定期試験（70%）	■筆記試験	□レポート	□制作物	平常試験（30%）	□筆記試験	■レポート	□制作物
	□口述	□実習	□実技		□口述	□実習	□実技

評価基準		
主たる評価観点	■知識・理解　□コミュニケーション能力　□プレゼンテーション能力　■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲　□(　　)□(　　)	

テキスト	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、2004年
参考書	授業中に適宜指示する。
課題に対するフィードバックの方法	授業期間内に提出されたコメントに対し、解説を行う。
留意事項	
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。
実践的教育	

授業名	日本語文法

授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業内容やテキストについての紹介・説明 （事前事後学修課題の内容） テキストの「はじめに」と「本書の使い方」をよく読み、どういった方針のテキストであるのか理解しておく。
第2回	品詞	（学修内容）品詞分類、自立語、付属語 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション1を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第3回	活用	（学修内容）動詞、形容詞、形容動詞 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション2を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第4回	文の組み立て	（学修内容）文節、主語、文型 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション3を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第5回	格助詞	（学修内容）格助詞とは何か、格助詞の用法 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション4を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第6回	副助詞	（学修内容）副助詞とは何か、副助詞の用法 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション5を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第7回	接続助詞	（学修内容）接続助詞とは何か、接続助詞の用法 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション6を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第8回	連用修飾・連体修飾	（学修内容）副詞、連体詞、その他の連用修飾・連体修飾用法 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション7を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第9回	助動詞（1）受身・使役・可能	（学修内容）受身・使役などを表す助動詞とその特徴 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション8を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第10回	助動詞（2）否定・時間	（学修内容）否定や時間に関わる助動詞とその特徴 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション9を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第11回	助動詞（3）モダリティ	（学修内容）話し手の捉え方やもくろみを表す助動詞とその特徴 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション10を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第12回	助動詞と似た働きの形式	（学修内容）評価や働きかけに関する表現、補助動詞 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション11・12を読み理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第13回	敬語	（学修内容）敬語の種類、敬語運用上の注意点 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション13を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第14回	文章・談話	（学修内容）終助詞、接続詞、文章・談話の構成 （事前事後学修課題の内容） 事前にテキストのセクション14を読み、理解しにくい所をチェックする。授業後、授業内容を承けて読み返し、理解できているか確認する。
第15回	まとめ	（学修内容）授業内容の振り返り・まとめ、試験に向けて （事前事後学修課題の内容） 授業全体の内容を見返して、試験に向けて十分に備える。

実　習　名	公衆栄養学臨地実習	対象学生	食物栄養4回生
担　当　者	猿渡　綾子		
実習の概要	１．目標・目的 ・実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識及び技術の統合を図る。 ・公衆栄養分野の臨地実習においては、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策が法律にもとづいて実施されていることを理解する。 ・行政栄養士は健康・栄養問題を取り巻く情報の収集・総合的な分析を通して地域の優先的な健康課題に取り組む。また、その背景にある食環境、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、子供や高齢者の健康、社会環境整備にかかわる担い手であることを理解する。 ２．内容 ・保健所・保健センターでは、施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。 ・特に健康日本２１（第二次）の取り組みとしての他職種と協働できる調整能力等のマネジメントについて学ぶ。また、健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルに基づく施策を推進するための地域診断や政策立案について学ぶ。 ３．実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 学内の事前事後指導を行う。 ４．実習形態 実習先は、京都府と京都市の保健所及び市町村保健福祉センターいずれか1箇所を配当する。期間は4回生の５月～７月中の平日5日間（45時間）とする。配当によっては宿泊を伴う地域での実習となる。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には各々、実習内容の報告と反省・評価をプレゼンし、知識・技術の統合に努める。 ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。		
備　　考	１．実習受講の条件など 食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱ、 臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学Ⅲ、公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱの13科目を履修済みのこと ２．実習態度、参加意欲など ・個人情報保護のため、実習中に知りえた情報を第三者に漏らしてはいけない。 ・実習先指導者、実習担当教員による事前の指導や助言を真摯に受け止め、より充実した実習を目指す。 ・実習においては健康管理や衛生管理等が重要であり、実習前後の自己管理を徹底する。		

実　習　名	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	対象学生	食物栄養4回生
担　当　者	田中　愛佳・平　正人		
実習の概要	１.目標・目的 学内で学んできた知識や技術を活かし、病院や介護老人保健施設において課題発見や問題解決について学ぶ。 傷病者や要介護者の栄養評価や栄養管理、病態に応じた栄養ケアプランの作成、栄養指導について管理栄養士としての専門知識と技術を修得する。また、チーム医療における管理栄養士の役割について理解を深めることを目的とする。 ２.臨床栄養学臨地実習（Ⅰ）の内容 ①病院・施設の経営方式や組織と栄養部門の運営方式、管理体制、栄養部門業務の概要について学び、説明ができる。 ②栄養補給における経腸栄養法、静脈栄養補給法の栄養管理の実際について学び、その技術や知識などを理解し修得する。 ③傷病者の急性期、慢性期の栄養管理方法とチーム医療における栄養ケアプラン、栄養食事指導の実践力を身につける。 ３.実習生に対する指導方法 原則として実習中に１回以上巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。 ４.実習形態 実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は３・４回生の秋学期～春学期のうち５日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指導を含む）の実習を行う。原則として通勤とするが、配属先によっては宿泊となる場合もある。 ５.事前事後指導等について 総合演習Ⅰ・Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告・反省会を行う。 実習施設からの評価に基づいた面談も行い、実習での学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備　　考	1.実習受講の条件：食品学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、調理実習Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ の11科目を履修済みであること。給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）を原則として履修済みであること。 2.実習受講態度：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者,入所者とその家族の 権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。実習に向けて、実習先の指導者、実習 担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。 3.教員の実務経験：平：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 田中：私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等管理栄養士とて勤務。		

実　習　名	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	対象学生	食物栄養3回生
担　当　者	田中　愛佳・平　正人		
実習の概要	1.目標・目的 学内で学んできた知識や技術を活かし、病院や介護老人保健施設において課題発見や問題解決について学ぶ。 傷病者や要介護者の栄養評価や栄養管理、病態に応じた栄養ケアプランの作成、栄養指導について管理栄養士としての専門知識と技術を修得する。また、チーム医療における管理栄養士の役割について理解を深めることを目的とする。 2.臨床栄養学臨地実習（Ⅰ）の内容 ①病院・施設の経営方式や組織と栄養部門の運営方式、管理体制、栄養部門業務の概要について学ぶ。 ②栄養補給における経腸栄養法、静脈栄養補給法の栄養管理の実際について学び、その技術や知識などを理解し修得する。 ③傷病者の急性期、慢性期の栄養管理方法とチーム医療における栄養ケアプラン、栄養食事指導の実践力を身につける。 3.実習生に対する指導方法 原則として実習中に１回以上巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。 4.実習形態 実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は３・４回生の秋学期～春学期のうち５日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指導を含む）の実習を行う。原則として通勤とするが、配属先によっては宿泊となる場合もある。 5.事前事後指導等について 総合演習Ⅰ・Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告・反省会を行う。 実習施設からの評価に基づいた面談も行い、実習での学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備　　考	1.実習受講の条件：食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲの科目を履修済であること。給食経営管理論Ⅱ、臨床栄養学Ⅱが履修済又は履修中であること。給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）を原則として履修済みであること。 2.実習受講態度：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。実習に向けて、実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。 3.教員の実務経験：平：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 田中：私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等管理栄養士とて勤務。		

実　習　名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	対象学生	食物栄養4回生
担　当　者	田中　愛佳・平　正人		
実習の概要	1.目標・目的 医療現場で傷病者の栄養状態を正しく評価し、病態に応じた食事療法や栄養指導を遂行する管理栄養士業務を体験し、各種疾患別、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理を理解し、説明ができる。 また、在宅における栄養食事指導の在り方やチーム医療等、管理栄養士に課せられた役割について理解を深めることを目的とする。 2.臨床栄養学臨地実習（Ⅱ）の内容 ①チーム医療における管理栄養士の役割を理解し、入院・外来及び在宅療養患者の栄養食事指導に必要な能力を実習を通して学ぶ。 ②代謝、消化管、循環器、癌、免疫、内分泌などの各疾患における栄養ケアプランの実際について学ぶ。 ③入院患者の食事環境や観察記録の作成、摂食状況調査などから栄養ケアプラン作成の実践力を身につけるとともに、栄養ケアプラン作成に必要な多職種連携の方法や実際を学ぶ。 3.実習生に対する指導方法 原則として実習中に１回以上、巡回指導を行い実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。 4.実習形態 実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかに配当し、期間は３・４回生の秋学期～春学期のうち５日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指導を含む）の実習を行う。原則として通勤とするが、配属先によっては宿泊となる場合もある。 5.事前事後指導等について 総合演習Ⅰ・Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告・反省会を行う。 実習施設からの評価に基づいた面談も行い、実習での学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備　　考	1.実習受講の条件：食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲの科目を履修済であること。給食経営管理論Ⅱ、臨床栄養学Ⅱが履修済又は履修中であること。 2.実習受講態度：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。実習に向けて、実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。 3.教員の実務経験：平：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 田中：私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等管理栄養士とて勤務。		

実習名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	対象学生	食物栄養3回生
担当者	田中　愛佳・平　正人		
実習の概要	1.目標・目的 医療現場で傷病者の栄養状態を正しく評価し、病態に応じた食事療法や栄養指導を遂行する管理栄養士業務を体験し、各種疾患別、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理の実践について学ぶ。 また、在宅における栄養食事指導の在り方やチーム医療等、管理栄養士に課せられた役割について理解を深めることを目的とする。 2.臨床栄養学臨地実習（Ⅱ）の内容 ①チーム医療における管理栄養士の役割を理解し、入院・外来及び在宅療養患者の栄養食事指導に必要な能力を実習を通して学ぶ。 ②代謝、消化管、循環器、癌、免疫、内分泌などの各疾患における栄養ケアプランの実際について理解し、説明ができる。 ③入院患者の食事環境や観察記録の作成、摂食状況調査などから栄養ケアプラン作成の実践力を身につけるとともに、栄養ケアプラン作成に必要な多職種連携の方法や実際を学ぶ。 3.実習生に対する指導方法 原則として実習中に１回以上、巡回指導を行い実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。 4.実習形態 実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかに配当し、期間は３・４回生の秋学期～春学期のうち５日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指導を含む）の実習を行う。原則として通勤とするが、配属先によっては宿泊となる場合もある。 5.事前事後指導等について 総合演習Ⅰ・Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告・反省会を行う。 実習施設からの評価に基づいた面談も行い、実習での学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備考	1.「食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲの科目を履修済であること。給食経営管理論Ⅱ、臨床栄養学Ⅱが履修済又は履修中であること。」 2.実習受講態度：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。実習に向けて、実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。 3.教員の実務経験：平：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 田中：私立病院にて栄養管理業務、チーム医療、栄養指導等管理栄養士とて勤務。		

実習名	教育実習Ⅰ（幼・小）	対象学生	現代家政4回生
担当者	盧　珠妍・宮川　紀宏・竹村　伸子・森岡　葉子		
実習の概要	1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。 2. 教育実習Ⅰの内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 ①教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 ②子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 ③学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 ④教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。 3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。 4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習Ⅰはこの前半部分とする。 5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わる、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。		
備考	1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済又は履修中であることが、実習にでる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。 2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。		

実習名	教育実習Ⅰ（家庭）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊　雄一		
実習の概要	１．目標・目的 教育実習とは教職に必要な単位数を満たしているものが、一定期間学校現場に身をおき、教師（見習い）として実際の教育活動に取り組むことである。単に現場を体験するのとは異なり、大学で学んだ理論と知識・技術を活かしながら、実習先の教員の指導のもと、あらゆる教育活動に取り組まねばならない。生徒一人ひとりの発達特徴やクラスの雰囲気をつかみ、クラス活動や授業を計画実施するだけでなく、組織としての学校とその中での教員の役割の全体像を学ぶことが求められる。実習を通して、教員としての自覚と責務の重さを新たにし、さらなる資質向上を目指してほしい。 ２．教育実習Ⅰ（中・高）の内容 ①生徒理解：　担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 ②参加実習：　実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 ③校務理解：　教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 ④学校行事への参加：　期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。 ３．実習生に対する指導法 原則的に実習中に１回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。 ４．実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校　４回生　５～６月、８～９月のいずれかで連続３週間 ・高等学校　４回生　５～６月　２週間 ※　ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を３回生秋学期と４回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を４回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。		
備考	実習受講の条件など 総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ・Ⅱ、人権と社会、教育の基礎と制度、道徳教育論、中等教科教育法Ⅰ（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒・進路指導論、教育の方法と技術、教職論、特別活動、中等教科教育法Ⅱ・Ⅲ（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する専門的事項は３回生春学期までに開講する科目の内、６科目１２単位以上を履修済み又は履修中であること。中学校実習を希望する学生で、ソーシャルワーク実習を受けていない者は、７日間の介護等体験実習を教育実習の前に受けておくこと。教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むこと。		

実習名	教育実習Ⅱ（家庭）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊　雄一		
実習の概要	１．目標・目的 教育実習は、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修の一端として行われるものである。教員の仕事、授業の進め方、生徒の理解、保護者・地域の願い等、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。中学校は３週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、生徒を育てる意味とその方法はもちろん、学校組織の一員としての役割と責任を見出すことを期待している。 ２．教育実習Ⅱ（中）の内容 ①生徒理解：　担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 ②参加実習：　実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 ③校務理解：　教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 ④学校行事への参加：　期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。 ３．実習生に対する指導法 原則的に実習中に１回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。 ４．実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校　４回生　５～６月、８～９月のいずれかで連続３週間 ※　ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を３回生秋学期と４回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を４回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。		
備考	実習受講の条件など 総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ・Ⅱ、人権と社会、教育の基礎と制度、道徳教育論、中等教科教育法Ⅰ（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒・進路指導論、教育の方法と技術、教職論、特別活動、中等教科教育法Ⅱ・Ⅲ（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する専門的事項は３回生春学期までに開講する科目の内、６科目１２単位以上を履修済み又は履修中であること。ソーシャルワーク実習を受けていない者は、７日間の介護等体験実習を教育実習の前に受けておくこと。教育実習は、教員を目指そうとする高邁な意志をもつ学生の支援をしようという実習先の好意によって実現されていることをしっかり自覚し、真摯な態度で臨むこと。		

実習名	ソーシャルワーク現場実習	対象学生	現代家政3回生
担当者	吉島　紀江		
実習の概要	本科目は、ソーシャルワークの対象となる当事者・利用者とその家族・世帯・地域の実態やソーシャルワーカーが活動する地域の実態を【180時間】の実習を通して学びます。具体的には、ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が実践現場でどのように具現化されているか、どのようにソーシャルワーカーが行動しているか、実際の社会福祉士の態度や姿勢から学びます。実際にアセスメントから支援計画の策定までの一連の過程を経験的に学びます。ソーシャルワーカーの役割としての総合的・包括的な支援や多職種・他機関や地域住民等との連携・協働の実際を具体的かつ体験的に学びます。専門職である社会福祉士としての自分の特性（自己覚知）を理解する機会となるよう実習を行います。実習期間中は、教員が実習施設・機関と協働し、定期的に訪問指導及び帰校日指導を行い、実習が有機的に行われるようにします。主な流れは、以下の通りです。 １週目　実習施設・機関を知る ２週目　対象Ａを決め、情報収集を行う　（活用可能な社会資源調査・地域調査） ３週目　対象Ａのアセスメント及び支援計画の立案 ４週目　実習施設・機関の地域における役割　多機関との連携　災害時の役割を知る		
備考	履修要綱に記載の実習受講資格を満たしている必要があります。 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの履修が必修となります。 実習施設までの交通費及び宿泊等必要な経費については自己負担となります。		

実習名	保育実習Ⅰ（施設）	対象学生	こども生活2回生
担当者	山川　宏和・芹澤　出		
実習の概要	１．目標・目的 ・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。 ２．保育実習Ⅰ（施設）の内容 ①施設における子ども・利用者の生活と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ ②健康管理、安全対策、子ども・利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ ③家庭復帰支援や自立支援など、施設の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ ④保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。 ３．実習生に対する指導法 ・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 ４．実習形態 ・実習先は、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所支援等のうち、いずれか１か所配当する。期間は、２回生秋学期の２～３月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。原則、宿泊だが、一部は通勤になる場合がある。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・保育実習指導Ⅰで事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導Ⅰで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備考	１．実習受講の条件など ・総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代生活学演習Ⅰ・Ⅱ、保育原理、発達心理学（保育の心理学）を受講済であること、保育実習指導Ⅰ、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉、子どもの保健Ⅰ・Ⅱを受講済又は履修中であること。 ・保育実習Ⅰの単位を取得するには、保育実習指導Ⅰの単位を取得することを条件とする。 ２．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと利用者、保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。		

実習名	保育実習Ⅰ（保育所）	対象学生	現代家政3回生
担当者	西川　由紀子・近本　佳子		
実習の概要	１．目標・目的 ・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、保育所保育指針に示された保育所の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。 ２．保育実習Ⅰ（保育所）の内容 ①保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりを学ぶ ②子どもの観察およびその記録を通して子どもの発達を理解する ③子どもの発達に応じた保育内容や環境の構成を学ぶ ④保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。 ３．実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 ４．実習形態 実習先は、保育所もしくは幼保連携型認定こども園とする。期間は、３回生春学期の８～９月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について 保育実習指導Ⅰで事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導Ⅰで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導Ⅰへの積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備考	１．実習受講の条件など ・総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ・Ⅱ、保育原理、発達心理学を受講済であること、保育実習指導Ⅰ、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉、子どもの保健Ⅰ・Ⅱを受講済又は履修中であること。 ・保育実習Ⅰの単位を取得するには、保育実習指導Ⅰの単位を取得することを条件とする。 ２．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。 ３．教員の実務経験　近本先生：風の子保育園　主任		

実習名	保育実習Ⅱ	対象学生	現代家政3回生
担当者	西川　由紀子・近本　佳子		
実習の概要	１．目標・目的 保育実習Ⅰで学んだことに基づいて、養護と教育が一体的に行われるという保育の基本原理や保護者支援、子育て支援、地域連携など保育所の社会的役割を具体的実践から学び取ることを目的とする。 ２．保育実習Ⅱの内容 ①養護と教育が一体となって行われている保育の具体的展開を学ぶ ②保育士の援助や関わりを通して、保育を理解する ③保護者への支援や地域社会などとの連携を学ぶ ④保育士等の連携を学び、自己の課題を明確化する ３．実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 ４．実習形態 実習先は、保育所もしくは幼保連携型認定こども園とする。期間は、３回生秋学期の２～３月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について 保育実習指導Ⅱで事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導Ⅱで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導Ⅱへの積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備考	１．実習受講の条件など ・総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ・Ⅱ、保育原理、発達心理学を受講済であること、保育実習指導Ⅰ、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉、子どもの保健Ⅰ・Ⅱを受講済又は履修中であること。 ・保育実習Ⅱの単位を取得するには、保育実習指導Ⅱの単位を取得することを条件とする。 ２．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。 ３．教員の実務経験　近本先生：風の子保育園　主任		

実習名	保育実習Ⅲ	対象学生	現代家政3回生
担当者	山川　宏和・芹澤　出		
実習の概要	１．目標・目的 ・保育実習Ⅰ（入所施設および保育所）での学びを踏まえ、児童館で実習を行う。乳幼児の保育、小学生の学童保育、地域連携の実際等を実習することによって、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。児童館が、児童、家庭、関係機関、地域社会を結ぶ子育て支援の拠点であることを、児童館の活動、保育士のソーシャルワーク的支援などから学ぶ。さらに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ２．保育実習Ⅲ（施設）の内容 ①児童館における子ども・保護者の利用状況と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ ②健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ ③乳幼児クラブや母親サークル、学童保育など、児童館の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ ④保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。 ３．実習生に対する指導法 ・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 ４．実習形態 ・実習先は、児童館とする。期間は、３回生秋学期の２～３月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。 ５．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・保育実習指導Ⅲで事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導Ⅲで提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導Ⅲへの積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備　考	１．実習受講の条件など ・総合基礎演習Ⅰ・Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ・Ⅱ、保育原理、発達心理学（幼・小）を履修済であること、保育実習指導Ⅰ、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉、子どもの保健Ⅰ・Ⅱを履修済又は履修中であること。 ・保育実習Ⅲの単位を取得するには、保育実習指導Ⅲの単位を取得することを条件とする。 ２．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。 ３．教員の実務経験　芹澤出先生：母子生活支援施設　野菊荘　施設長		

実習名	給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）	対象学生	食物栄養3回生
担当者	富安　広幸		
実習の概要	1.目標・目的 給食経営管理論の講義および実習で学んだ食事の計画や調理、衛生管理等を含めた給食サービス提供に必要な知識や技術を、事業所、福祉施設等の特定給食施設において実践的に体験する。そこで実践活動の場における課題を発見、解決していくことで、これまで学んできた専門的知識とその技術との統合を図り、管理栄養士として具備すべき給食運営に必要な力を体得する。 2.給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）の内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。 ・献立作成から提供までの実務業務を体験学習し、給食システムを学ぶ。 ・大量調理の特性、安全・衛生管理、事故・災害時対策の実際、適時適温配膳の実際、施設設備・機器を観察学習、食中毒、異物混入等の防止のための衛生管理、衛生教育など集団の栄養管理、衛生管理の実際について学ぶ。 ・喫食者アンケートや行事食など個人対応の実際について学ぶ。 ・調理師や調理員及び他職種とのコミュニケーションや連携の実際について学ぶ。 3.実習生に対する指導法 原則的に実習中に１回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 4.実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所、児童福祉施設等の集団給食施設のいずれかを配当する。 期間は、５月～３月のうち５日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。 5.事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。		
備　考	1.実習受講の条件など 食品学Ⅰ,食品学Ⅱ,基礎栄養学,栄養教育論Ⅰ,給食経営管理論Ⅰ,調理学実習Ⅰ,調理学実習Ⅱの７科目を履修済みであること。 2.実習態度、参加意欲など ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。 3.実務経験など 総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務		

実習名	給食経営管理臨地実習Ⅱ	対象学生	食物栄養4回生
担当者	富安　広幸		
実習の概要	1．目標・目的 特定給食施設で給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを養う。マーケティングの原理や応用についても理解する。それとともに、組織管理のマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 2．給食経営管理臨地実習Ⅱの内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。 ・給食の組織、人事管理と労務管理等の給食経営と組織について学ぶ。 ・栄養・食事管理の実際、及び食事提供システム、食事温度管理等についての給食の品質保証と標準化について学ぶ。 ・原価管理・食材管理、調理機器の種類と管理、調理の実際の給食の生産について学ぶ。 ・栄養業務上発生する情報とその把握等の給食の情報処理管理について学ぶ。 ・栄養教育の実際について学ぶ。 3．実習生に対する指導法 原則的に実習中に１回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 4．実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所等の集団給食施設のいずれかを配当する。 期間は、５月～３月のうち５日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。 5．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。 また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。		
備　考	1．実習受講の条件など 食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲの科目が履修済であること。給食経営管理論Ⅱ、臨床栄養学Ⅱが履修済又は履修中であること。 2．実習態度、参加意欲など ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。 3．「給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）」を原則受講済みであること。		

実習名	給食経営管理臨地実習Ⅱ	対象学生	食物栄養3回生
担当者	富安　広幸		
実習の概要	1．目標・目的 特定給食施設で給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを養う。給食施設における食事サービスの需要分析や、コスト管理の視点からマーケティングの応用を学ぶ。それとともに、組織管理のフレームワーク、労務管理の基本などマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 2．給食経営管理臨地実習Ⅱの内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。 ・給食施設における組織の役割分担、人材配置、労務管理の基本を学び、実務と照らし合わせて理解を深める。 ・栄養・食事管理の実際、及び食事提供システム、食事温度管理等についての給食の品質保証と標準化について学ぶ。 ・原価管理・食材管理及び調理機器の種類、点検・管理方法を学び、実際の業務の中で運用状況を観察する。 ・栄養業務上発生する情報とその把握等の給食の情報処理管理について学ぶ。 ・栄養教育の実際について学ぶ。 3．実習生に対する指導法 原則的に実習中に１回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 4.実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所等の集団給食施設のいずれかを配当する。 期間は、５月～３月のうち５日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。 5.事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。 また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。		
備　考	1.実習受講の条件など:食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、基礎栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲの科目が履修済であること。給食経営管理論Ⅱ、臨床栄養学Ⅱが履修済又は履修中であること。 「給食経営管理臨地実習Ⅰ（給食の運営）」を原則受講済みであること。 2.実習態度、参加意欲など: ・実習前に個人情報保護に関する誓約書を提出すること。実習中に知りえた個人情報・他の情報等を第三者等に漏らしてはならない。・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。 3.実務経験など:総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務。		

実習名	栄養教育実習	対象学生	食物栄養4回生
担当者	塩田　二三子		
実習の概要	１．目標・目的 　実際の教育実践の現場で、児童生徒や教職員についての理解を深める。教師としての基盤を確立するために、教育現場における教員の役割・責務等を理解し、教員としての基本的態度を身に付け、教職への使命感を育てる。児童生徒の置かれている食や生活状況の現状を把握し、食に関する指導にあたるための専門的、実践的指導力を身に付ける。また、教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。 ２．内容 　①教員として必要な使命感や責任感、教育的配慮、児童生徒に対する理解を深める。 　②栄養教諭の役割と責任について理解する。 　③児童生徒の発達段階に応じた指導法を考え、実践する。 　④学校と家庭、地域との連携について理解する。 ３．実習生に対する指導法 　実習担当、ゼミ担当教員が実習先を訪問し、実習校の担当教員との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 ４．実習形態 　４回生の春学期後半～秋学期前半に、主に栄養教諭が配置されている小学校（中学校）で、１週間（30～40時間）の実習を行なう。 ５．事前事後指導等の内容（必要性）について 　栄養教育実習事前指導を受けた者が実習を行うことができる。事前指導には積極的な参加が必要であり、履修状況が悪い場合は実習を行えないとする場合がある。実習後は実習報告会を行い、実習の学びを振り返り評価するとともに、実習中の課題を明確にし、課題の解決に向かう。実習ノート、出勤簿の提出を義務付ける。		
備　考	１．実習受講の条件など 　・総合基礎演習Ⅰ、総合基礎演習Ⅱ、現代家政学演習Ⅰ、現代家政学演習Ⅱ、人権と社会、教育の基礎と制度、教育課程総論が履修済みであること。 　・情報処理、教育心理学、特別支援教育、総合的な学習の時間、教育の方法と技術、生徒・進路指導論、教職論、特別活動、学校栄養教育概論、学校栄養教育指導論、栄養教育実習事前・事後指導が履修済みまたは履修中であること。 ２．実習態度、参加意欲など 　・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 　・実習先のご好意で「実習させていただいている」ことを忘れず、真摯な態度で臨む。体調管理をしっかり行い安全に実習を行う。		

実習名	教育実習Ⅱ（幼・小）	対象学生	現代家政4回生
担当者	盧　珠妍・宮川　紀宏・竹村　伸子・森岡　葉子		
実習の概要	1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。 2. 教育実習Ⅱの内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 ①教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 ②子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 ③学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 ④教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。 3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。 4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習Ⅱはこの後半部分とする。 5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わる、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。		
備　考	1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済又は履修中であることが、実習にでる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。 2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。		

実　習　名	ソーシャルワーク現場実習Ⅰ	対象学生	こども生活２回生
担　当　者	吉島　紀江		
実習の概要	実践の学問である社会福祉学の学びは、ソーシャルワークの実践及び実践現場との関係を抜きにしては成立しません。実習は、社会福祉・ソーシャルワークの理論と実践とを統合的に学ぶ機会となります。ソーシャルワークの価値・倫理、方法や技術も、講義や演習だけで学べるものではありません。現任のソーシャルワーカーの動きから、また自らが現場に身を置くことで実践的経験的に習得できます。真摯に取り組まれることを期待します。60時間実習期間中、教員が必ず1回実習施設を訪問しスーパービジョンを受けます。効果的にスーパービジョンが受けれるよう、後半の実習が充実するよう施設の実習指導者とも連携を図っていきます。 〈到達目標〉 １　ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ２　支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する		
備　　考	休憩時間を除いて、60時間の実習時間が必要となります。実習時間の管理を行うようにしてください。自己判断せず、必ず教員と相談、報告をしながら実習を進めてください。履修要綱のソーシャルワーク実習の受講資格を満たしている必要があります。実習施設までの交通費、諸経費について実費負担となります。		